



カリシカリナリ其ノ実ト人モ通風川ノ名ト云キテ世界ハ

ノ草ナリ良ハ心ヲ有スキ地ナリ良ハ心セシテカバナリ士キテ民ナ

メシヨリ富ナリ死スルカカスト思フカカスルカカスナリ

牙ヨ良ハ心ノ實人ノ弱キモノナリ又狭リ苦ナリ

良ハ心ノ富ノ實人ノ弱キモノナリ又狭リ苦ナリ

メシヨリ富ナリ死スルカカスト思フカカスルカカスナリ

良ハ心ノ富ノ實人ノ弱キモノナリ又狭リ苦ナリ

止る也其ノ氣モ来んハ火モ来んハ獅子ノ穴ニ投セラ

止る也其ノ氣モ来んハ火モ来んハ獅子ノ穴ニ投セラ

供<sup>リ</sup>ナリ一生<sup>ヲ</sup>い<sup>ハ</sup>スル<sup>ハ</sup>心<sup>ニ</sup>近<sup>キ</sup>未<sup>ニ</sup>代<sup>ノ</sup>別<sup>ノ</sup>汗<sup>ヲ</sup>沈<sup>メ</sup>没<sup>セ</sup>ル<sup>ハ</sup>マ<sup>ニ</sup>ト<sup>ス</sup>

審<sup>ニ</sup>テ<sup>ス</sup>人<sup>ハ</sup>不<sup>幸</sup>ニ<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>災<sup>ハ</sup>腹<sup>中</sup>に<sup>テ</sup>葬<sup>ラ</sup>レ<sup>ハ</sup>実<sup>ニ</sup>そ<sup>ノ</sup>身<sup>ハ</sup>也

身<sup>ノ</sup>船<sup>中</sup>に<sup>テ</sup>是<sup>ノ</sup>船<sup>長</sup>者<sup>ハ</sup>端<sup>舟</sup>に<sup>テ</sup>集<sup>リ</sup>キ<sup>ヲ</sup>見<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>残<sup>念</sup>を<sup>テ</sup>述<sup>ベ</sup>ル<sup>ハ</sup>

海<sup>底</sup>に<sup>テ</sup>沈<sup>ム</sup>モ<sup>ニ</sup>斗<sup>余</sup>ヲ<sup>テ</sup>言<sup>セ</sup>シ船<sup>長</sup>者<sup>ハ</sup>欲<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>若<sup>シ</sup>船<sup>長</sup>

心<sup>ヲ</sup>ラ<sup>ハ</sup>良<sup>心</sup>セ<sup>ル</sup>可<sup>ク</sup>何<sup>等</sup>ノ是<sup>リ</sup>追<sup>退</sup>信<sup>ハ</sup>レ<sup>ハ</sup>事<sup>ノ</sup>事<sup>ハ</sup>

一<sup>身</sup>ヲ<sup>テ</sup>天<sup>父</sup>ニ<sup>任</sup>ス<sup>ル</sup>天<sup>父</sup>ノ命<sup>ヲ</sup>身<sup>ハ</sup>是<sup>レ</sup>行<sup>ハ</sup>ン<sup>ル</sup>郭<sup>嶠</sup>途<sup>ニ</sup>

心<sup>ヲ</sup>寛<sup>ミ</sup>ス<sup>ル</sup>心<sup>ハ</sup>火<sup>ニ</sup>ス<sup>ル</sup>モ<sup>テ</sup>天<sup>父</sup>者<sup>ハ</sup>其<sup>ノ</sup>心<sup>ハ</sup>人<sup>ノ</sup>身<sup>ハ</sup>ナ<sup>リ</sup>

心<sup>ハ</sup>子<sup>ノ</sup>力<sup>ハ</sup>重<sup>ハ</sup>ハ<sup>テ</sup>危<sup>キ</sup>裁<sup>ス</sup>ガ<sup>ラ</sup>ス<sup>ル</sup>法<sup>ニ</sup>至<sup>リ</sup>人<sup>ノ</sup>初<sup>メ</sup>其<sup>ノ</sup>富<sup>ヲ</sup>子<sup>ノ</sup>腹<sup>中</sup>



# 新島襄全集

## 2

宗教編

新島襄全集編集委員会 編

*The Complete Works  
of  
Joseph Hardy Neesima*



同朋舎

圖書 館一同資  
83.0701.125

第2卷 正誤表

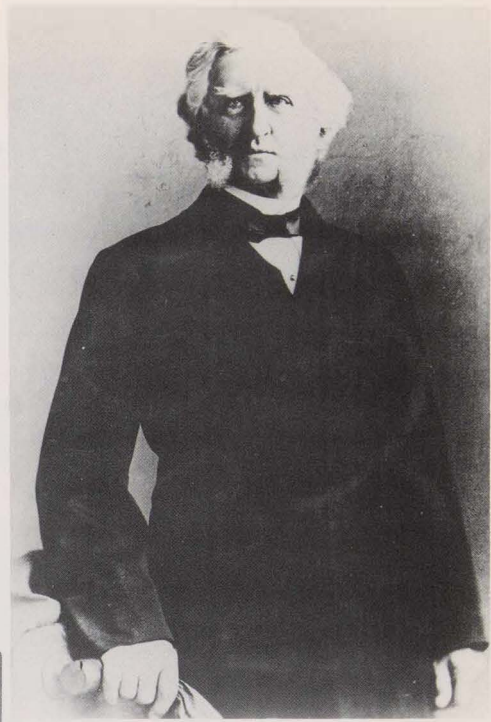
口松二頁

1816—1887

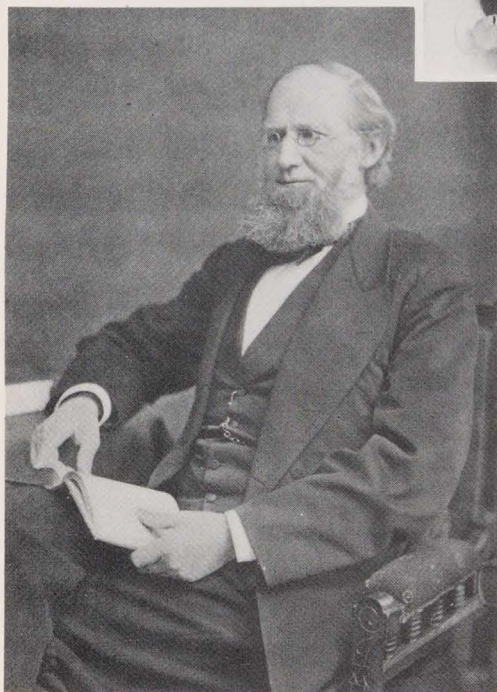
1815—1887



新島 襄 (明治17年3月撮影)



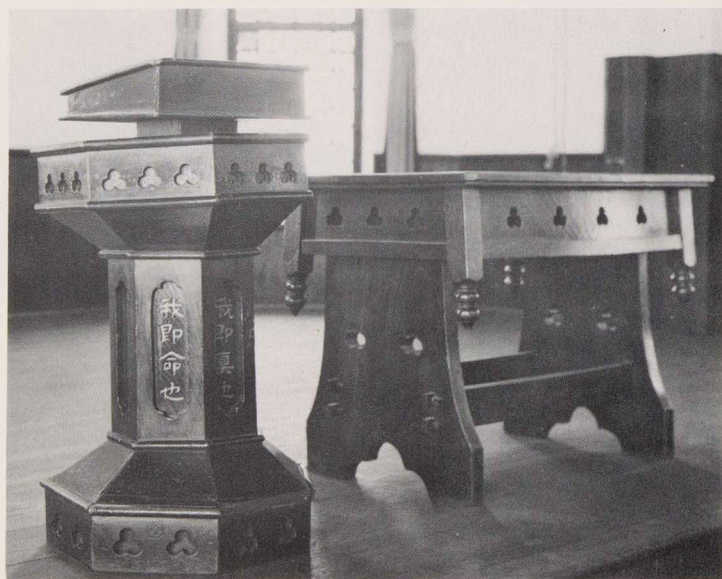
アルフィーアス・ハーディ (1816-1887)



ジュリアス H. シーリー (1824-1895)



同志社チャペル 明治19年竣工当時の写真。新島は定礎式で、「此礼拝堂ハ我同志社ノ基礎トナリ又タ精神トナル者」(「同志社創立十周年記念演説」第1巻、史料25) であると述べた。

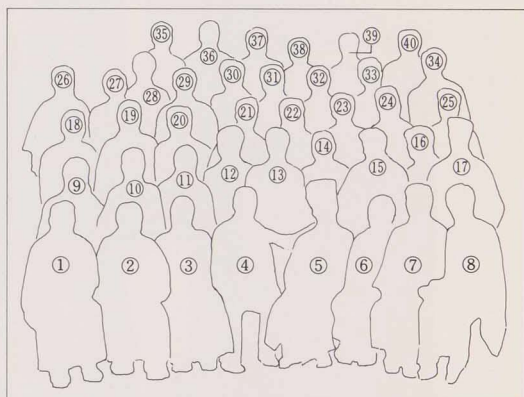


チャペル内聖書台 チャペル竣工時から使用された。「我即途也」「我即真也」「我即命也」(「ヨハネによる福音書」14-6)と刻まれている。

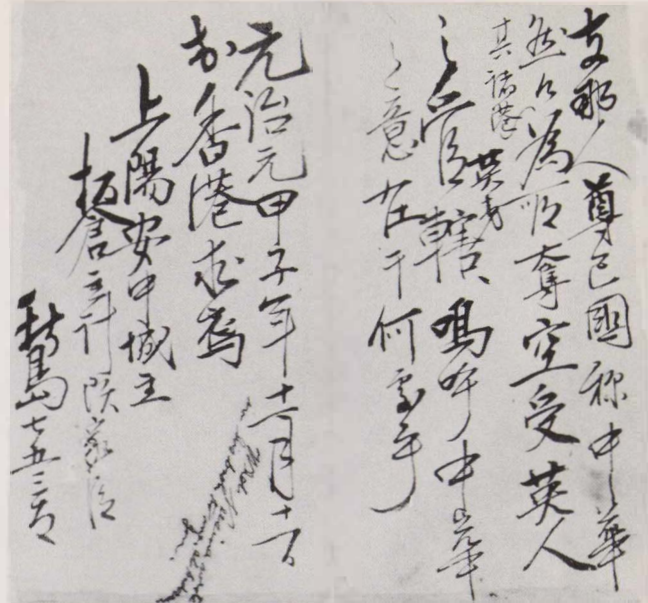


全国基督教信徒大親睦会記念撮影 キリスト教のリバイバルを目的に、明治16年東京で開催された同会には、全国各地から著名なキリスト者が一堂に会した(氏名は下図参照)。

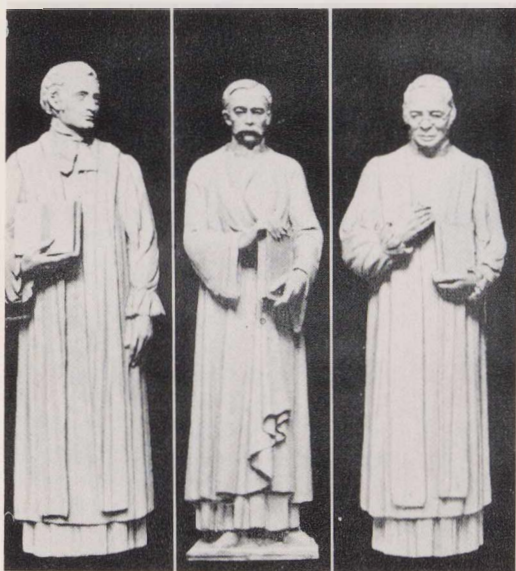
- |         |          |
|---------|----------|
| ①中島虎次郎  | ②①青山準次郎  |
| ②奥野昌綱   | ②②宮川経輝   |
| ③松山高吉   | ②③横井時雄   |
| ④津田 仙   | ②④稲垣 信   |
| ⑤李 樹 廷  | ②⑤小出市之助  |
| ⑥湯浅治郎   | ②⑥伊藤藤吉   |
| ⑦栗村左衛八  | ②⑦長坂 毅   |
| ⑧海老名弾正  | ②⑧服部綾雄   |
| ⑨森田太平   | ②⑨小崎弘道   |
| ⑩平岩恒保   | ③⑩植村正久   |
| ⑪牧岡鉄弥   | ③⑪金森通倫   |
| ⑫辻 籌夫   | ③⑫押川方義   |
| ⑬内村鑑三   | ③⑬和田秀豊   |
| ⑭新島 襄   | ③⑭上原方立   |
| ⑮木村熊二   | ③⑮浅川広湖   |
| ⑯寺沢久吉   | ③⑯三浦 徹   |
| ⑰石原保太郎  | ③⑰吉岡弘毅   |
| ⑱大儀見元一郎 | ③⑱熊野雄七   |
| ⑲加藤勇次郎  | ③⑲南小柿洲吾  |
| ⑳井深梶之助  | ③⑳聖書販売社員 |







新島所有の漢訳聖書の見返し 新島は1864 (元治元) 年香港で漢訳聖書を購入し、ワイルド・ロウヴァー号での長い航海のあいだ耽読した。



新島襄像 1935年ワシントン・カテドラルに安置された新島像 (中央)。

不止月下併能越跋涉八洲  
是我分壯圖却促男兒淚  
滴々灑為縷々文

右  
明治廿二年秋余在大磯州  
關東北越傳道策贈北越  
一友人  
乙氏

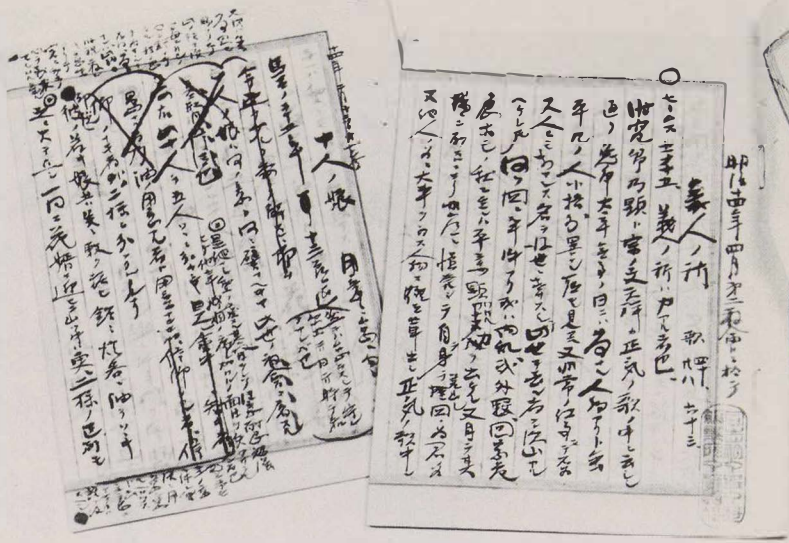
桃李不言下自為徑

不止月下併能越／跋涉八洲  
是我分／壯圖却促男兒淚／  
滴々灑為縷々文

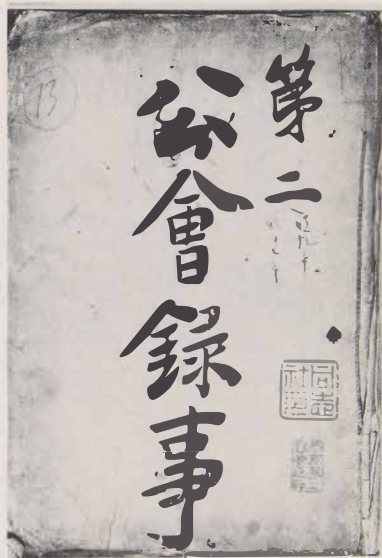
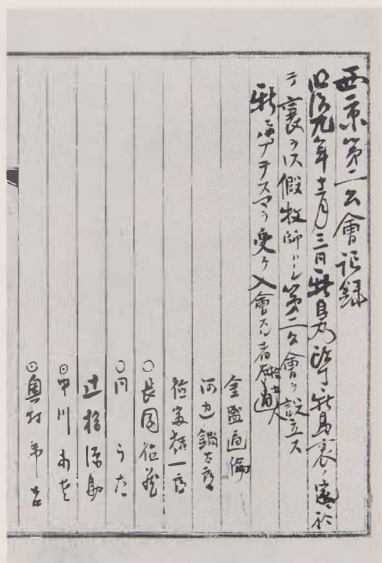
七言絶句 大磯の病床で北越・関東方面の伝道策を思いめぐらしながら、その所懐をうたった七言絶句。「北越一友人」とは広津友信。

桃李不言下自為徑

遺墨 新島が好んだ『史記』中の言葉。史料16「朋友之交義ハ天国ノ写真」をはじめ、本書収載史料内に散見される。



「十人ノ娘、用意二怠ル勿レ」(左・史料8) 「義人之折」(右・史料11)  
前者は明治14年京都第一公会および明治16年原市、後者は明治14  
年京都第二公会における説教の草稿。



「第二公会録事」(史料132) 表紙と最初の頁。第二公会は明治9年12月  
に新島宅に設立され、同12年10月まで新島が仮牧師をつとめた。

正徳二年八月、奥州に、新島襄が、同、社、を、

創立せしむるに、其の宗旨、

は、

を、

と、

を、

と、

と、

と、

と、

と、

と、

と、

と、

と、

と、

と、

新島襄全集 2 ■ 宗教編 ■ 凡例

一、

二、

三、

四、

五、

六、

七、

八、

1 史料は原則として、それぞれの分野ごとに、成立年代順に排列した。成立年代不詳のものは、明確なものの後へ置いた。

2 同一史料で複数の草稿があるものは、原則として完成稿とみなしうるものを収載した。新島の生前に活版になっているものは、その草稿が存在しても活版になったものを収載した。

3 表題を欠く史料は、便宜上編集者がこれを付し、「」を以て区別した。

4 史料中の編集者による注記等は、すべて「」によって示した。また史料中の\*印は、巻末の注記を示す。

5 原史料の表記およびその体裁を尊重し、かつ読解の便をも考慮して、表記は原則として次の基準に拠った。

a 長文の史料には、適宜句読点を施し、また改行した。

b 難語・難訓語には、適宜ルビを付した。

c 漢字は、新字体に改めうるものは改めた。

d 仮名遣いは原文のままにした。片仮名と平仮名の混用、清濁音の混合同、原則としてそのままにした。

e 外国人名・地名その他の外国語の片仮名表記が、現在と著しく異なる場合は、常用の表記を「」で示した。  
また適宜「・」（中黒点）を補った。

f 略字（例・フ（事）、ヒ（被）、斗（計）等）は常用の文字に改めた。変体仮名、合字（例・井、氏、久等）などは仮名に改めた。

g 仮名で表記するのが普通になっている助詞などが漢字で書かれている場合は、仮名に改めたが、「陳者」「江」「而」「也」など、若干原文のままにした例がある。

h 新島の造字は、通行の文字に改めた。（例・郷↓聯）

i 踊り字は原文のままにしたが、「々」は「々」に改めた。

j 原文のルビや返り点は、そのままにした。また、傍線、圈点なども原史料のままにし、それらが朱筆でなされている場合に限り、「朱線」「朱点」と傍記した。

k 原文中の○、――、※、「」、（ ）等の記号および弧線（ㄣ）は、そのままにした。ただし、○○や、ゝが同一の語が重出するときの省略記号に用いられている場合に限り、該当する語に改めた。

l 「x」は「キリスト」と改めた。

m 明らかな誤字は訂正し、衍字は省いたが、当て字は文意の理解に支障がない限り原文のままにした。脱字は「」で補った箇所がある。

n 原史料中に割注の体裁で記されている字句は、（ ）で囲むなどして一行書きに改めた。

o 丁（町）は、原則として「町」に改めたが、地名の歴史的表記（例・「大坂」「箱館」）はそのままにした。また、その混合（例・「函楯」「箱館」「函館」「箱楯」）などは、原文のままにした。

p 補筆は「」に入れて、本文中の該当箇所へ挿入し、「補」と傍記した。挿入箇所不明の場合は、「補」と傍記して、それがなされていた箇所へ掲げた。また、補筆が朱筆でなされている場合は、「朱」と傍記した。

q 補筆が欄外になされている場合は、「上欄」などと傍記して本文中に挿入した。用紙が野紙ではない場合も、便宜上同様に傍記した。

r 破損や汚れ等で読解不可能な箇所には、「破損」または「汚損」と注記し、確認しうる限り、その丁数、行数、字数（□□または□□□により）も注記した。

s 判読が曖昧な字句には「カ」を、文意不明の字句には「ママ」を、それぞれ傍記した。

t 新島の生前に活版になった史料に、新島自身の手で補筆、訂正、圈点などが施されている場合は、p、q項によってこれを該当箇所に掲げた。

u 抹消されている字句は、原稿作成の際には可能ながぎり復元したが、それを総て活字化すれば著しく読解の不便をきたすことが多いので、ここでは最少限度の復元にとどめ、左傍にミミ（墨抹）、ミミ（朱抹）の記号を付した。

v 添付または挟み込み資料には、その旨を傍記し、該当箇所へ掲げた。

w 原史料中のスケッチや図表は、原則としてその該当箇所へ掲げたが、不鮮明なスケッチなどで省略したものが若干ある。

x 印章はその形に従い、㊦、㊧などで示した。

y 異筆、筆記用具の別、空白ページ等はその旨「」で注記した。ただし、朱筆の場合、インクと朱墨の別は示さなかった。

新島襄全集 ■ 宗教編 ■ 目次

凡例	i
目次	v

# 説教稿 I

1	信する心の遅き愚なる者よ	3
2	安息日之説	7
3	〔晩餐ヲ守ルコト〕	10
4	初メハ大切、ヨリ終リガ大切	15
5	御意ノ天ニ成ル如ク地ニモ成ラシメヨ	23
6	〔死ニ赴クハ安シ、心ノ戦ニ勝ツハ難シ〕	27
7	〔キリストノ御心ヲ察セヨ〕	29
8	十人ノ娘、用意ニ怠ル勿レ	32
9	信仰	36
10	〔肉ニ播ケバ肉、霊ニ播ケバ霊〕	39
11	義人之祈	44

27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
道理ト信仰ノ関係〔B〕	道理ト信仰ノ関係〔A〕	伝道	宗教ハ万民ノ望ム所也	悔改	古キ人新シキ人	〔真理ノ証シ〕	〔基督弟子ノ足ヲ洗ヒ賜フ事〕	天国の鍵	競走者	〔真友ノ交リ〕	朋友之交義ハ天国ノ写真	ヤコブの一生	改新の説	〔真正ノ快樂〕	〔人ヲ漁スルノ主意〕
145	139	133	128	122	119	112	107	96	90	85	78	67	60	57	50

28	此ノ人ヲ見ヨ〔A〕	151
29	此ノ人ヲ見ヨ〔B〕	160
30	〔基督教ハ独一真神ノ教ナリ〕	163
31	衣服ヲ売リテ刀ヲ買ウベシ	167
32	〔目ヲ挙ゲテ見ヨ〕	173
33	〔愛トハ何ゾヤ〕	178
34	時ノ休徴ヲ知レ	181
35	〔信仰〕	188
36	真ノ力	192
37	御国ヲ来ラセ賜ヘ	195
38	爾寛我	201
39	我已勝世矣	209
40	〔無クテナラヌモノ一アリ〕	215
41	モーセノ生涯〔A〕	220
42	〔モーセノ一生涯〔B〕〕	224
43	祈ヲ聞キ賜フ神ヨ、人々挙ゲテ来ラン	232

57	〔神ニ従順ナレ〕……………	307
56	〔康強ナル者ハ医者ノ助ケヲ求メズ〕……………	301
55	暫時休ムベシ……………	297
54	上帝論……………	291
53	〔天国ハ芥子ノ種ノ如シ〕……………	288
52	〔罪トハ何カ〕……………	284
51	神ノ実験話シ……………	281
50	〔ダニエルノ夢判断〕……………	275
49	カインとアベル……………	267
説教稿Ⅱ		
48	〔沢山保羅ノ告別式ニ臨ミテ〕……………	261
47	ナイン少年ノ復活……………	255
46	〔伊勢峰告別説教〕……………	252
45	天父基督ヲ十字架ニ添テ世ニ賜ヘリ……………	243
44	吾信ズ、我ガ不信ヲ助ケ賜ヘ……………	238

58	〔ヨハネ伝第三章十六節ノ句ニツイテ〕	309
59	〔伝道〕	310
60	盲視ル事ヲ得	315
61	〔我若シ地ヨリ挙ラレナバ万民ヲ引キ我ニ来ラセン〕	320
62	〔キリスト真理ノ証ヲ為シ真理ノ国ヲ世ニ起セリ〕	324
63	〔キリストノ目的〕	328
64	十字架上之贖	336
65	〔伝道〕	341
66	〔人間ノ惡〕	345
67	〔真理ノ敵トナル勿レ〕	347
68	〔真ノ勇氣〕	351
69	三日間之大現象	356
70	病人ト医者	362
71	〔キリスト教ノ感化力〕	365
72	愛神愛人	368

## 宗教関係演説稿

73	安息日学校開業式ノ演説	377
74	霊ノ学問ナカルベカラス	385
75	〔靈魂ノ病〕	390
76	栗津教会ト小崎氏教会ノ合併式ノトキ教会員ヘノ勸メ	393
77	基督教皇張論	396
78	〔ハーディ氏ノ生涯ト人物〕	408
79	夏期学校に対する感情	419
80	安息日ト文明国ノ関係ノ論	421
81	道德論	427
82	〔宗教運動史〕	429
説教・演説稿断片		
83	十字架ノ意	435
84	〔キリストノ十字架〕	436

100	〔キリストノ愛(B)〕	465
99	〔キリストノ愛(A)〕	463
98	愛ノ力	460
97	〔愛〕	457
96	〔神ノ愛〕	455
95	〔信ト不信(B)〕	454
94	〔信ト不信(A)〕	453
93	〔信仰〕	452
92	真理之囚人	451
91	〔真理ノ証〕	449
90	〔真理〕	447
89	真〔B〕	445
88	真〔A〕	441
87	〔新生〕	440
86	神ノ榮ニ誇ル	438
85	〔キリストノ目的〕	438

114	〔一致・組合兩教会合併問題に関する稿(一)〕	502
113	〔一致・組合兩教会合併問題に関する稿(二)〕	499
教会合併問題関係稿		
112	〔山崎為徳略歴ト告別説教稿〕	494
111	〔エソウ・ヨセフノ生涯〕	491
110	〔聖書引用箇所控〕	489
109	〔マタイ伝要目〕	486
108	馬太伝	481
107	〔キリスト教ト文明〕	480
106	〔信者ノ義務〕	478
105	〔使徒伝道者ノ資格〕	475
104	〔安息日〕	473
103	〔罪之市〕	471
102	〔罪ノ病〕	468
101	〔神ノ国ト其義ヲ求メヨ〕	466

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115
〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十八)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十七)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十六)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十五)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十四)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十三)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十二)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十一)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(十)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(九)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(八)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(七)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(六)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(五)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(四)〕……………	〔一致・組合両教会合併問題に関する稿(三)〕……………
534	532	530	527	525	521	519	517	516	514	512	507	506	505	504	503

131	〔日本基督教会憲法並細則附録（明治二十一年五月）〕……………	536
第二公会録事		
132	第二公会録事……………	559
133	公会記〔明治九年十一月～明治十一年十月〕……………	587
134	同志社教会仮牧師辞表……………	601
『脩身学』		
135	ホプキンス『脩身学』……………	605
注解……………		645
解題……………		661

装幀・小島友幸



# 説教稿一

（以下は非常に薄い文字で印刷された説教稿の本文が、ほぼ全ページを占める。内容は宗教的・道徳的な説教であると思われるが、文字が小さく、読み取りが困難である。）



1 信する心の遅き愚なる者よ

〔朱〕  
「十三年四月四日」

路可二十四章二十五節

信する心ノ遅き愚なる者よ

歌四十番

十三

五十

○蘇生ハ基督教ノ最上点ニシ

テ、図ニ譬レハ形ノアリ、

後影ヲ画クガ如シ

○弟子ノ愚鈍ナル事、了解ノ遅キ事（最上ノ事ナレハ人之ヲ了解スル遅シ）

基督途中ニ二人ノ者ニ逢ヒ、段々ト旧約書ヲ引キ基督ノ死スヘキ事ヲ説キシニ、彼等ノ目鈍ニシテ其基督ナルヲ知ラス、漸クパンヲ擘クニ至リ初メテ基督タルヲ知レリ

且此二人忽チエロサレム〔エルサレム〕ニ歸リ至リシニ、十一門徒ノ基督ノペテロニ顯レシヲ談シ居ルニ逢ヒ、且彼等モ基督ヲ見シヲ談セシ所ニ基督忽チ顯レ、爾等安カレト云ヒシニ彼等喜ハス却テ驚キ恐レタリ、何ソ、愚鈍ナルヤ

此節ヲ讀ミ之ヲ考ヘレハ、弟子ノ愚ニシ〔テ〕高尚ナル神ノ教置キシ蘇生ノ事ヲ了解シ、能ワサリシハ、実ニ驚ヘク、且何カキリストカ其弟子ヲ誥メ、其愚鈍ナルヲ斥シニ似レトモ、克々之ヲ熟考シ其後ニ続ク所ノ節ヲ讀メハ、キリストノ実ニ深切、丁寧、愛ハ、愛、慈ノ慈、至レリ、尽セリト云ヘク、驚ヘキ程ノ耐忍ヲ見サルヲ不得、此レキリストノ驚ヘキ程愚鈍ナル弟子（ノ）心ヲ克ク導キ、主ノ道乃生命ノ路ニ進マシメシ所謂ニシテ、キリストノ世ニ勝ツ所謂ハ茲ニアルト思ワル

〔朱点・以下同〕

基督彼等ノ靈ナラ〔ズ〕ヤト疑ヘルヲ知り、靈ハ肉ト骨ナキヲ説キ、其手足ヲ見セシニ彼等尚信セス、何ソ、愚鈍ナルヤ、何ソ、信スルノ遅キヤ、

○基督炙リタル魚ヲ蜜房トヲ食セリ、然ルニ尚疑ヲ抱キニ似タレリ、何ソ、信スルノ遅キヤ、

故ニ基督又兼テ語リシ事ヲ云レ、且預言、詩篇等ニアル所ヲ引キ其応スヘキヲカタレリ○如斯聖書ヲ開、彼等ノ聡リヲ開ケリ

恐クハ驚キ多クシ、尚信スル事ハ深カルヘシ、何ソ、信スルノ遅キヤ

○ペタニヤノ山上ヨリ昇天サレシトキ、喜ヒエロサレムニ帰レリト記セリ

茲ニ至リ初メテ信シテ喜ヘリ、何ソ、早ク信セサリシヤ

茲ニ考レハ、彼等ハ基督ノ主且師且神子ナルヲ知り、基督蘇生ノ事ハ速ニ了解シ得サリシヲ知ル、然シ第三日ニ蘇生スル事ハ、彼生時ニ三度程モ門弟輩ニ告置カレタリ

○基督ノ耐忍ニ驚ク

ガリ、ヤノ湖

七人ニ顯ワレ

ガリ、ヤノ山

五百ノ信徒ニ逢フ事

或ル人疑ヘリ。

基督ノ蘇生スル事ハ已ニ生時ニ三回程モ門弟ニ語レリシニ、門弟ノ不信疑ヒテ了解スル能ワス、然ルニ

基督第三日ヲ經、蘇〔生〕サレニ三ノ婦人ニ顯レ、マクタラノマリヤ、〔朱録・以下同〕ペテロ、エン

マウス、二人ニ顯、又十一門弟ニ顯ワレ、又トーマ〔ス〕ノ居ルトキ顯レ○十回程モ

顯レエンマウスニテ二人ニ丁寧ニ説キ、又十一門〔弟〕ノ前ニ手足ヲ見セ、魚ヲ喰ヒ、

聖書ヲ説キ、其苦死ヲ受ケ蘇生スヘキヲ説キタリ、何ソ、愛ノ深キ、耐忍ノ大ナルソ、

◎世人ノ最上ノ者ニハ総テ了解ノ遅キ事ヲ説クヘシ

事件 忠臣貞士 伯夷叔齊 屈原 菅原道真

物件 楚ノ曲児島ノ玉下和ノ璧 厲王左足、武王右、文王初メテ玉ヲ納ル

二 野蛮人民 実物ヲ拝 靈ヲ拝セス

三 基督ノ山上〔ノ〕教ヲ了解スルモ、基督神子ナル事、造物者ナル事、蘇生セシ事ハ更ニ了解シ得ス

信者モ 第一ニ山上ノ教ニ感シ基督ノ死ニ感スル遅シ

四 世人 物件ノ進歩ヲ喜ヒ、靈上ノ進歩、道德ノ進歩ハ顧ミテ意トセス

日本ノ景況 孟子上下交利ヲ取国危

物質ノ進歩モ知り望ミ、之ニテ国足リトス

砲術 医学

物産 物産会社 綿糖共進社

政事 愛国社 立志社〔ママ〕 演説（嚶鳴社、共存連社）

学事 学士院ノ設アリ、人力社アリ、交詢社アリ

世ノ人物トカ云人、未タ多ク基督教ニ注意セサルノミナラス、即チ之ヲ駁スル者多シ

基督教ノ証ハ已ニ歴史ニアリ、人ノ伝ニアリ、国ノ進歩ヲ助クル明々ナリ、目アル人ハヨシト云テ信セス

知ル人之ヲ信セス、何ソ信スル遅キ、基督ノ耐忍ニヨリ道ニ入ル事少カ〔ラ〕ス

第一百年期\* 五十万

第二 二百万

第十八 二万々\*

第〔十〕九 三万々

基督ニ倣ヒ世ヲ導キ、世人ヲ漁シ、世人ヲ得ルヘシ

結局如斯世人ノ信スルノ遅〔キ〕ヲ、此ヲセムルハ信者ノ癖ナレトモ此ヲセメス、基督ノ如ク深切丁寧ヲ以テ導カハ、何時カ志ヲ得サル事カアラシ

〔明治十三年四月四日・於京都第二公会〕\*\*

## 2 安息日之説

〔朱〕  
「安息日之説」\*

明治十三年六月六日

馬可二章ノ二十七章<sup>〔節〕</sup> 安息日人ノ為ニ設タル事

安息日ハ人ノ為ニ設ラ「レ」人安息日ノ為設ラレタルニ非ス、主基督モ人間ノ主ナルニヨリ矢〔張〕安息日ノ主ナリ之ニヨリ考ヘレハ、安息日ハ神人間ノ利益ノ「為ニ」立ラレテ、人ノ力ヲ為ニ束縛ヲ受、之力ヲ為ニ不都合ヲ得セシムル者ニ非ス、故「ニ」人ハ安息日ノ奴僕タルベカラス、若シ之ヲ束縛ノ律トシテ我ヲ圧スル者トセハ、人決シテ益ヲ得サルベシ、如何トナレハ人間ノ利益ノ為ニ設ケラレタレハ、人ノヲ用ヒテ肉体ノ益トモ靈魂ノ利益トモ為スベシ、安息日ハ神我等ヲ導キ我等ヲ教ヘ、天国ニ達セシムルノ学校、天国ノ予備門、安息日ニ天国ノ味ヲ幾分カ知ラシメ、我等ヲシテ天国ノ望ヲ起サシメ、我等ヲ日々天国ニ近寄シムルノ手立ナルベシ

第一ニ創世記ニヨレハ、神安息日ヲ祝シ賜ヒシハ、其働キノ成就ヲ祝シ賜ヒタルナリ

カク神ノ祝シ賜ヒシ事ハ最初ノ人ニ早ク知レ、人モ之ヲ守ル事トハナリタ「ル」ナラン、ノアノ時ヨリ既ニ七日ニ日ヲ分ツ事アリタリ

荒野ニテ鳩ヲ放ツ、鳩止ル所ナクシテ返、七日待テ放「ツ」、カンランノ枝ヲ持帰ル、七日ヲ待テ又放ツ、鳩不帰、十誠ノ第四誠ニ安息日ヲ記憶セヨ……………トアレハ、既ニアル安息日ヲ守ラシムルナリ

〔別稿〕

安息日ヲ守ル国ハ貧アラス

安息日ヲ安<sup>〔守〕</sup>ル国腦力ヲ劣ラス

安息日ヲ守ル国ハ腕力モ劣ラス

◎安息日〔ニ〕公会ニ集ルハ天国ノタイプ

共〔ニ〕神ヲ讚美ス人物計リ此内ニ非サルベシ、高尚ナル人、賤キ人物ニ共ニナリテ、而ル后天国ナリ、神ハ我等

ト共ニアル〔ヲ〕喜フナリ

心配アルモ安息日ニ少シク減スベシ

人ニ怨アルモ安息日ニ少シク減スベシ

己ノ非ヲ省ルモ安息日ヲ尤多トス

罪ヲ思ヒ出ス<sup>〔モ〕</sup>ヲ安息日ヲ尤多トス

安キヲ得モ安息日

友ヲ思フモ安息日ヲ尤多トス

神ノ御恵ヲ感スルモ尤多トス

愛ノ起ルモ安息日ナラン

（人ヲ恵ム心、病院ノ起リ、学校ノ起リ、起ノ原因ハ多ハ此安息日ニアラン）

人間ノ神ニ似ル様ニナル安息日

人間ニ何か天国ニ類スルト云ハ、安息日尤多トス

心ヲ安メテ働カサルニ非ス、心ヲ働カシテ人間ノ尤神ニ類セル分ヲ養成スルナリ

如斯神カ弱キ人間ヲ導キ賜テ段々神ニ類セル分ヲ養セ、遂ニハ天国ニ至ラシメン事ナレ〔バ〕、誤テ此日ヲ唯肉ヲ休ムル為トシ、肉慾ヲ充ス日トシ、生徒ニ致〔セ〕官員ニセ〔ヨ〕町人〔ニ〕セ〔ヨ〕此日ヲ一事ニ用ユル国ノ進歩ハ、他年我輩ノ入ラント〔スル〕天国トハ遙ニ隔絶スルナラン

〔終リ〕〔ニ〕当〔リ〕、神ニ近〔ヅ〕キ又離レル原因ヲ説ク、安息日公会ニ出ヌ事

神ハ何時モ幸ヒナレハ、決〔シテ〕此日ヲ幸ヒトナラサルベシ、故ニ安息日ハ人ノ為ニ立タルナリ、此ハ人間ノ為ニ喜ひ祝セルベシ

〔第一ニ人ヲシテ神ノ、人間ノ為ニ人間ヲ終リニ作り、此世ヲ作り賜ヒシ事ヲ知ラシメン為ニ、神ノ働終リテ人間ニ祝シ賜ヒシニ似タリ、且人間ヲ万物ノ上ニ置キ、人間ニ神ト共喜フ所ノ名誉ヲ得セシメタリキ

〔明治十三年六月六日・於京都第二公会〕

### 3 「晚餐ヲ守ルコト」

〔朱〕  
「十三年九月十九日 第一公会晚餐ヲ守ルトキニ説教セリ」

〔朱録・以下同〕

「コリント前書十一章ノ二十八節

〔朱〕

「○讚美歌六 五十 五十七」

〔朱点・以下同〕

人自ラ顧ミテ後其パンヲ食シ、其杯ヲ飲ムベシ、意ヲ用ヒスシテ之ヲ食ヘカラス、

好キ事ヲ聞ヒテモ人心ヲ用ヒテ之ヲ聞カサレハ、聞ク者ニ益ナキハ誰モ知ル如ク、大切ナル事ニ心ヲ用ヒテ為サ、レハ、更ニ心ニ益ヲ与ヘサルハ当然ノ事ニテ、我等信徒ノ晚餐ヲ守ルニ於テモ、ポール時代ノコリント人ノ如ク、富メル者ノ飽キ酔ヒ、貧キ者ハ食ヒ得ス飲得ス、人々我先キト先ヲ争ヒ更ニ礼讓謙遜ノ風儀モナク、無礼講ノ如キ晚餐ヲ守リシ事アレハ、此書中此所ハポールノ尤彼等ヲ戒メシ所ナリ、然ルニ予、我節ヲ題トナシテ今日ノ説教ヲナセハ、何カ兄姉ヲセムルニ当レトモ決シテ然ラス、当時ノ晚餐ニハコリントト異ニシテ、食フ者アリ食ワサル者アルカ如キ不都合モナク、皆々静ニ慎ンテ之ヲ守リ更ニ混雜ヲ生セサル故ニ、晚餐ノ仕方ニ付テ更ニ喋々スルニ及ワスト雖、唯茲ニ我輩ノ切ニ注意スヘキハ古モ今モ異ナル事ハアルマシキ事アリ、人自ラ己ヲ顧ミ己ノ有様如何ヲ知り、如何ナル心ヲ以テ之ヲ守ルヤ、如何ナル利益アルヲ知テ之ヲ守ルヤ、若シ心ニ油断アリテ之ヲ守ラハ己ニ益ヲ得サルノミナラス、却テ此晚餐ヲ汚スニ至ラン

〔朱開〕

「第二」

平氣無頓着ニテ之ヲ守ルヘカ「ラ」ス、其死ヲ示シ之ヲ記念シテ恐レサルベシ

晚餐ニヨリ何ノ利益ヲ得ルヤ、又ハ晚餐ハ何ヤトモ深く考ヘス、何ノ感シモナク平氣無頓着テ之ヲ守ル人ハナキトモ云ヘサレハ、私共第一ニ若シ此点ニ怠リ、何ノ心氣モナク之ヲ守ラハ又何ノ利益モ得ル所モナク、乃チ俗ニ馬ノ耳ニ風ト申事ニ齊シ「ク」ナリテハ晚餐ヲ守テ何ノ利益アラン、我ノ罪ノ「為」ニ肉ヲサキ血ヲ流セシ事ヲ忘レサラシメン為ナレハ、匆卒々ニ之ヲ守ルベカラス

〔宋明〕  
第二

晚餐ヲ偶像視シテ之ヲ守ルヘカラス、

宗教ハ兎角人ノ心ニ難有感シヲ起サス者ナレハ、兎角無智ノ人ハ何ソ偶像ナリ仏ノ画ナリ御幣ノ如キ者ナリ、之ハ「有」難キ御利益ノアル者ト云ヘハ只管難有者ト見做シ、直ニ之ヲ拝スルニ至ルハ此迄日本ノ風習ナレハ、縱令偶像ヲ拝スルヲ止メ真ノ神ヲ信スルニ至リシ人モ、殊ニヨルト遂ヒ昔ノ難有癖カ起リ、晚餐ヲ守リテモ、晚餐ノ因テ起シ所ト晚餐ノ利益アル所ニ注意セス、之ヲ偶像ヲ拝スルニ齊シク見做、唯難有ク利益アル事ト思ヒ大切ノ旨意ヲ失フニ至ル憂モアレハ、之茲ニモ克ク注意イタシタキ者ナリ

〔朱丸・以下同〕  
例○天主教ニテ、之ヲ食ヘハ肉トナリ之ヲ飲メハ血トナルト云説、基督ヲ食セルヲ大ニ安心スル憂アリ、心ノ改

良ニ至テ依然トシテアル等、且俗侶ノ酒ヲ飲ミ平人ニ与ヘサル事

○ローサレン「ルーテル」教会ニハ、ヒサマズキテ居ルト牧師之ヲ食ワシメ之ヲ飲マシム、之ヲ物ノミヲ重シテ其旨意ノ尊キ重キヲ誤解セシナラン

〔宋明〕  
第三

己レハ罪ヲ悔ヒ改メスシテ之ヲ守ルヘカラス、

此教ヲ奉シテヨリ以来、我等全ク罪ヲ犯カサ、ルヤト問ヘハ銘々ノ心中自ラ答フベシ、故ヲ以テ我等全ク罪ヨリ脱セシ者ニアラス、多少罪ヲ惡ム者嫌フ者恐ル、者トナリタレトモ、兎角罪ノ衣ヲ脱シ難ク、一罪ヲ除ケハ一罪来リ

実ニ我等ノ弱クシテ自力ノ頼ムニ足ラサルヲ知レハ、何トカ罪ノ甚タ恐ロシキ事ヲ知り、又罪ノ心ニ存スルアラハ早く之ヲ悔ヒ改メ、改メテ再ヒ犯サ、ル事ニ立到リ、然ル後此晚餐ヲ守ラサレハ、之レ陽ニ主ヲ記念シ、陰ニハ主ヲ汚スル者ナリ、我輩豈ニ此一点ニ注意セ「ズ」シテ之ヲ守ルヘケンヤ

〔宋開〕

第四 兄弟ト怨ヲ結ヒ、之ヲ解カスシテ之ヲ守ルヘカラス

昔主キリストカ山上ニ教ヲ宣ラレ賜ヒシトキ、神ニ備ヘ物ヲ為ス先ニ怨アル兄弟ト怨ヲトキ、然ル後備物ヲササクベシト、昔ハ神ニ備ナドナセシモ、今ハ大ニ相違シ何時テモ心ヲ神ニサ、クル事カ叶フ事ナレハ、何時テモ兄弟ト怨ヲ解ク事ハ出来ル事ナレハ、アナカチ此晚餐ノトキヲ待ツニハ及ハスト雖、万一兄弟中互ニ怨ヲ含ミ、互ニ許サル心ヲ以テ此席ニ臨マハ、是レ互ニ自反ヲ為サル者ナリ、キリストノ意ヲ奉戴セザル者ナリ、イカテ心ヲ安シ無頓着ニ此席ニ臨ム事ヲ得ヘキヤ、此席ハ我輩罪人ノ集リトハ雖、罪ヲ悔ヒタル者ノ集マリナレハ、人ノ罪ヲ許シ得サルト、又々己ノ罪ヲ謝シテ互ニ怨ミヲ解カスシテ茲ニ来ル等ハ、矢張此席ヲ汚ス事ナレハ、我輩第一己レノ心ヲ顧ミ、誰ソ兄弟ヲ怨ム事アルヤ又怨ヲ含メルヤ、互ニ了解違アリテ互ニ相通セサルヤ、何故ヲ以テ互ニ相親睦シ得サルヤ克々心ヲ用ヒ意ヲ注キ、兄弟ノ罪ヲ忘レザレハ、己ニ罪ヲ赦レタル我等又此席ニアリテ再ヒ神怒ヲ蒙ル事ヲ免レタキ者ナリ

天国ノ筵ニ我全ク罪ナキ民トナリテキリストニ逢フ事ヲ得ヘシ、又互ニ怨ヲ含ミテ其席ニ臨マサルベシ、然ラハ我輩豈罪ヲ抱、兄弟ヲ惡ミナカラ此席ニ加ルヘケンヤ

第五 我等モ他年天国ノ筵ニ加ル事ヲ望マズシテ、之ヲ守ルベカラズ

我等主基督ノ我等ノ為ニ肉ヲサキ血ヲ流セシ事ニヨリ、我等ヲ此罪惡ヨリ救ヒ出シ、我等ニ清キ天国ノ空氣ヲ吐吸

セシメ、暗ヲ離レ明ニ付クヲ得セシメシハ、実ニ我等ヲ愛スルノ深キ、我等ヲ救フノ妙理、我等之ヲ思フ毎ニ主ノ鴻恩悲愛ヲ賛歎感謝セサルハナシ、乍去既往ヲ記念スルノミニテ、又将来ノ一層超越シタル天国ノ盛筵ヲ思ヒ、其席ニ加ラン事ヲモ望マ「ズ」シテ之ヲ守ラハ、何カ我輩カ只写真ヲ出シテ亡友ヲ思出ス事、命日ヲ数ヘホウジヲナスニ齊シキ憂モアレハ、此大切ナル晩餐ヲ只々記念ノ為ノミト見做スベカラズ、之ヲ只記念ノ為ノミト見ナストキハ、我輩信仰ト望ニ於テ別段ニ進歩ヲ生セサルベシ、宜ナル哉ポールノ言、彼レ「コリント前書ノ十一ノ二十六ニ

「爾等此パンヲ食シ此杯ヲ飲ム毎ニ、主ノ死ヲ示メシテ其来ルトキ迄ニ及フナリ」、主ノ来ル事ハ我等ノ与リ知ル所ニアラサレハ茲ニ喋々スル「ニ」及ハサレトモ、主ノ再ヒ来ルハ、ポール、ヨワンネモ頭ヲ延シテ之ヲ待チオリシニ見ユ

「フヒレピ書ノ第四ノ五、<sup>〔朱〕</sup>「爾等総テノ人ヲシテ、其寛容ナル事ヲ知ラシメヨ、主ハ近シ」

「黙示第一ノ三、<sup>〔朱〕</sup>「此ノ預言ヲ讀ミ且聞ク所ノ者ト、此文ノ中ニ書レタル総テノ事ヲ守ル者ハ幸ナリ、之其時近キニアレハナリ」

以上ノ如ク皆、基督ノ門徒モ、主ノ来レル日近シト云ヘリ、如何トナレハ主曾テ門弟ニ戒メテ曰、「馬太二十四ノ四十四」何時ニ我カ来ルヲ知ラザレハ、爾等宜シ<sup>〔タ〕</sup>「ク」警慎ミ怠ル<sup>〔ナ〕</sup>「ナ」カレト、故ニ彼等モ怠ル事能ワス、不遠シテ主再ヒ来ヘシト思ヒ、ペテロ前書第四ノ七ニ<sup>〔朱〕</sup>「万物ノ終リ近ツケリ、爾等慎ミテ自ラ制スル事ヲナシテ祈禱ルベシ」、若シ我等ニ此考モ持タス、アルヒ「ハ」眠リ怠リ、主ノ速ニ至ルトキニ、乃チ我輩此世ノ終リノ至ルトキ何時ナルヲ知ラサレハ、豈ニ油断シテ之ヲ守ルベケン、又豈ニ主ノ来ルヲ望マスシテ之ヲ守ベケン、我等彼ノ愚ナル五人ノ娘子ニ倣ワス、却テ彼賢キ五人ノ女子ニナラヒ、常ニ油ノ用意ヲナシ常<sup>〔ニ〕</sup>己ノ燭光<sup>〔アカリ〕</sup>ヲカ、ヤカシ、飽

カス怠ラス慎テ待〔チ〕勤テ働キ、忠義ナル僕ヨ主ノ喜ニ入り賜ヘトノキリストノ御言葉ヲ聞クトキ迄ハ、我等未  
タ人間ノ終ニ達セリト云ベカラス、故ニ将来ノ望ミヲ抱カスシテ之ヲ守ラハ、我等ニ於テ得ル所モ亦少カラシ

●以上ノ数段ハ他ナシ、晚餐ヲ守ルニ大切ナル事、乃意ヲ用ヒ、何ノ為何ノ利益アルカ研究セスハナラサルナリ、若  
シ心ナシニ之ヲ守ルトキハ、肉ヲウ飲ミシテ之ヲ食スルトキハ、又其効モ少ナキガ如ク、之ヲ注意シ深クキリスト之  
聖旨ヲ考ヘ、主ニヨリ救ハレ得ヘキヲ知り、固キ信仰ヲ以テ慎ミテ之ヲ守ラハ大ニ得ル所アラシ

志操ヲ高尚ニシ主ノ来ルヲ待ツヘシ

〔明治十三年九月十九日・於京都第一公会〕

# 4 初メハ大切、ヨリ終リガ大切

〔全文ほとんど朱〕

〔歌〕四、二十五 四十二、<sup>〔カ〕</sup>明治十三年九月

箴言十九章二十節

〔墨閉〕

初メハ大切、ヨリ終ガ大切

〔墨〕

同十五年十月廿二日 大坂浪華教会ニ於テ

〔汝之最後ニ於テ智シコクアラン為、忠告ヲ聞テ教誨ヲ受ケヨ〕

世ニ智人ハ誰ソト申セハ克ク聖書ニ通セル人ハソロ、モンナリト申サン通り、此言ヲ言ワレシ人ハ乃彼ノ篤信ナルダビ

デノ子乃猶太国ノ王ニシテ當時父ノ遺命ヲ受、神ノ殿ヲ作り智ヲ以テ鳴リ、智ヲ以称セラレタル事ハ旧約史ニ歴々ト

記載シアリテ、其ノ徳ト云ヒ智トイヒ実ニ猶太人ヲシ「テ」心服セシメシノミナラス遠方ナルエティオピアノ女王モ

其名ヲ聞テ入朝スルニ至シ程ナリキ、扱此王克ク裁判ニ長シ其人ヲ裁スル実ニ至レリ尽セリト云ヘリ、吾輩ヲ「シ」テ驚

駭賞歎セシムルニ至ル、其時代ニ当リ猶太国ノ板図ハ北ユフ、レテース、大河、南イジプトノ川ニ迄ニ達シ其商売ハ遠ク

イジプト〇アラビヤ〇バヒロン、印度ニ達シ且此世代ニ開ケル国々ト間接ニ通商セリト云トモ過言ニアラス、故ヲ以

テ富、巨万ヲ、数ヘ美麗ヲ尽セリ□云ヘクシテ富貴、高名、尽ク其人ニ輻湊セリト云ヘキナリ、宜ナリ此人ニシテ此言アリ、此

言タル唯ニ此人ノ意ヨリ出シノミナラス、恐クハ神此人ノ口ヲ借りテ永ク後世ニ遺サシメシ事ナラン、乍去此人モ富貴

ノ極点ニ達セルヤ不知不知驕。ニ長、慾。ニ染。ミ随テ女色。ニ沈。湎。シ、世人ヲ助ケテ偶像ヲ立拜セシメ、遂ニハ神ノ怒ヲ蒙リシ危。類。ノ場ニ至リシ事モアリタレハ、此智人ニシテ尚此過失アルヲ後世ノ我輩ニ知ラシメ、一層我輩ノ心ノ目ヲ開ラキ、真ノ智ヲ求ムル事ニ汲々タラシムルニ至ル、嗚呼我輩幸先哲ノ後ニ生レ此好機會ヲ得タレハ、如何ソ活。目。ヲ以テ此道ヲ求、此智ヲ索リ、人間最後即チ最上ノ好結果ヲ得スシテ止ヘシヤ、乍去最後ニ於テ智シ「コ」クアレト云ヘハ、何ソ曖昧トシテ明瞭ナラサル所ナリ、乃チ其レ最後トハ何カ、又智シ「コ」クアレトハ何ソ、先逐一之ヲ論セン人間肉軀上之終ニ智シ「コ」クアレト、何ニ事モ差支ナク何ノ汚名ヲ蒙ラス己レ一己ヲ克守リ、又世人ニ對シテハ世人ニ對スルノ分ヲ尽シ、國家ノ為身ヲ出シ、生死ヲ問ハス其ノ職ヲ全フスルニ賢アレトモ見ヘ、又ハ人間終局ノ点ニ達スル為、乃靈魂ノ救ヒヲ全フスルニ賢シコク計レト云意ニモ見ヘマスル

〔感〕  
○自身一己ノ分

○又世人ニ尽スノ分

○上帝ニ尽「ス」ノ分

依テ第一段、肉体上ノ終リニ賢シ「コ」クアレト云義ニ見倣シ之ヲ論スレハ世上比々見ルヘキノ例ナキニ非ス、我輩人ノ風ヲ見テ我風ヲナオセト、世間ニアル所ノ事柄ヲ直接目撃シテ、之ヲ我身ニ反省シ此言ヲ少シク解スルニ足ヘシト〔感〕  
「乃世上ニ、終リニ賢カラサル人間ノ多キヨリシテ此教誨アルニ至リシヲ見ニ足レハ、其類ノ人々ヲ拳ケテ此ヲ適例トセサルヲ不得」

若キトキヨリ精々勉強シ己レノ一身ヲ立テ、或ハ富ミ或ハ貴□ノ位ニ坐シ、妻子糊口ノ道ヲ付ケ、或ハ老年ニ至リ子孫ヨリ懇切ナル孝養ヲ受ケ、何一ツ不足モナク柔ナル蒲団ノ上ニ死スル事ナドヲ指シ、日本ニテハ終ヲ能セシト云、

又ハ終リニ賢シ〔コ〕クアリト云テモ可ナラン

○去ナカラ此世ノ風潮ニ漂サレ、他人ノ導キニ引カサレ、仮令業若不成ハ死トモ帰ト思ヒ立シ、山桜ノ開キタ様ナル、旭日ニ輝ケルカ如キ美シキ志モ、世ノ暖カナル風ニ徐々ト吹カレ一片二片散シ初メ、遂ニハ風花ノ雪トモ云ハル、空ヲ霞ムル程ニ散リ飛テ、梢上ニ以前ノ美キ花一ツ残ラスニ成リ行キテ、人ヲシテ昨日ノ花ハ何処ニアルソトノ問アラシムルニ至ルハ、比々見ルヘキノ例多シ

遂先日モ紙上ニ見ヘタル如ク、或ル書生一人鹿児島ヨリ負笈テ遠ク東京ニ出テ學問ヲ為、一ツカド世ノ名利ヲ射ラント計、又ハ世ノ為働カンナトノ大ナル想像アリシトモ、東京ニ出ルヤ俄ニ烈シキ風ニ堪ヘ兼ね、風ニ吹カル、飛花ノ如クナリ、前ノ主意ハ全々地ニ落チ泥ニ塗ミレ、家郷ヨリ持来リシ金ハ尽ク散シ尽シ、友人ヨリ非常ノ負債モ嵩ミ人ヨリ催促ヲ受ケ、遂ニ進退維レ谷マリ遂ニ亜片ヲ飲ミテ死セリト、其家郷ヲ出ルノ大目的ハ全ク消滅シ去リ、人ニハ不義ヲナシ、策尽キテ死セシハ又憐レムヘキ至愚ノ者ナル哉、是初アリテ終ヲ全セス終リシ愚ナル者ト云フヘシ○又ハ近來大流行会社設立モ、実ニ国ノ進歩ノ一証トハ云ヘキモ、扱多クノ会社ノ創立ノ際ニハ、第一ニ大看板ヲ掲ケ体裁ヲ飾リ、又大キナル借金ナトヲナシ事ヲ初メ、社長タル者ハ絹ノ衣ヲ衣、二人引ノ人力車ナクハ外ニハ歩カヌ程ニ大ソウニナシタルトモ、其働キハ外面体裁ト共ニ進マス、商賈ノ未タ利純モ見ヘヌ内、借金ノ利ヲ払ワネバナラヌ様ニナリ往キ、遂ニ万事往キ当〔リ〕ツキ当リ、遂ニ閉業トナル者沢山アリテ、会社ヲ立タト聞ケハ、トウカ第一ニツブレネハヨイガト人ニ思ル、事ニ成行キタリ、扱是モ矢張初ニ大事ヲ、初メノ大事ノ為ニ心ヲ焦シ、遂ニ終ノ実ヲ食ワズシテ終ル事ハ、扱モ扱モ嘆スベキ事ニ世ニ沢山アレトモ、人々茲ニハアマリ目ヲ付ケス、初メルトキニハ必ラス成ルト見込トモ、事ヲナスヤ面白ク行カネハ直ニ氣折力尽、空〔ク〕降伏スルハ終リニ賢シ〔コ〕キ人ト難云ナリ

○彼有名ナル人ノ跨下ヲ出テシ韓信モ、漢陽ニ於テノ手初メハ甚面白クアリ、又其ノ趙ヲ撃ツニ当テヤ、予メ背水ノ陣ヲ設ケ、趙兵ヲ城中ヨリ引出シテ遂ニ之ヲ夾撃シ、之ヲ破シ等ノ事、又楚ノ龍且ヲ水中ニ誘テ打ツ事ハ実ニ妙ナル軍略ト云ヘク、之ヲ死地ニ陥レテ後生ス、之ヲ亡地置テ而後存スト申スノ術ニシテ、世人克知ル所ナリ、乍去勝チニ乗シテ驕レル色ヲ顯ワシ、漢王ノ疑ヒヲ解ク能ハス、空〔ク〕一婦人呂氏ノ為ニ譎ラレテ虜トナリシハ、初ニ宜シテ終ヲ能クセス、終ヲ全セス、終リニ愚ナル者ト云ヘキナリ

當時ノ豪傑陳豨黥布ノ如キモ、皆其終リニ賢カラサルモノアリ

又此ノ韓信ト時ヲ同セシ張良ノ如キハ、乃チ將ニ將タルノ器ナリ、漢ノ天下ハ良ノ取ラシメシト云テモ可ナルヘキニ、功臣ヲ封スルニ当リ、良ヲシテ齊ノ三万戸ニ封ワシメシニ、良克高祖ノ心ヲ知り、良ノ初テ高祖ニ逢ヒシハ留ト云地ナルヲ以、小キ留ニ封セラ〔レ〕ン事ヲ求メ、己レ一身ノ終ヲ全セシハ、乃終ニ賢シ〔コ〕キ人ト云ヘキナリ

世ニ事ヲナシ却テ終ニ智ナキ者、中人以下史上ニ拳テ見ヘス、多クハ中人以上ノ人物ナルノミナラス、絶世ノ豪傑ニモ其類多ク、アレキサンドルノ如キ天下ハ死後直ニ三分セラレ、ナホレオンノシントヘレナニ幽囚セラレテ空ク敵ノ中ニ死シ、豊太閤ノ天下死後直ニ徳川ニ奪ハレシ如キハ、皆終ニ賢カラサル人物ノ例ニシテ、大人豪傑ヨリ中等以上、少シク世ニモ知ラレタル人物ニ多〔ク〕終リニ愚ナル者比々見ユル事ナレハ、マシテ世ニ知レヌ人々モ沢山終ニ愚ナル者モアル事ナラン

人一身ニ取り、一身ノ所置ヲ為ス所ハ大切ノ事ニテ、人幼ヨリ勉強己ノ身ヲ立、遂ニ人ヲモ益シ、終〔リ〕ニ智〔シコ〕クアリ度者ナリ、乍去肉体上終〔リ〕ニ智シ〔コ〕クアリ、其終ヲ全スルハ、人間最上ノ目的ニ達セリ〔ト〕云ヘカラス稍高上ノ目的ハ、身ヲ殺シテ仁ヲ為シ己ニ克テ能ク人ヲ救ヒ〔惡〕愛國、愛民、愛君ノ如キハ又身ヲ捨テ功ヲ為、終リニ

賢シキ人モ稍上等ノ者ナリ、<sup>〔墨〕</sup> 広ク世ヲ益スル事ハ唯一身ヲ立ツルヨリ遙ニ高上ニシテ、仮令身ハ寸々ニ斬ラル、トモ心ニ恥ツル事ナク、晴天白日ノ如明々乎身ヲ捨テルモ、文天祥<sup>〔ノ〕</sup>鼎鑊甘飴ノ如ク

トナリ、顔常山ノ舌トナル、我朝忠臣楠氏三世、人権家桜宗五郎<sup>〔佐倉惣五郎〕</sup>、嵯侍中ノ血トナリ、張睢陽<sup>〔ノ〕</sup>齒

往昔ハ君ノ為、衆人ノ為、国ノ為ニ身ヲ捨テ、忠臣義士ノ名ヲ負フテ死シ、其名永ク後世ニ存スル等ハ、矢張身死テ仁ヲ為ノ類ニテ、肉体上ノミテ終リヲ克クセシ人ニ比スレハ<sup>〔墨〕</sup> 遙ニ高上ナル者ト云ワサルヲ不得、去レ<sup>〔下〕</sup>モ此点ニ止リタルノミナレバ、仮ニ人ニ対シタ分ヲ尽セシト云ヘキモ、人、神ノ人間ニ望ミ要スル所ノ分ニ応シ、其分ヲ尽セリト云ヘカラズ<sup>〔墨〕</sup>

○己ノ靈ヲ天国ニ入ラシムル、是最上ノ目的ヲ達セリト云ヘキナリ、仮令国ノ為大事ヲ為ストモ、己ノ靈ヲ捨テ死亡ニ至ラシメハ最上ノ点ニ達セシニ非ス、道ヲ嫌ヒテ来ラス、又来ルモ再ヒ道ヲ離レ<sup>〔墨〕</sup> 神ノ望ニ応セス、神ノ招ヲ受ケス、清メラル、途ニツカス、聖靈ノ洗ヲ受ケス、終局ニ達スルノ用意ヲ為サス○此ノ用意ハ外見ニ関セス、名譽ニ関セス、世評ニ係ラス、真靈ノ終局ニ達スルニ賢シ<sup>〔コ〕</sup>ク用意スルカセサルノ問題ニアリ、半信半クリンシチャンニテ神ノ前ニ出ツハ恥シ、或ハ信ジ或ハ疑ヒ、更ニ定所ナキ彼可憐ヘキ浮草ノ如ク、遂ニ己ノ靈魂ヲモ亡ヒ、達スヘキ天国ニ至ヲ得サル類世上ニ多々アレハ、此輩ハ靈ノ終<sup>〔リ〕</sup>ニ賢カラヌ者ト云ヘクシテ、人間ノ極度ニ達シ得サル者ナリ

〔昔時末<sup>〔タ〕</sup> 芸術ノ開ケサル先キモ、最早徳義ノ教アリ、人足アレハ歩ムベキ道ナキ能ワス、人靈アレハ靈ノ進ムヘキ路ナキ能ワス

〔鉛筆〕  
一〇七罪ヲ入ラシム勿レ

路可十一ノ二十四ヨリ二十六 〔ペテロノ前書二章ノ二十

イサヤノ三十五ノ八 茲ニ大道アリ、乃清潔ノ道ト称スヘシ、誘導ヲ受クノ人ノミ之ニ歩ミ、不潔ノ人之ニ行ヘカ  
ラス、乃チ誘導ヲ受クル人ハ愚ナリト雖、決シテ迷ワサルベシ

○コンクロー<sup>ル</sup>ジョン 如何ナル榮譽モ人誤テ此点ニ達セサレハ、人間ノ終〔リ〕ニ賢カラサルモノ終局ニ達セサルモ

ノニシテ、愚ノ尤甚シキモノト云ヘキナリ、人近キヲ見ルニ切ニシテ遠キヲ見ルニ切ナラス、世間ノ事物ニ譬ヘテモ

〔以下墨〕

政事家ハ政事ノ範圍内ニ着目シテ他ヲ顧ミス、社会学者ヲ以テ自ラ語ル福沢先生ノ如キハ、學問ト云ヘハ唯社会学  
アルノミト一小区域ヲ注目シ、他ニ沢山學問ノ種類アルヲ知ラス、如斯ク人ト云フモノハ、此世ヲ賢ク立回り、  
此世ヲ安全ニ終ルヲ以テ賢シト云フノミニアラス、又火ニヤカレ又十字架上ニ懸ケラルモ、人其職ニオリ其分ヲ尽  
シ、同胞兄弟ノ公益ヲ計ラハ、矢張り終ニ賢シ〔ヨ〕クアリシト云ヘク、安逸ハ決シテ人間ノ大幸福ト云ベカラス  
老ケ人ノ分ヲ尽、又公衆ニ対シ尽クス分ヲ為シ得タルト雖、尚終〔リ〕ニ賢シ〔ヨ〕キ人ト云ヘカラス、ソハ老個人ト  
シテ此世ニオル丈ノ分ヲ尽シ、又忠臣義士トカ云ヒ、又ハ同胞兄弟ノ為ニ公益ヲ計リシ人モ随分世ニ多ケレハ、此等  
ノ人々ハ真ニ人間トシテ、人間終局ノ点ニ達セシ人ト云ヘカラス、如何トナレハ人間ノ肉ノ中別ニ無形ノモノアリ、  
乃魂アリ

吾ガ吾レ一人ヲサシ吾レト云ハ、此死ネハ腐ル肉体ヲサシ云フニアラス、乃死ンデモ腐ラサル貴重ナル魂ヲ云ナリ、  
去ラハ人タルモノハ、死ンテ汚レタ魂ノ終局ハ何レニアルヤヲ尋<sup>ネ</sup>問ワサルベカラス。此魂ノ終局ハ何ノ処ト云事ハ、

古来宗教家理学家ノ大問題トナリタルガ、孔子ハ分カラス。釈迦ハアテスッポウ。ソクレテースモ分カラス、只暗々裏ニ求メタル事ト思ワル、独リ我主基督ノミ其処ヲ明ニ示シ、門弟ニ語ラ「レ」ケルニ、我カ父ノ家ニハスマヒ多シ、我爾ノ為ニ所ヲ備ヘ「ヘ」ニ往ク、若シ往テ爾ノ為ニ所ヲ備ヘハ、又来リテ爾等ヲ我ニ受クベシ、我カ居ル所ニ爾等ヲモ居ラシメントテ也、是レ乃魂ノ至ルヘキ終局ノ場所ナレハ、基督ハ早ヤ彼ノ主人ヨリ放逐サレタルトキ、主人ノ得意先ニ往キ厄介トナリタル賢シキ番頭ノ譬ヲ以テ、<sup>〔上欄〕</sup>「noe」人間タルモノハ必ラス自身ノオチツクヘキ場所ヲ設ヘシト教ヘラレタレハ、吾人人間タルモノハ、必ラス己ノ魂ノオチツキ所ヲ予メ用意スルコソ、最モ賢シ「ヨ」キ人間ナレ、乃チ終リニ賢シ「ヨク」アルモノト云ベキナリ

基督又仰ラレテ曰、人若シ新ニ生レサレハ神ノ国ヲ見ル能ワス、此ハ乃生ニ入ルノ門ナリ、新ニ生ル、「ガ」大切、生レタノミデハナラス、日ニ新ニナラネハナラス、日々真ニ進マネハナラス、主又曰、真ニヨリ潔メラルベシト、如斯魂ノ終局ニ達スル「ニ」ハ日々ノ洗濯ヲ要ス、修行ヲ要ス、我等清潔ノ天国ニ至ルニ不潔ナモノデハナラス、必基督ノ真ト聖靈ノ感化力ト、自己ノ修行ニヨリ、キリストノ赦罪ニヨリ、初メテ神ノ前ニ罪ノナキモノト見做サレ、清浄ナル天国ニ入ルヲ得ベシ<sup>〔朱点・以下同〕</sup>布ハ白クサラシタルヲ尊ブ、半サラシデハ人之ヲ喜ハズ、神モ半サラシノ魂ヲ喜ンテ御受ケハアルマヒ。

〔朱〕  
「信者ヘノ忠告」

終リニ臨ミ一言ノ忠告ヲ呈ス、此大坂ナル地ハ四通八達、中国商売ノ要路ト云ベシ、又基督ノ真ヲ四方ニ伝播スルニモ最便宜ノ地ト云ベシ、神ノ御恵ニヨリ早クモ此地ニ此道カ伝ワリ、今己ニ数教会モ立チ、信徒ノ数モ数百ヲ以テ数フ、兄弟ハ熱心克ク働キ、己レニ克チ能モ出シ、牧師ヲ愛シ、教会ヲモ維持セラル事ハ感服ノ至リナリ、都府ノ人ニ

不知不知浮薄ナル風アリ、事多キ所ヨリ意ヲ専ラニセサルノ憂アレハ、終リニ賢シ「コ」クアリ、終局ノ用意ニ怠リテナラス、初カ大切ト云ヒ暫時熱心ニ働タルモ、世ノ風潮ニ流サレ遂ニ信仰ヲ失ヒ、画ニカキタル幽靈ノ如ク終「リ」ヲ全セサレハ、乃徳ヲ為スオヘスト云ベシ、兄弟ヨ、爾ハ神ノ恵ニヨリ鬼ヲオイ出サルモノナリ、又再ヒ多クノ鬼ヲ受クルノ用意ヲナシ賜フ勿レ、彼ノ浅慮ナル「イサウ」ノ如ク、一杯ノ羹ノ為ニキリストノ弟子トナリ命ヲ得ルノ權ヲウ「壳」ル勿レ

〔朱〕  
「不信者ヘノ忠告」

此レハ信者方ニ申シ上ケル事デアルガ、此聴衆中未タ能ク此道モ聞カス、又魂ノ終局ニ着目セス人アラハ、此ハ初アツテ終リノナキ人ト申ベケレハ、予ハ一面識ナキモ此等ノ人々ノ為ニ甚御氣ノ毒ニ存ス、我ト同シク神ノ造ヲ受ケ、此終局ノ目的ト望ト喜ヒト樂シミナキ人ハ、克々此世ニ出テキタ甲斐モナケレハ、此人々ニモ、此ヨリ魂ノ終局ニ達スヘキ御用意カアリタキ事ヲ切望ス

〔明治十三年九月十二日・於京都第二公会\* 明治十五年十月二十二日・於大阪浪花教会\*〕

5 御意ノ天ニ成ル如ク地ニモ成ラシメヨ

明治十三年十月三日

〔歌〕<sup>〔朱〕</sup> 十一 二十七 五十

馬太六章ノ拾

御意<sup>〔ミココロ〕</sup>ノ天ニ成ル如ク地ニモ成ラシメヨ

路〔加〕十〔二〕ノ二 使徒行二十一ノ十四

此世ノ罪惡ニ沈ミシ暗黒ノ雲ニ蓋ワレテ、其罪ハ弥々重ナリ其雲ハ弥暗ク、再ヒ青天白日ヲ見ル事實ニ期シ難キト思  
ワレトモ、又我主基督カ如斯基祈ヲ以、其門徒ニ教ヘラレシヲ見レハ、又神ノ御国ノ来モ期シ難キニ非ラス、御意  
ノ天ニ成ル如ク又地ニ成ル事モ、決テ企望シ難キノ事ニアラサルヘシ、且又主自ラ父ノ御意ヲ奉シテ此地ニ来リ、我  
輩ニ率先シテ神ノ敵ナル惡魔ヲ打勝チ、其身ヲ十字架上ニ<sup>〔ママ〕</sup>犠牲トナシテ御身ニ神ノ聖旨ヲ成ラシメ、長ク我輩ノ手本  
トナリタレハ、我輩モ亦竊意基督ノ轍ヲフミ之ヲ失ワサレハ、又不当ト雖不遠充分ニ神ノ聖旨ヲ奉戴シ得サルトモ、  
慈愛ニ溢ル、ノ神我輩ノ基督ノ轍ヲフメル所ヲ以、我等ノ罪ヲ赦シ、天国ノ版圖ニ入ラシメ、神ノ民ト称スルナラン、  
然ラハ乃チ我輩豈一日徒手傍觀ニシテ此日ヲ送ラヘケンヤ、乞フ何故ニ神ノ聖旨カ此世ニ成ラサルカ、又如何セハ神  
ノ聖旨ハ天ニ成ル如ク此地ニ成ルヘキヤ、稍鄙見ヲ演ヘ共ニ力ヲ尽シ、一日モ早く<sup>〔朱〕</sup>「黄金世界ヲ来ラシム」神ノ聖旨  
ノ我輩ノ内ニ成リテ、此幽暗ノ罪惡世界ニ神ノ栄光ヲ顯ワシ、不毛ノ砂漠ニ再ヒ薔薇ヲ開カシメン事ヲ

〔朱録・以下同〕

第一 神ノ聖旨ノ成ラサル所謂ハ、人間ノ我意ヲ先ニシテ神ノ聖旨ヲ奉セサルニヨルナリ

人此世ニ生ルヤ尚母ノ懷ニアリ、唯母ノ乳ノミ求ムルヲ知りテ実ニ何事モ知ラス、又我意ヲモ抱カサル者ニ似タレトモ、克々之ヲ試ムルニ赤児モ已ニ早ク我意ノ強キヲ示スニ似タリ、何事ナリトモ少シク己レノ意ニ適セヌ事アラハ必ラス哭キ叫ヒ、少シク長セシ上ハナキ叫ノミナラス、少ク怒色ヲ顯ワシ我意ニ適セサルヲ示ス、又我意ニ適セル事ヲ為セハ、必ラス笑ヒ喜ヘル色ヲ顯ハシテ、口ニハ言ヒ能ワサルモ此ハ我カ尤モ好ム所、我意ニ適スル所ナリト断言スルニ似タリ、如斯小兒ノ我儘ナル事ヲ見テ、是ハ小兒故如斯我儘ナリトセハ大ニ間違ナリ、暫ク小兒ノ成長セシ後ヲ試ヨ、四年、五年、六年又七年ノ後ニ至リテ此我意全ク消滅セシヤ、良父母、良師友アリテ克ク之ヲ訓導教誨シ、又其克ク之ヲ奉戴スルニ非サレハ、其我意益長シ、遂ニ父母師友ノ克之ヲ制御シ能ハサルニ至ルハ比々可見ノ例ニシテ、人各我意ヲ先ニシテ他人ノ忠告ヲ容レス、又人心ニ銘セル天ノ命、天ノ規律乃真神ノ聖旨ニ從順ナル能ワサルヲ示スナリ、世人恐クハ人間中此不從順ノ行ワル、ヲ見テ、誤テ之ヲ人間ノ自由ノ精神、獨立ノ元素ト見做ス者モアラン、乍去其ハ大ナル謬リニシテ、人苟〔モ〕此ノ不從順ノ心ヲ抱キ、良父母良師良〔友〕ノ忠告ヲモ用ヒス、天ノ命令ヲ奉セス、唯我意ノ向フ所ニ任セハ其結局ハ如何ソヤ、昔我等ノ鼻祖アタム突然我意ニ誘カレ、神ノ嚴禁ヲ犯シテ天賦ノ良性ヲ失ヒ、神ノ命ヲ後シ我意ヲ先ニスルノ心ヲ釀成シテ以來、其子々孫々其ヲ受得テ益天父ノケン責ヲ蒙リ、弥天父ヨリ遠カリ、彼放蕩男兒ノ父ノ家ヲ去リ、父ヨリ受タル財産ヲ散佚シ、遂ニ人ノ為ニ豕ヲ飼ヒ、豕ノ食物ヲ喰ワント欲セシニ至リシニ似テ、人若此ノ不從順ノ心ヲ養生セハ、必ラス自身ヲ惡魔支配ニ入ラシメ、天賦ノ良質自由ヲ失ヒ、身モ心魂モ東庄ヲ受ケ、俗ニ所謂進退維谷ルト云ニ至ラン

是レニヨリ之ヲ見レハ、此不從順ハ決シテ自由獨立ノ元素ニアラサル事明ナリ、此不從順アリテ此世ニ不幸ヲ与ヘシ事ハ、唯アタムノ事ノミヲ以テ証スルナラス、猶太國史乘ニモ歴々証スルニ見ルヘキナリ

〔朱〕  
「モーセノ岩ヲ打ツ事」

ヨナノ神ノ命ヲ奉セ〔ズ〕シテ他所ニ行キ、遂ニ水中ニ投、魚腹中ニアル事三日」

彼信仰ノ厚キタビテ、智識ニ富メルソロモンスラ神ニ向ヒ罪ヲ犯セシカハ、神直ニ之ニ怒ヲ加ヘ、又彼ノイスラエルノホジヤ〔ホセ〕王ノ時代ニ至リ〔テ〕ハ、イスラエル人ノ神命ニ反キ偶像ヲ拝スルニ至リ〔シ〕カハ、神異邦人ノ手ヲカリ之ヲ囚ニシテ、遠クバビロンニ移サシメシ類ノ如キ、又耶蘇降世後其教ヲ奉セスサルノミナラス、之ヲ執エテ十字架上ニ揚ケシ猶太人ハ如何ナル神怒ヲ蒙リシヤ、マタ昇天後亦四十年ヲモ経サルニ、其ホコル所ノ都ハ羅馬ノ兵卒ニジユウリンサレ、其手ニ打殺サレ、其死亡百万ニ及ヒシ其殘酷目ヲ当ラレヌ有様ニナリ行キシハ、偶然ト云テ可ナルカ、乃チ彼等我意ヲ先ニシテ神ノ聖旨ニ順ハス、遂ニ此災害ヲ受シ肉体ヲ死セシノミナラス、貴重ナル靈魂ノ死亡ヲモ招キタルナリ

第二（聖旨ヲ天ノ如地ニモナラシムハ、我輩我意ヲ捨テ偏ニ神ノ聖旨ヲ奉スルニアリ  
〔朱丸・朱点・以下同〕

○神ノ聖旨ニ順フニ半分半途ニナスベカ〔ラ〕ス

路可ノ七ノ二一

例 百夫ノ長ノ僕ノ病メルトキ、耶蘇ニ其之癒サン事ヲ求ムル、一言ニテ其癒ヘキヲ信シタリ

○神ノ聖旨ニ順フニ大事ノミニ勉テ小事ニ怠ル忽レ、神ハ大事ノ神又小事ノ神ナリ（我輩大事ニ勉メ小事ニ怠ルノ憂アリ）

〔朱〕  
「ローマ〔書〕、勝得テアマリアリノ語ヲ引ケ」

馬太二十五ノ十四ヨリ、小事ニ忠、大事ニモ任カセラル、

③神ノ聖旨ニ順フニ苦辛ヲ不問、唯命ニ是ニ順フニアリ、

此兀然タル山ニ登レトノ命、苦辛ヲ不問、唯命ニ順〔ヒ〕進ミ取ルニアリ

山ノ麓 色々人アリ 我意山 我意ノ獅子 〔朱〕○此獅子克〔ク〕鎖ニツナガレタリ」

ハイハイト云ニ似タレハ、真ノ從順ハ自由独一ノ基

ペテロ、ポール、ジョン・ホス〔フス〕、ルーサ、皆我意ヲ捨、聖旨ヲ奉スルニアリ、Dr ジョティソン、ヘンリー・

マーテン

〔ハオールド、魯王ノ宮殿ニオラス、新聞ヲモ不見〕

○兵丁之談〔朱〕シンド〔セント〕ベルナルドノ嶮ノアリ、ホスピスアリ、案内者ト犬アリ旅行人ヲ導ク、雪中ニ旅人其案内

ニ從カワスハ、如何シテホスピスニ入ルヲ得ンヤ、スウィツルラントの山行ニ必ラス案内者ヲ要ス」

結局キリストヲ手本トナシ、之ヲ真似セハ、必ラ〔ス〕聖旨ハ天ノ如ク地ニモ成ルベシ

〔朱〕強敵豈敢テ我輩ヲ敗ランヤ、堂々齊々之陣ヲ以向ベシ、天下豈此真理ニ敵スル者アランヤ

〔朱〕豈克此十字軍ヲ妨ク者ア〔ラ〕ンヤ」

〔明治十三年十月三日・場所不詳〕

6 「死ニ赴クハ安シ、心ノ戦ニ勝ツハ難シ」

〔補〕  
「十三年十月 福岡」

哥林多第一、九章十六節

止ム事ヲ得サルヨリ出ルハ、他ニ其任ニ当ル者無キニアリ、故自ラ出サレハ自レノ職分ヲ尽サバニアリテ、自身ニ於テ尤不幸ト禍ト云ナリ

〔鉛筆〕  
「40, 4, 46」

○ボルネル氏曰、我レハ他ニ働ク無キニヨリ、我不肖ト雖身ヲ基督ニ出シ、衆人ノ為ニ働クナリ○然〔リ〕彼ノ働クニハ自ラ用意無キニアラス、常ニ聖書ヲ読ミ○常ニ祈リ●常〔ニ〕心ヲネリシニヨルナリ

\*\*\*  
○テクストノ語ヲ吐キシポールハ、第二コリント十一章

十二年十一月  
獄ニ入ラル 死ニ逢フ事度々 五〔度〕<sup>〔ママ〕</sup>四十〔二〕一ヲ減〔シ〕タル鞭 三度條<sup>ニダ</sup>〔鞭〕ニテウタレ 一度石ニテウタレ 三度破船 一昼夜海ニアリ 河ノ難 盜賊ノ難 同族ノナン 城裏ノナン 野ノ〔中ノ〕ナン 海中ノナン 〔ニセ〕兄弟ノナン、不眠ル事屢 飢餓屢 断食屢 凍裸屢

何故ニ此カ難〔ニ逢〕フテ屈セサリシヤ、自ラ伝道セサレハ実ニ禍ナリ、己レノ任ナリ、責ナリ、逃レ難キナリ

○目的ヲ立○而ル後目的ヲ達スルヲ計ル○目的ヲ達セント計レハ心ヲネラサルヲ不得、聖書ニ達セサルヲ不得○神ト通シ神ノ勸ヲ受サル〔ヲ〕不得

○不肖ナカラモ其位置ニ進ンテ、自ラ辞スルハ卑屈ナリ、実己ニ禍ナリ、他ニ出ル者無トキ己自ラ出テサルヲ不得

○己レ其位置ニアリテ出テサレハ不幸千万ノ者ナリ

○今ヤ神ノ敵、我輩ヲ襲フノトキナリ

我レ等目的ヲ立、用意ヲ為ス○自ラ戦フニアリ

タビテ——のゴライヤス「ゴリアテ」 神後ニアリ 那須宗高ノ扇ヲ射ル 彼ヲス、ムル者アリ、義経怒リテ激ス

我輩ノ大将ハエスアリ、誰ソ主ノ募リテ応テ出ル者ナキヤ

〔鉛筆〕「新紙ニ社説ニ人心ヲ改メシ証アリヤ、力アルヤ、耶蘇教ハ大力を有セリ」

コンクロルジョン「コンクルージョン」、死ニ趣ハ安シ心ノ戦ニ勝ツハ難シ、心ヲネルニアリ、心ノ戦ニ勝チ○勝ツ様ニ道具アリテ之ニ勝チ得サル者ハ実ニ禍ナリ

〔補〕「ルーサ、エルフォルト大学卒業、ウッテンボルク大学ノ教員、公会改革

弓矢ハ彼ノ道具

〔聖書ノ言葉ハ我等ノ道具ナリ

〔尽ク愚ト不肖トナク出テ□戦ヨ○〕

〔補〕●ナポレオンノアルペンヲ越ル、将才〔下士官下等ノ士卒アリ

ルーサノ宗教改革ヲ成遂ケル、ルーサ、サクソンノ王、フランクトン〔多ノ北方人民アリ〕

7 「キリストノ御心ヲ察セヨ」

〔朱〕  
十四年一月九日 第三教会ニ於テ\*

讚美歌 〔朱丸〕〔朱線・以下同〕  
④ 四十六 六十

馬太ノ二十六ノ六ヨリ十三ニ至ル

マリヤノ基督ノ心ヲ早ク見抜キタル事 〔朱丸・以下同〕 〔朱点・以下同〕  
○ 兼テベタニヤニハ屢御越ニシテ屢教誨モ受タルナラン、故定テ信仰モ進ミ

居ルタルナレトモ、門徒ノ如キ常ニ扈從セルニ非ス 〔朱丸〕

○ 幾分か基督ノ心ヲ察シ見ルニ、長シ富ミタル者カト思ワレハ、我等モ基督ノ御旨ヲ察視スル事ハ大切ノ事ト信ス、爾輩ノ知ラサル食アリト

、去ナカラ門徒ハ如何アリシヤ、直ニ基督タルヲ察視セシヤ

門徒

〔朱双柱・以下同〕  
一〇 基督兼テサマリヤノ婦人ト話シ賜ヒシトキニ云シトキ、誰カ食ヲ持来ルヤト問フ

二〇 ガリラヤノ東北ニ渡ラル、トキ門徒パンヲ忘ル、基督バリサイノパンタネヲ慎メト云、パンヲ忘ル、ニヨリ如斯云ハレシト云

三〇 カイザリヤ・ピレピノ道ニテ、基督死ト蘇生トヲ云レテペテロ之ヲ止ム、基督之ヲ斥ケ、人ノ意ニ体セス神ノ意ニ体スト云

四〇基督ノ容ノ山上ニ変セシトキ、ペテロノ口上ハ如何

五〇基督ペリ〔レ〕ヤニアリシトキ、彼等ニ先立行キシカハ、彼等大ニ恐レタリ、基督磔死ト蘇生ノ事ヲ云ヘリ

馬可ノ十ノ三十二

六〇人ヲ癒ス事ト道ヲ説カレテ彼ヲ導ク

七〇エルサレムニ於テ食事ノトキペテロノツマツキヲ前言シ、聖晚餐ヲ設ケ己ノ死ヲ顯ワシ―祈禱シ、ナクサメ

八〇ゲッセメネノ祈ニハ三人ノ門徒眠ニ就キ、基督ト共ニ醒メス

九〇甚キニ至テハ、猶太ノ如キハ主ヲ売渡セリ

十〇ペテロノツマツキハ基督先以之ヲ云レシニ、彼モ鶏ノ鳴ク先ニ彼ヲ三回知ラズト云レリ

十一〇十字架上ニ死セシトキニ、百夫ノ長モ彼ローソー〔ルソー〕ノ云レシ通、神ノ如ク死セシヲ見テ信スヘキニ

十二〇蘇生ノ後モ門弟等多ク信セス、二人ノ報モ信セス、十人ノ門弟ニ初メテ顯ワレシトキ之ヲ恐レタリ、トマスノ

如キハ見サル内ハ信セサリシ

〔朱丸・以下同〕

(I)基督ノ御意ヲ察スル事ハ大切ナリ

、ペタニヤノマリヤハ其人ナリ

(II)基督ノ御意ヲ察スルニハ聖靈ノ御助ヲカ〔ラザ〕ルベカラス

、彼ノ門徒ノ漸々乎トシテ眼ノ開信ノ進ミシヲ見ヨ

(III)基督ノ御意ヲ察視スルニ靈ノ助ケヲ要スルナレトモ、自ラモ又勤メサルヲ不得

、神ハ自ラヲ助クル者ヲ助ク、古来人傑ノ所業ヲ見ヨ、保羅ハ其例ナリ

○A 基督ノ意ヲ察視スルヨリ

○父母ノ意

〔朱四〕

佐野ノ城主

○兄弟ノ意 古来歴史上ノ人物ノ意（私カ公平カ）

人ノヨキ所ヲ見テ之ヲ倣ヘ

俵藤太秀郷ノ平将門ノ反心ヲ見

又明智光秀ノ本能寺ノ堀ノ深サヲ問ヒ反心ヲ顯ワス事

或ル伝道者ノ行クヘキ所ニ魚ノ多キヲ喜ヒ、他人之ヲキ、彼ハ伝道ニ熱心ナラスト云ヘリ○〔カ〕会津侯ノ朋ヲスル事

○B 人ノ惡シキ所ヲ己ノ身ニ反省シ、慎テ之ヲサケヨ

○結局 平素汲々乎トシテ唯基督ノ旨ニ反セン事ヲ忘<sup>〔恐レ〕</sup>、之ヲ索リ、之ヲ知り、之ヲ味ヒ、之ヲ考ヘ、之ヲ行ヒ、共

ニ眠ラス、主ノ来リ我等ヲ進シトキ迄且祈リ、且勤メ基督ノ僕ノ本務ヲ尽シ

〔明治十四年一月九日・於京都第三公会〕

天徳寺了伯ノ譬者ヨリ  
平家物語リヲ聞キタル事  
活眼ヲ以テ活書ヲ讀ム

## 8 十人ノ娘、用意ニ怠ル勿レ

〔欄外〕

「十四年二月十三日 第一公会」

〔欄外鉛筆〕

「原一 十六年五月廿日」

十人ノ娘 用意ニ怠ル勿レ

馬太ノ二十五章十三節迄〔然ラハ怠ラスシテ守レ、爾等其日其時ヲ知ラサレバ也〕

〔上欄〕

「兄弟ハ爾等如何思ヒ賜フソ、予此ノ語ヲ読ム毎ニ、自己ノ心ニ釘ヲ打タル、程ノ思ヲ為サ、ルヲ不得、如何トナレ

バ此内ニ余程厳シキ意味アリテ、実ニ我等ノ心ヲ戰慄セシムルニ至ル」

是他ナシ、我等ヲ愛スル基督ヲシテ、注意耐忍勉強シテ、他年婚姻ノ席ニ加ワルノ面目ヲ失ワサシメン為也、故ニ予モ主ノ意ヲ体シ、我等供<sup>〔わ〕</sup>ニ用意シ怠ルヘカラスト云主意ニテ、今日ハ話ヲ致スヘシ

却説彼ノ若キ娘共美々敷ク粧ヒ、銘々灯器ニ油ヲソ、キ之ニ火ヲ点シ、一同ニ花婿ヲ迎ヒニ出ツトキハ更ニ二様ノ區別モ見ヘス、実ニ何レカ愚ナルヤ何カ智キカモ分ラヌ様ナレトモ、彼等途中迄迎ヒニ出テ或ル所ニ憩コヒ、花婿ヲ待受ケシニ一更二更ニ至レトモ花婿来ラス、皆々待勞レ倦ハテ、少シ居眠ヲ初メ、遂ニ何知ラス熟睡スルニ至レリ、然ルニ多分一時比ナルニ、俄ニ声アリ花婿来矣、花婿来矣ト、此十人ノ者共々アワテ、飛起キ、銘々ノ灯器ヲ見シニ灯火ハ最早尽キントシタレハ驚キテ之ヲ捲ケ、五人ノ者ハ兼テ用意ノ油ヲツキ已ニ花婿ノ迎ヒニ出カケントスルニ、他ノ五人ノ者ハ油ノ用意ナキニヨリ灯器ヲ以テ迎ヒニ出難ク、智キ者ニ乞ヒケルニ爾ノ油ヲ我等ニ分チ与ヘト、智キ者

イナミ曰ケルニ、我等若爾ニ油ヲ分チ与ヘハ我等ニモ爾等ニモ行渡ラス、我等モ遂ニ花婿ヲ迎ヒニ出〔ル〕ヲ得サルベシ、何ソ速ニ油屋ニ行キ油ヲ求メサルヤ、如斯断ラレテ、此五人ノ娘ハ油屋ニ迄行キケル内、花婿ハ最早来リ、智キ五人ノ娘ハ之ヲ迎ヘ花嫁ノ家ニ入リケレハ、門ハ直ニ閉チラレタリ、カ、ル内彼ノ愚ナル五人ハ油屋ニ行タレトモ、油屋ハ半夜過キニハ見世ヲ開カス、油ヲモカヒ得ス、灯器ノ灯火ハ最早滅シ、暗夜ナカラモ我門ニ至リ、門ヲ扣カハ開カルベシト愚鈍ノ考ヲナシ、シブ、門前迄趨リ行キ門ヲ開キ賜ヘト告ケルニ、花婿ノ答エケルニ、爾ハ誰ソ、爾灯ヲ以〔テ〕我ヲ迎エシ者ト共ニアラサレハ我爾ヲ知ラスト、依テ門ハ再ヒ開カレサリシ

○註解

十人ノ娘ハ何ソ、此世ノ教会也

花婿ハ誰ソ、基督也 ○灯明ハ信仰 ○油ハ神ノ聖靈ノ賜 ○花婿ノ来ル事ノ遅速ハ、人間予〔メ〕知リ能ワス

○眠ニ就キシハ怠タルナリ ○油ノ用意アリシハ常ニ聖靈ノ賜ヲ失ワサルナリ ○油ノ用意ナキハ、聖靈ノ賜ハ打

絶ヘ灯火ヲ再ヒ点スル為ノ由ナキヲ云ナリ

○花婿ノ来リシハ、基督ノ再ヒ世ニ来リ、世ノ人ヲ區別審判スル也

○灯火ヲ持タサル者ハ、花婿ト共ニ花嫁ノ家ニ入ル事ヲ不得

○油ヲ買フ為ニ油屋ニ行キシニ、夜半後ニハ見世ヲ開キテ油ヲウラス、必ラス油ヲ買フベキ時アリ、乃神ノ恵ノ日ナリ

○門ヲ閉テ我爾ヲ知ラストハ、彼等仮令信徒ノ名ヲ負ヒシモ、一時ノ信仰、暫時ノ灯明ニシテ、主ノ来ルトモ已ニ滅スレハ、真ノ信仰ヲ抱ケル者ニアラス、真ノ光ヲ持ツ者〔ニ〕アラス

○前上ノ譬ヨリ我等<sup>〔カ〕</sup>ノ学フベキ二三ノケ条アリ、今之ヲ陳述セン

A 花婿ヲ迎エン為、我等宜シク銘々ノ用意ヲ為スベシ

B 花婿ヲ迎ルニ自己ノ要スヘキ油ハ他人ニ貸ス能ワス、又他人ヨリ貸ル能ワス

C 花婿ヲ迎ルニ必ラス機會アリ、之ヲ失ヘハ再ヒ得ベカラス

A 花婿ヲ迎エン為、我等宜シク銘々ノ用意ヲ為スヘシ

花婿ノ来テ迎ニ出ツル者共ハ如何ナル用意ヲ為セシヤ、東国ノ事ナレハ定テ克々身体ヲ清潔ニ洗ヒ、最上ノ美服ヲ着シ、人目ヲ輝ス程ノ金銀珠玉ノ飾ヲ粧シ、己レノ所有品ノ最モヨキ物ヲ着シ、加之銘々一ノ灯器ヲ以テシ、其ニ火ヲ点シテ、何時ニ花婿来ルモ差支ノナキ様ニ用意セシナラン

茲ニ注意スヘキハ灯火ノ事ナリ、扱灯火ハ信徒ノ銘々ノ輝カスヘキ光ニシテ、此光ナキトキハ我或ハ転倒シ、或ハ危險ニ蹈<sup>〔フミイ〕</sup>ルノ憂ナキ能ワス、危險ニヲチイレハ我等生命ヲ保全シ能ワサルベシ、故ニ此灯火ハ乃信徒信仰ノ灯光ニシテ、一〔タ〕ヒ之ヲ点スル上ハ之ヲ消滅スヘカラス、之ヲ消滅セハ道ヲ見出ス能ワス、随テ花婿ノ来ルヲ迎フル

能ワス、此灯光ナキ者ハ花婿ヲ迎ヘ得難キ事ナレハ、灯火ヲ用意スルハ此等ノ人々ニ於テ欠ヘカラサルノ要務ナリ、万一此要務ヲ欠ケハ必ラス結婚ノ席ヨリ謝絶サレ、遂ニ門外ノ暗所ニ置カレ、從來ノ用意ハ全ク水泡ト共消尽シ去ルノ憂アレハ、人々尽ク己ノ為スヘキ務、欠ヘカラサルノ要務ハ、如何ナル場合ニモ、如何ナル時機ニモ、親戚友人之ヲ嫌フモ、千万人之ヲ嘲ケルモ、一国挙テ之ヲ笑フモ、我等断然之ヲ為シ、之ヲ行ヒ、之ヲ仕遂ケ、毫モ危ハス、毫モ顧ミス、必ラス之ヲ履行スルニアル也

〔原本空白〕

B 花婿ヲ迎フルニ自己ノ要スヘキ油ハ他人ヨリ借能ワス、又他人ニ貸能ワス

我輩信徒ハ皆、此花婿ヲ迎ヒニ出テン為ニ用意シオル所ノ十人ノ娘ノ如キ者ナレハ、我等己ノ持ツ所ノ油ハ必ラス求ム場所アリ、買フヘキ油屋アレハ、必ラス此油屋ニユキ此油ヲ求メサルヘカラス、乃此油ハ聖盞ナレハ、必ラス聖盞ノ賜ナカルヘカラス、然ルニ此油ハ、一時之ヲ受ケ或ハ灯器ニ充ツルモ、我等必ラス灯火ヲ点セサルベカラス、灯火ヲ点スレハ油ヲ随テ減スレハ、不断油ノ賜ヲ需要セサルヲ不得、彼ノ愚ナル娘ハ唯灯器一杯アリタレハ充分ナルベシト思ヒ、或ハ己レノ衣裳金銀又ハ指輪ノ類等ニ注意シ、其レニ誇リ、我カ粧ハ他人ノ粧ヨリモ美ナ〔ル〕ヘシナドト無益ノ考ヲナシ、少シ将来乃チ其夜如何ナル困難ノ起来カハ夢ニタモ思ワス、花婿ヲ待テ未タ眠ニ就カサル内ハ、必ラス灯火モ明ニアリタルナルニ、ウタ、寝シテ已ニ更ニ深更ニ入りケレハ油ハ殆ト尽ント、灯ハ已ニ燼〔モ〕ヘ〔尽〕ントセシモ、何知ラヌ顔シテ居眠リシカ、深更ニ至リ俄ニ花婿ノ来レルト云声ヲ聞キ迎ニ出テントセシ〔ニ〕、如何セン油ハ殆ト尽キ、再灯火ヲ捲クレトモ之ヲ明カニ為ス由ナク、他ノ五人ヲ見レハ兼テ用意ノ油ヲ灯器ニツキ再ヒ灯火ヲ捲ケ、之ヲ明シテ花婿ノ迎ヒニ出カケントスル

〔明治十四年二月十三日・於京都第一公会 明治十六年五月二十日・於原市〕

9 信 仰

〔歌〕 三 五十九 四十三

〔朱〕  
十四年四月三日、第二公会

〔ヘブライ〕  
希伯来十一章一

信仰

① 信スヘカラス者ヲ信スルニアラス

② 通例常理外ノ称ニテ、信シ難キ所ヲ信ス

③ 信セネハナラヌ所ヲ信スル也

アブラムノ信仰

① カルデーノ<sup>〔ヤ〕</sup> ウアトノ地ヨリ家族ト共<sup>〔朱点〕</sup>、ヘテン<sup>〔ハラシ〕</sup>ニ移ル

〔朱註、以下同〕  
第一約 ① 父ノ死後 七十五年 ヘテンヲ去リテ神ノ示サントスルノ地ニ至ル、〔十二章一ヨリ三

第二約 ③ シケムニ至リ 神其地ヲ以其子孫ニ賜フトノ約アリ〔十二章七―

第三約 ④ ロット<sup>〔ロト〕</sup>ト別ル、ノ後、子孫ヲ賜フ事塵砂ノ如シ

⑤ ロットヲ再ヒ取戻ス、獲物ヲ自ラトラス

第四約 天ノ星ヲ見ヨ

十七章

第五約 アブラム

アブラハム

○割礼初マル 此トキ アブラハム 九十九年

賜子ノ約 サラハ 九十年

サライ

サラ

アブラムノ祈

⑧ソドム人 五十人 四十五人 四十人

三十人 二十人 十人

〔朱字墨附〕  
二十二

⑨イサクヲ捧ク

〔朱〕  
「モライヤ〔モリヤ〕ノ地 神現出ノ意」

〔朱字墨附〕  
二十三

⑩サラ死スルトキ マクベラノ地ヲ買ヒ、以テサラヲ葬ル

⑪百七十五年ニテビヤシバ〔ベエルツバ〕ニ死ス

○信仰ノ動キハ

○ 目以テ見ルニアラス、耳聞クニアラス

○ 望遠鏡ノ手ダテ克数万里外ノ物ヲ見ル

信仰ノ目ハ見ヘ難キヲ見ル〔心ノ清キ者ハ克神ヲ見ル〕

○ニコデモハ靈ノ物ヲ見「ル」能ハス、信ノ目ナキ也

○キリスト、天国ニ多住家アルノ語

〔明治十四年四月三日・於京都第二公会〕

10 「肉ニ播ケバ肉、靈ニ播ケバ靈」

岡山

〔朱〕馬太伝四章一ヨリ十一節

○カラタ「ガラテヤ」書ノ六章ノ八

〔歌〕二十九、四十八、五十七

肉ニマケハ肉ニヨリ罪死トラカル、靈ニマケハ靈ヨリ天国ノ幸ト命ヲカル

○人間ハ素ヨリ善罪是非ヲ區別シテ之ヲ撰取ルノ自由ヲ与ヘラレタレハ、此人間ニ試アル事ハ逃ヘカ「ラ」サル事ナリ、此試ハ自身ノ心中ヨリ出ツルカ又他ヨリ来ルカ、常ニ目前ニ二途アリ、此二途ノ内、二途ニ進ミ難ク必ラス一途ニ入レハ一途ノ支配ヲ受サルヲ不得、〔朱点、以下同〕肉ニマケハ肉、靈ニマケハ靈

我首祖アタムハ肉ニマキ其結果

第二アタム乃基督ハ靈ニマキ、靈ニカリトル、其結果ハ如何

○第一アタム肉ニマキ罪ヲ犯シテヨリ、天下後世皆肉ニマキ、肉ノ途ニ進ミ肉ノ支配ヲウケ、神之ヲ憐ミ之ヲ救フニ御工風モアリタルナレトモ、自由ヲ存シテ此罪人ヲ救フノ方法ハ他ナシ、又人間ヲシテ神ノ御国御意ヲキリストヲ以テ示シ、人間ヲシテ自由ニ之ヲ撰ハシム、人間ヲシテ自由ニ撰ハシムルニ必ラス好手本ナカルベカラス

〔朱九、以下同〕

○好手本 キリスト人間トナリ、人間ノ靈魂ヲ以来、人間ノ性質ヲ具有シ我ノ如ク試ミラレ、〔朱〕「ヘブライノ四ノ十五、罪ヲ犯サ、リシ事ヲ記ス」、遂ニツマツカスシテ最上ノ手本ヲ出シ、靈ニマキ靈ヨリ永命ヲカラン為自身ハ蘇生ノ首

トナレリ。「<sup>〔朱〕</sup>ゴリント前十五ノ二十」

○試験。受洗ノ後、乃救主即位ノ後、第一ノ手初

天父ノ命ヲ奉シテ罪魔<sup>〔惡〕</sup>ヲ征伐スル身ナレハ、サタンハ早クモ第一ニ之ヲクジカント計リタルナラン

○キリストノ野ニ趣カレシハ、天父ノ命ヲ奉シテ大事ヲナス為、乃靈ニマキ靈ヨリ命ヲカルノ仕事ニ付、断食、祈禱、

沈思ナキ能ワス

「<sup>〔補〕</sup>注意」キリストハ人間ノ初ヨリ未タ如斯基人アラスカトイヒ、徳ト云、智トイヒ、之ニ超越スル者モナキ人物ナレ

ハ、其沈思ノトキハ如何ナル想像ゾ」

「<sup>〔朱〕</sup>第一」四十日ノ後甚餓タルトキ、サタンハ其弱ミヲ付込ミ

○神ノ子ナラハ此石ヲパントセヨ

注意

サタンハ如何形デ来リ

如斯基リストノ心ニ思セシ

ナラン

サタンノ主意ハ、爾ハ神ノ子ニシテ力アル者、神ニヨラストモ克爾、自己ノ力テ此石ヲ、  
パントナシ得ヘシ、如斯基リストヲシテ自力ニタノミ、父ヨリ離散セシメント計  
ル

◎自己ニスルノ点

申命記八ノ三

「<sup>〔朱〕</sup>△人ハパンニヨリ生クルニアラス、神ノ詞ニヨリ生クベシト」

「<sup>〔朱〕</sup>第二」サタンハ、キリストハ定テ權威好ムナラント思ヒ、權威ヲ得ルノ点ヨリ来ル

天下万国ノ榮

◎權威ヲ求ムルノ点

神ノ意ニ背キ、靈ノ支配ヲ求メス、己ノ力ヲ以王国ヲ立シメントノ想像ヲ抱カシメ、神ヲ離散セシメントス、是皆

天下俊傑ノ奴僕トナリシ処

〔朱〕  
「△」サタン後ロニ退ケ

〔朱〕  
「第三」サタンハキリストヲシテ神ヲ試シメント思ヒ、〔朱〕  
「詩ノ九十一、十一、十二」聖書ヲヒキ、衆人ノ前ニ於、神

殿ヨリ身ヲ投シテ、速ニ己ノ名ヲ揚ント計ル、是亦神ヲ試ミ、神ヨリ離レシメントスルノ策

〔朱〕  
「△」神ヲ試ムヘカラスト

聖書ノ語ヲ以答フ  
〔朱〕  
「申命記六ノ十六」

◎名ヲ求ムルノ点

昔時アタム肉ニマキ〔シ〕ヨリ以来、其裔ハ仮令神ノ前ニ義ナルノアノ如キ  
〔朱線・以下同〕

神ニ篤信アルアブラハムノ如キ

神ノ意ニ叶ヘルダビデノ如キ

神ノ智ニ富タルソロモンノ如キ

〔多クハ第一ノ試ニタオレタリ

〔食慾、色慾ニ支配サレタリ

天下屈指ノ豪傑ト称セラル、

サイロス アレキサントル シーサル ナポレオン ジンシスカン 我豊太閤ノ如キ、皆尽〔ク〕第一、第二、

第三ノ試ノ奴僕トナリ

其有様ハ恰モ百川ノ下ルガ如シ、誰アリ挽回セシ者ハ、之ヲ挽回セル者ハ誰ゾ

〔朱〕  
十四年四月廿四日

○主基督一人ノミ「独兀立シテ属セス、遂ニ下流ニ付クノ百川ヲ挽回シ、自ラ試験ニ克チ、天下後世永ク万世ノ好模

範トナリ、人生ヲ救フノ道ノ基トナレル事」

〔朱孤〕

宜ナル哉 我ハ世ニ勝ツ矣ト云レシ事

暗雲終ニ陸ハ見エス

罪ノ海ニ溺レ、カジモナク櫓モナキ舟ノ大洋ニ漂流サル、ガ如シ

又天国ノ美ヲウカ、ヒ得ス

基督皆此死海罪洋ニ投シ、我ニ大陸アルヲ知ラシメ、大陸ニオヨキツク事ヲ教ヘ、舟ニハ棹又櫓ヲ与ヘ

自ラオヨキ

大陸ヲサシテ

自ラ棹、櫓ヲ取リテコキ

〔人間ノ為ン事ヲ教ヘラ〔レ〕タリ、罪ヲ消テ為サル事トナリタレトモ、初メハ克ク為シ能〔ザ〕ル事ヲ教ヘ

又聖靈ノ綱ヲ以我ヲ大陸、乃天国ニヒカントス

○我死ノ種ヲ得タル者、靈ノ種ヲ与テ命ヲ得セシム

〔我ニ随ハサル者ハ命ヲ失ヒ、我ニ随フ者ハ命ヲ得ルト

基督此種ヲ我等ニ与ヘリ

○今春風衣ヲ綴フノ時、万物榮ヲ争テ成生スルノトキ、今靈ノ種ヲマクノトキ、今肉ニマク、舶来ノ肉ニマク

靈ニマク 肉〔ニ〕マクノ憂アリ、〔朱〕今ノ信者ハ靈肉混合ノ憂アレハ克注意スベシ」

〔朱〕世ニ打勝テ靈ノ種ヲマキ度者也

〔朱〕「結尾」

二様

肉ニマクト 靈ニマク

我教友 誰ヲ撰フゾ

〔朱〕「人ノ種ニヨル勿レ 直ニキリストノ種ヲ受ヨ」

キリストニ直接シキリストヲ学フハ、恰モ鷲ヲ飼フモノ鷲見ニ好音ヲ得セシメントスルニ、最モ好キ音ヲ持タル鷲ノ側ニオキ其ノ好音ヲ学ハシム、矢張人ニシテ德義ヲ慕ヒ惡ヲ惡ムノ性アルモ、就テ学フ所ノ人ニ誤レハ恐クハ学フ人モ誤ルベシ、完全無欠ノ誤ナキ人々ニ付キ天国ノ好音ヲ学ヘ、神ノ御意ヲ学ヘ、キリストニ習ヒ、靈ノ種ヲ受テ天国ニ入ルノ用意アレ」

〔明治十四年四月二十四日・於岡山〕

## 11 義人之祈

〔表紙〕

「義人之祈

未完」

〔欄外末〕  
「明治十四年四月 第二教会ニ於テ」

〔本文〕

義人ノ祈 歌四十、廿八、六十三

○セームス「ヤコブ書」五ノ十六、義人ノ祈ハ力アル者也

時究節乃顯ト宋ノ文天祥カ正氣ノ歌ノ中ニ云レシ通り、兎角太平無事ノ日ニハ如何ナル人物アリト雖、平凡ノ人ト格別異ナル所モ見エス、又非常ノ仕事ヲモ不為、又人ニモ知ラレス名ヲ後世ニ遺サスシテ此世ヲ去ル者モ沢山アルヘケレトモ、何ソ国ニ事件アリ或ハ内乱、或外寇、国家危急存亡ノ秋ニ至レハ平素顯ワ「レ」サル力ヲ出テシ、又自ラ其場ニ所スルニヨリ非常ニ憤発シテ自ラ身ヲ差出シ、國ノ為、君ノ為、又他人ノ為ニ大事ヲ為ス人物モ往々輩出シ、正氣ノ歌中ニ見ユル通、実ニ芳名ヲ史上ニ存シ、永ク読者ヲシテ爽快ナラシメリ、乍去我日本支那ノ歴史中ニ往々忠節ニ死スル等ノ事ノミ人間間ニ多々アル事ナレハ、我等ノ歴史ニテハ時究節操ノ顯ワル、ノミテ、幾分カ人間ノ道德ヲ重シ忠義ニ汲々タルヲ見ニ至ルモ、悲哉日本支那ノ人物豪傑ハ唯々人倫ノミニ止リ、上之天父ト交ルヲ知ラス、天父

ノカヲ貸ル事ヲ知ラス、危急ノ際ニ臨テ頼ム所ハ自己ト人類ノミニテ、若シ自己□レ他人ノ助ヲ欠クトキハ望尽キ死ヲ以テ之ニ繼ノミ

其ニ反シ聖書中ニ掲ケタル猶太國人民ノ歴史ヲ見レハ、史上明々ニ上帝ヲ記載シ、人類ノ造物主宰タルヲ断言シ、且其民ハ他國ノ人民ト異ニテ、此無形ニシテ全智全能ヲ具有セル真神ヲ信シ之ニ委頼シ、危急ノトキニハ此ノ神ニ祈リ、此神ノ力ヲカリ、危険ヲ逃レ敵ノ手ヲ脱シ、克ク國家ノ安全ヲ得タル例モ歴々見ルヘク、且此人民特別ニ神ノ保護義願ヲ蒙リ〔シ〕モ、時トシテ其主宰ヲ忘却シテ異邦人ノ偶像ヲ拝シ、不品行ヲ究ムルトキハ神必ラ〔ズ〕譴責ヲ下シ、

異邦人ノ手ヲカリ之ヲ困シ之ヲ危急ノ場ニオキ、之ヲシテ再ヒ天父ノ鴻恩ヲ逐念セシメ、再ヒ天父ヲ拝シ、天父ニ使フルニ至リシ事モ明々ト記載シアリテ、全地球ハ暗迷未開ナルニ特ク〔ニ〕該人民ハ実ニ神ノ選民ニシテ、時究スレハ節乃顯ワルト申テ、危険ノアルトキモ該人民中又屈指ノ人物アリテ、厚キ信仰ヲ以神ニ仕テ、大事ニ臨モ更ニ驚カス、更ニ怖レス、偏ニ此ノ真神天父ニ頼ミ、遂ニ眷顧ヲ蒙リテ自己一身ヲ全セシノミ〔カ〕、克ク同胞ノ兄弟ヲモ庇保シテ數千年間滅亡ニ至ラ〔ザラ〕シメタリキ

扱猶太ノ歴史中上古ヨリ之ヲ概測スルモ中々暇ナク、今日ハ義人ノ祈ハ力アルト云題ニテ、予言者タニエルノ書中ニ記載セシ所ヲ以テ、義人ノ祈ハ力アル事ヲ証セントス

○基督降生前六百〇五年ノ時ニ当リ巴比倫王ネブカドナザル、ナル者来リテエルサレムヲ襲ヒ、王ト人民ヲ奪掠シ去

リ、其中ノ秀才士ヲ擢挙シテ王ノ前ニ侍シム

〔附外朱〕  
「六百〇五年前」

然ルニ王ノ前ニ三年間ノ修行ヲ為サネハナラヌ事ニテ、日々王ノ食物飲料ヲ以テ之ヲ養フ事ナリシカ、猶太ノ少年四

人タニエル及ヒ〔シャデラク〕〔メシャク〕〔アベデネゴ〕

ハ、王ノ偶像ニ捧ケシ後食物ヲ食スルヲ恥チ、寧〔ロ〕野菜ヲ食フ事

ヲ乞テ自ラ其身ヲ汚サ、リシ○神ハ此四人ノ少年ニ知識學術ヲ賜ワリ○特別ニタニエルニ与ヘ夢判斷ノ力ヲ以テセリ〔朱丸〕

ネブカドナザル王即位ノ第二年夜、奇怪ナル夢ヲ見タリシカ、之ヲ忘レ如何シテモ之ヲ逐念シ能ハサリシカハ、當時ノ博士ヲ招キテ曰、爾等朕ノ夢ヲ知セ、其夢ヲ判斷セサレハ爾ノ身体ハ寸々ニ裁断シ、爾ノ家ハ厠トナサン

○誰一人モ之ヲ告ケル能ワス

「〔上欄朱〕〔上欄〕祈」義人ノ祈テ夢ヲ解クノ力ヲ得タリ」

○タニエル、王ノ近衛隊長ノアリヨクニ就キ、時間ヲ与エナハ夢ヲ語ラン事ヲ通シ、同胞ノ兄弟三人ニ向ヒ、彼等此秘密ヲ明カサン事ヲ神ヲ祈ル〔二〕ヘシト申シテ、共ニ上帝ニ祈シナランニ、神ハ義人ノ祈ニ克ク耳ヲカタムケ賜ヒテ、タニエルニ秘密ヲ告、王ノ夢ノ何タルト、其意如何ヲ知ラシメタリ

### 夢ノ解

一金ノ頭　バビロニヤノ王朝

二銀ノ胸臂　ミード〔メデア〕ペルシヤノ王国

三銅ノ腹股　マケドニヤノ王国〔イジプト、シリヤ〕二分

四鍊ノ脛〔シ〕　〔半足ハ鍊、半足泥〕羅馬国、半分ハ強、半分ハ弱　二分不相合

五石　人手ノ掘ラサルノ石、此偶像ヲ撃テ之破碎ス、是レ乃上帝立ル所ノ王国万古不變者也

タニエル此夢ヲ話セシカバ、王タニエルノ前ニ拝臥シ、爾ノ神ハ諸神ノ神諸主ノ主ニシテ、秘密ヲ示ス者也〔朱点〕

茲ニ於テタニエルハ王ノ愛顧ヲ蒙リ、宰相ノ位ニ登用セラレ、又王ニ乞ヒテ此三人ノ者ヲシテ州ノ知事タラシメタリ

蓋シタニエルハ義〔人〕ノ祈ニヨリ神ノ力ヲ得、神ノ光榮ヲ異郷ノ國〔王〕ノ前ニ顯ハシ、之ヲシテ真神アルヲ知ラシメシハ義人ノ祈ニアラ〔ズ〕シテ何ソ

〔欄外〕  
「金像ヲドユラ〔ドラ〕ノ平原ニ立ツ」

○其後ベルシヤ國王、己ノ夢ミシ所ノ金像ヲ以テ己ノ神トナシ、遂ニ土羅ノ平原ニ於テ金像〔高六十尺、巾六尺〕ヲ

立、國民ヲ強ヒテ之ヲ拝セシメ、若敢セサル者アラハ烈火中ニ投スヘシトノ酷命ヲ下セリ、然ルニ猶太ノ少年シャトラク、ミシヤク、アベデネゴーノ三人ハ之ヲ拝セサリシカハ、王大ニ怒テ此三人ニ告ケテ曰ク、爾此金像ヲ拝セハ可ナリ、若シ拝セサレハ爾等ヲ烈火ノ中ニ投セン、爾等ヲ朕ノ掌中ヨリ脱シ得ルノ神ハ誰ソ、三人答曰ク、我等ノ神ハ我等ヲ克ク烈火中〔ヨリ〕出シ、爾ノ手ヨリ脱セシメン、若シ然ラサルモ我等決シテ爾ノ金像ヲ拝セス矣ト

〔欄外末〕  
「神ハ此時欠ヘカラサル所ノ者ヲ以此四人ニ与ヘタリ」

前上陳述セシ如ク、彼シャトラク、ミシヤク、アベデネゴー、タニエルハ、最初ヨリ自己ノ主義ヲ立テ偶像ニ捧ケシ酒食ヲ食ワス、此三人ノ如キハ烈火中ニ投セラレ、タニエルノ如キハ獅洞ニ入レラル、モ彼等ノ上帝ヲ拝テ不止、天父ヲ祈テ怠ラス、遂ニ主ノ愛顧ヲ蒙リ大能力ヲ得テ克ク此困難危險ヲ脱シ、異邦人民ヲシテ上帝獨一主宰ノ大能力ヲ知ラシメ、且同胞ノ兄弟猶太人民ヲ幽囚中ニ安全ニ保護シ、偶像ニ拝臥スル國王ヲシ〔テ〕詔ヲ下シテ、猶太人民ノ上帝ヲ瀆サ、ラシメ、且タニエルノ如キハネブユカドナザル、ベルシヤザル、ダライヨス、サイロス〔クロス〕ノ四王朝ニ歷仕シ、一点ノ玷モナク一蹟ノ過チモ為サス、自己ノ品行主義ヲ全シ、祈禱ニヨリ常ニ主ニ交接シ、天啓ノ智識ト默示ヲ蒙リ、又屢異象ヲ得テ天下後世ノ變革如何ヲ伺ヒ知リ、且切ニ猶太人民救ヲ得ン事ニ焦心シ、切ニ上帝ニ祈リ特別ノ默示ヲ受ケテ、九章ノ二十四節ニ七十周ノ予言ヲ存シ、生キテハ克同胞ノ兄弟ヲ保全シ、遂ニ本国ニ帰ルノ

喜ヒヲ得セシメ、死テモ猶不死ノ予言乃七十周<sup>〔欄外〕</sup>「七十周ハ四百九十年」ノ予言ヲ殘シテ、人民ヲシテ救主ノ降世ノ望

ヲ抱カシメ、自己モ亦望ヲ抱キ安然ト此世ヲ終ル事ヲ得シハ何等ノ事柄ソ

神只如斯キ人物ヲ此危急ノ際ニ降セシヤ、又此際ニ当リ信仰ト祈リニヨリ遂ニ神ノ愛顧ヲ蒙リ、神ノ大能力ヲ世ニ顯セシヤ、ソハ全ク兩方相合シテ如斯成就セシ事ト確信セサルヲ不得也、此等ノ履歴ニツキ推考セハ、猶太人種ノ此四ノ挙動ノ如キハ祈ニヨリ大事ヲ成就セシ者也、此ニヨリ拱手シテ祈ラハ事々物々成就スヘキヤ、神ハ祈〔リ〕サヘスレハ空手ノ者ヲ助クヘキヤ、決シテ不然、彼等ハ克祈テ仕事ヲ為セシ者也

○タニエルノ如キハ仮令王ノ夢ヲ解スルノ力ヲ蒙ルモ、一々之ヲ告ケサレハ神ノ光榮ヲ顯シ能ワサリシニ、彼克彼暴王ノ怒リニ触ル、モ恐レス、明白ニ夢ノ意ヲ告ケタリ

○彼三人ノ如キハ、仮令死ストモ王ノ偶像ヲ拝セスト断言セリ

○タニエルノ如キハ、西向ノ窓ヲ開キテ一日ニ三回上帝ヲ拝謝セリ

○祈リテ為スノ力ヲ得ヘキ也、苟我等ノ祈禱中神ノ義叶ワハ、必ラス成ラサルノ恐アラシヤ

◎方今我日本ノ如キハ欧米諸國ノ文明ノ風潮ニ動揺サレ、昔時バビロン、ペルシヤ王国ノ体裁ハ已ニ消滅シテ見エサルモ、七倍ノ烈火火焔、暴獅子ノ洞ノ如キハ自ニ別ニアルアリテ、其ノ害タル烈火ヨリモ獅子ヨリモ甚シク我国中ニ

蔓延シテ、焰々乎トモヘ、焰々乎トシテ叫ビ、我國胞ノ兄弟ヲ焼尽シ喰ヒ尽サントス

〔宋丸〕  
○即チ當時無神論ノ學風、浮薄淫亂ノ風俗、無神ノ民權、無神ノ自由、淫ワイノ新聞雜誌

我國中ニ蔓延シテ吾個人ヨリ我社会ヲ蚕食セントス、此烈火ヨリ、此暴獅子ヨリ我輩ヲ脱セシムル者ハ何ノ力ソ、諸君ノ克ク知ル所ナレハ、方今我輩ノ勤ハ第一ニ我輩ヲシテ真神ノ愛顧保護ヲ蒙ラシ、此等ノ危險ヲシテ我輩一切

カヲ逞マサラシメ、然ル後尙個人ヨリ初メ我全社会ニ及サハ烈火豈恐ルニ足ラン、暴獅子豈恐ルニ足ラン、我輩ヲシテ断然烈火ニ入り之ヲ踏消シ、暴獅子ト戦ヒ之ヲ縛シ、神ノ大能力ヲ世上ニ顯ワシ、昔時タニエルノ上帝タリシ我輩ノ天父ノ聖名救主基督ノ効ヲシテ益世ニ赫々乎ト輝カサシメ、彼ノ無神ノ学者、無神ノ暴民権論者、無神ノ新聞記者輩ヲシテ、我輩ノ上帝ニ無礼ヲ加ヘ之ヲ瀆カサ、ラシメハ、上帝豈我同胞ノ兄弟ヲ永ク惡魔ノ囚人トナシ置カン、不日我日本全国ノ人民ヲシテ幽暗裏ヨリ脱出シ、主ノ光明ニ就キ、真ノ自由ヲ得、真理ノ内ニ逍遙シ、靈魂ノ帰セサルヲ得サル新キエルサレムニ凱帰セム事、望スル所ニアラスヤ

〔明治十四年四月・於京都第二公会〕

## 12 「人ヲ漁スルノ主意」

明治十四年六月十九日 第一教会ニ於テ\*

〔朱〕

〔哥〕 四十八 五十四、十六

〔馬太四章十八、十九〕 〔ルカ五ノ一―十一〕

イエス、ガリラヤノ海上ヲ歩ミテ、ペテロト云シモン、其兄弟アンデレト二人ニテ海ニ網ウツヲ見タリ、彼等ハ漁者ナリ、之ニ曰ケルハ、我ニ順ヘ我爾等ヲ人ヲ〔スナドリ〕漁スル者ト為サン

〔朱九〕

○主基督ノ人ヲ導クヤ其ノ法ヲ得タリト云ヘキ也、主、人ヲ導キ其道ヲ奉セシムルヤ、先人ノ知ラサル所、見サル所ノ者ヲサシテ、夢ニモ思ワル所ヲ以テ説賜ワス、常々意ノ向フ所、眼前ニ見ルヲ以テス

〔朱点・以下同〕

彼ノ水ヲ汲ニ来リタルサマリヤノ婦人ニ説クニハ、活水ヲ与ヘシ事ヲ以テ、法律ニ通セル教法、師ノ来リテ問フトキニハ法律ニ如何記シアルト問ヒ、其ヲ以テ答ヘラレ、餓タル人民ニハ与フルニパンヲ以テシ、彼ノ豪漫天下ヲ吐マ〔吞〕ントスル精神ヲ以テルポ、ールニハ、アナニヤヲ以テ主ノ撰ヒシ器ナルヲ知ラシメ、又魚ヲトリ居ルシモン等ニハ先充分ニ魚ヲトラシメ、然ル後、吾ニ順ヘ吾爾等ヲシテ人ヲ漁スル者トセント

○今日ハマタ「イ」ノ四ノ十八、十九ヲ題トシ、人ヲ漁スルト云事ヲ主意トナシ、人ヲ漁スルノ用意法方、又欠ヘカラサル種々ノ事柄ヲ以テ御談仕ラン

人ヲ漁スルトハ何ゾ

シモン等ノ魚ヲ漁セシハ、魚ヲトリ、魚ヲ殺シ、魚ヲ売り己ノ生計トナシ居リ〔シ〕カ、キリストノ命ニヨリ一旦変シテ人ヲ漁スル者トナリシ以上ハ、大ニ前業ニ反シ、人ヲ生カス事ヲ望ミ、人ヲ死ノ力ヨリ脱シメ、生命ノ区域ニ入ラシメ、神ノ真民トナラシム事、是人ヲ漁スルノ主意ナリ

心無キ魚ヲ漁スルト違ヒ心有ル人ノミナラス、時トシテ己レニ勝レル人物ヲ生命ノ網ノ中ニ入レントスルハ決テ易々ノ事ニアラス、必ラス非常ノ用意、非常ノ勉強ナカルベカラス

第(一) 人ヲ漁スルノ用意

凡事ノ大小ヲ問ワス、一事業ヲ為シニハ必ラス用意ナカルベカラス、用意ナケレハ事必ラス成ラス、大工ノ棟梁トナランニハ少年ノ節ヨリ師匠ノ内ニ行キツカワレ、多年ノ労苦ヲ経テ漸ク一人前ノ大工棟梁トナルベシ

予曾テ漁村ニ遊ヒ漁師ノ有様如何ヲ見ルニ、男子六七年ニ至レハ、其父舟ニ乗セ海ニ出、舟ニノル事ヲ教ヘ、十二年ニ至レハ艫ヲオス事ヲ教ヘ、十七八年ニ至リ初テ一人前ノ漁者トナル、然トモ巧ナル漁者トナルニハ多年ノ労巧ナカルベカラス

如斯無心ノ魚ヲ漁スルスラ多年ノ用意アル事ナレハ、人ヲ漁スル者ノ用意ハ一朝一夕ニ成シ難ク、多年ノ苦辛夜以日ニ続キ兀々汲々黽勉不怠ルニアラサレハ決テ得ヘカラサル也

(A) 用意ヲナスニ先身体強壮ナルヲ要ス

若シ強壮ナラサレハ順テ不拔ノ精神モ屈シ、或ハ半途ニシテ夭死シ或ハ多病廢物トナリ、生涯碌々乎シテ消光スルニ至ルノ輩、別テ人ヲ漁スルヲ望メル生徒ノ内往々アル事ナレハ、用意中第一ニ身体ノ益強壮ニナラン事ヲ要ス

(B) 人ヲ漁スル者ハ、魚ヲ漁スルト異リ腕力ヲ要スルニ非ス、只強壯ナルヲ要シ、学術智識ヲ収メ、頗ル聖経、神学ヲサトリ、世間ノ情実ニモ通セサルヘカラス、人ヲ漁スル者ノ用意ハ重ニ此一点ニアリ、是衆人ノ望テ克ク遂ケサル者ナリ、書生ノ笈ヲ負、家郷ヲ出テ学塾ニ入り勉強スルヤ、容々易々ノ事業ニアラス、人ヲ漁スルニ至リ大困難ノ用意ナリ、生徒ニシテ其業ヲ成ス者少シ、若シ才アルトモ精神ナクハ遂クル能ワス、才アリ精神アルモ金力ナクハ容易ニ遂クル能ワス、或ハ時アリ金力アリ之ヲ助クルノ朋友アルモ、己ニ才ナクハ又遂クル能ハス、種々ノ困難防害途ニ当レハ、才アリ精神アリ金アルモ身体強壯ナラサレハ、成業スル者幾人ソ

「上欄」  
○学才 ○精神 ○金力 ○健康

今ヤ我日本モ昔日ノ日本ニ非ス、学術ノ駸々乎ト進ムハ我祖先ノ夢想タニモ想サル所、我輩不肖ナリトモ、苟天下ノ万民ニ向ヒ、人ヲ漁スル職分「ヲ」奉スト断言スル以上ハ、又幾分カ学術ト云、智識ト云、世人ニ劣ルヘカラス、今ヤ智識ヲ尊ミ道德ヲ輕ンスルノ世ナレハ、道德ヲ主張スルノ人必ラ「ズ」智識ニ富マサルベカラス、智識学術ヲ捨、当時ノ時勢ニ曉通セサレハ、世人我輩ノ説ヲ意トセサルベシ、我輩ノ学術ヲ研窮シ別シテ聖書ニ貫通スルハ、実「ニ」漁者ノ舟、網等ヲウツノ用意スルト同様ナレハ、実ニ緊要欠ヘカラサルノ事也

「上欄末」  
「学術、智識、聖書ニ通達セサルヘカラス

チーモア、トーマス、アーノルド等ノ大ニ世間ニ勢力アリシ所」

第(一) 人ヲ漁スルニ法方ナカルベカラス、此用意ナキハ、舟モナク網モナク魚ヲカルノ道具ナキカ如シ、人ヲ漁セント欲ストモ決テ得ヘカラス

「上欄」  
(A) 網ノ區別ト又其用法異ナリ」

漁師カ何ノ魚ヲトルニモ、何時デモ同シ。網、同シ鈎ヲ用カト云ヘハ決シテ不然、鯛ヲトルニハ鯛網アリ、鰯ヲトルニ鰯網アリ、ザコ白魚ヲトルニハ細密ノ網アリ、是魚ノ大小ニヨリ網ニモ亦大小ノ差異アルナリ、若シ鰯ヲトルニ鰯網ヲ用ヒハ、其目ヨリ出テ一匹モ網ニハ入ラサルベシ、故ニ鰯ヲトルニ鰯網ヲ用ヒサルベカラス、魚ノ大小ニ順之ヲトルノ道具各異ナルヘシ、人ヲ漁スルモ其理同一ナリ

〔上欄朱〕  
一人ヲ以テ法ヲトル

人類中鯨魚ノ如キアリ、鯛ノ如キアリ、鰯ノ如キアリ、雑子魚ノ如キ〔ア〕リ、鰻ノ如キアリ、之ヲ漁スルノ法方決シテ一ナラス、論理ヲ知ラサル人ニ高尚ノ論理ヲ以テセハ更ニ其人ノ心ニ入ラス、論理学者ニ平々凡々ノ事柄ヲ以セハ、無學ニシテ共ニ談スルニ足ラスト云、是ギリストノシモン等ヲ招クニ人ヲ漁スルノ語ヲ用ヒ賜エル也、又前上ノ用意法方アルモ之ヲ活用スルヲ知ラサルハ又無益ノ事ナラン、熟練ニテ活用セ〔ザ〕ルベカラス

(B) 用意法方ヲ活用スルヲ要ス

〔朱〕  
「若シ」用意アリ法方アリ智識アリトモ、之ヲ活用セサレハ〔朱〕  
「是等ハ」皆尽烏有トナルベシ、兵学ヲ学ハ乃軍法ヲ知ル也、兵ヲ用ユルハ之ヲ活用スル也

昔趙孝成王、秦ト戦ニ秦ノ反間ノ計ニタマサレ〔朱〕  
「秦独リ」馬服君、奢ノ子趙括ヲ用イシ事アリ、其トキ藺相如曰、王名ヲ以括ヲ用ユ、若膠柱鼓瑟耳、其母モ曰ク、括ハ不可用

秦ノ白起之ヲ射殺シ、其軍四十万ヲ長平ニ坑ニス

〔上欄朱〕  
〔彦頗將トナリテ、長平ニ軍シテ不戦千。金ヲ散シ、秦反間ノ謀ヲ用ユ〕  
〔朱〕  
〔廣〕

是法アリテ活用セサルノ弊害ナリ、用意法方活用アル尚未タ不足ナリ、活用スルト云、權謀術策ヲ用ユヘカラス、

堂々、齊々ノ軍ヲ以出陣スベシ、信ト愛ナリ

第(三)

人ヲ漁スルニ信。仰ト。愛ナカルヘカラス

〔上欄〕

ルーカ五ノ五(爾ノ言ニ從ヒテ網ヲ下サン)

〔朱〕

〔信〕

第一信ヲ要ス、神ノ為主ノ為ニ人ヲ漁スル者、其ノ主人ヲ信セサルベカ〔ラ〕ス、又此務ニ当リ自ラ信任スル厚カラサルヘカラス、半信半疑ニテ克ク事ヲ為ス者アラス、神ノ命ヲ信シ自ラ信シ、神ヨリ招レテ其職ニ当ルト深ク信スヘキナリ、如何ニ用意アリ如何ニ學術ニ達ストモ、此信仰此信任ナキトキハ人尚浮艸ノ如シ、決シテ止マル所ナカルヘシ

〔上欄〕

「キリスト蘇生ノ後、七人ノ者夜漁ス、魚ナシ、キリスト曰、網ヲ舟ノ右ニウタバ所獲アラン、遂ニ網ヲウツ」

人ヲ漁スルハ天ノ父ノ命、キリストノ命

人ヲ漁スルハ我ノ責任ナリト、深ク信シテ疑ワサルベシ

如斯信アル尚不足、信ニ生活ヲ付与スル愛ナカルベカ〔ラ〕ス

〔上欄朱〕

「愛」愛アリ、克人ノ心ヲ思ヒヤリ、楽シム者トハ共ニ楽ミ、悲シム者トハ共ニ悲ミ、愁フ者トハ共ニ愁ヘ、己レ

人ノ心ニアル如ク人ト共〔ニ〕セハ、木石ニアラス豈感動セサルノ愛アラランヤ

信アリ決シテ人ノ為ニ左右サレス、愛アリ克ク人ノ心ヲ感動セシム

「我主基督ノ救世ノ道ヲ成就セシモ他ナシ、〔天〕父ノ己ヲ遣セシヲ確信シテ不疑、又人ヲ愛シ人ヲ救ワンカ為甘シテ十字架ノ恥ト苦トヲ受ケタリ、我輩ニ於テ若此信アリ此愛アラハ、豈敢為ノ精神ナキヲ憂ヘンヤ、豈不憐ノ堪忍ナキヲ憂ヘンヤ、此精神ヤ大事ニ臨テ不恐也、此堪忍ヤ事ヲ取テ中止セサル也、古來君ノ恩義ニヨリ臣ノ克身ヲ差出

シ君ノ為ニ死スル者アリ、況ヤ我輩ニ於テハ天父ヨリ不可量ノ恩義蒙レル者ニ於テ「オ」ヤ、又一個ニシテ人ノ靈ハ全世界ヨリモ価アル人間ノ靈ヲ救フノ事件ニ関セルオヤ、我輩勇進セスシテ豈止ムベケンヤ

○漁者ノ魚ヲウルヤ、風ニ櫛リ雨ニ浴シ、風波ヲ犯シ怒濤ヲ不恐、魚ヲ得テ後止ムノ精神アレハ、我輩當時世間ヨリ受クル罵詈ハ何事ソ、我輩ニ迫害アルヤ実世ノ罵詈等ハ、少シトモ我輩ノ罵詈トナラサル也、去トモ人ヲ漁スルニ害ナキ能ワス、今我輩ノ途ニ当リ喋々人ヲシテ迷ハシムル者アラハ、我輩勤テ其妨害ヲ除キ、克ク人々ヲ此ノ道ノ何タルヲ知ラシメサルヲ不得

〔上欄朱〕  
「三浦ノ譬」

△三浦ノ岬ニハ。鮎ノ沢山オル所アリ、卑屈ノ漁者共屢舟ヲ転覆セラル、勇敢ノ漁子ハ切レ者ヲ以鮎ノ手ヲ切り取り屢其難ヲ逃ケリト、我輩右ノ如ク、我輩ノ舟迄モ覆サント計ル者アルヲ、聖靈ノ利刃ヲ以テ、身ヲ以テ之ニ当リ、之ヲ切リトラサルヲ不得、之ヲ除カサルヲ不得、是精神ヲ要スル所也

○人ヲ漁スル容易ノ事ニアラス、一日之ヲ温メテ十日之ヲ冷ヤスノ類アリ、漸ク信シカケテ迷ヒ出ツル者アリ、多年導クトモ種々ノ故障アリ、直ニ之ヲ受クル者ナシ、一年働キテ其功見ヘス、二年三年十年働キテ其功見ヘス、遂ニハ落胆スルノ憂ナキ能ワス

〔上欄朱〕  
「夢ニ石ヲ切ル」

○夢ニ石ヲ切ルノ談シ（之ヲ切レトモ切レス、老人出テ来ル、遂ニ之ヲ割レリ）（世ノ輕蔑スル所トナル、去トモ此任、此職、王国ノ命ヲ奉職セラル、宰相ノ位ヨリ尊シ、帝王ノ位ヨリモ貴クシテ吾人豈之ヲ替ベケンヤ）

〔朱〕  
「如斯人ヲ漁スル者ハ外ヨリ打ヨスル風波モアリ、又人ヲ導クニ種々ノ困難苦辛、夜モ寝ラレヌ程ノ心配モアルベ

「架字十」

シ、時トシテ社会ニ<sup>〔ママカ〕</sup>齡サレス、親戚朋友ヨリモ拒絶サレ、内外ニ敵ヲ受クルノ憂来ルベシ、去トモ我輩憂フルニ足ラス、意トスルニ足ラス、我輩ノ軍ハ勝軍也

我輩ノ大将ハ已ニ世ニ勝テルノキリスト也、我輩其轍ヲフミ已ニ克<sup>○</sup>窄<sup>○</sup>〔キ〕門ニ入り、十字架ヲ負ヒ、信ヲ以愛〔シ〕テ、己ヲ憎ム者ヲ愛シ之ヲ祝シ、終迄堪〔ヘ〕忍ハ、豈人ヲ漁シ得サルノ憂ナカラン、世ニ勝チエサルノ憂アラシ

キリスト七十人ノ弟子ヲ御遣シナサレシトキ、諸々村々ニ行福音ヲトキ、惡魔ニ付カレタル者ヲ出シ、諸敵ヲ制スル力ヲ得シヲ喜ヒシカハ、キリストハ是ノ事ヲ以喜トスル勿レ、爾等乃名ノ天ニ録〔サ〕レシヲ喜ヒトスベシト<sup>〔上欄朱〕</sup>  
人ヲ漁スル者ノ榮ハ此世ニアラス

兄弟ヨ、我輩ノ受ヘキ冠ハ腐敗スヘキ者ニアラス、無限天国ノ榮ニシテ光ノ冠、生命ノ冠ナリ

我輩ノ名カ天ニ録セラレ、冠カ設ケラレタリト思ハハ、我輩ニ他ニ着目スヘキ者アルゾ

多ノ人ヲ漁スレハ多ク休ミヲ要スベシ、天国ハ乃我輩ノ休ミ場ナリ

終ニ臨ミ兄弟ニ告ク、我輩今ヨリ我輩ノ名ヲ天ニ録〔サレ〕タリト思ヒ、之ヲ心頭ニ懸ケ置カハ、一言一行天国ノ人民ノ必ラ〔ズ〕為スヘキ事、言フヘキ事ヲ思考セサルヘカラス、如斯勤メ、如斯働キ、如斯終ニ至ル迄堪ヘ忍ハハ、我輩<sup>〔朱〕</sup>「天父ノ子ト称サレ、天父ノ純全ナルニ庶幾スヘキカ」<sup>〔カ〕</sup>

13 「真正ノ快樂」

〔欄外〕  
「十四年十一月廿七日」

〔歌〕  
〔朱〕  
「八。二十八。五十九」

路可ノ十八ノ十八ヨリ二十五ニ至ル、別ニ路可ノ十九ノ一ヨリ十二迄読ムベシ

世ノ人尽ク快樂ヲ求ム、此快樂ヲ為ス務ニ替ベシ

快樂ニ段等アリ、最上等ノ快樂アルアリ、最モ下等ノ快樂アリ

此少年ノ如キハ最上ノ快樂ヲ求テ下等ノ快樂、肉欲ノ為ニ其意ヲ果サス、遂ニ憂ヘテ去レリ。

世ニ如斯ク真正ノ価値アル物ヲ求テ之ヲ得ントスルモ、眼前ノ事物ノ為ニ遂ニ其ノ意ヲ呈セス、生涯悲哀通歎世ヲ送ル者多カルベシ、人世ニアリ一事業ヲ為サント欲セハ、乃自ラ手ヲオロシ之ヲ為スノ外、他「三」ナカルベシ、然ラサレハ決シテ之ヲ為ス能ワス

最上ノ快樂ヲマ、望ムモ、川向ヒニ見ルノ類ニシテ前ニ大河ノアルアリ、其水ヲ見レハ深シ、之ヲ渡ルニ橋ナシ、舟ナシ、渡ラサレハ得ル能ワス、身ヲ投テ洄ク〔ニ〕如カス

人此世ノ命ヲ重シテ、永世ノ命ヲ軽ス

衣食、富貴、名譽ノ三点

永世ノ命ト比較シテ其輕重如何ソ

此世ノ快樂ハ慣易〔ク〕シテ、直ニ快樂ヲ失ヒ其味ヲ失〔フ〕ベシ、此〔レ〕神ノ人間ニ真正ノ快樂アリテ之ヲ求メシ〔ム〕ルノ意ナルベシ、世界ヲ己ノ掌内ニ取ラントセシアレキサントル、シーサーモ、ジンギスカンモ、ナポレオン、豊太閤モ如何ナル快樂ヲ得タルソ、死ニ臨テ如何ナル感情ナリシゾ、神ハ人ヲシテ此世ニ望ヲ失ワシメ、他ノ最モ優レル世界ニ趣カシメントノ旨意ナルベケレハ、如斯モ此世ノ快樂ヲ望ム者ニハ、其快樂ノ久ク頼ムニ足ラサルヲ知ラシメ、人ヲシテ天国ヲ慕フノ情ヲ起サシムルノ策ナラン、然ラハ人ニシテ早クモ此理ヲ察シ、神ノ御意ヲ知り、天国ニ趣クヲオス事<sup>〔ママカ〕</sup>コソ上知ノ人ト云ベシ、然シテ此天国ニ至ラシ〔ム〕ルニ各々用意ヲ為ス事ヲ与ヘリ用意ハ終極ニアラス、終極ニ達スルノ用意ナリ

今世ノ人力種々ノ徳義。國ノ為ニスル、人ノ為ニスル、總テ終極ニ達スルノ用意ナリ、人誤〔テ〕此用意ヲ終極ト見做シ、之ニ着目シテ之ニ達スルヲ勤ムレハ、用意ノミノ点ニ達シテ終極ノ点ニハ達セサルベシ、兄弟モ世ノ快樂ヲ思ヒ見ルヘシ、世ノ所スルノ良法ハ用意ノ点ニ止マラス、終極ノ快樂ヲ得ン為ニ諸事ヲ為スベシ、此ニ至リ基督ナカルベカラス〔朱迦〕  
〔母ノ胎中ニアル者ヨリ、少兒少壯中年暮年ニ至ルモ、一日モ此ノ用意ヲ怠ルヘカラス

世ヲ経ルニ事業アリ、事業ヲ為スニ一日モ此用意ヲ忘ルヘカラス

生涯働テモ、終ヒニハ憂ヒ去ルノ憂ヒアルベシ

基督ニ随フ事ハ、平常無事ノ日ニハ何ノ格別ノ入用ニモ見ヘサレトモ、何ノ異変ノアルトキ、一身上カ朋友ノ交際カ、社会ノモツレカ、互ノ契約上ニ関スルカ、世ニアリテ先導者トナルカ、大事件ヲ預ルカ、大切ニ望ムカ、大困難ニ出逢フカ、風波ノ中ニ動揺サルカ、大病ニカ、リ国家大紛擾ノ起レルトキ、政府暴逆ヲ加フルトキ、命ノ正ニ絶ントスルカ、キリストノアルアリ、必ラス力ヲ与ヘ我輩ヲシテ此世ニ打勝シメン

キリストニ随ヒ、得ル所ノミアリ、損スル所ナ<sup>ニ</sup>カアル

世人ハ誤テ、基督ニ随テ皆貧乏ニナリ、更ニ世ヲ益スル事ヲ出来ス世ノ捨テ物トナルト、大ナル誤ナリ

キリストニ随フ者ハ皆、無欲、無氣力、乞丐者ノ如キ者カ、古来キリストニ随テ終リヲ全フセシ者ノ生涯ヲ見ヨ、其麗シキ事恰<sup>モ</sup>旭日ニ香ケル山桜ノ如キ者ナリ、其レニ反シ古来キリストニ抵抗スルノ徒ヲ見賜ヘ、真正ノ望ト快樂ヲ味テ死セシ者何人ソ、トムペーンノ最後ヲ見ヨ、ヲルタヤ<sup>ヴォルテール</sup>ノ最後ヲ見、未練千万人之ヲ笑ワハサルナシ何人カ彼等ノ生涯ヲ賛称シナスゾ

兄弟ヨ、基督ニ随フ事ハ人々大切ノ事ナレハ、少壮ノトキ品格ヲ作為スルニ欠ヘカラサルノ事ナレハ、克々注意セラレヨヤ、今君等少壮ヲ見ハ皆愛國者ト仮定スベシ

愛國ノ精神ト基督ノ愛ト、何ノ齟齬スル所アルヤ

愛國ノ心ヲ抱カハ先基督ノ愛ト力トヲ愛<sup>ス</sup>ヘシ、然ラハ一層國ヲ愛シ得ナルベシ

基督ニ随フハ難シ、衣食富貴名譽ニ支ラル

親ニ使ヘ、又ハ國ニ尽スニ差支アリト、基督尚克之ヲ為シ能ワシム、之樂ンテ差支アルヤ

人之全ク終極ノ樂ヲ求メサルノ人ナラン、憂ヲ去ナル徒ナラン

○終ニ忠告、基督ヲ求テ見ヘサレハ<sup>宋教</sup>彼ザアカイ<sup>ヲ</sup>学ヘ

路可十九、一一十

〔明治十四年十一月二十七日・於京都第二公会〕

## 14 改新の説

〔補外〕  
「改新の説 十五年一月廿九日 第二教会」

コリント後書五ノ拾七 〔歌〕8、59、57

○此故ニ人キリストニアルトキハ新タニ造ラレタル者也、旧キハ去リテ皆新タラシクナル也

〔朱〕  
「使徒行第九章」

今日ハ予ポールノ言葉ヲ引き、人間ノ新ニ生レ替ル事ハ、人間ニ於テ甚有益ノモノナリト云フ事ニ付テ御談シ事ヲ致シタク存ます

○昔ニコデモト〔云〕人カキリストニ就キ質問サレタトキ、キリストノ御答ニハ、人若シ新ニ生レサレハ神ノ国ヲ見ル能ワスト被仰マシタ通、此新ニ生レ替ル事ハニコデモノ想像セシ如ク、一〔タ〕ヒ此世ニ生タル人カ再ヒ母ノ胎内ニ入り、又生レ来ルノ類ニアラス、神ノ勸、聖靈〔ノ〕勸化力ニヨリ心ノ性根カ全ク一変シテ、素ト惡ヲ好ミ罪ヲ愛シ慕々去リ能ワサル心力、一旦好ミシ罪ヲ去テ、兼テ厭嫌フタル正キ道ヲ求ムルニ至ルヲ云ナリ、故ニポールハキリストニ於テ新ラシキ者ナリト被云マス、此モ他ニ非ラス心ノ全ク改選改新シタルヲ云也

扱此改選スル事ニ付先日一度解剖シテ、ゴルドン教師カ解カレマシ〔タ〕カラ予ハ別ニ贅言セス、乍去ナニシロ此改選ハ一自身一己ノミニテナラス、神ノミニテ成ラス、神人一致シ初メテ功ヲ奏シ得ルモノナリ、且改選ノ仕方カ一定シタル者ニアラス、人々ニヨリ大ニ相違シ、或ハ人ハ讚美歌ヲキ、心ヲ改メ、或ハ一度ノ説教ヲキ、タチマチ心カ改選シ、或ハ聖書中ノ一節ニ動カサレ、或ハ朋友ノ一言、或ハ父母ノ祈り、或ハ大變事ニ際シ俄ニ心ノ改マル者アリ、

或ハ少年ヨリ漸々ト来リ、少シモ著シキ改選ノ見ヘサル人モアリ、七八十年ノ内求メテ得ラレス、漸ク死前ニ至テ初  
 「テ」主ノ栄光ヲ見ル者アリノ類ニシテ、何ノ「<sup>〔米〕</sup>点所」ヨリ、又何ノ方法ヨリ人ノ心カ改選シ得ルカ、吾人実ニ知り得  
 サル所、去レトモ心ノ改選シタル人ハ銘々心ニ記シ、何ニカ吾カ心ヲ最モ動シタリト改選ノ後ニ及フ人々ノ云フ所ナ  
 リ、人ノ心ノ改選ニ及、決シテ一定ノ方法ナシト雖、其ノ改選タルヤ高下ノ度アリ、皆一樣ニ賢人君子ト見做シ難シ  
 ト雖、何ニシロ一人ニ取り論スレハ、從來ノ方向ヲ変、旧来ノ習慣ヲ脱却シ、新ニ造ラレタル者トナリ、聖書中ヨリ  
 其適例ヲ取レハポールニ如ク者ナシ、古人ノ改選ノ適例々々ヲ引キ少シ御談申マス

「<sup>〔上欄〕</sup>改選人ノ適例」

彼ノ有名ナルポールハ、素ハ如何ナル人物デアリマシ「タ」カ、兄弟ハ已ニ使徒行伝并同人ノ書翰ヲ讀ミ御存モアル  
 通、彼ハ素トタルサス「タルソ」ノ産、熱心ノパリサイ、ヘブライ人中ノ真ヘブライ人、且基督教ニ関シ彼ノ為シタ  
 ル仕業ハ又使徒行伝ニ明瞭ナリ

七章ノ六十節

九章ノ一、二、三

二十六章ノ四ヨリ十一

「<sup>〔上欄〕</sup>別シテ此七章ノ六十節ナトハ、ソールガステーション「ステパノ」ヲ殺セシ人共ノ衣裳ノ番人トナリ、其ノ殺サル、

ヲ宜トシテ喜ビオレリ、且祭司ノ長ノ許可ヲ得テ人々ヲ執ヘ、エルサレムニ引キ来ラン為ダマスコニ来レルノ其殺氣、  
 其精神、殆ト我維新前攘夷家ノ精神ノ如シ、己ノ意ノ如クセサレハ不止「ヘ」シト思ヒ、エルサレムニ於テ足ラス、  
 数十里外ノダマスコニ迄趣カレシハ、予初メテ聖書ヲ讀シトキ、コハ如何ナル大事大害ヲモ出来スベキ者ゾト戰慄セ  
 シ程ナリキ、然ルニ神ハ人力ノ外ニ世ノ氣運ヲ變動シ、其ノ御國ヲ来ラス事ヲ為シ賜フテ、此殺氣ヲ含ミ、其鋭鋒當

ベカラサルノポールノ未タダマスコニ至サルニ先タチ、俄カノ變動ヲナシ、其信徒ヲ執ヘ之ニ迫害ヲ加ヘントセシ人モ、遂ニハ主基督ノ名ニヨリ洗礼ヲ受ケ、直ニ其名ノ為ニ伝道ヲ初メ、其身ノ危急ナルニヨリ遂ニ□シテダマスコノ城外ニ逃出テ、殆ト三年間アラビヤニ己レノ心術ヲ練磨シ、聖書ヲ研窮シ、其後ニ至リアンテオケニ於ケル教会ヨリ伝道師トシテ送ラレ、先ツサイプロス〔クプロ〕島ヨリパンフリヤノベルガ、リストラ、デルベ等ニ趣キ、已ニリストラニ於テ猶太人ノ勸メニヨリ土人モ共ポールヲ半死半生ニ至ラシメタリ

〔上欄朱〕

〔朱点・以下同〕

「第二」又第二ノ伝道旅行中マセトニヤ人ノ夢中ニ顕レ来リ、我輩ヲ助ケヨトノ言葉ニ感シ、遂ニ欧羅巴ニ渡行シ

フヒレプ〔ピリビ〕ト云フ大ナル都府ニ至リ、一〔タ〕ヒ牢中ニ投セラレ其テサロニカ、ベリヤ等ヲ経テグリシヤノ

都会ナルアテンス〔アテネ〕ニ至リ、彼ノ最名高キ説教ヲナシ、グリシヤ人ノ不知シテ求メ、神ニ使ヘテ神ノ漏遺アラン事ヲ恐レ、一ノ祭壇ヲ築オケルヲ見テ、彼等ノ知ラサル所ノ神ヲ説キ聞カセ、其ヨリコリントニ趣キ天幕ヲ以テ自己糊口ノ業〔ト〕シ、安息日毎ニ会堂ニ入り、其地ニアル猶太人ニモコリント人ニモ耶蘇ハ乃チ救主ナルヲ論及セリ

〔上欄朱〕

「第三」又第三ノ伝道旅行——三回目ニエルサレムニ趣カントセシトキ、預言者アカボス〔アガボ〕ノ止メシモ敢テ用

ヒス、遂ニエルサレムニ至リ、執〔ラ〕レテカイサリヤニ至リ、其レヨリ羅馬ニ漸ク囚人トナリ、再自由ヲ得テグリ

シヤ、小亜細〔亜〕ニ来、言伝ニヨレハ〔イ〕スパニヤニ至ラレシ由、此伝道中ノ苦辛言語ノ言ヒ尽シ難キ程ナリ、

己レノ裏ニアルキリストノ精神彼ヲ如斯働カシメ、遂ニ羅馬乃此時代ノ大都会ノ中ニ、主基督ノ名ノ為ニ死刑ニ所

〔セ〕ラレ、善戦ヲ為シ終リ不朽ノ冠ヲ主ヨリ頂戴スルニ至リシ其生涯ハ、実ニ歴史中除去シ難キ事件ニシテ、今日我

輩モ此人ニ付学フヲ得ルハ、決シテ空ヲ打ツノ如キ虚談暴説ニ非ラス

〔上欄〕

〔上欄朱〕

「B」「オウゴステイン」基督降世後第四期ニ於テ、北アフリカニオウゴステインと称スル者アリ、少年ノトキカ

ルサジ〔カルタゴ〕ニ行キ脩学セシニ不品行ニ流レ、遂ニ一生涯ヲモ無益ノ人トナランノ恐れアリシニ、幸〔ヒ〕少年  
ノトキヨリ信者ノ母ニ養育セラレ〔シ〕ニヨリ、生全ク亡滅ニハ至ラス、其後論理学ニ長シイタリヤノミラン府ニ遷  
リ、尚モ行状ヲ改メサリシニ、三十一年ノトキ少シク昔時ノ罪ヲ心ニ悔ム所アリ、一日無花果ノ樹ニヨリ前非ヲ逐懷  
シ居リシニ、其近傍ヨリ子供ノ声アリ、繰返シツ、取テ読メ取テ読メト云レシヲ聞、直ニ家ニ入り聖書ノ巻ヲ取リシ  
ニ、豈計ラン羅馬ノ十三章ナリ

〔上欄末〕  
「ロマ書十三章」

〔更〕

夜已ニ深ケテ日近ケリ、故ニ我等暗キノ業ヲ去テ光明ノ甲ヲキルベシ、行ヲ正フシテ白昼歩ム如クスベシ、貪食醉酒  
又奸淫好色又争闘嫉妬ニ歩ム事勿レ、唯爾等主耶穌ヲ衣ヨ、肉体ノ慾ヲ行ワンガ為ニ其ノ備ヲ為ス事勿レ  
此ヲ讀ミ終リ曰ク、是ニテ足レリ、他ヲ讀ムヲ要セス

此トキヨリ此人物ニ神ノ栄光顯レ、心ノ幽暗ヲ脱却シ品行ヲ正シテ、久ク基督ノ標準トナリ、此ノ記サレタルコンフ  
エスシヨン、神ノ都府ト題セル書ノ如キ今尚人之眷々服膺シテ止マサル所、英ノウィキリフ、独ノローサ〔ルター〕ノ  
如キハ好最此書ヲ読レタル由

〔上欄〕

「C」

マルチン・ローサ〔ルター〕ノ改選ノ如キモ、実ニ歴史上ニ大關係ノアル事タル明々白ナリ、若此人ニシテ改新ナカリ  
セハ、一ノ大学ノ教員位ニテ一生涯ヲ送リタルナランニ、彼一日マシスフェクト〔マシスフェルト〕、エルフォルトノ  
間ニテ、同行ノ友アレクシスナル者雷ノ為ニ打殺サレタルニ感シ、遂ニ己ノ心ノ方向ヲ替ヘ、神学ニ従事セン事ヲ求  
メ、遂ニ宗教大革命ノ巨魁トモナリシハ、全ク氏ノ改新ヨリ出来シ外、他ノ原因ナカ〔リ〕シナリ

〔上欄〕  
〔D〕 「ウィルバフオース」 \*

民権ノ貴重ヲ主張シ世ニ名高キ英ノウィルバフオースノ如キモ、素ト外スベリノ才子ニシテ、決シテ世ニ大關係ヲ為スノ人物ニハアラサリシモ、一旦朋友ノス、メニヨリグリ「I」キノ新約聖書ヲ研窮シ、遂ニ信者トナリ、又通例ノ信者ニテ世ヲ送ラス、数万ノ黒奴ニ自主ノ權利ヲ与ヘテ自由ノ身トナセシハ、誰人アツテ同氏ノ改新ノ依テ然ラシメシト云サル者ナカラシ

其他ノ英人ニシテ社会ニ大關係ヲ起セシジョン・ハオールド、ジョン・ホストル、トーマス・アーノルド、トーマス・チーモア等ノ人物ハ、皆キリストノ真理ニヨリ自由ニナリ改選セラレタル者ナリ

其他如斯適例ヲ挙ケハ枚挙ニ暇アラス、是ヨリ願クハ

〔上欄〕  
「第一」 基督ニヨリ改選スル事ハ、一己人ニ取リ利益アルヲ論セン

一 惡ヲ去リ善ニ選リ我世ノ為ニノミ望ヲ為セシ人モ、神ニ任セ天国ニ趣クヲ求ムルニ至ル

二 神ヲ求メ基督ノ真理ヲ求メルニヨリ、幾分カ其真理ニ随サルヲ不得、此レ人ノ公道正義ニ叶フヲ得、人間ノ本位ヲ回復スルヲ得、〔上欄〕  
「謙遜スルヲ得」

三 キリストノ愛、心中ニ働ラキ、愛ヲ充タシメ、且清カラシム

四 波濤ノ世ノ中ニアルト雖、心ハ常ニ安キ事泰山ノ如ク、世ニ恐れ、者ナキニ至ル

五 死ハ世人ノ恐れ所、改新ノ人ニハ死ハ却テ生ニ入ルノ門トナル

六 改新ノ人ハ不朽ノ榮冠ヲ得ン、是終極ノ目的ナリ

如斯一人ノ改新改良ハ遂ニ社会ノ改良ニ及フベシ

〔上欄〕  
〔第二〕一己人ニ如斯利益アラハ、必ラス社会ノ利益トナラン

改新ノ人ノ社会ノ為ニ計ルハ当然ノ事ナリ

○ポールノグリシヤ〔ガラテヤ〕ニモ異邦人ニモ負ヘル所アリ

兄弟

茅々ノ土、積為千仞ノ山、涓々ノ水、萃為万頃〔斛〕ノ波

○京都新聞福沢、法師ノ事ヲ読メ

世間テ基督教ハイカヌト云ハ何ノ故ソ

〔朱丸・以下同〕

○基督教ハ人ヲ愚ニスル

○基督教ハ本邦ヲ忘レ外国ヒイキスル

○基督教ハ国害ヲ為ス者タ、如何トナレハ民権ヲ論シ皇室ヲ輕ス（改新ノ人起、国安ヲ求ムル者ナシ、民権ヲ重ス

ルハ国家ノ基礎ヲ立ツルナリ

○基督教ハ面倒タ、酒モ色ヲ捨テネバナラヌ（情慾ニ制セラル、人ハ情慾ノ奴隸

○基督教ハ何ンタカ分ラナイ、真理ハ引力ノ如シ、求メサルノ心ニシテ明々白々ニ了解シ能ハス

〔上欄〕  
「キリストヲ奉セ〔ズ〕シテ今世ノ先導者ト云ワル、人ヲ見ヨ

彼ノ拳動ハ恰モ浮草ノ如シ、決シテ頼ムニ足ラス」

○終リニ臨ミ、諸君ノ未タ心ニキリストヲ奉セサル人々ニ向ヒ勸ム

吟味セヨ、求メヨ、得ヨ、然ラサレハ爾ノ心改選セス

基督教主義ノミヲ取ルト雖、主義ノミハ本ノ仮花ノ類ノ如シ、外力ノ為ニ掠奪セラ〔ル〕ノ恐レアリ、基督ノ主義ハ心ノ中ニナカルベカラス、第一ニ□心カ改新セネハナラヌ者ナリ

人間モ七年目ニ新ラシクナルノ説アリ、我人モ願クハ一年メニ於新ラシ〔ク〕ナリ、キリストカ彼山上ニ様貌ノ一時ニ変セシ如ク、トレンスパールレント〔ママ〕ニナリ、此世ニアル内ニ改選ノ働ガ盛ニ、遂ニ靈魂世界ニ選タキモノ

ナリ

〔上欄〕  
「諸君ニシテ此真理ニヨリ心ノ改良ヲ得〔ズ〕シテ事ニ臨マル、恐クハ前門ノ狼ヲ防、後門ニ虎ノ類ナルヤト思ル、ナリ」

〔明治十五年一月二十九日・於京都第二公会〕

# 15 ヤコブの一生

〔番外〕  
「ヤコブの一生」

歌ハ(三)、廿八、廿九」

〔エジプト〕 出埃 及 記 第十九章四節 十五年六月廿五日 第二公会

〔朱点、以下同〕 我所行於埃及民者爾亦目擊譬話大鷹負雛於翼。使爾衆歸我。<sup>○\*</sup>

〔上欄朱〕 「人仮令己レノ弱キヨリ罪ニ蹈【陥】イルモ、神ニヨレハ神ハ之ヲ捨賜ハサル事」

此ハ「モーセ」ガイスラエル人民ヲ引キ連レ埃及ノ地ヲ脱シ、シナイ山ニ於テ神ヨリモーセニ告ケ賜ヒシ言葉ニシテ、神力如何ニ此人民ヲ愛顧シテ之ヲ誘導シ、決テ忘レス決テ怠ラ「ザ」ル事ハ此ノ御言葉ニヨリ徴スルニ足レリ、蓋シ話ヲ大鷹ノ雛ヲ翼ニ負フノ意ハ、鷹力己ノ雛ヲシテ空中ニ飛バシメントスルトキニ、雛ノ翼尚弱クシテ飛翔ニ堪ヘサルノ憂アレハ、母力子ヲ其翼ノ上ニ負ヒ之ヲ連レ翔ルノ意ナルベキモ、或ル人ノ説ニヨレハ、鷹力己ノ子ノ翼ノ弱キヲ知リナカラ之ヲ落トシ空中ニ飛シメ、其飛翔ニ堪ヘサルヲ知ルトキハ、直ニ飛来テ之ヲ握ミ之ヲ翼上ニ負ヒ、又之ヲ試ミ、又之ヲ試ミ、屢シテ遂ニ克翔ルニ至ラシムト、予曾テ此事ヲ心ニ銘シテ忘レス、聖書ヲ讀ム毎ニ神ノイスラエル人民ハ勿論向來ノ信者ニ為シ賜フ所ハ、恰モ大鷹ノ雛ヲ負フノ類ニシテ、広ク之ヲ取レハイスラエル人民ニ當リ、狹又近ク吾人ニ取り之ヲ見レハ、イスラエルノ名ノ依テ生セシ「ヤコブ」ノ一生涯ニ照シ之ヲ考レハ、何ニイカ神力「ヤコブ」ヲ導キ、顧ミ、遂ニイスラエル人民ノ祖先ト為シ賜ヒシヤヲ推究セハ、実ニ神ニ於テ如斯神ノ民ト

ナリ神ノ道ヲ世界ニ弘布スル人民ノ祖先トナラシムルニ、決シテ容々易々ノ修行ニシテ足ラサル事ヲ了知シ、ヤコブ一身上ノ苦辛艱難等ハ人爲ニヨリ生スト雖、神ハ又見ルヘカ「ラ」サルノ手ヲ以テ之ヲ誘導シ、屢々困難ニ陥ラシメ、屢々辛苦ヲ嘗シメ、神ヲ思ヒ神ニ依ルノ念慮ヲ切ナラシメ、然ル后之ヲ救ヒ揚ケ、其ノ信ヲ増シ其心ヲ洗ヒ、又自己ヲシテ反覆丁寧ニ思慮セシメ、遂ニ神前ニ供スル所ノ器トナラシムルハ、神ノ人間ニ對シ爲シ賜所ノ最上ノ良法ト認メサルヲ得サレハ、予モ之ヨリヤコブノ生涯記ヲ以兄姉ニ談シ引証トセン

扱ヤコブノ生涯ニ付、種々ノ段落ヲキリ御談シ申ス目的ナレトモ、先ヤコブノ生涯ヲ概略御談申セネハナラヌ事ト思ヒ、其要點ヲツマミ御談シ申シ、然ル后予ノ所見ヲ陳述セン

猶此ヤコブナル者ハイサクノ子、「イサウ(エサウ)」ノ弟ニシテ、其生スルトキ兄ノ足ヲ握リテ生レシヲ以テヤコブト稱セラレタルナリ、之ヲ解ケハ足ヲ取リテ斃スト云意ナリ

是ハ弥ヤコブノ己レノ兄ニ代リ嗣子ノ權ヲ得ルノ預言トナリ、長スルニ及ヒ兄ハ一杯ノ豆羹ノ爲弟ニ嗣子ノ權ヲ売リ渡シ、弟ハ又偽リニ依テ母ト共父イサクヲ誤ラシメ、嗣子ノ祝禱ヲ得、遂ニ嗣子トナルヲ得タリ、然ルニ兄甚之ヲ快トセス、何カ機ヲ得タレハ此遺恨ヲハラサント思ヒ居リシニ、母「リベカ」ハ早クモ之ヲ知り、「ヤコブ」ヲシテ家ヲ脱シ母ノ家郷ナルメソポタミヤニ奔ラシム。其道中石ニ枕セシトキ夢ニ神之顯ワレ賜ヒ。彼他郷ニ趣クモ神必之ヲ守リ、之ニ可南ノ地ヲ与ル事ト其子孫ヲ惠ミ賜フ事ヲ約シ賜ヘリ、其ヨリハランノ地ニ趣キレーバン(ラバン)ノ娘二人ヲ娶リ妻トナシ、此二女ノ爲ニ十四年ノ勤勞ヲナシ、加之ニ又六七年ヲ以テシ「レーバン」ノ所置甚其當ヲ得サルヲ以テ彼ヲ棄テ、妻子、奴隸、家畜等ヲ携テ可南ニ帰ラントスル途中、神ノ保護ヲ蒙リレーバンノ怒リモトケ、又

「イサウ」ノ難ヲモサケ、家郷ニ歸リ父ニ對面スル事ヲ得タリ、乍去己ノ一家内ニ種々ノ困難ヲ生シ、己レノ最モ愛

スル「ヨセフ」ハ其ノ兄弟ノ手ヨリ一商人ニ売ラレ、又天下ノ大キキンニアヒ可南地方ニ及ヒシカバ、己ノ十一子  
 ライジプトニ遣シ穀物ヲカワシメンニ、一人ハ質ニトラレ少弟ノベニヤミンヲ招キ来レト埃及ノ宰相ヨリ命セラレシ  
 ヲ以テ、十人ノ兄弟ハベニヤミンヲ迎ヘニ来リ「シ」カハ、ヤコブ己ノ愛子ヲ泣々モ離シテ遣ハシ該地ニ至ラシメシ  
 ニ、「ヨセフ」トモ遂ニ彼等ノ兄弟ナルヲ明カシ、車ヲ送り其老父ナルヤコブヲ迎ヘニ遣シタリキ、其トキヤコブ  
 ハ初メ夢ノ如ク思ヒテ信セサリシモ、美麗ナル車ヲ見テ漸ク之ヲ信シ、遂ニ埃及ニ趣キ尚十有七年ノ間彼地ニ存命シ、  
 向來猶太ノ支族中安ヲ賜フ者ノ来ラン事迄ヲ預言シ、遙ニ義ノ太陽ノ他日東天ニ昇ラン事ヲ予知シテ眠ニ就キタリ  
 如斯大略ヤコブノ生涯ヲ御談申シタレハ、此ヨリハ彼ノ生涯種々ノ困難禍福浮沈交来リ、遂ニ十二支族ノ父タルノ  
 面目ヲ得テ、後世モ幸ナル者ナリト称セラル、ノ理由ニ論及致タシ

〔上欄朱邊〕

「第一」先（第一ノ困難ハ何ヨリ生セシゾト推究スルニ、母ト共ニ父ヲ偽リ、嗣子ノ權ヲ兄ヨリ奪取リシニヨリ、兄

〔朱邊〕

〔朱邊〕

ハ之ヲ怒リ之ヲ害セント企テシヲ以テ、不得止家ヲビーヤシバ〔ベエルシバ〕ヲ脱奔シテメソポタミヤノ地ニ逃レシナ  
 リ、此時ヤコブハ未タ他所ニ出テシ事モナク、常ニ愛母ノ目下ト碌々トシテ生長シ、何ニ一ツノ不自由モナク、又何  
 ノ困難ニモ逢ハサリシニ、カ、ル場合ニ立至リ獨立特行、僅カノ衣類ト杖一条ヲ携ヘテ、慕々離レ難キノ母ニ別レ、  
 遅々去ル能ワサルノ家ヲ去リ、三百里外ノ遠方ニ趣カントスル其心意ハ如何ソヤ（我輩書生カ父母ノ地ヲ脱奔シテ  
 業若不成死不歸ト云様ナ活潑ナル思想ヲ以テ向フ見ス、向キ知ラス、運ヲ天ニマカセ、生ラハ生ヨ、死ナバ死ヨト  
 云フ覚悟ヲ持チシヤ否ヤト尋ネ見ルニ、決シテ然ラサリシナラン）、彼ハ兄ノ怒ヲ恐レ難ヲ逃レン為ニ家ヲ出テタ  
 レハ、全ク止ムヲ得サルニ出タルナル可ク、且偽リテ以テ嗣子ノ權ヲ奪ヒ取リタレハ、心中自カラ快カラサル所モ  
 アリ、途中如何ナル困難ニ逢フモ計リ難キト心ヲナヤマシ、苦辛艱難交来リ初メテ人命ノ果敢ナキヲ曉リ、道ニ違

ハ其罪ノ逃ルヘカサルヲ察シ、遅々旅行スル折柄日ハ已ニ西山ニ没シ、行ヘキ途ハ尚遠ク、足勞レタルニ宿ヲ投スルノ家モナク、アタリヲ見レハ何ニモナク、唯枕ニ代フヘキ石ノ地上ニ横ワルヲ見ルノミナリキ、依テ之ヲ枕トナシ眠ラントスレハ心中尚安カラサル所アリ、再ヒ家ニ戻ラントスルモ兄ノ怒ヲ恐レ、又是ヨリ先ハ見ズ知ラスノ他郷ナレハ如何スベキト思案スルトキ、彼ハ定テ父母ヨリ伝ヘ聞キシ所ノ祖父アブラハムノ神、又父ナルイサクノ神ノ約束ヲ思ヒ起シ、カ、ル不運ニ逢フ上ハ彼ノ約ヲナシテ易ヘサル所ノ神ニ乞ヒ、其深助ヲ仰クニ若クハナシト考ヘ出シ、幾度カ先非ヲ後悔シ、又必ラス神ニ祈リナカラ、勞レシアマリ遂ニ眠ニ就キシナラン

然ルニ神ニハ、之ヲ信シ之ニ頼ムモノアラハ決テ之ヲ捨賜ワサル事ハ明ナルモ、困難ニ蹈ラサル者ヲ敢テ助ケズ、克人ヲシテ幾何カ困難ニ蹈ラシメ、幾分カ苦辛ヲ嘗シメ、幾分カ神ヲ思フノ念ヲ生セシメ、然リ而自ラ手ヲオロシテ之ヲ救ヒ、之ヲ慰メ、之ヲシテ神ノ慈愛ヲ感セシメ、遂ニ神ニ順フノ民タラシムル事ハ、此ヤコップノ生涯ニ於テ著ク見ルニ足ルナリ

先ニ記セシ如ク「ヤコップ」ハ石ヲ枕トナシテ眠シカハ、夢ニ梯アリ、地ヨリ天ニ接シ神ノ使者其ノ上ニ昇降シ、神ハ其ノ上ニ顕レ、其寝タル所ノ地ヲ賜ル事ト其苗裔ヲ恵ミ、又其ノ往ク所必ラ「ズ」之ヲ保護スル事ヲ約シ、且約セル所ノ事ハ神必ラス踐ムベシト告ケ賜ヒタリ、然ルヤコップハ夢醒テ神ノ顕ハレ賜ヒシヲ知り、其ノ枕トシタル石ヲ以テ柱トナシ、沃膺ヲ其上ニ注ソキ、此地ヲ名ケテ伯特利<sup>〔ベテル〕</sup>（即上帝ノ殿ノ意）ト称シ、必ラ「ズ」上帝ニ使フル事ヲ誓ヒ、大ニ力ヲ得テ又旅路ノ空ニ向ヒ発足セリ

〔上欄〕  
「是困難ニオチイリシ后、神ノ保護ト慰トヲ受ケシ第一、段落ナリ」

〔上欄〕  
〔第二〕「ハーランニ至ル」擬數日ヲ経テ彼ノハーランノ地ニ趣キ、遂ニレーバンノ家ニ寄寓シ其二女ヲ娶リ、二女

ノ為ニ勞力スル十四年、又シカノミナラス牧畜ノ為六七年使役ヲ与ヘラレ苦辛一方ナラサルモ、神ハヤコップニ為セシ約ヲ忘レ賜ワズ、家族ヲ増シ家畜ヲ繁殖シ苦辛中ノ心ヲ慰メタリ、然ルニレーバンノ衆子ハヤコップノ富裕ヲ嫉ミ、レーバンモ随テ之ヲ惡ミ、遂ニヨカラヌ顔ヲ以テヤコップニ接スルニ至レリ、ヤコップハ屢レーバンニ偽ラレ、身ノ自由トナル期ハ何時ナルベシト心ヲ疾メ、レーバント離レ家郷ニ帰ラントスレハ、家郷ニハ兄イサウノ赫怒ニ触ル、ノ恐レアリ、又数多ノ眷族ト家畜等ヲ引連レ去ラントスレバ、レーバンハ決シテ許サス、又密ニ脱奔スルモレーバンハ必ラス逐カケテ之ヲ引戻スベシト、千思万慮ヲ以テ数日ヲ送りシナラン

子窮シテ慈母ヲ思フト、宜ナル哉言ヤ、ヤコップモ今ハ策尽キ、神ノ保助ヲ請ヒ神ニ禱リシナルベシ、茲ニ於テ神彼ニ顯レ、兄ノ家ニ帰レト命シ、我必ラス爾ヲ助ケント約シ賜ヒケレハ、ヤコップモ大ニ力ヲ得、遂ニ意ヲ脱走ニ

決シ、己ノ二妻ニ告ルニ実ヲ以テシ、勿卒ノ間ニ用意ヲ齊ヘ、家族家畜須テ引キ連レ密ニハーランノ地ヲ去リ、ユフレートノ大河ヲ渡リギレヤドニ〔ギレアデ〕山ヲサシテ往シカハ、三日ヲヘテレーバンハ之ヲ聞キ、直ニ跡ヲ逐カ

ケ、遂ニギリヤド山上ニ於テ逐付タリ、〔困難〕此時ヤコップノ心中ハ如何ソヤ、レーバン一人ニテ来ルニアラス、多クノ眷族ヲ引卒シ必ラス腕力ヲ以テ己レヲハ〔一〕ランノ地ニ挽回スヘシト恐レシナルニ、約ニ背カサルノ神ハ

夢ニレーバンニ顯レ告ケ曰、爾与雅各勿以惡言相加爾其慎之、其翌日ニ至リテハレーバンモ前日ヤコップノ跡ヲ逐テ来リシ所ノ勢ハ大ニクジケ、靜ニ談判ニ及ヒ、又何人カ偶像ヲ窃シ事ヲセメシニ、ヤコップモ大井ニ不足ヲ言立

テ、遂ニ相方和解シテ互ニ相侵サ〔ザ〕ル事ヲ約シ相別レタリ、如斯神ノ助ヲ蒙リ、此困難モ無恙逃レ〔シ〕ハ、ヤコップ困難ニ陥イリ又神ノ救助ヲ受ケシ第二段落ナリ

〔上欄朱〕  
「第三」

●如斯幸ニレーバンノ困難ヲ脱シ先ツ一トイキヲツキ、一タヒ冷セシ胆モ亦少シク温度ヲ回復セシモ、是ヨ

リ將ニ来ラントスル所ノ困難ハ今ノ困難ノ類ノルイニアラス、今ノ困難ノ如キハ正。ハ我ニアリ非。ハ彼ニアリタレハ、面談ノ上幾分力不足モ陳へ、レーバンヲシテ少シク恐ヲ抱カシメシモ、今ヨリ逢ハントスルノ兄ノイサウニ対シテハ、己レ姦計邪智ヲ以テ母ト共老父ヲ詭キ、兄ヨリ嗣子ノ権ヲ奪ヒ取りタレハ、兄ヨリ赫怒ヲ受クベキト〔キ〕ハ、仮令一杯ノ豆羹ヲ以テ其権ヲ買ヒシト言訳モ為スヘキモ、心中決テ安キ所ハナカルベク、マジメニ其権ト祝福ヲ得タルニ非ラス、故ヲ以テ故土ニ近寄ラハ兄ハ必ラス軍勢ヲ引連レ之ニ接セン事ヲ恐レヲリオリシトキ、〔上欄失〕天軍ヤコップニ頭レ、神ノ彼ヲ守ラント云事ヲ証セシカハ幾分力ヲ得、此地ヲ二重ノ天軍ト称シタリ

〔上欄〕  
「辛苦中天使ヲ見テ慰ヲ受」

扱段々イサウノ近ヨリシカハ、先人ヲ遣シテイサウノ様子ヲ探索セシメタレハ、其者報テ申ス様、イサウハ四百人ヲ引卒シテ將ニ爾ニ逢ントスト、此報ヲ得テヤコップハ大ニ戦慄シ、己レ家族家畜ヲシテ尽ク滅亡ニ属セシムルニ忍ヒス、遂ニ二分シ、イサウ一分ヲ打タハ一分ハ脱スヘント思ヒシモ、又人智ヲ以テ逃ヘカラサルヲ知り、帰ルニ枕ヲ安スベキ地ナク進ムニ大敵ノ恐アリ、進退維レ谷マリ遂ニベテルノ神ヲ思ヒ出シ、心底ヨリ湧キ出ルカ如ク懇切ノ祈ヲ捧ケ神ノ助ケヲ乞ヒ、又自身ニハ神ノ恵ヲ受ヘキ価無キヲ了知シ、神ノ助ケヲ受ケ嚙昔此状ヲ携、此ヨルダン河ヲ渡シモ、今ハ如斯我家族ヲモ二分シタリ、大敵前ニアリ嗚呼如何スベキ、我父アブラハム及ヒイサクノ神ヨ我ヲ助ケテ兄イサウノ手ヨリ脱セシメヨト祈リ、〔上欄〕「再考」又工風ヲ回ラシテ、数百頭ノ家畜ヲ以テ予メイサウニ贈リ其怒ヲ解カント計リ、此夜ヤボック營中ニ留マリ夜未央ナラサルトキ、己ノ二妻ト十一子ヲ携テ其河ヲ渡ラシメ、独其營中ニ留マリ沈思黙祈セシナランニ、忽チ耆ノ力士頭出シ之ト角力シテ天明ニ至リシカハ、其人遂ニヤコップニ勝チ難キ事ヲ知り、其ノ腰ノツカヒ骨ヲ打チ之ヲ傷ケ、又我ヲシテ去ラシ〔メ〕ヨト云レシニ、ヤコップ

ハ其體ノ傷ヲ蒙リ角力スルニ堪ヘサルモ、其ノ腕力尚ヲ用ユルニ堪ヘ、強ク之ヲ握リテ去ラシメス、必ラス先ツ我ヲ祝シ賜ヘト云ヘリ、其人問テ曰ク爾ノ名ハ何ソ、答テ曰ヤコブナリト、其人ノ曰ク爾戰テ神ト人トニ勝テリ、○爾今爾後以色列ト稱セラルベシ、<sup>〔補〕</sup>「解ケハ乃、志ヲ神ニ得タル王侯、又神ト共ナル王ト云意ナリ」、茲ニ於テ雅各<sup>〔ヤコブ〕</sup>其ノ人ノ名ヲ問ヒシカハ答ヘス、遂ニ之ヲ祝シテ去リタリキ

扱雅各ハ其ノ人ノ常人ニ非ラス乃チ神ナルヲ知り、遂ニ此地ヲ名テベニエル<sup>〔ベヌエル〕</sup>ト稱ス、解ケハ乃神ノ顔ナリ、我ハ神ノ顔ヲ拝スルヲ得テ尚死セスト云リ、ソコテ雅各、跛者トナリ足ヲ引キツリヤボック河ヲ渡リシトキ、太陽ハ赫々乎トシ東山ニ輝キ昇リ、神ノ恵ミ如斯モアルベシト雅各ノ心ヲ慰メシナランニ、雅各目ヲ揚ケアタリヲ見回セハ、彼勇猛ナルイサウ四百人ヲ引卒シテ遠クヨリ来ヲ見タリ、依テ己レノ妻子ヲ其タニ用意セシメ、自身ハ家族ニ先チイサウノ尚充分ニ近寄ラ<sup>〔ザ〕</sup>ル内、身ヲ地ニ臥シ七回ニ至リシカハ、「イサウ」モ走テ之ニ接シ、頸ヲ擁シ接吻シ互ニ涕泣シタリ、茲ニ於テ雅各ハ己ノ妻子ヲモイサウニ対面セシメ、雅各ハ如斯モイサウノ心ヨリ己ヲ容レシヲ喜ヒ、前ニ遣セシ所ノ家畜ハ神ノ弟ニ恵ム所ニシテ、弟ノ敬テ兄ニ贈ル所ナレハ幸ニ納レ賜ヘト述タレハ、兄イサウハ困リ、之ヲ辞<sup>〔シ〕</sup>タリシ、然ルニ雅各ハ、強テ之ヲ納ル、事ヲ望ミタレハ、イサウハ遂ニ之ヲ受ケ、互ニ又兄弟ノ好ヲ回復シ、自ラ雅各ヲ先導シテ往カン事ヲ求メタレハ、雅各ハ家畜ト子供ノ速ニ歩ミ得サルヲ以テ之ヲ辞シ、イサウヲシテ先シーヤ<sup>〔モ〕</sup>「セイル」ニ帰ラシメタリ、此ノトキハ雅各ニ取リテ困難中ノ最困難ナリシモ、神ノ保護ヲ蒙リ一滴ノ血ヲ注カスシテ困難ヲ逃レシハ、此レ雅各困難ニ蹈リ、又神ノ救助ヲ受ケシ第三段落ナリ

「第四」<sup>〔上欄末〕</sup>◎是ヨリ雅各ハ眷族ヲ引キ連レサツコス<sup>〔スコテ〕</sup>ヲ經「シーケム<sup>〔シケム〕</sup>」ノ邑ナルシヤレムニ至リ、又最初ニ神ノ約ヲ蒙リ<sup>〔シ〕</sup>所ナルベテルニ往キ、家族中ノ偶像等ヲ尽ク打捨テ、神ニ祭壇ヲ築キテ神ノ恩寵ヲ謝シタレ

〔カナン〕

ハ、神ハ再ヒ其苗裔ヲ繁殖セシメ、<sup>〔カナン〕</sup> 呵南ヲ与ヘン事ヲ約シ賜ヘリ、其後南方ニ向ヒ旅行シベツラハム〔ベツレヘム〕近傍ニ来リ、妻ナルラケルハ末子ベニヤミンヲ産シテ死タレハ、其悲歎ハ云ハン方モナカリシナラン、其ヨリ父イサクノ家ナルヘブロンニ達シ父ト共ニ住ミタレハ、己ノ家族中不品行ヲナス者アリ、又人殺ヲ為セシモノアリ、種々ノ困難起リ、暮年ニ趣キ唯々苦勞ヲ増事計〔リ〕生シ、己ノ最モ愛スルヨゼフハ兄弟ノ為ニ遠方ニ売ラレ、其残酷ナル兄弟ハ父ヲ詭キ、ヨゼフハ猛獸ノ食ム所トナリシト告ケ、父ヲシテ一層ノ痛苦ヲ嘗シメ、又父ナルイサクモ百八十年ノ齡ニ達テ此世ヲ去リ、又数十年ヲ経サル内ニ呵南地方ニ大饑飢アリ、更ニ食スヘキモノナキニヨリ、食物ヲ得シ為ニ己レノ子十人ヲ埃及ニ遣シタレハ、彼国ノ宰相ハ之ヲ問者ナリト云ヒ、之ヲ囚テ獄ヘ下シ止ムル二十日、シミオン〔シメオン〕ヲ質トナシ、其ノ末弟ベニヤミンヲ連レ来ルベシト命シテ九人ノ兄弟ヲ呵南ニ返セシ、末弟ヲ連来レ、来ラサレハ彼等ハ乃間者ニシテ決シテ許スヘキニアラス、必ラス末弟ヲ連レ来レト命シタリ、故ヲ以此九人ノ兄弟ハシミオン老人ヲ殘シテ父ノ許ニ行キ、告ルニ実ヲ以テ、是非トモ末弟ヲ連レ行ント為セシカハ雅各ハ聞キ入レス、ベニヤミンハ決テ埃及ニ遣ラサルベシト言ヒテ敢セサリシモ、百方手ヲ尽シテ之ニ勸メラル、ニヨリ遂ニ雅各モ拒ミ得ス、之ヲ許シテ埃及ニ趣シメ、哀慟痛歎ヲ以テ我白髮ヲシテ墓下ニ至ラシムルト云レタリ

如斯己ノ最モ愛セシヨゼフハ己ニ猛獸ノ為ニ食ワレ、又末子ノベニヤミンヲモ如斯埃及ニ連レ行カレ、是ヨリ先ハ如何ナルベキヤ、幸ニレバンノ難ヲ逃レ、イサウノ怒ヲ避ケシモ、呵南ノ地ニ歸リシ以来二十有ヨ年ハ、愛スル妻ニ死ナレ子供ノ中ニハ多クノ不品行アリ、統テ最愛スルヨゼフハ見ヘス、又老父ニモ逝カレ、加之ニベニヤミンモ

〔ヤマ〕

亦他国ニ連レ行レカレナバ暮年ノ樂ハ何事ゾ、唯苦ノミ之レアリ悲ミノミ之レ積モリ、子孫ハ増加スルモ神ノ祖父アブラハム、父イサク、又自身ニモ約シ賜シ其約ハ如何ナルベシト少シク疑念モ起シタルベキモ、<sup>〔捕〕</sup> 十一子埃及ニ至

リシ後、ヨセフハ彼等ノ兄弟ナル事ヲ明カシ、十一子ヲ戻トシ態々車ヲ遣シテ父ヲ迎ヒニ往カシメタレハ、雅各ハヨセフノ存命ヲ信セス、夢ノ如ク思ヒシモ其車ヲ見テ初テ「ヨセフ」ヨリ来シ事ヲ信シ、遂ニヘブロンヲ去リ埃及ニ往カントシテ、途ニビヤシバ〔ベエルシバ〕ニ立寄りシトキ神、又夢ニ顯レテ曰ク、我ハ爾ノ神又爾祖父ノ神、爾埃及ニ往クヲ恐ル、勿レ、我爾ト共ニシ必ラ〔ズ〕爾ヲシテ再ヒ故土ニ返ラシメン、ヨセフ爾ノ手ヲ以テ爾ノ目ノ上ニ置クベシト、此レニヨリ雅各ハ大ニ慰ヲ受ケ、七十人ノ家族ヲ引連レテ埃及ニ至リ、ヨセフノ紹介ニヨリハロー王ニ見ヘ、又ゴシヨン〔ゴセン〕ノ地ヲ賜リ、十有七年ノ齡ヲノバシ、疾病ナ〔リ〕シトキヨセフモ来リ看病ヲナシ床ノ側ニ侍リシトキ、雅各ハヨセフニ向ヒ、死後必ラス死体ヲ祖先ノ墓地ニ埋葬スヘ〔シ〕ト命シタレハ、ヨセフハ其命ノマ、ニ為スヘシト答ヘタレハ、必ス其ヲ誓ヘシト言ヒヨセフモ遂ニ誓タレハ、雅各ハ神ノ無量ノ恩寵ヲ心ニ覺ヘ、感情ノ余リ「床ニ臥シテ神ニ感謝ノ禱ヲ為シ、又統テ十二子トヨセフノ子二人ヲ集メ、銘々ニ最後ノ祝福ヲ与ヘシトキ、最モ驚クベキハ其子猶太ニ与ヘシ祝福中ノ預言ナリ、其略ニ曰、猶太族中必ラス王權ヲ握リ王政ヲ執ルノ人アリ、安ヲ賜フ者ノ来ルヲ待ベシ、且万民必ラス之ニ帰セン、如斯雅各ハ猶太族中ヨリ後世救主ノ起ルヲ預言シ、後世義ノ太陽ノ昇ラン事ヲ前知シ、安心シテ此世ヲ去リシ

此生涯ハ幾分カ人間間ニ神ノ御手顯レ出テ、沈マントセシ者ヲ救ヒ出シ、已ニ落チントセシヲ引キ揚ケ、屢困難ニ陥チイリシヲ屢々助ケ、幾回力進退難究セシモ之ヲ救ヒ、事ニ触レ感情ヲ起サシメ、物々ニ当リ信仰ヲ堅セシ〔メ〕、弥究スレハ弥神ニ頼ルノ念慮ヲ生セシメ、ハランノ地ヲ去リ約束ノ地ニ至リシ後モ、二十有年ノ星霜ヲ憂慮ト苦辛トヲ以過コセシニ、非常ノ楽ト望トヲ以テ十有七年ノ月日ヲ送ラシメ、彼ノ一生涯ハ決シテ人為ニヨルニアラス、祖父アブラハムノ神、父イサクノ神ナルエホバ之ヲ撰ミ、之ヲ導キ、又之ニ向來救主ノ来ラン事迄告ケ知ラセ、

望山ノ頂上ニ達セシメ、喜テ瞑セシメシハ、此雅各苦辛ニ陥リ又神ノ救助ヲ受ケシ第四段落ナリ

〔上欄〕

「the top of the Mountain」

〔上欄〕

△太陽ノ照ル所ハ明ニ、光ノ達セサル所ハ暗黒ナリ、乍去山ノ影モ大ナル所ニハ光モ亦大ナリ」

◎前上ノ如ク雅各ノ一生涯ヲ熟読シ反復丁寧ニ思考セハ、其ノ生涯ハ恰モ望遠鏡ヲ以弦月ヲ見ルカ如シ、唯々人爲ト其ノ罪惡トニヨリ生ズル所ノ事柄ハ多ク辛苦ナリ〔リ〕困難ナリ、種々ノ不都合ナリ心配ナリ、挙テ数ルニ足ラサルモ、又一方ニ目ヲソ、キ神ノ爲ニ関スル所如何ヲ探ラハ、喜ト望ト染トヲ以充滿シ、辛苦困難等ノ谷間ノ暗黒ニ比セハ、喜ト染等ハ山ノ頂上ニ輝ク太陽ノ光線ノ如シ、辛苦困難ニ陥ル事深シテ、神ニ頼ミ□切神ヲ信スル厚カラシメハ、神ノ救助恩寵モ亦随テ大ナルベシ

如何ニ心ナキモ如斯雅各ノ一生涯ヲ読ハ、神ノ御手ノ顯ワシ事ハ感セサルベシ、〔ハナ〕乍去或ル人ハ之ヲアザケリ、人作

ナリ人作中ノ戲作ナリ不可信ト論スルモノモアリ、然シ克ク注意シ賜ヘ、今日ノ文明ノ進ミ尚克ク如斯戲作書ヲ作り得ルアルヤ、□三四年ノ太古ニ如キ生涯アリ、又之ヲ簡短ニ記載シタルニ如斯明々白々神ノ御手ヲ顯シ得ルハ、唯ニ人作人爲ト云テ我輩信シ得ヘキゾ○人敬テ神ノアブラハムニ与ヘ〔シ〕約束ト、又約束中其ノ後裔ノ他國ニ往キ苦楚ニ逢ヒ、國王ノ圧政ヲ受ル四百年ナルベシトアルガ如ク、此預言ハ弥雅各ヨリ初マリ、モーセノ時ニ至リ四百年ノ応スルヲ致ラセリ、其後呵南ニ歸リシニ、又神ヲ忘レタレハバビロンニ囚人トナリ、辛楚万端又悔ヒテ本邦ニ歸ルヲ得、遂ニ猶太族中ヨリ救主ノ出生セシハ預言ノ応セシト云スシテ何ソ、雅各耄人ヨリ後世ノ苗裔ノ歴史ヲ見テモ、暗黒ト光明ノ交々顯ハレ、罪ヨリ暗黒ニ陥リ悔テ神ノ眷顧ヲ蒙リ、又光明ニ出ルヲ得ルハ人神ヲ撰テ神ノ民トナリシニアラス、神人ヲ撰ミテ其選民トナシ、恰モ大鷹ノ雛ヲ翼ニ負〔フ〕カ如ク彼等ヲ導キ賜ヒシ事柄

ハ、永ク後世ニ遺シ、我輩ヲシテ亦神ニ反セハ如何、神ニ帰セ〔バ〕如何ヲ示シ、広〔ク〕門戸ヲ開キ世界ノ万民ヲ招キ、恩寵福祉ヲ与ント為シ賜フ良法ナルベシト信シテ予ハ疑ハサルナリ  
〔上欄〕  
「最後ノ忠告」

一人ノ困難ハ多ク人為ヨリ生ス、乍去神ハ此困難ヨリ、之ヲ神ニ帰セシ人ヲシテ困難世界ヲ脱シ、天国ノ榮ヲ受シムルニ二ノ法アルヘシト信ス

(一)ハ人為ニヨリ困難ニイルモ久ク困難ニアラシメ、人ヲシテ神ヲ思フ念ヲシテ切ナラシム

(二)神ハ人ノ堪ヘ得サル程ノ困難ニ陥ラサル内ニ、早クモ手ヲ出テ之ヲ助ク

(ビットル) (スウィート) \* ト称スル樹木アリ、我輩ノ生涯ハ苦辛ナキヲ得ス、七転八起モ人為ニアラス、神ノ人間ニ対スル恵ミノ法也

然ル后真ノ樂ヲ付与ス

栗ヲ知ラス痴人エガ<sup>〔イ〕</sup>ヲ見テ捨、堅キカワヲ見テ捨、シブヲ見テ捨テ、遂ニ実ノ味ヲ知り得ス

予ハ不熟ノ画工ノ如シ、今日神ノ人間ヲ画キ賜ヒ〔シ〕画ヲ見マネシ、諸兄弟ノ画キ、此カ即チ神ノ人間〔ニ〕対スルノ作為ナリト、兄弟ヨ此ヤコブノ一生涯ニ付、又広ロク歴史上現実ニ見サル、所ヲ見テ、神ノ頼ムヘキヲ知り之ニ順フベシ、去ラハ神モ兄弟ニ天国ノ福祉ヲ与ヘン、神ニソウカ又神ニ反スルヤ、宜ク中立スヘカラス

〔欄外朱〕  
「He will offers God that second place offers Him no place. Ruskin.」

〔明治十五年六月二十五日・於京都第二公会〕

## 16 朋友之交義ハ天国ノ写真

朋友之交義ハ 〔朱冊〕 天国ノ写真

明治十五年十一月十二日 西京第二教会ニ於テ

箴言十八章ノ二拾四節

〔歌〕 〔欄外朱〕 二二八。四十三。百二十一

〔朱点・以下同〕 朋友ヲ求ムルモノハ宜ク自ラ交情ヲ顯ワスベシ。 朋友ノ密着スルハ兄弟ニモ勝ルモノアリ\*

凡ソ物ハ類ヲ以相集マルト云テ、鳥獸ノ如キモ自ラ同類相集マリ群ヲ為シ、相頼リ相助ケ克ク敵ノ侵入ヲモ防クノ類ノ如キハ往々世間談ノ内ニアル事ナレハ、マシテ人間ニシテ友ナカルベカラサルハ言ヲ用ユルニ及ザルナリ、夫レ人ニハ君子ノ交、小人ノ交ト云ヒ、交際中自ラ段等ノ差異ハアルトモ、其ノ性質ヲ論スレハ決シテ異ナルモノニアラス、人タルモノハ必ラス友ヲ求ムルノ情ヲ具有セリト云ヘクシテ、人ニシテ朋友ヲ持タサルモノハ白眼ニシテ他ノ世上ノ人ヲ見ル、彼ノ能々〔ヨクヨク〕ノ奇人力能々ノ愚人力將又ヨク、ノ不幸人ナルカ、此世ニアリ共ニ心緒ヲ打開キ共ニ樂ムベキ朋友ナケレハ、此世ニ出テ此世ノ樂ヲ知ラサルモノト云トモ可ナルベシ、乍去今日ノ浮薄世界ノ交リヲ見レハ、誤テ此世ノ塵埃ヲ脱却シ、遂ニ白眼以テ世人ヲ見タキノ念慮ヲモ起シタキハ随分尤ノ事ナレトモ、我輩此世ニ生ル、ヤ一人ニシテ生キ、一人ニシテ井ヲ掘〔カ〕テノミ、一人耕シテ一人ニシテ食ヒ、一人ニシテ衣ヲ織テ衣、遂ニ一人ニシテ世ヲ過スベキモノニアラス、故ニ人々真ノ友ヲ求メ真ノ交ヲ結フハ、此人間社会ニ於テ不可欠大切ノ事ナルニ、今ノ世ニ

真ノ交際ノ乏シキハ、人々浮薄ニ流レ純朴ノ風ヲ失ヒ、真、実ノ交、際ヲ求メス、唯鼻先ノ交、際ノミニテ止マリ、決シテ交際ノ佳境ニ至リ得サルハ、人々私慾私心ノ奴隸トナリ、此私慾私心ヲ以テ甚堅固ナル城郭、堡ト為シ、己レト他人ノ間ニ置キタレハ、宜ナリ真実ノ交際ヲ得ザル事

世人ノ交際ノ如キハ主義ノ合スル所、互ニ真理ヲ愛スル所、又互ニ心ヲ知ル所ヨリシテ出来タルニアラス、一寸一度ノ酒宴ニ於テ酒杯ヲヤリ替ワセ、或ハ共ニ花見ニ行キテ見知りタルカ、或ハ同業以テ相知ルノ類ニシテ、共ニ己ノ便宜ヨリ相交ワリ相結フ、タトヘハ官吏ハ官吏連レヲ好ミ、酒飲仲間ハ酒飲ノ連レヲ求メ、芸人ハ芸人ノ相手ヲ求メ、

詩人ハ詩人仲間、歌ヨミハ歌ヨミ仲間、〔ルビ朱〕「コウチ」囲碁者ハ囲碁者ノ仲間ヲ求ムルノ類ハ勢避ヘカラサル事ナレトモ、此等ノ交

ヲ洞察スルニ尚皮相ノ交ヲ免ル能ワス、之ヲ傍觀スレハ恰モ手ヲ以テ累卵ヲ支ヘタルカ如シ、双方ヨリ上ハベノ事ヲ云カ。少シ送リモノヲナシ又相應ノ返酬ヲナスカ、双方相侵ササレハドウヤラ交際ヲ保チ得ルモ、一寸ノ過言ヲ吐クカ、又一寸ノ仕損アルカ、物ヲモタセ其ノ返酬ヲ為サ、ルカ、一寸ノ錢勘定ヲ為サ、ルカ、貸リタ金ヲ無断ニシテ返サヌカ、何カ茲ニ出来タレハ直ニ猜疑ヲ生シ、直ニ絶交シ互ニ交通セサルニ至ルノ類ハ比々見ルベケレハ、実ニ如斯キ浅キ動キ易キ交際ハ有ルヨリモ無キニマサルト云ヒ度モノナリ、然シ茲ニ交際ヲ絶ツ程ノ理由ナシト云ヘカラス、人々私ヲサシハサミ、人ニ向ヒ不義理ヲ為スカ如キハ人ノ為スベカラサル所、朋友ノ交際中決シテ行〔上欄〕「フ」ヘカラサル所ナレハ、一場ノ酒宴ニテ一寸懇意ニナリタル朋友ノ如キハ一寸ノ事ニテ分離シ易ク、又「富貴ニナリ朋友ヲ得、貧賤ニナリテ朋友ヲ失ヒ、一富一賤交情乃具ワル」、此等ノ交ハ真ノ朋友ノ交義ト称スヘカラス、我輩真ヲ慕フ所ノキリストノ信徒、此等ノ交義ヲ以テ満足スヘカラス、然ラハ我輩如何セハ真ノ朋友ヲ得ヘキカ、乞フ是ヨリ真ノ朋友ヲ得ルノ法方ヲ論及セン

〔上欄〕  
「第一段」

今日ノ題トナシタル此箴言ニハ、

〔朱條・以下同〕  
朋友ヲ求ムルモノハ宜ク自ラ交情ヲ見サスベシ

交情ヲ見サスベシトハ何ゾ、乃チ懇切ノ情ヲ示スナリ、此懇切ノ情ヲ示スニ又種々ノ手段アルベシ

〔上欄〕

「A」真ノ朋友ハ、求ムルモノ先ツ自身ニ真ヲ得サルベカラス、古人云ヘルアリ、誠ハ天ノ道也、誠之者人ノ道也トア

レハ、人ニシテ誠無ケレハ禽獸ニ異ナラス、世人ハ詐八百ノ世ト云テ、譌ヲ言テモ平氣デオリ少シモ恥ルノ氣色ナキ

ガ如キハ、決シテ真ノ朋友ヲ得ヘキモノニアラス、詐ヲ言フ人物ハ人ヨリ信用ヲ置キ難ケレハ、人々彼ヲ避ケ嫌ヒ

真ノ交義ヲ以テ彼ニ接セス、真ナキ人ハ決シテ真ノ良友ヲ得ヘキ例ナケレハ、我輩真ノ朋友ヲ得ントナレハ、先ツ

真ヲ以テ己レ自己ノ価ヲ高尚ニセサルベカラス、〔朱〕桃李ハ言ワス下自ラ徑ヲ為ス 己レニ真価アラハ人ハ之ヲ棄サ

ルヘシ

〔上欄〕

「B」真ノ朋友ヲ求ムルモノハ、先ツ朋友ノ来ルヲ待タス己レヨリ朋友ヲ求メサルベカラス、我輩朋友ヲ求テ而テ克

ク之ヲ得ルノ方ヲ施サレハ、何レノ日カ克ク朋友ヲ得ベケンヤ、故ニ朋友ヲ得ントナレハ、先ツ自身ニ朋友ヲ探

求スベシ、之ヲ探求シ得ハ宜シク其ノ人物品格如何ヲ知ラサルベカラス、其品格如何ヲ又其ノ心情如何ヲ知り得、

而シテ后其ノ友トスヘキヲ知ラハ、宜シク之ヲ真ノ朋友ト称スベシ、一度朋友ト称シタル上ハ輕卒ニ之ヲ見捨ツベ

カラス、他人ノ讒訴ヲ聞クモ容易ニ之ヲ擯斥スベカラス

〔上欄〕

「C」真ノ朋友ヲ得ントナレハ、宜シク猜疑ヲ抱クベカラス

猜疑ハ疎遠ノ初メナレハ、人若シ猜疑ヲ抱カハ恰モ水中ニ物ヲ見ルカ如ク、物ノ地位ヲアヤマリ見テ、長キモノヲ

猜疑ハ疎遠ノ初メナレハ、人若シ猜疑ヲ抱カハ恰モ水中ニ物ヲ見ルカ如ク、物ノ地位ヲアヤマリ見テ、長キモノヲ

縮メテ見ルノ類ノ如シ、人ニ猜疑アレハ人ノ実価ヲ見失ヒ、昔時真ヲ愛スル人物ト思ヒシモノモ今ハ偽善者ト

〔上欄〕  
「Note」見、昔時ハ之ニ逢テ喜ヒシモノハ之ヲ見テ嫌ヒ憎ムニ至ルノ類ナレハ、我輩交際中決シテ猜疑ヲ入ルベカラス、

モシ一友ヲ信シ、テタトヒ他日其ノ人〔ノ〕為ニ諷ワルハトモ、欠ハ彼ニアリテ我ニアラス、若シ今ノ世人ノ信スベカラサルヲ以テ慢ニ朋友ニ猜疑ヲ挾マハ乃チ真ノ朋友ヲ失フノ手段ニシテ、猜疑ヲ挾ム人物ハ生涯真ノ朋友ヲ得サルベシ、劉文德曾テ孔明ニツキ云ヘルアリ、孤ノ孔明アルハ尚魚ノ水アルカ如シト、又世俗ノ諺ニ魚心アレハ水心ト、朋友中若シ猜疑ヲ挾マハ、水ハ魚ヲ入ルヲキラヒ魚ハ水ニ住ムヲ好マサレハ、如何シテ両物互ニ益スルヲ得ン

〔上欄〕  
〔D〕真ノ朋友ヲ得ントナレハ同業中ニ限ルベカラス

同業中ハ兎角交際ノ為シ易キモノ、且親密ニ相知ル事ノ出来易キ事ナレハ、人々多クハ同業中ニ親友ヲ得ルハ甚易カルベ〔ク〕又益アルベシ、又〔上欄〕ル一サ、ズウィングリルノ宗教大革命ノ際ニ当リ尤モ親密ノ交際アルカ如シ、乍去〔同業中ニ限レハ得ル所ノ益ハ多ク其業ニ関スル所ナレハ、兎角世間ヲ狭ク為スノ恐アリ、説教者ノミニテ交〔ラ〕ハ説教者ノ考アリテ交ル、歌ヨミナレハ歌ヨミノ考ヲ以交ル、故ニ兎角其ノ業ヲ以相交リ相頼ルノ弊モアレハ、広ク友ヲ同業外ノモノニ求ムルモ亦益アルベシ、仮令詩人ニシテ理学者ト交リ、和学者ニシテ漢学者ト交リ、在野ノ人ニシテ官吏ト交リ、匹夫之身ニシテ王公ニ接シ、〔上欄〕医者ニシテ法律家ト接スルノルイ、却テ克ク水魚ノ交ヲ得ルガ如キハ比々例ナシト云ベカラス、又同業中ノ交ニシテ互ニ益シ互ニ助クレハ甚便利ノ事モアレトモ、世間ニハ兎角同業相競フノ弊アレハ、同業中其ノ交ヲ交ヒ永ク替ヘサルモノハ真ノ朋友ト云ベシ、乍去兎角同業中相争ヒ相競フノ憂アレハ、真ノ朋友ハ却テ異業ノモノニ多カルベシ、之ヲ夫婦ニ実驗スルニ、最モ仲ノヨキ夫婦ハ性質ノ異なるモノニアリ、又最モ親キ朋友モ亦異質ノモノニ多ケレハ、人同業中ニノミ限リテ友ヲ求ムレハ却テ真ノ朋友ヲ得サルベシ、磁石ノ積極消極相引クノルイハ異極却テ相親ムノ類ナリ

〔上欄〕  
〔E〕真ノ朋友ヲ得ントナレハ益友ヲ得ルヲ勤ムルノミナラス、己レニ如カサルモノヲモ亦友トスベシ

人益友ノミヲ求メテ、己レニ若カサルモノヲ友トスル勿レト云テ、己レニ若カサルモノヲ求メサレハ恐クハ真ノ朋友ヲ得ルノ道ヲ誤ルベシ、真ノ朋友タルモノハ疾病相助ケサルベカラス、困難相救ワサルベカラス、徳義ヲ以テ相ヒ琢磨セサルベカラス、智識以テ相ヒ交換セサルベカラス、相逢テ又相樂マサルベカラス、故ニ友ヲ己ニ勝レルモノニノミ求ムレハ、己ヲ益スルニ足りテ友ヲ益スルニ足ラス、徒ニ己レノミヲ益スルヲ計ラハ是レ便利ノ為ニ友ヲ求ムル也、真ノ朋友ヲ得ルノ主意ニアラサルナリ、又己レニ若カサルモノヲモ友トシテ人ヲ益セハ、是レ広ク良友ヲ天下ニ求ムルモノナリ、先覺者常ニ先覺者タラス、後覺者モ永ク後覺者タラサレハ、真ノ朋友ヲ求ムルニ先覺後覺ノ區別ヲ為シテ相ヒ分離スベカラス、又學問ノ多少ニ随ヒ交情ノ淺薄アルベカラス、先覺者ニシテ後覺者ヨリ得ル所アリ、後覺者ニシテ先覺者ヲ助クル事アレハ、朋友ノ切磋琢磨ハ決シテ先覺者ノ特有物權ニアラス、後覺者タルモ時ニ臨ミ卓見ヲ有スル事アレハ、卓見ニ乏シキ人ヲ助クルカ如キハ交際中緊要ノ事タルベシ、己欲達而立人、己欲達而達人ノ語ノ如キハ己ヲ益スルヲ計ルニアラス、先ツ人ヲ益スルヲ計レルモノナリ、然ラハ己ニ若カサルト思フモノモ求メテ朋友ト為スベシ

〔上欄〕

「F」真ノ朋友ヲ得ントナレハ、宜〔ク〕其ノ長所ヲ取テ、其ノ不長所ヲ取ルヘカラス。

支那ノ古聖人ノ語ニ、君子ノ用ルルヤ器之ニスト、此レハ人ノ所長ヲ以テ人ヲ取り其ノ所短ヲ以テ人ヲ捨テサルナリ、朋友ノ交際ニモ此心得ハ必要タルベケレハ、我輩宜ク人間中万事掬テ一ツノ不足ナキモノノナキ事ヲサトリ、其ノ所短ヲ知り、又其ノ所短ヲ駁シテ友ヲ捨テ、取ラサレハ、天下恐クハ我輩ノ朋友タルモノハナカルベシ、人ニハ一得一失アリト云テ長所不長所アレハ、成丈ケ人ヲ見捨テス失ワサレハ死馬ノ骨遂ニ千里ノ馬ヲ来セシ例アレハ、所短アルヲ以テ人ヲ捨テス克ク交ヲ厚フセハ、遂ニ多ク良友ヲ得ルニ至ラン

一日予ノ友大坂ノ某宣教師ニ向ヒ、聖書会社ニ彼ノ疎暴ナル〇〇氏ヲ永〔ク〕用ヒナハ、大ニ伝道ノ妨ケヲ為スベケレハ速ニ彼ノ聖書売ヲ止メタラハ如何ト申セシニ、宣教師曰ク、彼ノ人ハ至テ疎忽ナルモ彼ノ人ノ心ハ甚善良深切ナリ、彼ノ疎暴ハ昔時水夫ヲ為セシニヨル、彼ハ只挙動ノ暴ナルノミニシテ彼ノ心ハ取ルヘキ所ナリ、又彼程克ク聖書ヲ巧ニ売ル人アラスト云レテ、直ニ友人某ノ言ヲ採用セサリシハ、彼ノ宣教師ハ其ノ所長ヲトリ其ノ短ヲ挙ケサル大度ノ人物ト云ヘキナリ、吾傍ニアリ此人ノ語ヲ聞キ、深ク心ニ銘シテ決シテ忘ル、能ハサルナリ

〔新田義貞ノ小山田高家ヲ軍法ニ所セサリシカハ、遂ニ小山田ヲシテ新田ノ為ニ死ヲ顧ミス、敵ノ前ニテ新田ヲ助ケシハ、所短ヲ以人ヲ捨テサルノルイナリ

〔上欄〕  
〔G〕真友ヲ得ントナレハ、人宜クキリストヲ学ヒ愛ヲ以テ人ニ接スベシ、我等敬テキリストノ人ト成ヲ伺ヒ、キリストノ愛如何ヲ察スレハ、一生涯思慮ヲ費ヤ〔ス〕モ決テ其ノ奥ヲ知り其ノ底ヲ究ムベカラス、キリストニハ深キ思ヤリアリ、是レ乃チ愛ヨリ生スル所、キリストハユダノ己レヲ売ルヲ知り直ニ之ヲ放逐セス、ペテロノ己ヲ知ラスト云ヲ知リタレトモ之ヲ攘斥セス、人間ノ如ク種々ノ試ミニ逢ヒタレハ、人間ノツマヅキ易キ事ヲ御承知アリ、彼ノゲツセメネノ園ニ於テ敵ノ来リ將ニ近キアルヲ知リタレ〔ド〕モ、己レノ門弟ヲ愛シ賜ヒ片時モ其ノ訓誨ニ怠ラス、彼世ヲ去リ門弟ヲ此世ニ遺スハ、恰モ群羊ヲ群狼ノ中ニ遺スカ如ク思ワレ、目ヲ醒マシテ祈レト教ヘラレタリ、又聖晚餐ヲ我輩ニ遺サレシモ、我輩ノ心ノ真ニ忘レ易キヲ知り、時ニ主ヲ想起サシメ、主ニ頼ル事ヲ忘レサラシメンガ為ニ之ヲ我輩ニコサレタルナレハ、是ハ広大無辺ノ愛ノ働キ、乃思ヤリノ深キヨリ出来タル事ト云ヘシ、  
〔上欄末〕  
「我等ヲ救ワン為十字架上ニ死ナレシハ」、故ニ我等キリストニ学ヒ、キリストノ愛ニオリ、其ノ愛ヲ持タバ友ヲ得ルニ又何ノ難キカ之レアラン、キリスト御存命中ハ得ル所ノ友ハ僅ニ指ヲ屈スルニ足ラサリシモ、死後其ノ愛克

ク人々ヲ感動シ、桃李ハ云ワス下自ラ徑ヲ為スト云テ、小亜細亞ヲ初メクリシヤ、羅馬ヨリ歐羅巴全州、亞弗利加、亞墨利加、東方亞細亞又南洋ノ島々迄モキリストノ為ニ涙ヲソ、キ、キリストノ為ニ十字架ヲ負ヒ、キリストノ為ニ死モ厭ハヌ程ニ成リ来ラシメシハ、一片ノ精神一滴ノ血克ク天下万世ノ人類ヲシテ続々降伏〔セ〕シ〔メ〕、キリストニ就カシメ、己レノ友ト為シ、又神ノ友タルノ面目ヲ与ヘ賜タルガ如キハ、是実ニ天下無比ノ愛ト云ヘキナリ

◎約翰ノ第十五章八節ヨリ十七節ニ至ル

使徒ポールノ如キモ、キリストノ愛ヲ得、キリストノ愛ヲ学ヒ、而後真ノ愛ヲ得タルモノナリ、彼羅馬人ニ送レル文ノ第十二章ノ十節ニ、兄弟ノ愛ヲ以テ互ニ愛シ、礼義ヲ以相譲ルトアリ、十五節ニハ喜フモノト共ニ喜ヒ、哀ムモノト共ニ哀ムベシ、又コリ〔ン〕タ前書ノ十三章ノ三節ニハ

仮令我總テノ持チモノヲ施シ、又ヤカル、為ニ我身ヲ与フルトモ、若〔シ〕愛ナクハ予ニ益ナシ、愛ハ忍〔ブコト〕ヲナシ、又人ノ益ヲ計ルナリ、愛ハ妬マス、誇ラスタカブラス、非礼ヲ行ワス、己ノ利ヲ求メス、輕々シク怒ラス、人ノ惡シキヲ念ハス、不義ヲ喜ワス、真理ヲ喜ヒ云々

〔明治十五年十一月十二日・於京都第二公会〕

17 「真友ノ交リ」

朋友ノ知ヲカラサルヘカラス、故ニ朋友タルモノ一ツマミニ申セハ乃苦樂ヲ共スルモノニシテ、友無之己之レナキガ如シ、友ノ足サル「ヲ」己足サルガ如クセサルベカラス、然ルニ益友ノミヲ求テ、徳義ナク知恵ナク己ヲ益スル事ヲ計ラハ、得ルハ己ニアリ「得」ハ彼ナラス、己得ルヲ計リテ之ヲ人ニ分チ与ヘサレハ、乃チ友ヲ広ク上下ニ求ムルト云ベカラス、又己ニ若カ「ザ」ルモノト雖モ、徳義ナク知恵ナク常ニ若カサルモノト定ムベカラス、然ラハ友ヲ得ルハアナカチ同業中ニモ限ラス、同年齡ノモノニアラス、己ニマサリタルニ限ラス、真ノ友ヲ得ントナレハ其ノ長スルヲ取リ、愛心ナカルベカラス、其所長所ヲ取り之ヲ捨ヘカラス、人長所不長所アリ、真友ヲ得ントナレハ其ノ長スルヲ取リ、愛スヘシ

「上欄」  
「羅馬書第十三」

コリ「シ」タノ愛「カ」

支那古聖ノ語ニ君子ノ用人器<sup>レ</sup>之ト、朋友ノ交際ニモ此心得「ナ」カラサ「ル」ベカラス、人ノ親タルモノハ己ノ子ノ長所ノミヲ見テ其<sup>不</sup>所長所定リ見サルハ何ソヤ、他ナシ、愛ヲ以テ之ヲ見レハ不長所ハ問ワサルナリ、又愛スル所ヨリ之ヲ取レハ不長所ヲ発見シ得サルナリ、是ハ子ヲ見ソクナイ随テ害ヲ得ルノ愛アレトモ、全体我輩ノ人ヲ取ラサルハ先愛ノ不足アル所アレハ、先人<sup>カ</sup>ノ不長所ヲ着目シ其ノ長所ヲ得ニスルナリ\*

一 真友ヲ得ントナレハ人宜シクキリストヲ学ヒ、宜シク深キ思ヒヤリヲ以テ人ニ接スベシ、宜シク人ヲ許スベシ

キリストニシテ、ユダノ師ヲ売ルヲ前知ラサルニアラス、ペテロノ師ヲ知ラサルト云ヲ予メ知り、予言シタルモ之ヲ破門セス、又人間ノキリストヲ忘〔レ易〕キ心ヲ察知セラレ聖餐之設ヲ為サレ、又ガツセメ〔ネ〕ニ於テハ目ヲ醒マシテ祈レト云レ、十字架ニハ之ヲ殺スモノ〔ノ〕為ニ祈リ賜フテ死ナ〔レ〕シ事ハ、幾分カ人ノ弱キヲ知り、思ヒヤリ、之ヲ捨テス之ヲ救ハントスルノ厚情ヨリ出来シナリ、キリストニシテ如斯思ヤリヲ以テ人ニ接シ賜フモ、人之ヲ察セス、唯々キリストハ愛ナリ、己ハ勤ヌモキリストハ己ヲ救ハンナド横着ナル心ヲ生セハ、キリストハ恐クハ審判日ニ於テハ、我ハ爾ヲ知ラス、惡ヲ為スモノヨ我ヲ去テ彼之暗ニ行ケト云ワン、キリストノ思ヤリヲ得ハ、我モキリストノ心情如何ヲ思ヒテ〔ナサ〕サルベカラス、此思ヤリ無キ人ハ決シテ友ヲ得ベカラス、キリスト程思ヤリノ甚大ナル、愛ノ大〔ナル〕モノナシ、依〔テ〕キリスト程亦友ヲ得タルモノナシ、歐羅巴全洲、亞墨利加モ亞細亞モ亞弗利加モ南洋〔ニ〕散在スル小キ群島ニ至迄、キリストノ為ニ十字架ヲ負ヒ、キリストヲ逐情シテ涙ヲ流サ、ルモノナキハ何ント驚クヘキ事ナラスヤ、是他ナシ、人ヲ作〔リ〕シ天父ノ滔々乎トシ〔テ〕アフレ出ツル所ノ愛ト思ヤリキリストノ身ニ顯レ、我輩数百万ノ生靈ヲ罪惡中ヨリ救、人ノ人タル公道ニ進マシメ、キリストノ本ニ帰ラセラレ〔シ〕ハ、我輩ノ友人中此ノ愛ニ勝レルモノナルハナシ

一真友ヲ得ントナレハ人ノ地位ニヨルベカラス。貧富ヲ弁スベカラス

〔朱狐〕

※人ノ交リハ替リ易シ、音信ナケレハ我ヲ忘レタリト云ヒ、何ニカ物ヲ送ラサレハ我ヲ忘レ交信ヲ滅セリト云、暫

ク問ワサレハ我ヲ見捨タリト云、何ニカ少シク其人ノ事ニ言フ事アレハ忽チイカリ、忠告ヲ為セハ快トセス、真言ヲ吐ケハ却テ之ヲ疎ニス 迎レ之ハ昵ミ

〔補〕「キリスト神ノ愛、汎愛、善者、不善者ニ〔モ〕及フ」

〔然レトモキリストノ交ノ如キハ、一度真ト愛ヲ以テ我輩ニ示シ、十字架上ニ血ヲソ、キ、以テ印証トシタレハ、万世替ルナク、何国人ニヨラス、身ノ貴賤貧富ニ関〔セ〕ス、依テ来ルハ重荷ヲオロサレ休ヲ得セシメ、罪人ト称セ〔ズ〕シテ我輩我カ友ト呼ハルニ至ルハ、友ニシテ之ニ若クモノナカルベシ 〔米〕「キリストハキノウキヤウ□□ワテサナリ」

※キリストハ聖書中曰ク、約翰十五章十三節ヨリ十七迄

嗚呼罪惡ノ人、世々人々其ノ信用ナク真ノ友情ナキハ今日ヨリ初マリ〔シ〕ニアラス、世人ノ交際ハ上部ノツキ合ノミニテ真実ノ交ニアラス、当時バリサイノ偽善ヲ以テ此世ノ風俗ノ浮薄ヲ見ルニ足ル

キリストハ唯々人間ヲシテ天国ニ救ハシムルノ目的ノミナラス、此世ニアリ人ヲシテ真ノ樂ミヲ得セシ〔ム〕ルニアルベケレハ、我輩キリストノ精神ヲ受ツキ真ノ友ヲ得テ互ニ樂ハ、我輩此罪惡ノ世ニアルモ此世ハ乃チ天国ノ写真ト云トモ可ナルベシ、天国ノ写真ヲ得ルハ何之処ニ望ムヘキヤ、乃キリストノ愛ト精神ノアル教会ニアルベシ、羅馬代官ノプリネ〔プリニー〕氏カ小亜細亞ニ来リ支配セシトキ、キリスト信徒ノ互ニ相愛スルヲ見テ驚キシカ如キハ、プリネニ〔ハ〕尤モナルベキモ、キリスト信徒ニシテ至テ当然之事ナルベシ、然ルニ此当然ノ事ハ只今我輩ノ教会ニ行レ居ルヤ、此ハ今日ノ大問題ナリ、此ハ我一々指示ニ及ハス、銘々己レノ心ニ問ヒ度キモノナリ

金錢ニ正シク。礼義ヲ護リ、畏敬シ、責善。〔穀〕信実。虚飾ヲ取レ、疎暴ノ言行ナク、怨ム事ナク、我儘ナク、人ヲ立テ人ヲ達セント計リ、人ニ望マス己ヨリ真ノ交情ト愛ヲ顯スヘシ、飲食ノ友、技芸上ノミノ友、面識ノミノ友ト為ル勿レ

終ニ臨テ予交友ノ例ヲ引キ談スル所アラントス

昔時支那ノ春秋戰國ノ際、齊ニ管仲ナルモノアリ、桓公ヲ輔ケテ諸侯ニ霸タラシメシ事ハ史上ニ明ナリ、其時管仲ノ友鮑叔ナルモノアリ、仲嘗テ鮑叔ト共〔三〕商賈ヲ為セシニ、利ヲ分ツニ至レハ分テ多ク取リタリ、鮑叔ハ克仲ノ貧ナ〔ル〕ヲ知テ貪ルトセス、嘗事ヲ謀テ窮困スルニ、鮑叔ハ時ニ利不利アルヲ知テ敢テ愚トセス、嘗三戰シ走ルニ鮑叔ハ仲カ老母アルヲ以テ彼ヲ怙ト為〔サ〕ズ、仲カ曰、生我者ハ父母、知我者ハ鮑子也ト、又

昔時シラキウスニパイサゴラン<sup>\*</sup>ノ理學者デーモンナルモノアリ、死刑ニ所セラル、日定マリタル以テ、一度己カ家ニ

戻リ家事ヲ整頓シテ死ニ就カントナシ、暫時ノ暇ヲ乞ヒタレハ、其ノ王テイヨニーシヨス〔デイオニシヨス〕ヨリ人質

〔米〕

ヲ置バ許スヘント命シタレハ、デーモンノ友パイシヤス〔BC四百五年三十六七〕其ノ事ヲ聞、其質タ〔ラ〕ン事ヲ求ム、依テ王之ヲ許シ、デーモンヲシテ家ニ歸ラシム、又王ハパイシヤス〔ノ〕獄ヲ尋ネ、〔パイシヤス〕ニ向ヒ、朋

友ノ交義ハ信セサルナトト云ヒタレトモ、パイシヤ〔ス〕ハ真ニ其ノ友ヲ助ケント望、屢神ニ祈リ、己カ刑ニ処セラレタル後ニ及テデーモンノ婦來ヲ求メ、期日ノ來リケレハ、王ハ六疋ノ白馬ニテ引ケタル車ニノリ其場ニ臨ミタレハ、

<sup>\*\*</sup>

氏ハ衆人ニ向ヒ靜ニ述テ曰ク、神ハ己ノ祈ヲ聞カレタリ、昨日暮迄逆風吹キタレハデーモンハ明日來ルベシ、若シ我

デーモンニ代リテ死シ同氏ノ正直ニテ無罪ナルヲ証セハ、予ハ花婿ヲ迎フル心地シテ死ニ就クベシ、氏ハ端正ノ人物

〔カ〕

ナル真実ヲ証スベシ、氏ハ發シテ途ニアリ風波ノ為ニ阻セラレタルヲ以テ怒〔リテ〕神〔ニ〕移ス事ナラン、然トモ予

ハ速ニ死シテ彼ノ死ヲ妨クベシ、行刑人ヨ速ニ予ヲ殺セヨト云ヒ、言ノ未タ終ラサルニ大衆叫テ曰、行刑者待テヨ止

マレヨ今馬ニノリ馳テ來ルモノアリ、其ノ人直ニ刑場ニ上リパイシヤスヲ抱キ呼曰、我カ良友ヨ氏ノ命ハ安全ナリ、

予ハ今死スアラノミ、予ハ我ヨリ貴重ナル人物ノ命ヲ取ルノ恥ヲ免カルヲ得タリ、パイシヤスハデーモンノ機ヲ

失ハ〔ズ〕シテ刑場ニ來リシヲ怨ミ、又同氏ノ死後存命スルヲ好マス、共ニ死セン事ヲ望タレハ、王ハ之ヲ聞ヤ

「ニ車ヲ下リ来リ、二人ヲ止メテ曰ク、ア、天下無比ノ朋友ヨ、君等ハ今隠々乎ト徳義ノ存在ヲ証シタリ、又君等ノ徳義克ク徳義ニ酬ユルノ神ノ存在ヲ証セリト、遂ニ二人ノ命ヲ助ケテ死ニ至ラサラシメ、又告ケ〔テ〕曰ク、予ヲシテ君等ヲ助ケ君〔等〕ノ交情ノ分前ヲ得セシメハ予ノ大幸ナリト云ヘリ

不信者社会ニモ如斯其朋友ノ交情ニ於テ美談アリ、然ラハ真ヲ愛シキリストヲ愛スルノ信者ニシテ、真ノ交情ナケレハ豈遺憾ナラスヤ

若シ我輩ノ社会ニシテ此交情ナケレハ、又何ノ社会ニ向ヒ真ノ交情ヲ望ムベケン

教会中ニモ尚未タ天国ヲ写シ得サル所アリ、人々ヨルトサワルト随分人ノ非ヲ談シ、甚キニ至レハ人ヲ讒謗シ、人

〔サンボウ〕

ヲ立ツルヲ計ラス、却テ人ノ面目ヲケカシ、遂ニ世間ノ信用迄モ失ワシムルニ至ル事ハナキ〔三〕シモアラサレハ、

我輩先ハ私慾私心ヲ捨テ真ニ立戻リ、キリストニ就キ、キリストノ愛ニ習ヒ、キリストノ思ヤリヲ学ビ、キリストノ己レカ為ニ十字架ニ上リシヲ了察シ、キリストノ心ヲ以テ己カ心トシ、又人ノ心身ヲ以テ己カ心身トナシ、人ノ心ヲ以テ己ノ心ト為シテ世ヲ送ラハ、桃李ハ不言下自ラ徑ヲ為ト申シテ、人瓦石ニ非ラス何ツカ真ノ友ヲ得サルノ期アラシヤ、ポール曰、若シ機アラハ衆の人ノ為ニ善ヲ為ノミ、信仰ノ徒ニハ別シテ之ヲ得ベシ、信仰ノ徒ニ向ヒ之ヲ為ラ得サレハ、我輩如何シテ世人ニ向真ノ交義ヲ結フベケンヤ、我輩願クハ教会ヨリ初メタシ、我輩他日共ニ天国ニ進マネハナラヌ身分ナルニ、存命中為セシ所、他日天国ニ於テ其友ニ対シ面目ナキ事ヲ致シ置キ度ナキモノナリ

○終リ\*

〔朱〕

「ルーサ、スウングル」「天国ノ交際」

〔年月日・場所不詳〕

## 90

「競走者 明治十五年十二月卅一日 第二公会

歌  
42  
51  
41  
L

〔本文〕

コリント前書第九章ノ二十四

明治十五年十二月卅一日 第二公会

○基督信徒タル者、馳場ヲ走ルモノ〔ノ〕如ク、宜シ〔ク〕勉励シテ走ベシ

○今日ハ最早明治十五年ノ終ノ日ナレハ、我等自然ニ、歲月ハ如斯早クモ往クモノカトノ歎ナキ能ワス、又歲月ノ往クニ付キ、人間ハ後ニ残サル、モノヤ、又歲月ト共ニ往クモノヤノ考ナキ能ワス、又人間ノ往クベキ所ハ何ノ処ナルカ了解シ得ハ、自ラ如何シテ往クベキヤノ法方ニ付工風ノ生セサル能ワス

○本日説教ノテクストニ為セシ所ハ

ポールカグリシヤノコリント人ニ送リタル書中ニアリ、基督信者タルモノハ如斯

走ルベキモノゾノ教誨ナレハ、先ツ 그리스 (ギリシャ) 国ニ行ワル、馳場ノ事ヲ御談申シ、其レヨリシテ 그리스ノ競走者トキリスト信徒ノ競走者ト比較、又 그리스ト信者ハ如何走ルベキヤニ論及イタシタクアリマスル。且尚未タ其ノ点ニ論及セザル前ニ、何故ニボールカ此ノ競走者ノ事ヲ以テ、 그리스ノコリント人ニ勸メシヤヲ考ヘマサルニ、ボールハ當時ノ活眼家ニアリマシテ、 그리스ヤ国ニ説クニハ 그리스ヤノ風俗ヲ引キテトキ、又実ニ其ノ法ヲ得タリト云ヘクシテ、此競走者ノ事ヲ以テコリント人ニ書キ送りシハ、コリント人中ニ此競走ノ風俗アレハ、一層

基督信者タルモノ如斯走ルベキモノト云事ハ、コリント人モ克ク了解シ得タルベシ

是ヨリグリース国ニ行ワル、競走ノ事ニ付御談申サン

此ノ競走ハ矢張り遊ヒト云モノ、此ハグリースノ神ヲ祭ル祭礼ニアリテ、諸国ニハ先四ツノ大ナルモノアリ、乃チオ

リンムピク。パーシイヤン。<sup>〔朱四〕</sup>イスミヤン。ニミヤンノ遊ト云フ、内最盛ナルモノハ<sup>〔朱四〕</sup>オリムピクノ遊トス、此ノ遊ハイ

リス州ノオリムピヤニアル<sup>〔朱四〕</sup>ジョウウト神ノ祭礼ノトキ行ワル、モノニシテ、何ノ時代ヨリ初マリシヤ分カラネド基督

前七百七十六年ノ比ヨリ益盛ナリシモノト見ユ

此ノ遊ヒハ四年ニ一回来ルモノニシテ、此ノ時ハグリース全国ヨリ代人ヲ遣シ、又互ニ競テ競走者ヲ出シ、互ニ優劣

ヲ決セシム、其ノ主意ハグリース国中如何ニ分列シオルモ、<sup>〔製〕</sup>彼等皆同胞ノ兄弟タルヲ願ワシ、互ニ親睦一致セン事ヲ

計ルモノナレハ、此際ニ当リ國中決シテ干戈ヲ動カス能ワス、マシテ此ノ祭ノトキニハ兵器ヲ仕用スルヲ許サス

一此場ニ出ツル競走者ハ常ニ<sup>〔タタ〕</sup>骨ヲキタヘ非常ノ摂制ヲ為ス

一馳場ノ競走者ノ達スヘキ標準アリ、先ツ此所ニ達シタルモノハ賞美トシテ橄欖樹ノ葉ニテ作リタル花輪ノ冠ヲ受ク

一其ノ優劣ヲ決断スル審判人アリ、此褒美ヲ受ヘキモノヲ決定ス

一勝ヲ得タルモノハ其ノ一家族ノ名譽ノミナラス其ノ生國ノ面目ニシテ、其ノ郷人ヨリハ莫大ノ褒美ヲ受ケ、帰郷ス

ルトキハ盛ナル行列ヲ以テ迎カヘラル、又其ノ人ノ像ハ彫刻セラレテジョウウノ宮ノ前ニ立テラル、其時代ノ詩人

ハ詩ヲ作りテ此ノ人ノ手柄ヲホメ立テ、政府ヨリ租税ヲ免セラル、祭ノトキハ上坐ニ坐スルノ面目ヲ得

一ソロンノ法律ニヨレハアテンス人ハ五百ドラクマ（七十五円ホド）ノ褒美ヲ得、又スパルタ人ナレハ戦場ニ臨ミ國

王ノ側ニ立ツ事ヲ許サル ○或ル人ノ、己ノ息子ノ此勝ヲ得タルヲ聞タルトキ、喜ニ堪ヘス直ニ<sup>〔カ〕</sup>屯死セン事モアリ

〔シ〕ヨシナレハ、此勝ヲ得ル事ハグリーシヤ人ノ最望ム所ナリトス

〔A〕<sup>〔上欄〕</sup>馳場ヲ走ルモノハグリース全国国々ノ区別ナク、貴賤ノ段等〔ナク〕皆競走スル事ヲ得ルハ、彼等皆同胞兄弟

ナリト云ト、又此ニヨリ一致親睦ヲ計ルノ意ナ〔ル〕ベシ

一基督信者ハ、一国ニ限ラス地球上何ノ国モ、何ノ民モ尽ク走ルヲ得

一男女長幼ノ別ナシ

一此祭ハ四年ニ一回ナルモ、基督信徒ハ毎日走ルヲ得

一此祭ニ褒美ヲ得ルモノハ唯常人ナルモ、基督信者ハ皆走りサヘスレバ、早晩標準ニ達シ褒美ヲ得ベシ

〔B〕<sup>〔上欄〕</sup>馳場ヲ走ルモノハ、競走スルニ当リ一秒時間モ猶予スル能ワス

一基督ノ一生涯ハ乃馳場ヲ走ルモノナリ、我等心ノ競走ニ於テ決シテ油断ノ出来サル事ハ、天路歷程<sup>\*</sup>ニモ深ク戒ムル所ナリ、我等怠タラハ必ラス其所ニ惡魔力付込ミ、我ヲ誘導シテ天国ノ途ヨリ迷ワシ〔ム〕ベシ、キリストカ其ノ門徒ヲ日醒テ祈ルベシト仰セラレシハ、已ニ人ノ怠リ易キ憂ヒアルヲ知ラレ、之ヲ予〔メ〕防カセン為ナルベシ

〔C〕<sup>〔上欄〕</sup>馳場ヲ走ルモノハ重荷ヲ身ニ纏〔フ〕ベカラス

グリースノ競走者ハ身ニ衣ヲ着ケサルハ輕便ニ走ラン為ナラン

一基督信者ノ重荷ハ何ニカ、乃チ尚身ニ纏フ罪ノ衣也

腓立比〔ピリビ〕ノ三章ノ十三ニ、ポールガ云レシニ、我ハ唯一事ヲツトム、即チ後ニアルモノヲ忘レ前ニアルモノヲ望ム、神キリストニヨリテ上ニ召シ賜フ所ノ褒美ヲ得ント標準ニ向ヒ進メリト

希伯来〔ヘブライ〕ノ十二ノ一

諸ノ重荷ト惑ヘル罪ヲノゾキ、我儕ノ前ニ置カレタル馳場ヲ走り、イエス即チ信仰ノ先導者トナリテ之ヲ全フスルモノヲ望ムベシ

馬太ノ十一ノ十二ニキリストノ仰ラレシニ

バプテスマノヨワンネノトキヨリ、人々勵ミテ天国ヲ取ラントス、勵ミタルモノハ之ヲ取レリ  
一走ルモノノ身ノ有様ヲ見ヨ、顔ハ前ニ向ヒ前ガハリニアル

一 ポールノ一生涯

〔朱〕單身娶ラス、己ノ身ヲキリストト共ニ十字架ニツケ、何ノ安逸ヲ求メス生涯走リテ送シモノノ如シ

西行法師ハ元ハ俗人ニシテ妻子モアリタルヨシカ、一日兄弟ト約ヲ為シ何ヘカ行クツモリナルニ、其ノ約ノ刻限ノ前ニ其ノ兄弟ハ屯死〔シ〕タリケレハ、世人ノハカナキニ感シ遂ニ妻子ヲ打捨テ、一生涯行脚ノ僧トナリタルヨシ、曾テ鎌倉ニテ頼朝公ノ前ニ召サレ金ノ猫ヲ賜リ〔シ〕カド、門前ヲ去テ子供ノ戯レ居ヲ見、之ヲ与ヘテ去リタルヨシ、如斯ハ断然ト世ヲ去テ憾ム所ナキガ如キモ、之レハ断然ト情慾ヲフミ付ケタルナリ、唯目的ナク茫々タル曠野ニ迷ヒシモノ〔ノ〕如シ

〔※〕ポールノ如キハキリストヨリ召シテ受ケ、又常ニ標準ニ向ヒ走リシ事ハ、一生涯ノ働キニヨリ知ヘク、又彼レノ書翰ノ内ニ記サレタル語ヲヨミ、ポールノ目的トスルハ何物タルヲ知ベシ、ポールノ、一生涯ヲ如斯モ活発ニ送リシ事ハ、我等ヲシテ基督信者タルモ〔ノ〕ハ宜シク如此ナルベシト自ラ發言スルニ至ラシム

〔※〕孔子カ川上ニ立チ水ノ流ル、ヲ見テ曰ワル、〔三〕、往クモノハ、如スカ、昼夜ヲ捨テズ、我等天路ノ旅ヲ為スモノモ如此水ノ如クアリタシ

〔欄外〕  
「D」馳場ヲ走ルモノハ、多クノ見物人ノ前ニ走ラサルヲ得ス

此祭ノトキハ馳場ノ見物人ノ山ノ如クアルベシ

一基督教徒ノ走り場ノ見物人ハ、世ノ互ノ信者不信者モ見物スベク、且天使モ見テ羨ムベク、又キリストモ神モ上臨アルベシ、此場ニ臨ミ走ラサルモノハ克々高キ望ミヲ抱カサルモノト云ベシ、我等信徒ノ走ル事ハ世人モ見テ評ヲ下シ、又永ク後人ノ公評ヲモ受クルニ至ルベシ、乍去我等世人ノ評ヲ仰クニアラス、我等世人ニ優リタル公評人ノ前ニアルアリ、乃チキリス、トハ、審判人ナリ、

〔欄外〕  
「E」馳場ヲ馳ル者、勝ヲ得テ得ル所ノ褒美ハ、只ニ朽ツル所ノ櫛、ラ、ン、樹ノ花輪ナリ

〔勝ヲ得タル賞美ハ櫛ラン樹ノ冠ニシテ、直ニ朽ツベキモノナリ〕

一 我等ノ他日受クベキ冠ハ、如斯直ニ朽ツベキモノニアラス

〔朱〕  
「※」黙示録ノ二章ノ十節ニ、爾死ニ至ル迄、忠信ナレ、然バ我生命ノ冕ヲ、爾ニ賜ベシ

此ニヨリ考レハ、我等ノ走ルハ空ヲ打ツガ如キ類ニアラス、乃チ克ク走りテ此ノ冠ヲ得ベキモノナレハ、走ラサレハ此ノ冠ハ得サルベシ、如何ニ人々ノ前ニ立チ道ヲ説クモ、如何ニ公然ト洗礼ヲ受ケ公会ニ入ルモ、如何ニ陽ニ信徒ト見ユルモ、尽ク此ノ冠ヲ得ルト云ベカラス、只神ノ御意ニ叶フテ走ルモノノミ之ヲ得ベケレハ、我等走ルモノハ警戒セサルベカラス

朽ツベキ冠ノ為ニ走ルスラ非常ノ名誉アルモノナレハ、我等豈勉勵セスシテ可ナランヤ、朽ツベキ世ノ財又世ノ名誉ヲ得ンニハ、非常ノ勉強ナケレバナラヌ事ナレハ、増シテ不朽ノ財、不朽ノ名誉ヲ得ベキニ之ヲ輕忽ニ得ベキト思ベケンヤ、乍去此走ル事ヨリシテ、殊ニヨレハ世人誤テ、信徒中人ノ目ノ見ル所ニテ最モ先ニ走ルモノハ天国ニ

於テ第一、ニ此冠ヲ得、又名譽ノ席ヲ得ルト想像セハ、大ナ「ル」誤ナルベシ

馬可ノ九ノ三十五

〔※〕〔爾等ノ内首タラント思フモノハ凡ノ人ノ後トナリ、且凡ノ人ノ使人トナラン

故ニ天国ニ大ナルモノハ大ニ世人ノ想像ト反スベシ、依テ我等ノ走ルハ兄弟ニ比シテ走ルニアラス、只々謙遜、神ノ意ヲ奉戴シ、我等ノ走ルベキヲ走り、為スベキヲ為スノミ、其ノ審判ハキリストナリ、キリストヨリ生命ノ冠ハ

与ヘラルベシ

〔上欄〕  
〔キリストニアリ、自由ノ人トナリタル上罪ノ内タラス

〔天国ニ入ノハ面目ヲ得ル〕

終リニ臨ミ尚一言セントスル所ハ、乃チ走ルヘキノ心得ナリ

各ノ癖ヲ去リ罪ヲ捨テ尚新ナルモノトナシ、デンマルクノ美術館ニアル彫刻モノノ内ニ予ノ目ニ止マリシモノハ、老人夫婦ノ灯火ヲ保タントスル所ト、天使小兒カ天使ニ負ワレ手ニタイマツヲ持、空中ヲ飛往ク所ノモノトス

支那人ノ詩ニ、年々歳々花相似、歳々年々人不同ト、又李白ノ□ニ序ニ、古人秉燭夜遊スルト良ニ有故也、是ハ年

吾ト共ナラス、吾老矣ト歎スル通、人ノ死テ朽ツルヲ歎セラレシナラン

我等朽〔チ〕ハツベキモノニアラス、神ノ助ケニヨリ益罪ヲ減シ、益新ニ益若カク、益進ミ益望ミ、益勇氣ヲ得、益天国ニ近ヨリ、益キリストニ類シ、勉テ彼ノ標準ニ達スルヲ計ベシ

会中兄弟ニ〔ハ〕半途ニ天国ノ競走ヲ止ムル勿レ

〔明治十五年十二月三十一日・於京都第二公会〕

# 19 天国の鍵

十六年四月二十日 大坂

〔朱〕十六年六月廿八日 京都

〔蘭外〕 天国の鍵

〔歌〕 〔上欄朱〕 六十七

十六

五十五

馬太十六章ノ十六

シモン・ペテロ答ケルハ爾ハ<sup>〔朱点、以下同〕</sup>基督、活神ノ子ナリ<sup>〔イニス答テ彼ニ曰ケルハ、ヨナノ子シモン爾ハ福ナリ、蓋血肉</sup>

汝ニ示セルニ非ラス、天ニ在ス我父ナリ<sup>〔替〕</sup> ⊕我又爾ニ告ケン、爾ハペテロナリ、我カ教会ヲ此ノ盤ノ上ニ建ヘシ、陰

府ノ門ハ之ニ勝ヘカラス、又我天国ノ<sup>〔カギ〕</sup>鑰ヲ爾ニ<sup>〔アタウ〕</sup>予ヘシ、爾カ地ニ於テ繫クコトハ天ニ於テモ繫キ、地ニ於テ<sup>〔ト〕</sup>釈ク事

ハ天ニ於テモ釈カルベシ

○キリストヲ活神ノ子ト信スル事ハ乃チ神ノ教ヘ賜フ所ニシテ、血肉ノ克クシ能フ所ニアラス、此信仰ハ岩ト見做ラ

ルベキモノナリ、此岩ノ上ニノミ我教会ハ立ツ事ヲ得ベシト仰セラレタルナ〔ラ〕ント存ス

○陰府ノ門之ニ勝ベカラス○陰府ノ門トハ何ソ、陰府トハ乃チ神ノ天国ニ反シ、サタンノ住居スル所ニシテ、己自身ニ之ニ住ム事ヲ逞シトスルノミナラス、人間ヲモ誘惑シテ共ニ共ニ神ニ反キ罪ニ沈マシ〔メ〕、遂ニ其管下ニ来ラシ

メントスル所ヲ指スモノニシテ、陰府ノ門ト云ハ取りモナオササタンノ力ヲ云、門ト云語ヲ用イラレシハ乃門ハ昔時人ノ城郭ヲ守ルニ尤厳重ニ固メタル所ニシテ、門ニ戸アルト〔ノ〕意ヨリ如斯陰府ノ門ト仰ラレタルナラン

○天国ノ鑰 天国ノ鑰トハ多分公平無私ニシテ、教会ヲ支配審断スルノ権柄ヲ与ヘラレタルノ意ニシテ、後世永クスクアルト云意ニアラサルベシ 鑰ハ門戸ヲ開鎖スルモノナレハ、鑰ハ大切ナル権力ト云ワサルベカラス

キリストハ三年間余、門徒ニ靈魂上、徳義上種々教ヘラレタルニ、特ニ教会ノ点ニ至リテ直接ニ教ヘラレタル〔ハ〕特ニ希ニシテ、此所ト、馬太ノ十八章十五、十七ノミ、而シテ如斯一二節ニ限リアレハ至テ不足ナラント思フモノ

モアルヘケレトモ、此一二節ヲ屢復読シ見ルニ、教会ノ基ヲスベテ維持スルノ法方ニ至リテ、実ニ至レリ尽セリト云ヘキ也

〔上欄先〕  
「教会維持法」

今日ハキリストカ其ノ門徒ニ向〔ヒ〕教会ヲ立テル事ト、之ヲ維持スルノ法ヲ教ヘラレタル事ニ付キ御談シ仕ラン  
第一 キリストハ自身ヲ活神ノ子ナリト信スルモノヲ呼テ岩ト称シ、此ノ上ニ我カ教会ヲ建ヘント命セラレタリ

之ニヨリ考レハ、教会ノ基ハキリストヲ神ノ子ト信スル信仰ニシテ他ニ基礎アル事ナシ、人若シ誤テ此ノ信仰ヲ取り除テ、他ノ事柄ヲ入レ込ミ教会ノ基トセハ、其ノ教会ハ一時ハ続キ暫時ハ繁昌ストモ、砂ノ上ニ立ラレタル家ノ如クニシテ、大風雨ノ打チ来ルトキハ直ニ流サレ、其ノ損害ハ甚シキニ至ルベシ、乍去此信仰ハキリストノ上ニ置レタルモノ、乃チキリストト連絡ヲ通スルモノナリ、且ツキリストハ生命ノ岩ト云ヘクシテ、教会モ此岩ノ上ニ立テハ、教会ハ死物ニアラス生命ノ教会ナリ、其ノ依テ立ツ所ニ生命アリテ、其上ニ立ツモノ其ノ生命ト連絡セハ、又生命ヲ受ケ得テ生キタルモノトナルナリ、故ニ此ノ信仰アル教会ハキリストト一致シタルモノ、乃チキリストノ

身体、乃肢体ナリ

教会ハ如斯キリストト連絡シキリストト一体トナレハ、其耳、目、鼻、口、四肢ハキリストノモノナリ、耳ハ目ニ向ヒ爾ハ我ニ用ナシト云得ス、鼻ハ口ニ向ヒ予ハ爾ニ關係ナシト云エス、又手ハ足ニ向ヒ予ト爾ト異ナルト云得ス、皆尽ク互々ノ位置ニオリ、互々ノ役目ヲ守リ全体ノ用ヲ為スモノトナルナリ、故ニ仮令体中ノ一小部分痛ムト雖、全体之カ為ニ痛ムニ至ルハ、是レ乃チ全体連絡ヲ通スルニヨル、此連絡アリ然ル後有機体ノ一、致ヲ得ヘク、有機体ノ成長ヲ得ベシ、我等ノ教会キリストト一致シ、キリストニ於テ成長セハ、キリストニ似サルベカラス

〔朱弧〕

否似ルノミナラス、キリストト一体ナリ、故ニキリストノ精神モ随テ顯レサルヘカラス、キリストノ生命。キリストノ真。キリストノ愛モ起ラサルベカラス、キリストノ平康モ生セサルベカラス、キリストノ清キ尊キキリストノ榮ヲモ受ケサルベカラス

兄弟モ目ヲフサキ又人ナキ所ニユキ、キリストノ人ト為其品格ヲ逐想シ賜ヘ、キリストノ無限生命、キリストノ真、其愛、其平康、其清キ、其真ナル、其ノ高キ、其尊キ、其ノ榮ハ如何ニアルヘキヤ

兄弟ヨ、キリストニ備レル此等ノ事ヲ憶測シ得ルヤ、此ヲ仰ケハ弥高、之ヲ見レハ弥深ク、此空虚ニ限無キカ如クキリストニ備レタル徳ヲ望マハ、又限ナクシテ我輩之ヲ憶測スベカラス、去レトモキリストノ徳ハ泉ノ源ノ如ク、昼夜トナク、混々トシテ流レ出テ之ニ就クモノヲ充タシ、之ヲ飲ムモノヲシテ渴ヲ止メ、死スヘキ〔モ〕ノニ再生命ヲ与ヘ、少クシテハ一己人、広クハ幾百万人ノ多キニ及ヘリ、多々益与タヘ、如斯世人ヲシテ餓餧ヲ免カレシムルハ何等ノ恵ミソ、何等ノ好意ソ

○茲ニ少シクキリストノ高キト人間ノ卑キヲ比較シテ、キリストニヨラサルハ如斯、真ニキリストニヨルモノ如斯

アルト云フ所ノ例ヲ挙ケ、人必ラスキリストニヨラサルベカラス、キリストト一致セサル事ヲ論セン

「生命」キリストノ御言葉ニ我ハ生命ナリ、又我ハ生命ノパンナリ、又サマリヤノ婦人ニハ我爾ニ活ケル水ヲ与ヘン

ト○又タ曰ク黙二十一ノ六我ハアルバ也、オメガ也、始ナリ、終ナリ、渴ケルモノニハ価ナシニ生命ノ水ノ源ニ

テ飲ムコトヲ許サン「I am」(before Abrahaham) was I am)」

人間ヲ見ヨ、早晚死スルモノ、肉体モ死スヘク、又靈モ己レノ罪ニヨリ死スヘキモノナリ。嗚呼キリストニシ

テ克ク之ニ生命ヲ与ヘサレハ、何人カ克ク之ヲ救ヒ得ルゾ、昨日ノ人今日無

「真」○キリストノ真ヲ見ヨ、我ハ真ナリト云ワレ、又キリストピラトノ前ニ於テ、真理ニツイテ証センカ為(約十

ハノ三十七)ニ世ニ来レリト、又曰、真ハ爾ラニ自由ヲ得サスベシ、キリストノ真コソ真ニ宇宙ヲ貫ク真、人間

間ノ偽ニ充サレタルピラトノ如キハ、其ノ真ノ何タルヲ了解スル能ワス、キリストニ答テ云ヒタルニ、真トハ如

何ナルモノゾト

「愛」キリストノ愛ヲ見ヨ、我爾等ヲ愛スル如ク爾等モ亦互ニ愛スベシ、是我カ誠ナリ、約十五ノ十三人其ノ友ノ

為ニ己ノ命ヲ捐ツルハ此ヨリ大ナル愛ハナシ

此ノ愛ハ如何ナル愛ゾ、其ノ友ノ為ニ云ワレタルモ、此ノ愛ノ如キハ唯々朋友ニノミ限ラス、キリストノ大敵ヲ

救ハン為ニソ、カレタル愛ナリ、ポール、羅馬ノ五ノ六ニ云ヘルアリ、我儕尚弱カリシトキキリスト定タル日ニ

及テ罪人ノ為ニ死タマヘリ、之ニヨリキリストノ其ノ敵ノ為不敬不義ノモノヲモ導キテ救ワン為ニ死シタルナリ

昔時ヨリ我カ親ノ為、子ノ為、朋ノ為、夫ノ為、妻ノ為、主人ノ為ニ己ノ命ヲ捐テシモノアルモ、敵ヲ救ワン為

ニ其命ヲ捐テ「ル」程ノ至大至広ノ愛ヲ持チシモノアルヤ

〔上欄朱〕  
「世人ハ其ノ愛ヲ私ニ用ユ」

此ノ愛一度世ニ顯ワレ、功名富貴ノ為ニ用ユル所ノ人物ノ精神ヲ一變シテ、之ヲ公平無私万民ノ為。神ノ為ニ用ユルニ至ラシメシハ、基督降世以來適例ハ少シトセス

此ノ愛一度ペテロニ入リタレハ、彼ハ魚ヲ漁スル網ヲステ、実ニ人ヲ漁スルモノ「ト」ナレリ

〔朱丸〕  
「○」此愛一度ボールニ入ルヤ、彼ハギリシヤ人及異邦人又智キ人及愚カナル人ニモ負ヘル所アリ、又曰、（ローマ一ノ十四）我福音ヲ述ヘ伝ヘサレハ、実ニ禍ナリ、（哥林多前ノ九ノ十六）

彼レノ最モ面目トセシ所ノバリサイノ旧衣ヲ脱却シテキリストノ新衣ヲ衣ルニ至リ、主ノ為ニ衆人ヲ救ヒ得ン

トナレハ如何ナル苦辛モ艱嶮モ厭フ事ナク、水火ヲ恐ル、事ナク、十字架モ意トセス、唯死シテ而后止ムノミ

〔朱丸〕  
「○」此ノ愛一度、ロルサ「ルター」ニ入ルヤ、彼ノ固有ノ独乙人ノ精神ヲ一變シテ主ニ捧クル所ノモノトナリ、ウ

オルムスト「云フ」所ノ會議ニ於テ、決シテ彼ノ信仰ヲ失ワス、己ノ説ヲマケス、兀立シテ今日迄モ我儕ヲシ

テ欽慕セシムルハ是レ何等ノ精神ゾ、キリストニヨラサレハ何人カ克ク此ノ精神ヲ持チ得ルモノゾ

〔上欄朱〕  
「キリストノ神聖ナル」キリストノ神聖ナル、又キリストノ平康、キリストノ光リ、キリストノ尊キ、キリストノ

榮ヲ考ラレヨ

我輩古今ノ歴史ヲ「ソウサク」シテ、曾テキリストニ比スヘキ人物ヲ発見シ得タルヤ

其ノ生ノ源、其ノ真、其ノ愛、其ノ神聖ナル、其ノ平康、其ノ光、其ノ尊キ、其ノ榮ハ我儕何ニ譬ヘ、何ニ比シテ之ヲ言語筆紙ニ竭スヘキゾ

古來聖賢アリ君子アリ、暗黒時代ニハ皆當時ノ燈。燈トナリシモ、義ノ太陽一度東天ニ昇シヨリ以來、我輩爭テ此燈

灯ヲ取り太陽ノ光ト併立セシムルヲ要スヘキ、然ラハ我儕主ノ栄光ヲ恐れ、魚ノ船ニ充チテ船ノ將ニ沈マントセシトキ、主ノ榮ヲ見、己レノ罪ヲ知テ、主ヨ我ヲ去リ賜ヘト云ヒシ所ノペテロニ倣フヘキヤ否、我儕皆キリストニヨラサレハ沈没スベキモノ、カノ波ノ上ヲ歩ミ將ニ沈マントセシトキ主ニスガリ、主ヨ我ヲ救ヒ賜ヘヨト呼ヒタル彼得〔ペテロ〕ニ倣フベシ

前上ノ如ク、大略キリストヲ説キ来、此ノ人間ノ有様ト比較セハ如何

キリストニ生命 人間ニハ死

キリストニハ真 人間ニ偽

キリストニハ愛 人間ニハ憎ミ、ネタミ、ソネミ、ウラミ

キリストニハ神聖 人間ニハ不潔、不淨

キリストニハ平康 人間ニハ不平、不利、心配

キリストニハ光 人間ニハ暗、黒

キリストニハ尊榮アリ 人間ニハ卑賤、、

乍去兄弟ヨ、茲ニ我輩ノ尤モ奇トスル所ハ、キリスト此世ニ降臨シテ以来、其ノ門徒ヲシテ其ノ名ニヨリ教会ヲ立シメ、〔<sup>上欄朱</sup>植木ノ接統所〕教会ヲシテ植木ノ接統場トナラシメ、此死スル人間ヲ生ケルキリストニツギ。寧生ケルキリストヲ死スル人間ニツギ、野生ノ木ニ好キ木ヲツギ、遂ニ美ナル花、美ナル果実ヲ結ワシムルニ至リシハ、実ニ驚クヘキ事件ニアラズヤ

〔<sup>朱</sup>※〕是レ乃死灰又モヘ。枯木又花咲キ、失レタルバラタイス又回復セラルノ類ニシテ、尋常一樣ノ事ト見做スヘ

カラス

兄弟ヨ、我輩ハ神ヲ知ラス、全ク罪ノ奴僕トナリ居リシモノナルヲ、キリスト我ヲ自由ニセリ、吾頼ムヘキ幹ナクシテ將ニ枯レントシタル枝ナルヲ、キリスト我ヲ取テ其ノ幹ニ接シ生ヲ得セシ〔メ〕タリ、我レ未タ風波上漂泊スルモノナルヲ、再ヒ岩ノ上ニ登リ生ヲ全フセシメタリ、神ノ賜ヲ尽ク己レ私慾ノ為ニ用ヒオリシ我輩ヲシテ、転シテ神ノ榮ノ為ニ用ユルノ志ヲ起サシメタリ、然ラハ我輩ハ最早我輩ノモノニアラス、キリストノ僕ナリ、キリストノモノナリ、我輩不肖ナルモキリストノ臣属トナリ、キリストノ力ヲ仰キ得ハ、キリストイカテ我輩ヲ助ケサランヤ、茲ニ於テ我輩ボールノ、我弱キ時ニ強ケレハ也〔可林後ノ十二ノ十〕ト云レシ語ニヨリ、弱キモノキリストニヨリ強クナルヲ信スル也

之ニヨリ考レハ、人キリストニヨラサレハ弱ク、キリストニヨレハ強シ、今茲ニキリストニヨルノ一人ニシテ尚強ケレハ、若シキリストニヨルノ兄弟多人数同心協力シテ進ムトキハ、如何ナル勢力ヲ呈スヘキゾ

我ヲシテ若シ

〔朱西〕  
誠ノ帶

義ノ護胸  
ムネヲサシ

和平ナル福音ノ備ヘノ鞋

信仰ノ盾

救ノ冑

聖靈ノ劍ニヨラシメ、加之ナラス、神吾儕ト共ニ〔在〕セハ、誰カ我輩ニ敵スベキ、宜ナリキリストノ陰府ノ門

「之ニ勝ヘカラスト」

如斯我儕神ノ武具ヲヨロヒタル上ハ、人間ヲ尤モ誘惑シ又神ヨリ離シ易キモノ「ト」見ナサル、富貴、利達、學術、智識ノルイハ全ク捨ツヘキヤ、又此等ノモノ人間ヲ誘惑シ易キモノトセハ、此等ハサタンノ道具ト見ナスベキヤ、否、否、富貴、利達、學術、智識ノ如キハ神ノ人間ニ賜ヒシモノナレハ、人之ヲ以テ宜シク神ノ榮ヲ顯ワスベシ、我儕決シテ之ヲ度外視スベカラス、之ヲサタンノ道具ト見ナスベカラス、此等ノモノ皆尽ク神ノ榮ヲ顯ワシ、神ノ支配ヲ広張セシムルモノナルニ、人間ハ早クモサタンニ擒ニセラレ、遂ニ之ヲ用ヒテサタンノ支配ヲ広張スルノ道具ト為スニ至レリ、依テ人若「シ」サタンノ手ヲ脱却シ、キリストニヨリ神ニ歸セハ、此等ノ力ハ、此等ノ賜ハ尽主ノ為ニ用ヒテサタンノ国ヲ襲フニ非常ノ勢力ヲ呈スベシ、人若シ富貴ナリ學術ナリ智識ナリ皆尽ク神ノ為ニ用ユレハ、皆尽ク益ヲ為スモノナレトモ、誤テ己レノ為ニセハ寧ロ此等ノ賜ヲ受ケサルニマサル、己ノ名ノ為ニ用ユルハ神ヲ顯ワスモノニ非ラス、恐クハ為ニ弱キ兄弟ヲモツマツカスルニ足ルベシ

〔至〕

〔上欄〕

「キリストニヨラスシテ世ノ富貴、利達、學術、智識ヲ得ルハ、恰モ新鮮ノ空氣ナリ太陽ノ光線ニフレシテ海山ノ珍味美食ヲ食「ル」カ如シ」、  
〔上欄末〕  
「富貴ヲ基トスベカラス、學問ヲ基イトスベカ「ラ」ス、切ニ活神ノ子キリストヲ信スルノ信ヲ以テ基トスベシ、大家モ謙遜シテ教会ニアリ益尊シ、教会ト離レ何ノ尊アルヤ、何ノ謙遜アルヤ、教会外ノ社会ノ何ソ異ナランヤ」

乍去我等キリストト一致セハ、キリストノ力神ノ大能力我ニアリ、予世ニ向フトキハ陰府ノ門モ決シテ我等ニ勝ツ能サルベシ、此上我等ノ教会維持方ニ要スヘキ事ハ如何ナルモノヤト推究スレハ、尚茲ニ主キリストノ仰セラレタル事存セリ、乃チ

〔上欄〕

「第二〇」我天国ノ鑰ヲ爾ニ与ヘン、爾地ニ於テ繫クコトハ天ニ於テ繫カレン、地ニ於テ釈ク事ハ天ニ於テモ釈カレン

是ハペテロノ信仰アル所、乃キリストヲ活神ノ子ト信セシヨリ此ノ鑰ヲ托シ、教会開鎖ノ權ヲ賜リタル事ニシテ、

ペテロハ此鑰ニヨリ教会ノ門戸ヲ開キ、ペンテコステノ日三千ノ猶太人ヲシテ命ノ道ニ入り来ラシメ、此鑰ヲ以テ

門ヲ開、異邦人

〔朱冊〕

「コルネリオス」ヲシテキリスト信仰ニ入り来、又此鑰ヲ以テ彼偽善ナル「アナニセス」〔ア

ニヤ〕夫婦ヲシテ氣絶セシメ、新ニ設ケラレタル教会中、腐レヲ防キ之ヲ掃除シテ、会中大ニ恐ヲ抱クニ至リシハ

是教会ノ維持法ニ欠ヘカラサルモノト云ヘキナリ

〔上欄朱〕

「広ク門戸ヲ開キテ世人ヲ容レラレタルノ鑰、門外ニ鎖スベカラス」

○予ハ此所ニ付深ク論究スルヲ要セス、唯茲ニ兄弟ノ注意ヲ要スル所ハ、キリストカ教会ニ之ヲ許シ、彼ヲ禁スルノ

權乃會員ヲ審断スルノ力ヲ賜リタル事ナリト信ス

〔上欄朱〕

「厳格ニアリ、冷ニアリ、苦キ顔ヲ為シ人ヲ拒ム」

※吾人弱キ人間ナレハ、必ラス過失ナシトハ保証シ難シ、過失アリトセハ会中必ラス之ヲ督責スルノ責任〔ナ〕カ

ルヘカラス○若シ兄弟ニ過チアリ之ヲ督責セサレハ、会中ノ人々其ノ義務ヲ尽サ、ルノミナラス、実ニ兄弟ヲシ

テツマツカシメ、遂ニハ生命ノ路ヨリ迷ヒ出サシムルニ至ルノ憂モアレハ、必ラス之ヲ救フヲ計ラサルベカラス

○人アリ、水ニ溺レ死ナントセハ誰カ之ヲ救フヲ計ラサルア〔ラ〕ンヤ、増シテ会中ノ兄弟過失ニオチイルトキ

ハ争テ傍看スヘシヤ

馬太ノ十八章ノ十五、十七、ノ如クスベシ  
〔二〇ノ鑰〕〔教義、譴責〕

〔上欄朱〕  
「聖靈ノ特助ヲ要ス」



如斯其腐敗ヲ防ク為ニ避クヘカラサルノ法ヲ設ケ置カレタレハ、之ヲ吾人怠ルヘカラス○如斯道具ノミ  
備リタレハ其ヨリハ何事モ宜シク進ムヘキモノト思テ可ナルヤ、否々一日モ怠ルヘカラス、油断ハ大敵、  
此ノ尽ク備リタルモノヲ日々活用スルコソ大切ナレ、名将ニ三軍ヲ預ケテ戦ワシメハ、常山ノ蛇ノ如ク  
自在自由ニ之ヲ活用シ得ベシ○右同様ニキリスト信徒モ此機械ヲ自在自由ニ活用セサレハ、何モカモ死  
物トナラン。此ノ教会堂モ死物トナラン、牧師モ死物トナラン○信徒アルモノモ其ノ信徒ヲ失ワン○故  
ニ我等此ノ岩ト見ナスヘキ信仰ノ上ニ教会ヲ立テ、互々ニ相愛シ相助ケ相糺シ相責メ相慰メ、共ニ天路  
ノ旅行ヲセン、我等ニ続キ来ルモノニ此教会ヲノコシオキ、之ヲシテ命ノ門乃チ天国ニ入ルノ門ト為スヲ得ハ豈又楽  
シカ〔ラ〕スヤ

〔上欄〕  
「キリストニアル真ノ外他ノ雜物ヲ混セス、キリストノ導ヲ受ケ、互ニ会中ニ教義ノ研窮ト、過失アル會員ノ譴責ニ  
怠ラス、遂ニ會員ノ人ト成リ、義ヲ取、道ヲ慕フノ品格ニ富、公然ト世ノ標準トナリ得、輿論ヲ世間ニ布キ及ホシ、  
風俗ヲ矯正シタキモノト存ス、孔子春秋ヲ作り乱臣賊子懼ルト○我等キリストノ真理ニ順テ世ヲ過セハ、世人仮  
令此道ニ入ラサルモ、我等ヲ憚リ不正ノ挙動ヲ為サ、ル様イタシタキモノナリ」

〔欄外朱〕  
「良機械ヲ以自家ヲ亡ホスノ事アリ、兄弟ヲツマツカスルモノアリ」

〔上欄〕  
「結局」希クハ此ノ教会ハ名利ヲ基トシ其上〔ニ〕オク事ナク、學問ノ上ニオク事ナク、此世ノ求ムルモノノ上ニオ  
ク事ナク、特ニキリストノ上ニオケハ、此教会コソキリストノ云レタル如ク地ノ塩トナルヘク、世ノ光トナルヘク。  
孔子カ君子ノ徳ハ風ナリト云レタル如ク、又春風ニ綴ル、桃李ノ花ノ如ク、仮令言ワサルモ下自ラ徑ヲ為スヘク。  
〔上欄〕  
「岩石ノ上ニ兀立スル灯台ノ如クナルヘシ、如何ナル怒濤来リ之ヲツクモ千々ニ分レテ之ヲ敗ル能ス、而シテ暗夜ニ

航海スル船ヲ安全ニ港ニ導ク事ヲ得セシム」

希クハ会員ト牧師ト「ノ」間ニ真ノ一致ヲ出来シ、共ニ協力キリストノ栄光ヲ顯シ賜ヘ、栄ノ活種ヲ四方ニ播キ賜ヘ、如斯基喜シキ場合ニ臨ミ尚一言兄姉ニ御勸メ申度言ハ、乃チ保羅ノ哥林多人ニ遣シ文ノ十章ノ十二節○自ラ立テリト思フモノ「ハ」倒レサル様ニ慎ムベシ

此教会ハ人間ノミニテ立タス、キリストト人間ト連絡ヲ通シ、然ル后立ツ事ヲ得ベシ

〔<sup>上欄</sup>他教会トモ一致スベシ、一己一己ニナルベカラス〕

〔以下朱〕

○強シト思フモノ、清シト思フモノ、<sup>〔墨点〕</sup>智識アリト思フモノ、足レリト思フモノ

信仰アリト思フモノ、愛アリト思「ヒ」謙讓ト思フモノ、病ナシト思フモノ、自ニ須ク自ラ慎ム

〔明治十六年四月二十日・於大阪教会\* 明治十六年六月二十八日・於京都〕

20 「基督弟子ノ足ヲ洗ヒ賜フ事」

〔包紙〕

〔朱〕

明治十六年五月十一日

東京新栄橋会堂ニ於テ

大親睦会<sup>\*</sup>ノトキ、聖晚餐ノ先ニ当リ此説教ヲ為ス

〔本文〕

恐レ抱カス談ス事

〔歌〕 「十六二十三。」  
〔鉛筆〕

約翰十六ノ十二―十四

〔墨〕 東京 十六年五月  
彦根<sup>\*\*</sup> 十六年九月九日

三人受洗アリ

May. 12th/83

●基督弟子ノ足ヲ洗ヒ賜フ事

基督ハ他ノ学者道德家ト異ナリ、之ヲ為セト自ラ其手本ヲ出シテ教ヘ賜フ

人間間ノ教師ハ実ニ美語善言ヲ吐キ他人ニ教ユルモ、自ラ之ヲ為シテ教ヘス

○独〔リ〕基督ノ如キハ自ラ謙遜シ、人間ナルヨワンネヨリ洗礼ヲウケ、神ノ御意ヲ為スニハ食事モ忘レ、唯々山ニ登リ、屢徹夜シテ祈ラレ、深切丁寧ニ門徒ノ愚ナルヲ忍ヒ、其足迄モ洗ヒ、罵詈雑言ノ冠も受ケ、遂ニ十字架ニ付キ

〔朱〕新キ誠、互ニ相愛〔セ〕ヨ、トーマス、途、真、生命、ヒリプ〔ビリボ〕、我ト神トハ一、世ノ与ヘ得ス又取得サル平安、門徒ノ為ニ向來ノ信徒ノ為ニ祈ル

其教ヘシ所ハ、彼ハ自身ニ之ヲ行レ賜ヒ、別テ門徒ニ別ル、前ニ当リ、身自ラ〔ハリックダ〕遜リ足ヲ洗フ〔誰一人モ立テ其樓

上ニ過キ越ヲ守ルニ当、人々ノ足ヲ洗ヘキ人ナシ〕

〔朱点、以下同〕

〔人ノ遜ラサルハ、愛ナシ〕

基督ニ愛アリ、克ク遜リ、克〔ク〕門弟ノ足ヲ洗フ

愛アリ、人ノ足ヲ洗フ所カ人ノ為ニ命ヲ捨ツ

○名譽心ヨリ命ヲスツル事アリ

母ノ子ノ為ニ死スルノ類

○雪中ニコゞヘ死ス子ヲ救フ

○キリスト十字〔架〕ニカ、リ我輩ヲ蘇生セシム

去ラハ真ノ愛アレハコソ遜ル事モ出来キ、師ニアリ宇宙ノ主ニアリナカラ、克ク遜リテ門徒ノ足ヲ洗フ

予ハ船中ニアリ甲比丹ノ足ヲ洗ヒシトキノ心持チ、愛ヨリ其人ノ足ヲ洗ヒシニアラス、僕ノ位ニアリ、命セラ

〔レ〕シヨリ其足ヲ洗ヒタリ〔心平ナラス〕

○独乙皇帝カ自〔ラ〕病院ニ來負傷〔者〕ヲ見テ、独乙ノ為ニ如斯負傷〔シ〕タカト云レ感涕ヲ流セシカハ、兵

士ハ泣キ、是テコソ皇帝ノ為ニ死スト云ヘリ

〔墨〕

○士ハ己レヲ知ルモノ、為死ス

○人ノ食ヲハムモノハ人ノ為ニ死ス」

一滴ノ涕ドコロカ自ラ門徒ノ足ヲ洗ヒ、其上ニモ基督ハ十字架ノ上ニ其宝血ヲソ、ゲケリ、昔時武士ハ帝ノ為、或ハ其主人ノ為ニ何時ニモ其馬前ニ死スル心得アリ、我輩我主キリストアルニ尚此身ヲ捧ル事ノ出来サルハ如何、肉体ノ死易シ、心ノキリストニ於テ死スル難シ

手本ニ出シ之ヲ為セ「ト」命セリ

「男子大丈夫成人ノ心ヲ捨テ、子供ノ又母ヲ慕フ如ク母ヲシタイ、母ヲ尊フ如クキリストヲ学ヘ

子供無心ニ学得

子供ノ如クナラサレハキリストヲ学ヒ得ス

○母ヲ慕ヒ母ヲ学ノ情「亜細亞、欧州、亞弗利加モ米洲ニ南洋群島ニ同一」

是ニ宗派異ナルモ、キリストヲ学得ヘシ、一致シ得ベシ

キリストヲ「ニ倣ヘ」学ヘ

「或ル有名ナル」画工「キリストノ晚餐杯」

日本ノ猿カキ

キリストヲ学ヘハキリストニニル

◎大坂ニ宣教師ノ一致アリ

京都ヨリ 今回諸方ノ兄弟 一致

電信来ル 今晚 内外ノ集 一致

九、十、十一

二  
□  
□  
へノ祈 マセト

人間ノ競争。軋轢ヲ恐レタル徴ナリ

ニヤ来リ助に生キル人」

競進会ノ類ニアラサルベシ

キリストニ於テ一致ノ目的

○主基督ハ愛ナリ、吾々ニ赤恥ヲカ、セ賜ワス

◎写画ニ此壁。ニ終々ノ心ヲ□。シ賜ワス

忍ヒテ  
随ワス

足ヲ洗 互ニ如斯為ベシ

兄弟ニ恨ヲ包マス

七、七十ヲカケ許ス

如斯ナレハ福ナリ ○人ノ心ヲイタメル勿レ

□  
□  
ク夢

「二人ナレト祈ル」

○ハヤ死地ニ入レリ ●城ヲ落サネハナラス

城ハ己ノ心ナリ 別ニ三千万ヨノ城アリ」

〔朱〕此精神ノ抱各其所ニ□ ○カヘル

〔給電〕

ペンテコステハエルサレムニアリ東京

干戈ヲ動カシ

天下ヲ吞併セシ

昔ノ英雄ハ皆永ク其ノ国ヲ存保スル能ハス○キリストノ愛ノ支配ハ今ニ至迄益皇張ス

哲学理学ノ開ケタ世界ニ益進ムハ何ノ理ソ、不信者之ニ答ヘヨ

（背水ノ陣）此ノ戦ハ只愛ノ勢力ヲ要ス

〔明治十六年五月十一日・於東京新栄橋会堂 明治十六年九月九日・於彦根〕

21 「真理ノ証シ」

約翰十八章三十七節

〔朱〕  
「大親睦会之節」\*

○主真理ノ証ヲ為、遂ニ真理ノ國ヲ世ニ起セリ

一キリスト真理ノ証ヲ立テ、死ニ至セリ<sup>〔ル〕</sup>迄其証ヲ為セリ

二キリスト真理ノ証ヲ立、死テ後克勝ツ事ヲ知レリ、生前ニアラス死後ニアリ

三キリスト真理ノ証ヲ立、真理ヲ以人間ヲ感動セシメ、遂ニ人間ヲシテ其志ヲ続カシム、今真理ノ証ヲ為ス者宜〔ク〕

キリストヲ學ヒ、世人ヲ手本ト為ス勿レ

政府○學者、輕蔑スル○意トス勿レ○此ノ潮流ヲ支エル誰ソ○水ノ譬○真理ノ功能

○吾人社会政府ノ改良

○偽ナキ人物生ず

○博世ヲ愛スル人物生ス

詩人ダンテ、ミルトン

建築人マキルアンジロー〔ミケランジェロ〕

画工ラファイエル

人ヲ愛ス、ジョン・ハオルド

○ウィルバホース

米國合衆國ノ基ヲ立「シ」華盛頓〔ワシントン〕

黒奴ニ自由ヲ与ヘ「シ」リンコルン

誰カ此等ノ人物ヲ出来セシヤ

真理ヲ証セルキリストヨリ他ナカルベシ

◎卑ニ就ク命ヲ与フ⑤

カリラヤノカナ○ベセスタ「ベテスダ」ノ池、三十八年病ニ臥シタル者

盲人ノ目ヲアク

シロアムノ地、ベタニヤニ死シタルラザロヲ生カス

ポリカープ「ポリニカルボス」八十六年④

キリスト真理ノ証、〔カ〕「ラ立」、テ世ニ勝タシム

一キリスト野道ト異跡ヲ以真理ヲ証ス〔カ〕

、キリスト死ヲ以、真理ヲ証す

二キリスト蘇生シ以、真理を証す、十回顯ハル

キリスト聖靈ヲ下シ

三キリスト罪ニヨリ死スヘキ人間ニ新キ命ヲ与、以真理ヲ証ス

※馬太十二ノ二十

ポール <sup>〔ムカシ〕</sup> 古 死シ者ナルカ今生クト云レシ事

自罪人ノ巨魁ト称ス

八、十一

使徒行伝四ノ十三、十九 三十一、三十三

不学ノペテロ、ヨワンネ爾ニ聞カ神ニ聞カ裁判セス

キリストノ蘇生ヲ証シ真理ヲ証シテ不止

○ニコデモ更ニ生ルヘキヲ説キ

○サマリヤノ婦人ニ <sup>〔生〕</sup> 命ノ水ヲ以

○カリヤノ湖上ニ而命ノパン——約六ノ三十一、三十三

○我ハアブラハムノ前ニアリト証 約八ノ五十八

○我ハヨキ羊飼ニテヨキ羊飼ハ羊ノ為ニ生ヲ捨ツ○十ノ十二

吾ト父トハ一なり 十ノ三十

○予新キ誠ヲ爾〔等〕ニ与ヘ、乃爾等相愛スベシトノ事ナリ、吾カ爾を愛スル如〔ク〕爾〔等〕モ相愛スベシ

<sup>〔補〕</sup>「聖靈ヲ賜ワルノ約ヲ被成、安キ与」十四ノ二十五、二十七

○予爾〔等〕ヲ愛スル如ク汝〔等〕モ亦互ニ愛スベシ、之吾カ誠ナリ○人其友ノ為ニ己ノ命ヲスツルハ、之ヨリ大イナル〔愛〕ハナシ十五〔ノ〕十二、十三

山上ノ教

又葡萄ト枝ノカ、ハリヲ信

十四の二十三

人若シ吾ヲ愛セハ吾言ヲ守ラン、吾父ハ之ヲ愛セン、我等来テ彼ト共ニ住ムベシ

聖靈□□ヲ得

二十五

□□□□与ヘ賜ヘリ 二十七

〔ママ〕  
ケシニ何ノ罪科アリシヤ、此正直ナルキリスト、信切ナルキリスト、真理ノ王ナルキリスト、何ノ罪科アルヤ、猶太人ネタミヲ以テ此義人ヲ執リ不義人○神ヲ、ケカス者ナリ〔ト〕被云、又ピラト之ニ尋ヌニ爾ハ何ヲ為セシヤ〔ト〕被申シカハ、我國ハ此世ニ非ス、我國此世ナラハ吾ノ僕ハ戰ベシト被云シカハ○王ナルト尋ヌ、王ナリト答フ、吾ハ真理ノ証ヲ為ス〔為〕此世ニ生ルト云レ、更ニ恐ル景色モナク、更〔ニ〕逃辞モ吐カス、真理ヲ証〔シ〕テ兀然不屈、ピラトヨリ真理ハ何カト云レ、猶太人ヨリハ十字〔架〕ニツケヨ、十字架〔ニ〕ツケヨト被云○ピラトノ偽リ○猶太人ノ偽リ、シーサルノ外王ナシト云、此偽リノ内ニ真理ヲ証〔シ〕テ不止、棘ノ冠モ兵卒ノ不礼嘲弄モ更ニ意トセス、門徒ハ去リペテロハ鶏ノ鳴カサル前彼ニ三回知ラスト云ヒシニ許シ置キ鞭テ〔打〕タレ  
十字架上ニ揚ケラル、モ決シテ恨ミタル言ヲ不出、釘ニテ手足ヲウタレ其痛名状スベカ〔ラ〕サルニ、此者ハ為ス事ヲ不知、許シ賜ヘト神ニ祈リテ氣ヲ絶シ、遂ニ己ノ血ヲ十字架ニ印シ真理ノ証シ賜ヘリ、之ヲ想像シテ其心緒如何ヲ知り度キ者ナリ

※ローソウ〔ルソー〕ノ言、ソクレテス〔ハ〕豪傑ノ如ク死、キリストハ神ノ如ク死セリ、乍去血ヲ以証スルノミテハ未タ全ク人間ノ心ヲ動カス能ワス、尚確定ノ証ナキ能ワス、唯ノ証ノミニテ〔ハ〕不足

④キリスト復活ヲ以テ真理ヲ証ス

※コリント前書ノ十五章、若〔シ〕キリスト死ヨリ蘇生〔セ〕スハ我等ノ信仰ハ空シト云レシ通、キリスト若シ十字

架上ニ死シテ再ヒ生キスハ彼等門徒ハ恐クハ尽失望シ、遂ニハ信仰ヲモ失ヒ、豊太閤死シテ豊太閤ノ天下亡ヒ、徳川氏一〔タ〕ヒ鹿ヲ中原ニ失ヒテ徳川ノ天下弊レシ如ク、キリストノ真理モ恐クハ彼ノ墓中ニ葬レシニ、真理ニ生アリ、真理ノ王ハ死ス能ワス、悪人ノ束<sup>マ</sup>庄ヲ受ケ難ク遂ニ脱<sup>ト</sup>テ靈<sup>ミ</sup>体<sup>ミ</sup>トナリ賜ヒ、兵丁ヲ以守ラセシニ彼等眠ル内、天使来墓ヲ敗リキリストヲシテ脱去リ、人力以遂ニ束<sup>マ</sup>縛<sup>ミ</sup>シ能ハサラム

第一カリラヤヨリ来タル婦人ニ顯ワレ、又十門徒ノ所ニ顯レ、トマスオラス

再十一門徒ノ

〔マ〕  
トマスオレリ、手トアバラヲ見ヨ

凡四十日間数回門徒ニ顯レ天国ノ奧義ヲ話サレテ、門徒ニ此福音ヲ万世ニ伝フベシト命〔ジ〕、カンラン山ヨリ昇天シ賜ヘリ、是トキヨリ門徒深クキリストノ蘇生ヲ信シ、彼等ノ信仰弥々進ミ、皆喜ニ充タサレテエルサレムニ帰<sup>カ</sup>レリ、主別ル、前、約束ノ充ツル迄エルサレムニ止マルベシト命シ、其ノ靈ノ下ル迄ハエルサレムニ待タシム

⑤キリスト聖靈ヲ遣シ、門徒ヲシテ真理ヲ証セシム

ペンテコストノ日ニ聖靈下リ門徒ニ新キ命ヲ与、方言ヲ談スル力ヲ賜ハリシペテロ、ヨワンネ、聖靈公然ニ神ノ殿ニ此復活ノ道、救ノ道、真理ノ主ナルキリストヲ説キナハ、猶太人モ牢モ何ニ物モ之ヲ止ル能ハス

※ポール○ポリカép○オーゴステイン○クリシスコム〔クリュソストモス〕○シヨン・ホス、ズウイングリ、キャ

ルウイン○ルーサ、ウィツキリフ○ジョン・ノクス、エドオールド○ウエスレー○ホイットフィールド○皆キリストノ真理ヲ証スル為統々輩出ス

以上掲ケシ所ハ皆、此道之為ニ生ヲ懸ケ「テ」真理ヲ証セシニ、世人ハ恐クハ彼等ハ僧侶、世ヲ益セルノ人ニ非ストノ評モアルベケレトモ、此道ヲ説ク者無キトキハ如何シテ之ヲ人ニ聞シメ信セシメン、此ヲ教ユル者アリテ習フ者アリ、習フ者アリ而後各人ノ改良期スヘク、各人ノ改良ヨリ社会ノ改良、政府ノ改良ニ及フヘクシテ、社会ニハ偽ル事、盗ム事ヲ恥チ、夫婦「ノ」大倫ヲ重ンシ、真実ヲ尊シ〇人命ヲ重ンジ、残酷ナル事、人殺シ、種々之惡行ヲ、不品行ヲ改メ、而ル後ハ真人物起ルベシ、大丈夫モ期スベシ

※キリスト教ヲ奉スル者伝道者ノミニ限ラス

詩人      ダンテ    ミルトン

画              ラフィエル

建築          マキルアンジロー

愛人家      ハオールド    ウイルバホース

米國ノワシントン    リンコロン

何者カ克此人物ヲ生セシメント

キリストノ真理ニ非アラ<sup>〔ママ〕</sup>「ズ」シテ何ソ

キリスト世ニ降り、世ノ潮流ヲ換エ、世ノ歴史ヲ一変シ、万国ノ人ヨリ踏付ケラ<sup>〔レ〕</sup>タル此真理ヲシテ、世ノ文明ノ中心ト命ナラシメテ、駸々乎トシ<sup>〔テ〕</sup>進ム、何者ソ之ヲ止メ得ルヤ、何ソ之ヲ妨キ得ルヤ

※理学ハ人ヲ救ヒ得ズ「ナポレオンハ云レタリ」、然ラハ理学ハ恐ル、ニ足ラス、理学来吾等ヲ支ヘハ其上ヲ超過シテ進ムベシ、理学ニシテ此道ニ激セハ世ニ益ナキ所ナリ、キリスト教ノ至ラサル所ハ何ノ処アル、北ヨリ南、西ヨリ

東ヨリ之ヲ奉戴セサルハナシ

〔上欄〕  
「水ノ譬」

※独乙ノ不信を、バワー「バクア」歴史中ノ不思議ト云

ナホレオンの話し――

コンクルージョン〔鉛筆〕  
嗚呼アレキサンドル、シーサ何ニアル、ナホレオン、ジンジスカン〔キ〕、豊太閤、英雄死〔テ〕名モ

亦消ス、キリスト死〔テ〕真理勝ツ

死灰又生ス 家造ノステタ石、家ノ角ノ石トナル

〔明治十六年、場所不詳〕

## 22 古キ人新シキ人

〔朱〕  
十六年五月 安中ニ於テ

古キ人

〔慾ハ百惡ノ依テ生スル所

新ラ〔シ〕キ人

〔神ノ真理ノ義ト清ニ象トレルモノ

世ノ中ニハ兎角変化アリ、進マサレハ退ク、退カサレハ必進サルヲ不得モノナリ、中間ニアリ依然トスルヲ得ス  
世ノ中ノ変化ハ実ニ活潑ノモノ、之ヲ歴史ニ徴スレハ

〔鎌倉ノ朝ヨリ北条ノ執權、足利天下、織田信長、太閤天下、徳川天下、維新明治ノ政府トナル

妙義山。秦ナ〔榛名〕山。赤木山。ノ年々歳々依然トシタル様ナルモ、大變ノ変化、年々山ノ石カケ砂流れ、数千年  
ノ後ニハ山ノ形モ變スベシ

○山ヨリ流れ下ル水ノ如キハ、何レヨリ来タレルカ分カラス

〔田ニ作ル作物モ、山ニ茂ル草モ、年々同シキモノニアラス

人ニシテ変化ノ大ナルモノ

一身ニシテ肉体ノ日々變ス、長年月ニ大変化アリ俗ニ之ヲ厄年ト称ス、変化ノ大ナルヲ云フ

〔一身ノ歴史ニシテ同様、昔時予ハ板倉ノ家臣ナリ、生涯身ヲ板倉家ニ任セ忠ヲ尽サント思ヒシニ、志操ノ替り来リ  
遂ニ外国ニ出カケル、板倉家ニ変化アリ君臣ノ縁絶ヘタリ

維新ノ前ニアリシ風俗

○寺々ナドモ昔シハ盛ニナリシニ、今修繕スル能ワサルニ至ル

世ノ事ヲ厭ワル、ナラン

人間ハ此世計ニ止マラス、此世ハ變化アリ頼ムニ足ラス

○〔變化ナキモノ〕アリ、乃チ一ノ神ナリ

家アリ、田地アリ、金アリ〔テモ〕不満足、勘定通りニ往カズ、乃變化ノ世ナルニヨル

人間ノ志操世界

太閤ノ如キ草履取ヨリ普請奉行、大將、遂ニ天下ヲ取ルニ至ル

皆人ノ變化

昔時ヨリ理学ノ考ヘモ進ム、天下ヲ治ルモノノ考モ進ム

〔独裁天下、立憲ノ天下トナル〕

宗教ノ如キモ變化

釈教ニテ足レリ、高尾(天原)神道ニテ足レリトセシモ、世移時變、昔ハ大禁制ノ耶ソ教モ、僅ニ七八年前ヨリ種ヲマキ今日ノ

好結果ニ至リシト雖モ、予メ計〔リ〕シニアラス

此新築アルハ夢ニモ知ラス○金ヲ出シ之ヲ築キシモノハ甚喜ラル、ナラン

学校ノ新築、会堂ノ新築、又中学ノ企アルハ此碓氷郡モ動キ出シテ止マ〔ザ〕ルナリ

茲ニ動キ出シテ止マサルモノ別ニアルアリ、諸兄弟ノ信仰ノ起リシ事

七年三人ノ信仰漸ク安息日ニ集マル

百人ニ近ニ至ル、暗キヲ捨、太陽ノ光ニ来ル

〔補〕私ノ知ラヌ人々続々入り来ル

〔補〕「夜アケル」

旧キ慾ヲステ新ラシキ靈ヲキルマタ二十五章ノ十三 十人ノ〔娘〕○信者ノ内ニ更ニ生レ變シモノアルヲ聞ク

△神ニ似セテ人間ヲ作ル、人間罪ニヨリ神ヨリ遠カル、神ヨリ遠カリ不<sup>。</sup>幸ヲ来ラス

神ハ人間ヲ新ニシ賜フノ力アリ

〔補〕「天国ノ民コソ維新ノ民タルベシ」

◎石工ノ大理石ヨリ人形ヲ作ルカ如シ、段々ト人ニ似ス

◎洗濯屋ノ譬へ 勝先生ノ話

中村

天国ハキリストニアリ〔テ〕新ナリタルモノノ為ニ備ヘラレタリ

此新築ヲ喜ヒ

◎天国ノ新築ヲ喜ハサルモノヤモ知レヌ

〔明治十六年五月二十日・於安中〕

23 悔 改

〔包紙〕

〔朱〕  
十六年六月十八日 西京第二〔公会〕

悔 改

〔本文〕

路可十三章ノ一ヨリ九章<sup>〔節〕</sup>  
十六年六月十七日\* 京都

〔鉛筆線〕

「16

Dec. 9th

彦 根<sup>〔鉛筆〕</sup>

◎爾等悔改セズハ皆同シク亡ホサルベシ  
悔改トハ何ソ

古キ罪ノ衣ヲ脱、新キキリストノ衣ヲキルナリ

暗黒ヲ去テ光明ニ就クヲ云リ

世ヲ去リ神ニ帰スルヲ云フ

キリスト曰、爾等悔改セズハ皆同シク亡サルベシ

爾等ハ悔改セシヤ否、〔然〕ラスンハ爾等モ亦亡サルベシ  
 今夕予ハ我ヲ忘レ兄弟ニ薦ム

キリストノ爾等悔改セズハ皆同シク亡サルベシト云レシ如ク、満場ノ兄弟ニシテ未タ悔改セサルモノハ決シテ、神  
 ノ御意ノ何タル、天国ノ何タル、救ノ大切ナル事ハ明瞭ニ了解シ得サルベシ

人未タ悔改セズンハ富貴利達ノ内何レ〔カ〕ノ奴僕トナリ、情慾ノ為ニ使役セラレ、此朽チハツベキ世ニ慕々思ヲ回ラ  
 シテ神ノ神聖ナル事ヲ心ニサトラス、望ヲ天国ニ置カス、己ノ救ヲ求メス、唯此ノ世ノ為ニ働キ又世ニ於テ没スベシ  
 人己ヲ此ノ世ノ暗黒ニ所シ更ニ意トセス

天国ノ如キ、キリストノ救ノ如キハ更ニ關係ナシトス  
 〔朱点・以下同〕

天国ヲ度外ニオキ○心ノホライゾンノ外ニ抛チ出ス  
 〔朱線・以下同〕

天国ノ実価ヲ知リエス

アフリカ人ハ雪ヲ知ラサル如キ暗ニスミ、暗ヲ好ムモノハ光ヲ知ラス、光ニ来ラス

暗夜充分ニ熟睡シタル人ニ光リヲ見スレハ、其ノ光ヲ好マス

此世ノ歴史ハ尽ク罪惡ノ歴史ナリ

殺害、窃盜、淫乱、姦通、譎詐

喜ナク、望ナク、仁ナク、義ナク、神聖ノ分子ナク、陽ニハ徳義ニ似タルモ多クハ私慾私心ヨリ発ス

人罪惡ニ沈マハ神ヲ見ル能ハス

罪惡ニ沈ムノ靈魂ハ沈滅ニ趣クベシ

〔此我ヲ罪惡ノ才ノミ望ムトキハ、我輩ヲシテ唯戰慄セシムノミ、然永遠ヨリ永遠ニ生キ賜フ神ハ讀ムヘキナリ  
神ハ此ノ罪アル世界ニ救ノ道ヲ立賜ヘリ〕

此ノ聖書ハ乃人ノ罪ト神ノ立テタマヒシ救ヲトク所ノ歴史ナリ、此書ニヨリ我輩左ノ四件ヲ知ル  
〔朱弧〕

甲 総テノ人ハ神ノ前ニ罪人ナリ

乙 罪人ハ神之ヲ受ケ賜ハス

丙 罪人若シ神ノ恵ヲ要スルナレハ、先ツ己ノ罪惡ヲ去テキリストヲ信ス神ニ歸シベシ  
〔シ〕〔ス〕

丁 キリストヲ信スル神ニ歸シモ〔ノ〕ハ、神一必ラス之ヲ救ヒ賜ハン  
〔スル〕〔シ〕〔朱〕

此ノ事タル聖書ヲ一覽スルモノハ必ラ〔ズ〕知ルヲ得ベシ、然シ乍ラ聖書ヲ讀ム人ノ尽ク悔改セサルハ何ソ

①人此ノ世ヲ愛シテ神ヲ愛セス

②人已ノ情慾ノ望ニ任セ神ノ招キヲ受ケス

③人已ノ栄ヲ求テ神ノ栄ヲ求メス

④人罪惡ニ沈ミ神ニ来ラス

⑤人已ノ義ヲ求テ神ノ義ヲ求メス

⑥人信者ノ非ヲナラシ己ノ魂ノ為計ラス

⑦人富貴利達ヲ拝シテ神ヲ拝セス

⑧人罪ニ沈ミ近目トナリ未來ヲ見ル能ハス

〔朱弧〕  
〔今〕ハ早シト云テ一日後レニナル  
〔己〕ノ目ヲ閉チ真理ハ見ヘスト云

モン。モス。洞ノ無目魚ハ光ヲ見サルモ尤モナレトモ、真理ノ光ヲ見得ヘキ目アリテ之ヲ見ルヲ好マサルモノハ、如何ニ□□心ノ門戸ヲ閉ツ

茲ニ至テ決シテ人。為。人。力。ノ克ク為シ得ヘキ所ニアラス

〔神ノ力ニアラサレハ克人ノ心ヲ動カス能ワス

〔神ノ之ヲ招キ賜フニアラサレハ、人心ノ戸ヲ開クヲ好マス

〔神ノ之ヲ助ケ賜フニアラサレハ、人克悔改シテ進ム能ワス

〔朱弧〕悔改ハ神聖ナル生涯ノ第一階梯ナリ

悔改ハ赦罪ヲ得ルノ第一着歩ナリ

悔改ハ天国ニ入ルノ通券ナリ

悔改ハ人生生涯ノ回轉ノ点ト云ベシ

〔宋〕悔改ニ遅速アリ、一夜、一夢、一話、一事、一ノ歌。災難ニ逢フテ変スアリ

〔朱弧〕ポール

悔改前後ノ所業ハ雲泥ノ差別アリ

アウグスティン

同、無花果ノ下テ人ノ取テ読メト云フ歌ヲキク

ルーサ〔ルター〕

友人雷ニ打タレテ死ス

ロバルトモルレー、マリチェーン

兄弟 David ノ死ヨリ悔改ス

一時ニ感シテ変スルアリ

漸々乎シテ道理ニ訴ヘ、遂ニ悔改スルアリ

Gilbert West  
on Lord's resurrection  
Lord Littleton  
on Paul's conversion

非常ニ事実ヲ研窮シテ悔改スル例

ゴーフ氏ハ Dr. コルク氏ノ説教ヲキ、悔改ス、禁酒会ノ先導者トナル

ムーデーハ人ニ知ラレタ人ナリシガ、悔改ノ後ニ此ノ広キ世界ニ知ラル、多人ヲシ「テ」キリストニ  
来ラシム

此等ノ人ノ悔改セシ所ヲ見ルニ、多クハ己レニ力ノ無キモノノ如ク見ユ、  
「雷」ニヨリ打タオサレタル  
カ如シ」

〔朱丸〕  
○使徒行ノ二章ノ三十八節ニ

〔朱丸〕  
○人々ペテロニ向ヒ、我等ハ何ヲ為スベキヤト問フ

答 悔改シ受礼セヨト

〔朱丸〕  
○ポール、主ヨ我ニ何ヲ為サシメントシ賜フヤ

答 デマスコニ行クヘキヲ命セリ

○或ル人ハ心ノ卑屈ナルナリ、漸々戰慄シテ来ルナリ、悔改ノ方ハ大ニ異ナルモ、之ヲ受テ容レ賜フ主ハ一ナリ  
○茲ニ注意スヘキ一事ハ、少年ノ内ニ此道ヲ信スルニアリ

或ル人ノ表ニヨレハ

二十迄 五百四十八

二十 三十 三百三十七

三十 四十 九十六

〔君等ハ尚青年ナリ、心ヲ神ニ呈スルノ好機會ナリ

前途ハ花ノ山ノ如シ、甚芳シ

天国ノ途ハ何時ニテモ入ルベシ、青年モ中年モ老年モ何時ニテ〔モ〕入ヲ得ベシ

今注意シ賜ヘ

〔君ノ前 二途アリ 此世ト天国

休暇ニテ離散ス、再会ハ期シ難シ

今君等ハ試験ノ用意ニ急ナリ

今天国ノ試験ノ用意ハ如何、早晩来ルベシ、今夜来ルモ計ラレズ

天国ノ門ハ開ケリ、神招ク、聖靈招ク、天使招ク、十字架上ノキリスト招ク（我等兄弟ニ代リ君等ヲ招ク）

君等ノ今悔改スヘキ時ト信ス

〔当時東京横浜ニ主ノ恵ノ顯レ、多クノ人ノ悔改スル秋ナリ

今ハ恵ノ時、救ノ日

予ノ実験ノ

John 3:16

〔今ヤ斧ガ樹ノ根〔ニ〕アル故ニ、美果ヲ結ハサルモノハ  
キラレテ火ニ投入ラル、也

〔明治十六年六月十七日・於京都第二公会 明治十六年十二月九日・於彦根〕

## 24 宗教ハ万民ノ望ム所也

〔包紙〕

〔朱〕

十六年六月 五年生卒業ノトキ

宗教ハ万民ノ望ム所也<sup>\*</sup>

〔本文〕

羅馬一章十六節 〔歌〕 101 33 26

我ハ福音ヲ恥トセス、此福音ハ猶太人ヲ始メギリシヤ人総テ、信スル者ヲ救ハントノ神ノ大能<sup>チカラ</sup>タレバ也

恥トスル所ハ何カト尋タレハ、何時デモ己レノ良心ニ問テ良心ノ許サヌ所カ、又ハ己ノ為セシ所カ、全ク道理ニ反スルカ徳義ニ叛クカ、何ニカ己ノ心ニ逞シトセサル所ヨリ起ルモノナレハ、此所ニ保羅カ我ハ福音ヲ恥トセスト云ハレシハ、此福音ナルモノハ如何ニ吟味スルモ此ハ真理ニ反スルモノニアラス、乃チ之ヲ信スルモノヲ救ワントノ神ノ大能タルヲ以テ、如斯断乎ト我ハ恥トセスト云ハレシナラン 予ハ不肖<sup>サト</sup>乍ラモ亦之ニ 曉ル所アリ

此福音ハ乃チ之ヲ信スルモノヲ救ワントノ大能タル事ヲ了解シ、信知シ、否確信スレハ、今日ハ此保羅ノ語ヲ借リテ我々ヲ恥トセス、此福音ナルモノハ信スルモノヲ救ハントノ神〔ノ〕大能タルヲ以テ、兄弟ノ前ニ証セン事ヲ要ス

〔朱点・以下同〕

〔予ハ先日東京ニアツテ一紳士ヲ尋ネタルニ、其ノ人ノ吐カルニ、天下ノ輿論ハ天下ノ学者ニアラスシテ却テ井戸<sup>カミユイ</sup>ノ所。湯屋ニアルベシ

天下ノ学者ノ論説、僅ニ屈指ノ人ニ限ルヲ以テ輿論ト称スヘカラス、宗教心ハ天下ノ輿論ナリ

〔勝安房先生「津田ト同伴」ニ面会シ、或ル少年カ此キリストノ道ヲ信セリト話セシカハ、成程妙ナリ、真理ナレハ

少年ニ分カル答ナリト答ヘラレタリ

此等ノ話シヨリ推究シテ考フルニ、全世界ノ人民ハ開化不開化。開明野著ヲ論セス、宗教心ナルモノハ実ニ天下万国ノ輿論ニシテ、屈指ノ学者人傑ノ論説ヨリ生セシモノト見做レサルナリ

簡略ニ此宗教心ヲ分析スレハ、乃人民其ノ依テ出テ来シ所ノ元ニ遡リ、其ノ原ニ帰セン事ヲ計ルノ外ニハ出サルベシ

〔宮殿ヲ建テ偶像ヲ作り之ニ使フルノ類ハ、其ノ出シ原ヲ暗々裏ニ探リ、又何トカシテ其ノ心ヲ慰メントシテ種々ノ祭ヲナシ、備ヘ物ヲナスニ至ル

〔宇宙ヲ万物ヲ神トナシ拝スルノ類ハ、又人力ノ及ハサルヨリ其ノ力ヲ拝スルナリ、又

〔仏ヲ信シテ極樂ニ行キタイト云望ミハ、乃其ノ原ニ帰スルヲ願フナリ

〔其ノ原ニ遡リ、又其ニ帰セント云ハ乃チ宗教心ノ万国一致スル所ナリ、然ラハ之ヲ万国ノ輿論ト云ヘキナリ、是恰モ磁石ノ北方ヲ指スノルイ

人智ノ足ラヌ所。人智ノ誤謬ヨリ其ノ針ヲ真ノ北ヲサ、ザラシムルモ、是レ当ラスト雖遠カラサルナリ

支那ノ孔子ハ 天ト云フ

仏門ハ 極樂ト云フ

サクレテース〔ソクラテス〕ハ 〔万物ノ主宰ト云フ、又知恵ト云フ

易ノ繫詞ノ伝ノ云ヘルアリ

神ヲ究メ化ヲ知ルハ徳ノ至レルナリト\*

之ニヨリ之ヲ見レハ孔子、釈迦、ソクレテース等モ全世界ノ輿論ニ卓越シテ新説ヲトナヘシニアラス、矢張輿論ノ中ニアリ輿論ノ幾分ヲ占メタルナリ、全世界ノ民之ヲ求メ又数万ニ卓越シタル孔子、釈迦、ソクレテース等モ之ヲ求メテ充分ニ之ヲ得ズ、亦充分世人ヲ満足スルニ至〔ラザ〕リシハ、彼等愚ニシテ如此キ考ヲ為セシニアラスシテ、一般人民ニ卓越シタ智識ヲ以テスラモ尚不足ニシテ、之ヲ發見スルニ至ラサリシナラン

然ラハ此等ノ人ニシテ天ヲ説ク能ハス、人間ノ帰スル所ヲ知ラサレハ、人間ノ原モ亦人間ノ帰スル所モ亦空漠ナルモノニシテ、之ヲ真理トスルニ足ラスト云ハル、近眼家モアルベシ、此真理ヲ駁スル輩ハ、一時己ノ智力ヲ以テ幾分カ人心ノ向フ所ヲ変換シ得ルモ、矢張北方ノ向フ磁石ヲ手ヲ以テ、或ハ西ニ或ハ東ニ向ケシムルノ類ニシテ、手ヲ放テハ針ハ元ノ北方ニ向フベシ、此宗教心ニ付テハ人間ニヨリ最モ探索研究スヘキ一大事件ナリ

古来ヨリ我國ニ於テ少シク学ヒタル者ハ、宗教ヲイヤシムルノ心アルハ、真理ヲ慕テ充分ニ達シ得サル宗教ナルヲ以テ誤謬多カルベシ、依テ之ヲイヤシメ之ヲ恥〔シ〕ム、遂ニ数百年ノ習慣トナレリ

未タキリストノ生ノ道、乃救ノ道ヲ知ラサル兄弟ヨ、我道ヲ他ノ宗教ト同一視シテ之ヲイヤシム勿レ、世ノ習慣ノ為ニ盲目トナル勿レ、願クハ活眼ヲ開キテ、人ニ宗教心アルハ如何ナルヤヲ推察研究セラレヨ

〔今日吾カ恥トセスシテ説ク所ハ乃キリストノ福音ナリ、此者之ヲ信スルモノ〕ヲ救ハントノ神ノ大能ナルヲ証セン

人其ノ初ヲ探リ、其原ニ帰スルヲ求ムルノ念慮ヲ充分ニ満足セシメシモノ、我カ説ク所ノ福音ナリ、是レ合ヒ鍵ノナキ錠前ノ如キモノナルニ、神其ニ合フ所ノ鍵ヲ賜ハリタルナリ

是レ乃チ人ヲ救ノ途、人ノ汲々求ムル所ヲ満足セシムル教ナリ

キリスト此世ニ下リ世人ニ説カレシ所ハ、世界未曾有ノ教ナリ○神ヲ知ラシメ、神ニ歸スルノ途ヲ設ケ賜ヒシハ乃チキリスト

キリスト來リテ世人ノ望ヲ満足セシメ、世人ノ望ヲ起サシメ、又社会ノ有様ヲ一變セリ、一新セリ

〔吾カ恥トセサル理由ハ、此福音ハ他ノ宗教ト異ナリ非常ノ活潑力アリ。感化力アリ。唯ニ人ノ言語ノ紙上ニ記サレタルノ類ニアラス、之ト共ニ聖靈ノ働キアリ、或ハ両刃ノ劍ノ如ク、或ハ烈火ノ如シ

〔人間ノ情慾ヲ切斷シ又ハ燒尽スノ効アリ、此ノ道一度天下ニ出テ政府モ之ヲ止ムル能ワス、劍モ之ヲ恐レシムル能ワス。律モ之ヲ束縛シエス

〔此ノ道ノ達スル所必ラス徳義上ノ改良アリ、社会風俗ノ改良アリ

数千年数百年前ノ歴史ヲ取トリ証トセス、前、<sup>〔ママ〕</sup>目前ニ目撃セシ所ノ証拠ヲトリ以テ証トス

○悔改

○信仰

○聖靈ノ働キ

○祈禱

狐ツキカ、狂人カ、新酒ニ酔ヘルモノカ、妄信者カ、迷ヘルモノカ

東京ニアリシ事 罪人ノ悔改 安中

○高粱ヨリ〔ノ〕來状ヲヨメ

今ヤ全国ニ恵ノ雨ノ下ル時ナリ 救ヒヲ得ノ秋来ル

五年生ニ告ク

〔朱〕  
〔It is [a] fearful things to fight against God's truth.〕

人引力ノ理ニソムキ身体ニ疲ヲ被ル事アリ、神ノ徳義上ノ真理ニ乖<sup>〔ソム〕</sup>カハ其人ノ前途ハ如何ゾヤ

此迄聞キ得シ所ハ真理ナルヤ否ヲ糺セ

〔明治十六年六月二十九日・於同志社〕

25 伝 道

〔包紙〕

〔朱〕「サイドンニ近キザレバト！」\*

〔墨〕「伝 道」

十六年七月十一日夜

Widow  
Elija[h]

神戸教会ニ於テ普請成就ノトキ説教会ヲ開カルトキ、其ノ求メニ応シ此説教ヲ為ス

〔本文〕

馬可十六章ノ十五 十六年七月十一日 神戸大説教会ニ於テ

◎イエス彼等ニ曰ケルハ、徧ネク世界ヲ廻リテ凡テノ人ニ福音ヲ伝ヘヨ

仮令福音中ニ此ノキリストノ命ナシトスルモ、人一度キリストノ恵ノ言葉ヲ預リ聞クヲ得ハ、如何デ之ヲ黙止ス

ルヲ得ベ〔ケ〕ンヤ

〔朱・以下同〕  
約翰一章・ピレツホ〔ピリボ〕、

〔朱・以下同〕  
ナタナヘルニ遇ヒ来テ觀ヨトス、ム

約翰四章 ニハサマリヤノ婦人邑ノ人々ニ曰ケルハ、我カ凡テ行セシ事ヲ我ニ告ケシ人ヲ来リテ觀ヨ、此レハキリスト

ナラズヤ

〔朱丸〕  
○神ノ愛一度心ニ熟スルヤ、勢其ノ焰ヲ発セサルヲ不得

## 愛神

羅馬ノ一ノ十四、十五我ハギリシヤ人及異邦人、又智人及ヒ愚人ニモ負ヘル所アリ、是故ニ我力ヲ尽シテ福音ヲ汝等羅馬ニアル人々ニモ伝ヘン事ヲ願フ○増シテ主ノ終リノ命モアレハ、苟モ主ノ恵ヲ蒙リ信者トナリシモノ、焉ソ此命ヲ輕々ニ過ゴスヘケン、依テ今夕ハ伝道ト云題ヲ以テ、信者タルモノハ必ラス伝道者タラサルヲ不得ト云事ヲ論スベシ

予ハ信者ト云フ、伝道者牧師ニ限ルト云フニアラス、信者ト云ヘハ広シ  
〔朱点、以下同〕

子供ノ信者ハ此ノ教会ニナキカ、信者ナレハ子供テモ伝道者タルベシ

## 十五章以下

〔好キ行ヒ、誠ヲ言フ、従順、勉強、他ノ子供ヲ安息日学校説教ニ導ク、父母ニ克ク使ヘテ父母ノ心ヲ動かス〕

教会ニ婦人ハ如何ソ、〔カ〕伝道者ナリ

婦人ト云モノハ兎角口ノ多キモノニシテ、ヨルトサワルト世間話ヲナシ○多クハ人ノ惡ル口ヲキクノ弊アリ、兎角婦人ヨリ事ハ破ルト世人ハ云ナレトモ、婦人ハ、開明ノ世ノ基ト云モ過言ナラス、婦人ハ心棒強シ、婦人ノ働キハ漸々ト侵入ス

世間話シノ代リニ神ノ命ノ道ヲ談セハ何等ノ益ヲナスソ、家ニアリ夫ニ正シキ例ヲ出ス、子供ヲ仕付ケル

〔朱〕。一テモタ〔テモテ〕後書一ノ五、偽ナキ信仰ハ前ニ〔汝ノ〕祖母ロイス母ユニケニアリ、又汝ニモアル事ヲ信スト〕

婦人ハ家ノ柱トナリ、婦人ハ家内ヲ清淨ニスル為ニハ混々ト湧キ出ツル泉ノ如シ。婦人ノ地盤ニオリ、夫ニ向ヒ子供ニ向ヒ、其家ニ出入スルモノ家ノ下女下男ニ向ヒ、深切丁寧ニ伝道セハ、キリストノ道ハ速ニ社会ニ伝播スルハ疑アルヘカラス、婦人ハ日本ニテ捨〔ラ〕レモノ〔ノ〕如キ取扱ヲ受ケシモノ、一度信者トナリ其職ヲ尽セ

一ハ非常ニ有益トナル

老人ニモ信者アルヘシ

老人ハ隠居シテ安逸ニ暮ラスヲ好ミ、風月ニ身ヲヨセ人間ノ益ヲ計ラス、老人ニ非常ノ伝道カ出来ル

老人仲間ニ伝道ス、老人ノ観音阿弥陀ニ参ル人々ニス、ム、何ニモ為シ得サルモ神ニ祈ル

〔ニューヨーク〕  
新約 克ノ黒奴ノ婦人ノ祈ニ、二年ノ少年信者トナレリ

キ、ユリク、〔ギユーリック〕氏ノ母（先日天国ニ逝ケリ）ハ、兼々祈ニ熱〔心〕ナル人ナルヨシ（山本ノ為ニ祈リ、居ルトハ案外ノ談シ

ヤコブ義シキ人ノ祈ハ力アルモノナリ

百姓ノ信者ハ如何、矢張〔伝道者〕ナリ

或ル百姓ノ談シニ、天翁様ノ出ル前ニ起キ、天翁ノ下ル後ニ止メ、働クヘキガ必ラス百姓ノ勤メナリト、百姓ニハ勤勞セサレハ糊口ノナラヌモノ故ニ勤勞ノ風アリ、且勤勞者ニハ強壯ノ人多シ、且其職分カラ実着ノ風アリ、且質朴ノ風アリ、是尽ク社会ニトリ好マシキ分子ナリ、此好キ分子風俗ヲ持テル農家ノ人ハ信者トナリテ益勤勞シ、宜シク一家ヲ治メ、村中ノ人々ニ向良手本ヲ出シ、己レノ子孫ヲ養成セハ実ニ社会ヲ強固ナラシムベシ、米國ナドニハ農家ニ堅キ好キ信者アリ

往々農家ヨリ國ノ人物ヲ養成ス、農家ニシテ真ニ伝道ニ尽力セハ、教会ノ基トナルヘキ人物ヲ作り出スベシ

大工鍛冶屋

昔時ノアガ方舟ヲ作ルトキノ事ニ付、或ル人説教シ、一ノ槌ヲ下ス毎ニ人々ニ神ノ判キ来ヲ示スト、大工カ槌ヲ以

テ打チチヨウナヲ揚テ木ヲケツル毎ニ、鍛冶屋カ Hammer ヲ以テアゲル毎ニ、人々ノ此世ノ命ハ縮ミ、後ノ世ノ近寄ル思ヒヲ為シ得ヘシ、左スレハ其間ニモ必ラス伝道セサルヲ不得ベシ町人

兎角浮薄ノ風モ生シ易シ、乍去亦激シク働キ活潑ノオヲ発達スルナレハ此分子モ必用ナリ、且世間ノ人ニ接シ、克ク人情ニ通シ得レハ、克ク人ヲ導クノ術ヲ知ルヘシ、且金銭ノ融通アリ、遠方伝道スルニ金力ヲ要ス、町人ヲ除ケハ出スモノハ少シ○教会モ多端ナルベシ

○書生ハ如何

智識學術人ニ過クレタレハ大ナル任アリ、此中女生徒伝道スヘキハ遠ク九州ニアラス北海道ニアラス。今働クヘキハ校中不信ノ生徒ノ為ニ尽スニアリ、其モノ「ノ」為ニ祈ニアリ、之ヲ導クニアリ、ツマヅキ石トナル勿レ

○医者ハ如何

医者ノ働キハ一方ヨリ言ヘハ牧師ヨリ広シ、牧師ハ会中ノ人々ヲ養フ、不信者ヲス、ム、医者ハ己レノ術ヲ以テ人ヲ助クレハ人ノ信用ヲ得ヘシ、信用ヲ得ハ医者ノ勦メラ聞ベシ、牧師ノ外直接ニ伝道シ得ヘキモノハ医者ナリ、其接スル下等上等ヲ論セス

●

Note

如斯論シ来レハ信者中伝道者タラサルモノハ誰ソ、信者ハ一人毎ニ伝道スヘキ重任ヲ負フ、信者ニシテ此任ヲ負ヒ其ノ任ニ当サルモノハ、キリストノ前ニ於テ忠義ナル僕ト云ハルヘキヤ、他日キリストニ対シ何ノ申シ開キヲ為シ得ヘキゾ、信者ハ宜シ「ク」山上ノ光リノ如ク、又世ノ塩トナルヘシ

地位

伝道ノ要路ニアリ、汽車汽船ノ便アリ

種ヲ送ルニ便、又居ナカラ種ヲ散ラスニ便利

今回多年ノ中此普請ノ挙アルヲ見レハ、人ノ増加スルト又兄弟ノ熱心ナルヲ見ルニ足ル、今日神戸教会ノ勢ヲ見レハ樹木ニスルト根ノ大ニハルニ似タリ、根ハレハ亦枝茂ラサルベカラス、伝道ノ働キモ枝ト見レハ、此教会ヨリ必ラス伝道ノ精神振起ラサルベカラス、此近傍ノ教会モ然リ、根ハ枝ヲ養ハサルベカラス、又枝ニヨリ根ハ益ハルヲ得ベシ、根サヘハラセハヨイト云説ハ予ハ取ラス、枝ヨリノ養ヲ断而ハ根ハハラサルベシ

○湖水ノ水モヌケ途ナ〔ケ〕レハ水腐敗ス、近江ノ琵琶湖ニ宇治川ノヌケ途アレトモ湖水ノ水ハ少シモ減セス、ヌケレハヌケル程水ハ湖水ニ入り來ル

昔時ペテロ、ポールノ時代ハ伝道時代

三百年間争論ノ時代

十五六世紀迄ハ迷ヒト腐敗ノ時代

十六世紀大革命以後論說ノ時代

十八世紀ニハ道理ニ走り信仰ヲ失フニ至レリ

十九世紀ニ又伝道ノ時代トナリ

(米國ナドニ伝道会社ノ初マリシハ此世紀ニ係ハル)

八十年ノ間、千八百年間信者ノ出来タルニ当ル

伝道ハ今日ノ要務、五千ノ信者ノ中一人ガ二人ツ、一年ニ導クナレハ、八年ノ間ニ日本ハ大抵信者トナル

○身ヲ捧ケ

○心ヲ捧ケ己ノ子ヲ捧ケ

○全ヲサ、クルニアリ

アブラムノイサク神ノ賜ヲ神ニ出ス

後家ノ nie \* アラビヤノマナノ如ク

多分ニ取レハ消滅ス、神命スレハ聞ヘシ

忠且善ナル僕ノ賞ヲ受クヘシ

〔鉛筆〕  
○子供カ働キテ金ヲ得、伝道ノ助ケヲ為ス

妻君カ少々、無益ノモノヲカイタイトキ之ヲ省キ、伝道ノ為ニ投ス

〔明治十六年七月十一日・於神戸教会〕

## 26 道理ト信仰ノ關係〔A〕

〔全文鉛筆書〕

### 道理ト信仰ノ關係

世ノ文化進ムニ順ヒ益人間ノ貴重スヘキモノハ道理ニアリテ、人未タ野蕃盲漠ノ時代ニアリテ、何事ヲ見テモ道理ニ詔<sup>〔詔〕</sup>テ之ヲ了解シ得ス、少シク了解シ得サルハ鬼ノ業、神ノ業タルトテ之ヲ恐怖シ、之ヲ神トナシ拝スルニ至ル、支那日本ニ於テモ山ノ神、風ノ神、雷ノ神ノ類ノ考アリシハ、矢張此点ヨリ出シモノト見ユ

而シテ何事モ之ヲ不問ニ附シテ教ヲ研窮セス、是何時ニテモ野蕃、地位ニ駸々乎シテ進ムノ勢力ヲ得サル以謂ナリ  
○其ニ反シ歐羅巴ノ駸々乎シテ進<sup>〔力〕</sup>ミテ止マス、今日ノ文明ノ域ニ上昇セシモ他ニ非ラス、何事モ尽ク道理ニ詔<sup>〔詔〕</sup>テ其理ノ存スル所ヲ発見セサレハ止マサルノ精神アリ、遂ニ今日アルナリ

私ノ今晚御談シ致シタキ所ハ道理ト信仰ノ關係ニシテ、宗教ニ必ラス此二分子ノ必要ナルヲ論及ストノ目的ナルモ、先世ニ於テ道理ニ詔<sup>〔詔〕</sup>エルト云事ノ必要ナルヲ論セン

茲ニ川アリ、其水ヲ見ルニ涓々トシテ流ル、其下流スル理ハ何ソト問ヘハ、水ニ常ニ平均ヲ要スルノ通性アリ、故<sup>〔三〕</sup>ニ水平キナラサレハ飽マ<sup>〔テ〕</sup>モ流ル、モノナリ

雨ハ下ル、何故ニ下ニ降ル、空中ノ水分子凝結スレハ順<sup>〔三〕</sup>地ノ引力ノ力ニ<sup>〔テ〕</sup>下向スルナリ、之ニヨリ雨ノ下ニ降ルト云理カ分カル

○我等坂井港ノ波頭場ニ立チ北海ヲ眺望スルトキ、遙天涯ヨリ蒸氣船ノ来ルヲ見ルニ、舟体ハ見エス只是烟見ル、漸シテ烟突ヲ見□久シテ船体ヲ見ル。其故何ソ、此理ハ當時小学校ノ書生スラモ知ル、何故ニト問ハ人間社会ニ一日モ欠ヘカラス、何故ニト談ヲ用イサレハ其国ハ必ラス野蕃、幾百年ノ後此語ヲ捨ツル能ハサルヘシ

○何故ニ此川ノ水ハ赤キ色ヲ帶ブルヤ、其流レ溯レハ乃鑛山アリ、九谷ノ後藤

何故ニ物ハ上ヨリ落ツルヤ、又何故ニ地ニ近ヨルニ順ヒ速力ノ増加スルヤ、英国大博士ニュートン氏ハ此理ヲ推究シテ遂ニ引力ノ理ヲ知ル<sup>〔カ〕</sup>、引力ノ一三五七ニ増スルノ理ヲ知ル、下向ノ物ノ力ヲ計ルニ一々適合セサルハナシ

何故ニ一寺院ニ蠟燭掛カアチラコチラヘト動揺スルヲ見テ、彼カリ一ヲ「ガリレオ」カ時計ノ振子ノ理ヲ發<sup>〔見〕</sup>シ○何故ニト「云」所ヨリ天文ノ理ヲ考ヘ、遂<sup>〔ニ〕</sup>天動地靜ノ說ヲ一變シテ天靜地動ノ說ヲ立タリ

○當時ノ天文学者ニ到テハ、地動ノミナラス天体ヲ尽動キテ止マスト說ヲ立タリ

○何故ニトウカ、又此事柄ハ一切理ニ適合セスト云テ、何時ニ理ニ適合セシ「ム」ルニ至ル、欧州人ノ克ク<sup>〔カ〕</sup>含アル以

謂ナリ

此事ハ談ヲ尽セス、依テ信仰ノ点ニ及ハン、其信仰ナルモノハ未タ見サルモノヲ誠トスルモノナリ、故ニ信仰ト云、仮ニ眼前ニ見テ信スルニアラス、将来ノモノカ又未タ目ニ触、手ニ触レ得サルヲモ必ラス有ルト信スルナリ、信仰ト云モノハ人間社会ニ道理ノ欠ヘカラサル如ク又欠ヘカ「ラ」サルモノナリ、社会力進メハ進ム程信仰ハ欠ヘカラサルモノナリ◎

〔道理ハ骨ノ如キモノ、信仰ハ肉ノ如キモノナリ、血ノ如キモノナリ、命ノ如キモノ、道理ハゴツイ、信仰ハ柔カニテゴツイ所ヲ調和ス、道理ハ死物、信仰ハ活物ナリ〕

◎人間社会ニ信仰「ガ大事」ナル事ヲ簡略ニ談セン

一家内中親子夫婦ニ信仰ナケレハ如何、親子ヲ信スル能ハス、子親ヲ信スル能ハサレハ家内ノ平和ハ保ツヘカラス、夫ヲ婦ヲ疑ハ、如何、如何平合ヲ為シ得ルソ、主人カ番頭ヲ信セサレハ、如何ニ店ノ事ヲ任セ得ルヤ、如何大金ヲデッチニ持タセ使ニ遣リ得ルソ、朋友中信仰セサレハ如何ニ松柏ノ交ヲ結フヲ得ン、如何ニ協力シテ天下ニ力ヲ尽ス得ベキ○書生モ其先生ニ信仰ヲ置カサレ「バ」決シテ師弟ノ密着ノ關係ヲ生スル能ハス○病人カ医師ニ信仰ヲ置カサレハ、如何「デ」其藥ヲ服用スルヲ得ンヤ○人民カ政府ニ信仰ヲ置カサレハ、如何テ人民太平ノ腹鼓ヲ打ツヲ得ンヤ

△乍去信仰カ大事ト云テ何事モ信仰テ結ヤ所謂盲信仰ト云モノトナル○医者ト云フモノハ信仰セネハナラヌト云テ、何ニテモカデモ医者ノ云ノ所ヲ信シ、医者ノ投スル藥ヲ服セハ宜シト云テ医者ヲ信セハ大ナル迷ヒナリ、下等ナル医者ハ安キ藥ヲ高ウリスルモ知レス、病症ヲ違ヘルモ知レス、誤テ藥ヲ投スルモ知レス

依テ病人ナルモノハ知識ヲ要、活目ヲ要ス、知識活目アリテ其医者ノ信スルニ足ル以謂ヲ知ラサルヘカラス、平素ノ挙動、從來ノ修行、其投藥ノ手キハヲ知ラサルベカラス、之ヲ推シ而シテ我ニ投スル藥モ先間違ハアルマイト信スルノミナラス、此医者ニヨレハ必ラス癒シテ呉レルト信ス ◎脚氣病院ノ功

○親ト子ノ間ノ信仰、或ル良師ニ付ケ蔭ニ親ノアリテ子供ヲ学ハシムルニ、子ニ於テ只々親ノ命ヲ奉スルノミ、其父ヲ信スル所ヨリ出サルベカラス

〔親ノ學問アルヲ知り親ノ子ノ為ニ心切ナルヲ知り○其良師ナルモノハ世間ニ名望人ナルヲ知り、親ヲ脱ルモノヲ信スルヲ知り、而子モ克ク其師ヲ信シテ之クガ如キ

〔自ラ信仰モ盲信仰ニアラス、幾分カ其信仰中ニ道理ヲ含有ス

此ニヨリ之ヲ見レハ、道理ト信仰ノ關係ハ今日人間ニ欠ヘカ〔ラ〕サルモノナル明々白々ナルベシ。今日ノ事ニ於テ万事カクアレハ矢張宗教上ニ於テ然ルベシ

信

〔宗教上ハ信仰ヲ重スルモノナリ、宗教ト云ヘハ信仰ナキ宗教アラス、信仰ナキモノハ決シテ宗教ト云ヘカラス

兎角信仰ヲ重スル所ヨリ全ク信仰ノミニ傾向シ、一ノ道理ヲ活用セサルノ憂アリ

理〔去レハト云テ道理ノミヲ採用シテ往カハ又暗黒世界ニ踏込ムノ憂アリ

假令ヘハ  
スペンセルノ如キハ學術上道理上ニ詔ヘ順ヒ信仰ヲ打チシモノト思ハル、別シテスペンセルノ如キハ、神ハ不可思議ナリト云フ道理上ヨリ論スレハ、神ハ不可思議ト云フ、不可思議ト云ヘ、其レヨリ先ヲ識ル能ハス

〔是モ恰モ輕氣球ニノリ空中ニ上昇スルガ如キ、空氣ノ水素ガスヨリ重キ間ハ上昇スルヲ得ル、其上ハ上昇スルヲ不得、予ハ是迄ト云テ止マル、之ヲ望マハ茫々ト究ナキ空虚ナリ又暗黒ニテ光明ナシ、之ヲ望ムニ上ハ暗黒ナリ

○乍去又道理上ヨリ推究シテ幾分カ神ヲ知り得ベシ

人間ハ誰ノ作ソ、誰カ此様ノ奇々妙々ナル人間ヲ作り〔シ〕モノソ

〔グリシヤノソクレテースハ人間ノ構造ノ妙ナルニ感シ、此ハ人間ノ智ニ勝リシ智者アリテ之ヲ作レリト

○宇宙ノ事物ヲ案ルニ、必ラス結果アレハ原因ナカルベカラス

○宇宙間<sup>〔森〕</sup>辰羅万象ノ無限動<sup>〔カ〕</sup>遙止マ〔ザ〕ルヲ見、又天体ノ殊ニ広大ナルヲ知り、之ヲ作り之ヲ保存スルモト〔ハ〕如何ナル力ナルソ

人ノ帰着スルハ如何

「帰着スル所ヲ知ラサレハ人其魂ヲ重セス、是レ今日道德宗教ノ人心ヲ改良スル能ハサル以謂ナリ

◎スペースヲ見テ其限ナキヲ見、星ノ無限先キ迄アルヲ見テ、之ヲ作りシモノモ亦無限モノナルベシト推究ス

◎人ニ道心アリ、善ヲ善トシ惡ヲ惡トスル所ヨリ推究シテ、此人間ヲ作りシモ此道心アルヘシト論及シ、造物者トハ必ラ「ズ」善ヲ好ミ惡ヲ憎ミ賜フト推究ス

「又善ヲ善トシ惡ヲ惡トスルナレハ、此造物者ハ善ヲ好、惡ヲ惡ムノ規アルヘシ、此規法アレハ此規則ヲ以テ法人<sup>(カ)</sup>

ヲ審判スヘシト推究ス

「老子天網、<sup>(恢恢)</sup>疎ニシテ不漏、罪ヲ天ニ独祈ル者ナシ

然シ天網ハモレル盜「人」ハ「長」寿テ死セリ、顔淵ノ如キ賢人モ殛死ス

「疎ニシテ漏レサルアルヘシト信スル、人間死後逃ルヘカラサル審判アルベシト悞ハル、又罪ヲ天ニ得レハ祈ル所ナシト、是ニヨリ見レハ道理ハ最人間ニ於テ大切ナルモ、亦道理ハ人間ニ不幸ヲ与ヘルモノナリ、如何トナレハ

乃道理ハ罪ヲ知ラシム□□又天ヲ□祈ル所ナキヲ知ラシム

人間ノ罪ヲ知ルモ道理、又罪ヲ逃ル、所ナキヲ知ルモ道理、道理上ヨリ論「ジ」、仏ニ委頼シテ極楽浄土ニ入ル能ハサルヲ知ルベシ

「人間ノ工風シテ罪ヲ逃ル、ト思フノ道ハアレハ、之カ慥ノ罪ヲ逃レ得ルヤ否ト推究スルハ、罪ヲ罰スル政府アリ法アリテ、法ヲ破壊シ人ノ罪ヲ許ス事ハ出来ズ

茲ニ人間ヲ作りシ上帝、人間ノ益惡ニ沈溺シ救ヲ得ルノ途ナキヲ見賜ヒ、上帝基督ヲ世ニ下シ世人ノ中ニ誤ル人間

ノ途ヲ知ラシメ、神ノ譴怒ヲ蒙リ再ヒ近寄ベカラサル神ノ前ニ出、神ト又親ム事ヲ得セシメシ事、其実事ハ明カ、新約聖書中ニ記載アレハ、古来道理ニ詔ヘ心ニ平安ヲ得サ、ル人モ、此ノ書中ニアル道ヲ信シ、又此書中ニ約シアル神ノ聖靈ノ妙助ヲ蒙リ、人世ノ罪惡ノ管轄ヲ脱履シ真理ノ域ニ入ラシ「メ」、初テ青天白日自由ノ壘ニ遊ハシ「ム」ルヲ得ルハ他ナシ、道理ノ及ザル信仰ノ力ナリ

天網ヲ脱、真ノ自由ノ壘ニ遊ヲ得ベシ

今ノ民権家ハ自由ヲ求、不知宇宙ノ主宰ヨリ自由放免ヲ得シモノナルヲ

〔福井地方ニ真理ヲ求ムルノ同子アルヤ〕

※ 〔アレハ之ニ書ニ付キ求ム、此書中途々真アリ生命アリ〕

大能力ヲ具有セル神、真理ヲ愛スル神、我輩ニ約スル約ノ違ハサルヲ信スルナリ○信ハ理ノ及ハサル区域ニ達ス、信ハ翅ヲカリ宙中ニ翔ルヲ得ルナリ

〔明治十六年八月二十四日・於福井〕\*

27 道理ト信仰ノ關係〔B〕

道理ト信仰ノ關係

○野蕃時代 種々奇怪ノ談多シ

道理少ナクシテ恐怖多シ

○開明ノ時代 道理起リ恐怖去リ

却テ信仰ノ生ス

道理ト信仰ノ關係ハ、實ニ宗教上甚密着ナルモノナレトモ、今日人間社会ニ於テ、何事ニモ亦此關係アルヲ免レス  
◎今日歐羅巴ノ開明ハ、表面ヨリ論スレハ道理ノ結果ト云ハサルヲ得ス

○川アリ水ノ下流スル道理、雨ノ下向スル道理

○海岸ニ立チ船ノ遠方ヨリ来ルヲ見〔橋。烟突。船体。〕

○カリリオ、一寺院ノ燭燭ツリノ動遙ヨリペンデユロムノ理ヲ発見ス\*

〔ニュートン〕

〔林檎ノ落ツルヨリ引力ノ理ヲ發明ス、何故ニ落ツル、何故ニ地ニ近ケハ速力大ナリト〕

○物ノ理ヲ推究シテ地動説ヲ吐ク

○ヘランクリン電氣ヲ引クノ發明、皆尽ク道理ニ訟エテ遂ニ発見シタルナリ、然ラハ文化ト云モノハ只ニ道理ノ

一 ミニヨリ進行スヘキヤ否、道理中ニ信仰ヲ含有ス

人間社会ニ道理カ益進マハ人知遂ニ *steward* ニ流レ易キ憂アリ、故ニ之ヲ調和スルニ徳義上ノ信仰ナカルベカラス

人間ニ此ノ信仰ナキトキハ、社会ハ一日モ維持スベカラス

仮令ハ一家中信仰ナケレハ、親子夫婦

仮令ハ社会ニ於テ信仰ナケレハ、師弟朋友ノ間、会社ト会社トノ信仰、政府ト人民ト〔ノ〕間ノ信仰。病人ノ医者

ニ対スル信仰

〔補〕信仰ハ未タ見サル所ヲ真トスルモノナリ」

乍去信仰ノミニ進マハ亦迷信ニ陥イルノ憂無キ能ハス

○依テ道理アル信仰ナカルベカ〔ラ〕ス

先ツ医者ノ多年ノ修行。大患者ヲ癒シタ。慈善ノ人ナリ譎ヲ云ハヌ人。藥屋ニアラス。医者ニ是等ノ分子アレハ必ラス病人ヨリ信用スルニ足ル

子ヨリ親ヲ信スルノ信仰

人ヲ信スヘキ理由道理ヲ得、然ル后之ヲ推究シテ、而克ク人ヲ信仰スベシ○地球ノ二十四時間ニ其ノ軸ヲ一回転スルヲ屢実験スルハ智識ノ動キ、明日太陽ノ東天ニ昇ルハ信仰ナリ

是等ノ事ニヨリ考ヘ人体ニ比スレハ、道理ハ骨ノ如キモノ、信仰ハ肉ノ如キ、血ノ如キ、命ノ如キ、モノナリ

○道理ハゴツイ

信仰ハ機ヤカ

○道理ハ死物

信仰ハ活物

〔宗教上ニ於テ矢張道理ト信仰ノ關係ハ密着ナルモノニシテ、決シテ齟齬スベキモノニアラス

〕〔宗教ハ兎角信仰ヲ重ズレハ、ヤ、モスルト信仰ノミニ流レ、世ノ道理ヲ活用セサルノ憂アリ

〔去レハトテ道理ノミニ流ルレハ、道理ノ解シ得シ得サル往キ〔ママ〕留〔止リ〕迄行キ、其ノ先キハ暗黒ニシテ見ヘス

故信仰モ道理ノ杖ケヲカラサルヲ不得、又道理ハ信仰ノ助ケヲ仰カサルヲ得ス○道理ト信仰トハ今日ノ社会ニ取リ

又宗教上ニトリ、互ニ分離スヘカラサルノ双子ノ如キモノナリ

◎英國ノ学者スペンセルノ如キハ、神ハ不可知、神ハ不可思議ナリ、人知ノ至ル迄進ミ其ノ先ハ分カラス、信スルニ

足ラスト云レタルカ、氏ノ如キハ恰モ輕氣球ニノリ空中ニ上昇シ、往カル、迄行キ、其ノ先ハ往カレヌ。分カラス。

信スルニ足ラスト云カ如シ

◎乍去随分道理ヨリ推究シテ幾分カ神ヲ知ル〔ヲ〕得ヘシ

○人我カ生存スルヲ知ル、此ノ生命アル人間ハ何レヨリ来ルカ、其原ヲ推究スルニ至ル

○結果アレハ必ラ〔ズ〕原因ナカルベカラス

○スペース。時ノ限ナキヲ知り、推テ限ナキ神ニ及ホス

○人ニ道心アリ、善ヲ好ミ惡ヲ惡ム

人間ヲ造シ主モ此ノ心アルベシ、是レ乃チ天理、天ノ規律

○天ニ規律アレハ規律ヲ主トルモノ之ヲ人間ニ施シテ、人之ヲ奉戴セサレハ之ヲ審判スベシ（是レ道理ナラスヤ）

〔天人間ノ手ヲ借テ之ヲ罰スルアリ〕

〔又盜□ノ如ク罰ヨリ脱スルモノアリ、天網怪々疎ニシテ漏ラサストアレトモ、疎ニシテ漏ル、アリ〕

茲ニ万国人民ノ信スル所ニ從ヘハ靈魂ハ不死ナリト、若シ靈魂ヲ不死トセハ、此世ニ於テ罰ヲ脱セシモノハ靈魂世界ニ於テ必ラ〔ズ〕其ノ罰アルベシ

孔子曰、罪ヲ天ニ獲ル、祈ル所ナシト\*

靈魂ヲシテ不死ナラシメハ、罪ヲ天ヨリ受タル靈魂ハ祈ル所ナカルヘシ、天網疎ナルモ亦脱ル、ノ途ナカルベシ  
〔道往理キ〕人道理上ヨリ推究シテ此点迄達スルヲ得、然シテ又罪ヲ逃ル、ノ途ヲ発見セサレハ、道理ハ人間ニ於テ最モ必  
ノ留リ要ナルモノナルモ、亦人間ヲ不幸ニ陥ラシムルモノト云ハサルヲ得ス

〔上天皇帝人類ノ罪ニ沈溺シ自ラ救フノ途ナキヲ見賜ヒ、数千年前ヨリ救主ヲ賜フノ約ヲ為シ、其ノ時ニ順ヒ遂ニ基督ヲシテ人間間ニ生セシメ、懇々侃々神ノ証ヲ為テ止マス、奇蹟ヲ行ヒテ人ヲ癒シ遂ニ十字架上ニ磔死セラレタリ。乍去活ケル神ノ道ハ基督ト共ニ墳墓ノ中ニ葬ムル能ハス、基督克蘇生シ此道モ亦克ク蘇生ス、基督ノ身ハ去ルモ靈、人間ニ降臨アリ、人間ヲ〔シテ〕罪ヲ悔ヒシメ克聖基督ヲ信セシムルニ至ル（約翰三章ノ十六節）〕

●基督ノ説キ賜ヒシ神ハ、乃チ理学家ノ道理上ヨリ廻リ、充分ニ了知シ得サルノ神ヲ一層了明ニ人間ニ告ケ知ラシタルモノナリ、故ニ基督教ノ神ハ道理上ノ力ノ及ハ〔ザ〕ル神ニシテ、道理ニ齟齬スル人間ノ細工ナル神仏偶像ノ類ニアラス

又神克基督ヲシテ信仰ノ道ヲ開ラキ、道理上ノミ許免ヲ得サルノ罪モ道理ト信仰ニ詔ヘ、遂ニ人間ノ罪惡ヲ救フノ途ヲ開カセ賜ヘリ

基督ノ救ヒノ道ハ信仰ニヨリ得ラルヘキモノナルモ、決シテ道理ニ齟齬セス

〔律ニ順ヒ罰セラレ、之ヲ信スルモノハ救ワル〕(グリシヤ王ノ其ノ子ヲ救ヒシ事ヲトケ)

乍去神ヨリ罪ヲ許免ヲ得ル容易ノ事ニ

一 先ツ前非ヲ悔ヒサルヘカラス

二 己ニ克チ己ノ情慾ヲ制セサルベカラス

三 基督ノ活ケル道ヲ尽ク奉戴セサルベカラス

〔此道ヲ奉戴セハ人ノ品行必ラス方正タラサルヲ不得〕

四 基督ノ例ニ倣ヒ、基督ノ行ヒヲ為サ、ルベカラス、人ヲ愛スル己ヲ愛スル如クセヨ

神先罪人ナル我輩ニ救ヲ設ケ賜ヒタレハ、我輩<sup>〔イカ〕</sup>争テカ我全力ヲ尽シ神意ニ順ハサルヲ得ベケンヤ、争カ己ノ品行ヲモ方正ナラシメサルヲ得<sup>〔タルノ〕</sup>「ベ」ケンヤ、是レ初メテ人ノ道德ノ域ニ進ミ真理ノ壇ニ入ルヲ得ヘシ

己レノ罪惡ヲ脱シ<sup>〔タルノ〕</sup>□□人初メテ自由ノ身ト云ベシ、真理ノ壇ニ入り人初テ真理ヲ得タリト云ベシ

〔己レノ罪惡ヲ改メス不品行ヲモ顧ミス、喋々自由真理ヲ称フルモノハ、乃チ自由真理ヲ乱用スルモノナリ

〔自由真理ヲ害スルナリ〕○(人ヲ愛スル己ノ如クスベシ)ハ乃チ真理

此真理一「タ」ヒ社会ニ活用シテ、而シテ遂ニ歐羅巴文明ノ元氣精神トナレリ

此ノ精神活動シテ文化ノ車運転スルニ至ル

〔狭クシテハ一箇人ノ改良ヲ為シ、随テ一人ノ幸福トナリ、広クシテハ社会ニ及ホシ社会ノ改良ヲ計リ、随<sup>〔テ〕</sup>幸福ヲ与ヘタリ、是レ基督敎効用ノ大ナル見ヘキナリ

此教ニシテ道理ト併行シ、又道理ノ上ニ出テ遂〔三〕人間ヲ救フノ道トナレリ

若シ此道ヲ道理ニ適合セサラシメハ決シ〔テ〕今日ノ文化ニ先チ進行スル能ハス、又信仰ナカラシメハ理学ノ為ニ其ノ鋭ヲ挫カレ遂ニ烏有ニ帰スベシ、然ルニ道理アリ存シ、信仰アリ克ク人心ヲ固フシ、遂ニ千八百年間ニ五大洲中ニ蔓延スルヲ得、至ル処一箇人ノ改良ヲ与ヘ、全社会ヲ掃除シテ清潔ノ風俗ヲ起シ、全良ナル政体ヲ来ラシメ、人間ヲシテ生テ自由ニ樂ムノ幸福ヲ蒙ラシメ、死シテハ永遠不朽ノ天国<sup>〔ナチ〕</sup>真理ノ壘ニ遊ハシムル、嗚呼基督教ノ徳タル何ソ其レ広大無辺ナルモノゾ

〔真理ニ敵スルモノハ亡フ〕

〔真理ニ順フモノハ榮ヘン〕

○此地ニ真理ヲ求ムルノ人アルヤ、求ムルモノ

〔アラハ宜シク此基督教ニ付キ真理ヲ得ベシ、真理ハ遠キニアラス今之ヲ得ベシ、真理ヲ得タクハ宜シク

○窓外ニ立ツヘカラス、願クハ入り来リ之ヲ求メ賜ヘ、真理ハ此ノ聖書中ニアリ存ス、真理ヲ慕フノ人アラハ、願ク

ハ此ノ書ヲ讀ミ、之ヲ味ヒ、之ヲ玩探シテ而之ヲ得ベシ、真理ハ近ニアリ之ヲ失ヘカラス

〔補〕  
〔福井ニ於テ聴衆窓外ニ出ツ〕<sup>\*</sup>〕

28 此ノ人ヲ見ヨ〔A〕

〔包紙〕

〔朱〕

十六年十一月四日

此ノ人ヲ観ヨ

西京

新島 襄

〔本文〕

〔朱〕

十六年十一月四日 第二会堂

〔歌〕四十一。六十六。二十六。〕

約翰十九ノ五

観ヨ是レ其人ナリ、乃チ此ノ人ヲ観ヨ

我主基督カ紫衣ヲ着ケ棘ノ冠ヲ蒙リ、ピラトノ前ニ出テラレタルトキ、ピラト猶太人ニ向テ曰、此人ヲミヨ、ナント  
哀レナル人ニアラスヤト

予ハ真ヲ尊ハス、義ヲ見テ為サ〔ザ〕ル、此勇氣ナキ卑屈千万ナルピラトノ所業ヲ取ラス、又彼レノ吐カレシ言葉ノ  
意ニヨラス、唯其言葉ノミヲ取り今日御談ノ主意ト致シマス

〔朱線〕

去ラハ此人ヲ觀ヨトハ何ノ意ソ

ピラトノ如ク基督ヲ哀レンテ云フニアラス、乃チ之ヲ尊ヒ之ヲアカメ、此人ヲ見テ其ノ高德、其ノ精神、其ノ慈愛、其ノ尊榮ノ億万分ノ一ヲモ臆測セン事ヲ望ミマスル

是迄予モ屢基督ノ言行ヲ題トナシ説教モ爲シタレトモ、今日基督ノ御自身ニ付其ノ億万分ノ一ヲモ伺ヒ見ントスレハ、実ニ予ノ心ノクモリ目ノ鈍クシテ、見テ見ヘス、思テ了知シ得サラン事ヲ恐ル、乍去基督ノ宝血ヲ以テ贖レタル吾人、此ノ基督ニ付キ十字架ノ下ニ臥シ基督ヲ伺ヒ見ルハ、必ラス基督ノ許シ賜フ事ト信シ、又基督ヲ伺ヒ見テ御同様ニ心ニ得ル所アラント思ヒマス

此人ヲ觀ヨト云テ

然シ御同様ニ伺ヒ見ントスル基督ハ、彼ノカリヤヨリ隨從セシ門徒等ノ如ク、目、親シク見、耳、親シク聴、手、親シク触、レタルノ類ニアラス、又彼ノ山ノ上、カリヤ湖上。ヨルタンノ浜。サマリヤノ井戸。エリコノ市。エルサレムノ宮ニ於テ吐カレタル基督ノ恵ノ言葉ヲ聞カント欲スルモ之ヲ聞キ得ス、或ハ彼ノ高キ山ノ上ニテベテロ、ヨハンネ、ヤコブノ三人ニ頭ハレ賜ヒシ其ノ光リ輝キタル榮光、或ハ棘ノ冠ヲツケ十字架上ニアリテ死シ賜ヒシ蒼々タル其ノ顔色ヲ見ント欲ストモ之ヲ見ル能ハス、彼已ニ去テ千八百八十有ヨ年ノ星霜ヲ経タリ、去ラハ之ヲ聞クニ由ナキカ、又之ヲ見ルニ由ナキカ、否兄弟ヨ、幸ニ新約聖典ノ存スルアリ、之ヲ読ミ之ヲ信スルモノハ其ノ声ヲ聞クヘク、其ノ榮ヲ見ヘク又或ハ此書ヲフセ、目ヲトヂ心ノ中ニ基督ノ声ヲ聞キ得ヘク、又其ノ榮ヲ見得ベシ〔見スシテ信スル者ハ幸ナリ〕

○如斯千八百八十有ヨ年ノ時代ヲ異ニシ、猶太國ヨリ數千里ノ海陸ヲ隔ツル日本ノ旧帝都ナル京都ニ於テ、吾人各信

仰ノ目ヲ以基督ヲ見、信仰ノ耳ヲ以テ基督ヲ聞ウル事ナレハ、予モ不肖ヲ厭ハス、信仰ノ足ラサルヲモ願ミス、少シク基督ニ付キ伺ヒ見ル所アレハ、極簡短ニ之ヲ陳述セント欲スレハ兄弟モ予ト共ニ此人ヲ觀ラレン事ヲ希圖致シマス予曾テ歴史ヲ閱シ、日本ニ於テは南北朝ノ戰、太閤時代ノ事件、支那ニ於テハ戰國或ニ三国時代ノ激〔シキ〕戰ヒ、歐羅巴人ノ歴史ニシテハ

マセドニヤ王アレキサンドル掠奪、ビユーニク〔ボエニ〕ノ戰、羅馬ノ遠征、随テ羅馬國之滅亡。十字軍。宗教大革命、三十年間ノ戰 ○英吉利及仏郎西ノ革命 ○米國ノ獨立軍、南北戰爭

右ノ大事件ニ於テ赫々タル功業ヲ起シ長ク芳名ヲ後世ニ遺シタル人物ノ偉功ハ、人類トシテ随分寡ハシキ事ナレトモ、此等ノ事件ヲ以テ、彼ノ微々タル猶太國ニ出来タル基督ノ三年間ノ働キ。十字架上ノ死刑且爾來死シテ猶生キ賜フ基督ノ支配ノ駭々乎トシテ日ニ月ニ蔓延シ、水ノ地ヲ回り空氣ノ地球ヲツ、ムカ如ク、東西ヲ分タス南北ノ別ナク処トシテ行レサルナク、國トシテ説カレサルナキ此基督ノ偉業ニ比スレハ、恰モ數万ノ燈籠ヲ白昼ニトモスガ如シ

然ルニ此大事業ヲ世ニ立テ賜シ基督ヲ、只當時自ラ目撃セシ人間ノ想像ヲ以テ見タナレハ、マサカ如斯ク盛大ニナルモノトハ思ハサルベシ

(A) 基督ハ當時強大ナル羅馬國ニ生レズ、却テ其屬國ナル猶太國ニ生レ、又殊ニ寒貧ニシテ克ク人ニモ知ラレヌナザレヨリ好キ人物カ出ツベキヤト、人ノ云フ程ナル一小村ヨリ起リ

良師ニ就キ學ヒタルニアラス

良友ノ之ヲ導クニアラス

而シテ

門閥ノ之ヲ助クルニアラス

三年間ノ事業ニ止マル

◎基督ハ幼ヨリ赤貧◎

◎其ノ降誕ノトキハ粗末ノ切レニツ、マル、馬槽ニオカル

◎弥長シテ道ヲ説クニ当リ

枕、ヲ、安、ス、ヘ、キ、所、ナ、ク、

◎カヘルナウム〔カベナウム〕ニ於而税ヲ出セト云レタルトキ、魚、腹、中、ヨ、リ、其、ノ、金、ヲ、得

◎三年間ハ多分カリラヤノ

貧、キ、婦、人、ノ、寄、附、ニ、ヨ、リ、養、ハ、ル、

如何ニ貧クアラレシヤ、然ルモ何ニカ臆測スヘカ〔ラ〕サル富其内ニ含有セリ

此ノ人ヲ觀ヨ

◎キリストハ如何ニ簡易ナルソ

基督ノ「門弟」人ヲ教ヘラルニ神ノ殿、又ハラビノ学校ノミニ於テセス

或ハ

舟中  
街頭 山上 木ノ下 井戸ノ上

多クノ群衆ノ中 賽錢箱ノ側

又学者ノ如ク六ヶ敷事ヲ以テ教ヘス、人ノ云イ伝ヘヲ以取リツギセズ、眼前ニアル物又人ノ容易ニ考ヘ易キモノヲ  
取リテ譬ヘラル

放蕩ムス子 ○種播 ○芥子種

不義ナル番頭 忠義ナル僕 十人ノ娘

然シ其ノ旨意ノ高キ、知識深キ事ハ他ノ教師ノ万企ヲ及フ所ニアラス、実ニ測ヘカラス

〔朱〕  
山上ノ垂訓 天国ノ奥義 靈魂ノ賞罰

此人ヲ觀ヨ

◎如何ニ柔和

〔ヤコブノ井戸ノ上ニテ如何ニ柔和ニ丁寧ニ婦人ニ談サル、〕

エルサレムニ於テ姦淫セシ婦人ヲ猶太人共力連レ来シトキ直ニ之ヲ斥ケズ、爾等ノ中罪ナキモノ之ヲ石セヨト云ハレシカバ、人之心ニ針ヲサ、ル、如ク独々ニケ去レリ、女ヨ爾ヲ罪スルモノナキヤ、然リ子モ亦爾ヲ罪セス、往ケ再罪ヲ犯ス勿レ

多クノ母達カ基督ノ其手ヲ子供ノ上ニ措カン事ヲ望ミ、其子供ヲ連レ来リシトキ門徒之ヲ禁セシカハ

子供ノ来ヲ禁ス勿レ、如斯キモノハ天国ノモノナリト云レ

子供ヲ受ケ賜ヘリ

◎如何ニ謙遜ナルソ

基督ハ宇宙ノ主ニシテヨワンネヨリ洗〔礼〕ヲ受ケ、又遜リテ己レノ門徒ノ足ヲ洗ヘリ

◎如何ニ人ニ抵抗セサルソ

He is like a sheep brought before slaughters.

〔朱〕  
山上ノ訓ニモ

人爾ノ右ノホウヲ打タハ左ノホウヲムケヨ

上衣ヲ取ラハ下衣ヲ〔モ〕与ヨ

〔朱線〕

ゲッセメネノ園ニ於テハ、爾等ノ尋ヌルモノハ予ナリト云テ静ニ縛ニ就ケリ

ピラトノ前ニ引キ出サレタルニロヲ閉テ決シテ物言ハス、ピラトモ驚ク程ニ沈黙シ賜ヘリ

猶太人ハ十字架ニ付ケト云、彼ノ主義ナキピラト之ヲ聴セシニ、自ラ弁解セザリキ

〔補〕

信ト  
恵ミ

泰然トシテ驚カス、自ラ真ヲ証シテ死ニ至ルヲ其ノ分トシ、基督ノ真克ク物言フベシト信セラレタルナラン  
棘ノ冠ヲ蒙リ紫ノ衣ヲ頭ハル、其ノ容貌ハ如何ニソヤ。此人ヲ見ヨ

如斯罪人ノ手ニ渡サレ、キャルプアリーニ於テ他ノ罪人二人ト共ニ十字架上ニ揚ラレ、遂ニ無辜ノ死ヲ遂ケラレ  
シハ如何ナル事件ソヤ

〔朱線〕

死ニ至ル迄神ノ真ヲ証シ、共ニ十字ノ刑ニ逢ヒシ一人ニモ、今日バラダイスニ可至ト約シ、己レノ母ヲ顧ミルヘ  
キ人ヲ作り〇己ヲ十字架上ニ付ケシ猶太人ノ罪迄モ許シ賜ヘト祈レリ

〔ママ〕

如斯ヲ我カ魂ヲ受ケ賜ヘト云レテ頭ヲ垂タリ

宇宙ノ造主ナルキリスト、此罪惡ニ染タル人類ヲ救ハン為ニ無量ノ世界モアル中ニ、此最モ少サキ地球ニ降誕アリ、  
貧人ト居ヲ同シ、罪人ト共ニ食イ共ニ歩ミ、其上アマツサヘ遂ニ科人ト共ニ算ヘラレ十字架上ニ死ナレタル、此事件  
ハ如何ナル事件ソヤ

天此レカ為ニ蔭リ、地之カ為ニ晨イ、神ノ宮ノ帳ハ上ヨリ下ニ迄サケタリ

無レ心此天地モ変シテ実ニスコキ恐ロシキ現像ヲ呈セシトキ、アフル、基督カ恵ミト真ト愛トヲ以、棘ノ冠ヲカムリ、

蒼サメタル顔ヲ垂レ十字架ノ上ニ死ニ賜ヒシ其形容ハ如何ゾヤ

〔補〕「無罪」〔ノ〕基督ヲ死ナ「セ」シハ誰ソ、何モノソ、人間ノ罪「I and You」

〔朱〕◎此ノ人ヲ見ヨ」

猶太人并ニピラトハ死シテ再ヒ蘇生スル事ヲ恐レ、其墓ヲ封シテ番兵ヲ置キシニ

○神ノ為シ賜フ所人如何ソ之ヲ敗リ得ヘキ、ダヒテノ預言ノ如ク神ノ聖ナルモノヲ腐敗ニ至ラシメス

彼ノ蒼タル天ノ上迄昇リ賜ヒ、又聖靈ヲ下シテ人間間ニ罪ノ惡ムヘキヲ知ラシメ、罪人ヲシテ其罪ヲ悔ヒ基督ノ十字架ノ下ニ平臥シテ来ラシメ、人間ト神トノ間ノ親睦ヲ求ムルニ至リ、爾来

羅馬帝國ヲ初メトシ

歐羅巴諸國、亞米利加、□亞細亞○亞弗利加、南洋群島、遂ニ我東洋日本迄伝播シ

直接ニハ帝王より非人

〔朱〕

「石ノ如キ 賢キ人○愚人○—富タル人、貧シキ人、位ノ高キ、賤キ人、學者、無學盲目、世ノ廢人ト稱セラルモノ

人ノ心ヲ迄、其真ト愛トヲ及ボシ十字架迄引キ付ケ賜フハ、恰モ地ノ中心ノ万物ヲ引クカ如シ、〔鉛筆〕吾若シ〔地ヨリ〕

トカス」上ケラレナハ万民ヲ予ニ引クベシ」\*

人間中ノ最上ノ人間、

帝王中ノ最高位ノ帝王、

間接ニハ

社会ノ改良  
文物制度

我国ハ此ノ世ノモノニアラスト云レタレ〔ト〕モ、此世ニ関係ノアル事如此シ

進歩

我国ノ条約改正ノ出来サルモ之ニ関ス

〔朱〕  
「此ノ人ヲ見ヨ、此ノ王ヲ見ヨ」

又播テ十字架上ノ基督ヲ見ヨ

世ノ人々ノ十〔字〕架ヲ取り、此ノ基督ニ就キ来ルハ何故ゾヤ

〔誰カ克ク之ヲ支ヘ得ルモノゾ〕

天主教ナドニ於テハ十字架ハ殆ト太切、之ヲ拝スルニ至ル

予ハ十字架ヲ見ヨト云ニアラス、十字架上ノ基督ヲ見ヨト云フ

十字架上ノ基督ハ神怒ヲナタメ

〔朱〕  
「罪人ノ罪ヲ悔改、再ヒ神ニ歸セシムルノ法方

此十字架上ノ基督ヲ見ヨ

〔今日ラハイエル〔ラファエル〕ノ画レタル基督ノ画ヲ売ルナラ

歐洲ノ帝王ハ数百万ノ金ヲ不惜之ヲ求メラルナラン

然シ如何ニ巧ミナルモ、真ノ基督ニ比シタレハ其下レル事如何ソヤ

此基督ヲ画キ彫ミ詩ヲ述、文ニ顯スモノハ誰ソヤ

〔朱〕

〔恐クハ信仰アル人ノ心ニ見ルニマサルモノハアラサルベシ〕

本日聖晩餐ヲ守ルニ当リ、我等ノ心ノ最モ感情ノ起ルトキト思フ、各方、○心ノ中ニ各ノ信仰ノ目ヲ以

※此人ヲ見ヨ

〔朱〕

「キリストノ真、キリストノ愛・富ミ、キリストノ威、キリストノ栄」

屢此人ヲ見ヨ

鎮ニ炭酸ヲ含マスル

〔明治十六年十一月四日・於京都第二公会〕

29 此ノ人ヲ見ヨ〔B〕

此ノ人ヲ見ヨ 目的

④福音ヲ読而此所ニ至ル毎ニ卷ヲ蓋ヒ感歎セサルヲ不得、如何トナレハ此言ニヨリ如何ニモキリストヲ腦裏ニ想像  
出シ、ピラトト異ナリ又ハ猶太人ト異ナリテ、兼テ主ヲ尊ヒ拜シテ之ヲ見サル〔ヲ〕不得ニ至ラシム、ピラトノ此  
言ヲ吐露セシハ、無心〔カ〕、此人無力ノ人アワレナル人ヲ見ヨト猶太人ニ被申、爾等ノ囚人トナリタル此人ハ何事  
モナシ得サルベシト云タルナラン、然ルニ此言ハ彼無心ニ吐露セシモ、神彼ヲ道具トナシ此人間ニ伝ヘ、久ク福音  
中ニ遺シ、我等ヲシ□テ後世久ク此人ヲ見セシムルノ聖意ナラン、故ヲ以テ私モ今晚ハ此言ヲ取リテクストトナシ、  
広クハ世人ニ此人ヲ見〔ヨ〕ト勸メ、延テハ兄弟ト共ニ此人ヲ見ント欲ス、此言々ヲ取リ考レハ深キ意アリ、深キ  
味アリ、大ナル力アリ、乞フ此人ヲ見ヨトノ異邦人ノ言ニヨリ御談ヲ仕リマシウ

一此人ヲ見ヨ、力ナキ者弱キ者カ此人ヲ見ヨ

我主基督如斯罪人ノ手ニ渡シ異邦人ノ前ニ引出サレ裁判ヲ受ケシニ、無心ノ異邦人ピラトヲ初メ兵丁ニ至リ主基督  
ノ何タルヲ名状スベカラサルノ残酷ノ取扱ヲ為シ、主自証シテ、彼神ノ国ヲ来ラス為真ヲ証スルノ為ニ生レタリト  
云レシトキ、ピラトハ真ハ何カト被申ニ更ニ尋モ不為、兵丁共ニ粗暴無究、此無罪基督〔ヲ〕無二無ザンニ取扱ヒ、  
之ヲ嘲弄シ棘ノ冠ヲ編、之ヲ其頭ニ蒙ラシメ、紫ノ衣ヲキセテ〔補〕王ヨ安カレ王ト称シテ彼ニ戯ムレタリ、如此キ  
取扱ヲ受ケテモ主少シ〔モ〕怨言ヲ不出、避ル、為言訳ヲモ不為、実ニ預言者イサヤノ預言セシム街ニ引カル、羊ノ

如ク、泰然トシテ之ヲ受、神ノ聖意ニ順ヒ此杯ヲ酸ム事ヲ決シタレハ、キリストノ支配ハ此世ノ支配ト異ナリ

キリストハ此世ニ来リ、神ノ御国乃真ノ支配ヲ来ス為ニ真ノ王トナリタレハ、キリストノ国ハ此世ト全ク異レリ

一キリストノ国ハ此世ノ国ト異ニシテ権謀ヲ以立タ、ス〔ピラト 偽ノ世ノ中 権謀ナシトキ成難シ〕

一キリストノ国ハ此世ノ国ト異ニシテ武器ヲ以拡メス、キリストノ語ヨリ証スヘシ

一キリストノ国ハ此世ノ国ト異ニシテ滅亡スルノ憂ナシ

一キリストノ国ハ〔此〕世ノ国ト異ニシテ神ト共ニ朽サルヘシ

一キリストノ国ハ此世ノ国ヲ異ナルヲ以、此世ノ人ハ無益ト云ハン

一キリストノ国ハ此世ノ国ト異ナルモ、キリストノ国ヲ来ラシメサレハ此世ハ衰微ニ趣カン

○キリストノ聖國ヲ此世ニ来ラス為、神ノ此世ニ真ヲ証スル為此世ニ生レタリ

キリストノ立タル目的ハ世人ノ目的ヲ以テ比スヘカラス

〔此ノ目的世人ニ勸ハ歴史ニ無比、信者ニ勸ム〕

〔我等ノキリストノ目的ノ達セシニ、共ニ天国ニ見シ事ヲ企望セ〔リ〕〕

一キリストノ目的ハ未タ□セシニ此世ノ前ヨリ立ラレシ乃神ノ目的ニシテ、世人ノ目的ノ如ク時々交換セス

〔カ〕即政府ノ為ニ動ク、暮ニハ政府ニ兵ヲ挙ク 人間ノ常

十二年ノトキヨリ父ノ仕事ヲ為ト言レタリ、三十三年ニ至ル少シ〔モ〕目的ヲ換ラス

一キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異ニシテ一国一人ニテ限ラス

一キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異〔ニ〕シテ〔リ〕

一キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異ニ〔シ〕テ人意ノ外ニ出ツ

死ヲ□、己ニ勝ツ

十字架番人ヲ付ク、ペテロノ牢ヨリ出サル

愛ヲ基礎トナシタレハ——ボリカーブノ言

一キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異ニ〔シ〕テ人力ヲ以之ヲ毀ツ能ワス

一キリストノ目的ハ世人ト目的ハ異ニシテ不達ハ不止ナリ足ノ下ニ置ク万国ノ人之ヲ見ル

〔我ノ言不成テ□キス〕

愛人愛神ヲ教、死スルニ臨ミ神ニ向ヒ先タル働キ終〔レ〕リト云リ

〔年月日不詳〕\*

30 「基督教ハ独一真神ノ教ナリ」

〔全文鉛筆〕

十六年十二月九日 彦根\*

◎爾等宜ク我ノ外、他ノ神ヲ拝スベカラス

基督教ハ独一真神ノ教ナリ

一地方、一国ノ教ト異ナリ

○国之教ノ異ナル所謂ハ、元ト人類一ノ神ヨリ造ヲ受ケ、又一ノ神ヲ知リタルニ、漸々自己ノ情慾ニ身ヲ任ネ、罪惡

〔補〕

諸方ニ

散在ス

ニ沈溺シ智識退歩シ、或ルイハ○神ニ使フル念薄ク、偶像ヲ拝伏シ遂ニ真神ヲ忘ルニ至リ、是偶像ノ起ル所謂ナリ

偶像ニ各国一般ハ甚スクナシ

エジプトハエジプ〔ト〕ノ偶像アリ

그리스ハ 그리스

ローマハローマ、印度ハ印度

支那ハ支那、日本ハ日本

遂ニ一地方ノ宗教起ル

一 地方ノ宗教ハ乃一地方ノ賛成スル所トナル

一 地方ノ賛成スル所政府之ヲ賛成ス、乃国教トナル

基督教ノ興リシトキハギリースニローマニ国教アリ、国教ニ反スレハ大ニ其ノ国人ノ志操風俗トモ反スル所ヨリ、其ノ政府ハ政策上ニ不都合モ生スヘシト思ヒ之ヲ防禦セントス

〔外来ノ教ナレハ衆民ノ嫌フ所ナレハ、縦令真理ノ認ムルモ、ミス、之ヲ防禦スルニ至ル〕

○今ノ僧侶輩ハ基督教ハ外教ナリ、政府之ヲ賛成セス、故ニ邪道ナリト

是レ從來ノ国教ノ嫌フ所トナル、又政府モ從來ノ国教ヲ助クレハ自然政府ニアル官吏モ自ラ之ヲ嫌ニ至ル

〔ニコデモノ如ク陰ニ之ヲ助クルモ、陽ニ之ヲ助ケス〕

国ニ新教ノ来ルトキハ如何ナル人カ之ヲ賛成スルカト云ヘハ、幾分カ人ニ異ナル所アル人カ之ヲ賛翼ス、因循家カ之ヲ助ケス、老人輩ハ多〔ク〕旧来ノ教ニ慣ル、旧ヲ好ハヌ〔マ〕因循家ハ何レノ国ニモ十二八九ヲ占ム、是基督教ノ行レサル所謂ナリ

〔国ニ国教アレハ其ノ教ニヨリ生計ノナルモノ多シ、故ニ其ノ国教ヲ転覆セントスル外教ノ来ルアレハ、教理ノ敵ニアラス乃生計上ノ敵ヲ来ス、故ニ之ヲ防カサルヘカラス〕

〔仏師家 剪香家 京師宿屋〕

国ノ書生

元来ノ偶像教ヲ奉セス

幾分カ道理ニ詔フ宗教ハ一切之擯却ス、○神ヲ敬セス人ヲ恐レス

①如斯セマクハ一家族ニ之ヲ嫌フアリ、野郷里ニ之ヲ嫌アリ、一国挙テ之ヲ嫌フアリ、政府モマダカスカル、ローマ、昔時ノ日本、之ニ迫害ヲ加ルアリ

②無形ノ神ヲトリ

靈魂ヲトル 未来賞罪ヲトリ

救主ヲトリ、又救主ニ奇蹟ヲトリ

宗教家カ熱心、固ク執テ動カス

◎是レ世人ノ大ニ忌ム所トナル

ウソ八百ノ世

○無氣力ノ人ハ

時勢ニヨリ制セラル

真理ヨリモ人望カ大切

未来ヨリ今カ大切

無形ノ神ヨリ大黒ヲ拝ス、現世ノ富貴利達

此世ノ迷夢ノ為、真理、心ノ自由ヲ失フ、真理ニヨラス、心ノ自由ヲ得ス、空ク世ノ風潮ニ制セラル、遂ニ世ト共ニ亡フ

〔露トオキ露ト消ヌル我身哉、難波ノ事ハ夢ノ世ノ中\*〕

〔太閤ハ天下ノ誰ノ手ニ帰セシソ〕

「大坂ノ城ハ誰ノ為ゾ

人必ラス基礎ナカルベカラス

世ノ風潮ニツレル不幸ノ基イ  
○我主義ヲ以テ世ニオル

真理ハ必扱ハサルベカラス

「此世ニ処スル 却テ幸福ヲ得

「心ノ平安ハ他ニヨリ得ベカラス

キリストアリ、我ニ平安ヲ賜ハル

罪ヲ天ニウル祈ル所ナシ、キリストニヨリ祈ル所アリ

基督教ハ

「老箇人ニ改革、社会ニ改革

「此罪惡ノ世ヲ、新世界トナス

○是開明ノ進歩スル所 無氣力ニ旧ニ安スル

新世界ニ大害物

〔明治十六年十二月九日・於彦根〕

31 衣服ヲ売リテ刀ヲ買ウベシ

〔歌〕 91、51、63 路可ノ二十二章ノ三十六

衣服ヲウリテ刀ヲ買ベシ

十六年十二月廿三日

第二会堂

〔補〕  
「靈ノ劔（エペソ六ノ十七）」

主ノ將ニ去ラントスルノ日近キニアレハ、是迄ハ主克ク之ヲ守リ賜ヒタレハ門徒モ安然ナリシモ、主去ルノ日ニハ必  
ラスツマジカスモノ出来リ、種々ノ困難起リ大風怒濤打来リ、將サニ人々ノ心モ冷カ、殆其信仰ヲモ亡フニ至ラントス  
ルノ恐アリケレハ、爾等各覺悟セヨ各用意セヨト靈ノ刀ヲ取レト命セラレ〔シ〕ナランニ、門徒茲ニ二ノ刀アリ今其  
レニテ足レリ、爾等頼ム所此ノ刀ニアラス、靈ノ刀ノ入用ナル日来レハ必ラス其ノ緊要ナル事ヲ知ルヲ得ン。主ノ刀

〔朱点・以下同〕

〔朱線・以下同〕

ヲ取レトノ命アリシヨリ、ペテロノ如キハ此刀ニヨリ自ラヲ防カント思ヒ、此ノ刀ニヨルノ意アルニ似テ、ゲツセメ  
ネノ園ニテ人々来リキリストヲ囚ントスルトキニ、直ニ之ヲヌキ祭司ノ長ノ僕ノ右ノ耳ヲ削落セリ、主曰ク、爾ノ劔  
ヲ故処ニ収ヨ、凡テ劔ヲトルモノハ劔ニテ亡フベシト誡メ、其ノ者ノ耳ニ捫リテ医ヤ〔シ〕賜ヘリ、此ノ事ニヨリ  
考レハ弥人ヲ殺スノ刀ニアラサルヲ知ルニ足ル

〔サワ〕

然ラハ此刀ハ靈ノ刀、只ニ信徒ヲ防禦スル為ニ取レト仰セラ〔レ〕シカト考レハ、馬太ノ十ノ三十四ニハ地ニ平和ヲ

出サン為ニ我来レリト思フ勿レ、泰平ヲ出サントニアラス、刃ヲ出サン為ニ来レリト云ウ言語モアレハ、此ノ刀ハ只ニ自防禦ノ為ノミニアラス、主ノ御国ヲ皇張スル為ニ用ユヘキ利器タラサルヲ得サルベシ、主ノ御所為ト云ヒ、又基督教ノ昔ヨリ今日ニ如斯皇張セシ所ヲ見レハ、此ノ刀ハ靈ノ刀ニシテ防禦ト又進取神ノ支配ヲ来ラス為ニ用ヒ、惡魔ノ国ヲ縮メ其力ヲ裁断スル為ニ用ユヘキハ明カナリ然シ茲ニ

二種ノ劔アリ、乃チ人ヲ殺スノ劔——人為ノ刀。人造ノ刀

人ノ罪惡ヲ裁断シ人ノ靈迄モ斬尽ス刀。靈ノ刀、神造ノ刀

劔ヲ用ユルモノニ

三種アリ

〔朱田、以下同〕

一 甲ハ己ノ願望ヲ充タス為ニ人造ノ刀ヲ用イ

二 乙ハ陽ニ神ノ刀ヲ用ユルヲ名トシ陰ニ己ノ為ニシ、矢張人為ノ刀ヲ用ユルモノ

三 丙ハキリストノ命シ賜フ如ク己レノ衣（世ノ富貴利達）ヲ売、刀ヲカヒ之ヲ用ユルモノ

第壹 己レノ願望ヲ充タス為ニ人造ノ刀ヲ用ユル者ハ、乃劔ヲ取ルモノハ劔ニテ亡ベシト仰セラレタルノ類ニシテ、

昔時ヨリ劔ヲトリ劔ニテ亡シモノ比々皆是レナリ

〔秦ノ皇帝……〕

〔万里ノ長城、天下ノ儒生ヲ穴テ天下ノ刀ヲ壞ツ  
咸陽モ一火皆為灰〕

〔アレキサントル〕向フ所天下ニ敵ナキモ、遂ニ酒色ニ沈湎シ天然ノ寿ヲ縮メ、我カ天下ニ己レ〔ノ〕將校刀ノ為ニ

〔三分セラル〕

〔ジンジスカン〕

〔ビートル大帝——己レニ克ツ能ハス〕

〔ナホレオン——歐洲ヲ一時席卷セシモノ孤島ニ囚死ス〕

豐太閤、日本ヲ平定シ朝鮮ヲ攻メ大坂城ヲ築キ、己ノ身腐ラヌ内中原ノ鹿ハ徳川氏ニ奪ハル

〔辭世 露ト置キ〕

西郷

〔劔ヲ以テ明治政府ヲ出来ス、又劔テ明治〔政府〕ニ亡サル〕

第二 陽ニ神ノ刀ヲ用ユルヲ名トシ、陰ニ己ノ為ニシ人ヲ為ノ刀ヲ用ユルモノ

キリストカ刀ヲ買ヘト仰セラレシトキ猶太人ハ尽クキリストノ敵トナリ、又羅馬政府ノ代官モ不得止之ヲ助シハ争

デカ僅々ニ二ツ〔ノ〕刀ヲ以テ之ニ敵スヘケン、人造ノ刀ヲ以テ之ヲ防カント思ヒシハ誤ナリ、自主ノ為ニ之ヲ用

ヒント思ヒシニ主ハ之ヲ止メタリ、劔ヲ其故処ニ収ヨト、主ノ門徒タルモノハ人造ノ刀ヲ用ユベカラス○約翰曾テ

キリストニ随ヒガリラヤトサマリヤノ間ヲ通ルトキ村ノ人々

〔キリストヲ受ケサルトキ、天ヨリ火ヲ下セヨト云ヒシトキ、主ハ之ヲ誡タリ〕

去ナカラ人ヲ為ノ劔ヲ取り神ノ為ニスト云フモノハ、不信者ニアラズシテ却テ信者ト称スルモノノ内ニアラン

〔彼ノ十字軍ノ如キハ、名ハキリストノ聖地ヲ守ルニアリ、実ハ國權國力ノ争ナリ〕

〔<sup>〔朱〕</sup>スパニヤ國ノインコゼシヨン〔インクイジシヨン〕ハ神ノ名ノ為ニアルモ己ノ宗派ノ為ニス、決シテ神ノ為ニ非ス〕

〔トルコト露國ノ間ニ生スル紛紜ハ宗教ヲ名トスルモ國力ノ争ナリ〕

昔歐洲ニホーリー・アライヤンス歐洲ノ諸国盟ヲシテナホレオンニ抗セシモ国力ノ争ナリ、神ノ惡ム所ヲ惡ムト云フモ遂ニ己レカ惡ム所ヲ惡ムニ至ル、又神ノ爲ト云テ己ノ名ヲ貪ル スバニヤノインコゼシヨンノルイ

伝道師ニ熱心神ノ道ヲ広ム、己ヲ頭ハシテ神ヲ忘レタレハ如何

政事家、著述家、医者、慈善家、教員、革命家、己ノ力己レノ学。力。智力ヲ以己レノ飾トス

〔下欄〕

「莫耶ノ劍、正宗ノ刀モ、靈ノ劍ト思ヒシモ木刀ノ如キモノトナラン」

第參 キリストノ命シ賜フ如ク己ノ衣ヲウリ刀ヲ買ヒ之ヲ用ユルモノ〔キリストノ勝利、山上ノ教ニアラス、奇蹟ニアラス、十字架上ニ死

又二ツ〔ノ〕刀ニテ足レリト、後ニ至リ靈ノ刀ノ入用ナルヲ知ルベシト思ヒ被仰タルナリ

ペテロハ必ラス二刀ノ内一刀ヲ持ツモノナルニ、キリストノ裁判所ニ於テ裁ヲ受クルトキ三回彼レヲ知ラスト云ヒシモ、ペンテコス〔テ〕ノ日靈ノ刀ヲ得シトキハ五千人ノ靈ヲ裁断ス 虚言ヲ吐タルアナニヤノ心ヲ裁断ス

牢屋、鎖門、ヲ切ヌケル

ステパノ死スルトキ靈ノ刀人々ノ心ヲ裁断ス、基督ニ反対者ナルポールノ心ヲ裁断、信仰ノ基ナランカ

ポールノ精神所為 靈ノ刀ニアラスシテ何ソ

オーコスティン〔アウグスティヌス〕ノ悔改ノ後

ウイキリフノ死灰天下ニ流ル、歐洲ノ大河ニ溯リ〔遂〕ニ陸地ニ蔓延ス  
ル―サ〔ルター〕、ウォルムスノ會議ニ立ツ

〔ホイットフィールド〕ノ刀、靈ノ刀、人ノ心ヲ裁断ス

「ムーデー、己ヲ守ル為ノミニアラス

タニエル 獅子ノ洞ニアリ

モ―セ紅海ノ辺ニ立ツ

靈ノ刀ニハ人造ノ刀敵スル能ハス、天下七倍百倍ノ火テ之ヲ鎔<sup>〔カ〕</sup>ハス

〔捕〕「バビロン王ノ偶像ヲ拝セサル猶太ノ少年シャドラク、ミシャク、アベデネゴ―」

沢山〔保羅〕ノ事、之ヲ打ハ必ラス応ス

西ノ宮<sup>〔カ〕</sup>ニ横田ノ事

ネルソン氏ノ勝利ハ氏ノ死ナントスルトキニアリ

キリス<sup>〇</sup>トノ勝利ハ十字架上ノ死ニアリ、死シテ靈ノ刀、勝利ノ劔ヲノコス

●〔朱丸〕終局ヨナノ如ク神ノ命ニソムク勿レ、神ニ使ヘ又世ニ使フル能ハス

又キリストノ命ヲ誤リテ人造ノ刀ニヨル勿レ

マダカスカ<sup>〔米〕</sup>ルノ例、此刀ヲ取ル人ハ一人ニテモ可ナリ、アフリカ人ノ例

「名ヲ天ニ記シタル〔ヲ〕喜ヘ」

路〔加〕十二ノ四十九 火ノ燃タラン事 日本ヲ向來火燃ヘシ

〔以下青インク書〕

終ニ臨ミ、此教会ノ兄姉方ニ如何ナル御勸ヲ申ヘキヤ

「予ハ此会員方ニ向ヒ、己ニ取レル所ノ劔ヲトギ、用ユヘキ場合ニハ必ラス之ヲ用ヒラルヲ望ム、殊ニ此会員ノ中壯

「年ノ書生モアレハ、予ハ此書生諸君ニ向ヒ、是ヨリ充分ニ靈ノ刀ヲトギ、又之ヲ用ユル事ヲ試ミ賜ハンヲ 書生タルモノハ材料ニ富ムモノナリ

未タ此ノ刀ノ声価ヲ知ラサルモノハ宜シク之ヲ知ラレン事ヲ希望ス、君等ハ必ラス愛国家タルベシ、愛国家タルモノハ宜シク己レノ魂ヲ愛スヘシ、己ノ身体ヲ大切ニスヘシ、己ノ品行ヲ慎ムベシ、宜シク私慾私心ノ奴僕タラサルベシ、又宜シク神ヲ愛シ真理ヲ愛シ同胞ヲ愛スヘシ、己レノ如ク他人ヲ愛シ得テ而シテ后真ノ愛国家タルベシ○宜シク當時流行低頭學専門ノ生徒ニ倣フ勿レ

衣ヲ売レトハ私慾私心ノ衣ヲウルニアリ、刀ヲ買ヘトハ靈ノ刀ヲ買フニアリ

キリストノ福音ヲ幾分カ心ニ信スルモ、予ハクリシチャンニナレハ社会ニ容ラレス、又随テ兼テ志願ノ官途ニモ就ク能ハスナトト躊躇スルモノハ、此ノ刀ヲ買得サルヘシ

「刀ヲ買ハント欲セン、只之ヲ買フニアリ、宜ク猶ヨスベカラス

「米國ムーデー氏ノ如キハ真ニ衣ヲウリ刀ヲ買タルモノナリ、伝道ヲ初シヨリ以來幾千ノ人ノ心ヲ裁断シテ神ニ捧ケシヤ

ハーデー

日本ノ為ニ尽サントナレハ衣ヲウリ靈ノ刀ヲカヘ、北海道ヲ開カントセハ又宜シ「ク」此ノ靈ノ刀ヲ買フベシ仰キ願クハ主基督我等ニ靈ノ刀ヲ賜ハリ、己ノ罪惡ト社会ノ罪惡ヲ裁断シテ、我日本ニ主ノ御國ヲ来ラセ賜ハン事ヲ

32 「目ヲ挙ゲテ見ヨ」

〔全文朱〕

〔聖〕  
〔約翰ノ四章三十二 三十五〕  
◎十七年二月廿四日 第二教会

〔歌〕四十五 六十三 六十六

サマリヤノ婦人ニ向説カレタルヲ推究スル事

井戸ノ上ニ休マル、トキ寸時ノ御油断モナキ事  
〔ホトリ〕

婦人ノ分リ易キ水ヲトク

婦人ノ最〔モ〕身ニ関係ノアル夫ノ事

命ノ水ヲ真ニ婦人ノ心ニソ、グ

婦人モ適切ニ己ノ渴ケル心ニ命ノ泉ヲソ、カレシヨリ、直ニ市中〔ノ〕人々ニモ来リテメシヤヲ見ヨトス、ム  
〔カ〕

市ノ人々多〔ク〕直ニキリストノ言葉ヲ聞キ、之ヲ信スルニ至レリ

キリストハ此世ニ降ラレ〔シ〕ハ、世人ノ此世ニ没々肉体ノ糧ヲ求ムル類ニアラス、父ノ旨ニカナヒ其ノ工ヲ成畢レルヲ以糧トセリ

目ヲ挙テ見ヨ、田ハ熟シテ穫〔トリイレドキ〕時ニナレリ

「人一度ヒ基督ノ精神ヲ得テ父ノ旨ニカ〔ナ〕ヒ、其ノ工ヲ成畢ヲ以テ其ノ糧トセバ、何ノ時代カ穫時ノ来ラサルア

「ランヤ

千八百年來

信者ノ陸續輩出シ今ヤ数千万ノ上ニ出ツルモ、扱テ真ニキリストノ心ヲ得シ人ハ幾人ゾ、世人兎角小成ニ安シ易ク大難事ヲ逃ルノ情アリ、敢テ之ニ当ラサルヨリ伝道ノ進歩ハ至テ速カラナラス、又人間ノ力ニ限アリ充分ノ働キハ挙ラサルモ、天 此世界ヲ憐ミ何ノ時代ニモ亦熱心ノ信徒ヲ与ヘ賜ヒシハ教会史上見ルベクシテ、ヨワンネ、ペテロ、ステパノ、ポール、オーゴステイン、クリソストム、ルーサ、ウエスレー、ホイトフィールド、印度日本ノ伝道師サウイヨ「ザヴィエル」、ノ顯レタル時ハ必ラス大ナル收穫アリ 去レハ收穫ノ時ハ何時ニ「テ」モアルモ其ノ人ニ乏キニヨルナラン、其人サヘアレハ必ラス收納力來ルベシ

〔墨〕

⑧〔永祿ノ時代足利ノ末世ニサウイヨ來リ、七八十年間（数百万ノ信徒出來タリ）宗教上決シテ砂漠ノ地ニアラス〕兄弟ヨ目ヲ揚「テ」今ノ日本ヲ見ヨ

田ハ熱シ收納ノ時ハ已ニ至ルニアラスヤ

〔年寒シテ草木皆葉ナキモ、我同胞ノ心ニハ最早收納ノトキ來レリト思ハル

〔墨点：以下同〕

天幸ニ收納ノトキヲ來ラシメ、我輩ノ未タ着手セサルニ天父ハ不信者ヲ用ヒ、不信ノ學者ヲ用ヒ、医者ヲ用ヒ、政府ヲ用ヒ、勤王家ヲ用ヒ、僅ニ二三十年内非常ノ開拓ヲ為セシメ、今ハ早田ハ熱シ收納ニ近キニアリ、然シ此時ノ來ルヤ又一朝一タニアラス

歐洲文化ノ日本ニ進入セルヤ蓋シ原因アリ

蘭人初メ長崎ニ來リ医学ヲ伝フ〔ボンベ〕\*

○活眼家ヲ養ヘリ

高野長栄<sup>〔英〕</sup>ノ如キ人物

米国人ペルリ

砲術 航海術 汽船鑛道 機械学 物理学 史学 政事学 哲学

以上ノ学問盛ナルモ人間ノ品格改良セス、道德ハ益地ニ落ツルニ至レリ

十二三年来文部ノ改革 孔孟ノ道ヲ入ル、其ノ効ヲ奏セス

文部ニ関シ最モ孔孟ノ道ヲ旨張セラル、人々ニテ、孔孟ノ道ハ少シモ心ニ入ラス——芸者買ヒハ巧ミナルヨシ  
世ノ心アルモノハ已ニ孔孟ノ日本ヲ救ヒ得サルヲ知ル

〔内部 人心ノ腐敗ヲ救フ

○民権家ヨリハ板垣君欧州ニ趣カレ、宗教ノ力アルヲ目撃セリ 一ノ宗教カイルト答フ

○新聞記者モ喋々之ヲ論ス

○政府ヨリハ維新以来出身<sup>〔立〕</sup>勉勵セラレタル伊藤公同時ニ欧州ニ趣カレ、宗教ノ上等ニ〔モ〕下等〔ニ〕モ非常ノ勢力  
ノアルヲ目撃セラレタリ

〔外国トノ交際ニ関シ今尤モ不都合ナルハ、日本ノ法律ノ整頓セサルニアラス、乃<sup>〔マ〕</sup>ノ人信スベカラス、日本ノ裁判  
官ハ真神ニ誓フヲ知ラス

世間ノ人々、新聞記者、民権家、廟堂之人々、皆一斉ニ新シキ一宗教カイルト云出ス

昔時サントウチ島ニ宣教師ノ未タ至ラサル前偶像ヲ毀ツ

※日本ニテ基督教ヲ妨クルモノハ仏法ト思ハル

小学校 仏ヲ毀ツ

理学 仏ヲ毀ツ

世人ハ 最早仏ヲ尊崇セス

一明治会堂  
二宣教師

農商務省ノ家  
北島氏  
ノーノー

〔一枚欠落〕\*

目ヲ揚ケテ見ラ〔レ〕ヨ、收納〔ノ時〕ハ来レリ、何モノガ之ヲ妨クルゾ

吾人 六七十<sup>〔ママ〕</sup>年シ生ル

吾人 六七年後ニ生ルナラハ〔今日ニ達セス、今日ノ活動世界、開拓ト收納ノ合セ来ルノトキヲ見サルベシ

日本開闢以来

此ノ愉快ナル時代ハナカルベシ、又六七年ノ後ニハ今日ノ如キ面白キ時勢ハ已ニ過キ去ルヘシ

〔憂〕  
〔憂〕  
〔憂〕  
今ポールカ出テ来タナレハ如何ナル仕事ヲ為スヘキヤ、必ラス日本ノハテヨリ端ニ至リ、此命ノ道ヲ伝フルナ  
ラン

〔墨丸〕  
○目ヲ揚テ我カ邦ヲ見〔ベ〕シ、時ハ已ニ熟セリ

〔墨印〕  
※今ヤ醒ムヘキノ秋ナリ 身ニ甲スヘキノ秋ナリ 進テ取ヘキノ秋ナリ ○我社会ヲ一変スヘキノ秋ナリ  
天幸ニ吾人ヲ恵ミ此ノ時代ニ逢遭セシメタリ、吾人天恩ニ対シ其ノ一分ヲ尽サスシテ可ナルヘキヤ

先年日本ニ遊レタルボルネル氏曰、予一人ノ外基督ノ為メ働ク人無キ事ト思ヒ吾働ク也ト、<sup>〔電〕</sup>「此十九世期中基督教カ盛ニ日本ニ布カルトナレハ如何ナル事ゾヤ」

〔昔時源平ノ戦ニ、平家方ヨリ官女ヨリ日ノ丸ノ扇ヲ高く一千ノ上ニ掲ケ、源軍ニ誰ソ之ヲ射ルモノハヤルヤト云レシトキ、源軍誰一人モ出テサレハ大ニ源軍ノ恥ナリシモ、奈須<sup>〔那〕</sup>ノ与市アリ克ク之ヲ射落セリ

今射ヘキノ的アリ今収ムヘキノ熟シタ田地アリ

※〔射落スヘキ的アルニ之ヲ射サレハ、何レ<sup>〔ノ〕</sup>時力之ヲ射ルヲ得ン

〔カルヘキノ田地アルニ之ヲカラサレ<sup>〔バ〕</sup>、何レ時力主ノ為ニ之ヲ収メン

⊗目ヲ揚テ觀ヨ、早田ハ色ツキテ獲入時ニナレリ

此ノ時ニ生レタル吾人ハ焉ソ徒手傍觀スヘケンヤ

今ヤ基督信徒ノ非常ニ尽力スヘキノ時也

今ヤ愛国男子ノ畢生ノ力ヲ竭働クヘキノ秋也

終リ<sup>〔ニ〕</sup>臨ミ勘考スヘキ事ハ、吾人働手ハ如何ナル有様ナルヤ

〔<sup>〔墨〕</sup>收穫ノ妨ケハ何ニカ、仏法ヤ漢学カ洋学者<sup>〔カ〕</sup>政府カ、否吾人自ラ也<sup>。。</sup>〕

〔維新ノ戦争モ殊ニ短ク、三百年昌平ノ文弱ノ弊風全一洗シ得ズ、吾人ノ兎角文弱ニ流レ果斷ニ乏シク、機会アルヲ進テ取ラス、小成ニ安シテ晩成ヲ計ラス、基督ノ精神ニ乏ク、敢テ進ムノ勇氣ニ乏シキ事也

〔此教会ニ集マレル今學問ニ従事スル青年ノ方ニ望ム所

〔明治十七年二月二十四日・於京都第二公会〕

33 「愛トハ何ゾヤ」

十九年五月三十日 仙台押川君<sup>\*</sup>ノ教会

エペソ三章ノ十三節ヨリ――

愛トハ何ソヤ 曾テ我カ日本ニ神ノ愛ト云教ナキ所ヨリ、愛ト云へハ只々君臣ノ愛、夫婦ノ愛、親子ノ愛、兄弟朋友ノ愛位ニ限り、兎角狭キ偏頗ノ愛ノミ行ハレ、此聖書ニ説ク所ノクリストノ愛ノ如キハ、此教ノ日本ニ入り来ラサル内ハ我輩耳以テ聞ク事モ得サリシ

耶蘇教ハ何ソト人間ハレタレハ答テ曰ハン、愛以貫之

クリストノ愛ハ広ク深ク高ク

此愛ヲ以テ此世ニ来ラレ、此愛ヲ以テ神ノ道ヲ説カレ、此愛ヲ以テ吾人ヲ救ハンカ為棘ノ冠ヲ甘ンシ、十字架ニ磔セラレ、又此愛ヲ以テ吾人ヲ引キ、此愛ヲ以テ今モ尚吾人ノ心ニ働ラク

（一ノ書生曰ク、基督ニ感服スル所ハ、其ノ心ノ広クシテ、十字架上ニアリテモ己ノ敵ノ罪ヲ赦セト神ニ請ヒタリ  
○人之ヲ為シ能ハス、クリスト克ク之ヲ為シ得ルナリ

昔グリシヤノ哲人カ人ノ罵詈ヲ受ク、之ニ灯燈ヲカス

クリストノ如キハ、吾人ヲ救ハン為ニハ己レノ食物モ忘レ、足ヲ容ルメ所モ占メス、人ニ抵抗セス

ゼツセメネ（「ゲツセマネ」）ニ従容トシテ縛ニツク、裁判人ノ前ニ黙シテ自ラ言訊セス、棘ノ冠ヲモ受ケ十字架ニモ

ツケラレ、己ヲ罰スル人ヲ赦セト祈リテ死ナル

曾テ山上ニ教ヘテ曰、右ノホウ左ノホウ 一里―二里 上衣―下衣ヲ与ヘヨ

〔聖父ゼーヴィヨル〔ザヴィエル〕山口ニ於説教〔シ〕人心ヲ得タル手段

神ノ愛ハ造物ヨリ推テ知レ

義者〔ニモ〕不義者ニ〔モ〕雨ヲフラシ日ヲ照ラス

神ノ完全トハ乃愛ナリ〔事々物々我輩ノ為ニ計ラル〕

此愛ヲ以人ヲ誘導スルニ、人之ヲ忘ル

時ニ随ヒキリストヲ下シ、吾人ヲ救ハント計ル

吾人焉ソ其ノ心ノ忝ナキヲ察セサル

小山田高家ハ新田義貞ノ為ニ死

楠正成ハ 後醍醐帝ニ知ラレ天下ノ兵事ヲ任セラレ、遂ニ其ノ為ニ死ス

五百ノ義士ハ齊ノ田横ニ殉死シ。赤穂ノ義士ハ其ノ主人ノ□<sup>〔仇〕</sup>ヲ報ユ、独乙帝ノ一言負傷ノ兵ヲシテ泣カシメ、母ノ一

滴ノ涕克道楽ノ息子ヲ改メシム

〔愛ハ忍ヒ、愛ハ許スモノニシテ、柔弱無力ノモノニ見ユルモ、天下何人カ愛ニ敵スルモノゾ、犬猫ノ如キモ人ノ愛

〔働〕  
ニ働カサル

ゲッセメネノ園ニ〔於テ〕キリストペテロニ曰、劔ヲ以抗スレハ劔ヲ以テ死ス

ナポレオン 劔ヲ以テ天下ヲ得、又劔ニヨリ天下ヲ失フ、キリスト全世界ヲ得、吾ハ世ニ勝テリ

山間ノ水流、漸々ノ働克ク溪流ヲ為ス

時アリ

溶解炉ノ如シリワイワルノ働ラキキリストノ愛如斯シキリストノ愛、靈ノ働ハファイゴヲ以空氣ヲ入ル、カ如シ

○今ヤ救ヲ得ノ秋〔キリストザキヤ〔ザアカイ〕ニ云フ、今日此家救ハルヲ得ルト〕

○茲ニ憂フヘキモノアリ溪流ヲ見ルニ茲彼〔勉〕ニ塵埃堆シ、大洪水之ヲ一洗スルヲ要ス

〔明治十九年五月三十日・於仙台〕

34 時ノ休徴ヲ知レ

〔包紙〕

「時ノ休徴ヲ知レ

十九年六月廿日 京都」

〔本文〕

〔朱点・以下同〕  
馬太伝十六章ノ卷ヨリ四ニ至ル

猶太人天ヨリノ休徴ヲ求ム 〔シルシ〕 キリスト曰、預言者ヨナノ休徴ノ外休徴ハ与ヘラレジ

〔朱〕  
「バクロリエト

時ノ休徴ヲ知レトノ御教ナリ  
十九年六月廿日

第二教会

兎角世ノ中ノ人ニハ好事家ノ多キモノニテ、物質世界ニ何ニ〔カ〕著シキモノヲ見ル事ヲ求メテ無形ノ世界ニ着目セ  
ス、千思万慮物質世界ノ為ニ工風シテ、テント無形ノ世界ノ何ニタルヲ求メズ、無形世界ハ乃チ馬耳東風視ススラ只  
ナラス、其ノ故ハ何ゾ、乃世人ノ心姦惡ト不信ノ充ツルニヨル 〔ママ〕

テクストニヨリ考ヘ見レハ、猶太人ハ兼テ予想セシ如クキリスト来ラハ甚大ナル事ヲ為サルヘシト、乃天ヨリ著シキ  
休徴ヲ与〔フ〕ルカ、又ハ羅馬ノ管轄ヲ脱セシメ猶太ヲ真ノ独立国ト為サルヘシト思ヒタルニ、豈図ラン其ノ人ハ彼

ノ世ニ知レザルナザレ村ニ成長シ、兼テ其国ノ人物ニ付キ物学ヒセシ話モナク、其ノ時代ノ人物ノ望ヲモ満足セシムルニアラス、己ノ説ヲ主張スル為ニ帝王ノ力ヲカルニモアラス。又身ハ膝ヲ容レ枕ヲ安スル所アルニアラス、其ノ門徒タルモノモ其ノ時代ノオシテ人物ト見做スモノニアラス。去レトモキリストノ言行ヲ察スルニ、何ニカ心ニ満足セス。何ニカ合点力行カス。彼如何ナル事ヲ為シ得ヘキヤト之ヲ試ミン為ニ天ヨリ休徵ヲ求メタリ

若シ此等ノ人々真ニキリストノ何ニモノタルヲ知り、又之ヨリ著シキ休徵ヲ与ヘラレナハ、全ク一切ヲ捨テ、モ之ニ從ハントノ決心セシナラハ、キリストハ恐クハ彼等ノ心ニ真ノ満足ヲ与ル為ニ、何ニカ御工風ノアリタルナランニ、ヨナノ休徵ノ外ハ、休徵ハ与ヘラレ〔ザルベ〕シト言ヒハナシテ其ノ場ヲ立チ去ラレ〔タレ〕ハ、キリスト已ニ己ニ彼

等ノ心ニハ姦惡ト不信ノ充滿シテ飢渴、義ヲ慕ヒ道ヲ求ムルノ徒ニアラサル事ヲ知り賜ヘリ

去レ〔ド〕モキリストノ御答ヘハマジメノ御答ニシテ、此世人ニ向ヒ天父ノ御意ヲ奉シ、其ノ御目的ヲ達スル為ノ手

段ヲ仰セラレタルモノナレハ、仮令彼等ニシテ未タ時ノ休徵ヲ見、ヨナノ休徵ノ何ニタルヲ悟リ得サルモ、心ヲ空フ

シテ再ヒ御答ノ何ニタルヲ尋ネラレシナレハ、尚猶太人ニ挽回ノ望モ有シナランニ、哀ナ〔ル〕カ〔ナ〕當時ノ人姦惡ト

不信トニ充タサレ、重ネ々々時ノ休徵ヲ知ルノ機ヲ失〔補〕「ハワシ」ヒ、随テ恵ヲ得ルノ時ヲ失ヒ、今ノ猶太人モ尚キリ

ストハ至ラスナド云フヲ、久ク後世ノ人々迄モ心ノ盲目トナラシメシハ、吾人ニトリ之ヲ殷鑑トナサ、ルベカラス

此キリストノ御答ニ付キ熟考スルニ、第一ニハパリサイ・サドカイ人ニハ時ノ休徵ヲ知ルヘキ筈ナリト思召サレタ

ルナラン

其時猶太王國ノ權ハ地ニ落チ、キリストノ先驅者エリヤノ精神ヲ有セルバプテスマノヨワンネノ來リ、イサヤ六〇一章一—三迄ノ預言モ充タサレ、彼等ニハ喜テ此キリストヲ迎フヘキニ、彼等益敵愾ノ心ヲ起シ之ヲ殺サント計

リ、又他ニハ彼等ハ盲目ニシテ時ノ休徴ヲ見ス、キリストニ就キ求ムヘキモノ、謬レルヲセメラレタルナラソカ  
却説キリストノ休徴ハ其ノ目的ヲ達スル為ニ避ヘカラサル手段ト云ヘクシテ、是レハ人間ニ最大幸福ヲ与ルノ大要領  
ナリ、其ノ本乱レテ末修マルモノハアラシ

キリストヨナノ休徴ヲ与ヘラル、蓋シ其大本ヲ立ツルニアリ

〔朱弧〕

古来支那印度ノ哲人君子ノ教ヘラル、所ハ、其ノ大本ヲ探ツテ之ヲ得ス、其ノ教ユル社会ニ益ナシトハセサルト  
モ、此姦惡ニシテ不信ノ世ニアリテ之ヲ救フ能ハス、却テ独ヲ慎シ〔ム〕ニ止マリ、或ハ此塵世ヲ逃ルニ至ル等ノ如  
キハ、決シテ此活動社会ヲ救フニ足ラサルハ明ナリ

〔朱弧〕

然ルニ独キリストノ教ノ手段ノ如キハ、乃チヨナノ海魚ノ腹中ニ三昼夜アリシ如ク、地下ニ三日三夜葬ラレシモ其  
ハ精神克ク天下万世ヲ蓋フニ足ル、我若シ挙ケラレナバ万民ヲ我ニ引クベシ○我ハ世ニ勝テリ○我カ働キハ成就セ  
リト、一ツブノ麦地ニ落チクサルレハ多ノ実ヲ結ブベシ、キリストノ世ニ来ラレ〔シ〕ハ区々タル王国ヲ起ス〔ニ〕ア  
ラス、些々タル学問ヲ教ユルニアラス、乃チ神ト人間ノ間ノ平和ヲ計リ、救ノ門ヲ明ラキ、人類ヲシテ真ノ幸福ヲ  
得セシムルニアリ、乃チ神ノ旨ニ適ナフ清潔ナル王国ヲ人間間ニ起スニアリ

ヨナノ休徴ノ如キ休徴ハ、乃三日三夜地下ニアリシモ其ノ勢力ノ及フ所、恰モ物質世界ニ引力アリ物尽ク其ノ所ヲ  
得タル如ク、此ノ勢力否引力人類ノ心ニ及ハ〔ズバ〕、人類ニハ決シテ心ニ安キヲ得ス、其ノ所ヲ得サルベシ、人誰  
カ引力ヲ見シ人アルヤ

學術ニ達シタルニュートン氏ハ果ノ地ニ落ルヲ見テ引力ノ理ヲ発見〔シ〕タリ○人若シキリストノヨナ〔ノ〕休徴ヲ  
見ハ、宜シク其ノ勢力ノ随テ起ル所ヲ推測スヘシ

若シ何レノ時代間ニモ盲目ノ多キモノニシテ、其ノ時代ノ風潮ノ趣ク所ヲ先知スルモノハ甚希ナルモノニテ、盲目ノ多キハ独リキリストノ時代ノミナラス、今モ尚然カリ

近クハ我カ日本ニ取り例セラレヨ、人々現世ノ物質世界ニ心ヲ止メテ、無形ノ世界ノ克ク物質世界ヲ管理スルニ注目セス、キリスト教ヲ評スル人々ノ言ヲ聞クニ

或人ハ曰

〔朱緑〕

一キリスト教ヲ信セハ酒カノメス、虚欺カ言ヘヌ、不品行カ出来ヌ

一婦人ヤ小児ニヨイ

一キリスト教カ学問ノ妨ケヲ為ス〔無学ノ信者カ学問ノ妨〔ゲ〕ヲナス、キリストハ決シテ為サス

一キリスト教徒中ニ学者カナイ、豪商カナイ、大事業者カナイ、又学問ノ理ニ合ハヌ ヨシ、ヨシ、〔朱〕

名言〕

一或ル先キモ見ヘヌ民権家ハ、キリスト教徒ノ其ノ党ニ与セサルライキドウリ、キリスト教徒ヲ無精神ト見ナシテ之ヲ齡セス 英ノクロムエルノ兵卒ハブユー〔リ〕タン派ノ人ナリシヲ知ラス

一キリスト教ノトク所ハ神ハ分ラナイ

スペインセルノ如キ人カ世ニ分ラナイモノカアル

一奇蹟カナケレハヨイガ、奇蹟カアルカラ信セラレヌ

一将来ヲ説キテ此世ノ為ニ計ラス

{Unknown  
Something}

嗚呼不信ノ世ナル哉、人ハ勝手ノ事ヲ言フモノナリ、ツマリ此等ノ事ヲ云人ノ心ヲタ、ケハ、或ハ豪慢ナルカ、或ハ

無知ナルカ、或ハ不信ナルカ、或「ハ」姦惡ニ沈メルカ、何分物質世界ヲ見テ、<sup>〔樂〕</sup>樂テ無形世界ノ別天地アルヲ知ラス、味ハサルナリ、時ハ休徵ヲ知ラサルカトハ実ニ我輩ノ克ク心ニ止ムヘキ御言葉ナリ

時ノ休徵ヲ知ルハ、遠クハ古来ヨリ歴史ニ徴シ、近クハ現今ノ世界ノ沿革、又特ニ我カ東洋ノ文化ニ進ム有様ナドヲモ見テ、時ノ休徵ヲ知ルハ随分出来難キ事ニハアラサルベシ

〔朱狐以下同〕

予曾テ預言者タニエルノ書ヲヨミ、タニエルカ彼有名ナルバビロン王ノ夢ヲ解セシヲ見テ大ニ感スル所アリ、其夢ニ一ノ像アリ、頭ニ金冠ヲ蒙リ肘ト胸ハ銀、腰ハ銅、足ハ鐵、足ノ先キノ一分ハ鉄、一分ハ土泥、又一ノ石アリ其ノ像ノ足ヲ打チシニ、像直チニ斃レ微塵トナリ風ニ吹キ散サル、且其ノ像ヲ打チタル石ハ大ナル山トナリ全地球ヲ充タセリト

一國衰ヘ一國起リ、バビロンハミード「メデア」、ペルシヤニ滅サレ、ペルシヤハグリシヤニ亡サレ、グリシヤハローマノ併ハスル所トナリ、羅馬ハ北方ノ独乙人種ニ亡サレ、又其後起リシ所ノ各国モ遂ニ此一石ノ斃ス所トナルトハ、アナガチ國々カ滅亡スルニアラスシテ、人為人力ノ外別ニ世界ヲ支配シ別天下ヲ出来スモノ起ラントノ意ナルベシ、是レ人間社会ニ新シキ生命「ヲ」吹込ミ新天地ヲ創立スル御目的ナランカ

此ノヨナノ休徵ヨリ起リ世ニ敷及ス所ノキリストノ勢力ハ、乃其ノ王国ハ此々カシコニ著シク顯レス、又物質上ニ顯ル、奇蹟ノ類ニアラス、人間ノ心ニ及フ所ノ勢力ナラン

一米國ノ鴻儒シーレ<sup>\*</sup>「シーリー」曰、キリスト教ノ世ニ出シ時自由ト「イフ」事カ世ニ顯レ出タリ

一人々互ニ相憐ミ、人ノ生命ヲ重スルニ至レリ

開明國ノ法律ハ乃人命ヲ重シ人ノ財産ヲ守ルニアリ

一キリスト教カ勢力ヲ益スレハ、一国ノ民カ他国ノ人民ノ為ニ計ルニ及ヒ、互ノ交際ヲ助ク、是レ万国公法ノ起ルニキリスト教ノ関ワリカアル所ナリ

一文明国法律ノ基イスル所ハ何レニアルヤ、鰥寡孤獨癡疾者ヲ保護スル何人ナルヤ

黒奴売買ノ禁止、牢屋ノ改革

教育上ノ率先者ハ何人ソ、大学ハ何人ノ手ヨリ成リシゾ

公義輿論ノ依テ起リ〔シ〕所ハ何ニアルヤ

一亜墨利加ノ共和政治ノ起〔リ〕シ事

一アングロサクソン人種ノ世界ニ蔓延スル事

一英米ノ間ニアビトレーションノ行レシ事

一欧米文明国ニ物質上ノ大進歩アリ

汽船ナレ、鐵道、カナル、トンネル、電信電話<sup>〔器〕</sup>等ノ開ケテ交通ノ便行レ、欧米ノ新發明、學術并志操等モ世界ニ傳播シ、又隨テ公義輿論モ遂ニ万国ヲ支配スルニ至ラン

一頑愚ニシテ守旧党ナル朝鮮人支那人モ、歐洲ノ政度ヲ模擬〔ス〕ニ至リ〇彼ノ暗黒地ト称セラル、亞弗〔利〕伽

〔朱門〕  
×

地方ノコンゴ河畔ノ大陸地モ、万国ノ自由貿易地トナルノ類ノ如キ、又近クハ〔捕〕英米銀行ノ創立、我カ日本、大变革ノ如ク、何ニカ一定ノ大目的アリ、人々其レニ関ワル者モ其ノ目的ノ何タルヲ知ラス、此ノ目的ノ中ニ運動スルニ似タリ、大洪水ノ何ニモカモ之ヲ流スニ似タリ、此ノ運動ハ大トナク小トナク世界何レノ地ニ〔モ〕初

マレリ、一變動、一改革アル毎ニ、世界ハ漸々トキリストノ王国、神ノ支配ヲ迎ヘ来タルニ似タリ

時ノ休徴ヲ知ラサルカ、卒業生ニ告ク

君等ノ、心ナシニ此時代ヲ經過スルヲ好マス、忠義ナル僕トナリ此王国ノ一人トナレ、新世界ヲ来ラシムル一民トナレ

活眼ヲ以テ活動世界ヲ見ラレヨ、時機ヲ失フ勿レ

明治十九年ハ我ニ一遍、二十年ノ夏ハ一度

十四歳〔ハ〕生涯ニ二度ナシ

大坂御陣ニ駿河中將頼宣公（家康ノ孫）ノ一言

〔四枚目裏面・鉛筆〕

Wakamatsu

May 26<sup>th</sup>/86<sup>\*</sup>

〔明治十九年六月二十日・於京都第二公会〕<sup>\*\*</sup>

35 〔信 仰〕

十九年八月廿二日 明石

羅馬書五章一—六

信仰 基督ニヨリ義トセラレ 神ト和セリ

基督ニヨリテ恩<sup>〔恵〕</sup>ニ入 神ノ榮ヲ望<sup>テ</sup>喜フ

只是ノミナラス患難ヲ喜フ 忍耐、練達、希望。

希望ハ羞<sup>○</sup>ヲ来ラセズ 聖靈ノ恩賜ニヨリテ

○乃躊躇セシメズ 神ノ愛我等ノ心ニソ、グ

神ノ事ヲ語ルトキハ人直ニ証拠ヲ見セト申サル 成績ヲ以テ神ノ存在ノ証トナス

且結果源因ヲ以テ説ク 知恵ノ及フ迄ハ知恵ヲ行ク、知恵ニ先キガツマル

スペンセル氏ノ如ク博学ノ人スラ、世界ノ源因ニ就キ論シ何カ知レヌ者ガアル、知レヌ者ニテ往トマリ

昔<sup>○</sup>時<sup>○</sup>グリシヤノソクレテース、段々物質ヨリ論及シテ知恵カアルト云ハレタ、又ポールカアテンスニ行レタルト  
キ

○〔知〔ラ〕〕レサル神ニ祭壇ヲ設ク

人間ハ知恵ノ届ク丈テハ満足セズ、見ヘヌ先キヲ求ムル心カアルハ天性ナリ、天性ト云ヘハ乃人間ニ信仰ノ必要ナル

事ヲ知ルベシ

縱令ハ人信仰ナキトキハ神ニ使フル事、キリストヲ信スル事、未來ヲ信スル事ハサテオキ今日社会カ立行カス、今日ハ証書ヲカク時世ナルモ多クハ信仰テ行ク、人間ノ交際、商法、別シテ見エサル神ニ使フルノ途ナレハ信仰ナカルベカラス

世人ハ信仰ノ何ニタルヲ知ラス——暴信ヲ忘〔恐〕

○智ニモ暴知アリ

希伯来ノ第十一章

信仰ハ望ム所ヲ疑ハス、未タ見サル所ヲ真トスル也

○信仰 アベル、エノク、ノア、アブラハム、モフゼ、ダビデ、義ト〔セ〕ラル

信仰 患難、忍耐、練達

〔希望ハ羞ヲ来ラセス

○人 大望アレハ患難ハ苦シクナイ、練達〔鉄ヲキタウカ如シ、益固シ〕

希望ヲ生シ、羞ヲ来ラセス益々信シ

○益固ク執ル

王政復古ノ際

彼ノ木戸、西郷其ノ忼慨ノ士ハ王政復古ヲ畢世ノ望トナシ、益信シテ疑ハズ、又羞トセス。

○大義名分ヲ表準シ羞トセス、躊躇セス半信半疑セス。

人ニ大目的ナケ〔レ〕ハ物事ニ精神入ラス、〔優柔〕油々不斷ニ附ス

○半信半疑何事ヲナシ得ルゾ

〔マヤ〕耕ヲ取り後ヲ顧ミル人ハ 青天白日ノ信。仰 果斷ヲ要ス

〔天国ヘノ途中獅子横ハル 〔天国ノ途中ニ眠ルモノアリ、後ニ戻ルモノアリ

半信半疑ハ人ヲ卑屈ナラシム

〔李陵ノ石ヲ矢ヲ以貫キ〔シ〕ハ何ソ

〔虎ト信シタルナリ、間違テモ如斯

真理ト恵ニ満テルキリスト来、我等ヲ招ク

信ナケレハキリストノ深切ヲ偽善、、不然者ト見ナス

○ルーテル ウォルムスノ會議〔瓦ノ数ノ如ク惡魔カアル〔モ〕我ハ行カン〕

〔二人ノ信、王公貴人ヲ撓ム能ハス

半信半疑ノ例

ピラト裁判人 卑屈千万

確信ノ例

キリスト裁判ヲ受タル人 英氣堂々〔ツマズ〕

○世ノ學者ニ籠絡セラル勿レ、世ノ智ニ〔ツマズ〕惑ク勿レ

キリスト茲ニアリ、信シテ疑フ勿レ、天国ノ門ハ已〔ニ〕開ケリ

◎今や恵ノ雨、神ノ愛、吾人ノ上ニソ、ゲリ

〔附註〕  
二〔明石ハ一小分〕

〔明治十九年八月二十二日・於明石〕\*

## 36 真ノ力

〔第一枚目裏面〕

〔宋〕\*  
「長浜」 十九年十月廿六日」

〔本文〕

我ハ途也、真也、生命也 真ノ力

世ノ事物ヲ觀察スルニ、真ハ一時ハ世ヨリ捨ラル、モ、亦何時カ世ニ出ルモノ也

真ヲ打ケス事ハ決テ出来ス、之ヲ蓋ヒ之ヲ妨クル事ハ出来ル、然シ真ノ力ハ恐シイモノデ、人間カ真ニ從ヘハ幸ヲ得  
真ニ反セハ禍ヲ蒙ル、真ニ從カヘハ盛ニ、真ニ背カハ衰フ

仮令ヘ「バ」

◎天文学ノ歴史、トレーミー天動地靜、コペルニコス地動、太陽ヲ回ル、カレリーヨ「ガリレオ」ノ困難

○蒸氣ノ理 英國ノワット氏カ鉄瓶ノ湯氣ヨリ其ノ力ヲ採用スル事ヲ發「見」ス

フルトン氏ホドソン「ハドソン」河ニ汽船ヲ浮フ○人ノ疑ヒ遂ニ蒸氣ノ世ノ中トナル ○駕籠ヲ以テ競争スルカ

○電気 フラン「ク」リン氏電ヲ天ヨリ引キオコシタ以來電気効用世ニ出ツ ○飛脚ヲ以テ競争スルカ

○機械ノ理 ○化学ノ理 へ六十四元素ヲ自在ニ使用ス

○引力ニ抗ス、抗セサレハ必ス落ツ

○空氣 天上ニ登ル二十五里、必「ズ」死セン、空氣ヲ腐敗セシメハ必「ズ」人生ヲ害ス

○人間ノ間 社会上、政事上ニ、教育上ニ、商法上ニ、經濟上ニ、殖産上ニ、學術上ニ、哲學上ニ、宗教上ニ、何ニカ真理ニ叶フモノアレハ、其モノカ早晚人間間ニ力ヲ呈スベシ、今日ハ人間ニ知識力逐々盛ニナリ、人カ益宇宙ノ法則ヲ発見シ、○玉石混合中ヨリ真理ヲ発見スルヲ勤ム

○宗教上ニ真理ナルモノアリ、又真理ニ類スルモノアルベシ

宗教ハ教種アリ 儒、仏、神道アリ、回々教アリ、バラモン教アリ、偶像教アリ

〔偶像ヲ拝セサル教アリ

之ヲ大別シテ二種トス

シーレ氏曰。○人為ノ宗教

天啓ノ宗教

○人為ノ教モ之ヲ輕蔑スベカラス、然シ多クハ一国ニ限ルカ、又ハ時代ヲ限テ消滅スルアリ

○天啓ノ教ハ万国ノ人民ニ関スル教ナレハ、万国交際ノ行ハレサル〔ニ〕ヨリ速ニ伝播シ得サリシモ、之カ若シ真理ニシテ人間ニ幸ヲ与フルモノトセハ、必ラス万国ニ伝播スヘキモノナリ

当時万国ノ交際モ盛ニナリ、物品ノ交易ノミナラス志操ノ交易モ初マリタレハ、随テ宗教モ外国ヨリ輸入シ来ルニ至レリ、今日ハ亞細亞モ歐羅巴モ交通ニテ、互ニ宜キモノ便宜ノモノヲ採用スルニ至ル

○ソモ、基督教ハ猶太亞ヨリ初マル

兄弟互ニ相愛ノ理

○罪人ヲ救ノ理

途、真、命ヲ人間ニ示ス

○「上帝ノ意乃天意」

人類「ノ惡」ヲ惡ム事

〔鉛筆〕  
○政事

清潔ナル生涯ヲ送ル事

〔カ〕  
○修行ノ事少カラス

己ニ克チ得ル事

〔鉛筆〕  
○學校

人間社会ヲ改良スル事

一族ノ事

フレデリッキノ事

夫婦ノ間

フランクリン氏

朋友ノ交際

リンコルン己ノ敵ヲ拳テ

信用ヲ重ス

裁判長トスル事

〔鉛筆〕  
○罪惡ヲ征伐ス

真ハ勝　ワルデンセー人伊太利テノ利

プューリタン人米國テ為ス

〔明治十九年十月二十六日・於長浜〕

37 御国ヲ来ラセ賜ヘ

〔包紙〕

「御国ヲ臨ラセ給ヘ」  
〔キタ〕

十九年十月卅一日

〔本文〕

十九年十月三十一日 同志社

〔歌〕  
「十一」十六 五十六 六<sup>\*</sup>

御国ヲ来ラセ賜ヘ

是ハ主基督カ其ノ門徒ニ教ヘ賜ヒシ所ノモノニシテ、主ノ祈禱ト称スルモノ〔ノ〕第二段ノ御言葉祈ニシテ、其ノ言葉甚簡短ナルモ、此ノ語中含蓄スル所ハ如何ニ宏大ナルヤ、如何ニ幾千万年間ノ人間ノ歴史ニ関スルカ、幾億万人ノ靈魂ニ係ワルカ、吾人一度思ヒヲ思想世界ニ放チ、如何ナル事件ニ関係アルカヲ考レハ、吾人ノ考ヘハ乃チ蒼海ノ一粒スラ只ナラス、切ニ主基督ノ天下万世ノ人間ノ為ニ如斯モ思慮ヲ廻ラセ賜ヒシ事ヲ考レハ、吾人ハ静ニ主ノ御前ニ伏シテ、主ヨ主ヨ爾ハ総テノ事ヲ知り賜フ、願クハ此ノ御国ノ事ニ関シ主ノ御意ノ存スル所「ノマ」ニナシ給ヘト云ノミ」ヲ得セシメ、又此事ハ此ノ地上ノ人類ニ関シ、如何ニ大切ナル事柄ナルヲ憶測セシメヨト願ヒタルナルゾ  
此ノ御祈ノ前後ヲ考レハ、此ノ御国トハ未来ノ天国ヲ指スニアラ〔ズ〕シテ、彼ノ天国ノ如キモノヲ「彼ノ天国ヲ」

最早此ノ地上ニ来ラシメヨノ意ナランカ

馬可ノ一ノ十五、時ハ滿テリ神ノ国ハ近ケリ、爾等悔改テ福音ヲ信セヨト

是レトリモ直サス福音ヲ以テ創立シ賜フ基督ノ御国ナルベシ

主ハ天父ノ御旨ヲ奉シ、天国ノ榮華ヲスラ捨テ難キ事〔ト〕セラレス、人間ニ降誕シ、人間ニ長成シ、人間ノ空氣ヲ呼吸セラレ、一身ヲ以テ万世万民ヲ救フノ基ヲ立ラレシ事ハ乃神ノ御国ノ基ナリ、此レ靈界ノ基ナリ

○然ルニ猶太人ハ兼テメシヤノ来ヲ望ミテ曰、彼来ラハ万物ヲ回復スヘシ、羅馬人ノ管轄ヲモ脱セシムベシ、而シテ一ノ独立王国ヲ猶太ニ創立スヘシト待チモウケシニ、豈図ラン其ノメシヤハ彼ノ寒貧ナルナザレ村ニ出テ、其ノ説ク所ハ一ノ独立王国ヲ起スニアラス、却テ無形ナル神ノ靈国ニアリテ、神ノ国ト其ノ義トヲ求ヨト説カル、其ノ門徒トスル所ハ當時羅馬ノ手ヲ脱セント図ル所ノ不平等又忼慨家ニアラスシテ、カリヤ湖辺ノ漁夫税吏ノ輩ナリ○猶太ノ王国ハ其ノ望マル、所ニアラサルノミナラス、至ル所足ヲ容ルノ地ナク枕ヲ安スル所モナキニ至レリ、又他ノ宗教家ノ如ク数十年ノ星霜ヲ消費シテ其ノ教ヲ起セシニアラス、僅々三年半程ノ苦辛誘導ニ止マリテ、其ノ得ル所ノ門徒ハ十二人或ハ七十人又五百人トアレトモ、基督蘇生ノ後主ノ御国ノ為ニ働キ〔シ〕人々ハ十一門徒ノ外別ニ僅々ノ人アルノミニシテ、其ノ十字架ニカケラレ〔シ〕時ナトニハ門徒輩ノ心中ハ如何ニ迷ヒ居リ〔シ〕ヤ、最早其ノ誘導者ハ殺サレ、ロウバイ千万、手ノオキ足ノ踏ム所モスラ知ラ〔ザ〕リシ

〔上欄〕  
「使徒ノ一ノ六ヨリ」

而シテ昇天セシ前ニモ、主ニ今國ヲイスラエルニ置カントスルカ〔ト〕問ハレ〔シ〕ニ、主ノ答エ賜ヒシニ、爾等聖靈ノ力ヲ得テエルサレム、ユダヤ、サマリヤ及ヒ地ノ極迄我カ証人ト為ルベシト

此時ヨリ神ノ御国ハ此弱キ人間ノ手ニヨリ漸々ト拡マリ来リ、或ハ羅馬教、クリシヤ教、プロテ〔ス〕タント教ノ分派シタルモ〔ノ〕、今日ハ歐羅巴ノ文明国ニ止マラス、十八世期ノ末已来十九〔世〕期ノ初ヨリ他国ニ派遣セラレ、亜弗利加ニ印度ニ南洋群島ニトルコニ支那ニ、近来ニ至日本ニ来リ遂ニ其ノ根ヲハリタリ、此伝道ノ来歴ヲ見ルニ、文物ノ盛ナルニ随ヒ、貿易ノ盛ナルニ随ヒ、思想交換ノ盛ナルニ随ヒ、活字版ノ發明、蒸氣力ノ発見、鉄道汽船ノ構造、電氣ノ作用等〔朱弧〕  
 続々世ニ出テ来リ、文化ノ進歩ヲシテ十八世期ヨリ幾數倍速ナラシメ、随テ伝道モ亦其ノ歩ヲ早メ、千八百年ニプロテスタント二百万人ナリシカ當時四百万人ノ上ニ出ルニ至リシハ、伝道モ幾分カ蒸氣電氣ノ速力ノ助ケヲ得タリト云モ決テ誣言ニアラサルカ如シ

歐洲中基督教カ蔓延セシハ其ノ事實ニシテ、或ハ外形ニノミ流レ、或ハ偽善者流ノ続々輩出スルノ憂ナキ能ワサルモ、基督教會ノ如キハ自ラ自治自療ノ性質ヲ具備シタレハ、羅馬教會ノ腐敗ヨリプロテ〔ス〕タント起リ、英國ノ監督教會ヨリピューリタン、メソヂスト教會ノ分派スルアリ、此ノ福音ノ活種カ人間ノ心ノ畑ニサヘ播カルレハ早晚其ノ実ヲ結フベケレハ、歐洲文明國中伝道會社ノ設立アリテ之ヲ万国ノ極迄テ派遣シテ、主ノ御國ノ版圖ヲ皇張スルニ至ルハ、吾人ノ切ニ天父ニ向ヒ感謝シ益々主ノ祈ヲ其祈トナシ、日々御國ヲ来ラセト祈ラズンハアルベカラス  
 此十八世期中伝道ノ来歴ハ恰モ進化論ノ如ク、旧套ヲ脱シテ新教會起来リ、他國ニ伝播セラレテ新ラ〔シ〕キ活潑ナル教會カ出来リ、從來ノ惡風習モ一洗シ去リ再洗シ去リ、漸々基督ノ教義ニ近寄ルニ至ルハ、世ノ信者ノ祈〔御國ヲ来ラセ賜ヘ〕ヲ天父カ聴賜フニアラスヤ、或人ハ誤テ、基督教ハ世ノ進歩ト兩立スヘカ〔ラ〕スト思フナレトモ、予ノ思フニ基督〔教〕ヲ取り去テハ世ノ進歩ヲ維持スヘキ精神ヲ取り去ルナリ、基督教アレハコソ政事上、社会上、經濟上、貿易上、教育上、衛生上、進歩ノ維持モ出来、今日ノ歐米ノ文化ヲ見ニ至レリ、然ラハ世ノ進歩ハ決シテ基督教ト兩立

シ難キモノニアラス、却テ基督教ニヨリ其ノ目的ヲ達スルモノナリ、基督教モ亦世ノ進歩ニヨリ其ノ助ヲ得タルナリ  
請フ、基督教ト世ノ進歩ノ關係ヲ論セン

活版ノ發明 宗教大革命ヲ助ク

汽車汽船ノ構造、電氣ノ作用 万国ノ伝道ヲ助ク

世ニ蒸氣ノ運轉起リ製造物ヲ盛<sup>ニ</sup>セシヨリ、世ノ富ヲ増加シ、而シテ又福音伝播ノ助ケヲ為ス  
十九世期中此ノ八十年間ノ働キ、十八世期中ノ働キニ<sup>(マ)</sup>一倍スト

○トルコ○ベルシヤ○印度○ボルマ○支那○南洋群島○サントウチ島<sup>(北洋南洋ノ区分)</sup>

○亞弗利加ノコンゴ河畔ノ自由貿易、近クハ我カ日本ニ於ケルカ如シ、米國ノ隆盛、加那他<sup>(カナタ)</sup>ノ新鉄道、支那日本ノ

開明ニ大關係アル事

〔今日ハ日本<sup>ノ</sup>學者輩ノ説モ、決シテ強ク基督教ニ反スルニアラス、福沢、矢野、外山〕

如斯ク物質上ノ進歩神ノ御國ノ皇張ヲ助クルモ、又世ノ奢侈ニ流ル、所ヨリ、或ハ皮相上ノ學術上ニ達スル所ヨリ、御國ノ進歩ヲ妨害スルモ亦少ナカラス、神吾人ヲ助ケ賜ヒ真理ニモ力アル<sup>ニ</sup>セヨ、神ハ福音ノ伝播御國ノ皇張ヲ此ノ弱キ人間ノ手ニ任セタル上ハ、此ノ御國ノ皇張スルモ、又依然旧ニ依リ進マサルモ、多少人間ノ勃々然勉ムルト不勉トニ関スレハ、御國ノ民ト称スル吾人ノ今日坐視傍觀スヘキ時ナランヤ、吾人誰アリテ御國ノ皇張ヲ望マサルモノアルヤ  
日本ノ天子堯人<sup>ニ</sup>其ノ一身ヲ抛チ楠氏カ南朝ノ回復ヲ計ラ<sup>レ</sup>シ其ノ熱心ハ、其七生人間滅国賊トノ語ヲ以察スヘキナリ、又宋ノ文天祥、明ノ史可法ノ如キハ其ノ身ヲ以<sup>一</sup>國ニ委ネシモノナリ、吾ハ近比水藩ノ浪士○佐野竹之助ノ和歌ヲ見テ大ニ感スル所アリ

〔朱〕  
〔しき島の錦之御旗持ち、捧け、ス、マ、軍の魁やせん〕

此等ノ人ハ天下兵馬ノ權ヲ任セラ〔レ〕シカ、又其ノ國ノ危急ヲ見ルヨリカ、又本国ノ振ハ〔ザ〕ルヲ歎スル所アルカ、何ニシロ一身ヲ以テ國家〔ノ〕挽回ニ当ルハタノモシキ人物ナリ

吾人苟モ主ノ恩寵ニ浴沐シ衆人ニ先〔チ〕其ノ招キヲ受、尤モ貴重ナル我靈魂ノ自由放免ヲ蒙タル所ノ主基督ノ御國ノ皇張ニ付テ、如何ナル感情ヲ持ツヘキモノゾヤ、吾人焉ソ佐野竹之助ニ向ヒ恥ツルナキ能ハサルカ、他國ハトモアレ、今日我カ國ニ於テ惡魔カ跋扈シ、惡魔カ人心ヲツナキ我カ社会ヲ支配スル有様ヲ見テ、吾人争テカ手ヲ懷ニシ優柔不斷此時機ヲ失フヘキゾ、吾ハ飽マテモ吾人カ畢生ノ力ヲ尽シテ、神ニ向御國ヲ来ラセト祈リ、又畢生ノ力ヲ尽シ神ノ御國ヲ来ラスノ手段ニ尽力シ、一日モ早ク我カ同國人ノ主ノ支配ノ下ニ来ラン事ヲ切望ス

〔基督降世已来天下ノ人熱心ニ祈シナラハ、今ハ早ヤ全世界ニ主ノ御國ノ来リシナランモノヲ、不熱心不勉強ヨリ御國ノ進歩ハ尚遅々タリ〕

〔朱〕

乍去茲ニ反省セ〔ラ〕ルヘキ事アリ、吾人ハヤ、モスルモ神ノ御國カ広ク拡マレハヨキ様ニ思フナレトモ、神ノ御國ハカサノ大ナルニヨリ貴キモノニアラス、乃チ其ノ品位ノ如何ニヨル

〔上欄〕

「頭数ハ無益ナリ」

ローカ〔ルカ〕十七ノ二十ヨリ、基督曰ク神ノ國ハ、頭ハレ来ルモノニアラス、夫レ神ノ國ハ、爾等ノ心ノ衷ニアリ

然ラハ吾ハ是ヨリ吾人銘々己ノ心ニ反省シテ自ラ問ヒ、主ノ御國ハ已ニ吾人ノ心ノ衷ニアル〔ヤ〕否

吾人主ノ御國ノ記号ナル十字架ヲトリ、戦場ニ臨ムニ所謂有名無実之兵丁ニシテ、十字架ハ負ヘトモ真ノ精神ナク、神ノ御國カ真ニ我輩ノ心ノ衷ニ降臨セサレハ吾人ハ如何ナルモノゾヤ

今ノ世ニハ玉石混合、小麦ト稗モ共ニ生ス、主ノ版圖ハ益盛ナルモ惡魔ノ國モ容易ニ亡フルモノニアラス、然何時カ

主カ其ノ栄光ヲ以来臨シ賜フノ日ニハ、一刀兩断御国ノ民ト御国ノ民タラサルモノヲ分ベシ

〔朱〕  
〔未完〕

〔上欄〕

「神ノ撰民ハ神必ラス助クヘシ、ヤコブノ困、難ノトキ、神、天軍ヲ示シテヤコブノ心ヲ堅フセリ」

〔上欄〕

「五葉ヨリ」\* △現今教会中ノ況情如何ヲ陳スベシ

〔真実ノ者、偽善君子、半信半疑ノ人、神ト財ニ兼テ使フル人、日曜日信者〕

如斯神の教カ勝利ヲ得タルニ似テ、吾人互ニ喜フヘキノ秋トハ思ヘトモ、吾人ハ是等ヲ以喜ベカラス  
〔補〕  
「ローカ〔ルカ〕」  
十ノ十七ヨリ」七十人帰来喜テ「曰ク」、惡鬼ノ基督ノ名ニ服セリト、基督曰惡鬼ノ爾等ニ服セシヲ喜トスル勿レ、爾等カ名ノ天ニ録サレシヲ喜トスベシ

〔補〕

「ローカ十七ノ二十」

基督曰、神ノ国ハ顯レ来ルモノニアラス……夫レ神ノ国ハ爾等ノ衷ニアリ

△故〔ニ〕外形上ノ進歩ハ頼ムニ足ラス、吾人ハ真実ニ御国ノ民ヲ組織スル人ヲ要ス、然ラハ教会ハ不用ナルヤ、否、教会ハ必用ナリ、縱令玉石混合スルモ教会ハ御国ヲ起スノ一機関、恰モ蒸溜水ヲ求ムルニラン引キヲ用ユルカ如シ、真ニ蒸溜水ヲ要スナラハラン引ノ水ヲ入レサルベカラス、又之ヲ火上ニ置カサルベカラス、ラン引キニ入ルハ吾人教会ヲ結フナリ○火上ニ置クハ乃神ノ御国ヲ来セヨト真ニ祈ルナリ

○御国ヲ来ラセ賜ヘ

○印度シヨンチュルセン氏曰、印度全国ハ英国女王ノ手ニ属スルニアラス、耶蘇基督ニ属ス

38 爾寬我

〔包紙〕

〔朱〕

〔爾寬我〕

〔表紙〕

〔爾寬我〕

「六十五  
讚美二十八  
五十」

〔本文〕

〔十九年十一月二十一日 同志社〕

詩篇〔四・一〕

我昔逢困迫而爾寬我<sup>\*</sup>

アラビヤ国人ノログサニ人カ困難ニ逢フタルトキハ狭キ場所ニ入ルト云ヒ、又困難ヲ脱シタルトキハ広キ場所ニ出タ  
リト云ワル、ヲ聞タルガ、是ハアラビヤ辺ノ人カ旅行ヲ為スニ毎度盜賊ニ襲ハル、事アリテ、殊ニ狭キ場ニテ双方ヨ  
リ盜賊ニ襲ハル、トキニハ左センカ右センカ、左右ニ山或ハ河アリ、退カンカ進マンカ前後盜賊ノ途ヲ遮ルアリ、即  
チ是レ所謂進退維谷<sup>（コレキワマ）</sup>ルノ位置ナリ、谷ルト云字ハ支那人カ谷ト云字ヲ用ヒ、実ニ其ノ身ノ深谷ノ中ニ陥リテ救ヒヲ得  
ルノ望モナキ有様ヲ克ク図キ出シタル文字ニシテ、人困迫ニ出逢フトキハ如何ニモ狭キ所ニ入り前後左右逃ル途モナ

ク甚困却シタル様子ヲ云頭ワシ、又其レニ反シテ広キ場所ニ出ツトハ、狹隘ノ地ヲ脱却シテ初メテ広キ原野ノ如キ四方八方ニ逃レ去ルヘキ途ノアル所ニ出テタルヲ云テ、困難ヨリ逃レ出テ自由ノ身トナリシ有様ヲ形容シタルナリ

〔上欄〕  
「アラビ〔ヤ〕人ハ当時城郭ヲ以防禦ノ策ヲ施サス、唯頼ム所ハ己レノ馬ト駱駝ト茫々タル原野ナリト」

此ノダビテノ言葉ハ多分己ノ息子アブソレムノ反逆ノノチ書レタル詩ナランカ、克ク己レノ困迫ニ逢ヒ然ル后困迫ヲ脱却シテ自由ノ身トナリ、一〔タ〕ヒ蒙塵シテエルサレムヲ逃レ出シモ、再ヒ王位ニ復スルノ幸ヲ得テ神恩ヲ謝セシトキノ言葉ノ如シ、予ノテクストニセシ此ノ言葉ノ如キハ、ダビテノ己レ自ラ經驗シテ困迫ノ如何ヲ知リテ吐カレタル言葉ナレハ、決シテ空想ノ語ニアラス、己レ勤メスシテ自ラ心中ヨリ湧キ出タルモノノ如シ、〔朱点・以下同〕人若シ困迫ニ逢ハサレハ、決シテ共ニ困迫ヲ語ルベカラス、此ノダビテノ如キハ〔上欄〕「初メ寒貧ナル牧童テアリシトキヨリ野辺ニ於テ屢々暴獸ト戦ヒ名状スヘカラサル苦辛ヲナメ、又フィレスティン〔ペリシテ〕ノゴライヤ〔ゴリアテ〕ト戦ヒ其ノ首ヲハネ、又ソ!

ル王ノ惡ム所トナリ種々ノ困迫ニ出逢ヒ、王位ニ昇リタレトモ屢一家族ノ困難ニ心ヲ痛メ、又殊ニ其ノ子アブソレムノ反逆ノ為ニ殆ト王位ヲ失フニ至リ、実ニ「甘ヒモ辛ヒモ酸ヒモ苦イモ自ラ嘗メ味ヒ、而シテ不可撓信仰ヲ以テ己一身ヲ天父ニ任せ、天ノ冥助ヲ蒙テ困迫ヲ脱シ、安全ノ身トナリ以テ己ノ心ヲ慰メ得、又心ヲ寛大ニシテ神ニ使ヘ人間ニ接シ一生ヲ送リシ人ナレハ〔寛我〕」トノ語モ同人ノ生涯ヲ知り初メテ寛我ノ言葉モ曉リ得ルニ至ルヘシ

○予ハ先ツ第一ニ逢困迫ト云語ニ付キ、少シク御談ヲ吐露スヘシ

却説困迫ハ決シテ人情喜ヲ求ムモノニアラネドモ、人間中之ヲ逃ル能ハサルモノアリ、或ハ自ラ不注意ニシテ之ヲ招クカ、將タ君ノ為親ノ為朋友ノ為ニ不得止之ヲ招クカ、將皇天意外ニ困迫ヲ与フルカ、其ノ困迫ノ依テ生スル所ハ將タ他人ノ不注意ヨリ慘状ナル困難ニ陥ルカ、或ハ父母ヨリ遺伝シテ困難ヲ蒙ルカ差異アルモ、又困迫ニ多少ノ區別

アルモ人間間実ニアルモノニシテ、吾人ノ全ク之ヲ逃レ難キ場合モアレハ、此人間世界ハ困難世界ト云トモ誣言ニアラス、世俗ニ月ニ群雲花ニ風、快樂窮テ悲哀生ス、変シ易キハ浮世ノ習ヒト云語モアレバ、何ニカ世ノ中ノ事ハ種々難多ノ事カ混シ来リテ、今快樂ニ世ヲ送り居ルト思ハ直ニ変シテ悲哀慘状ノ身トナルカ如ク、困難ト苦辛ハ常ニ門外ニ待チ道路ニ横ハルカ如シ、往古ヨリ現時ニ至ルマデ困難ニカ、リシ人ハ、歴史中ナリ物語ナリ艸草紙ナリ枚挙スルニ暇アラサレハ、予ハ之ヲ喋々セサルベシ、而シテ困難カクル〔ハ〕貧窮ヨリ生スルアリ、疾病ヨリ生スルアリ、飢渴ヨリ生スルアリ。他人ノ助ナキヨリ生スルアリ、又他人ノ逆シツトノ為ニ受クルアリ。富貴功名ノ為ニ自ラ之ヲ受クルカ、或ハ邦家ノ為衆人ノ為、義ノ為真理ノ為ニ受クルアルモ、元來困迫ハ人情或ハ天災ヨリ生スルアリ、厭フモノナレハ人好テ求ムルニアラス、困迫ノ襲ヒ来ルアリテ如何ニモ之ヲ避クベカラサルノ地位ニ達シテ然ルナリ

然ラハ人生ノ困難ハ地上ニ大風地震ノアル如ク一ノ現像ニシテ、必ラス之ヲアルモノト見レハ、世ノ人タルモノ之ニ出逢ヒ之ニ所スルノ工風ナカルヘカラス、又困難ニ出逢ヒ困難ニ勝ツノ修行ナカルベカラス

人間ハ所謂社会的ノ動物ニシテ同情相憐ムハ天真ノ性ナレハ、人困迫ニ陥ルトキハ自ラ他人ノ助ケヲ要求シ、他人ノ憐恤ノ情ヲ惹キ起シテ、遂ニ他人ノ為ニ助ケラ〔レ〕シ例ハ世ニ沢山アル事ナル事〔ニ〕シテ、彼ノ飢餓ニ逢フタル

韓信カ漂母ヨリ一杯ノ飯ヲ憐〔アハレ〕マレサレハ、遂ニ餓死シテ、后十万ノ兵ニ將タルノ機ヲ得サリシモノヲ、漂母一杯ノ

飯能ク韓信ヲ救ヒタリ、而シテ漂母ニ向ヒ飯ヲ乞フ程ノ貧困ニ陥リ苦辛ヲモ嘗メタレバコソ、又十万ノ兵ニ將タル技倆ヲ顯ハスニ至リシナランカ

故ニ予ハ曰ハン、世ノ困難ハ乃造物主宰ノ人間ヨリ綴々タルモノヲ生セシムル手段ニシテ、ダーウィン氏ノ説ク所ノ自然淘汰ノ類ナリト

第一 神困難ヲ人間ニ与へ、先ツ困難ニ堪フルカ否ヲ試ミ賜フカ如シ

サーベル師ノサーベルノ良否ヲ試ムルニハ、

之ヲ彎曲セシメテ彎曲ニ堪ユルモノヲ良刀ト称シ、其ニ堪へサルモノハ即不用ノモノトナシ之ヲ廢スト、神ノ人物ヲ撰拔シ賜フモ亦サーベル師ノ其ノサーベルヲ試ムルカ如ク、困難ヲ以テ其ノ前ニ来ラシメ、之ヲ抑圧シ之ヲ彎曲シ其ノ抑圧彎曲ニ堪ユルモノハ神ノ試験ニ及第スルモノトシテ大事業ニ当ラシム、而シテ大事業ニ当リシ上モ尚屢大困難ニ逢遇セシメ、弥其ノ事業ニ堪フルヤ否ヲ試ミ賜エリ、故ニ困難ハ人生進歩ノ関門ト云トモ可ナランカ○ダビテノ一生涯ヲ見ヨ、困難ヲ通シテ神ヲ見、困難ニアリテ神ニ使ヘタルカ如シ、又旧約史中神ノ撰択シタル人物ノ一生涯ヲ探索スレハ誰一人トシテ困難ニ逢ハサルモノナシ、彼ノアブラハム。ヤコブ。ヨージェフ。モーゼス。等ノ生涯ヲ見ラレヨ。アブ〔ラ〕ハムハ年老ヒテ尚他郷ニ流遇シ、膝ヲ容ル、ノ地モ有セザリシヤコブノ如キ、ベテルニ露臥シ伯父レーバンノ家ニアツテ十四年間モ使役セラレ、ヨージェフノ如キハ己ノ兄弟ノ為ニ他国ニ売ラレ、又重テ牢獄ニ繋カル、ノ不幸ニ逢ヘリ、モーゼスノ如キハ最早嬰兒ノトキヨリナイル河ノ中ニ棄ラレ、法〔バ〕ロー〔王〕ノ嬢ノ子分トナルノ幸ヲ得シモ、故アリテ宮殿ニ止マルヲ得ス、逆ニアラビヤノ郊野ニノカレ其ノ処ニ流寓スル四十年ノ久ニ至レリ、神カ此等ノ人ヲ撰択スルノ企アルトキハ、先ツ其困難ヲ以其レニ堪ユル否ヲ試ミラレ、而シテ之ニ堪ヘ得ヘキ人ヲ挙げテ世ノ大任ニ当ラシメ、以テ大事業ヲ遂ケ<sup>〔セシ〕</sup>使メ賜ヘハ、困難ハ人ノ尽ク厭フ所ナレトモ、亦人困難ノ為ニ琢磨セラ〔レ〕、磨擦セラレ、練磨セラルレハ、困難モ敢テ厭フニ足ラサルカ

第二 神カ困難ヲ人間世界ニ許シ賜フハ不慈悲ノ所為ニアラス、慈愛ノ所為ト云ヘシ

神カ娘嶮ヲ以テ人類ヲ淘汰

シ賜フハ人類ヲシテ益上達進歩セシメントノ好意ナラン、人類中此ノ淘汰力行ハルレハ、優勝劣敗ハ自然ノ勢ニシテ、恰モダイ〔ヤ〕モンドヲ磨擦スルニタイ〔ヤ〕モンドヲ用イ其光沢ヲ生セシムルカ如ク、人間ヲ撰ヒテ神ノ撰器ト爲シ

賜フニハ、人間間ノ困難事ヲ以テ之ヲ磨擦シ、其ノ光沢ヲ発セシメハ、其ノ撰レタル所ノ人ニ取リテハ、困難ニアルトキハ誤テ神ニ愛ナシト思ヒ、甚シキニ至リテハ神我ヲ見捨テハセサルカノ疑ナドヲモ生スヘキモ、困難ニヨリ光沢ヲ発シタル上ハ人必ラス其ノ跡方ヲ顧テ神ニ謝スルノ心ヲ生スベシ、人艱難ニ逢ハサレハ安樂ノ恵ヲ喜ハサルベク、粗食ヲ為サ、レハ珍味ノ如何ニ甘キヲ知得サルヘシ、

(ニク)

可憐イ子ニ旅ヲサセロトノ譬エモアリ、又古人ノ句ニ惡クテハ打タヌモノナリ竹ノ雪、是ハ人力横着ニ成生シテ何ノ苦辛モ嘗メス、安逸ニ置ミノ上ニテ成長セハ決シテ世ニアリ益ニタ、サルモノトナレハ、心得アル父母タルモノハ之ヲシテ旅ヲ為サシメ、之ヲシテ苦辛ヲ知ラシメ、之ヲ呵嘖シ、之ヲシテ大人君子タラシメン(ト)ノ老婆心ナルハ皆人ノ克ク知ル所ニシテ、人ノ父母タルモノノ心スラ如此キモノナレハ、況シテ我カ父母ニ幾倍シテ吾人ヲ愛シ賜フ天父ハ、吾人ノ横着我儘ニ生成スルヲ其ノ儘ニナシ不問ニ置キ賜(フ)ヘケンヤ、然ラハ困難ハ神ノ愛。鞭ニシテ、之ヲ蒙ルモノハ其ノ愛子、其ノ撰器、撰民ト成リ得ヘキノ望ヲ抱カサルベカラス

〔上欄〕  
「子ヲヨキモノニ為シ度き父母ノ望ミ」

如斯論シ来レハ困難モ忌嫌ニ及ハサルカ如クナレ〔下〕モ、困難ナルモノハ我輩カ只々疊ノ上ニテ論スヘキモノニアラス、又好テ之ヲ求ムヘキモノニモアラス、去レ〔下〕モ世ノ一現象トシテ時々現出スルモノニテ、何ツ何時我カ身ノ上ニ来ルモノカ予メ知り得サルモノナレハ、常ニ困難ニ逢フトキ如何スヘキカ如何カ、心得ヘキノ覚悟ナカルヘカラス、其ノ覚悟ハ三種アルベシ

〔朱墨〕

第一 人ノ助ヲ要ス 人困難ニ陥リタルトキ幸ニ他人ノアルアツテ、之ヲ救ヒ呉ル、トキハ如何ニ有難イウレシイモノゾ、飢渴將ニ死ントスルトキ一碗ノ飯、一杯ノ水、百万円ニモ易ヘラ〔レ〕サル価アルヘク、若シ吾人カ水難火災

ニ逢ヒ將ニ死セントスルトキ、何人カ来リテ我ヲ助ケ出シ呉ルレハ、吾人ハ其ノ人ヲサシ命ノ親ト称シ一世涯決シテ忘却セサルベシ、然レトモ人若シ大洋中ニアリ難船スルカ、亜弗利加ノ沙漠ニアリテ飢渴ニセマルカ、深山ノ中ニ病ニカ、ルカ、人ヲ呼フニ人来ラス、天ニ叫フ「モ」天応セス、地ニ訴フ「モ」地ハ答ヘス、カ、ルトキハ如何スヘキヤ、他ニ様ノ覺悟ナカルヘカラス

〔上欄〕  
「良友ノ忠告」

〔朱註〕

第二大胆ニシテ死ヲ決ス 大胆不敵死ヲ決シタル事ハ、或ハ僧侶ノ内、又ハ日本魂ヲ以テ慢レル所ノ武人ノ内ニマ、アル事ナルカ、大胆死ヲ決セハ一モ二モナキ事ニシテ、全ク人情ヲ斷絶スルモノ、有ナルベシ、或ル僧侶カ加州金沢ニ於テ議論ヲナシテ屈セサリシカハ、其ノ相手カ其ノ足ヲシバリ之ヲサカシマニテ犀川ト云フ川ノ上ニサゲ円頭ヲ水ニシタシ、尚屈セサルヤ問タレハ、犀、川、水、涓々ト申シテ平氣テ居リタトカ云話モアリ、又維新ノ前、英ノ軍艦カ薩摩ノ灣ニ入り込戦ヲ開キ「シ」トキ、或士族カラ体ニテ大小ヲサシ込ミ砲台ノ上ニ躍リ上リ、明日ハ己レノ生靈ノ来ル日ダカ「ラ」我ハ其ノ向ヒニ行クヘキカナト大声ヲ發シ笑タ「リ」ト言フ事ヲ聞タルガ、如斯モ死ヲ決シテ何ニモ世ニ恐ルヘキモノハナキ事ダカ、此等ノ事多ハ己ノ我慢カ又ハ名譽ノ為カ、人情如斯モ平氣ニナリ難キモノナリ、人ニシテ死ヲ忌ミ困難ヲキロウカ人情ナレハ、此ノ人情ヲ全ク有テ而シテ困難ニ所スルノ法ハナキモノカ

〔上欄〕

〔佐藤義清 北面ノ武士、或ハ世ノ富貴功名ヲ度外視スルカ、西行遁世ノ后モ

ナケ、トテ月夜ハ物ヲヲモハスルカコチ顔ナル我カ涙カナ」

〔朱註〕

第二一身ヲ天父ノ手ニ任ス 死ヲイミ困難ヲ嫌フ人情ヲ吾人ニ与ヘタル神ナレハ、吾人ノ困難ニ臨ミ氣ヲツカイ心ヲ痛ムルヲ見テテント顧ミサル事アランヤ、或ハ人間避クヘカラサルノ困難災害アルモ、吾人カ一身ヲ天父ノ手ニ任

セタレハ、勤メテ大胆ニナラストモ心ニ云ヘカ〔ラ〕サルノ平安ヲ得、水難火災ノ類カ又ハ飢渴身ニセマルモ從容トシテ天ノ父ニ向ヒ、我カ靈ヲステパノノ如クウケ賜ヘト「主基督ノ如ク我カ靈ヲ爾ノ手ニ託ク〔ス〕ト」云フヲ得ベシ、是レ往昔ヨリ以來神ニ身ヲ任セタル信徒ノ、世ノ艱嶮ニ逢ヒ、艱嶮ニ堪ヘ、艱嶮ニ勝チ、困難ノ中ニアルモ尚心ノ慰ヲ受ケ神ヲ讚美シ、又困難ヲ經テ神ノ与ヘ賜ヒシ大事業ヲ為スニ至リシハ決シテ偶然ナラス、神困難ヲ以其ノ人ニ与ヘ、又其ニ死ニ至ラシムルカ、又ハ其ノ手ヲ以テ困難ヨリ救ヒ出〔ス〕カ、其ヲシテ御國ヲ来ラスルカ為ニ使用シ賜ヘハ、神ノ兵丁タル者、真理ノ兵士タルモノハ平時ニモ困難ニモ掃次顛沛ニモ、我カ一身ヲ天父ニ任スル事ハ真ニ欠クヘカラサルノ修行タルベシ

困難ニ逢フトキハ人兎角一方ニ思フ込、何ニトカシテ之ヲ逃レント計ルヨリ却テアワテ心カ小クナリテ、蛤ノ穴ノ中ニ入タル心地ヲナシ物事ニ誤リ易キ憂アレハ、人ヲタノムヨリモ、己ノ心ヲシテ大胆ナ〔ラ〕シムルヨリモ、寧ロ從容トシテ天父ニ任セハ必ラス其ノトキハ如何所スヘキカラ天父ハ示シ賜ハン、孔子カ天ノ為セル災ハ避ルヘシ、自力為セル禍ハ避ルヘカラスト言ハレタルカ、天変地災ニテ死スルカ又他人ノ為ニ困難ニ陷ノ類ハ、其ノ身ノ不幸ト称スルモ德義上ノ罪人タラス、死モ止ムヲ得サルナリ、人一度ヒ德義上ノ罪人トナリ己ノ良心ニソムキタル上ハ如何ニシテ避ルベケン、数千里外ニ飛去ランカ吾ヲセムル良心我ト伴ヘリ、退カンカ進マンカ左センカ右セン〔カ〕我カ良心ノカクレカハナク、此レソ実ニ人生ノ進退維谷ト云ヘキナリ、世間往々自殺スルノ輩ハ、良心ヲカクスヘキ地ナク良心ノセムル所トナリ、生キテ良心ノ為ニ苦メラルヨリ寧ロ死スルニ如カスト思テ如斯為ス所ナラン兄弟ヨ、良心ノ罪人トナル程人間ノ弱キモノナク又狭ク苦イモノハアルマシ、又良心一点ノ雲モナク、身ヲ真理ニ任セ、其ノ前途ヲ全ク天父ノ御導キニ任セタレハ、是レ程強イ事ハナク、是程快楽ナル事ハナク、是程快濶ナ事ハ

ナカルベシ、吾人如斯身ヲ真理ニ附シ天父ノ手ニ任ネタレハ、不得止場合ニ立至ラハ、艱嶮モ来ルヘシ水火モ来ルヘシ、獅子ノ穴ニ投セラル、モ恐レサルヘク、獄屋ニ繋カルモ厭ハサルヘク、仰テ天ニ愧<sup>〔ハジ〕</sup>ズ、伏テ地ニ恥チス、神ノ子供トナリ一生ヲ送ルヲ得ヘシ

近來紀州沖ニ沈没セシノルマントン号<sup>\*</sup>ノ乗込客二十三人ハ、不幸ニシテ海魚ノ腹中ニ葬ラ<sup>〔レ〕</sup>シハ実ニ吾人ノ聞ニ忍ヒサル所、又其ノ船中ニノコサレ船長等ノ端舟ニ乗り去ヲ見、其ノ残念遺憾何等ソ、予ハ寧ロ海底ニ沈ムモ己計<sup>〔リ〕</sup>命ヲ全セシ船長タルヲ欲マス、若シ船長ニシテ良心アラハ良心ノセムル所何等ソ、是ソ進退維谷トハ此等ノ事ナラン

兄弟ヨ、一身ヲ天父ニ任セテ天父ノ命ヲノミ是行ハ、艱嶮ニ逢モ天父吾カ心ヲ寛ニスヘシ、水火ニ入ルモ天父吾ト共ナルベシ、吾人ノ身ハ寸々ニ斬ラル、<sup>〔モ〕</sup>吾カ靈ハ裁絶スベカラス、茲ニ至リ人初メテ真男子ノ腹ヲ持テリト云ヘキナリ、兄弟ハ早已ニ天父ニ一身ヲ任ネタルナラン、去レトモ未タ此ノ天父ヲ信認セサルモノアラハ予ハ切ニ望、此レ等ノ朋友ノ一日モ早ク此ノ天父ヲ探リ、此ノ天父ヲ確認シ、一身ヲ此ノ天父ノ手ニ任セラレン事ヲ、朋友ヨ、君等ハ前途我カ邦家ノ為、真理ノ為、身ヲ犠牲トセラル、身分ナリト予ハ信スレハ、窮將益固タク老ハ將サニ益壯ナルナリ、一身ヲ神ノ祭壇ノ上ニ捧ケテ神ニ奉リ、正義公道ノ為、基督ノ福音ノ為、我カ同胞ノ幸福ノ為、畢生ノ力ヲ尽サレナハ、我カ東洋ニ新日本ヲ組織シ来スハ数年ヲ出スシテ期スヘキナリ

39 我已勝世矣

〔包紙〕

「我已勝世矣

十九年十二月五日」

〔本文〕

〔朱〕十九年十二月四日」

〔歌〕41、51、52、

約翰十六ノ三十三

我已ニ世ニ勝テリ

三日間ノ大現像 三日間ニ出来シ事ヲ一覽シテ之ニ鄙見ヲ述フベシ

キリストノ神性

人間ノ人性

〔朱冊〕

第六日

晚餐

〔宋丸・以下同〕

○門弟其前ヲ争ヒ誰カ大ナルカヲ知ラントス

キリスト自ラ門徒ノ足ヲ洗ヒ賜フ

○キリスト、門徒ノ一人己ヲ売リ渡ス事ヲ前言ス

○ペテロノ鶏ノ鳴カサル前三度己ヲ知ラスト言ヲ告ク

深切ノ教誨 葡萄ノ枝ト幹 祈禱

ゲッセメネーノ園 兼テキリストノ趣カル、所

キリストノ祈 杯ヲ取除 御意ノ儘ニナシ賜ヘ

人性ノ死ヲイトフ所カ少シク見ユ

祭司頭并年寄、兵丁ヲ率テ来ル 〔朱点・以下同〕キリスト誰ヲ尋ヌト問 ナサレノエス 兵丁ハ伏ス、威厳ニ恐レ

ペテロ刀ヲ拔、祭司ノ長ノ「僕ノ」耳ヲ切ル

キリストハ之ヲ癒ス 劔ヲ取ルモノハハ劔ヲ以テ死ス 天父ハ天使十二軍ヲ下シ得ルヲ知ラサルカ

キリスト、ケーファス「カヤパ」ノ役宅ニ引キ連ラル サンヒイトリム〔議會〕之ニ会ス

〔朱線〕  
ペテロ三度主ヲ知ラスト云 下婢 火ノ傍ノ人々 祭司ノ長ノ僕

鶏鳴ク 主ペテロヲ顧ル

主ノ眼中 ペテロ門ヲ出、哀ム

ケーファハスノ前ニ偽ノ証ヲ持チ来ル

神ノ宮ヲ毀チ三日目之ヲ建ツト

キリストハ神ノ權威ノ右ニ坐シ来ルヘシト言ハレケレハ、爾ハ神ノ子ナルヤト問フ

キリストヨリ証ヲ得テ足レリトス

夜ノ、アケサル前人ハ起キサル内、羅馬人ノ手ニ渡ス  
猶太人ハキリストヲピラトノ前ニ出シ

宗教上ノ罪人ナレハピラトノ関セサルヨリ、キリストヲ政事上ノ罪人トナシ 猶太人ノ王ト稱シテシーサニ税ヲ納ムル勿レト人々ニ教ユト云フ

ピラト問、爾ハ猶太人ノ王ナルヤ、爾自之ヲ言フカ又他人カ我ニ付テ爾ニ談セシヤ

◎キリスト曰 我ハ真理ヲ証スル為来ル

◎真理トハ何ソヤ

多証ヲ持チ来ルモキリストハ一言モ答ヘス

プヒト「ピラト」ガリラヤヨリ初猶太全国ノ人ヲ教ユト聞キ、ヘロデノ下ニ遣ス

其困難ヲ逃レン為、又ヘロデノ歡心ヲ得ン為

ヘロデ姦婦ヲ娶リ妻トシ、ヨワンネヲ殺ス

喜「テ」之ヲ受ク 奇蹟ヲ見ントス 答アリシニキリストハ一切答ヘス

此時兩人調和ス 白衣ヲ着ケピラトニ護送ス

罪人ヲ赦スノ例

バラバ キリストヲ十字架ニ付ケ「ヨ」ト

ピラトハ四度、キリストニ殺スヘキ罪ナシト云フ

猶太人ノ勢ニ恐レ遂ニキリストヲ死刑ニ附

〔朱線・以下同〕

猶太人ノ王ト稱シテシーサニ税ヲ納

自手ヲ洗〔ヒ〕心ヲ洗ハサルカ

猶太人ハ其罪ヲ己ニ帰スヘシト斷言ス

ゴルゴタ、カルワレー 彼ハ罪人ト共ニ数ヘラルトノ預言ニ応、十字架ニ付ケラル

十字架上ノ現像ハ如何 ステ札

ナザレノエス 猶太人ノ王

〔天〕父ニ向ヒ彼等ハ其為ス所ヲ知ラス 彼等ノ罪ヲ許シ賜ヘト

學者年寄輩キリストヲアサケリ曰ク

彼ハ人ヲ救ヒ己ヲ救ヒ得スト、大勝利ノツモリ

キリスト其ノ母ヲヨワンネニ托ス

我カ働キハ成就セリト

〔身ハ大敗亡ナルモ勝ツト〕〔ハ〕如何

エロイ、エロイ ラマ サバクタニ

〔ヘブライノ語テ語ラル 我カ靈ヲ爾ニ托ス、一時人性カ神性ノ前ニ遮〔サエ〕キ〔リ〕シヤ

百夫ノ長

此人ハ真ノ神ノ子ナリト、義人ナリト

ヨ―セフ、ニコデモ来テキリストヲ葬ル 新築ノ墓ナリ

サンヒトリムハ、ヘロデヨリ番兵ヲ乞、之ヲ置ク

〔朱註〕  
第七日ノ休息ス 如何ナル安息日ソ

祭司諸長ノ心ハ如何ノ安息日ソト

〔朱註〕  
第一日早朝天使来、石ヲ動かシ其上ニ坐

番兵恐レ死人ノ如クナレリ

マクタラノマリヤ、他ノマリヤ来

天使 生タルモノヲ死人ノ内ニ求ムル勿レ

金ヲヤリ番兵ノ口ヲ止ム 眠タル〔間ニ〕門弟来テ之ヲ盗ム

第一日ノ内四回顯出ス

猶太人ハ人間ノ工風シ得丈ケハ工風シテ漸時キリストニ勝チシモ、キリストハ長ク墓ノ内ニ埋ラレズ  
詩篇〔一六一〇〕〔二〕爾ノ聖ナルモノヲシテ腐敗ヲ見セシメスト

猶太人ノ刑ニ所スレハキリストノ従フニ反カル、ヲ恐レピラトニ渡ス ピラトハキリストニ罪ナキヲ知ルモ之ヲ救  
フ得ハス、猶太人ノ呼ニ従ヒ之ヲ彼等ニ渡ス

キリストノ蘇生ヲ恐レ石ヲ以墓ヲ封シ番兵ヲ置ク

ペテロノ挙動

甚シキユダノ惡〔ム〕ヘキ所置

一 神性ノ高尚ナルト

一 人性ノ下等卑賤、近眼、周章狼狽

充分ノ勝利トセシモ、三日ヲ経サルニ全〔ク〕水泡ニ属ス  
人性ノ弱キ事

仮令惡人タラサルモ名利ノ奴タルヲ免レサルベシ

神性ヲ受ケサレハ我等モ一生涯

猶太人タルカ、ピラトタル〔カ〕、ヘロデタルカ、ユダタルカ

神性ヲ受クルヲ要ス

キリスト此ノ神性ヲ賜ラントシテ門戸ヲ開キ我ヲ招ク、神性ハ磁石氣ノ如ク之ヲ受ケ、不知其ノ感スル事アリ〔カ〕  
今ヤ救ノ日、恵ノ秋ナリ、此ノ時期ヲ失〔フ〕ナクンハ幸ナリ

〔明治十九年十二月五日・於同志社教会〕

40 「無クテナラヌモノ一アリ」

〔全文朱〕

路可十ノ四十一、四十二

○然レト無クテ叶フマシキモノハ一ナリ、マリヤハ已ニ善業ヲ撰ヘリ、此ハ彼ヨリ奪取ルベカラ〔ザル〕モノナリ

ベタニヤノ有様ヲ見ルニ、マルタハ急カシク働キ、キリストヲ饗応セントシ、手ノ足ヲサルヨリ其妹マリヤノ加勢ヲ得ントセシニ、マリヤハキリストノ足下ニアリテ其教ヲ聞キ、キリストハ亦僅カ一婦人トシテ之ヲ軽々ニ附シ賜ハス、深切丁寧ニ教ヘ、マルタノ問ニヨリ遂ニ発シ賜シ所ノ御言葉、如斯モ一個ノ恒星ノ如ク聖書中ニ輝キ、永ク我輩ヲシテ人間ノ無クテ叶フマシキモノヲ知ラシメ賜ヒ〔シ〕ハ、実ニキリストノ事々ニ意ヲ用ヒ賜シ事ニ敬服セサルヲ得ズ

扱今日ハベタニヤノ二人ノ婦人ノ事ニ付御話ヲ致スベシ、茲ニ記セル所ヨリ見テモ、マルタハ其性急ク又働キ手、事務家ノ如ク見ヘ、マリヤハ其性静ニシテ物事ニ思想ヲ回ラシ、殊ニ克真理ヲ味ヒ得タルモノ、如シ

世間ニハ人間カ兎角此ノ二様ニ別ル、モノカ、キリストノ御門弟ノ中ニペテロノ如キ、性急ニシテ何事ニモ出懸ケ何事カニ口ヲ出スモノアリ、又ヨハンネノ如ク静ニキリストノ真理ヲ味フモノアリ○孔子ノ弟子ニ子貢、子路、冉有ノ如キヤリ手アリ、又顔回ノ如キ篤実温行ナル君子風ノ如キ人物アリ

○又如斯人間間ニ二様ノ人物カアル如キ、教会中或時代ニアリテモ沈思黙祈ヲ重スルアリ、中古時代ノモンクスノ如

ク宗教大革命以後漸ク働キノ方ニ傾向シ、別シテ十九世期ニ至リテ教会ノ中何トナク働カ〔ネバ〕ナラヌ伝道セネハナラヌト云フ精神カ起リ、発シテ大学ヲ起シ聖書会社トナリ伝道会社トナリ青年会トナリ、アルミトナリ、種々様々ノ好キ働ヲ起シ来リ、キリスト教会モ世ノ運動ト同運動セサレハナラサル有様トハ成来リ、或ル人ヲシテ今ノ基督信徒ノ働キハ、臂ヨリ上ノ働キニアラ〔ズ〕シテ、臂ヨリ下ノ働キト云ハシムルノ弊ナキ能ハス

〔教会歴史ヨリ考ヘ見レハ、中古時代ノ人物カ盛ニ思想ヲ回〔シ〕種々ノ事柄ニ思考ヲ回ラセシ事カ積ミ重ナリテ、近世ノ如キ働ヲ呈出スルニ至リシナランカ

乍去人間類〔ハ〕一箇人ナレ、又時代ナレ兎角一方ニ偏シ易ク、事業ニ巧ミナルモノハ思想又ハ学事ニ拙テ、学事思想ニ敏ナルモノハ事務ニ鈍ニ、事務ニ走ルモノハ何ンデモ事務ナリト云、思慮工風ヲ忘却シ、学問ニ沈ムモノハ思想海ニ沈ミ往々不活潑トナリ、世事ニウトクナルモノアリ、是レ一方ニ走ノ弊ニシテ我輩宜シク注意セサルベカラサル所ナリ、之ノ弊ヲ矯ムル如何ニスヘキ、人間ノ須臾離ルヘカラサル一定ノ主義アリ、世ノ事務家ニアレ学者ニアレ貴族ニアレ貧人ニアレ開化人ニアレ野蕃人ニアレ、若カレ年寄ナレ、男ナリ女ナリ茲ニナクテナラヌモノ一アリ、其一トハ何ソ、乃マリヤノキリストヨリ得シ所ノモノナリ、命ノ道ナリ、乃キリストノ道ナリ

世人ハ誤テ基督教ヲ天国ニ往クニ大切ナル教ト思ヒ、此世ニ一ト仕事ヲ為シ、隠居シテヨリ而後教ニ入ルベシナトト思フ人モアレトモ、キリストノ道タル隠居シテ后、又死セントスルトキニミ大切ナル教ニアラス、人間トシテ奉セサルヲ得サルノ道ナレハ、人間カ世ノ舞台ニ出テ銘々ノ演戲ヲ呈スルトキ尤モ必要ノ道ニシテ、活潑ノ働ヲ為ストキコソ最モ之ヲ統御スルノ教ヲ要スヘキナリ、往々世間ノ才子ヤリ手ニテ、一旦大事務ニカ、リ事ノ將ニ成就セントスルトキニ失敗ニ至ルモノ往々少カラス、我日本ノ如キ才子少キ〔ニ〕アラス、ヤリ手乏シキニアラス、人

間ノ大道ヲ蹈ヘキ人物ノ乏シキヨリ今日社会ノ惨状ヲ来ラシタルナリ

又欧米諸国〔ニ〕有為活潑ノ人間アリ、政事ニ社会ニ教育ニ商業ニ農業ニ工業ニ、駁々トシテ進ミ其止マル所ヲ知ラサルカ如キハ何ノ点ニ原因スルゾ〔墨点・以下同〕。人力ノ左右シ能ハサル故ナリ、欧米ノ社会ヲ貫徹シテ之ニ活潑々ノ命ヲ与ヘタルナラン、

○乍去今日欧米ノ開化ハ物質上ニ其力ヲ呈スルモ、ツマリ思想的ノ進歩大ニ元ツクモノナリト雖、今日ノ潮流ハ仕事ヲ為スニアリテ、政事ニ法律ニ社会ニ教育ニ商工農業ニ至迄非常ニ活潑ナル運動ヲ生シ来リタレハ、人間ノ需用ハ益増加シ、又増加スルニ順ヒ人間ノ分業ハ益甚シク、分業甚シケレハ人ヲシテ必ラ〔ズ〕専門ニ走ラシムルノ弊ナキ能ハス

如斯人カ専門家トナル上ハ其ノ全身〔心〕全身テ其一業ニ向テ、其ノ一業コソ天下ニ必用ナラント思ヒ、又如斯専門家カ増加シ来レハ日々政事上、學術上ノ進歩、機械上ノ發明モ盛ニナリ、益進ミ益其需用ヲ増スニ至ルナラン

昔時ハ人カ旅行スルニ足ヲ用ヒ、カゴ牛馬ニノリ、漸進テ馬車ニノリ、遂ニ進テ汽車汽船ニ乗ルニ到レリ

昔時ハ人カ夜分灯ヲ菜油ヲ用ヒ、蠟燭ヲ用ヒタリ、近来ハ石炭油石炭ナトナリ、電気灯トナリ

郵便モ人足〔カ〕電信ト変セリ

非常〔ニ〕活潑トナリ非常〔ニ〕急ハ〔シ〕クナリ、何テモ働キト云世ト成来レリ

茲ニ人カ働キヲ為セサレハナラサル世トナリタレハ、世人ハ非常ノ勉強セサルベカラス○欧米ニ尤モ恐キ試ミハ金モ一ケナリ、世ノ名誉ヲ博スル等ナリ、金ヲモウケル〔事〕カ出来○學術上ナリ政事上ナリ名誉ヲ博スル事カ出来タリト雖、人間ノ左右シ能ハサル死ト云モノカアリ

ハンテルヴルノ如キ金満家モ金ノ為ニ命ヲ買フ能ハス、□□ランケノ如キ大学者モ死カ来レハ最早筆ヲ把〔リ〕歴史ヲカク能ハス、グラントノ如キ大将モ死ントスル期ニ人ノ手ニ扶ケラレタリ、グラットストーン、ビスマクノ如キ英雄モ政事上ニ其伎倆ヲ呈スル能ハサルノ日カ来ルベシ、亦伎倆ヲ以命ヲ買ハ得ハス〔マダ〕

己ノ金モ己ノ伎倆モ己ノ仕事モ、何時カ己レハハキ取ラル、ノ秋ニ際シ、己ヨリ奪ヒ取ラレサルモノ一アリ、是レマリヤノ撰ヒタル○善業ナリ、兄弟〔ヨ〕、己ト共ニ朽ツルモノノ為ニ勞スヘカラス、己レト共朽チサル命ノ為ニ計ルベシ、是レ死ノ勝利ヲ呈シ得ルモノナリ

兄弟ヨ、シミモ食ヒ得ス盜賊モ盜エス。死ニ勝得モノ〔タル〕所ノ命ヲ求ムベシ

キリストニヨリ得ル所ノ命コソ衆ノ徳ノ泉ニシテ、生前モ死後モ混タトシテ流出ツル所ノ泉モ涸レサルモノナリマリヤハ此ノ無クテナラヌモノ一ヲ撰ヘリ、而シテキリストノ葬ノ為ニ為セシ所ノ働ハ如何、福音ノ伝エラル、所ニハ此婦人ノ事モ記念ノ為ニ伝ヘラルヘシト後世キリストモ云ハレタル如ク、其名後世ニ香シ、永ク我輩ノ手本トナレリ

兄兄ヨリ君等ハ大丈夫、忼慨ノ士、愛国男子ヲ以テ自ラ任セラルナラン○姉妹ハ爾等ハマリヤニマサリテ世ノ學問ニ長シタルモノナラン、而シテマリヤタラサレハ何ノ面目アルゾ

○近來校内ノ現象 勉強ニ演説ニ文章ニ是レ校<sup>〔中〕</sup>レ之ヲ発セシムルノ精神元氣アリ、遂ニ之ニ至リ諸君ノ世ニ出、己

ノ伎倆ヲ呈セネハナラサル精神ヨリ茲ニ至リ〔シ〕ナラント思ヒ、予ハ諸君ニ望ム所益盛ナリト云ハサルヲ得ス然而喜アレハ亦憂ナキ能ハス、予ノ憂フル所ハ所謂杞憂ナランヤ、然モ兄弟ノ之ヲ知ラサルヲ好マス

此ノ傾向益盛ニ、學術ニ演説ニ文章ニ、向來伎倆ハ先満足シ天下ニ指行スルニ足ル者ト假想センニ、其ノ伎倆ヲ活

用スヘキ精神最モ無クテ叶ハヌ一ノモノ、乃宗教心ノ熱度當時何ニノ点ニ昇降スルヤ、校中アマリ宗教等ノ熱度ハ聞カサルニ似タリ、去レトモ余ハ思フ、當時秋風林ヲ払フ時ニテ、山林緑葉ナキノ有様ニアラスト思ワル、遠ク見レハ葉ナキモ近ヨリ見レハ木枝ニ勃々トシテ発セントスル所「ノ」萌アリ、若シ吾校中ヲシテ此萌アラハ今緑葉樹頭ニ見ヘサルモ憂フニ足ラサルナリ  
〔補・ママ〕  
「然シ緑葉モ落シ」

予ノ庭ニ桐ノ木数種ヲ栽タリ、去春桐ノ葉ヲ生スル時、二三ノ桐カ葉ヲ生セサルヲ見テ訝テ之ヲ見テ、近所ノ童子カ庭ニ来リテ桐ノ木ノ皮ヲハキ取り、地中ノ上昇スル滋養ノ汁ヲ断絶シタ「ルヲ知リタ」リ○惡魔カ来テ緑葉ヲナシニ成長ニ必要ナル滋養ノ汁ヲ裁断シテ、其木ニ葉モナク其ノ枝ニ萌木芽モナケレハ其ノ木ハ死物ナリ

○用意ノ時代、學術演說文章ニ己ノ爪ヲトクベシ、其用意ノ時代、伎倆ノミ出来、ナクテナラヌ一ノモノヲ欠カバ伎倆ハ水泡ニ属スベシ、□爪モ羊ヲ□スル如クナルヘシ、虎ノ爪凡羊焉□□ヲ□ンサクベケン\*

〔明治十九年十二月二十六日・同志社教会〕\*\*

41 モーセノ一生涯〔A〕

〔包紙〕

「モーセノ一生涯

十九年」

〔本文〕

出埃及記 〔歌〕 3 56 9

三ノ十二

〔モーセノ事ヲ談スヘシ

〔三段ニ分ツ 一段（ハ生ル、ミティヤン〔ミデアン〕ニノカル

予曾テ疑テアリ、何レ〔ノ〕国ニシテモ人傑ノ起ルハ其ノ

二段（ミティヤンニノカル、ヨリ埃及ニ帰ル

時代ノ有様場合ガ人ヲ起スカ、或人物カ場合ヲ来ラシム

三段（ハ埃及ヲ出ツルニボー〔ネボ〕山頂ニ死ス

ルカ、モーセノ生涯ニ付テ考ヘレハ、神ノ此豪傑ヲ下シ

テイスラエル人民ヲ救ヒシナラント思ヘル 人民繁殖ス

〔朱〕  
「老段」

一、パロノ命 二、モーセ生ル、三ヶ月カクス 3、パロノ娘ノ養子トナル 4、<sup>〔朱点、以下同〕</sup>四十年ノ比イスラエル人ヲ救フヲ計ル、モーセノ四十年位ナルモ、矢張日本ノ二十年位ナランカ、壮年ノ活氣速成ヲ期シテ事成ラス、遂ニミティヤン

ノ地ニノカル

白面ノ書生、仮令智術エジプトニアルモノヲ窮ムルモ、深宮ノ中ニ生長シタル白面書生争テカ大任ニ堪ヘケンヤ  
是神ノ許サ、ル所ナラシカ

〔朱〕  
二段

四十年間一身ハ王宮ニアリシモ、今ハミディヤンノ野ニノカレ、ジェスロー〔エテロ〕ト申ス人ノ養子トナル、其地ノ業ハ牧畜ナレハ身ハ水草ヲ逐ヒ是レ彼ヨト流寓シ、四十年ノ星霜ヲ荒野ノ中ニ消光セリ

アラヒヤノ野 月夜、星夜、白日ノ感、牧羊ヲ守リ巍々タルシナイ山ナドヲ眺メ心ヲ養ヒ、又艱難苦辛群羊ト起臥ヲ同フス○又久々ノ歲月ニ同胞ノ為ニモ種々ノ工風ヲ為セシナランモ、今詮方尽キ、一時ハ骨ヲシナイ山ノ谷間ニ埋ムヘシトモ思シナラン

モーセノ青年ノトキヲ考エ見レハ、非常ノ感慨家又随分腕力家トモ見ユレハ、仮令人民ヲ救フノ念ハ如何ナ〔リ〕シカ知ラサレトモ、晴渡リタルアラビヤノ青空ノ下ニテ充分将来為スヘキノ心胆ヲ養ハレシナラン

大器ハ晩成ストモーセニ見ルベシ

如斯ク心胆ヲネリ充分大事業ニ任スヘキ年齢ニ及ヒシカハ、神之ヲ招キ棘ノ中ニ告ケタマハク

棘、焼、ル、モ、焼、ケ、ス、〔朱〕  
イスラエル人民モ亦恰棘ノ火ノ中ニアリテ尚焼サルカ如シ

神之ニ命シテエジプトニ返ラシム

モーセ辞ス、神約シ〔テ〕曰、我、必、ラ、〔ズ〕爾、ト、共、ニ、アル、ベ、シ

種々ノ奇蹟ヲ以モーセノ意ヲ固セラル

〔朱〕

「三段」 モーセ、アーロン、パロ王ニセマルニ、人民ヲ野ニ去ラシムルヲ以テス

十度ノ奇蹟、紅海ヲ渡ル、前ニ紅海後ニ大敵、彼岸ニ渡ルヤ歌ヲ作リテ神ノ大能力ヲ讃ム、然シ是ヨリノ苦辛。殊

ニモーセノ頑愚不信ヲ、御スル決シテ容易ノ事ニアラサリシ、飢渴途ニ横ワル、強敵之ヲ遮ル

〔朱〕

アメレクト戰ヒ勝ツモ全クモーセノ祈ニヨル

遂ニ進テシナイ山ニ登ル（四十日夜）十誠ヲ与ヘラル

治民ニ関スル法律又祭典等ヲ授ラル

是ニ天幕ニ於テ神ニ使ヘ神ヲ祭ル、進モ退クモ只神ノ命之レ従フ、漸々ト約束ノ地ニ近ツキ間者ヲ出ス、其報ニヨ

レハ巨大ナル人民アリト、人民モーセニ反ス

神怒テ遂ニ此人民ノカナンノ地ニ入ルヲ許サス、〔朱〕〔シンノ野ニ、又人民ノモーセニ背キシトキ毒蛇出来ル、銅蛇ヲ

作リテ之ヲ高カク（約ノ三ノ十五

〔朱〕

ミレバカディシユ〔カデシ〕ニ水ナシ、モーセ岩ヲ打テ水ヲ出スニ

神ヲ忘レ榮ヲ神ニ帰セス、モーセモ亦カナンニ入ルヲ禁セラル

如斯クテ四十年間荒野ニ流寓ス

アーロン死

ニボー山ニ死 神之ヲ葬テ人ヲシテ

知ラサラシム

シリヌ——テン〔ベリシテ〕ニ至ル、之ヲ〔ノ〕マシム

法律ヲ与ヘリ コンネテカトノ法律

詩人 九十篇 ヨーブ

歴史家

経国治民ノ才幹

腕力 ヨーキン アンシロー\*

信仰

S Pietro in  
Vincoli

ミーク 柔和 忍堪 神ニ任スル事

不足ナキ事

モーセノ威風ヲ望ミ人随<sup>〔カ〕</sup>テ之姿ヲサラスヤ

天自<sup>〔ラ〕</sup> 助クルモノヲ助クト

歳寒而後知松柏後凋矣\*\*

桃李ハ不言下自為途矣\*\*\*

〔3枚目裏〕

「Kioto April 9<sup>th</sup>/86.」

〔明治十九年四月九日・於同志社〕

42 〔モーセノ一生涯(B)〕

出エジプト記三ノ十二

〔神〕彼言、我慥カニ爾ト共ナルベシ

今日ハイスラエル人民ヲエジプトヨリ救出セシモーセ之事ニ付テ御談致ス 彼モーセエジプトヲ去テミディヤンノ地ニ流寓シテ最早四十年モ經過セシトキ、神彼ニ顕レ賜ヒ、彼ノ手ヲ以テイスラエル人民ヲ救ハシムル事ヲ命セシ賜シカハ、吾ハ誰ナレハ此ノ大事ニ当リ賜ヘキソ〔ト〕申甚恐レ、己自ラ其ノ大任ニ当ラサルヲ以テ之ヲ辞退セシニ、〔朱点・以下同〕神ノ曰ク、我慥カニ爾ト共ナルベシ、是レソモ、モーセノ實際ノ働キヲ初ムルニ当リ神ヨリ告ケ賜ヒシ御言葉ナレハ、之ニヨリモーセハ元氣出シエジプトニ返リ、イスラエル人民ヲ救ヒ出スノ志ヲ起セリ、又モーセノ一生涯ヲ概覽スルニ一挙一動神彼レト共ニアリ賜ヒ、彼ヲ導キ賜ヒシハ誰人モ疑ヲ容レサル所ナリ

茲ニモーセノ一生涯ニ付御談スルニ、之ヲ三段ニ分チ勘考ヲ下〔スニ〕アリマスル、一〔段〕乃生ルト王宮ニ至迄、二段エジプトニ仕ル迄、〔三段〕エシ〔プ〕トラ出ルヨリ死去ニ至ル

第一段 彼ノエジプトノ為ニ賢キ政ヲ施シ、エジプト全国ヲ餓死ヨリ救シヨセフノ功ヲ恐レタルパロ王起リ、イスラ

エル人ノ日々々繁殖スルヲ嫌ヒ、労働ヲ与ヘ之ヲ労働ニ仕役シテ其苦難名状スベカラサルニ至レリ、其トキイスラエル人レビノ族中ニ一ノ小兒ヲ生シタリ。其トキハパロ王命ヲ下シ、イスラエルニ生レタル女子ハ助ケ、男子ハ尽ク殺戮スヘシト命〔ジ〕タリ。然ルニ此小兒ハ美ナル玉ノ如シ、其母之ヲエジプト人ノ手ニ渡スニ忍ヒス之ヲ三ケ

月モ隠シオキシニ、遂ニ之ヲ為シ遂ベカサルヲ知り、ザルニチヤンヲ塗リ水ノ入ラサル様ニナシ、ナイル河畔ニ放チ置ケリ、是バロ王ノ娘ノ曾テ行水ニ来ルノ地ナリ、バロ王之ヲ見テ其美ヲ愛シ遂ニ王宮ニ連行キ之ヲ己レノ養子トセリ、又之ニ授ルニエジプトノ学問芸術ヲ以テシ更ニ残ス所ナキニ至レリ、然ルニ己同胞ノ土炭ニ<sup>〔世〕</sup>シムヲ見テ之ヲ捨置クニ忍ヒス、至美至麗ノ王宮ニ住ムヲ快トセス遂ニ出テイスラエル人ヲ救ハントシ、先手初メニスラエル人ヲ苦ムルモノヲ殺ロシ、其ヨリイスラエル人ノ人望ヲトリ事ヲ拳ントセシニ、仮令深宮ノ中ニ養ハレタル白面ノ書生ノ中ニ此大ニ当ルニ足ラス、此ニテ事ヲ拳ケナハ事ノ敗ル、ハ必定ナリ、是若年ノ活氣速事ヲ成サントナシ、遂ニ其ノ成ラサルヲ見テミディヤンノ地ニ逃レタリ(是ニヨリ白面ノ書生ニ直ニ事ヲ為シ得サルト云事ヲ知レリ)

我慥カニ爾ト共「ニ」ストノ神ノ御言葉ハ、最早其生ル、ヨリ王宮ニ入り、王宮ニ養ワレテ該國ノ学問學術ヲ研窮シ、他日ノ蓄ヲ為シタル等ノ事ハ総テ全ク人ヲ云ヘカラス、乃神ノ手モーセノ上ニアリテ、最早此時ヨリ火ノ柱雲ノ柱トハナリ賜ヘリ、然シ如斯モーセハ神ノ御手ノ内ニアルモ、自身ハ之ヲ知ラサリシ

## 第二段 心胆ヲ練磨スルノ説

モーセ、王ノ己ヲ執ヘン事ヲ恐レ、遂ニミディヤンノ地ニ逃レ去レリ、其所ニテ人ノ養子ト「ナリ」野ニアリ、牧畜ニ従事スル事四十年

其ノ間ノ艱難苦辛ハ云フモ更ナリ、群羊ヲ引キツレ水草ヲオヒ、此谷ヨリ彼谷ニ移リ、又苦辛ノ中ニ昔シ王宮ニアリ山海ノ珍味ヲモ味ヒシニ事カヘ、野ニアリ群羊ト起臥ヲ同フシ、又屋根ナキ所ニ臥セシモ屢々ナリシナラン、此トキ等ワ身自ラ苦辛ヲナメ、又エジプトニアル同胞ノ兄弟ヲモ思ヒシナラン、然ルニ今ヤ詮方尽キ一ノ牧羊人トハ落ブレ、前途モ暗ラク、初メニ立タル目的モハヤ水泡ニ属セントセシトキニ、エホバノ神ハモーセノ熱スルヲ見テ

其〔ヲ〕任カセントシ、彼ヲ捨賜ハス、シナイ山中ノ棘ノ内ニ火ヲモヤシ、火モエルニ幹木ハヤケス、之ヲ訝リ見ル内声アリ曰ク、イスラエル人ノ愁訴我カ耳ニ達セリ、我已ニ其ノ苦難ヲ見タリ、我爾ヲ送リパローニ遣ハシ、我民イスラエルヲエジプトヨリ出シ此地ニ来ラシメン、モーセ、私ハ誰ナレハ如斯基大任ニ預カリ得マシヨウト御辞退ヲ申セハ、神曰、我、慥、ニ、爾、ト、共、ニ、ス、ベ、シ、神如斯クテ奇跡ヲ以テモーセノ心ヲ固セシニ、モーセ尚己ノ訥弁ナルヲ以テ辞ス、神又之ヲ鼓舞シテエジプトニ送り、其ノ兄アロンヲ以テ之ヲ助シメ、遂ニ

### 〔朱〕 「第三段」

エジプト王パローニ、イスラエル人ヲ去ラシムヲ願出タリ、是ヨリ十回程ノ奇蹟ヲ顯ハシ、遂ニパローヲシテモーセノ請ヒニ応セシム、神ハモーセヲ助、然ルニパロー〔一〕ハ之ヲ去ラシムルニ忍ヒス、イスラエル人ヲ野ニ出スルヤ否直ニ其ノ兵ヲ率ヒ之ヲ逐トウス〔討〕

之ヨリ紅海ニ臨ミ進マントスレハ海アリ、退カントスレハ大兵後ニアリ、実ニ進退是窮マルノ秋トナレリ、此秋ニアタリ神彼ト共ニセサレハ争テカ此ノ艱嶮ヲ脱シ得可ク、神ハ即火ノ柱トナリ雲ノ柱トナリ此民ヲ導キ之ヲ安然ト紅海ヲ渡ラシメ、後ヨリオヒカケシ敵兵ハ尽ク之ヲ海中ニ溺死セシ〔メ〕タリ、如斯敵ノ手ヲ脱シ一統皆感謝ニ堪エス、モーセハ又詩ヲ作り神ノ榮ヲ帰シ其功ヲ讚美ス

然ル〔ニ〕幾モナクシテ人民ハ飢渴ニセマル所ヨリ再ヒエジプトニ帰ラン〔コト〕ヲ願ヒ、モーセニ不足ヲ言タテ之ニ反セントセシニ、モーセハ之ヲ忍ヒ常ニ神ニ乞ヒ其譴恕ヲ下サラン事ヲ請ヒ、又人民ニ向ヒテ己ノ力ニヨラス其功ニホコラス、神如斯々々告ケ賜フト申シテ、己レハ全ク神ノ僕ノ如クアリタリ、如斯飢餓〔ノ〕憂途ニ横ワリ又内ヨリ不平ノ難アリ、外ハ強敵ノ難アリ、アマレク人ト戦フニ当リモーセノ神ニ頼ムノミ、神ハ人民ノ屢神ニ反ケ

ルヲ怒リ此ノ民ヲシテ約束ノ地ニ至ルヲ許サ〔ザ〕リシ、如斯デアロンハホル山ニ登リテ死ス、其山〔ヨリ〕モーセイスラエル人民ヲ引連レヨルタンノ東ニ至リ、神ノ命ニ随ヒヨシユアヲ挙テ己ニ代ラシメ、身自ラニボ山頂ニ上リ神ニ約シ賜シ地乃ギリド〔ギレアド〕、エリコノ谷、ユダ、イフレム〔エフライム〕、ナフタライ、ヨルダンニ至ルノ地ヲ目撃シ充分ノ望ヲ抱キ、亦神ノ約束ヲ固ク信シテ、仮令約束ノ地ヲ踏ミ得サルヲモ少シノ苦情モイダカス己ノ靈魂ヲ神ノ御手ニサ、ケタリ、神ハモーセノ死骸ヲ人ノ手ニ渡シ賜ハス、何レヘカ之ヲカクシテ其ノ跡ヲ失ハシメタリ

〔如斯此ノ英雄ハ己ノ身ヲ神ノ手ニ任テ、其ノ生涯ヲ茲ニ終ヘリ〕

〔朱〕

短気

訥弁家

著述家

詩人 九十篇

ヨープ〔ヨブ〕

予言者

申命十八ノ十五

身自ラ牧羊ヲ為スニヨリ

昔ヨリ英雄豪傑モ比々輩出セシトモ、如斯人物ハ絶テアルマシト云テモ過言ニアラサルヘシ

モーセハ忼慨家ナリ、愛信神家ナリ、愛人家ナリ、其ノ信仰克クイスラエル人民ヲ〔シテ〕紅海ヲ渡〔ラ〕シメ、其ノ柔和ナル克〔ク〕敵ヲ容レ敵ヲシテ其ノ徳ニ伏セシメ、祈禱ヲ常ニシタレハ祈禱ヲ無益ニ属シ水泡ニ帰セシ事ナ

ク、謙遜ニシテ人ニ御憐<sup>〔カ〕</sup>ミヲ施コシ、己ノ為ニ計ラス全ク其身ヲ以イスラエル人民ノ為ニ犠牲トナセリ○如斯モ一セノ此大任ヲ負大事ヲ為セシハ、神ノ之ト共ニアリ賜フニアラサレハ決シテ為シ能ワサルモ、亦モ一セノ山ヲ動シ海モ渡ル程<sup>〔ノ〕</sup>信仰ナクンハ、神争テカイスラエル人ヲシテ敵ノ手ヨリ脱セシ<sup>〔メ〕</sup>約束ノ地ニ近ツクヲ得ンヤモ一セノ如キハ実ニ人傑中ノ真ノ人傑ト云ベシ、然ニ此人ニシテ尚過失ナキ能ワス

手ヲ挙テ神ニ頼ミ其ノ助ヲ乞ヒテ遂ニ勝ヲ奏スル<sup>〔ニ〕</sup>至ル、遂ニ進テシナイ山ノ麓ニ至リ自ラ山ニ登リ神ニ面接スルヲ得タリ、此山ヤ人類獸畜モ之ニ触ル、ヲ許サレス、神ノ威光顯ハル、トキハ全山震動シテ止マサリキ、モ一セ独此山頂ニ登リ四十日夜十誠ヲ受ケ又祭典ニ関スル百般ノ規則又治民ノ法律ヲ授カレリ、此十誠ノ如キハ万世不易、法律ノ如キハ今開明諸国之模範トナル、又荒野ニアリ天幕ニ於テ神ニ使<sup>〔世〕</sup>ヘシニ、靈雲常ニ其上ニ止マリ人民ノ進

退モ此雲ノ動止ニ関レリ、如斯荒野ニ流寓シ四十年間茲々彼処ト移転セシ所ヨリ、人民ハエジプトノ野菜魚類ヲ思出シ、荒野ニ食物乏シキヲ訴ヘ水ナキニ怒リ、又モ一セノ彼等ヲエジプトヨリ引出セシ事ヲ怒レリ、然ルニ神ハ爾ト共ニアルナリトノ御約束ヲ忘レ賜ハス、神屢奇蹟ヲ顯ハシ此民ヲ救ヒシモ忽チ忘却シ、間者ノパレスティンヨリ帰來セシトキ甚巨大ノ人民アルヲ報セシカバ、人民神ニ向ヒ不足ヲ開陳シ、直ニ司令官ヲ撰ヒ再エジプトニ戻ラント計リ、遂ニモ一セ<sup>〔ト〕</sup>アーロンヲ石テ殺サント計ル、モ一セ神ニ哀求シテ人民ノ罪ヲ免サン事ヲ願ヘリ

又イドムノ地ニ於テハ、人民ニマナノ如キ輕キ食物ヲ与ヘ賜フヲ怒シトキハ俄ニ毒蛇ヲ来ラシメ、之ニカマル、モノハ尽ク死スルニ至ル、モ一セ之カ祈リシ<sup>〔カ〕</sup>ハ神彼ニ命銅蛇ヲ作りテ之ヲ棒ノ上ニカ、ケ、之ヲ見ルモノヲシテ救ヒヲ得セシム

〔彼我ヲ導ケリ〕\* 十一ノ二十七、信仰ヨリ彼ハエジプトヲ離レ王ノ怒ヲ恐れサリキ、是見エサルモノヲ見カ如ク

〔忍耐〕ハ也

モーセノ一生涯ニ付御話ヲ申マス、彼ノ一生涯ハ旧約書ノ五経ノ中ニ記載シテ明カナリ、又彼ノ一生涯ハ甚イスラエルノ人民ノ歴史ニ密着ノ関係ヲ為ス○神ハアブラハムニ約〔シ〕賜ヒシ約束ニ背カス、イスラエル人民ヲ約束ノ地ニ戻シ賜ヒシハ決シテ人為人力ニアラス、約ニ背カサル神之ヲ為賜ヒ〔シ〕ト云ハサルヲ得サルモ、神如斯イスラエル人民ヲ導キシハ或ハモーセノ信仰如何ニヨルト云テモ宜シカルヘシト思ハル、然シ神又此ノ信ヲ賜ハサレハ争テカ如此信ヲ顯ハ〔ス〕ヘケン

モーセノ一生涯ヲ学ヒ見レハ、一方ニハ神ノ導キ賜ヒシ事判然ト見ヘ、又一方ニハモーセヨリ神ニ頼ミ神ニ依ルノ信仰著シク顯ハル

之ヨリ少シクモーセノ事〔補〕「四十年ツ、ニ三段ニ別ツ」ヲ御談申サン、イスラエル人民エジプトニアリシニ子孫繁榮

畜類モ加殖セシカハ、ヨセフヲ知ラサルパロー遂ニ之ニ加フルニ压制ヲ以テシ、之ヲ僕隸トシ使役シテ其困難名状スベカラサルニ至リシ〔ニ〕神イスラエル人民ヲ棄賜ワス、其人民中ニ〔補〕「生シ子ヲ殺スニ至ル」、一ノ男子ヲ生セシ

メタリ○其生レタルヤ実ニ丸ノ美男子ナレハ、其母之ヲザルニ入レテナイル河畔ニ投ス、パロノ娘之ヲ拾ヒ王ノ宮殿ニ入レ己レノ養子トナス

四十年間王宮ニ養ハレエジプトノ學術ヲ尽ク修メタリ、又王ノ娘ノ養子タレハ何一トツ不足モナク一生涯ヲモ暮シ得ヘキニ、彼母ノ訓ニヨリテヤ其ノ同胞ノ苦難ニカ、ルヲ自ラ耐フル能ハス、直ニ之ヲ救ハント計リ先ツ己ノ宿志ヲ遂ケン為ニイスラエル人民ヲ困〔クルシ〕ムルモノヲ殺ロセシカハ、其事パロ〔一〕ノ耳ニ達シパロー之ヲ執ヘントセシニ、モーセミディヤンノ地ニ逃ル、モーセモ己ノ力克クイスラエル人民ヲ救フベシト仮想シ

第二段ノ四十年ハ

神ニヨリ此大事業ニ当レルヲ知ルニヨル、戦ヒタケナワナルニモ―セハ高所ニ登リ手ヲ掲<sup>〔掲〕</sup>ケテ神ニ祈ル、ア―ロン

トハオルハ其ノ手ヲ支フ、此戦ヒモ全クモ―セノ祈ニヨリ勝ヲ奏セシト云ベシ

〔朱〕

「シナイ山上人ノ近寄能サル所ニモ―セノミ独登ルヲ許サル」

遂ニ進テシナイ山ニ趣キ雲ニ聳ヘタル山頂ニアリ、神ニ面接シ直ニ十誠ヲ受ケ、又祭ニ関スル百般ノ法則ヲ示サレ、野ニアリ祭典ヲ則<sup>〔カ〕</sup>ニ起シ神ニ使エル事ヲ初ム

如斯クテ神屢々其ノ栄光ヲ以テ顕ハレ賜ヒ、人民ノ進ムモ退クモ尽ク神ノ令シ賜フ所トナリテ、一挙一動モ―セノ令スル所ニアラス、神カ乃イスラエル人民ノ主君ニシテモ―セハ唯神ノ令ヲ伝フモノナルヲ示セリ、如斯クテ此人

民ハ神ノ導キニアリ直ニ約束ノ地ニ入ルヲ許サレス、四十年間アラビヤノ野ニ流寓シタリ、然ルニ餓ユレハ神ハマナヲ与ヘ、渴ケハ又水ヲ与ヘ、衣服ヨリ踏ム所ノ靴ニ至ル迄神ノ力ニヨリ損スル事ナクシテ、神ニ委頼セハ神必養ヒ賜フ事ヲ明ニ知ラシメタリ、又荒野ニアリ屢々罪ヲ犯<sup>〔シ〕</sup>モ―セニ反キ、又神ニ向ヒ不足ノ心ヲ抱タルトキハ屢々譴怒ヲ下シ

四十年間荒野ノ旅人トナレリ、此四十年間屢人民モモ―セニ不足ヲ陳苦情ヲ云ヒ立、野ニアリ、ノミナラス己レ兄ア―ロン其妹ミリヤムニ至ル迄モ―セニ反キシニ、モ―セハ曾テ之ヲ忍ヒタリ、常ニ己ヲ忘レテ唯此人民ヲ救ヒ約束ノ地ニ至ラシメン事ヲ求メタリ

乃チ剛氣ノ充滿スルヨリ或ハ怒氣勃々ト発シテ遂ニ自ヲ制スル能ハス、シナイ山下ニ十誠ノ記セラル石ヲ打ワリ、又メリバーカデイシニ於テ水ノナキトキ、モ―セ神ニ榮ヲ歸スルヲ忘レ人民ノ苦情ヲ怒リテ自ヲ其ノ杖ヲ以テ岩ヲ打

タリ、此ノ罪ニヨリ身ハ約束ノ地ヲ踏ヲ許サレサルモ、歴史上何人カ克クモーセノ如ク神ニ接近スルヲ得ルモノゾ予羅馬ニアリ、サン・ピートロー・イン・ウインコーリト申〔ス〕寺院ニ藏シアル、マイキルアンジロー〔ミケラ  
ンジェロ〕ノ彫刻ニ関〔ル〕モーセヲ見タルカ、其ノ傑風人ヲシテ同人ハ如斯モアリシナラント想像セシム

然ルニモーセニシテ過失ナキ能ワス、曾テ十誡ヲ持チシナイ山ヨリ下リ来レルトキ、人民ノ金犢ヲ作り之ヲ拝シ之ニ使〔ル〕ヲ見テ大ニ怒リ、其ノ石牌ヲ抛却テ之ヲ打ワレリ、而シテ又不得止事再ヒ山上ニ登リテ新ニ石牌ヲ受ルニ至レリ、又カディシニ於テノミ水ニ欠乏シタルトキ己岩ヲ打水ヲ出セシニ、榮ヲ神ヨリ帰スルヲ忘ル、此ノ□  
為ハモーセニテ取ラサル所ナルモ曾テ柔和ナルモーセト被称〔カ〕、モーセハ如斯屢々人民ノ彼ヲ勞ワシ彼ヲセムル所ヨリ遂ニ怒リヲ発シテ、此人民ハ皆約束ノ地ニ入ルヲ許サ〔レザ〕ルノミナラス、其先導者タリシ自身モ遂ニ約束ノ地ニ入ルヲ許サ〔レザ〕リシ、斯テ四十年ノ流寓中著シキ事件ハイドムノ地ニ於テ毒蛇ノ盛ニ出来テ人民ヲ害セシ事ナリ、依〔テ〕モーセハ直ニ神ニ祈リシカハ神銅蛇ヲ棒ノ上ニ揚テ人民ニ示セト命シタリシニ、之ヲ見タルハ尽ク蛇ニ喰マル、モ癒サレタリ、此事ハ救主基督モヨワンネノ三章ニ陳賜ヒ〔シ〕如ク、モーセ野ニ於テ蛇ヲ拳シ如ク人子モ亦拳ケラレネハナラス、如斯テ

〔ママ〕\*\*

〔年月日等不詳〕

43 祈ヲ聞キ賜フ神ヨ、人々挙ゲテ来ラン

〔包紙〕

〔朱〕

明治廿年一月二日

祈ヲ聞賜<sup>者</sup>ふ神ヨ、人々挙テ〔汝ニ〕来ラン

〔本文〕

詩ノ六十五篇二節〔歌〕

〔朱〕三十九、四十七、六十七

祈ヲ聞キ賜フ者ヨ、人々挙テ汝ニ来ル、現在未来来ラントス

〔朱註〕

第一

〔朱註・以下同〕

エワンジェリケル・エライヤンス〔エヴァンジェリカル・アライアンス〕ノ決定シタル題目主意

〔圖〕

〔今日ハ此ノ題目ヲ以テ世界ノ信者ノ此共同会ニ挙スルモノハ、乃共ニ信徒ヲ同スルモノハ多分説教ヲ為スナラン

我カ日本モ欧米間ニ行ル、此エライヤンスノ大会ヲ、代人ヲ差出シ其ノ会ニ入リタルニアラネトモ、此数年来已ニ

其ノ会ニテ定タル一周日ノ祈ノ題目等採用シ来レハ、已ニ其ノ会中ノモノト見做シテモ不苦、又我輩ハエライヤンス

ト同感、同情、同信ノモノニアレハ此ノ題目ヲ取り、今日世界ノ信者ト共ニ説教ノ主意トシ、又彼等ト同シク神ノ

宮ニツドイ来リ此新年ノ第一安息日ニ於テ我輩ノ祈ヲ聞キ神ノ前ニ出、一致協心神ノ名ヲ讚美又神ノ御恵ヲ仰クハ

至当ノ事ノミナラス実ニ美シキ事柄ナリ

而シテエ、ライヤンスニ於テ此ノ題目ヲ撰ハレシハ、多分万国民ノ此ノ新年ノ際ニ当リ先第一ニ祈ヲ聞キ賜フ者ニ一  
 同ッドイ来リテ、過去ノ御恵ト御導キヲ謝シ又過去ノ罪ヲ悔改メ、新ニ御導キ御恵ノ御保護仰クハ、実ニ万国。信  
 徒。トシテ誰。彼ヲ論セス必ラス為スヘキ所ナリト思ヒ此ノ題目ヲ撰ヒシナランカ

○或人ハ如斯基定題ヲ以テ或定日ニ説教スルヲ好マサルヤト計ラレス、予モ亦少シク同感ナキ能ハス、若シヤ毎安息日ニ同シ定題ナレハ予ハ飽マテモ不同意、若シ一年ニ一回、別シテ新年ノ第一安息日ニ同シ定題ニテ、否同シ精神ヲ以テ万国ノ人民神ノ宮ニツドヒ来ルハ実ニ美シク、大ニ吾人ノ感情ヲ惹起シ共ニ伏シテ神ノ御恵ヲ仰クハ神モ亦喜ヒ賜ハン、依テ予モ今日ハ此ノ題目ヲ取り御話ヲ仕ラン

茲ニ我カ日本ヨリ安息日カ初マルト仮想シテ、先東京ヨリ諸教会ニ集リ此題ヲ説教スルトセハ、東海、北陸、近畿、南海、山陽、山陰、九州、朝鮮、支那、北ハ已ニ万里之長城ヨリ南ハ香港ニ達ス、サヤム〔シヤム〕、ボルマ

〔ビルマ〕、<sup>(ス)</sup>印度ノカルカタ、ボンベイ、ペルシヤ、亜細亞、欧羅巴、トルコ、<sup>(エ)</sup>亞弗利加、北ハイジプト、南ハ喜

望峰、マダカルカル全島、スローウ、コンゴ河畔、<sup>(アトランチック)</sup>欧羅巴諸國中独乙、イタリー、スウッスルランド、スベ

ン、仏郎西、オランダ、デンマルク、大英国、<sup>(アトランチック)</sup>亜トラチック海ヲ経テカナダ、合衆国ニ達シテ其全国ヲ東岸ヨリ西

岸ニ達シサンドウチ島、南北洋群島、オーストラリヤ諸国ニ至リ、又再ヒ東京ニ達ス、恰モ太陽ノ地球ノ表面ニ

一転回スル如ク信者ノ祈リモ亦二十四時間ニ地球ヲ一回スルニ至リ、吾人ノ祈ノ如ク不熱心不精神不ツ、カナル祈スラ、万国民ノ祈ト共ニ祈ヲ聞キ賜フ神ノ前ニ出之ヲ捧クルハ、何ト世界ノ一大現像ト云ワサルベ〔カ〕ラス

○<sup>(朱註)</sup>第二

此詩篇ノ語ハ如何ナル意味ヲ含蓄スルヤ

又詩篇ハデヒテ「ダビデ」ノ詩トカ申サレマスガ、多分ダビデノヨリ末世ニ出来タルナラン、独国ノ大家エウアルド氏ノ説ニヨレハ、前七、百、十二、三、ノ年ノ比猶太ノ国王〔朱開、以下同〕ヒセカイヤ〔ヒゼキヤ〕ノ位ニアルトキ、アシリヤヨリセンネクレブ「セナケリブ」ト申豪傑カ二十万、足ラスノ大軍ヲ引率シ一挙シテ猶太ヲ抜クノ胸算ヲ以テ来シカ、先使ヲ遣シヒゼカイヤ王ノ降参ヲ催セシカ、王ハ預言者イサヤノ語ヲ用ヒテ遂ニ降ラス、又「ラキシ」ノ邑〔リ〕リブナ〔エルサレムヨリ南西三十英里〕ハ九重ノ囲ヲ受ケ如何トモ為シ難キ時ニ、神ハヒゼカイヤ王ノ祈ヲ聞キ賜ヒシヤ、夜間アシ「リ」ヤノ軍中非常ノ争動危病ハ起リ、アシ「リ」ヤノ全軍ハミナ殺トナセレタリ〔サ〕

此ノ争動ノ後全国カ大飢キンニモアルベシト恐レ居リシモ、野ニモ山ニモ禾物ハミノリ群羊ヲ以満ツルニ至リ、神ノ大能力ヲ以大敵ノ手ヲ脱カレ、又神ノ恩寵ニヨリ飢渴ヲ免カルニ至リシヨリ、全国民ハ挙テ神ノ宮ニ来テ神ヲ讚美セシナラン

人々挙テ爾ニ来ルハ乃猶太全国人ノ挙テ神ニ来ルノ意

○今日ハ此詩篇ノ語ヨリ今日ノ有様ニ当テ之ヲ見レハ、神ハ全世界ヲ〔朱〕恵ミ千八百年間ノ働キヨリ此八年間ノ働ハ二倍ノ上ニ出ツル程ニナシ賜ヒタレハ、万国ノ人民挙テ神ノ宮ニ集リ神ヲ讚美セサルヲ得ス、又祈ヲ聞ク神ナレハ吾人尚吾人ノ向來ニ付尚祈ラサルベカラス

〔朱〕  
十九世紀 大進歩

二十世紀 十四年ヲ残ス

### 第三

祈ヲ聞ク者ヨ、神ヲ指シテ祈ヲ聞クモノ「ト」呼フハ自ラ出来タル語ニシテ、猶太人ノ感謝ノ漏ル、所ヨリ此ノ語

ヲ発シタルナラン、又神ニシテ祈ヲ聞キ賜フハ神ノ本心ト云テ可ナラン  
尚父母ノ子ノ願フニ勝レリ 子パンヲ求 石 子魚ヲ求 蛇。

神ニシテ祈ヲ聞カサレハ神タルヲ得ス

父母ニシテ子ノ願ヒヲ全ク断絶セハ父母タラサルカ如シ

#### 第四

祈ヲ聞クノ神アレハ吾人ノ来テ祈ハ至当必用ナリ

一肉。体。上。ノ。恵。二家族ノ安全、衣食住、一身上ノ困難、危難、疾病

一靈魂。上。ノ。恵。人間ハ肉体上ニ弱キ如ク心モ亦弱シ、<sup>〔些〕</sup>差細ノ試ノ為ニ敗北ス、情慾ノ為、下等ノ名譽心ノ為、人世

神 <sup>〔先〕</sup>ノ方向ヲ誤リ魂ヲ地<sup>〔獄〕</sup>極ニ失フノ恐アリ、主ノ祈ヲ見ヨ

「人情」

一周圍ヲ恵ム為ノ祈 周圍ノ為ニ祈ル〔宮城、山形地方、会津、岡山、九州ノ大学、福井ノ学

一全国ノ為ニ祈ル 支那、長崎事件

国会開設、条約改正 一人々実着ニ仕事ヲセネハナラヌトノ云事ニ注意シ初ム

土族的ノ実力ヨリ

平民的ノ実力ヲ養ヘ

〔此ノ際ニ当リ全国ノ腐敗ヲ防キ人民ノ元氣ヲ養ヒ、真ノ文化ノ域ニ達セシムルニ何ニガ最モ必用ナルカ、今日ハ兄弟ノ認知ル所予ノ喋々ヲ要セス〕

全国教育ハ重モニ機械的ノ教育ニ流レ、多クハ自己ノ糊口ヲ計テ全国改進ノ為己レヲ犠牲トナスモノ幾人カアル

ウッテンボルグ大学ヨリ マーチン・ルーサル「マルチン・ルター」起リ

○ シント・アンドロフ大学ヨリ ジョン・ノクス

オクフォルト大学ヨリ ジョン・ウックリフ

二三ノ学校アルノミ（我輩ト同主義ノ学校）

我カ同志社ヨリモ此ノ国家危急ノトキニ際、之ヲ救フヲ以自任シ、其ノ用意ヲ彼ノックス氏ガスコットラン「ド」ヲ我ニ与ヘト祈ラレタル如ク日本ヲ我ニ与ヘヨト祈、且其ノ為ニ身ヲ犠牲トナス幾人カアル

此学校ハ基督教ノ関係ハ甚大切 今学校ノ教会ニ活潑、基督ノ信仰ハアルヤ、全国ノ伝道ヲ自任スル兄弟ハ幾人カ、  
国ノ大困難ニ当リ憤発家ヲ生ス

○ヒゼカイヤノ祈克「ク」アツシリヤノ全軍ヲ退ケタリ

○米國開國ノ初

〔朱祖〕

英仏ノ間ニ戦アリ未タ全ク勝敗ノ決セサルトキ、仏ヨリ非常ニ軍備ヲ整ヘ数艘ノ軍艦ヲ派出シテ一挙カナダヲ  
拔、英ノ移住民ヲ服セシ「メ」ントセシニ、波士頓ノオールドサウス教会堂ニ於テ信者カ熱心ノ祈ヲ為シ居ルト

キ、仏ノ軍艦ハ大風ノ為ニ沈没セラレ、又残レル艦体ハ辛シテ本国ニ戻レリ、之ヲオールドサウスノ祈ヲ神ハ聞

キ賜ヘリト今尚人々ノ口ツテニ伝残レリ〔米〕名譽ヲ掲探スルノ望

今大敵アルニアラス 悠々〔優柔〕不斷ト云大敵我カ内ニアリ因循儉安ト云 何レノ「日」カ我カ日本ヲ基督ニ呈

スルノ日ヲ期セン

己ノ心ノ有様ハ如何、心ト平<sup>〔ニ〕</sup>和ヲ得タルヤ  
「森精神ノ維新」

教会ハ青年時代  
四面尚是楚歌声

〔明治二十年一月二日・於同志社教会〕

44 吾信ズ、我が不信ヲ助ケ賜ヘ

〔包紙〕

〔朱〕

「廿年一月九日

吾信ス、我不信ヲ助〔ケ〕賜ヘ」

〔本文〕

馬可九ノ二十四、<sup>（朱點以下圓）</sup>五十四 二十七  
主ヨ我信ス、我カ信ナキヲ助賜ヘ

主ヨリ靈ノ賜物ヲ求ムルニ、吾カ之ヲ得サルカ如キハ如何ナル理由ゾ  
不信ニヨル、熱心之ヲ求メサルニヨル

今日世ノ有様ヲ監察スルニ世ハ二体ニ区分ス

不信者 神ニ順ハサルモノ カイン、神ノ子供 アベルノ如シ  
信 者

人間神ヲ信シ神ニ順フカ本質ナルニ、不信不従順カ第二ノ性質トナリ、而シテ此第二ノ性質カ本質ノ如クナリ  
来、遂〔ニ〕神ヲ信シ神ニ順ウ事カ何ニカ第二ノ性質トナリタルニ似、又神ハ人間ノ祈ヲ常ニ聞キ賜フ事カ神ノ  
本質タルニ、何ニ〔カ〕常〔ニ〕祈ヲ聞カサルカ通常ノ事ノ如クニナリ来リ、世ハ益々不信ニ流れ不信ヲアヤシマ

ス却テ不信ヲ以テ自慢ス、神ヲ信〔ズル〕ヲソシリテ暴信愚鈍トスルニ至ル

信〔朱丸〕 ○「不信者ニハ一ツトシテ潔キモノナシ テトス一ノ十五、已ニ彼等ノ心ト良心共ニケカレタリ

不〔朱丸・以下同〕 ○イサヤ又曰ク、彼等目ニテ見心ニテ悟リ改テ医サル事ヲ得サラン為ニ、彼其ノ目ヲクラクシ其ノ心ヲニブク  
セリ 約十二ノ三十九、四十

〔朱丸〕

者 ○爾ラハ五人ノ栄ヲ受ケテ神ヨリ出ツル栄ヲ求メサル者ナレハ、イカデ克〔ク〕信スル事ヲ得ンヤ  
約ノ五ノ四十四

信 〔有名無実

〔真ノ信者

有名無実ノ信 〔朱丸〕 ○無鈍着、吾ハ心配ス

一人ノ病。アルノ〔ハ〕全会ノ病

招。カル、モノ多ク撰ハル、モノ少シ  
我カ国ニモ已ニ此ノ二様ノ区别カアルカモ知レズ

会 国

何レノ 有実ノ信者

神ノ撰民

真道ミチヲシテ勝トケシムル迄ハ傷メル葦折事ナク、煙レル麻ヲケス事ナシ

信仰ノ働 信仰ノ力神ノ御位ヲ動カシ 信仰ノ目神ノ御栄ヲ見

〔朱丸〕 放蕩無頼ノミューラル＊ 一変サル前

〔朱丸〕 「ミューラル氏ヲ見ヨ」

faith

六十一年間神ニ従フノ生涯ヲ送り来リ

世ノ望

アンペイション

失望

聖書 類書 〔朱録〕 ○八千六百万冊

○六百六十万弗

〔朱〕「土産アリ空ヲ打ツカ如キニアラス」

氏ノ祈 数万ノ靈魂ヲ神ハ吾〔ニ〕与ヘ

吾ハハッピーマン

Prayer

〔朱録〕 a Happy man

〔朱録〕 ビスマルクモ此人ノ幸ナルニ如カサルベシ

何故ニ世ノ教会ニ活潑ナル信仰ナキヤ

生キタル命ナキヤト問フニミューラル曰

如何トナレハ世人ハ其ノ全キ心ヲ神ニ呈セサルニヨル

Consecration  
Give the whole  
heart to God

神ハ手ヲ下シ其人ヲ助ク、吾人ハ手ヲ揚ケテ神ニ求ム、如何シテカ神人一致セサルベケンヤ

如此信者集合シテ神ノ御国ヲ此地上ニ組織スベシ

◎本月三日以来 謙遜ノ為、教会ノ為、家族ノ為、教育ノ為、伝道ノ為、国民ノ為ノ祈○如何ニ感セラル、ヤ

真ノ祈ハ空ヲ打ツカ如キモノニアラス

〔上欄〕 〔朱録〕

「多ク哲学上、神学上、他学術上ノ証ヲ要ス

一冊ノ聖書中ニ命アリ直接ニ神ニ接ス」

去レ「ド」モ信者ノ祈モ亦、彼街頭ニ立長キ祈ヲ為スバリサイ人ノ祈ニ類セサルヲ保証シ難シ

大坂ニ沢山保羅氏ノ祈ノ例アリ

予ハ兎角愛國心ヲ養成スル事ヲ諸君ニス、メタリ、愛國家タラント欲セハ先己レノ身モ靈モ神ニ捧クベシ  
本ヲ得シテ末ヲ得モノナシ

根ナキ木ハ花ヲ咲カシ実ヲ結フ能ハス

蓋其ノ本ニ返レ 蓋シ其ノ本ヲ取レ

支那大賢人ノ語 其ノ源ニツキ清キ泉ヲ飲ムベシ

宇宙ヲ監察セハ

総テノ學術モ哲學モ人間ノ歴史モ尽ク主宰ノ手ニ歸シ、其ノ支配スル所トナリ、假令反對論者アルモ反逆アルモ神ノ榮ヲ損スル事ナク、宇宙、恒星、遊星ハ運轉シ去リ

〔上天ノ事ハ声モナク香モナク至ルト

〔朱弧〕

機會来リ而又去

○一同ノ祈

ミューラルノ来京\*

〔スペインサル、不可思議論者モ此力ニ頭ヲサケ

ウエブストルノ大家

〔朱弧〕

最ノ大切ナル思考ハ吾々自身

神ニ対スル義務責任ナリト

「カーライル」

不可<sup>ママ</sup>所、此全智全能全徳ヲ備ヘタルモノ、人間万物ヲ支配シ賜ヲ忘ル、人民ナリ、一ケ人ナリ、決シ「テ」世ニ大ナル「モノ」トナル能ハス、之ヲ忘ルモノ此世ニ人生ノ最大切ナル務役目ヲ忘ル

〔明治二十年一月九日・場所不詳〕

45 天父基督ヲ十字架ニ添テ世ニ賜ヘリ

〔包紙〕

「天父基督ヲ十字架ニ添テ世ニ賜ヘリ

廿年一月廿日

〔最花〕  
難波教会十年期〕\*

〔本文〕

約翰三ノ十六 「歌」〔朱〕「百二十二、九十四、百十四」

贖罪アトオーンメント 両ノ物ヲ一致セシム

基督ノ贖罪ハ何ニヨリ出来タルカト問ヘハ、兄弟ノ知ラル、通、彼ノカナルバリー山ニ於基督カ十字架ニ揚ケラレタル事ニヨリ出来タルナリ

扱基督ノ贖罪ノ事ハ人間間最大ノ事件トモ申スヘキノミナラス、此ノ事件ハ随分宇宙ニ大關係アルニアラスヤト思ハル、

昔神カ我祖先ヲパラダイスノ園ニ作ラレタルカ、予ハ思フ人間カ此ノ地球ニ作ラ「レ」タルハ矢張神ガアダムヲ樂園ニ置キ賜フ如ク、太陽系統中最モ優等ノ位置ヲ占タル此地球ヲ宇宙ノパラダイストシテ与ヘ賜ヒシナラント

予ハ思フ神カ此人間ヲ遊星中ユラノス、ネプチューン等ニ作り賜ハバ恐ク寒冷ニ堪ヘス、又メルキュリー星ニ作り賜ハ

ハ恐ク甚熱シテ人間ノ繁殖ニハ不適當ナルヘシ、故ニ甚寒カラス又甚熱カラサル此地球ヲ撰シテ此人間ヲ作り賜イシハ深ク神ニモ思召ノアリシ事ナラン、而シテ人間ハ此結構ナル地球ニ作ラレ至美至善ノパラダイスニ置カレ何一ツノ

〔朱点、以下同〕

不自由。モナカリシガ、フト出来心ヨリ神命ニ叛キ、遂ニ罪ヲ犯シテパラダイスノ外ニ放逐セラレタリ

〔朱弧〕

是レ人間犯罪ノ初メニシテ、罪ハ世ニ入り人々中遺伝トナリ世々伝ヘテ今日ニ至リ、甚幸福ナル世ヲ一變シテ甚不幸ナル世界トシナシタリキ

○茲ニ至リ貴重ナル靈魂ヲ附与セラレタル人間モ神ノ叛罪人トナリ、全体靈魂ヲ附与セラレタレハ神ノ法律ヲ遵奉スルノ義務ヲ負セラレタリ、又其ノ法律ヲ遵奉セハ必ラス神ノ子タルノ権理幸福等ヲ与ヘラル、ハ神ノ御意ニ叶ヒシ事ナラン

然ルニ人間ニ自由ノ与ヘラレ〔シ〕ハ、神ノ命ニ随ヒ其ノ自由ヲモ全フシ得ヘキニ、其ノ自由ヲ濫用シ私慾ヲ呈セシカ為ニ、遂〔ニ〕命ニ叛キ律ヲ敗リパラダイスヨリ放逐セラレ、快樂ノ境遇ヲ一變シ苦辛千万ノ世トハ為シタリ

〔朱丸〕

○罪一タヒ世ニ現ハレシヨリ其ノ勢力ハ益強ク、世人何レノ国ヲ論セス尽ク其ノ支配ヲ受クルニ至リ、真ノ快樂平和

ハ其ノ跡ヲ絶チ苦辛困難ハ世界ニ蔓延シ来リ、世人ハ尽ク罪惡海ニ沈溺シ其ノ慘状実ニ名状スベカラサルニ至リ、

神ノ怒ハ人間ノ上ニ止マリ、人間ハ神子タルノ権理ヲハク奪セラレ、天地益懸隔シ漠々タル陰雲ハ天地ノ間ニ横ハリ、茫々タ〔ル〕海水此ノ岸ト彼岸トノ間ニアフレ、人間ヲシテ彼岸ニ達スルノ機ヲ失ハシメタリ

〔朱丸〕

○茲ニ至リパラダイスノ門戸ハ全〔ク〕鎖サレタリ

如斯クパラダイスノ門外ニ放逐セラ〔レ〕タル人類ハ、恰モ親ノ家ヲ離出タル放蕩息子ノ如シ、己レノ身代ヲ尽ク遊女ノ為ニ消費シ、流連々々再ヒ親ノ家ニ戻ル事ヲ知ラサルカ如シ

茲ニ至リ天父ハ益怒リ、人間ハ益罪惡ニ沈ミ、自ラ教フノ途ヲ発見スルニ苦ミ、又発見スルヲ好マサルカ如シ然レトモ天父ニハ元ヨリ人類ヲ愛シ賜フ事ナレハ、人類ヲ滅亡ニ至ラシムルニ忍ヒス、〔朱録・以下同〕アブ〔ラ〕ハムノ如キ信仰アル人物ヲ挙テ神ノ撰民イスラエルノ祖先トナシ、続テモーセノ人物ヲ起シエホバノ神アリ、イスラエルノ民ヲ支配シ賜フヲ示シ、又預言者ヲシテ後世救主ノ世ニ顯レ賜フヲ示サレタリ、是レ烟レル麻ヲケサス、イタメル葦ヲ折ラストハ、乃チ神ノ全ク人間ヲ断念シ賜ハサルヲ示セルモノナリ

又一方ヲ見レハ人間ハ罪惡ニ沈ミ天父ヲ忘レタルカ如キモ、一度ヒ人間ノ心ニ印シテ忘レサラシムル天父ノ愛ハ尚絶エントシテ絶ヘサル糸ノ如ク人間ノ心ノ中ニ存シ、幽暗ノ地ニ歩ミ罪惡ノ海ニ沈ムモ天父ヲ思フノ情ハ消滅セス、又天父ヲ忘レシモ其ノ情何レニカ向テ発シ、遂ニ日月山河甚シキハ禽獸ナドヲモ神ト謬リ之ヲ拝スルニ至レリ、其愚拝スノ神ヲ謬シムルモ、其ノ情ハ矢張拜スヘキ真ノ天ノ父ニ向ヒタ〔ル〕ナラン  
ブルターク氏曰、学校、モナキ、芝居、モナキ、政府、モナキ、国アルモ、堂宮、ノナキ、国ハ未タ見サルナリト  
ファイルステイン〔ベリシテ〕ノモルロク偶像其ノヤケタル手ノ上ニ子供ヲ捧ケ

印度ガンジー河畔ニ母カ其ノ子ヲ川ニ投ス

其子オシカラサルニ非ス、全ク神ノ怒ヲナダムル為

日本ニ於テモ西国巡礼、ヂンバサンノ観音参リ、本願寺参リハツマリ其ノ元ヲ探ルノ一手段ヨリ他ナキナリ

彼岸ニ達セントノ望ハ弥強、何レ〔ノ〕国民何レノ時代ヲ問ハス之ヲ計リ、或ハ船ヲ造リテ彼〔崙〕ニ渡ラントセ〔シ〕

モ、彼岸ハ茫々ノ五里務中ニ烟波ノ為ニ迷ハサレ、磁石ノ之ヲ導クナク灯台ノ之ヲ示ス〔ナク〕只失望ヲ来タスノ

ミ、又此岸ヨリ橋ヲカケントスルモ彼ノ岸ニ他ノ一端ヲ架スルノ由ナク是亦失望ヲ来タシ、只此岸ニ佇立シテ空シク

彼ノ岸ヲ望ミシノミ

〔朱〕

此人々ノ心ヲ察スルニ、昔木曾ノ山中ニ旅シテ断岸絶壁ノ下ニ落タル人ノ如シ、己ノ帶三尺手拭ナドヲツナゲド中々上ニ届カス、上ニ届クモ之ヲ持ツモ〔ノ〕ナケレハ助カルノ望ナシ、茲ニ旅人カ通り合セ多人數ノ三尺ナドヲツナキ、之ヲ下シテ其ノ人ヲ引上ケタリト〔死ガケノ谷ニアリ一生ヲ送り、光明ノ大道アルヲ知ラサル人多シ〕

ガケノ上ヨリツナヲ下ケサレハ助カルノ望ナシ

夫レ神ハ其ノ生タマエル独子ヲ賜フホドニ世ノ人ヲ愛シ賜ヘリ

〔朱〕

「十字架ニ添ヘ賜ハル」

下ヨリ上ニツナヲ投スルハ難ク○地ヨリ天ニ達ハ六ケ敷ク、又此岸ヨリ無限キ所ニ一橋ヲ架スルハ出来難キ事ナルカ、限無ク生存シ限無キ力ヲ持チ賜フ神ヨリ、人間ヲ救ハシ、其ノ途ヲ築キ其ノ橋ヲ架シ賜フハ決シテ出来〔難〕キ事ニハアラサルベシ、是レ天啓教ノ人間ニ示サレザレハ人間自救ヲ得ルノ手段ナキ以謂ナリ、而シテカ、ル天啓教ヲ以人間ヲ救ノ手段ハ如何ゾ、イエス救主ノ十字架アルノミ

〔朱〕

「預言法律ノ二柱 基督十字架」此ノ十字架ハ乃一度ヒ閉ラレタルバラダイスノ門ヲ開キ得ヘキ鍵ト云モ可ナランカ

〔朱〕

「天父聖靈二柱」或ハ人間天父ノ下ニ帰ラントスレハ只十字架上ノ基督ヲ信スルニヨルナリト

コハ凡テ彼ヲ信スルモ〔ノ〕ハ亡ル事ナクシテ限ナキ命ヲ受シメンガ為ナリ

上ヨリツナガオリ来ル 人間カ其ツナニスカル

無限ノ彼岸ヨリ橋カ架セラル

人間カ此岸ヨリ橋ヲ架シテ彼岸ヨリ架シ来レル所〔ノ〕橋ニ連続セシムルハ他ナシ、〔天〕神父ヨリ賜ヒシ所ノ御子基督

ヲ信スルニアルノミ

茲ニ至〔テ〕人間ノ失ヒシ望ヲ回復シ、一度断絶セシ橋ヲ架シ神人相交相接スルノ途ヲ開カレタリ、然ルニ此ノツナ、此橋ハ決シテ長キモノニアラス、乃チカルバリ山上ニ立ラレタル一ノ十字架ナリ、去レトモ此ノ十字架ハ一ナルモ如何ニ此ノ広キ宇宙ニ関係アルヤ、又如何ニ幾。數。億。万ノ生。靈ニ関係アルヤ、又如何ニ人間カ終極ノ目的ヲ達スルニ関係アルヤ、吾人ニ容易ニ臆測スベカラサルモ、直接基督ノ贖罪ニ付二三ノ要点ヲ陳スレハ他ハ推テ知り得ヘキカト思ハル、然レハ十字架ハ何ソ、殊ニ十字架上ノ基督ニ付如何ナル感覺ノ生スヘキモノゾ

〔朱〕

〔A〕

〔朱〕

〔1〕

〔朱〕

〔朱〕

〔補〕

十字架上ノ基督ハ〔信セサルモノニハ一枚ノ紙ノ如シ、信スルモノニハ大磐石ノ如シ〕

神ノ法律ノ輕スベカラサルヲ示ス、又神ノ愛ヲ顯セリ

〔一〕 國ノ政府カ法律ヲ作り之ヲ布告シタル上ハ、必ラス國民ノ之ヲ遵奉スヘキヲ命シ、万一遵奉セサレハ必ラス相  
當ノ罰ニ所スベシ

〔破〕

人間カ神ノ法律ヲ敗リタレハ神必ラス罰セサルベカラス、之ヲ罰センカ人間ヲ尽ク罰スルニ忍ヒス、罰セサレハ神  
ノ御支配ハ行ハレサルベシ、〔神ハ愛ナリ〕

〔朱〕

○依テ他ニ良策モナク神ノ愛。凝。テ。十字架上ノ基督トナリ、自ラ人間ノ罰ヲ受ケ神ノ法律ノ勿々ニ附スヘカラサルヲ  
示セリ、又人間ヲ改悔ニ導キ命ノ道ニ立帰〔ラ〕シム

其引例

〔補〕  
氷上ノスケーティング

米國ニアル或ル学校ニ於テ一ノジャクト云少年殊ニ不従順ニシテ屢教員ノ命ニ叛ケリ、教員告ケ曰ク、此上モ命ニ叛カハ必ラス痛ク罰スベシト

三日ヲ経テジャクナル者ハ授業時間ノ来リシニ直ニ戻ラス、十五分ヲ過シテ歸リ来リ少シモ愧ツルノ色ナク意氣揚揚トシテ己ノ席ニ就キシカハ、教員ハ其机ノ前ニジャクヲ呼出シ衣ヲ脱スヘシト命ス、ジャク衣ヲ脱ス、教員ハ机ノ引出シヨリ一本ノ縄木ヲ取出シ之ヲジャクニ与ヘ己ノ手ヲ延ハシ之ヲ打テト命ス、ジャク之ヲ打ツ、尚モ痛ク打テト命ス、ジャクハ尚強ク之ヲ打テリ、其痛ミ甚シキニヨリ教員ノ顔色ハ青サムル程ナリキ、而シテジャクヲ〔シ〕テ席ニツカシメタレハ、校中一人トシテ眼中涙ヲ含マサルモノナカリキ、○ジャク其夜家ニ歸〔リ〕床ニツキシニ、良心ノ苦シムル所ヨリ安眠スル能ハス、半夜起テ教員ノ許ニ行キ其ノ寢床ニツキ己レノ罪ノ許サレン事ヲ乞ヒタレハ、教員ハ之ヲ許シタリ、爾後此ジャクナル者ハ校中最ヨク教員ノ命ヲ奉シ勉強スル所ノ生徒トナレリ

〔朱〕  
〔2〕  
〔朱〕  
十字架上ノ基督ハ

人間贖罪ノ為己ヲ犠牲トナシ賜ヘハ、人間ノ靈魂ニ非常ノ価アルヲ示セリ

今ヤ人類カ罪惡ニ沈、良心ヲ鈍シ己レノ靈魂ニ価アルヲ知ラサル如キモ、天父ハ之ヲシテ亡ニ至ラシムルヲ忍ス、遂ニ其ノ独愛子基督ヲ惜マス此世ニ遣シテ、人類ヲ死ヨリ脱セシメタリ

火災ノトキ一人ノ豪勇之防火夫一人ノ娘ヲ助ク、娘ハ五界ノ上〔ニア〕リ下ハ尽ク



火トナル、人々之ヲ助クル途ナキニ苦ミシカ、一人ノ防火夫ヲト思付キ向ヒノ五界ヨリ娘ノオル五界ノ窓ニハツ  
ゴヲ渡シテ自ラ渡リ行キ、娘ヲ負ヒテ向ヒノ家ニ戻リ遂ニ其ノ娘ノ命ヲ救ヘリ

金満家ノ家ニシテ家財ニ数万ノ価アルモ、一人娘ハ尚数万弗ノ価アル家財ヨリモ尚価アルヲ、此一人ノ防火夫ハ

己ノ一身ヲ犠牲トナシ遂ニ一人娘ヲ扶ケタリ、後遂ニ「三」結婚セリ

学校ノ教員ハ

生徒ノ受クヘキ罰ヲ自ラ受ケ遂ニ生徒ノ心ヲ改ム、而テ生徒ハ最モ教員ヲ愛シ信スルニ至レリ

防火夫ハ

己レ一身ヲ犠牲トナシ娘一人ヲ火ノ中ヨリ救ヒ出シタレハ、其身分ノ卑キモ厭ハス自ヲ捧ケテ其人ノ妻トナリ、  
甚其ノ人ヲ愛シ其ノ人ヲ信シ、実ニ美シキ生涯ヲ送レリト

然ルニ此ノ教員モ此防火夫モ人間デアリ、人間カ人間ヲ救フ為ニ己ノ手ヲタ、「カ」シメ、又己ノ身ヲ犠牲トシテ  
スラ大ニ生徒ノ心ヲ動シ悔改シメ、又一人ノ娘ヲ動かシテ遂ニ其ノ一身ヲ防火夫ニ捧ケシメタリ

然ルニ吾人カ罪ヲ犯シタル造物主宰カ人間ニ降ラレ、我等銘々ヲ救フノ途ヲ開カン為身自「ラ」十字架上ニカ、ラ  
レシニ、何ニ故我等々ノ心カ動キマセヌカ、何ニ故悔改メテ之ヲ信ジマセヌカ

コハ凡テ彼ヲ信スルモノハ亡ル事ナクシテ限ナキ命ヲ受ケシメン為ナリ

○信スルトハ他ナシ、全ク一身ヲ任スルナリ、其ノ命ノ儘ニ之レ従フナリ、深ク之ヲ愛スルナリ、茲ニ至リ初メテ神

人ノ一致成レリト云ベシ

〔朱〕  
「神ノ怒消滅シ去、罪人其ノ前非ヲ改ム、神罪人ヲ容レ罪人ハ神ニ帰ス」

○水素二分 酸素一分 エレキ之ヲ合テ水トナス

此贖罪ノ途ノ開ケタルハ天父ニ非常ノ果斷ヲ行ヒ、基督ニハ非常ノ愛ト勇氣ヲ示シ、如斯モ神人ノ一致ヲ成就セシメ  
タリ

〔朱祖〕

此ノ贖罪ノ事ハ我等罪人ニ取り決シテ川向ヒノ火事ノ如キ類ニアラス、我ノ為諸兄諸姉ノ銘々ノ為基督ハ十字架ニ  
カ「カラ」レ「タ」ル事ナレハ、此ノ十字架ノ話シハ吾人一人々「々」大關係ノアル事ニシテ、我ノ為ニセリト云  
事カ分カラヌ内ハ基督ノ話ハ少シモ感情ヲ惹キ起サ、ルベシ

〔朱〕

「約二十一ノ十八、十九

〔ベテロノ如ク己ノ好マサル所ニ導キ〕  
十字架「架」ヲ負セ賜フモ知レズ

予ノ經驗三日間寢食ヲ忘ル

此堂ニ集リ来ル所ノ兄姉ハ皆此基督ヲ信スル人ナリト思ヘハ、我カ東洋ニモ神ノ恵ノ光カ照「リ」初マルト云ヲ証ス  
ルニ足り深ク天恩ノ忝キヲ謝ス、又殊ニ今日ハ難波教会ノ十年期ヲ祝スル為兄姉カ喜テ此ノ新築ノ大会堂ニ来ラレ、  
共ニ主ノ晚餐ヲ守リ主ノ恩寵ノ厚キヲ謝スルニ当リ、予ノ心ヲ動ス事茲ニ一事アリ

十字「架」上ノ基督汎山「保羅」牧師ヲトリコニス

〔朱〕

「孫子曰、陷之死地而後生ス、置之亡地而後存ス、主基督曰、其ノ命ヲ惜ムモノハ之ヲ失ヒ、其ノ命ヲ惜マサルモ  
ノハ之ヲ得ヘシト」

同氏ニシテ全ク一身ヲ基督ト共ニ十字架ニツケタレハコソ神ハ同氏ヲ恵ミ賜ヒ、縱令ヒ多年ノ病ニカ、リ其死去ハ何  
ツカ何ツカト人々ヲ心配セシメシモ、神ハ同氏ノ命ヲ保チ賜今日ニ至ラシメ、身自ラ説教セサルモ同氏ハ毎日折ヲ以

テ教会ヲ牧シ、真ニ我等ヲシテ祈ヲ聞キ賜フ神アルヲ知ラシメ、氏ニシテ此堂中ニ物言ハストモ今尚物言ヘリ、而シテ此教会モ同氏ノ多年ノ病ナルニ関ハラス、同氏ノ為ニ尽シ同氏ヲ慕テ今日ニ至〔リ〕尚愛ノ変セサルハ、十字架上基督此ノ教会員ノ心ヲモ<sup>〔トリコ〕</sup>擒ニセリト云ベシ〔<sup>〔補〕</sup>我等基督ニ引カ〔レ〕タルモノ

此ノ兄姉ト共ニ、又救ヲ受タル大阪市中並ニ近傍ノ兄姉ト此会堂ニアリ、此ノ晚餐ヲ守ラントスルハ何ニノ現像ゾ、十〔字〕架上ヨリ基督ノ滴々ノ血克ク我等ヲ茲ニ来ラシ〔メ〕タレハ、此ノ滴々ノ血如何ナル価ノアルヤヲ思ヘ、<sup>〔先〕</sup>基督ニシテ十字架ニカ、リ遂ニ天国ノ門ヲ開ケリ、我等モ我カ私慾私心ヲ基督ト共ニ十字架ニカクルニ非ラ<sup>〔朱〕</sup>〔ズ〕バ又天国ニ入ルヲ得サルベシ、我等共〔ニ〕今日ヲ祝スルニ当リ十字架ノ基督ヲ見、深ク基督ヲ信愛シ〔<sup>〔朱〕</sup>自身十字架ヲ負ヒ〕、永ク基督ノ忠僕忠婢トナリ、何時カ彼ノ天国ニ進ミテ面ノアタリ基督ヲ拝謁スルノ日ヲ希図シテ止マサルナリ

〔明治二十年一月二十日・於大阪土佐堀青年会館〕

46 「伊勢峰告別説教」

時ハ猶太人基督ヲ殺サントスルノ議起ル

基督之ヲ逃テ、ベリヤニノカル

ベタニヤ、マルタ、マリヤノ兄弟ラザロ死ス、基督ヲ迎ニ遣ス 四ケ目ニ来ル

〔朱点、以下同〕

我ハ復生ナリ生命ナリ、我ヲ信スルモノハ死スルトモ生クベシ

〔朱線、以下同〕

一基督ノ復生ハ吾輩ノ復生ノ模範ナリ

二基督ノ復生吾人靈魂ノ不死ヲ証ス

〔ラサロ四ケ目ニ復活ス、吾人基督ヲ信スルモノハ、何時カ数千百年万年ノ後カ又復活スベシ

文久二年五月廿日誕生

果然タル女丈夫ナリ 男子ナレハ必ラ<sup>〔ス〕</sup>伝道士タリシナラン 今ヤナシ、尚物言ヘリ

〔朱〕  
「無益ノ告ケロハキカズ

●三回父ト争ヒ正理ヲトク、屈セス」

○明治九年十二月三日、新島丸頭町新島氏ノ家ニ設立ノ教会ニ加ル

〔朱丸、以下同〕  
○金森<sup>〔朱〕</sup>○徳富。同志社ノ書生、辻橋<sup>〔朱開〕</sup>山本咲<sup>〔朱開〕</sup>峰<sup>〔朱開〕</sup> 坂井禎甫 井手 上原方立

十四年五月廿日、伊勢氏ニ嫁ス

十七年七月、今ノ長女ヲ産ス

十九年四月中、西京ニ戻ル

二十年一月廿日曉六時、男子ヲ産ス

○二十年一月廿七日午前二時十分前、死去ル

〔朱〕

「リチャルド

バクレー

ベレー」\* 氏ノ深切

平生ノ行狀正実ニシ虚ヲ言ハス、性甚淡泊、堪忍ノ性ニ富ミ決シテ苦情言ハス

○物ノ判断ニ富ム〔伝道ノ精神勃々ト起ル 病床毎々伝道ニ出ルト云 九州ニ趣クノ志

〔鉛筆〕

「死ノ事ヲ告ルニ不平ナク全クキリストニ任ス

十六年神吾城ナリ

○死ス前キリスト丈分カル」

ルーテル、エルフォルト大学ノ教師〔アレクシスノ電光ノ為打タレテ死ス

プリースト、アーゴムテンノ書ヲ読ム

○ウツテンボルグノ大学ノ哲学ノ教師トナル

○死スルハ不幸ト見ユルモ残ス所ノ良夫アリ 娘一人、男子一人

○母ノ志ヲツクナランカ

〔朱〕  
○幼シテ

○父ヲ失フ

○今其愛姉ヲ失フ

宇宙別ニ靈界ナル天国アルアリ、我輩其用意ニ怠ラサルベシ

復生ニシテ生ナルキリスト此ノ姉妹ヲ呼ヒ賜、吾人焉ソ慕々トシテ涙ニムセヒ別ヲ惜マンヤ、伊勢峰子爾ハハヤ我カ  
モノニアラス、基督ノモノナリ、勇ク進メ」

〔明治二十年一月二十八日・於同志社礼拝堂\*〕

47 ナイン少年ノ復活

〔包紙〕

〔廿年二月廿日 同志社〕

ナイン少年ノ復活

〔本文〕

〔歌〕十一、四十三、六十四

路可七章十一ヨリ十四ニ至ル

此事ノ出来タル此ナイント云村ハ、有名ナルテーボア〔タボル〕山ノ南数里ノ所、小ヘルモン山脈ノ北西隅ニアリテ、ナサレヨリ東南ニ当リ六マイルノ近ニアリ、其ノ旧跡ヨリ考レハ昔時ハ相応ナル村落ナリト見ユルモ、今実ニ寥寥タル一寒村ニテ、人家ノ僅ニ二十戸位アルノミナル由、而シテ村ニ只一箇ノ門アリ、其ヨリ南下スレハ旧ノ墓地アル由、聞ク所ニヨレハ猶太人ハ死人ヲ市ノ門外ニ葬ルト、是其ノ一証例ナリ、当時主イエスハ山上ノ教ヲ宣ヘ終リ、其ヨリカベナオムニ於テ百夫ノ長ノ僕ヲ癒シ、其ノ翌日此ナイン村ヲサシテ越サレタリ

其ノ村ノ門ニ近カツキシトキ寡婦ノ独子死テ門外ノ墓地ニ送ラル、ニ出逢ヒ、其ノ寡婦ノ悲哀愁傷ニ堪エサルヲ見テ痛ク其ノ心情ヲ察セラレ、<sup>〔朱点、以下同〕</sup>哭勿レト云イ遂ニ近ヨリ<sup>〔ヒツギ〕</sup>襁ニ触レケレハ之ヲカクモノハ止レリ、基督少年ニ命シ起ヨト

云賜ケレハ、死人ハ起テモノ言ヒ始ム、基督之ヲ其ノ母ニ予セリ

或ル人曰、此ノ寡婦ハ村中人望アリシモノデ其ノ子ヲ人々ヨリ愛セラレタルナラン、仮令又特別ノ人望ナキニセヨ此ノ寡婦ノ如ク已〔ニ〕其ノ良人ヲ失ヒ只此ノ独子ニ頼ムノ見込ナリシモ、早ヤ已レニ先キ立レテ陰府ノ客トナリ、愁傷失望交至リ自ラ支フル能ハサリシナラン、又村中の人々モ之ヲ慰ムルノ途モ寡婦ト共〔ニ〕愁ヒ共ニ歎キ、共ニ此死人ヲ送リテ村ノ門外ニ送リ出タルナリ

茲ニ折モヨクナイン門外ニ於テ生命ノ權力ヲ持賜基督ニ逢ヒタレハ、已ニナキモノト思ヒ込ミ涙ニムセ悲ニ沈メル寡婦モ復活其子ヲ与サルノ幸ヲ得、愁ハ一變シテ喜ヒトナリタレトモ、若シ其ノ路次〔途〕如斯生命ノ權力ヲ持賜基督ニ逢フノ幸ヲ得サリシナレハ、哭ク々々其ノ子ヲ冷寒ナル門外ノ墓地ニ埋メ、久ク其ノ独子ト死別トナリ、実ニ悲シキ助ケナキ寡婦ノ生涯ヲ送リシナラン

○茲ニ先寡婦其ノ独子ヲ櫬ニ入レ之ヲ門外ニカキ出ス所ノ有様ト其ノ心情ヲ察スレハ、人生ニ早晚死アリテ死ヲ免カ〔ル〕ヘカ〔ラ〕サルヲ知り、又人生ニ老年ニ至リ死スアリ、又中年又ハ夭死スルアリ、又不時ノ怪我ヲ以テ死スル等アリテ、死ハ親族朋友ヲツナク關係ノ糸ヲ断絶スルモノニシテ久ク死ニ〔別〕レトナラシメハ、人情慕々ノ情ナキ能ハス

子ノ父母ヲ亡ヒ、父母ノ子ヲ亡ヒ、妻ノ良人ヲ亡〔ヒ〕、夫ノ愛婦ヲ亡ヒ、又殊ニ寡婦ノ其ノ独子ヲ失フガ如キ死ニ異様アルモ、皆死ノ然ラシムル所ナレハ、死モ亦甚殘酷ナルモノト云ハサルヲ不得而シテ死トハ何ソ

人間生活ノ機関ト外部ノ境遇トノ關係、交通ノ全ク断絶ニ及ヒ、生活ノ機関周囲ノ生ヲ助クル事物ニ感應スルノ力ヲ失フニ至ルナリ、人間ノ肺、心、臟等アリ空氣中ノ酸素ヲスヒ血トナシ肢体ヲ養イ

胃腸ノ食物ヲ消化シト滋養分ヲ吸収シテ全身ニ及ボシ

太陽、温氣、光源ノ人生ヲ發達セシムル等、皆内部機関ノ克〔ク〕外来物ニ感応シテ生活ヲ保ツニ至ル、此ノ四囲ノ事物ニ感応スルノ力止ムトキハ人生只死アルノミ

扱死ノ為ニ囚トナリ此ノ世ノ一切ヲ打捨未來ノ旅路ニ向フ人ノ心情ハ如何アルカ、充分ノ推察ハ下シ難キモ、後ニ残サレタル其ノ死体ヲ墓地ニ埋メ其人ノ声ヲ聞カス其ノ形ヲ見ス、人ノ心情ハ甚タ寥々トシテ漠々タル陰雲ノ青天白日ヲ遮リタルカ如シ、仮令其人ヲ地下ニ埋メ再生ノ望ハ斷絶スルモ逐懷ノ情中々消滅シ難ク、風吹ク夕、雨降ル曉、或ハ秋夜明月ノ照ルヲ見ルニツケ、春風百花ノ綴ルヲ見ルニツケ、朋友間去リシ人ノ言行ヲ物語ルニツケ、其ノ人ノ読ミタル書物、書カレタル書翰、着ケラレタル衣類、平素愛セラレタル物品ヲ見ルニツケ、又墓地ニ行キ其墓表ヲ見ルニツケ涙潜然トシテ下ルハ何ソ

最早其ノ人ノ顔色ヲ見ス、其ノ声ヲ聞カス、其ノ人ナキニヨル

又一人ノ死ニヨリ不幸困難ヲ其ノ一家族ニ来ラスノ例モ少カラス、其ノ老父母ハ老ヲ養フノ途ヲタ、レ、妻子ハ飢渴ニオチイルノ慘状ヲ見ルニ至リ、人生ニシテ如斯ク困難苦痛ノ生涯ヲ送り、死カ只其ノ終極ナレハ寧空飛フ、鳥カ野山ヲ奔ル獸ノ自由ニ此世ニ出、自由ニ此世ヲ去ルニ如カスト思フノ情モ起クヘク、只ナイン門外ニ櫬ヲカキ出シ其墓地ニ向テ下リ、悲ニ沈ミ涙ニムセブノミ

○然ルニ此ナイン門外葬式ノ路次、最早墓地ヲ去ル遠カラサルノ所ニ至リケレハ、生命ノ權ヲ有シ賜フイエス折ヨク

モ其所ニ来リ賜ヒ、寡婦ノ一方ナラサル歎キヲ愍然ノ事ト思召サレ、櫬ヲカクモノヲ止メ少年ヨ起ヨト命セラル、死者ハ其ノ恵ノ声ヲ聞キ直ニ言イ始ム

〔朱嶽・以下同〕

〔朱丸〕

是ノ事他ニアラス、生命ノ權ヲ有シ賜フイエス一言ヲ発シ、少年ノ生活機関最早外物ニ感應セサルモノニ再ヒ活

動カヲ与ヘ、直ニ外物ニ感應スルノ力ヲ得セシメタルナリ

〔朱丸〕

少年ヨ起ヨト呼ハル、一瞬間前ノ有様

〔少年ヨ起ヨト呼ハル、〕一瞬間後ノ模様トヲ想像シ賜ヘ

其ノ一瞬間前悲哀愁歎

〔其ノ一瞬〕間後ハ非常ナル喜ト神ヲ恐レ崇ムルニ至ル

其悲ト喜トノ一瞬間ヲ如斯反對ノ現像ヲ出シタルハ何ゾ

〔朱丸〕

◎蓋シ死ハ甚哀シク生ハ甚喜シクアレハナリ、兄姉ヨ人生僅、五十年ナル肉体ノ生死ニシテ、如斯克モ悲クアリ如斯克モ

喜シクアレハ、永遠無窮ノ靈魂上ノ生死ニ関シテハ吾人ハ何ニノ感情ナキモノカ

イエス基督カ此世人ヲ救フノ大任ヲ負テ此世ニ来タラレシハ肉体ノ生ヲ救フニアラス、靈魂ノ生命ヲ救フニアリ、

基督在世中肉体ノ生ヲ蘇生セシメシハ僅ニ三人ノミ

カペルナムニアルヤイロノ娘

ナインノ寡婦ノ独子

ベタニヤノマルタ、マリヤノ兄弟<sup>〔ラ〕</sup>ロサロ等ナリ

〔朱丸〕

○基督曰ク、人若シ全世界ヲ得ルトモ其ノ生ヲ失ハ、何ノ益アラシヤ

〔朱丸〕

○又曰、其ノ命ヲ惜ムモノハ之ヲ失ヒ、其ノ生ヲ惜マサルモノハ之ヲ得ベシト、之ヲ得ヘシト、靈ノ命ナリ

〔朱丸〕

○又曰、靈魂ヲ殺スモノヲ恐レヨト、肉ヲ殺スモノヲ恐ル、勿レ

是ニヨリ基督カ肉ノ生ヲ救フニアラスシテ、靈ノ生ヲ救フ為ニ来ラレ「シ」ハ明ナリ

〔兄弟ヨ、肉体ノ生死スラ悲ミト喜ヒノ大ニ反對スルモノナルニ、茲ニ試ミニ〕

〔靈魂ノ死ト肉体ノ生ヲ両カラ比較ヲシテ見タレハ、其ノ悲ミ歎キト其ノ樂シキ喜シキハ如何ニ大ナルモノソヤ

基督曰、我若シ地ヨリ挙レラレナク「バ」万民ヲ我ニ引カント、基督昇天以來イエス人類ヲ救フノ活カヲ万国ニ顯

シ、全世界滿天下殆トナイン門外ノ現像ナラサルナキニ至ル、兄弟ヨ茲ニ少シク沈思セラ「レ」ヨ

イエス茲ニアリ彼コニアリ、イエス歐洲ニアリ、イエス亞細亞ニアリ、イエス亞弗利加ニアリ、南洋群島ニアリ、支

那ニアリ、イエス日本ニアリ、京都ニアリ、同志社ニアリ、少年ヨ起「ミ」娘ヨ起ヨ、ラサロ出ヨ「ト」呼賜フ

〔朱弧〕

茲誰カ身ヲ靈魂上ノ死体トナシ、靈魂上ノ櫛ニ入レラレ、ナインノ門外ニカキ出ラル、アリテ、尚少年ヨ起ト、娘

ヨ起ヨト云イエスノ恵ノ声ヲ聞トモ、尚靈魂上ノ耳ヲフサキ靈魂世界ノ周圍外物ナル神ノ真、光リ命等ニ感應スル

ヲ拒ムモノアルゾ

兄弟ヨ、試ミニ我カ日本現今ノ実況ヲ見ラレヨ、何レ「ノ」都府ニセ何ノ村落ニセ死ハ同胞ノ上ニ王タリテ、老若貴

賤ノ別モナク尽ク之ヲ櫛ニ入レナイン門外ニカキ出スノ慘状ナキヤ否ヤ、伏テ望ム慈愛ノ神我カ同胞親戚朋友中ヨリ

アリ、一日モ速ニ此ノ慘状ヲ除賜ワン事ヲ

○兄弟ヨ、我ハ蘇生ナリ命ナリ、我ヲ信スルモノハ死スト「モ」生クヘシト仰ラレタルイエス我等ノ内ニアリ、無限

キ死ノ慘状ヲ払去リ無限生命ヲ与ヘ、名状シ難キ幸ナル境遇ノ門ヲ開ラキ、我等ヲ招キ賜エハ、兄弟ヨ何ソ遅々死

ノ為ニ支配セラレ又死人ヲ送リテナイン門外ニ哀ムヤ

〔朱弧〕

〔靈魂ノ生一回我ニ入動カハ肉体ノ死ハ何ニモノソ、我ヲ入ルノ櫛ハ何ニモノソ、我ヲ埋ムル墓地ハ何ニモノソ、

〔父母子夫婦朋友ノ離別ハナニモノソ

基督吾人ヲ憐シテ吾人ヲ死ヨリ起シ、無限境遇ニ進マシメ、青天白日見ル能ハサル神ヲ見〔ル〕ヲ得セシメ、無限

命ノ冠冕ヲ吾々ニ賜ハラシ

〔朱朋〕

人生ノ終極

〔明治二十年二月二十日・於同志社〕

48 「沢山保羅ノ告別式ニ臨ミテ」

約翰十七章二十四

保羅師ハ己ノ地上ニ於

キリスト○榮ヲ見テ喜ハレシモ、今ハ天国ニキリストノ云ベカラサルノ榮光ヲ見テ喜ノミナラス、其ノ榮光ヲ受テ喜ヲ以テ満タ「サ」ル、ナリ

○敏捷 漢籍

○豪氣 年尚幼ナルモ屢戰ニ出懸クルモ見ヨ

○主一 總テ物事ヲ優柔不斷ニ附セス、為スヘキヲ為シ為スベカラサルヲ為サス

○寛大 克ク人ヲ容レ区々ノ小事件ニ汲々タラス

キリストノ榮光ヲ見ルヤ師ノ平生ノ美質ヲ活用シ来リ、敏捷ナル分ハ速ニ神ノ奧義ヲ曉ラシ、豪氣主一ナル分ハ斷然信仰ノ途ニ進マシメ、甘シテ主ノ十字架ヲ負フニ至ラシメ、寛大ナル分ハキリストノ愛ノ如何ナルヤヲ識ラシメ、克ク人ヲ愛シ人ヲ容レ蕩然人ヲ感化シ得ルノ力ヲ受タリ

○良牧師ノ名ニソムカス

(良牧者ハ羊ヲ愛シ羊ノ為ニ命ヲスツ)

師ノ祈(五時半)

○師ハ病ニカ、ル殆茲十年間

早クモ己ノ愛スル妻ヲ失フモ為ニ落胆失望セ「ズ」、多年病ニカ、リ此ノ世ニナカラヘ働クノ望ハ断ユルモ決シテ失望セ「ズ」、決シテ苦情ヲ言ハス、非常ノ十字架ナルモ一日モ決シテ己ノ背ヨリ下ロセシ事ハナカリキ、キリストノ栄ヲ見テ喜フ事ハ、遙ニ妻ヲ失フノ悲シキト病ノ為苦シメラル、苦キニ勝レルニヨル

〔鉛筆〕 良牧師、良信徒ノミナラス実ニ人傑ナリ

〔鉛筆〕 〔自給、人ニ求メス神ニ求ム、容易ニ人ヲ捨「テ」ス、世ノ困難ヲ仰テミガク、身ヲ犠牲トナス〕

神ハカ、ル撰器ヲ我カ日本ニ賜ハリタル、殊ニ四通八達ノ要路タル大坂ニ来ラシメ「教」会ノ牧師トナラシメシハ深キ思召ノアリタルナラント思ハルニ、此ノ良牧師、此ノ撰器ヲ三十五年ヲ一期「ト」シテ此世ヨリ取り賜フハ不思議ト疑フ兄弟モアラシカ

予ハ曰ハン、師ハ己ニ其分ヲ尽セリ、己ニ其ノ働ヲ成シ終ヘタリ

〔鉛筆〕  
「ミューラル——日本ノ」

師ノ働キ

師ノ祈ノ結果

人生長寿ヲ保ツカ幸ニアラス、一日ナリトモ神ノ御意ニ叶フ生涯カ必要ナリ

安息日

地上ノ安息ヨリ天上ノ安息ニ移ル

善且忠ナル僕

死シタルニアラス永眠ニアラス

命ヨリ命ニ移リ榮ヨリ榮ニ移ル、今ハキリストノ榮ヲ見テ其ノ榮ヲ受ケ喜ラル、ヘシ

嗚呼地上ニ此ノ良友ヲ失ヒタレトモ天上ニ一ノ良友ヲ加ヘタリ

神ニ謝シ師ヲ送ラン

〔明治二十年三月二十九日・於大阪土佐堀青年会館\*〕



## 説教稿Ⅱ



## 49 カインとアベル

創世記ノ第四章一ヨリ十五

歌 三、五十

此ハ何ノ時代ニ書カレシ者ソ、モーセノ書ト称スレトモ恐クハ何人カ神ノ御助ヲ受タル者カ云ヒ伝ヘ置キ〔シ〕カ分  
カ〔ラヌ〕事ナレトモ、此書ノ言葉ハ至テ簡易、而シテ其ノ意ノ貫キタル、又人情ヲ尽クシタル、又人間何ノ点ヨリ  
罪ヲ犯セシカ、又罪ヲ犯スノ原ト罪ニ罪ヲ重ネ益人類ノ神ヨリ遠〔ザ〕カリタル事等、実ニ至レリ尽セリト云ヘキナ  
リ、予今日ハ此書ヲ読ミ人間ノ歴史ハ善惡ノ分チヨリ初マリ、又善惡ノ分チニ終ルト云事ニ感シタレハ、此章ノ此処  
彼処ニ記シアル所ヲ指シ御話ヲ致サン

〔朱丸・以下同〕  
○第一段

### ○第四章ノ三

カインハ土ヨリ産スル所ノ者ヲ以テ耶和華<sup>〔エホバ〕</sup>ヲ祭り、アベルハ初テ生レタル所ノ羊ト其脂トヲ以テ耶和華ニ捧ケリ、然  
ルニ耶和華アベルノ祭物ヲ受ケ、カインノ<sup>〔ママ〕</sup>祭物ヲ喜ハサリシ、依テカインハ大ニ怒リ顔色ヲ変セリ、<sup>〔ママ〕</sup>神ハカイ  
ンニ向ヒ問テ曰、爾何ソ怒ルヤ、爾何ソ顔色ヲ変スルヤ、苟〔モ〕爾善ヲ行ハ、何ソ容ラレサルカアラン、苟モ不  
善ヲ行ハ罪門ニ至リ爾ヲ慕ハン、爾宜シク之ヲ制スヘシ

（三十七ニ至ル）

③三節ノ所ニカイントアベル共神ノ前ニアリ、祭物ヲ捧タルトキハ何レモ共ニ神ニ使フル様ニ見ヘタレトモ、耶和華ノ神ハ克ク人間ノ心中ヲ見貫キ賜フ神ナレハ、直ニアベルノ祭物ヲ受ケカインノ祭物ヲ受サリシ、其理由ハ如何

ア、<sup>〔朱点・以下同〕</sup>アベルノ羊ヲ捧ケシハ最早罪ニ染シタル人間、罪ノ為ニ己ノ身モ罰セラルヘキヲ早くモ己ノ罪ヲ悔ヒ<sup>〔ヘリクダ〕</sup>謙リ、己ノ最

モ愛スル所最モ無キズノ羊ヲ殺テ、己ニ代ヘ神ニ謝シ神ニ呈スル意ヲ以テ神ニ捧ケシナルハ、此祭物中已ニアベル

ノ信仰ヲ顯シテ神之ヲ受ケ賜ヘリト見ユ、然ルニカインニ至テハ不然、彼ハ謙遜ノ心ナク感謝ノ意ナク信仰ノ心モ

ナク、唯己レノ作りシ者ヲ神ニ捧ケントテ之ヲ捧ケタレハ、其ノ捧クル所ハアベルト同一ニ見ユレトモ其意旨ハ遙

ニ異ナリ、故ニヘブライ第十一章<sup>〔朱線・以下同〕</sup>四節ニ、信仰ニ依テアベルハカインヨリ<sup>〔マサ〕</sup>愈レル祭物ヲ神ニ献ケタリト、宜ナ

ルカナ此ノ話ヤ、此二人ノ神ヨリ受ケラル、ト<sup>〔シカ〕</sup>否ラサルトハ、彼等ノ志操ノ向ク所ト信仰ノ有無ニ関スル也

④「約ノ八ノ四十四」此時カインノ挙動ハ如何、己ノ祭物ハアベルノ祭物ニ劣リ己ニ謙遜感謝信仰ノ心ナキヲ顯ミ之

ヲ悔ヒテ、真ニ神ニ謝シ再ヒ神ニ容レラレン事ヲ計ルヘキニ、彼ハ惡魔ノ子ニシテ惡魔ノ慾ヲ充タス者ナレハ、彼

己ノ祭物ノ神ヨリ喜バレサルヲ怨ミ怒色ヲ顯ワセリ

主尚カインヲ捨テス

○神ハカインノ顔色ヨリモ早く其心ノ穢カナラサルヲ知り、カインニ向ヒ問ヒケルハ、爾何ソ怒ルヤ何ソ顔色ヲ変ス

ルヤ、爾若善ヲ行サハ何ソ容ラレサルカアラン、若不善ヲ行サハ罪門ニ至リ爾ヲ慕ヒ爾ヲ導カン、今爾ノ勤ムヘキ

所ハ宜ク之ヲ制スルニアリト、如斯深切ニ此彼ヲ導キ彼ニ行スヘキノ勤ヲモ明ニ教ヘ賜ヘシニ、彼少シモ改悔ノ色

ヲ顯ワサス己ノ過チヲ認メス、益怨ミ益怒リ更ニ神ノ教誨ヲモ意トセス、神己ノ祭物ヲ受ケス弟ノ祭物ヲ受ケ賜ヒ

シヲ怨ミ、彼ノ義ナルアベルヲ惡ミ、何時カ晴ヲサスシテ置ベケント懣憤ヲ心ノ底ニ蓄ヘタリ

○第二段

①一日カイン其弟アベルヲ誘ヒ野行セシニ、アベルハ何ノ疑モナク兄ト共ニ行シキカバ、カイン四方ヲ見回ワシ人無キヲ幸ヒトシ、談話ノ間遂ニ之ヲ打チ、之ヲ殺セリ

神彼ニ問テ曰ク、爾ノ弟ハ何処ニアルヤ、神ノ如斯問ヒ「シ」ハ彼ノ心ニ惡事ヲ思ヒ起サシムルニアリ、然ルニ彼ハ何知ラヌ振リヲ為シ答曰ク、我ハ弟ノ番人ニアラスト、嗚呼無礼ナル答ナラスヤ、神ニ目ナシト思ヒ「シ」ヤ何ソ不知ノ甚シキ、如斯キ無礼ナル罪人ニ神ハ如何ナル御所置アリシヤ、之ヲ罰シテ余<sup>カ</sup>拳ナカラシムルモ至当ノ事ナルハ、神ハ唯彼ノ耕ス所ヨリ実ヲ生スル勿カラシメ、神ノ前ヨリ去ラシメ、父母ノ家ヨリ離シメ、永ク流離ノ人タラシメタリ

〔補〕神、爾何ヲ為シタルト問、爾ノ弟ノ血地ヨリ訴フ

カイン曰、我ノ重刑ニ罹<sup>ル</sup>實堪エサル所、爾今我ヲ逐ヒ此地ヲ離レシメ流離不定ナラシメハ恐クハ我ニ逢フ者我ヲ殺サン、神カインヲ殺ス者ハ七倍ノ刑ヲ受シメント云レ、印誌ヲ与ヘ之ニ逢フ者ヲシテ之ヲ殺ササラシム、神ハ如斯恵ヲ賜リ彼ノ命ヲ助ケタリ、如何トナレハ他日又彼ノ再ヒ神ニ歸リ神ニ使フル事ヲ望<sup>ミ</sup>シニヨルナリ

○注意

如斯テカインハ神ノ前ヲ離レテ遂ニイデシ<sup>ン</sup>ノ東ナルイト<sup>ノド</sup>ト称ス地ニ寓セリ、神ノ恵ニヨリ子孫ヲ設ケ其子孫中ニ牧畜者ノ祖先、音楽ノ祖先、銅工鋳工ノ祖先トナリシ者ヲ見シハ何カ、如斯罪人ノ子孫ニモ神ハ恵ヲ賜リテ繁殖セシムレハ、人此世ニ居リ随分罪ヲ犯シテモヨキ者ナリト考ヲ回ラス者モアルベケレトモ、五代目ノ孫ラメクナル者ハカイント同シ<sup>ク</sup>人ヲ殺セリ、此ニヨリ之ヲ見レハ、カインノ後胤ハ人殺ノ血統ヲ受ケシ者ナルベシ、且

此等ノ子孫ハ毒ヲ人間ニ流セシ者ニシテ此世ノ人ト称セラルベキ者ナリ、且神洪水テ世人ヲ滅亡セシモ、必ラス此ノ子孫ノ招キ求メシ所ノ神ノ怒ナリト云ワサルヲ得サルナリ

カインノアベルヲ殺セシ故ヲ以テアタム夫婦ハ定テ悲傷ニ堪サルナランニ、神彼等ヲ憐レミ賜ヒアベルノ代リニ一子ヲ与ヘタリ、彼等之ヲ名テセス〔セツ〕ト云、是時ヨリ人ノ名ヲ呼フ事ヲ初メタリキ、乍去創世記ノ六章ニ神ノ子供、世人ノ子ヲ娶リ妻トナシ、彼等ノ罪ニ染生スル所ノ子孫武勇ノ人ナリシモ、彼等ノ所業神ヲシテ悔心ヲ生セシメ、遂ニ洪水ヲ下シテ人類ヲ滅亡セシムルニ至レリ、然ルニ其時神ノ子ノ血統ハ全ク地ニ断エス、義ナルノア存スルアリテ人類ヲ地上ニ存スル事ヲ得タリ

### ○注意

此洪水ニ至ル迄ノ人類ノ歴史ヲ概見スルニ、アタム罪ヲ犯シテヨリ以来其子孫ハ罪ヲ犯スノクセヲ得、其子カインノ如キハ己ニ罪惡ノ心ヲ抱キ義ナル其弟ヲ殺セリ、扱アタムニ如此キ惡人ト義人ノ生レシハ、己ノ慾ニ任セ一ハ神ノ義ヲ慕ヒ共ニ共ニ神ノ前ニ出テ祭物ヲ献セシモ、信ト不信、義ト不義トノ二途ニ別レ、初メ分厘ヲ違ヘルモ末ハ千里ノ隔リヲ為ス事ナレハ、人間ノ歴史ハ善惡ニ途ノ歴史ト称スルモ可ナルベシ

〔以下原文横書〕

### 初

血氣アル祭

共ニ祭物ヲ捧ク

血氣ノナキ祭物

〔朱点・以下同〕  
、信

、不信

、改悔ノ心

、改悔ノ心ナシ

、心ヲコメル祭物

、神之ヲ受之ヲ義トス

、神ノ喜ヒ賜ヘルニヨリ心ニ安キヲ得

、敬虔神ニ使<sup>〔註〕</sup>エシ所ヨリ戮殺セラレ人間歴史中義人ノ

祖先トナル

、アベルハ唯一ツ祭リヲナシ

且殺サレテ其名後世ニ芳シ

基督モ之ヲ名テ義人ト称ス

○アベルハ死シテ更ニ慚ル所ナシ

△<sup>〔朱三角・以下同〕</sup>アベルハ人間中初テ祭物ニヨリ罪ノ赦シヲ得天国ニ入

リシ人ナラン 天国ノ先陣 喜テ神ノ方ニ進メリ

○アベルハ神ノ随フ者ノ標準

アベルニ代リ神ヨリセスイノクノア等ノ義人ヲ賜ハレ

リ、此時ヨリ人神ノ民トナレリ

、心ナシノ祭物

、神喜テ之ヲ受ケス

、神受ケサルニヨリ怒ヲ含メリ

、神ハ彼ノ改悔ヲ促セシモ彼ハ改メス、遂ニ己レノ

弟ヲ殺セリ

、カインハ生ヲ偷ミ世ニ永ラヘシモ、神ヨリ捨ラレ

汚名ヲ蒙リ、約翰モ(第一ノ三ノ十二)カインニ倣

勿レ彼ハ使惡キ者ヨリ出シ者ニシテ其弟ヲ殺セリ

ト

○カインハ生ヲ偷ミ慚ヲ抱キ卑屈心ヲ抱キ恐レヲ抱

キ不足ヲ抱キ、永ク神ヨリ放逐ヲ蒙レリ

△カインハ人間中人殺ノ祖先トナレリ 地極ノ先陣

恐テ神ノ前ヲ退ク

○カインハ世ニ毒ヲ流シ世ヲ腐敗ニ趣〔カ〕シメ惡魔

ノ道具忠臣トナレリ

神ノ子供世ノ中ノ人ト交リ洪水ヲ世ニ来タセリ

方舟中ニ〔朱〕救ヲ得 世ノ子供ノ皆溺死ス

神ノ子モ世人ニ混スレハ洪水ヲ来タスノ患ニ逢ヘリ

アタムヨリ——此時ニ至ル

千六百五十六年ノ時日

世界之一段落

### 基督降世後

### 基督

靈ノ祭物

基督自〔ラ〕靈ノ祭物ヲ神ニ捧ク 己ヲ捨テ仁ヲ為ス者

此ニヨリ神ニ来リ〔シ〕者ハ信仰ト改悔アリ

自ラヲ罪人ト称ス

△靈ノ祭物ニヨレハ又靈ノ結果アリ

〔朱〕「ガラタ〔ガラテヤ〕五ノ二十二」仁愛、喜樂、平和

忍耐、慈悲、良美〔善〕、忠信、溫柔、撙節

羊 血氣ノ畜

無心ノ祭物

パリサイハ無心ノ祭物ヲサ、ク

——信仰ト改悔トナク

自ラヲ義人ト称ス

△肉ノ祭物ニヨレハ又肉ノ結果

苟合、汚穢、好色、偶像ニ事ル事、巫術  
パリサイノ所業

（傲慢、欺詐、不信仰、偽善、姦惡）

○頼ム所ハ全知全愛ノ神子キリストニアリ 空ヲウ

ツノ類ニ非ス

充分ニ天国ノ望ヲ抱、心ニ安ヲ保

大丈夫ノ心 義。

ルーサ、オルム〔ス〕ニ於ルカ如シ

〔Y.A.〕  
「Dr. Anderson 船ニアリ恐ナシ

（身ヲ捨テ仁ヲ為ス）」

綿羊

限ナキ生命

（外形ヲ飾リ内部ハ貪欲ト淫欲ニ充ツル者也）  
苟合、汚穢、好色、嫉忌、忿怒、分争、結党、兇  
殺、惡魔ノ後裔、乃人殺ノ末也

○唯頼ム所ハ己ノ學問位置 権柄 有ル文ケノ工風ヲ

ナシ、此世ニテ面目アラハヨシ 未来ノ工風ハ更ニナ

シ、一寸前ハ暗黒ナリ 一寸前地獄

卑屈心 不義。

〔Y.A.〕  
「Volney in storm 太閤、利休ノ靈ヲ恐ル

「利休ノ娘、紫ノ大徳寺」

審判 野羊

限ナキ死也

淮南子曰楊朱見逵路而哭ス之、為可其可以南可以北、墨翟見練絲而泣之、為其可以黃可以黒\* 其本同而其末異

In conclusion

I should say a few words. You are all here. Most of you are students now. You are studying in the recitation together, studying the scripture together and listening our preaching together. You are mixed up together now. Some are believers and some not yet. I present you before you two things to be chosen,

the thing of the spirit or things of the world.

the service to God      the services to yourselves

Honor to God      honor to yourselves.

heaven      world and hell

Christ      Devil

all goodness      all evils can be named.

Now you are young and can choose either way.

Can you [be] 大丈夫 while you are choosing the way of evil, death, hell?

[世に口を長し]

50 「ダニエルノ夢判断」\*

王ノ前ニ立〔ツ〕前三年ノ用意

○己ヲ汚ス事ヲ忘レ王ノ飲食ヲ辞謝シ、食物ハ野菜、飲物ハ水

○神四人ニ知識學術、特別ニダニエルニハ夢判断ノ術ヲ以セリ

〔即位二年〕○ネブユカドナザ〔ル〕ノ即位二年ニ彼夢ヲ見タリシカ忽之ヲ忘レタリ、故ニ當時之博士ヲ招テ曰、我

〔六百〕○三年ノ夢ヲ知セ我夢ヲ判断スル若能ワサレハ爾等ノ身ハ寸々裁断シ、爾等ノ家ハ肥料場トナサント

〔墨・ママ〕  
「紀州ノ和歌浦」

○誰一人モ之ヲ了解スル者ナシ

○王怒之ヲ殺サント欲ス

○タニエル王ノ近衛、ノ長アリヨクニ就キ、時ヲ与ヘ賜ヘ王ノ夢ヲ語ラン事ヲ通シ、遂ニ同国ノ三人ノ者ト共ニ神ニ

乞フニ智識ヲ与ルヲ以セリ

○神其夜タニエルノ夢ニ顯レ秘密ヲ以テセリ

夢ノ意

一 金ノ頭      バビロニヤノ王朝

二 銀ノ胸臂      ミード〔メデア〕  
ペルシヤ王国

三 銅ノ腹股 マセドニヤ王国（イシプト）（シリヤ）

四 鉄ノ脛<sup>ヒキ</sup> 片手ハ鉄、片足ハ泥

羅馬王国ノ勢力ヲ得ルニ

領國中（強ハ鉄

此二分相合セス

（弱ハ泥

五 石 偶像ヲ打ツ所ノ石ハ

大山トナリ全地球ヲ満セリ

祈

信 野蕃人ノ神ハ偽

ダニエルノ神ハ真

神ヲ顛ワシ

同胞ノ幸福ヲ得ル事

此夢ノ話セシカハ

〔王タニエルノ前ニ拝臥シ爾ノ神ハ諸神中ノ神、諸王ノ主シ、且秘密ヲ示ス者也

茲ニ於テタニエルハ王ノ寵愛顧ヲ得テ多分ノ賜物ヲ受ケテ宰相ノ位ニ上リ、バビロン地方ヲ治ルノ権ヲ掌握セ  
リ、且王ニ乞<sup>〔カ〕</sup>フ□フ三人ヲ地方ノ知事〔タ〕ラシメタリ

ベルシヤ三國ノ富傑ヲ率ヒテ真神ヲ信スル

(一個人タニエルノ前ニ拝臥スルハ如何ナル事件ソ)

○ドユラ「ドラ」ノ平原ニ於テ金ノ像□六十尺巾六尺、我カ夢中ニ見シ所ノ者ニ像リシナ「ラ」ンカ

全國ノ官吏人民ヲシテ強テ之ヲ拝臥セシム

然ラサレハ之ヲ烈火ニ投セトノ命ヲ下ス

□ノ王ヨリ命セ「ラレ」テ地方ノ長官タリシ三人ハ之ヲ拝セサルヲ聞キ、之ヲ召テ其ノ前ニ至ラシム、王問テ曰ク、爾「等」ハ我ノ金像ヲ拝セハ可ナリ若シ拝セサレハ爾等ヲ火中ニ投セン、爾等ヲ我手ヨリ救フ所ノ神ハ何者ソ三人答曰、神ハ克「ク」我等ヲ火中ヲ救ヒ爾ノ手ヲヨク脱セシメン、若然ラサルモ我等爾ノ金像ヲ拝セスト

○茲ニ於テ王之ヲ烈火中ニ投ス

王四人ノ逍遙スルヲ見テ驚曰、三人ヲ縛シテ火中ニ投セシニ非ヤ、然ルニ四人火中ニアリ自在ニ遙動スルハ何ソ、其一人ハ神ノ如シ、王急火炉ノロニ來テ三人ヲ呼出セハ、三人無難ニ烈火中ニ出來レリ、頭髮衣裳依然タリ爾ノ王国ノ力ハ教ヲ与ラレテ尽キ、爾ハ量ニカケラレテ目方ナク、爾ノ領分ハ分タレテミード「メデア」、ペルシヤ人ニ与ヘラルヘシト

王即時ニタニエルニ加フルニ紫衣金銀ヲ以テセリ、然レトモ其夜ペルシヤ人市ノ水門ヨリ入來リ、遂ニ此豪慢ナルバビロン王ヲ亡セリ

○タリヨス王、(ミード人ニシテ母ハアステイアデスノ娘也)

此時タラヤス「タリヨス」王ハ州官百二十人ヲ置、國專ラ治理セシ「メ」、又更ニ三監督「ヲ」立「テ」タニエルヲ以其長トセリ

○州官等タニエルノ過失ヲ求ムレトモ之ヲ見ル能ワス、遂ニ王ニ乞ヒ一ノ命令ヲ布告シ曰ク

〔三十日間國王ヲ除ノ外人ヲ拜スル者アラハ、必ラ〔ズ〕獅子ノ洞中ニ投ス又ハヘシト、タニエル之ヲ聞キ己ノ

家ニ行キ、西方エルサレムニ向ヒタル窓ノ下ニテ日ニ三回ヒサマツキ、旧ニ依テ真神ニ祈リ且感謝セリ

彼惡者輩タニエルノ真神ヲ拜スルヲ知り、遂ニ王ニ上申シ之ヲ獅子洞ニ投シ石ヲ以テ洞口ヲ〔塞ギ〕己身ノ印〔ニテ〕封セシム、其夜王宮殿ニ歸リタレハ終夜不眠、翌朝ニ至リタニエルノ存命ヲ見テ驚キ叫テ曰ク、嗚呼神ノ僕ナルタニエルヨ、爾ノ常ニ使フル所ノ神ハ獅子ノ口ヨリ爾ヲ救ヒシヤ

彼答曰、上帝使ヲ遣シ獅子ノ口ヲ封セシメテ我ヲ害セサリキト、王タニエルヲ見テ喜ヒ遂ニ命シ曰、獅子洞ヨリ出サシメ、姦計ヲ設テタニエルヲ洞中ニ投セシ者ノ家族ヲ尽ク洞中ニ投セシカハ、未〔ダ〕其洞中ニ達セ〔ザ〕ル前獅子即ニ嚙ミ殺セリ、茲ニ於テ王国中ニ詔テ、國中ノ人民タニエルノ神ノ前ニ戰慄セヨ

ソハ彼ノ活潑之靈神ニシテ其國ハ永世不変無限ニ至ラント、彼異□土天ヨリ下リタニエルヲ獅子ヨリ免レシメタリタニエル、サイロス〔タロス〕ノ朝ニアリテ尚尊位ヲ擁スルヲ得タリト

求メ〔ヨ〕去ハ与ヘラレン 囚人ナル猶太人

〔九ノ二十四〇七十周ノ言、七十年ニ七倍、其時爾ノ人民救ヲ見ヘシ〕

〔十二ノ十三〇爾往成安然ニテ末期ノ至ルヲ待テ〕

〔王曰、爾ヲ捨身トモ王ノ命ヲ奉セヌ、彼ノ神ヲ拜テ不止故、向來此三人ノ神ヲ穢瀆ス者アラハ其体ヲサス〔身ハ切裂レ〕其之家ヲ廁トセント、蓋他ニ上帝ナキヲ顯シ遂ニ三人ヲ位ヲ進テバビロン邑ヲ治メシム〕

五百七十一、五百六十一年ノ間宮闔ノ壯〔ヲ〕觀テ傲慢ノ心ヲ生シ神ヲ忘レタリ

王ノ夢

五百三十八年

〔王ノ狂氣ニアリ畜中ニ混シテ草ヲ食ノ事ヲ告ケタリシカハ、果シテ他年王狂氣ヲ発〔シ〕人類ヲ離  
〔レテ畜中ニ入り、草ヲ食テ後再正氣ヲ得テ、真ノ神ハ正ク審判テ人間ヲ判キ□ル事ヲ証セリ〕

○ベルシヤサ〔ル〕〔ネブカ〕〔ドネサル〕ノ曾孫ナルヘシ〕

〔上欄〕

〔多ク貴美人ヲ集メテ酒宴ヲ開ケリ〕

肉ヲ以林トシ酒ヲ池ト□ノ豪<sup>オゴリ</sup>倅ヲ究メ、祖父ネブカ——ノエルサレムノ神殿ヲ掠メタル神器等ヲ以テ此酒宴ニ供シ

居リシヲ、忽チ揚タル燭台ノ向ニアル白壁ノ上ニ一本ノ手カ顯出シテ一行ノ文字ヲ写シ出セリ、王腰カヌケ足タ、

ス、顔色ハ青サメタリ、誰一人モ之ヲ○読ム者ナシ、王ノ母タニエルヲ記念シ之ヲ招カシム、タニエル曰、王ヨ爾

ハ豪慢ニシテ天軍ノ主ヲ輕侮セシヲ以主一ノ手テ之ヲ記セシメタリ

ミニ〔メネ〕 ミニ テケル ユハルシン

、教員ノ月給

生キテ〔猶太人ヲ保護シ〕

、不破ノ電信

死ンテ〔猶太人ニ

、デホレスト

〔救ヲ得ルノ望ヲ存セリ〕

我同志社ノ生徒殆百名ニ至ラントス\*

君等尽クタニエルノ如キ信ヲ抱キ、大事ニ臨〔マ〕ハ必神祈リヲ為、此蒼生ヲ救ワントセハ神豈君等ヲ助ケサランヤ、

サタン豈君等ニ抗スヘケンヤ、神ノ御国ノ我日本ニ来ル事遠カラサ〔ル〕ベシ

〔墨〕  
「夢判斷ノカハ上帝ノカヲ野蕃國中ニ顯シ、且猶太人民ノ好フノ好キ道具ナリ」

一 大事ヲ為サント欲ハ先真神ニ祈ル

一 大事ニ臨マハ真神ニ任セテ決テ疑ヲ抱カサルヘシ

一 大事ヲ忍ハサレハ上ハ天父ノ光榮ヲ顯シ下ハ同胞ノ兄弟ヲ救ワス

方今明天子上ニアリ

○浮薄□□ 偽詐

淫乱○

○無神論者ノ學術

○無神ノ民権無神ノ自由

○耆個人ヨリ社会ヲ蚕食

ス

金像ヲ立テ人民ヲ強拜セシメ、敢テセサレハ之ヲ烈火中ニ投スルノ拳ナク、且国王ヲ  
拜セサル者ハ獅洞ニ投スルノ命モ免セサレト□テ烈火ハ國中ニ蔓延シ、叫回ル大獅子  
ハ國中ニ出沒シ、殆ト我愛スル同胞ノ兄弟ノ靈魂殺尽シテ永死ニ至ラシムレハ、耆人  
出テ此等ノ風説ヲ揚ケ、学者ヲ論破シ醇樸ノ風ヲ起シテ、此人民ヲ烈火ト暴獅子ロヨ  
リ救フ者ハ出テサルヤ、耆人ノタニエル克〔タ〕バブロン国王ヲ驚怖セシメ、七十年  
間囚人ヲ保護シテ遂ニ本国ニ歸ラシメ〔タ〕リ

〔年月日等不詳〕\*

51 神ノ実験話シ

詩ノ二十七ノ十 神ノ実験話シ

父母我ヲ捨ツルトキハ主我ヲ助ヘシ

幼少ノトキ頼ムヘキハ父母ナリ、父母ニ生別アリ死別アリ

此ノ頼ムヘキモノヲ取ラレハ何ニ頼ムヘキ 天父アリ存ス

○予ハ多年同志社ノ仕事ヲ為スニハルデー氏<sup>\*</sup>ニ頼ム

氏ノ死去<sup>\*<sup>\*</sup></sup>ハ非常ノ失望ヲ来セリ、我ハ幸ニ別ニ頼ムヲ持テリ〔失望ヲ挽回セリ、今ハ返テ為ニ鼓舞セラレタリ〕

乍去此世ハ俗ニ浮世ト申テ実ニ頼ミ少キモノナリ、変遷多ク〔困難常〔三〕途ニ横ハル

人少壮ヨリ勉強シ年齢ノ弥熟スルニ至リ、一生涯ノ仕事<sup>ミシヤ</sup>モ正ニ其ノ功ヲ奏セントスルニ当テ、俄ニ疾病ニカ、リテ死

シ其事業ハ烏有ニ属スル事ハ往々世間ニ見ル所ナリ

然シ又世間ニ俗ニ云フ運ノヨキモノト申テ事々物々都合ヨク運フ、又不運ノ人ニハ一挙手一投足尽〔ク〕失敗ヲ来シ

失望ヲ招クニ至リ、災害交〔々〕至リ不幸益来リ、平素ノ親友モ変シテ尽ク敵トナル

◎四面皆楚歌ノ声

ジョーブ〔ヨブ〕ノ書、子供、家畜、家屋、財産 親友<sup>。</sup> 項羽ノ心中思見ベシ、恥辱ト失望

ジョーブノ堪忍、其ノ力ハ何ニヨリ存ス、神ヲ知り神ヲ信テ神ノ子トナリ、否神ノ友トナル、◎ポール

嶮難、失望ニ慰ヲ得ルノミナラス敢為ノ精神有為ノ元氣ヲ生ス

〔神ヲ知リ神ヲ信シテ動カサルニアリ〕

〔嶮難ニ堪忍ヲ生ジ、堪忍ハ希望ヲ生、希望ハ恥ヲ来ラセス〕

〔ポールハ如何ナル人ゾ、如何ニ豪雄ナルモ豈ニ嶮難ニ逢ヒ怖レサランヤ、⊗神我ト共ニセハ誰カ我ニ敵セン〕  
失敗ニアヒ失望セサランヤ

○ルーテルニテ豈恐怖ノ心ナランヤ

〔ウォルム〔ス〕ノ瓦ノ数ノ惡魔モ恐レス、ウォルム〔ス〕ノ會議

ルーテルノ力ハ神ニヨルニアリ

○神我カ城ナリ

○平時ニ〔ハ〕神ニヨル人モ神ニヨラ〔ヌ〕人モ格別ノ差異ハ見エス

神ニヨルノ人ハ只神ノ力ヲ求、助ヲ仰ノミナラス神ノインスピレシヨンを得テ、罪ニ死シタル人再生シ新ラシ〔キ〕  
命ヲ〔得〕新シキ仕事ヲ為スニ至ルベシ、新シキ力ヲ得ルハズナリ

○死灰又燃ユトハ此事ナリ

子鷺ノヨキ老練ノ鷺ノ声ヲ学フ

本日人間タルノ資格ヲ養生スル甚大切ナリ

〔我神、死サル神ニ就キ、其美シキ、其高キ、其清キ、御性質ヲ学得テ〕  
〔我ノ有トナスニアリ〕

ジョーセフ・コーック〔タック〕氏ノ忠告

〔鉛筆〕  
アルペン山ノ風色ヲ見誰カ悲ム  
モノアラン、心快活ナルベシ

神ノ壇前ニ臥シ神ヲ学、神ト通シ、神ノ子ト「ナリ」、神ノ友トナルハ吾人ノ真ニ為スヘキ事ナリト信ス  
○スウートジンダ

疑ヲ取除、恐ヲ取除キ、仰テ天ニ恥「ジ」ス、伏テ恥チス、顧テ己ノ良心ヲトカメス、白日青天吾神ノ子トナリ  
身ヲ神様ニ任ネ一生涯ヲ送り、死シテ万生ヲ得ルハ豈愉快ナラスヤ

天父ハ我ノ頭ノカミノ数ヲ数ヘ賜ヒ、又克ク吾人ノ涙ノ数ヲモ数ヘ賜ヘリ

基督疑ハスシテ信セヨト仰セラレタリ

〔鉛筆〕

「洗礼ヲ受タトキニ已ニ神ノ子ナリ、十年タチテモ同シキ位置ニオルヤ、人間ハ進化的ノ動物ナリ、必ラス信仰上  
新キ上ニ事業上ニモ進化ノ頭ワル、ヲ要ス」

〔年月日等不詳〕\*

52 「罪トハ何カ」

〔馬〕  
摩太第〔六〕章第〔十〕節

我等の已<sup>〔カ〕</sup>ニ罪アル者ヲ赦ス如ク我等ノ罪ヲモ赦シ賜ヘ

扱此祈禱文ヲ読ム者沢山アレトモ唯々其ヲ其儘讀過シテ、恐クハ其ニ克ク注意シテ其意味ヲ解<sup>〔スモノ〕</sup>□□□、何故如斯ク祈禱ヲ為ヤヲ穿鑿スル者ハ寡カルベシ

但シ此題ニ申ス処ハ救主耶蘇ノ其門徒ニ、彼等ノ神ニ願<sup>〔ヒ〕</sup>其罪ノ赦シヲ得ン事ヲ教ヘシ事ナリ

然シ此所ニテ己ノ罪ノ赦シヲ得ン<sup>〔ト〕</sup>スルニハ、必先ツ罪ト申ハ何ヲ指シテ罪ト申スヤ第一ニ論セサルヲ得ズ

扱罪ト申ハ他ニ非ス、乃チ神ノ命令ニ背キ、或<sup>〔ハ〕</sup>人倫ノ道ヲ乱シ、或ハ己ノ心ニ於テ濟マサル<sup>〔ト〕</sup>思フ事ヲ犯スヲ皆罪ト云テ、若シ神ノ命令モ無ク人間中ニモ一切人倫ノ道不立スハ、己ノ心中ニ於テモ犯シテ濟マズト思事モナキトキハ、罪ト申事ハ一切無キ事ナリ、故ニ人若何ソ一ツノ罪ヲ犯ン<sup>〔ト〕</sup>スルトキハ、必ラス先ツ是ハ為シテ宜キヤ或ハ惡キヤヲ考ヘサルヲ不得、然シ若惡シト心付キ其ヲ勿々止ムレハ是ハ勿論ナレトモ、惡シキト知ツ、此ヲ為ストキハ、乃チ天ノ命ニ背キ又ハ己ノ心ノ規則ヲ犯ス事ナリ

去ナガラ罪ヲ犯ス内ニ二様アリ、其一ハ内中ニ犯ス罪ナリ、其二ハ罪ノ外ニ顯ル、罪ナリ、人ヲコロシ人ノ物ヲ盜ム事はナリ、且此二様ノ罪ヲ罰スル者ニアリ、其一ハ一國ノ政府也、是乃外ニ顯ハル、罪ヲ罰スル者、其二ハ天地ノ宰主、人ノ靈魂ノ審判主、是我等ノ心ノ罪ヲ正ス者也、扱盜賊人コロシ等ノ惡業ヲ為シ手速ク其場ヲ立除クトキハ、殊

ニヨリ政府ノ巡卒ノ手ヲモ逃レ遂ニハ其罪ヲ逃レ天然の壽命ヲ得テ終ル者モアリ、乍然心中ニ犯シタル罪ハ仮令人ノ目ヲ逃ル、トモ、如何様ニ秘シ置キテ家内ノ者スラ此ヲ知ラサルトモ、己ノ心ニ於テチャント其ヲ知り居リ、如何様ニカクシタクトモ囊中の錐ハ自ラ外ニ顯ルト申シテ、心ノ中ニハ其罪益顯レ自身ニ己ノ心中ヲクルシムルニ至ル、故ニ仮令十年前ニ犯シタ罪アリトモ或人參リ其人ニ向ヒ、チヨフド其者ノ犯セシ罪ノ類ヲナントナク談シスレハ、其人暫時ニ己レの罪ヲモ逐懷シ不覺赤面スルニ至ラン、一度犯シタル罪ナレハ最早忘レタルト思ヘトモ決シテ忘ルベキ者ニアラズ、唯俗ニクサキ者ニ蓋ヲスルトカ申テ、ドノ様ニ上ヨリ蓋ヘトモ其クサミノキユル事ナキト同様ニシテ、十年タテトモ二十年タテトモ決シテ消ユル事ナク心中ニ依然トシテ存セリ、但魂ハ決シテ不死ザル者故魂ノ消ザル間其罪モ亦忘レ難シ、扱忘レ難キ者ナレハ決シテ心ニ逞〔カ〕ラズ己レノ犯シタル罪ヲ以テ己ヲクルシムル者ナリ、然シナカラ己レノ罪ニテ己ヲクルシムル者ノミナラバ、罪ヲ罪トモ思ワヌ者ハ一切平氣ニシテ、己ノ心ヲクルシムル事ハナカルベシ

扱前ニ申通、我等ノ靈魂ノ審判主ハ乃我等輩ノ造物主、在ザル所無ク能ワザル所ナク知ラザル所ナク、見ヘザル所ナキノ真ノ神ナル故、仮令我等人ノ目ヲ忍ヒ或ハ暗夜ニ惡事ヲ為スト雖、此真ノ神ノ前ニ於テハ白昼ノ如シ逐一知レザルハナシ、兎角狐狸ノ類若人ヲ見レハ己ヲ穴ノ内ニ隠クシタカル者ナレ〔ド〕モ、此ヲガラスノ箱ノ中ニ入レハ彼ドノ様ニカクサント欲レトモカクス事能ス、右同様ニシテ仮令人間一度罪ヲ神ノ前ニ犯セシ上ハ、ガラスノ内ノ狐狸ト齊ク更ニ罪ヲカクスベキ手段ナシ、故ニ罪ヲ天ニ得レハイノル所ナシト孔夫子モ申レシハ右ノ道理也、孔子ハ西洋人ノ説ク所ノ救主耶穌ノ前ニ生レ潑活々ノアラタカナル真神ヲ知ラザレトモ、天トカ云テ一ツ己ノ力ノ不及ル者ヲ取り、之ヲ敬シ之ヲ恐レテ、其ヨリ罪ヲ得ザル事ヲ計リシナラン

如此孔子ノ理屈上デ考ヘシ所ノ天トカ申通、西人信スル所ノ独一真神ハ実ニ正キ活タル神ナル故、正律ヲ以テ此人間ヲ取扱ハ当然ノ理也、故ニ罪ヲ神ニ得レハ祈ル所無ト申ニ不如、孔子ノ如ク天トカ申セハ甚アイマイニシテ、其ハ生活ナキ道理カ又ハ生活アル神カ実ニ取トムベキ所モナシ、然シ神ト申セハ活タル神ニシテ、見ル事モ出来、聞ク事モ出来、人ノ心ヲ見徴ス事モ出来キ、ナニモカモ能ワサル事ナキノ神ニシテ、甚正直真実ヲ好メル者ナリ、故人一〔タ〕ビ罪ヲ神ニ得レハ神必ラス彼ヲ罰セン、然ラハ一リンノ罪ヲ犯セハ神必ラス一リンノ罰ヲ与ヘン、二リンノ罪ヲ犯〔セバ〕神必ラス二リ〔シ〕ノ罰ヲ加ヘン、仮令イン微ノ罪ナリトモ神前ニ於テ陽顯セザルハナシ、然ラハ罪ヲ神ニ得レハ逃ルベキ道ナキニ似タリ、我儕説ク所ノ耶穌ノ妙教ヲ知ラザル者ハ唯々孔子ノ云レシ所ノ事ヲノミ取り、一〔タ〕ヒ犯シタル罪ノ贖ベキ由ナキ事ヲ信セリ、是ハ乃チ理屈上ヨリ論スル所ノ事ニシテ如此モ思フハ尤ノ事ナリ此教ノ盛ニ開ケ大ニ行ル、アメリカノ如キ国ニ於テスラ、立派ナル窮理学者〔バーカ〕孔子ノ如キ説ヲ唱ヘテ、一〔タ〕ヒ罪ヲ犯セシ上ハ必ス神ヨリ罰ヲ受ケザルヲ不得、又犯シタル罪ナラハ其罰ヲ受ベキガ当然ナリト申セシ事モアリ扱〔獄〕釈伽ノ教ニ於テ地極極楽等ヲ設ケテ説シ事ヲ、人或ハ之ヲ釈伽ノ方便トカ申ケレド、是ハ全ク如此〔獄〕様な者ヲ設ケテ人ヲ偽ルノミニ非ス、乃チ是モ亦窮理上の事ニシテ全ク方便トモ申難シ、其故未来之地極トカ申者アリテ、此世ニ悪キ事ヲ犯セシ人ハ彼ノ地極ニ於テ相当ノ罰ヲ受ル事ナラント思テアノ様ナ説ヲ説キ、世人の悪事ヲ犯サヌ様勸メシ事ナラン、彼ノ地極ニテエン魔大王アリ、又ハ其レニ使ハル、鬼ドモアリ、且審判所ノ前ニ靈鏡アリテ罪人其前ニ出ルトキニハ以前ニ犯シタル罪条尽ク其上ニ顯ル、トカ申シ、又其罪ノ次第二ヨリ相応ノ罰ヲ加ヘ、人ヲキリ殺シタル者ハ其人モキリコロサレ、人ノ家ニ火ヲ点タル者ハ火ノ車ニノセラレ、虚言ウソヲツキタル者ハ舌ヲヌカル、等の事ハ、矢張罪ヲ天ニ得レバ祈ル所ナシト孔子ノ申レシ通り、是非々々罪人ハ其罰ヲ蒙ラネバナラヌ者ナリ

去ナガラ此眞の神の教ニハ、最早古キ所ヨリイスラエルの人民羊ナドヲ殺シ己ノ罪ヲ贖ヒシ事アリ、且我等ノ教主エソノ降誕後此祈禱ヲ其門弟ニ御教被成テ、仮令一度罪ヲ天ニ得ルトモ祈ル処アリト云ヲ此世ニ知レ賜ヘリ

孔子ノ道デハ祈ル処ナクト云、エソノ教ニハ祈ル処アリト申シテ実ニ大ナル相違ナリ

扱祈ル所アリト申証拠ヲ立テ見マスレハ決シテ無キトハ申サレヌ者ナリ、エソの如キハ実ニウソト偽リノ無人ニシテ、若シ祈リテモ聞ク神ナキトキハ決シテ如斯〔補〕「コノ様」なる祈ハ教ヘザルベシ、然ラハ孔子ノ教ニテ無キト定マリ「シ」者モ、此尊キエソノ教起リテ我等今日慥ニ祈ル処アル事ヲ知レリ、然シナカラ祈ルナリトテ無ヤミニ祈禱ヲノミ為シテ、己ノ行等ヲ改ムルヲ不計トキハ、神モ亦ソノ様ナル願ハ決「テ」聞カザルベシ

〔年月日等不詳〕

53 〔天国ハ芥子ノ種ノ如シ〕

基督曰天国ハ芥子ノ種ノ如シト、一粒ノ芥子種ノ如キ者〔種〕「微々タル」、猶太ノ一小国ニ播カレ、一粒千粒万粒ヲ生シ今日ニ至リ、遂ニ全世界ニ蔓延スルハ何等ノ現象ゾ

又曰天国ハパン種ノ如シ膨張力ノ甚シキ者、基督三年間猶太ニ此道ヲ説カル、其国人之ヲ十字架ニ殺ス、其門徒ハ多ク不学ノ人ナリシカ、基督ノ死後此道ヲ説テ之ヲ牢獄ニ入ルモ不止、之ヲ殺スモ敢テ不恐、学者輩之ヲ攻撃スルトモ更ニ頓着セス、艱難苦辛モ彼等ノ精神ヲ屈スル能ワス、其門徒ボール迫害ニ逢ハ、退カスシテ弥進ミ弥弘布ス

○學術ノ盛ナルアテンス〔アテネ〕ニ行——人ノ之ヲ止ル能ワス

○ローマニ行——人之ヲ禁スル能ワス

○三百年ノトキニ一万人、十四万人、七十万人

羅馬帝コンスタンティン〔コンスタンティヌス〕帝 ○之ヲ国教トナス

○八百年ノ比ヨリ羅馬ノ法王權威ヲ專ニス

○千年

○千二百、百年ノ比、十字軍

○千三百〔年〕ノ比、英國ウイクリフ

千四百年 ジョン・ホス ジ〔エ〕 ローム 焼キ殺サル

○ 千五百年 独乙国ルーサル〔ルター〕 大革命

グウテンボルク活字版発明ス

米国ノ発明

△ 千六百年 ピ〔ユ〕ーリタン 米国ニ来ル

スパニヤトノ戦争

オランダニ大革命アリ ○ズウイングル〔ツヴィングリ〕

○カルウン〔カルヴァン〕

○ザウイヨリ〔ザビエル〕宣教師

千七百年 米国ノ独立宣師〔言〕

千八百年ノ印度国

、マダガスカル

、支那

、サンドウチ島 南洋群島

日本〔医学、砲術、海陸軍制、機械、法律、人權、自由、道德、活字版、人力、汽車、汽船、電信

○政府 外国ニ出テ宗教ノヨキ事ヲ知り之ヲ默許ス

之ヲ法律ノ下ニ置カス自由ノ客分トナス

四五千人

聖書ノ売レル事

一万人

〔僧侶之ヲ防カントシテ之ヲ広告ス

同志社ノ演説ノトキニ僧侶之ヲ妨ケテ、学者之ヲ妨ケテ〔却ッテ〕基督教ヲ広ム

九州地方ノ本山ノ汽車、<sup>〔ママ〕</sup>之ヲ駭スル人敗ヲトル

〔年月日等不詳〕

〔ペン〕

上帝論

〔十編〕  
「Math 22d : 35-38」

馬太伝二十二章三十五節より三十八節を読み、是を題と為し上帝を論すべし

耶蘇彼にいひけるハ、汝宜しく心を尽し精神を尽し智慧を尽し汝の神なる主を愛すべし、是は第一にしておほひなる誠なり

〔以下鉛筆〕

万物のあらざる先、全智全能の神存在せり、限りなく、量なく、始なく、終なく、純一、無比、他物の助によらずし而自足、他物の栄をからずし而自〔ら〕栄へ、有らざる所もなく、能わざる所なく、知らざる所なくごさりしか、或る時ふつと物を造り始めしかとも、人間の如く手足の力によりて之を作りしにあらず、偏に全能の神なる故己の意の如く己の意に随ひて万物造成セリ、扱万物を造を受けしより千變万化窮な<sup>(2)</sup>か〔り〕しが神ニ於而一切變化なく、時移れ共神時と移らず、物に始あり亦終あれ共、神に終始なく万物を形造りて万物と団体ならず、全世界の万物〔万有<sup>(補)</sup>〕を包蔵し而、全世界の内に包まれず、人間の目にて見へすし而無か如くなれ共所とし而あらざる所なく、人の手に触ざれ共所とし而存せざるはなし、形なき故命なきに似たれ共、実に万生の源にし而、猶木に根あり川に源あるか如く、万

物尽神によりて其造を受けざるハなし、若し世界中此神なき時は猶根なくし而木の生せず、源なくし而川の流れざるか如し、然ハ乃ち此独一真神ハ発活々たる神にし而、支那古聖賢の称する所の上帝又造物主たる天と云ふ物にあらす、又理にもあらず、天と申せば何にかあいまいにし而、人間を造りし者哉又ハ人間を支配する者哉一切因る所なく、又理と申ても死物にし而算用の理を以論れば二々が四も理なれ共、是は決し而見る事も出来かたく聞事も叶す人の心を察する事もならず、実に理屈故支那へ行ても天竺へ行キても変せざれど、其中に命ありて自ら工風し万物を造りし物にあらざる事甚察明なり、然らハ世界に活たる神ありて万物を造りし事も又明らかなり、然しな〔ガ〕ら微々たる人間の力と人間の智慧を以て全能全智の神を知らんと計るは、猶少き蠟火を以全世界を照さんと計り、又は弱き弓矢を以千里外のマトフをいらんと計るか如く其の不能事ハ決定なり、然らば如何して此至大至広至妙至霊、言語を以て形容すへからざるの神を知らん也

但旧新約書の外他に其神を知るべきよしなし、古来神とか申して色々と説を立たる者あれ共、多くハ誤て偶像を模作し此を拝するニ至れり、又は人間より推量して人間同様な神を作り、甚しきに至てハ死たる人間を神と為し、其にひざまつき色々願ひを立つるニ至れり

夫日本人の神を作りし初めしも外にはあるまし、天に向ふ日の登るを見、又は日の光りにより地上の万物見へ、空中に飛ぶ鳥も見へ、空中に飛ぶ雲を見、雲外に顕るゝ虹を見、日の暖気により草木葉を生し実を結び、且其暖気により己もこゝへす斯も色々の徳あるにより、且其の己に勝れるを知り之を尊ひ神となし天照御神と申して、又は雨の降り雨の徳により草木の茂るを見、其雨を降らせる事は人力ニ而叶難きを見、何レ或る神ありて雨を降らせ賜ふ事を思ひ之を尊ひて雨の神と称し、風の東西南北に吹くを見之も亦人力に自由にならざるを見、或る神ありて之を支配せるな

らんと思ひ其神を尊ひて風神と云、或は雷の空中に鳴るを聞き其声の甚恐ろしきにより、之を想像して甚奇体なる人間にも似又鬼にも似たる神を作り、之を雷の神とか申通り、皆尽く日の照り雨の降り風の吹き、雷の鳴る等は全ク人力の不及を以て皆或る神の爲す作事ツクワツと思ひ、別々ニ其物を支配する神を作りたり、然しなから斯くも別々に神ありて日を司り雨を司り風を司り雷を司る等の者ありとせば、近來西洋ニ而大に開け行わる所の窮理學を以て此を推論する時には甚大なる不都合を生せん、今少し此所にて其不都合なる事を論せん

或る人の説の通り日の神ありて世界の万物を照らすと云共、日は一切神にあらず我輩の住居所の地球と同物にして、獨一真神より造を受たる一星にし而、唯地球と異なる所は地球は光を不生、日ハ光を与ふるノミニ而、矢張空中ニ懸たる一個光球にし而光りも生し暖氣をも生すれ共、決し而神とすへき者ニあらず、若し人日の光により物を見、日の暖氣により草木茂生するを以て之を拝み尊ふの志あるは実に尤の事なれど、日より大なる神ありて日を作り世界の万物を造し故、若し人日を拝みたき心あらば宜しく其日を作りたる神を拝むべし、然し若し日を一の尊き神とし而論んずれば、風の所々に吹くも雨の時に随ひ降るも草木の春に向に生するも雷電の夏ニ及んで鳴るも、多分日のなす業事ニ而、若し日の神ありて太陽空中燿くとすれば、雨水の降るは別に雨神ありて之を降らすに非ず、是乃チ太陽水の上に照る時は其暖氣によりて水分子蒸発氣となり空中に登り、暫暫寒き空氣に遇ひ凝結せり、凝結せし上は地球の引力にひかれ地上に下る、人之を名て雨と云ふ、故に雨の地上に下るは雨の神ありて之を起降すにあらず、乃太陽の温氣の然らしむる所なり、然らば雨の神のなき事甚明なり、風の神に於而も然り、風と申者ハ空中に流動せる空氣を風と稱せしは、本其空中に動くは此を司る神ありて其を起すにあらず、太陽の暖氣ニ感して一方のふくれるときにハ、其ふくれすぎたる場を満す為に外よりヤ、こき空氣其所に趣き、其平均を得ん為なり、然らハ別ニ風の神なくして風の吹

く事の出来るハ当然之理也、故に風の神のなき事ハ明也、扱外ニ沢山神あれ共、其雨の神と風の神とを取りて論すれば決し而彼等ハ神にあらず、多分太陽の温氣と空中の氣と空中の水分にて出来る者なり、且太陽の温氣其上に動きて出来たる者なる故、太陽は風よりも雨よりも何かあり難き者に似たり、然し日の暖みニよりて物の生を見、之を拝て其太陽を作りたる神を拝まざるハ、尚或る子供の自己を暖める衣裳に向ひ礼を云ふて、其衣裳を作りたる母に礼を云さるが如し、彼衣裳ハ死物にして如何様に礼を申せ共、衣裳ハ之を不知ハ三尺の童子も其理を知りて、自分の母により奇麗なる衣裳を賜へれば其衣裳に向ひ礼を不申、其衣を作りたる母に礼を申也、如何んして我國に於而太陽を拝みて其太陽を作りたる神を拝まざるは、今日迄国人其神あるを知らざるニよるなり、扱其神を不知は神の人の目に見へざるニよるなり

〔以下ヘン〕

若し目に見へざるにより神ハ無き者とすれば、人魂ハ人の目に見へされは此も亦無き者哉、人靈魂ありて今日生活あり目を以て見、鼻を以嗅き口を〔以〕食ひ耳を以て聞き手を以て動き足を以て歩み、心に於而喜怒哀樂を生し人倫あるを知り、遂に父子の結〔親〕、夫婦の別、君臣の義、朋友の信、長幼の序等を立る事出来たり、故に靈魂ハ見へざる故決し而無き者とするハ甚愚なり、向ふ不<sub>レ</sub>見の論なり、扱靈魂ハ不<sub>レ</sub>見共人の身体の動くを見て其靈魂あるを知る如く、全世界中万物の造を受け月の地球を繞り月を為し地〔球〕の太陽を繞り年を為如く、百万々里外の諸星に至る迄動ひて其周圍トオリミチを不<sub>レ</sub>乱ハは一斯の太主宰有りて之を統轄するならん、尚是靈魂の手足を自由に動かすが如く、一の主宰ありて此全世界の星辰も各其所を得也、若し一日此世界ニ主宰なきトキハ尚人の身体に靈魂無くし而血脉の流動止り手足の運動も亦隨て止むが如く、日月星辰各其所を失ふに至らん、然らバ此世に於而目に見へされ共有る者あり、風の

如きハ目に見へされ共其声を聞き、又ハ塵芥の立つを見て人風の吹く事を知れり、然し若し空中声あるを聞、且塵芥の立を見而一切風なしと云ふハ誰ニても承知せざるべし、然ハ今日月の地球を繞り地の太陽を繞る等を見、此太陽太陽地球等を主宰する神なしと云モ亦甚不理屈なる議論也、是末を知て其本を知らず、草木の枝葉あるを知り其根なしと云ひ、川の流るゝを見て其源あるを知らざるか如し、実ニなげかわしき事也、然し唯人間の知恵ノミテ理屈を以て此限なき神を知り量らんと欲せば、一燭火を以て全世界を照さんと計るの憂を免れざるか如く、其光りの乏しくし而遠方の物見へざるにより遠方ニ物なしと云ひ、又唯物あるを見、其造主の見へざるにより天地の万物ハ偶然と出来しなどの説を立自ラ誤るに至る、故に聖書ニよらされば如何して此真神を知り得んや

聖書ニ依而ハ神ハ乃靈也、愛也、光也、求むへからず、見るべからず、量るへからず、初もなく終りもなく、死すへからず、変すへからず、所とし而あらざるハなく、事とし而知らざるハなし、物とハ能わざるハなく至恩、至大、至広、至て美、至善、至而聖、至而正く、至而義、至直、至信、有とも無が如く、無き如にし而有り、遠く而又近にあり、近にありて又百万々里の外にあり、前にあると思へハ後へあり、敵ニし而近く「べ」からず、又親ニし而なるへからず、其徳尽く備りて其榮外ニ顯れ、其愛中に満ち而、其恩外にあふる、善を好み惡を惡み、公に賞し公ニ罰し、人の靈魂をし而各其所を得しめ、惡人を永ニ罰極し、義人ヲ賞し永世安樂國に至り樂しましむ、且此世の罪人を憐みてイエストクト「キリスト」を此世に下し、誰に拘らす其名を信し先非を改悔する者ハ其罪を赦して全ク罪なき者の如くし、此をし而神の樂境ニ進ましむ

但し右等の事ハ尽く聖書中揭示せるニより、人若し聖書ニよらされば如此至妙の教を知る事を得ん也、聖書ニ曰、汝心を尽し精神を尽し智恵を尽し汝の神なる主を愛すへしと、是は耶ソの人間の守るへき誠ハなにそやと問しものに答

へし言葉にして、実ニ是ハ人間の第一ニ守るべき誠なるへし、今吾輩君の恩を蒙りて其君を尊み、父母の恩を蒙りて父母を愛し、他人の恵を受其者を感じ服する者は人情の然らしむる所、然し神ハ世界を造り我等求むる所の食物衣類等に成るべき物を賜ひ、我等をし而今日安全ニ生活せしむるハ全く神の恩と申者にて、我等に禄を賜ふ主人、我等を養育する父母、我等を恵みたる恩人ハ、神と我等の間に立つて神の賜ふ物を取次きて我等に賜ふ也、故に主人の恩を謝すれば宜第一に主人より大切なる神に謝し、然後主人に謝すへし、父母の恩を謝〔せ〕んと欲せば必ら〔ず〕先父母より有難き父母の父なる神に謝し、然る後父母に謝すべし、恩人の恩に感して之に謝せんと欲せば先恩人の恩主なる神に謝し、然る後恩人に謝すべし

〔カ〕

今マ人一度主人の主、父母の父、恩人の恩主を知りし故其恩徳を謝せば謝するに所を得たと申へし、人若し此真神を知し上ハ自ら志も立行ひも改まり、遂にハ君にも忠を尽事も出来、親に孝を尽く〔す〕も出来、恩人に其恩返しを為す事も叶ワん、然らば人間として是非とも人間を造たる一神を拝ますんばあるへからず、然し此題にハ汝心を尽し精神を尽し智慧を尽し汝の主なる神を愛すへし〔と〕申せり、左すれハ唯拝むよりも其神を愛する事が却而大切な事なるべし、人若し心一杯魂一杯智慧一杯で此神を愛したならバ、随而此神を敬て尊ひ之を拝むに至らん、若し人此神を愛する心を生し、此神に忠を尽し、此神に孝を尽し此神の恩に感服し信を尽さんと計れハ、是れ大忠大孝大信と申て、人間ニ於而此大〔な〕る勤さへ出来たなら、君に忠を尽し父母に孝、朋友に信を尽す等ハ甚容易なるべし、然ハ人間とし而此神を愛するハ教中の大なる誠ニし而、我等此教を奉する者此教を聞く者等、心を尽し精神を尽し智慧を尽し而此神を愛せずんバあるへからず

# 55 暫時休ムベシ

馬可ノ六章三十、三十一 [歌] 二十七、六十五、四十二

○<sup>〔暫〕</sup>漸時休ムベシ 馬可 [六、七—十三]

[六、三十、三十一]

十二門徒ニ伝道ヲ命ス

歸リ来レハ漸時休息ヲ命ス

衆人来レハ食物ナキトキニ食物ヲ与ヘリ

今回初メテ克ク休息ノ必要ナルヲ曉リ得タリ、依テ本日ハ休息ヲ主意トス

予ハ兼テ平常モ又説教ヲ為ス毎ニモ自身ヲ主ノ兵丁ト思ヒ戦ヒ、主ノ御国ヲ人々ノ心ノ内ニ広張センヲ望ミ<sup>〔補〕</sup>「道ノ為」、此カ為ニ祈リ此レカ為ニ動キ、仮令亦休息スル間モ亦働キ亦戦フ為ニ休ムト思ヒ○休ムト云フ事ハ全体好マヌ事ナレトモ、多年脳病モヤミ、力ノ及ハサルヲ歎スル幾回ソヤ

◎天地創造ノ後上帝第七日ニ休メリトアリ

主基督カ十二門徒ヲ遣セシトキモ彼等疲レセハ休メト命セラレタリ○去レハ休息ハ横着ト同一視〔ス〕ヘキカ否、<sup>〔朱点・以下同〕</sup>休息ハ働クカ為カ、<sup>〔朱点・以下同〕</sup>蠅尺ノ屈スルハ伸ビント欲スルカ為也、

世ノ大事ヲ為スモノハコン気家ナルベシ、コン気ハ休息ニヨリ得ベシ、克ク休ミ得ルモノハ克ク大事ヲ為スヘシ○

安息日ニ克ク休ムノ書生ハ學業達セリト

主ハ船中大風之起シトキ靜ニ居眠レリ、或ル昔ノ指令官ハ戰爭中彈丸雨ノ如飛間ニ立ナカラ眠レリト、医者ハ馬ニ任セテ往キ病家ノ前ニ至〔マデ〕ハ居眠ルト

ゲッセメネノ園ニテペテロ等眠レリ、精神好ムモ肉弱シ

今回ノリワイウル〔リバイバル〕\*

リワイウルノ尤モ起リ難キ所ニ発ス

不時ニ発セシ春風ノ如シ、百花漸時ニ開クガ如シ

然シコースアリ

祈禱

其ノ Effect 殊ニ甚シ、青年血氣ノ然ラシムル所、我東洋人ノ性質ニモヨル

◎一年二年生 救ノ道ヲ了解ス、十字架ノ価モ知

〔五年モカ、リ人ノ心ヲトカシ得サルニ、三四日間ニ之ヲ働カセリ、尋常一樣ノ事ニアラス

烈火ノ如キ破竹ノ勢ヲ以進ムニヨリ寢食ヲ忘ル、一方ニ竭ク〔シ〕一方ヲ忘ル 一方ニ竭ス位ニアラサレハ今回ノ結果ハ見サルベシ（神學生ノ為、五年生ノ為）

徵兵令ノ為大ニ心ノ靜カナラサルトキ

好時節

〔己レト戰ヒ慾ト戰ヒ主ノ版圖ヲ広張セリ〕〔宋〕呂宋ノ一大□皮

之ヲ守ルノ手順、〔智識、道理、審判力〕

肉ヲ養ヒ〔未題〕休息

精神一到ト云トモ

歴史 漢ノ天下。

剛勇ナル樊噲カ戦ニ巧ナル韓信カ 陳平、蕭何、〔並〕 〇良、

〔ソ、クレ、テ、ス、ノ、殿戦スルニ克ク左右ヲ見テ防ケリト 落付ベシ

書生ニシテ見レハ学問ハ必用

学問ハイラヌ〇人力ハイラヌ〇工風ハイラヌ〇神ノ助ニテ行ク事ヲ学ヒタリ、是ニヨリイツカ人間カ己ヲ用ヒユダシシテ遂ニ破ヲ取ル。勝テ而後甲ノ紐ヲ結フトハ此時ナリ、東京リワイワルノ時予ハ基督教主義ノ学校ノ必用ヲ証セリ、又爾来大学設立ヲ望ム一方ニ往クヲ好シトセサルナリ

## 用意

主ハ三十三年〇ポールハ三年間（ガラタ「ガラテヤ」ノ一ノ十八）

〔非常ノ働キヲ要シ非常ノ準備ヲ為セリ〕

用意ト云テ只々読書ニアラス、静ニ心ヲ養フナリ、又克ク静ニ聖書ニ付一々其証ヲ得ルニアリ

使徒行伝ノ初メニペテロ勢力アリ、書翰ニハ練達

〔朱線・以下同〕

又ポール コリント前十四ノ二十六、三十二

エペソ四ノ十三、十六、二十七

ペテロ後ノ一ノ三十一、二十、二十一

刀ハ已ニ出来タリ、之ヲキタフベシ

〔老練家ト相談スベシ。実験談ヲ為スヘシ〕

〔静ニ祈ルベシ、静ニ觀察スベシ〕

此春風ヲ一吹ニ去ラシム勿レ

此花ヲシテ一時ニ無益ニ属セシ〔ム〕ル勿レ

勝ハ難キニアラス守ハ難シ

維新ハ易シ、国会後ハ難シ、政事ニ維新、宗教上ニ維新

己レノ学業ヲ去テ伝道ニ出カクルハ得策ニアラス

〔学校テ早く疲れ、工風

聖書ニ熟スル事

〔年月日等不詳〕\*

56 「康強ナル者ハ医者ノ助ケヲ求メズ」

路可五章ノ三十一「一二」

○康強（スロヤカ）ナル者ハ医者ノ助ケヲ求メス、唯病アル者之ヲ求ム

我正シキ人ヲ招ク為来ルニアラス、唯罪アル人ヲ悔改サセン為也

平生来テ予ヲ尋ネ、耶蘇教ノ何タルヲ問ワル、諸彦ハ、該教ノ大主意ハ何ノ点ニアルヤト云レマス、故ニ今日此場ニ御来臨ノ諸彦中ニモ、必ラス其大主意ハ如何ソト御尋ノ御方アルベケレハ、予ハ基督ノ言葉ヲ引キ其大主意ヲ御談申サン

○却説基督教ノ大主意ハ乃チ此ノ世ノ人類中罪ト云病氣カ起リ、人々其ノ病ニ感染シ漸々人間ノ本位ヲ失ヒ、遂ニ禽獸世界ニオチイリタルヲ在天ノ上帝深ク憐ミ賜ヒ、救世主耶蘇基督ヲ此世ニ遣シ、我輩人類ノ罪ト云甚憎ムヘキ大患病ヲ癒シ、之ヲ救ヒ之ヲ康強ノ者トナシ、之ヲ正シキ人トナシ、人間ノ本位ニ復サシメ、人間タルノ道ヲ行シメ、常ニ無形ノ神ト共ニ交リ無限無（カ）□ノ神ト共「ニ」樂マシメントノ深キ御主意ニアリマシテ、基督ノ此世ニ降サレマシタハ罪アル者ヲ悔改メサレ、人間ノ本位ニ復セシメン為也

第一 罪アル者トハ何ノ意ソ

罪アル者トハ、アナガチ人ヲ殺シ竊盜シ姦通スル等ノ外形ニ顯ル、モノノミヲ罪トハ申「シ」マセヌ、縱令少シモ外形ニ発セストモ、人若シ此等ノ惡念ヲ心中ニ起シ之ヲ養ヒ時時又之ヲ行ワント思ヒ居レハ、乃無形ノ神ノ前ニ於

テ已ハ既ニ罪ヲ犯セル罪人タルベシ、若シ之ヲ譬テ申セハ茲「三」一人男子アリマシテ、或人ノ所持セル金ノ時計ヲ見テ之ヲホシク思ヒ、何時カスキヲ得タナラ之ヲ盜テ呉レ「ル」ヘシト思立、其盜賊心ヲ改メス不絶心ニ抱藏シ居レハ、縱令其時計ヲ盜ミ取ラズトモ其心ハ已ニ盜メル者也、心ハ已ニ罪ヲ犯セル也△

予ハ昔日基督教ヲ聞カヌトキニハ心ノ罪ト云事ハ更ニ了知セス、人ニ知レス又人ノ目ニ触レヌ罪ヲ犯シナカラモ、随分正シキ者也ト大ニウノホレ心ヲ抱キ平氣テ居リマシタカ、此教ヲ聞キ之ヲ信シテヨリ以來真理ノ光予ノ良心ヲ照ラシ、真理ノ力予ノ良心ノ眠ヲ覺マシ

△扱罪ハ、人間ノ情慾ヨリ発スル者ナレハ、至聖至賢ノ人物ハ道德心ヲ以テ幾分カ此情慾ヲ御シ、決テ之ヲシテ放侈ナラサラシムレトモ、先ツ通常ノ人ニ多クハ此道德心ニ乏シキヲ以テ、其情慾ヲシテ非通ノ勢力ヲ得セシメ、何事ニ臨テモ其情慾先導シ跋扈シ、此貴重ナル人間ノ靈魂ヲシテ遂ニ情慾ノ奴隸トナラシメ、宇宙ノ造物者無形ノ真神ト共ニ交リ共ニ樂ムヘキ靈魂ヲシテ、幽暗世界、罪惡、娼婆ニ迷シメ、人間不幸ノ大不幸ニオチイラシメシハ今日初マリシ事ニ非ラス、此世ニ人間ノ出来ルヤ否「ヤ」罪モ亦随テ出来、史乘ニ載スル所、何ノ国トシ何ノ時代トシテ此罪惡ヨリ脱スル能ス、或ハ人ヲ殺シ或ハ兄弟ヲ殺シ或ハ親ヲ殺シ、或ハ君ヲ弑シスル等ノ輩続々輩出シテ、世ノ歴史ハ人間ノ流血ヲ以テ記サレタリト云トモ決シテ過言ニアラサルヘシ、彼ノ殷ノ紂王、羅馬ノニロ帝ノ如キ史上ニ随分著シキ者也

○又罪ノ依テ生スル人間ノ情慾ノ勢力ハ実ニオソロシキ者ニシテ、火ニモ入ルヘシ水ニモ入ルヘシ、自己良心ノ光ヲモ搏滅シ聖賢ノ教ヲモ擯却シ、妻親子兄弟朋友ノ諫言ヲモ拒絶シ、天下ノ法律モ恐怖セス、克ク堪ヘ克ク忍ミ飽マテモ己ノ慾心ヲ逞セントスル者也

孔子ノ世ニ容レラレス、時ニ遇ワサルヲ歎息サレ、乗捨テ海ニ泛ハレ、又鳳凰<sup>(鳥)</sup>不至、河不出図、予止哉<sup>\*</sup>ト云レシハ當時聖人ノ大道行レサリシヲ見ルニ足り、釈迦カ因果輪回<sup>(廻)</sup>等ノ説ヲ吐レシハ、當時印度人ノ罪惡ニ沈溺セシヲ以之ヲ悔改セシメン為法弁ヲ設ケラレ<sup>(シ)</sup>ヲ察スルニ足、ソク<sup>(ラ)</sup>テース氏カアテン<sup>(ネ)</sup>街上喋々道德ヲ説カレシモ、遂ニアテン人ノ為ニ訴ヘラレ断然毒ヲ飲テ果テラレシハ、當時アテン人ノ道德ヲ重セサルヲ知ルニ足り、耶蘇基督カ猶太國ニ生レ真神ノ道ヲ説カレ、猶太人ヲ罪惡ヨリ救ハント計ラレシモ、猶太人ハ却テ之ヲ擯ケ之ヲ十字架ニ磔死セシメシハ、當時猶太人ノ罪惡ノ甚シキヲ視ルニ足ル

之ニヨリ之ヲ見レハ、何ノ國ヲ不論何ノ時代ヲ不論、罪惡ト云病ガ人間ノ心ニ感染シ人間ヲ不幸ノ大患人トナラシメシハ、絶世ノ英雄ト称セラル、彼ノアレキサンドル、シーザ、ジンギスカン、ナポレオン、我豐太閤ノ如キモ皆此病ニ感染シ、情慾ニ支配サレ罪ニ死シナラン○然ラハ何人カ克己ノ情慾己ノ罪ニ勝チ得ル者ゾ、又何人ガ克己<sup>(ク)</sup>心ノ病ヲ癒シ罪人ヲ悔改シウル者ゾ

〔上欄末〕  
予ハ世ニ勝テリトアリ

孔子カ克<sup>(ク)</sup>人心ノ病ヲ癒シマシタカ、釈迦カ克<sup>(ク)</sup>之ヲ癒<sup>(シ)</sup>マシタカ、ナル程随分アリマシヨウ、然シ少シク懸念ニ存シマスル、今日儒道釈教カ如何ナル勢力ヲ世界ニ顯シマスルヤ、予ニ於テ未タ著シキ結果ヲ見得サル也、敢之ナキト断言スルニアラス、耶蘇基督ハ罪アル人ヲ悔改セシメン為ニ来レリト云々通り、此世ニ降リシ以来、耶蘇基督ニ就キ基督ヲ信シ往々罪ヲ悔改心ノ病ヲ癒サレ、更ニ以前ト方向ヲカヘ、先ニハ喜テ惡ヲナセシ者モ今ハ喜テ善ヲ為ス者トナリ、前ニハ飲酒放蕩糞ニ治スヘキ様モナキ人物カコロリト替リ、今ハ品行端正ノ君子トナリ、且自身一己ヲ改良セシニ止マラス又人ヲモ改良サセント計リ、布テ社会ヲ改新セシメント図リ、己ノ身ヲ抛チ己ノ

財ヲ散シ、夜以日ニ繼キ社会ノ改良ヲ計リシ者ハ基督降世以來続々輩出シテ、彼等ノ美麗ナル所業、働等ハ耶蘇教ヲ奉スル諸国ニ昭々乎ト暉キ、実ニ永ク日月ト光ヲ争ヘリ

〔上欄〕  
「欧州、アフリカ、アシヤナリ基督教ノ至ル所大變革アリ」

彼等ハ唯学テ賢人君子、愛国者、忠臣孝子トナレリヤ、不レ然基督教ヲ信シテ己ノ心ヲ癒サレ、初メテ人間ノ品位如何ナルカヲ発見シ、憤發興起シ己ノ本務ヲ尽ス事ヲ勉メシ者也、彼ノ伝教ニ熱心ナルポールノ如キ○彼ノ信仰ニ富オウゴスチンノ如キ○プロテスタント巨魁タルローサノ如キ○歐洲ノ牢獄ヲ改革セシジョン・ハオルドノ如キ○黒奴売買禁止ノ説ヲ吐露セシウィ「ル」バホースノ如キ○四百万ヨノ黒奴ニ自由ヲ与エシリンコルンノ如キ○民権自由主義ナル當時英国宰相グラッドストーンノ如キ○皆是レ熱慮焦心社会ノ改良ヲ計リシ基督教信徒也

〔上欄末〕  
「安息日校」

扱前上ニ掲ケシ人物ノ所業ハ甚鴻大ニシテ世人之ヲ賞歎セサル者ハナカルヘシ、彼等ノ此位置ニ進ミ此ノ事業ヲ為サレシハ他ナシ、耶蘇基督ノ大能力ニヨリ幾分カ己ノ心ノ病ヲ癒「シ」タ以上ハ、同胞兄弟ニモ基督ノ大能力ト其恵トヲ蒙ラシメ、共ニ人間ノ本位ニ戻リ、共ニ神ノ恵ヲ蒙ラント望メル外他ニ存意ハナカルベシ○且前米国大統領ヘイス、當時ノ大統領ガーフィールドノ如キ、皆謙遜実着ノ基督教信徒ニゴザル（札幌ノ農学校クラーク氏）  
ゴーフノ酒ヲ止ル事

○英国女王ノバイブル

○独乙皇帝ノ大使ニ向ヒ云レシ事

一人悔改ヨリ随テ亦改良ヲ生シ、一己人ノ改良ヨリ遂ニ社会ノ改良ヲ与ヘ、今日欧米ノ文明ヲ組織スルニ至リシハ

全ク基督教ノカト云サルヲ不得、基督曰良樹ハ良果ニヨリ知ルト、宗教ノ善惡ヲ論スルハ暇ツブシノ事ナレハ、何ノ宗教カ尤人間ノ益ヲナスカヲ見ルニハ、目ヲ開キテ其社会ニ及ホセシ影響ト勢力如何ヲ見ルニアリ

④米國ニアルアーモスト大学校ノ校長シーレ「J・H・シーリー」氏曰、基督教ハ社会ノ命ナリ、人若誤テ之ヲ社会ヨリ取除ケハ乃社会ノ命ヲ取除クナリ、社会ハ随テ死シ其進歩改良ハ止ムヘシ

予モ亦茲ニ解スル所アリ、基督教ハ乃チ社会ヲ病ヨリ癒シ、之ヲ救ヒ之ヲ康強ニナシ、之ニ活潑ノ精神ヲ与ヘ、之ヲシテ進歩セシムル者ナリト確信ス○昔ヨリ多ノ不信徒出テ基督教ヲソシル者カ沢山アレトモ、大ナル火勢ノ中ニ釣ベ一杯ノ水ヲカケルノ類ニシテ、火勢ハ益勢力ヲ得ルニ至リ、彼ノウォルネー、ウォルター「ヴォルテール」ヤ、道理ノ世ト題セル書ヲ顯セ「シ」トーマス・ペインノ如キ、大ニ基督教ヲ搏撃セシモ何ノ結果モナク何ノ功能モ見

エス、彼ノ所業言語ハ彼等ノ名ト共ニ消滅ス○ミル氏カ自由ノ理ト「題セル」書ヲ顯シ、之ニヨリ基督教ハ打ケスベ

シト思ヒシモ、英國ニ於テ其書ヲ讀ミタル者多クハ基督教信徒ニアリテ、基督教ニハ少シモ損害ヲ受ケサリシ、基督教ハ他教ト異ナリ至ル所搏撃ヲウケ迫害ヲ蒙リ水火ノ難ニオチイルモ、基督教ハ決シテ死セス、之ヲ打テハ益固ク、之ヲ斬レハ益加増ス

〔上欄末〕  
「向見スノ狂人トハ異ナリ」

何ノ人民モ何ノ政府モ之ヲ拒絶禁止シ能ワサル事ハ又史上ニ歴々見ルヘシ、是何故ゾ、此教ハ乃人間ノ心ヲ造レル□ノ造物者ノ話、人間ノ心ニ適「シ」人間ノ心ノ病ヲ癒ス良薬ニシテ、耶穌基督ハ乃之ヲ癒スヘキ大能力ヲ具有セル良医也、此良医此良薬克「ク」欧州ノ人心ヲ癒シ、阿弗利加ニ至レハ阿弗利加人ノ心ヲ癒、印度支那ニ来レハ克「ク」印度支那人ノ心ヲ癒シ、日本ニ至レハ又我輩日本人ノ心ヲ癒シ、予ノ如キ無学無知ノ者不肖ヲ不顧断然ト諸

彦之前ニ立チ、此良医良藥ニ就テ証拠ヲ立ツルハ実ニ不思議ノ事ナルヘシ

基督予ノ心ノ病ヲ幾分カ癒シ賜ヒタレハ、満場ノ聴衆中ニ若シ病アル者之ニ就キ賜ヒ<sup>〔カ〕</sup>シモ益其幸福多カルヘシト思、

此耶蘇基督克<sup>〔ク〕</sup>君等ノ心ノ病ヲ<sup>〔癒〕</sup>シ、却テ社会ヲ癒シ社会ヲ救ヒ改良シ、社会我同胞ノ□ヲシテ天国ノ歡樂ヲ得セシメント欲セ<sup>〔マヤ〕</sup>

故ニ若シ諸彦中

道樂息子娘、道樂親

学校ノ教員 新聞記者、教導職

トゲアル鞭ウケルハ難シ 真理ノ敵トナル勿レ

愚夫愚婦ニ限ルナラハ人間ノ教ニアラス 日本社会ニ 予ノ夜戰<sup>〔カ〕</sup>熱心

上等□□ノ……ニ来テ基督ニ就<sup>〔キ〕</sup>病ヲ癒サレ賜ヲ望ム所也

〔年月日等不詳〕

〔本文朱〕

イスラエル人ノ成行キ

之ヲ見レハ神ノ聖旨ハ人間ニナリタルニ非ス、人間ハ神ノ罪人ニシテ神ハ人間ノ主ニアラス

乍然キリスト其門徒ニ教ヘシ此祈乃天ニナル如ク地ニモナラシメヨトアレハ、仮令難キモ亦地ニナラサルノ道理ハナカルベシ、ポールノ語テ古キ人ヲ去新キ人乃キリストヲ衣ヘキニアリ、乃チ神ノ命ニ順フニアリ、故ニ

第二 人神ノ聖旨天ニ成ル〔如ク〕地ニモ成ルヘキ所ハ、〔墨〕人ノ我意ニ勝チテ神ノ聖旨ニ順フニアリ

〔我意人ヲ妨ケルナリ、神ノ聖旨難キニアラス〕

三③我輩第一ニ我意ニ打勝チ神ノ從順ナルヲ要ス〔ニ〕

〔鎖〕エツナガレタル獅子ヲ見ヨ

我輩我意ニ打勝タサレハ決テ神ノ意ヲ奉スル能ハス

富士山ヲ旅人

我輩ノ我意ハ乃兀然ノ大山ノ如キ、我輩之ヲ見、落胆シテ之ハ登レヌ、之ハ勝テヌト云テ遂ニ其山ノ麓ニマコツキ、其麓ニ餓死又ハ後戻リ又他ノ道ヲ求テ人間ノ正路ヲ失ヒテ、遂ニ此山上ニ登リ得ヌ人多クアレハ、我輩神ノ力ヲカリ大憤発ニテ此山ニ登ルニアリ

從順ト申セハ世間デハハイハイト申シテ何カ婦人小兒ノスル事ニトル可ケレトモ、我意ヲフミツケ神ノ聖旨ニ順

フハ非常ニ易々タル仕事ニアラス

二(b)如斯我意ニ打勝テハ何カ大事ノ時ノミト思ルトモ、小事ニモ克〔ク〕我意ニ勝ヘシ、神〔ニ〕順ベシ

如何ナレハ神ハ大事ト、神又小事ノ神、一事一件神ノ力顯ワ〔レ〕サルハナシ 二十五ノ二十一ヲ見〔ミ〕

一(c)神ニ從フハ半分順ヒ又半分己ニ順フヘカラス 〔墨〕半信半疑

兎角半分ノ仕事ハ成リ得ヌ者ニテ、半分ノ主義半分ノ心切半分ノ事業ハ決テ成就セヌ事ナレハ、神ノ聖旨ヲ地

テナスニモ我輩半分其命ヲ奉セハ如何シテ清淨ノ御国ヲ来ラシ聖旨ヲ地ニナス事ヲ得ンヤ、充分ニ從順ニアレ、

然ラハ此罪惡世界ニ真ノ光来リ、此ノ不毛ノ砂漠ニ薔薇花開其香甚カフバシカラシ

### コンクルーシヨン

●士卒ノ上出来ノ話シ克〔ク〕大將ノ命ヲ用ヒシ者、キリストニナラヘ

〔墨〕百夫長ノ僕病ニカ、リ、百夫長ノキリストヲ顧テ言ニ信アリ

路可七ノ二ヨリ十二至ル

第三 シント・ペルナルトノ旅客、其地ノ案内者ト犬トニ随ワサル〔ヲ〕得ス

〔年月日等不詳〕

神かくも此世をいつくしみて其独り生れし子を下し賜ひ〔し〕により、総て彼を信する者ハ亡びずして無限〔き〕命を受けんと

ヨワンの福音伝第三章十六節を扱

此十六節ハイチジルシク顯て居

意ヲ用テ聖書を読む者ハ、是非意ヲ用ヒズンバアル可ラズ

アメリカニ於テ此十六節ヲ讀テ此教ヲ信シ初メシ者沢山アリマシタ

福音ノ要とナルヘキ者ナリ、且耶穌ノ何故ニ此地上ニ下ラレ〔シ〕由尽ク此十六節の内ニアリ

斯クモノ字義、神ノ世ヲ愛スル事ノ深サハ、此ノ人間ノ情ナキ有様ヲ克々知ラズンハ分リマセヌ

世ノ字義 罪ノ深キ人ヲ指ス

首祖アダム、イブの罪ヲ神ヨリ得シヨリ歴史中ニハ尽〔ク〕人ノ惡事ヲ記載シテアリ、且其心ノ一旦惡シ〔ク〕ナリ〔シ〕ニヨリ、其生ル、子供輩生ル、〔ヤ〕否〔ヤ〕最早惡ヲナス事ヲ計ルニ至ル

〔年月日等不詳〕

〔全文朱〕

〔全六枚のうち前二枚欠〕

〔内部ノ必至ヨリ論シテモ又外部ノ必至ヨリ論シテ〔モ〕、是非トモ基督教カ無ケレハ此国ヲ救フノ道ハ他ニ求ムヘカ  
ラス

此ノ道ノ大切ニシテ人ノ靈魂ヲ救フニ必用ナル事ハ皆御同様ニ基督教信者ノ論スル所ナレ〔下〕モ、近来ハ世間ノ人々

〔カ己レノ子供ヲ基督教主義ノ学校ニ入レ度ヒト云心ノ起リタ〔ル〕ハ何ノ故ゾ、他ナシ暗ニ此教ヲ要スル也

〔何人ニ逢フ、曰ク予ハ先從來ノ無宗教テ往クガ、子ニハ是非トモ基督教テモヤラセネハナルマイ

民権家ノ巨魁トモ云ハル、板垣君カ、欧洲ニテ著シク目撃サレタ〔ル〕ハ人民ニ宗教心アル事ナリ〕\*

○伊藤参議カ欧洲ニテ目撃サレタルモ矢張帝王。宰相。ナドカ基督教ヲ奉スルハ只ニ策略ノ為ノミト思ヒタレ〔下〕

モ、真ニ基督教ヲ尊ヒ之ヲ信セラル、事ヲ認メ得タリト何人カニ云レタリト聞ク〕\*\*

文部省ニアリテ近来德育ニ尤モ注意セラル、人ニ向テ、宗教ナシニ日本ノ前途ハ文化ニ進ムヲ得ルト思フヤ否ト尋

ネタレハ、宗教ナシ〔ニ〕ハ難カルヘシ○今ノ仏法ハ力ナシ、更ラハ何ト尋〔ネ〕タレハ答ハナカ〔リ〕シモ、只一

ノ宗教ハイルベシト答ヘラレタリ○仏教ヲ除キ何ニカ他ニ宗教カ入ルトアレハ乃基督教ノ外他ナシ

世間ノ人々モ新聞記者モ民権家ノ率先者モ廟堂ノ人々ニモ、遂ニ基督教ヲ盛ニセサレハ此国ハトテモ維持ハ出来

難カルヘシ云々ノ論説ヲ吐クニ至リシハ何ゾ

サントウイチ島ニ伝道師ノ未タ達セサル先ニ、人民ハ已ニ偶像ヲ毀テリト、基督教ヲ妨クルモノト見倣スヘキ仏法ハ  
「ハヤ小学校ノ教科幾分ノ其ノ力ヲ挫キ、又先日ナト北畠道龍氏<sup>\*</sup>カ明治会堂ニ於テ演説セラルトキ、少シ話シ出スト  
ノ一ノ一ノ声アリケレハ貴僧ハ病ト称シテ止ム、基督教外ノ人々已ニ之ヲ挫グ、基督教ヲ未タ公認セサル政府ナル  
モ、其ノ一分ナル農商務省ニ於テ所持セラル明治会堂ヲ宣教師ノ演説ニカサルトハ何ノ事ゾ

未タ公認ハナキモ已ニ公認セラルカ如シ、如斯政府ノ一部分ノ農商務省ノ屋宇ヲ何ノ差支ナク基督教師ニカスニ至  
ルナレハ、基督「教」公認ノ日ハ近キニアルベシ

目ヲ揚ケテ見ヨ、野ハ已ニ白シ

「野ハ已ニ白シ、世間ノ人々モ、世ノ卓見モ、政事家モ、日本ノ更ニ生レ變ラン事ヲ望ムニ至リシハ、乃野已ニ熟シ  
タルナリ

吾人カ不幸五十年前ニ生レタナラハ、今日ハ野ニ出、收納ノ為ニ動クニハ已ニ遅シ、又不幸ニシテ五十年ノ後ニ生レ  
タナレハ、明治維新ノ變動ヨリ今日ニ至ルノ進歩ヲ自ラ目撃シ得ス、唯史上ヨリ見ルカ老人ノ口ヨリ聞クノミ等ニテ、  
吾人ノ如ク自ラ見自ラ聞自ラ動キ自ラ働キ得ルモノハ其感情大ニ異ナルヘシ、且五十年ノ後ハ田地ハ已ニ開拓セサ  
ルベシ、人ノ開キ「シ」土ニ耕スノミナラン○今日ハ開拓ト收納ト合セ来ルノ日ナレハ、一方ハ開拓ニ忙ハ「シ」ク  
又一方ハ收納ニ忙シ、専制ノ徳川氏一「タビ」鹿ヲ中原ニ失ヒシヨリ天下ハ書生ノ手ニ歸リ、何百諸侯ヲ廢シ中央  
政府ヲ立テ全国ノ政、皆中央政府ヨリ出ルニ至リ、欧州ノ政度文物皆輸入シ来リ、陽ニ一ノ文明国ノ体サイヲ為ス  
ニ至リシハ、基督教ヲ種播クノ田地ハ已「ニ」備ハレリト云ベシ、又人々ノ之ヲ望ミ、早ク全国ニ布カ「ル」レハヨ

イト云出スハ、乃チ最早田ハ熟セリ收納ノ秋来ルナリ

吾人手足ノ働、目見、耳聞キ、口物言ヒ得ルノ秋ニ当リ、此美花ト開拓ト收納ト一時ニ来ルトハ何ゾ、日本ノ歴史中  
恐クハ如斯快愉ナル時代ハ唯今ニ限り前代ニナク、後世ニモ如斯社会ハ演出シ来ラサルベシ

今ハ醒ムヘキノ秋ナリ 身ニ甲スベキノ秋ナリ 進テ取ルベキノ秋ナリ 我社会ヲ一変スヘキ秋ナリ  
天幸我輩ヲ顧ミ、此秋ニ遭遇スルヲ得セシメタルハ如何ソヤ

人生ノ幸ヒハ己自ラ幸福ヲ得ルニアラス、位<sup>(サ)</sup>台ヲ究ムルニアラス、富巨万ヲ量<sup>(カ)</sup>ムニアラス

○真道ニ歩ミ、身真道ニ委ネ、真道ヲ以テ他人ヲ益スルニアリ

予ノ思フニ世ノ最大幸福ヲ占メタル人ハ基督ナリ、ペテロナリ、ヨワンネナリ、保羅ナリ、其ニ古来身ヲ委ネ世ヲ  
益セシ人ナリ

高シテ時秋ナラサル、野ハ已ニ熟セリト云ベシ

主必ラス吾人ノ收納ニ出テン事ヲ望マルナルベシ

人々之ヲ望ミ在天ノ父基督聖靈之ヲ望ム、如何ニ出スシテ居ラルヘキ

然シ此ノ際ニ当リ吾人ノ尤モ注意スヘキハ跪キテ主ノ助ヲ乞ニアリ

○百折不撓ノ信仰ヲ要ス、大胆不<sup>レ</sup>□ノ精神ヲ要ス

吾人ハ維新ノ變動ニ際スルモ尚太平ノ人物ナリ

然レトモ宗教上ハ決シテ太平ニアラス、仏法アリ我ニ<sup>(敵)</sup>□ス、無神論者アリ之ヲ妨ク○肉慾ノ奴隸アリ之ヲ嫌フ、

惡魔アリ我輩ヲ誘導セントス

吾人太平ヲ以勉スベカラス、少成ニ安スベカラス、吾人進テ出テサレハ基督ノ兵丁ハ誰レソヤ

ボルネル氏曰ヘルアリ、予ノ外他ニ一人モ基督ノ為メ働クモノナシト思ヒテ働クナリ

源家ノ一人ノ弓取り●奈須ノ与一アリ克〔ク〕扇ノ的ヲ射タリ○今射ルヘキノ的アリ、我主吾人ニ之ヲ射ヨト命セ

ラル、吾人之ヲ謝スヘキカ

●射ラスシテ之ヲ射リ得ノタメシナシ●カラスシテ争テ収メ得ン、真理ノ弓矢ハ寸時モ手ヨリ離サス、眼前ニ的ヲ

見タレハ直ニ之ヲ射放スニアリ

兄弟ヨ、井ノ上<sup>〔ホトリ〕</sup>ニ休息セラレシ基督ヲ見ラレ、一人ノ婦人ニトリ一人ヲ決シテ見過シテナラス、一人ヲ得、一人ト

問答シ、一人ノ心ヲ開クハ伝道上大切ノ事ナリ

○大勢ノ前ニアリ大喝一声衆人ヲ驚スノ演説ヲ為スハ多ハ荒コナシナリ○真ノ働キハ却テ一箇人ヲトクニシカス、基

督ヲ見ヨ、先ツアンテレヲ得、ヨワンネヲ得、ペテロヲ得、ピレプ〔ピリポ〕ヲ得、ナタナヘルヲ得タリ

井ノ上ニテ一婦人ヲ得タリ

※飯糊ヲオスニ一粒ツ、ヨリ衆粒ニ及フ

〔基督ノ精神ヲ得ハ一発、或ハ数十人、数百人、数千人ヲ貫キ得ベシ

吾ノ尤モ通歎スルヲ基督ノ精神ノ乏シキナリ

吾人ニシテ克〔ク〕基督ノ精神アラハ、サマヤノ婦人ハ何レノ処ニ〔モ〕アルベシ 真理ノ矢克ク婦人ノ心ヲ貫ベ

シ、キリストハ真理ヲ説カル、為食事ヲ忘レ、婦人ハ真ヲ得ルカ為ニ己ノ水容レヲステ、市ニ往キ多クノ人々ヲ連レ

来レリ、人々来自ラ之ヲ聞、基督ヲ信スルニ至レリ

伝道ノ妨害ハ敵ニアラス○太平ノ習慣

○文弱ナル事 果斷ニ乏シキ事

○少成ニ安スル事 ○機ヲ見テ之ヲ失フ事 ○我等ノ熱心ナラサル事

○真ノ基督ノ精神ノ乏キ事 ○敢テ戦フノ勇氣ナキ事

其ノ基督信徒ノ尽スヘキ時

愛国男子ノ畢生ノ力ヲ尽ス〔ベ〕キノ秋也

〔年月日等不詳〕

## 60 盲視ル事ヲ得

盲視ル事ヲ得

〔朱〕 哥 廿八、十八

〔盲目信ニヨル、泥ニハ利益ナカラン、水ニモ直ニ盲目ヲ開クノ功ナカラン〕

約ノ九ノ十ト十一

今日ハ如何シテ彼盲人ノ視ル事ヲ得シヤ其理由ヲトキ、如何セハ心ノ盲目モ亦視ル事ヲ得ルニ至ニ及ハン

第一 此盲人ノ生レツキ盲ナルヲ、彼ノ信仰ニヨリキリスト之ヲ癒セシ事ヲ説ヘシ、然シ其明ヲ得ルニ幾段ノ階梯ア

リ

第一〔朱點〕キリストノ慈愛心

キリスト我世ニオル中ハ世ノ光ナリト云レテ、此盲人ノ目〔ニ〕唾ト泥トヲ混シテヌレリ

第二 盲人ニトリテハ明ヲ求ムル心アリ、キリストノ命ヲ受ケ之ヲ信シテシロアムニ行キ其眼ヲ洗ヘリ

第三 猶太人中争起リ兩親ヲ呼 〔以下朱〕 フ、兩親彼等ヲオソレ不言、盲人ノ証

〔我昔盲人ナリシニ今見ル事ヲ得ル、此一事ヲ知ル〕

且不恐彼等ヘキリストハ神ヨリ来ルニ非ラ〔ザ〕レハ神之ヲ聞カス、神ヲ敬ヒ其旨ニ随フ者ニハ神之ヲ聞賜フト、

〔世ノ初ヨリ生レツキノ盲人ノ目ヲアケシ者ナシ〕

第四

其後キリスト彼ニ逢フ、キリスト曰、爾の目ヲ明ケシ者誰ナルト問

○盲人キリストヲ拝セリ、敬テ拝セリ、信セ「ズ」シテ拝セリ

此等ノ事ヨリ考ヘ如何シテ盲人ノ明ヲ得ル哉ヲ説キタキ者ナリ

○盲人ニ三種アリ

〔墨点・同左〕

、一肉体ノ盲

、二目アキ盲

、三日アキニシテ読書モ出来物ノ理合ヲモ知り、而シテ心ノ盲ナル者

一肉体ノ盲

ス、此種類ハキリストノ如キ特別ノ大能力ヲ具セシ御方ニ非ラ「ザ」レハ、トテモ生ツキノ盲人ノ明ヲ与フル能ワ

二目アキ盲

、此種類ハ幼年ヨリ父母之ニ教育ヲ加ヘス、又自身ニ父母ノ命ニモ反シテ遂ニ読書モセス智ヲ聞クノ道ヲ求メス  
シテ如斯盲人トナレリ、乍去之ハ勉強ニヨリ再ヒ見ル事ヲ得ルニ至ルハ世間ニ例ナキニ非ラス

三心ノ盲

学問モアリ

知識モアリ

世事ニ達シ 而其心ノ目盲ナル者ナリ

〔馬〕〔太〕 〔廿三ノ十六 六ノ廿三〕

此第三ノ盲人ハ最モ神ノ御心ヲ痛メシ者ニシテ、之ノ暗キヲ照ラス為ニ真光ヲ世ニ与ヘン、世ハ之ヲ惡ミ之ヲ嫌テ遂ニ之ヲ十字〔架〕ニカケシニ至レリ、故ニ此盲人ハ最モキリストノ心ヲ痛メキリストモ亦之ヲ惡ミ、禍ナル哉盲ノテビキスル盲ヨト云ワ、〔レ〕シ事モアリ、

〔墨〕  
〔爾ノ目アシカラバ全身クラカルベシ、故ニ爾ノ内ノ光若シ暗ラカラハ其暗ラキ事如何ニ大ナラズヤ〕

以上三種ノ盲人中何レカ最不幸ナルゾ

、目ノ盲ハ此世ノ美觀ヲ見ル能ワス

〔世界ノ美觀 目アキノ盲ハ此世ノ美書ヲ讀ム能ワス、此世ノ用向キヲ弁スル能ワス

〔神ノ徳光 心ノ盲ハ神ノ美光ヲ見能ワス

如何シテ世人如斯心ノ盲人トナレリヤ

アタム〔神ノ命ニ反シ身ヲカクス 木ノ蔭ニカクス 暗ヲ愛シ光ニツカサルノ原由

モンモス・ケーウノ無目魚

〔或ル説ニヨレハ此魚ハ本目アリシ〔ニ〕、暗キ池ニ入シヨリ以來目ヲ用ヒスシテ遂ニ目小キニ至リ、遂ニ目ナキニ至レリ

心ノ盲ノ起リ神ニ反キシニヨリ、去ハ神ニ帰シ神ニ戻ラサレハ再ヒ明ヲ得テ神ノ徳光ヲ見ルヲ得サルヘシ

〔墨〕  
〔目ヲ作り得ルノ神克ク之ヲ開クヲ得ル也〕

神ニ光アリ光ヲ与ント欲ス

神ニ帰スルニ如何セハ可ナラン

○<sup>〔墨弧〕</sup>一謙遜 己ノ盲ナルヲ知レ

○二信仰 キリストノ言葉ヲ信スヘシ

○三靈、<sup>〔ハ〕</sup>シロアム<sup>〔ハ〕</sup>、<sup>〔ハ〕</sup>何国ニモアリ、キリストノ命ニ随ヒ其池ニ就キ目ヲ洗ヒ明ヲ得ヘシ

<sup>〔墨〕</sup>昔預言者イライシヤ<sup>〔エリシヤ〕</sup>ノ時

「ナアマン、タマスコ<sup>〔王〕</sup>ノ武官ニ

○ヨルタン河ニ七回洗フ

アバナ

兩岸

ファアバ

タマスコニアリ」

ライ病癒タリ

○四明ヲ得シ上ハ恩人ヲ忘ル勿レ

彼盲人ハ猶太人ヲ恐レス、キリストノ己ノ目ヲアケシ事ヲ証ス

○五キリストノ光ニツキキリストヲ拝スヘシ、此常ニ心ノ明ヲ得テ喜ヒ樂ムヘキ所也

○<sup>〔墨〕</sup>耶ソ言イケルハ、審判セン為ニ世ニ来ル、乃見ヘサル者ヲシテ見ヘ、見ユル者ヲシテメシヒトナラシムト

結局見ユルト思フ者ニ忠告

○スペインサルト言フ人アリ、人心ハ<sup>〔怡〕</sup>殆モ子供ノ目カクシノ遊ノ如シ

是ノ遊ハ少年モ老年モ遊ヒ、世ノ樂ミ世ノ宝、世ノ榮ヨヲ以テ目カクシテ遊ヒ居ル内、サタン森ヨリ出タリ、之

一 ヲ誘ヒ行クニ人其サタンナルヲ知ラス、共ニ共ニ行ニ遂ニサタンノ志ヲ逞セシムルニ至ルト  
○〔墨〕ペンシルワニヤノリッテンハウス

遠望鏡ノ内ニ最微ノキヌ糸アリ、之カ為ニ遠方ノ星ハ遮ラレテ見エス、假令太陽ノ中径三十七万七千五百里アル  
モ、之ヲ遠クニ置ケハ糸一本ニテ遮リ人ヲシテ見ヘサラシム

〔以下墨〕

〔朱点、以下同〕暗地ニオルモンモス洞ノ魚ハ暗キニオリ、目ハイラヌ者ト云テ可ナランヤ

井底ノ蛙天ヲ見テ天ヲ小ト云テ可ナ〔ラ〕ンヤ 人メクラニシテ神ハナキ者ト云テ可ナ〔ラ〕ンヤ

キリストハ光ノ源ナリ、キリストハ愛ナリ、爾等ヲシテ大幸ヲ得セシ〔メ〕ル事ヲ望ム矣

爾等何ソ爾ノ明ヲ求テ光ニ就カサル

明キシ目ヲ増ス光明ニ就クベシ

〔年月日等不詳〕

61 「我若シ地ヨリ挙ラレナバ万民ヲ引キ我ニ来ラセン」

〔歌〕 〇二十 〔朱九・同下〕 〇百十四 〇八十四

約翰十二章之三十二節

我、若シ地ヨリ挙ラレナバ、万民ヲ引キ我ニ来ラセン

我トハ如何ナル榮光ト力ヲ含有スルゾ、今我輩カ我ト申セハ造物中之一ニテ実ニ蒼海之一粒、然ルニキリストノ我トハ約翰伝ノ初ニアル如ク、太初メニ道<sup>ミチ</sup>アリ道ハ神ト共ニアリ、道ハ即チ神ナリ、此道ハ神ト共ニアリ万物之ニヨツテ造ラレ、造ラレタル者ニ一トシテ之ニヨラデ造ラレシ〔ハ〕ナシ〇之ニ命アリ、此命ハ人ノ光ナリ、キリスト自身ニ仰ラル、ニ我ハ道ナリ真ナリ光ナリト〇此広大無辺ナル宇宙ヲモ含有スル我、此広キ天体ノ美ヲ創造シタル我〇万物ノ妙理ヲ工風シ又之ヲ造リ又之ヲ永々維持シ賜フ主ナル我、此我ニ無比ノ榮光、權力ヲ有スル者ニシテ、此我ニアラサレハ天下何者ソ克クキリストノ事業ヲ為シ得ルモノゾ、此ノ我人間ニ下リ我等ノ内ニアリ、我其ノ榮ヲ見タリト約翰〔伝〕ニ云レタル如ク、宇宙所有權ヲ持タル君主、人間ニ下リテ乃神人ト為レリ

〇此ノ神人ノ榮トハ世界ノ帝王ノ如キ榮ト異ナリ、土地ヲ領スル其ノ望ム所ニアラス、如何トナレハ、土地ハ大宇宙ノ一小粒ノ如キモノ何ソ区々トシテ此地球ヲ得スルヲ異トセンヤ。功名モ亦何ニスルモノゾ、功名ハ此世ノ人間ノ求ムル所、宇宙ノ造リ主何ソ謙リテ人間ノ功名ヲ求メン

神人ノ榮トハ他ニアラス乃チ地ヨリ挙ラル、事ナリ、十字架ニ磔セラル、事ト死而後又蘇生シ昇天セラルヲ云フ

テ、地ヨリ挙ラル、事コソキリストノ榮ナリ、此榮ハ天父ノ好意、愛情ノ集合シテ十字架上ニ一ノ照点トナリタルナリ

凸形中高ノガラスヲ以日光ニ向ケハ光線ヲ集合シテ一ノ照点ヲ出来シテ熱火ヲ起スナリ、神ノ愛情十字架上ノキリストニヨリ、頑固鉄片ノ如キ人心ヲトカシ土泥ト他ノ雜トヲ分離シ純粹ノ鉄トナシ、神意ト称スルイガタニツギ込ミ遂ニ神ノ用ヒ賜フ器トナル

昔ヨリ何レノ国何レノ人ガ、克ク人ノ勝チ難キ人心ニ勝チ得シモノゾ、此一事ノ成難キハ弱キ人間〔ガ〕弱キ人間ノ導キヲ為シタルナリ、ツマリ過失少ナキ人間、過失ノ多キノ人間ノ差アルノミニテ、人間ノ心ヲ医シ之ヲ救フナドハ人間ノ克ク為シ能ハサル所ナリ、此一事ニ至リテハ神ニシテモ容易ニ為シ克ハサル所ニシテ、遂ニ其ノ愛子キリストヲ十字架ニカケラレタリ

〔朱点〕

万民 何故万民ト云ハレシヤ、何故猶太人ト云レスヤ、又羅馬人、ギリシヤ人ト云レスヤ○此時ギリシヤ人ノ来リ面謁ヲ請ヒタレハ、ギリシヤ人ヲ引クト云レスヤ、我來ルハ特ニ猶太人ヲ救フ為ノミナラス又ギリシヤ人ノ為ノミナラス万民ヲ救フカ為ナリ。我カ來ルハ只ニ一國人民中利益ヲ起スニアラス○〔上欄〕「ギリシヤ人羅馬ノ管轄ヲキリストノ手ニヨリテ脱シタキノ意アリシモ知レス」他國ノ手ヲ脱シテ之ヲシテ独立セシムルニアラス、我ハ天父ノ意ヲ奉シテ万民ヲ救フカ為ナリ、万民ヲ引キ我ニ來ラセン、智力上ニテハ小ナルモノ大ナルモノニ使フ、〔佐〕有力者ハ無力〔者〕ヲ役ス。百万弗ノ身、家ハ無産ノモノヲ小使トナス、又近來學者中流行スル優勝不破ノ說ノ如ク、優リタルハ劣シニ勝ツハ天下ノ通理ナルニ似タルニ、独〔リ〕道德上ニハ資産家助ナキ鰥寡孤独ノ為ニ金ヲ投シ、水、ヲ知ラサルモノ正ニ溺レントシテ一〔タ〕ヒハ沈ミ一〔タ〕ヒハ頭ヲ水上〔ニ〕出タシ哀求スル際、若シ岸上ニ水涵ニ達シタ人アリ、又通常

人間ノ心ヲ持チタル人ナレハ何ニハサテオキ水ノ中ニ飛込ミ其ノ人ヲ救フベシ、是レ道德上ノ人情ナリ○桜莊五郎〔佐倉惣五郎〕桜ノ衆民ニ代リ上訴セシハ桜ノ百姓最下等ノ人ナルヤ否、當時百姓中ノ錚々タルモノ

是衆人ニ代リテ死スルモノ身ヲ殺ロシテ仁ヲ為スハ乃此人ナリ○又母親カ己レノ子ノ病氣ノ際ニハ眠ル目ヲネズニ介保スルハ何ソ、大ナルモノ克ク小ニ使フ道德上ノ法則ナリ

〔上欄〕

「千三百四十七年ノ比、英王エトウォールド〔エドワード〕三世十一ヶ月ノ厶ミ〔中山〕馬犬猫ヲ食フ、上等ノ市人六人ヲ徒足ニテ市ノ門ノ鍵ヲ持来ラハ市ノ厶ヲトカ〔シ〕ト云、ユーステヒ、デ、サン、ピーレ他ニ五人英王之ヲ殺スヲ

命ス、女王ピイレバ之ヲ王〔ニ〕請テ救ヘリ」

然シ此ノ母親ハ他人ノ子ノ為ニ如斯為サ、ルヘシ、之レ我モノニアラサレ〔バ〕ナリ○独〔リ〕神ハ万民ヲ我モノトナ

シ、キリストヲ下シテ之ヲ救フノ道ヲ設ケサレラレタリ○十字架上ノキリストハ神ノ榮光ノ照点ナリ、又十字架ノキ

リストハ北極ニアル磁石ノ本ノ如シ、何レノ磁針カ之ニ引カレサラン、慈悲惻イシノ心ハ人皆之ヲ有セリ、誰カキリ

ストノストーリーヲ聞キ心アル人ナラハ之カ為ニ一滴ノ涙ヲ流サ、ランヤ、キリストノ我輩ヲ引キ来ラシムルハ檢束

シテ引キ来ルニアラス乃心服シテ来タル也、キリストヲ知ラサル民ハ神仏ニ使、偶像ヲ拝スルハ恰モ夜ヲ為ス人ノ夜

曉ニ近ツキ太陽ノ昇ルヲ待ツカ如シ○今ヤ太陽東天ニ昇リシタレハ万民救ヲ得ルノ秋到来シタルナリ○キリスト出テ

来、人間社会ヲ一變ヲ来タシ、心ノミニ幸福ヲ得セシメシノミナラス人間社会全体乃交際上信誼ヲ重スル事、一夫一

婦ノ交、政事上公平ヲ重シ自治ノ精神ヲ来タシ暫々自由ヲ樂マシ〔ム〕ルニ至ル、之人間最大幸福ノ基立チシ以謂ナ

リ、人間ヲシテ然シ是等ハ好結果ニシテ此キリストノ世ニ来リ万民ヲ引クノ主趣ナラス、當時モ尚天下ノ学者其腦漿ヲシボリ研窮シテ尚分カ〔ラ〕ヌト云人間ノ命ノ不朽ニ及フ事、又命ヲ救ヒ永世ヨリ永世ニ到ラシムルノ幸ヲ示セル

ナリ

〔上欄〕

「イジプト古代ノ僧侶、支那人古哲、ギリシヤノソクレテース、プレートー、アリストートル、羅馬ノセネカ、ケト  
ー等ノ人顯レテ世ヲ導キ〔シ〕モ、恰〔モ〕ヤケ石ニ一滴ノ水ヲタラスカ如シ」

〔年月日等不詳〕

62 「キリスト真理ノ証ヲ為シ真理ノ国ヲ世ニ起セリ」

約翰十八章ノ三十七節

イントロダクシヨン

「救ヒノ道

「人ヲ「シテ」神トキリストヲ信セシメ、神ヲ「シテ」人ヲ救ワシム

○キリスト真理ノ証ヲ為シ、真理ノ国ヲ世ニ起セリ

真理ノ説明

一キリスト真理ノ証ヲ立テ、死ヲ以之ニ印セリ

嗚呼皇天上帝此世ヲ顧ミテ、此罪惡ノ世ヲシテ真理ノ世ト為サン為、千八百八十年前設ケタル猶太ノ国ニ此世ノ救主ヲ生セシ「メ」、彼ヲシテ神ノ真理ヲ此世ニ顯シ、死世ヲシテ又生キ、燼タル灰ヲシ「テ」又モヘシメ「シ」ハ是又何ノ幸福ゾ、キリストノ幼時ノ事ハ少シク福音ニ記載シアルモ、イシプトヨリ歸リテ後三十年ニ至迄ノ所ハ、唯十二年ノ比父母ト共ニエルサレムニ至リシ事ナリ、彼其時ヨリ最早父ノ事ヲ勤ムヘキヲ知ラスヤト母ニ答ヘラレテ、已ニ此時ヨリ父ノ仕事ヲ為ス、乃真理ノ証ヲ為ス事ニ注意サレシハ明ナリ ○三十歳ノ後ヨワンネニ就「キ」受洗セシトキ、ヨワンネ彼ヲ指シテ神ノ羔ト云レシハ、全クキリストハ世ノ救主タルヲ証セシ事ニテ、此時ヨリキリストハ神ノ真理ヲ此世ニ証明シ人「ヲ」シテ此罪惡ヨリ脱セシメ、自身人ノ為ニ贖罪ノ道ヲ開カント計カラレ、最初

門徒ヲ招クニ來テ見ヨト被云、又汝ヲシテ人ヲ漁セシメント被云、ガリラヤより初メ此真理ノ証ヲ為シ初メ、真理ノ証ノ証ヲ為、屢異跡ヲ行ヒ、深切丁寧此世ノ助ナキ人間ヲ導キ賜ヘリ

扱キリストニ就キ驚クベキ事ハ、仕事ヲ務ムル前、キリスト決シテ学ヒシ事モナク、人物ニツキシ事ナク、他ノ惡風ニモ化セラレス〔ズ〕、又密ニナサレ村ニアリテ常人ノ如ク成長サレ、克ク家ニアリテ孝ヲ尽シ、其事ヲ挙クルヤ其門徒ハ多ク漁子、其友トスル所〔ハ〕税取り、罪人、其癒ス所ハチンバ、盲、百夫ノ長ノ息子、元僕、サイローフィニルヤ〔スロ・フェニキヤ〕の婦人ノ娘、其説ク所ハ多〔ク〕貧人又エルサレムノ学者ニ非シテサマリヤノ一婦人、其留マル所ハエルサレムヨリガリラヤトペリヤ、<sup>〔上欄〕</sup>曾テ猶太ノ地ニアリテ、キリストヨワンネヨリ多ク門徒ヲ作リシ事、パリサイ人聞キシト知り賜ヒシトキハ、其地ヲ去、ガリラヤニ行ケリ

○カリラヤ湖水ノ北ニアリシトキ、衆人彼ヲ迎テ王トセント〔セシト〕キニ彼避テ山ニ隠レタリ○又其兄弟基督ニススメ、エルサレムニ至リ其働キヲ衆人ニ顯ワスベシト云レシニ、時未至予今行カサルヲ以辞シ賜ヘリ、一ノ善事ヲ為ス毎ニ其人ニ誠テ人ニ告クル勿レト云ヒ、<sup>〔朱点・以下同〕</sup>決テ己ノ名ヲ売ル工風ヲ成サス、又ハ上等社会ノパリサイ人中ヨリ人望ヲ得ル考ヘモ不被成、彼等ニ向ヒテハ禍哉パリサイ〔人〕ヨト仰ラレ○万富人ニ倭シテ金力ヲカル事ヲ要セス、富人ニ向ヒテハ富メル者ノ天国ニ入ルハラクダノ針ノ穴ヲ通ヨリモ難シト云レ、ヘロデ王ニ就テハ彼狐ニ行キテ告ケヨト被云、祭司ノ長ニ向テハ白クヌリタル壁ヨト被云、如斯權謀モ用ヒス更ニ兵力ヲモカラス、其ノ着目スル所ハ偏ニ真理ノ國ヲ立ツルニアリ、真理ヲ以吾人ヲ惡魔ノ手ヨリ脱カレシメ自由ノ民トナシ天国ノ民トナ〔サ〕ン為迫害モ不<sup>〔ママ〕</sup>レ意威武ニ不屈、第二千辛万苦身自ラ足ヲ容ル、ノ地モナク頭ヲ安マルノ所モナク、或ハ山ニ臥シ舟ニ寝ネ三年有余、或ハガリラ〔ヤ〕ニアリ、或ハヨルダンノ東ニアリ、或ハユダヤ地方ニアリ、或

ハエルサレムニアリ、其ノ為ス所其行ス所其ノ教ユル〔所〕一々真理ナラサルハナク愛ナラサルハナク、尽〔ク〕人ヲシテ神ヲ信セシメ其キリストヲ信セシメ、又神ヲシテ人ヲ救ワシムルノ外他ニ目的ハナク、切ニ罪惡世ヲシテ真理ノ世ト為サン事ハキリストノ大目的ナレハ〔神ノ定メシトキ至レハ更ニ避ル、事モ不為、彼ヲ囚ン為士卒園ニ来リシニ、誰ヲ尋ルヤ、予ハナサレノエスナリト云ヒ賜ヘリ〕

又世ニ於テ人ノ目前ニ非ヲカザリ偽ヲ云ヒ、ネタミヲ抱キ、政府ニ倭シ人望名利ヲ求ムル等ノ卑劣ナルバリサ人ハ、又ハ更ニ定主義ナク偽八百キリストニ於テ罪ナキヲ見ナカラ之ヲ救フスベモナク、罪ナキ義人ヲ猶太人ニ渡シ十字架ニ付ケシメシハ何等ノ所業ソヤ、是レ羅馬政府ニ代リ一國ヲ治ムルノ義務ヲ尽セシ者ナルヤ、四方尽ク偽リノ人物其ノ中ニ兀立シテ、我ノ國ハ此世ノ國ニ非ス、我ハ真理ヲ証スル為ニ此世ニ生レリト被云、己レニ罪ナキヲ別ニ証セス、又一々ピラトノ問ヒニモ返ヘズ、唯予ハ爾ノ云フ如ク真理ノ王ナリ〔ト〕被云、己レノ申訳モ成サス泰然トシテ死ニ趣クモ辭セサリキ

〔上欄〕  
「今ノ人物論ヲ世ニ求ムルノ類ニアラス」

〔朱丸〕  
○赫冠 嘲弄。

十字架モ更〔ニ〕其志ヲ動ス能ワス、十字架ニ血ヲ流シテ公然ト世ニ向ヒテ真理ヲ証セシ事ヲ頤ワセリ

〔朱丸〕  
仏郎西ノ有名ナル民権家ルーソー氏、兼テキリストヲ信セサレトモスクレテストキリストヲ比較シテ云レシニ、  
〔ソ〕クレティスハ豪傑ノ如ク死シ、キリストハ神ノ如ク死セリ云々

二キリスト真理ノ証ヲ立、死テ後克〔ク〕勝ツ事ヲ知レリ

キリスト生時ニ腰門徒ニ答曰、我ハ罪人ノ手ニ渡〔サ〕レ殺サレ三日目ニ生クベシト、又今吾行矣ト云シニヨリ憂

爾等ニ滿<sup>〔カ〕</sup>然トモ予又來ラン、其時爾等喜ヘシ、爾等ノ喜ヒ誰モ奪フ能ワスト云レ、我若シ揚ラレナハ万民ヲ引クベシ○予世ニ勝矣ト云々

スクレティス死スルトキ右様ノ語ヲ吐キシヤ○孔夫子死セサル前何ノ語ヲ出セサシヤ。鳳凰<sup>〔鳥〕</sup>不至、河圖ヲ出サス予止ヌルカナ\*、豐太閤死スルトキ吾世ニ勝テリト云レシヤ

〔上欄〕  
「露トオキ露トキエヌル我身哉、難波の事ハ夢ノ世ノ中」

一寸先ハ暗黒世界、然ルニキリスト生時ニ右等ノ語ヲ吐キ門徒ヲ慰サメシヨリ、此語ノミヲ聞ク者ハ例ノ方便權謀ナラント云ヘラルトモ、キリスト死後ノ歴史ヲ読メハ如何ナル事件力出來セシヤ、猶太人兵丁ヲ請、キリストノ墓ヲ封シ番人ト為ス、三日目ニ至墓内ニアラス蘇生シテ去レリ、屢門徒ニ顯レ、トマス無キトキ又トマス居ルトキ手ヲ見、アバラヲ見ヨ〔ト〕被云

ピラト何ヲ為シ得ルヤ、猶太人何ヲ為シ得ルヤ、キリスト彼ニ負テ而勝、死テ而又生キタリ

是蘇生ニヨリキリスト弥真理ヲ証シ、真理ハ神ノ真理ニシテピラトモ猶太人モ兵卒モ如何トモ為難クシテ、世人ノ之ニ勝能ハサルヲ証セリ

〔上欄〕  
「家作リノ捨テタル石家ノ角ノオヤ石トナルハ人ノ目ニ驚ヘクアルナリ」

三キリスト真理ノ証ヲ立人間ノ心ヲ感動セシメ、人間ヲシテ其志ヲ続カシム

真理ヲ好ム者ハ予ニ属クト

此真理ハ人心ニ適スル者ナルベシ、人心ニ適スル以謂ハキリストノ愛此内ニアリ、愛ハ真理ノ基礎ナリ

〔年月日等不詳〕

## 63 「キリストノ目的」

ヨワンネノ十八章ノ三十七章<sup>〔節〕</sup>

テキスト ——— イントロダクション

### ○プロポゼション

キリストノ目的ハ世人ノ目的ヲ以テ比スベカラス

<sup>〔朱〕</sup>  
「真理ノ国ヲ立、真理ヲ以人ヲ自由トシ、以人ヲ救フニアリ 吾揚ラレナハ予万人ヲ引クヘシ」

### 第一 キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異ニシテ、全ク人意ノ外ニ出ツ

キリストノ生シトキニ当リ、猶太人中ニ彼ノ人民ヲ敵ノ手〔カ〕ヲ救出〔ス〕ヘキ、外国人ノ管轄ヲ脱セシムヘキ英雄ノ起ラン事ヲ望ミ居リシニ、豈計ンヤキリストニ於テハ更ニ其ノ望ミモ見ヘス、足ヲ容レ頭ヲ安ンスル所ナキモ更ニ厭ワス、切ニ真神ノ道ヲ説、救ヒノ門ヲ開クヲ為己ノ任ト目的トナシ賜タレハ、彼カリヤノ湖水ノ北ニテ数千ノ人ノ集リ来タルトキ、彼ヲ強ヒテ王ト為サントセシカハ、彼独リ逃テ山上ニ隠レタリ、且彼ノ成長セシ村ト云ヒ、彼ノ教育ト云ヒ、彼ノ宣教ト云ヒ、全ク猶太人ノ目的ト異ニシテ、彼等ノ望ム所ハ、キリストハ猶太国ノ王トナリテ彼等ヲ敵人ノ手ヨリ脱セシムルニアリ、キリストノ目的ハ神ノ真ヲ以世人ヲ惡魔ノ手ヨリ脱セシムルニアリテ、其目的ニハ雲壤ノ差異アリト云ヘシ、彼等ハ偽ヲ主トシ、キリストハ真ヲ主トセリ、氷炭相合ワサルヨリ遂ニ之ヲソネミ之ヲ惡ミ、十字架〔ニ〕就ケテ之〔ヲ〕殺戮セリ

〔彼等ハ盲ニテ盲人ノ手引キ、キリストハ神ノ子ニシテ克ク人ヲ救ヒ克ク人ヲ癒シ、克ク人々ノキリストノ異論ニ驚キタレハ、多クキリストニ随ヒタルヲ以テ彼等キリストヲ惡ミ

〔補〕彼ハ決テ羅馬ニ背ク為ノ演説モナク、人民ヲ集メス、カイサルノ者ハカイサルニ返セト云ヒ〕

且主ノ死後ニ至リ彼ノ生時ニ第三日蘇生スヘシト言ノアルヲ以、其墓ヲ封〔ジ〕門徒ノ之ヲ盜ミ取ラサル為ニ敵ニ番人ヲ付ケ置タリ

ダビテノ預言ニ、神ハ彼ノ聖キ者ヲシ〔テ〕腐敗ヲ受ケシメズ〔ト〕被申通、墓ヘ付置レタル番人モ熟眠シ、封シタル墓ノ石モ転セラレ、彼ノ殺セシキリスト再ヒ蘇生シテ屢々門徒ニ顯ワレ、終リ迄テモ彼等ヲ愛シ深切丁寧ニ彼〔等〕ヲ導キ、彼等ニ賜ルニ聖靈ヲ以テセバ、懼ヲ抱キシ門徒輩モ断然ト蘇生セルキリストヲ説キ初メテ、エルサレムヨリ初マリテサマリヤ、タマスコス、アンテヨコ、<sup>〔オケ〕</sup>遂ニハ地ノ極ニモ至リ、此十字架ノキリストヲ説タレハ、権

力ヲ有セシ羅馬政府モ、人民ノ目ヲ盲ニシタル上等社会ノ猶太人モ、之ヲ如何ト〔モ〕為難キニ至リ、加之ニ其時ヨリ今日ニ至ル迄基督教ノ益々流布シテ已マサルハ何等ノ原因ソ、キリストハ神ノ生ケル道ヲ此世ニ伝ヘタレハ、此道モ久ク神ト共ニ生クヘクシテ、人意ノ如ク之ヲ殺セハ止ムヘシノ類ニアラス、之ヲ殺セハ弥生キ、之ヲ毀〔テバ〕弥成ル、世人ノ如ク生キ而生キタルト云、勝テ而勝タルト云ノ類ニアラス、キリストノ目的ハ死テ而先自ラ生カシ、負テ而シ〔テ〕克〔ク〕勝ツニアレハ、死テ後止ムノ類ニアラス、死シテ後克〔ク〕成就セリト云ヘキナリ、是キリストノ目的克ク人意ノ為ニ出ツル以謂ナリ

## 第二 キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異ニシテ時々変換セス

キリストノ目的ハ最早父ノ膝ニアルトキヨリ立テ賜シ事ナレハ、彼十二年ノトキ過越ヲ守ラン為双親ト共ニエルサ

レムニ登ラレ、祭終リ〔シ〕トキ途上双親ハキリストノ共ニ帰ラサルヲ知り、再ヒ城ニ立戻リ之ヲサガセシニ、彼ハ〔神〕殿ニアリテバヒ〔ラビ〕達ト問答ナシ居レリ、御母其ノ共ニ帰ラサリシヲ糺セシカハ彼答テ曰、予父ノ仕事ヲ為シ居ルト、之ニ依テ之ヲ見レハ、彼已ニ十二年ノトキニ最早父ノ仕事ヲ為ヲ以テ己ノ任トシ己ノ目的トナセシ事明々ナリ、其ヨリ三十年ニ至ル迄モ常ニナサレ村ニアリテ其目的ヲ変換セス、益々養ヒテ神ノ定時ヲ待チ居リシナラン

其レニ反シテ世人ノ世ニ〔勉〕置スルニ千変万化更ニ確定ノ目的ナク、豊臣〔草〕履取ノトキハ兵士ニナリ度思ヒ、兵士ニナリタル以上ハ一方ノ大将トナリタク思ヒ、大将トナリ〔タル〕以上ハ又天下ヲ取ラン事ヲ思フガ如ク、場合ニ順ヒテ目的モ変シ、時機ニ応シテ主義ヲ換ヘリ、是乃遙カ先キ迄ヲ見ル能ワスハ、多クハ其時ニ臨ミ変ニ応シ所置スル事ナレハ、朝ニ立タル目的モ暮ニ変シ、誰以ノ功名ノ如、朝ニハ朝臣タリシモ暮ニ変シテ人権ヲ称シ、朝ニハ政府功臣タリシモ暮ニ政府ニ向干戈ヲ動カスニ至ル、嗚呼人事変換無常キ一ニ茲ニ至ル也

キリストニ至リテハ人ノ証スルヲ要セス、自ラ克ク人間心ヲモ知リ將ニ来ラントスル事件モ知リテ、予メ用意ヲ為シ初ヨリ立ラレタル目的ヲ少シクモ変セス、死ニ至ル迄モ変セス、威武モ屈スル能〔ワス〕、貧賤ヲ、能ワス、父ノ仕事ヲ為スニアリ、父ノ聖意ヲ行フニアリ、世界無比ノ大目的ヲ立ラレタレハ之ヲ必ラ〔ズ〕達スルニアレハ、死シテ已ムニアラス死シテ克達スルニアレハ、世人ト異ニシテ其ノ変換無キハ宜ナリト云ヘキ也

〔補〕世ノ英雄目的ヲ達スルニ偽ヲ用ヒ權謀ヲ以テカサリ、種々ノ事ヲ為シテ人望ヲ得ト勤ム、言フ事モ目的モ変換セサルヲ不得

〔補〕一時ハ歐羅巴ヲ席卷シタルナポレオンモ、空クシントヘレナノ囚人トナリテ死セリ、死テ其目的ハ水泡トナレ

リ

（今吾国ニ上等ノ位置ヲ占タル人物ニ会、其心中ヲタ、ケ、其目的ハ十年以來少シモ變セサルヤ、其答ハ否ナラン  
 第三 キリストノ目的ハ世人ノ目的ト異ニシテ、国又ハ一人ト共ニ転□セス

キリストノ目的ハ真ノ神ノ支配ヲ来スニアリテ、キリストノ御国ノ世ニ来リシハ、弥ヨハンネ野ニアリテ呼テ、天国ハ近ニアリト曰レシヨリ此世ニ顛ワル、キリストノ御国ハ勤テ入ルベシ、何ノ人民ヲ不論何ノ□□ヲ不論、猶太人ギリキ人モ白人黒人モ皆尽ク入ルヘクシテ、其来ルハ全此世ヲ救ワン為ナレハ、其ノ基礎タルハ神此世ヲ愛サレテ其独リ生レシ子ヲ此世ニ下、誰モ之ヲ信スル者ハ亡スシテ救ワルベシトニアリテ、世人ノ己レノ名ノ為慾ノ為ニ国ヲ興スノ類ニアラス、授洗ノヨワンネ牢中ヨリ二人ノ門徒ヲキリストニ遣セシトキ、主答曰盲人ハ見、チンバハ歩ミ、福音ハ貧人ニ説レタリト、キリストノ国ハ此世ト違ヒ兵力ヲ不用、權謀ヲ不用、唯真ト愛トヲ用ヒ、鉄石ノ如キ人心ヲ溶解シテ之ヲシテ神ヲ信セシメ、遂ニ之ヲ天国ニ入ラシムルニアリテ、全ク世ノ英雄ノ所為ト異ナリ昔ナポレオンシントヘレネ島ニ幽囚サレ既世ヲ去ラント〔セシ〕トキ、大將ベルトラントニ言レシニ、アレキサントル、シーサル、シヤレマンモ予モ国ヲ興セシニ何ヲ用ヒタルヤ、力ナリ、キリストニ至リテハ唯リ愛ヲ基礎トシテ国ヲ興シタレハ、今ニ至リテモ百万ノ人彼ノ為ニ甘シテ死スベシ、爾アレキサンドル、シーサルノ世ニ勝チタル事ト彼等ノ克ク兵士ヲ動セシヲ談ス、乍去死人カ克ク兵ヲ用ヒ世ニ勝事ヲ知ラサルヤ、カルサシ〔カルタゴ〕ノ兵其大將ハニボルヲ忘レシ如ク、我ノ兵丁ハ最早我存命中ニ予ヲ忘レタリ、世人ノ力ハ如斯基者ニテ一敗ノ戦克〔ク〕我等ノ名ヲ地ニ落チ我等ノ親友ヲシテ尽〔ク〕離散サセシム、シーサ無限羅馬ヲ治〔補〕シ得ルヤ、キリストの世ニ勝ツハ其前敵無キカ如シ、是乃基督信徒ノ神ノ力ナリ、彼等ノ信仰ノ力ナリ、人民ハ亡ヒ在位ノ人モ亦亡フ、

唯存スルハ基督ノ教会ナリ

如斯ナホレオン亡ヒテナホレオンノ天下ハ他人ノ手ニ帰シタリ、ナホレオン今何ニ在ルヤ、シントヘレナヨリ改葬サレテ今パリスノ内ニアリ、同人ノ石棺ヲ見昔時ヲ想像スル人アルモ、人彼ノ為ニ涙ヲ払ヒ彼ノ為ニ旗ヲ揚クル人アルヤ、再ヒ彼ノ為天下ヲ「<sup>補</sup>改復」興サント計ル者アルヤ

第三 キリストノ目的ハ世人ト異ニシテ、一国ニ限ラス一人ニシテ終ラス\*

ナポレオン 幸第三世ナホ「レ」オンノ存ルアリテ、自ラ英雄ヲ以アリシ第三世ナホレオンモ避レテ英国ニ死、弟ノ嫡子ハ去年亞弗利加ニテスールー人ノ手ニ懸テ死シ、仏国ニ於テナホレオン党モ全ク望ヲ絶レタリ、ナホレオン死其目的モ尽キタリ

△支那ニ於テ彼始皇帝モ万里ノ長城ヲ築キ、子々孫々ニ伝、万世不易ノ吾天ト思ヒシモ、三世ニ至リ彼立派「ナル」咸陽城ハ灰トナレリ

我豊臣秀吉モ如斯ノ堅牢ナル大坂城ヲ築キシハ、必ラス徳川氏ニ遣ス目的ニモアラサ「リ」シナラン、然ルニ彼死シテ其肉未タ腐レサル内ニ天下ハ誰ノ手ニ帰セシヤ、嗚呼豊臣氏亡ヒテ豊臣ノ目的尽キ、徳川氏「タ」ヒ鹿ヲ中原ニ失シテ徳川ノ天下何ニアル、家康ノ目的何ニアル、人亡ヒテ目的モ亦亡ヒタリ

○然ラハ天下ノ英雄ト共、キリストモ死テ其目的ハ倒レシヤ、否々

彼ハサスカノ人物ナリ、鷲ノ「如」キ目力ヲ以テ克クキリストノ力ヲ察シ、遙ニ己ノ及ハサルヲ彼ニ、慢ナル心

ヲモ屈シ頭ヲ「ママ」

天国ハカラス「種」ノ如シ、キリスト寒貧ノナサレ村ニ生レ三十二至ル迄更ニ世人ニ知レズ、其招キ「シ」門徒ハ無

学ノ漁子輩ニシテ、其ノ交ル所ハ税取り、罪人、其ノ受クル所ハ種々様〔タ〕ノ病人、足ヲ容ル地モナク頭ヲ安スル所モナク、古郷ノ人ヨリハ迫害ヲ受ケ己ノ兄弟ニモ信セラレス、國中ノ学士紳士ヨリハ鬼ニ付カレノ評ヲ受ケ、真ヲ教ヘ神ノ聖旨ヲ伝ヘシニ、神ヲケガスト云ワレ、羅馬ノ支配人ニ向ヒ真ヲ証スル為ニ来レリ〔ト〕云ワ〔レ〕シニ、真ハ何ゾヤト被云、更ニ注意セス、我本邦人ヨリ之ヲ棄ヨ、之ヲ十字架ニツケヨ〔ト〕被呼、羅馬ノ兵士ヨリハ嘲弄ヲ受ケ、薔薇ノ冠ヲ蒙ラセ紫ノ衣ヲキセテ嘲弄シ唾セラレ打タレ、己ノ門徒ヨリハ売ラレ見捨ラレ、鶏ノ二回鳴ヌ前三回不知ト言ワレ、世ニ一人ノ頼ムヘキ友ナキニ至レリ、此混難ノ中共二十字〔架〕ニ付ラレ、己ノ任ヲ不忘、悔改セル罪人ニパラサイスニ入ルヲ約シ、真ノ証ヲ為テ止マス、此苦痛ノ中己ノ母ヲヨワン〔ネ〕ニ預ケ置キ、己レヲ十字架ニ付ケシ者ノ為ニ其罪ヲ許サン事ヲ祈リ、正ニ氣絶テ死セントスルトキニ当リ、吾力事成レリ終焉ト云レタリ、葬〔ラ〕レシ後第三日ニ蘇生シテ屢門徒ニ顯ワレ、共〔ニ〕歩ミ共ニ食シ四十日間モ天国ノ奧義ヲ教ヘ行キテ、世ノ極迄モ此福音ヲ伝ベシト命セラレテ、遂ニ昇天セ〔ラレ〕タリ、彼昇天スル〔ヤ〕否聖靈下リテ卑屈ナル門徒ノ心ヲ変シテ剛強〔ト〕ナシ、伝道者トナリ屢禁セラル、モ不止、牢ニ入ラル、〔モ〕又伝道シ、漸時ノ内五千人モ此道ヲ奉スル事ニ至リ、キリストノ門徒ヲ迫害セシソールモ、タマスコニ至〔ル〕途中ニテ異邦人ヘ伝道者トナリ、百折不屈遂ニ道之為ニ証シテ死ニ至リ、其後羅馬ノ政府モ此新教ヲ嫌ヒ信者ヲ迫害スル事十回ニ至リシモ、其流血ハ肥料ト成テ益信徒ヲ出サシメ、政府亡ヒシモキリストノ教会ハ○依然トシテ存シ、其元本腐レハ若キ目出テ、蘭ニイラスモス〔エラスムス〕アリ独一ニホス〔フス〕アリ、ルーサアリ、スウツララントニカアルウン○ズウシクリ○アリ、英ニウイキリフアリ、スコットラントニフクス〔ノックス〕アリ、如此乎□道ノ兵卒諸国ニ輩出シラシ、別ニ此百年以来宣教師印度ニユキ、トルコ、支那、亞弗利可、南洋群島ニ、遂ニ我邦ニ来レリ、之レ他ナシ、

キリストノ道ハ人間ノ道ニシテ<sup>〔朱丸〕</sup>○近來理學者ノ主張セラル、奥妙ニシテ、平々凡々ノ人間ノ克解シ難キノ類ニアラ

スシテ、實際ニ不適當ノ者ニアラス、聞テ行ヒ難キノ教ニアラス、論語読ミノ論語知ラズノ類ニアラス、古聖賢ノ道ヲ共ニ集メ試ミニ之ヲ行ハシメヨ、如何ナル結果アルヤ、試ミニ数千ノ僧侶ヲシテ釈迦阿ミ陀ヲ説シメヨ、如何ナル結果アルヤ

予孔子家ニ向仏法家ニ向争フヲ好マズ、唯々世人ノ基督教ノ源因ハ如何、其ノ今日ハ結果ハ如何ナルヲ、乞フ吟味アレ

○昔ヨリ多クノ不信者アリテ、段々汗ヲ流シ勉強シテキリスト教ヲ防カントセシモ、尚小キ石土手ヲ築テ大海ノ急流ヲ防クガ如ク、水之ニ当リ之ニ激シ遂ニ之ヲ流シテ流レハ、旧ニ依テ益流ル<sup>〔ママ〕</sup>レ更ニ止マラサルベシ

キリスト降世前アブラハム、モーセ、エリヤ、ダビデ、イサイヤ、タニエル、マレカイ<sup>〔マラキ〕</sup>ノ預言者、其降世後ニハベテロ、ヨワンネ、ポール、ポリカール、クリソストム、オーゴステインヲ初、此千八百年間何ノ国ニモ何ノ島ニ<sup>〔モ〕</sup>キリストノ目的ヲ奉戴シテ真ノ証拠ヲ立ツル<sup>〔補〕</sup>「テ」者不止、キリストノ徳ヲ称讃シテ不絶ハ何等ノ事

件ソヤ

○独<sup>〔朱丸〕</sup>乙国ニ不信者ノ巨魁ナルバウ<sup>〔ル〕</sup>ト云人アリ、キリストヲ不<sup>レ</sup>信モ、キリストノ人トナリハ歴史中実ニ了解シ成難キ者ナリ○仏郎西ニルナント<sup>〔イフ〕</sup>不信者云、後世驚ヘキ人物起ルモ決テキリストニ超過セサルベシ○<sup>〔朱丸〕</sup>ローソ

〔一〕<sup>〔日ク〕</sup>ソクレテースハ英傑ノ如ク死シ、キリストハ神ノ如ク死セリ

如斯古ヨリ信者モ血ヲ印シキリスト<sup>〔ノ〕</sup>真ヲ証シテ不止、不信者モ亦キリスト教ヲ解シ<sup>〔朱丸〕</sup>○難キノ驚キ、之ヲ恐レ之ヲ仰キ之其ノ真ナルヲ証セリ○キリスト死テ此真不倒○キリスト去テ此国益盛ナリ、キリスト<sup>〔一タ〕</sup>ヒ血ヲ以此

真ニ印セシヨリ以来、血ヲ以テ死ヲ以テ此真ヲ証シ、キリストノ目的ヲ<sup>〔續〕</sup>続ク者アルハ、キリストノ目的切ニ我等ヲ救フニアレハ、我等豈ニ雀躍<sup>〔ママ〕</sup>声舞シテ之ニ随ワサラン、之レキリスト倒テ其目的ノ腐サレ「ザル」所謂ナリ

○終リ<sup>〔朱丸〕</sup>

臨テ、此場ニ臨マ「レ」シ諸彦ニ告ケタキハ、前上数件ヲ以テ少シクキリストノ目的ノアル所ヲ論シ世人

敢テ比スヘキニアラサルヲ説キシモ、私ノ無知無学一小球ヲ手ノ上ニ置キ之ヲ此無限キ大宇ニ比スルニ似テ、言不足、譬不言、キリストノ御目的ノ万分一ヲモ拘ル能ワス、乍去少シク茲ニ説キ来リシハ我社会ニ向ヒキリスト教ハ此世界ニ如何ナル勢力ヲ持チシヤヲ知ラシメ、且同信ノ兄弟ニ対シテ我等ニ真ノ王アリ、我等此王ニ随順スルハ決シテ誤リニ非ラサルヲ説キ、手ト手ヲ握リ我等其ノ支配管轄内ニアリ、世ノ不信者ノ嘲弄等ハ更ニ意ニ挾マス、我等ヲ卑屈ト「云」我等ヲ無学ト云ヒ、我等モ愚婦愚夫ヲ更ニ不恐、我主基督真「理」ハ何カト云ヒタルベラトノ前ニアリ、十字架ニ付ヨト云ワ「レ」タル猶太人ノ前ニ立チ、我ハ真ノ王ニシテ真ノ証スル為ニ此世ニ生レ来シ「ト」云ワ「レ」シ如ク、我等モ此ノ罪惡多キ世ノ中ニ主ノ御目的ヲ継キテ、我等モ亦真ヲ証スル者ナリト云、困難モ苦辛モ十字架モ我等ノ心ヲ主ヨリ離ス事無ク、死ニ至ル迄此真ヲ証セン事ヲ望ム、願クハ主基督弱キ我等ヲ助ケ、我等ノ内ニ爾ノ御目的ヲ達セシメム、アーメン

〔年月日等不詳〕

## 64 十字架上之贖

### 十字架上之贖

一口〔三〕十字架〔ノ〕贖<sup>〔アガナイ〕</sup>ト申セハ至テ簡單之談ニ終ル様ニ思ハル、モ、此十字架之贖ハ此人間ノ歴史ニ大關係ノ

アルモノニシテ、十字架之贖ノ依テ其原因ヨリ又其結果等ニ及ハサレハ十〔字〕架之贖ノ何タルカ分リマスマイ○原因ハ何ゾ、是レハ遠ク人類ノ祖先ニ遡リ罪ノ人間ニ顕ハル、所ヨリ、遂ニ人間カ神ノ徳義上之法則ニ背キ宇宙之主宰なる神ノ罪人トハナレリ、然シ此罪カ何ヨリ初マ〔リ〕シカ其原ヲ推窮スルニ、人類之祖先神ノ命ニ背キシヨリ神ノ譴怒ヲ蒙ルヘキ者トナレリ、又其子孫ニシテ祖〔父〕<sup>〔補〕</sup>先ニ齊シキ罪ヲ犯シ易キ心ヲ以テ生ル様ニ成来リテ、罪惡カ人類ヨリ離ル、事ノナラヌ様ニ成来レリ

歌ニ、石川ヤ浜ノ真砂子ハ尽るとも世ニ盜人の種ハ尽きまし

是ハ克ク人ニ盜心之アル事ヲ言尽セシ歌ニして、竊盜ナリ姦淫、人殺ナリ種々万般之罪惡世ニ顕ハレ、何レ〔ノ〕国ニシテ此等之罪惡ノ行レサル国ハナク、国王ヨリ非人ニ至〔マデ〕人心ハ一ニして変る事ナク、殷之〔紂〕王ノ如キ、羅馬ノニロー〔ネロ〕王ノ如キ、又石川五右衛門之如キ、昔ヨリ歴史ヲ纒ケハ比々見ル所多ク人ノ罪惡ニ関ハラサラナク、又歴史ハ人ノ鮮血ヲ以テ記載サレタルト云トモ可ナランカ、然シ罪ト申セハ只竊盜、姦淫、好色、人殺等ノミヲサシテ罪惡ト申ヘキヤ否

罪ニ二種 外ニ顕ル、ノ罪、内ニ隱密ニアリ顕レサル罪トアリ、外ニ顕ル、罪ハ国ニ政府之法典ノ存アリ克ク之ヲ治

御ス、何レ〔ノ〕国ニ於テモ獄ノ設置アルハ已ニ犯セルノ罪アル証トスヘキ也、心ニアリ未タ頭ハ〔レ〕サル罪ニ付テハ如何、縦令或ル人カ密通ヲ企テオルモ若シ其人カ他人ノ妻ニ通スルノ確証ナキトキハ如何、其ノ人ノ心ノ内ニ燒ルル如クニ之ヲ思ヒ之ヲ企ツルモ外ニ顯レサレハ政府モ之ヲ罰スル<sup>〔アタ〕</sup>克ハス、又妻ノ良夫モ之ヲ知ル能ハス、乍去外ニ顯ハレサルヲ以テ罪ナキ人間ト難成、乃チ心之中ニ罪惡ヲ蓄ヘタル惡徒、乃心已ニ姦淫ノ罪ヲ犯セルモノ也

此所ヨリ之ヲ論スレハ、罪惡ハ行為ニ顯ル、分ハ却テ少ナク、心ニ蓄ヘアル分ハ甚多ク、今ノ世ノ中ノ人ヲ考ヘ〔レ〕ハ滿天下心ニ罪惡ヲ犯サル、モノハ殆アルマシト云フトモ可ナラン、蓋シ心ノ罪タルヤ孔子釈伽之如キ人物デスラ亦

〔ママ〕

或ハ罪ナキ能ハサルナランカ、況〔ヤ〕我輩平凡ノ人間ニ於テ〔オ〕ヤ、然シ吾カ此聴衆ニ向ヒ君等ノ尽ク罪人ナリト云フニハアラス、中ニ或ハ予ハ罪ノ何ニタルヲ知ラス、又心ニ罪ヲ犯セシ事モナキモノナリ〔ト〕云ハル人モアラン、

〔イカデ〕

予ハ此夕君等之心ノ罪ノ吟味〔ニ〕来ルニアラス、又人ノ心ノ事ハ<sup>〔イカデ〕</sup>争カ予之力ヲ以テ知り得ヘキモノゾ、乍去君等モ世間ニ罪惡ノアルト云事ハ槌ニ証セラル、ナラン、日々発兌ノ新聞ヲ見ラレヨ、一トシテ罪惡ニ関スル事ノ記セサルナキハ是人類ニ罪惡ノ現ニ行ル、実証ナリ

如斯罪ノ世ニ行レシヨリ人間カ宇宙主宰ノ明律ニ背キ、国民ニシテ見レハ恰モ国事犯ノ如キモノナリ、政府ノ免許ヲ受ケサレハ獄ヨリ出ツルノ機ヲ得サルカ如シ、此ニ於考レハ罪ハ人間ヲ神ヨリ分離セシメ不幸ニ陥ラシムルモノナリ

②

人物其平ヲ得サレハ鳴ルト申セ〔シ〕通、人ニ〔シ〕テ此不幸ニ陥リタレハ、恰モ是レ己レノ所有權ヲ失ヒタルカ如シ、人焉〔ゾ〕心ニ安キヲ得ヘケン、又心アル人物ナラハ必ラス之ヲ回復スルノ策ヲ立テサルヲ得ス、是レ一般普通ノ人情ナリ、又人々ニ身自ラ其ノ罪ニ当ルヲ好マス、茲ニ罪ノ贖ナキ能ハス

世人モ若キトキハ心ナキニ親ノ金ヲ引出シ親ノ意見、親類ノ意見モ聞受ケス、或ハ飲酒、或放盪ニ沈湎スルモノ少カラス、然ルニ年老ルニ至リ少シク心ヲヒソメ将来ノ為計ルノ念ヲ生シ、遂ニ珠子ヲ携極樂往生ヲ祈ルニ至ルハ本是レ罪ノ為ニテ、極樂往生ヲ得サルヲ恐レ又将来ノ罰ヲモ恐レテ神仏参リニ往カル、ハ他ナシ、罪ノ許シヲ求ムルナリ、乃贖ヲ要スルノ証ナリ、天竺ニ於テ己ノ子ヲガンデイ〔ス〕河ニ抛棄ル等、神ノ怒ヲシ〔ズ〕メンカ為己ノ子ヲ以テ贖トナシ河神ニ捧クルナリ

(三)

罪ノ許ヲ求ムルノ心ハ甚笑止ノ事ナルモ、日本、支那、天竺辺ニテ人々ノ神〔ニ〕向ヒ備ヘ物等ヲナスハ、ツマリ神ノ怒ヲシツメ又神ノ恵ミト保護トヲ受ケンカ為ナルモ、其求ムル所甚謬レルト云ヘキナリ、暗愚ノ世ニハ何ニモカモ恐ロシキモノハ尽ク神ニマツリ之ヲ尊敬スルニ至レリ、故ニ川ノ神ヨリ山ノ神、風ノ神、雷ノ神アリ、地震ノ神アリ、甚キニ至リホウソウノ神アリ、又昔時之豪傑人物等ヲ祭リテ神トナシ、之ニ捧ケモノヲナシテ此世ニテ幸福ヲ祈、又阿ミ陀、釈伽ニハ未来ノ救ヲ乞フカ如キハ、其ノ乞フヘキモノヲ謬レル所ナリ、如斯人間ノ作りタル神ヲ神トナシテ、人間ヲ作り人間ヲ守り造物主宰ニ随ウヲ忘ル、ハ、之ニ未来ノ冥助ヲ求ムル恰モ母親ノ手ヲ離レタ小児カ乳母ノ乳ニテソタチ、謬テ乳母ヲ己ノ母ト思ヒ其实ノ母ヲ忘ル、如シ、久々ニテ母親カ帰来リ己ノ児ヲ抱キ吳レントスレハ、顔ヲフリ向ケ乳母ノ懷ニダキツクカ如シ

我日本テハ是神道ヤ仏道ニテ教ヲ立タレ、宇宙造物主宰ノ教モナカリシ故、人間ノ手ニテ又考ニテ作為セシ神仏カ難有之ニ頼ミ未来ノ幸福ヲ祈ルハ、己ノ母親ヲ忘レ尚乳母ノ懷ニスカリ付ノ類ナリ、之レ求ムルモノヲ誤ルモノト云ヘシ

米國ニ有名ナルシーレ先生ト申人アリ、此人曾曰ク、基督教ト他ノ宗教ト異ナル所ハ要スルニ此ノ一点ニアリ、他ノ宗教ニ於テ人間ヨリ神ヲ探リテ之ヲ求ム、基督教ニハ神ノ方ヨリ人ニ顯ハル、釈伽ノ教ハ自業自得、孔子ノ教モ罪ヲ天ニ得祈ル所ナシ、此二ノ教ハ前途ツマリノ教ニシテ自業自得独往生ノ教ナリ○独基督教ニ至リテ其初ヨリ歴史ヲ説ケハ甚長シ、其聖典旧新約書アリ、旧約書ハ基督前ヲ説、新約ハ基督降誕后ノ事ヲ記ス、此之教ナル者ハ乃チ神ヨリ人間ニ顯ハレタル教ニシテ、神初イスラエル人民ニ顯ハレテ頗ル神ノ道ヲ示サル、又特ニ基督ヲユタヤノ地ニ下シテ真神ノ道ヲ説カル

〇三年ノ動キ 〇十二門徒ノ薰陶 山上ノ教

基督十字架ニ磔セラル、素ヨリ惡人ノ手ニ出ツルト雖、身自ラ此刑ニ就キ、己レヲ信スル〔モノ〕ヲシテ沈倫ヲ免〔レ〕テ永世ニ至ルヲ得セシメンカ為ナリ、此人間カ罪ノ為神ニ接スルノ幸ヲ失ヒ神ノ譴怒ヲ蒙ヘキヲ、神之ヲ捨ツルニ忍ヒス遂ニ基督ヲ以テ其ノ譴怒ヲ蒙ラシメ、之ヲ信シ之ニ就クモノハ何モノヲ問ハス尽ク之ヲ救ヒ、之ヲ許スノ門ヲ開カレタリ

縱令レハカンドウサレタ息子カアリシニ、母親カ父ニ乞家ニ戻スヲ求メシニ父之ヲ許サス、息子ノ身ジマリヲ為ササルニヨル、故ニ母親ハ子ノ為ヲ思ヒ二通ノ書ヲシタ、メ、一通ハ子ニ一通ハ己ノ夫ニヤリ身ハ自害シテ死ス、其ニ付父ハ大ニ驚キ、又己ノ妻ノ遺言ト申ス所ヨリ不承知乍モ其子ヲ<sup>〔家〕</sup>ニモトス、又息子モ道樂千万ニシテ少シモ悔改之色ナカリシカ、母子ノ遺言又己レ〔ノ〕為ニ自害モサレタト云所ヨリ大ニ目ヲ醒マシ、イツ迄モ道樂ハ出来ヌト想ヒ、家ニ帰リテ速ニ実着ノ人トナレリト

○是ニ同シク矢張基督ノ十字架ノ贖ハ他ニアラス、一ハ自ニ罰ヲキテ人間ノ為神ニ向申開キヲ為シ、一ハ己レノ身ヲ

捨テ仁ヲナシ、人間ヲ悔改ニ導キ救ヒヲ得セシムルノ途ヲ顯セリ

之ニヨリテ初メテ神人相通スルノ門開ケ、人間基督ヲ信シ基督ニヨリ其罪ヲ許サレテ、再主君主宰ナル天父ノ家ニ  
歸ルヲ得ルナリ

〔如斯十字架之贖ナクハ争テカ鍔石ノ如キ人心ヲトカシ之ヲ動スヲ得ンヤ

故ニ十字〔架〕ノ贖ハ一国民ノ為ニアラス世界万国ノ為ナリ、昇天ノ節モ万国ニ我カ福音ヲハ〔ナ〕セト命セラル  
提モタ〔テモテ〕前ノ文ノ四ノ十二云ヘルアリ、彼ハ万人ノ救主ニシテ殊ニ信スルモノノ救主ナリ

昔南北朝ノ戦争ノトキ

新田義貞カ足利尊氏ノ軍ヲ兵庫ニ防カントシ、〔湊川〕ノ戦ニテ軍利アラス身ハ殿シテ退ク、其トキ身ハ四方ヨリ敵  
ニトリマカレ丘ニ上リテ戦フ、其急ナルヲ見テ其臣小山田高家ナルモノ其ノ馬ヲ投テ留死ス、小山田ノ死スル己ノ罪  
ヲ許セシニ感シテ茲ニ死セシナリ、基督ノ為ニ死スルモノ幾万人ソ、今ヤ死スニ及ハス、之ヲ信シ之カ教ヲ奉シ之カ  
道ヲ行レハ、乃其軍法ヲ

〔以下欠〕

〔年月日等不詳〕

65 〔伝 道〕

主ノ命 ニード伝ヘサレ〔バ〕聞カス、聞カサレハ信〔ゼズ〕

ポールノ語ヲ引ケ

伝道之六ヶ敷事

学者ハ重シ〔カ〕

仏者ハ愚

商人ハ利ニクラマサレ不来

職人ハ下等

上品之道ニハ意ヲ不加

此六ヶ敷中ニ此六ヶ敷教ヲ布クニ如何ノ法方ヲ回スヘキヤ

○法方ハ入用〔肝要ノ地ヲ撰フ、又日ノア〔カ〕ク所ヲ求ム〕

○伝道ノ資格

聖書ニ明

祈ヲ常ニシ

神ノ霊ニ充ツ、愛ニ充ツ

〔朱〕  
「〔faith〕  
〔love〕」

〔朱〕  
「1st Corin-19th」

〔朱〕

「I am not ashamed of the  
Gospel Also Mark VIII-8」\*

伝道者

互々ニ交際

人情 人ヲウラム

人ノ進ヲ好マス

人ノシクジリヲ喜フ

人ノモノヲ取リタヒ

新儀

出版書籍

汽車

汽船

電信

〔朱〕  
伝道ヲ助クルモノ

○人ノツマヅキトナラス

○先ノ人ノ言ヲ容ル

○金銭ノ為ニ教会ト争ワス

○人ニ先チ十字架ヲ負フ

○兵士ノ例

〔朱〕  
「二人ニ聞クノ憂、衆ト計ラス」

○士食セサレハ食ワス

○教会ノ卒先者ナル〔ト〕モ教会〔ノ〕王タラス

惡魔ハ教会之中ニ却テ働キヲ為スモノアリ

人ノ情ニ明ニ

〔悲ムモノト共ニ悲ミ、喜フモノト共ニ喜フ〕

Individualism

Cost spirit

取ラルレ「バ」之ヲ恨ム

人ノアラヲ見付ル

○（人ノ風評ヲ聞キ真ニ之ヲ信ス

○（人ヲ信シテ容易ノ人ノ為ニナラスハ、信セサルベシ

〔信スヘキ人ヲ信セス、信スベカラサル人ヲ信ス

常ニ明カナル目ヲ要ス

○教会ノ与論不平ヲ知ル

本日ノ急務

政府、学者、政党 真理「ニ」ヨリ自由トナレ

全社会 家族 学校

上ハ雲ノ上、貧困卑賤ノ極ニ達シタルモノモ

○之ヲ改良スルノ人任

○人ヲ救ヒノ門ニ入ラシムルノ任

ジョン・ノクス 我ニスコットランドヲ与ヘヨト祈ル

○学〔者〕ローム、英国ノ進歩ニ関〔シ〕ピューリタン宗派人ニヨルト

此大事ヲ為ニ我ニ不足アリ、人ノ非ヲウツハ宜シカラス、我ヲ改良セヨ

予ニ勝ツモノハ世ニ勝タン

〔朱〕  
「the conqueror of the world」

○キリストノ十字架ニカ、リ己ニ勝チタル如ク、神ヨ日本ヲ我等ニ与ヘ賜ヘ

一片ノ鍔焼カルレハ炭酸<sup>〔カ〕</sup>ヲ入レ、タ、カルレハ固クナル

世ノ迫害ハ信徒ノ良薬、信徒ノ流セシ血ハ肥料トナル、世ノ迫害者ニ謝ス<sup>〔害〕</sup>

\*

〔年月日等不詳〕

“〔人間ノ惡〕

扱人間の惡事、乃惡心ノ盛ナル事ハ尚火ノ厚々モユルガ如シ、或ハ百川ノ山上ヨリ下ルガ如シ、其ヲ挽回セント計ル者出来レ共其ヲ全セシ者ハアラシ、縦令ハノア アブラハム モーゼス其外前智師ノ輩ハイスラエル人ヲ導カンとせしに、神ノ道ニ挽回セんと計リ〔シ〕ニ、野蕃ノ國ノ其初ハ神ヲ知ヲ論

其後神ニ遠かる尚遊星ノ一表面の太陽ニ背が如し、然シ夜分星ノ光るが如ク矢張道を教ユル者アリ

縦令ハグリースのソクレテイス、天竺の釈伽、支那ノ孔夫子、是皆々一世の英傑ナリ、其時ト世ニ随ヒ道を説きし者なり

ソクレテイス、孔夫子、釈伽皆尽〔ク〕世ヲ患<sup>〔ウレ〕</sup>ヒ國ヲ愛スル者ナリ

此ノ如ク、天ノ英雄ヲ遣シ道を教ヘシニ、人之ヲ用ヒズ、然ハ罪ヲ蒙テ当然ノ理ナリ、然ルニ神モドコマデモ此世ヲ愛シ

㊦神タル者ハ必ラズ罪人ヲ罰セザルヲ不得

東方ノ王ノ談シ、神ニ於テモ此ノ如シ、誰ソ其罪ヲ蒙ラサル者アラジ、然シ耶蘇ノ身代リニ参リし論、十字架上ニアルハ人ヲ勸ムルノミナラズ、人ノ罪ヲ償ベキ徳ナリ

㊦罪償ヒハ一國一人種ニ止ラズ万人ニ及ス者ナリ

ヨワンネノ辭、神ノ恙此世ノ罪ヲ取除ク者

一人ノ義ニヨリ万人其恵ヲ得、一人「ノ」罪ニヨリ万人罪人ト成ル事ヲ申セシ、然シ耶ソ死スト雖之ヲ信ゼザレハ十字架何んにあらす

アダムの子ト雖、罪ヲ侵サ「ザ」レハ神之ヲ罰スル能ハす、出来シニアラズ、乃センノデゴサル

〔年月日等不詳〕

67 「真理ノ敵トナル勿レ」

〔本文鉛筆〕

官吏ニ而若徒ニ其方法を取入、其職ヲ尽サザレハ無病之人ト云難シ、来リ新□ニ就ケ  
学者

○智識ノミニテ直ニ腐敗ヲ来スヘシ

○之を保チ之を生長セ「し」むる命なかるへからず、耶蘇教ハ乃其命也

（シール氏曰、基督教ハ社会之命也、若誤テ此命を取□シ社会ハ死スヘシ  
社会之進歩ハ止ムヘシ

大酒飲、博徒、放蕩家、窃盜

人殺、邪推、悪口、嫉妬

学者

教員

○新聞記者

来而基督を就□<sup>(二)</sup>

○教導職\*

基督克「ク」其病を癒サン

愚婦愚夫之目を開くを得ず□□何ぞ難有思ワル、寄附を貪り其金を以島原祇園ニ行散財せしを、愚婦愚夫之罪人  
ノミナラす阿弥陀之罪人、是乃無病之人ト難云

聞ク曰、僧侶基督教ヲ防かんと計ルト

彼等若シ克此教之何タルヲ吟味サレマシタカ、若シ吟味〔シ〕タナラ必ラス彼等之信奉ス可真理ト認ムヘキニ之ヲ防  
カント云ル、恐クハ克ク吟味を不遂唯外教ト云所、又之カ蔓延セハ自己の宗門の妨トナルヘ〔シ〕ト卑劣の心を以之  
ヲ為ハ、彼等ハ真理を求むる徒ニ非ス、乃真理之罪人ナルヘシ

孔子ハ□人、釈迦モ亦□人、誤ル事ヲハ氣之毒ニ存ス

願クハ基督ニ就キ眼目を開キ賜ヘ

▲トーマススペイン道理ノ世ト云書物を願シ、自身死スル大ニ悔ミテ死シマシタ

然るニ其を或る神門家カ被訳マシタガ、仏門家カ仏法を搏撃スル書物を訳シマシタ

▲ミルノ自由之理 基督少シモ力を失はず

○トゲアル鞭ヲケルハ難シト、基督教ハ真理ノ存スル、各存スル血ノ内、火ノ内、水ノ内に過シ今日ニ至レリ〔真理〕

ニ敵スルハ難シ□□ノ十四迫害

△神官方僧侶方ニモ基督教ヲ防カントスル尤千万

乍去今ヤ大河ニ鎖橋ヲカケ汽車ヲ走ラセ、逆風怒浪ニ向ヒ汽船ヲ進むる智識発達之世之中ナレハ、最早高マノ原シ〔須〕  
ミ仙ヲハトテモ間ニ合マイト御告申

貧乏人の衣の如くツキ当も見苦き者也、若シ旧き物を脱去、此新しき心を医スル基督教ヲ信奉セハ恐クハ

〔島原祇園ニテ散財、楊弓場ニ而此□重なる光陰を送る者ハナクナリマシヨウ○予如斯も懇々ト僧侶衆ニ忠告スル

ハ他ナシ、教導職己の身を悔改、人を教へ

罪ここここ

○一己人ヨリ社会ニ及

○アミダカ汝ララ癒サ〔レ〕タカ

未基督ニ就ケ

道楽息〔子〕娘 親父

〔以下朱〕

官吏方カ 来レ

真理ニ基キ人民ノ為ニ計レ

○新聞記者先生カ 来レ

真理ニ基キ真理之箒ヲ取り社説を吐〔嘔〕へ社会を掃除〔ス〕シヘキ

二学者先生カ 来レ

真理ニ基キ人民之目ヲ開ケ

三教導職カ 来リ 真理ニ就キ賜ヘ

〔墨〕  
▲▲真理ノ敵トナル勿レ▲▲

○英女王ノ聖書

（○独乙国帝之大使ニ談セル事

ウオルタヤ〔ヴォルテール〕

ウオルネー 真理之敵トナル勿レ

トーマスペイン

ギボン

ヒューム

チエスタフィールド

ミル

スベンソル

〔ミル氏カ自由之理ヲ見ヨ、大分耶蘇教ヲ打ツニ足ルト思ハレシニテ何ノカアルヤ、何ノ功ヲ奏セシヤ

〔墨〕

「▲真理ノ敵トナリ○永ク汚名ヲ後世ニノコシタリ」

後世之豪傑

〔墨〕  
※此 石

アレキサントル シーサ

ジンジスカン ナホレオン

豊太閤

〔年月日等不詳〕

68 〔真ノ勇氣〕

〔欄外〕

「仁ニ基ノ勇トハ」

〔上欄〕

「他人ヲ助ク」仁者ノ勇、仁者ニシテ而後必ラス此勇アリ、此レ乃チ我ヲ殺シテ仁ヲ為スヲ云也、是レ己ヲ忘レ他人ヲ益セン事ヲ求メ、他人ヲ助ケン事ヲ計、共同ノ心アリテ大衆ノ便益ヲ計リ、一己ノ苦ヲ顧ミス大衆ヲヨク救フモノヲ云也、譬ヘハ桜〔佐倉〕宗五郎、牝鶏ノ雛ヲ防カン為、己ノ力ヲモ計ラス、身自大難ニ当カ如ク、為〔三〕性総代ト為リ此勇ヲ為セルモノナリ、遂ニ磔架〔二〕揚ラレシカ如ク、又々基督カ万世人民ノ靈魂ヲ罪惡ヨリ救ワンガ為十字架ニ釘死サレシカ如ク、此ノ勇中雲泥ノ差異アルモ皆仁勇ナルモノニシテ、身自ラ其難ニ当リ從容死ニ就キ、断乎トシテ顧ミル所ナク、恐心ナク鼎鑊モ飴ヨリモ甘ク、之ヲ嘗テ尚甘カラサルヲ恐ル

〔船中〕

「愛ヨリ発スルノ勇ト云ヘシ」

〔六行空白〕

〔上欄朱〕

「一コマツタモノ

二情協ノモノ

〔カ〕

③□ヲハ悟ノ如ク危ウイモノ

○美ナルモノ

○好マシイモノ

○大ナル奥

遠大ナル 奥□□夫ナルモノ

小間違タル、少キ区々タル小区域ニ動ク仁。義アリ

宋襄ノ仁

〔補外〕

「義ニ基ク勇トハ」義ニ基キ発スルノ勇ニシテ、苟モ義ニ適セサレハ敢テ進<sup>〔カ〕</sup>マス、義ヲ敢テ為サス、義ヲ以テ規矩ト

シ繩墨トシ、唯義之<sup>〔ヲ〕</sup>視ハ唯義之<sup>〔非ム〕</sup>義ニヨリ生キ義ニヨリ死シ、義ノ不許サル所万里ノ村々モ土瓦塊ノ如

ク、巨万ノ黄金モ瓦片ノ如シ、又克ク恥ヲ知り心ヲ潔シ、義ヲ重スル泰山ヨリ重ク命ヲ輕スル鴻毛ヨリ輕シ、嗚呼此

勇タル史上ニ歴然トシテ輝キ凜乎トシテ万古ニ垂ル、<sup>〔上欄鉛筆〕</sup>「義士ハ為知己死スト、楠公ハ義臣ナリ」、之ヲ読マハ人ヲシ

テ坐シテ毛髮ヲ動カサシメ、又男兒ヲシテ転感涙ヲ流シム

此勇一<sup>〔タ〕</sup>ヒ発シ伯夷叔齊ハ首陽ニ餓死シ、五百ノ義士ハ田横ニ、死シ、或文天祥ハ正氣ノ歌ヲ作り述へ、小島高<sup>〔カ〕</sup>

徳ガ五言ノ句トナリ<sup>〔補〕</sup>「ヲ彫ミ」、晋ノ濟□ハ其敵人衣ヲサキ、赤穂ノ義士ハ主君ノ仇ヲ酬ヒタリ、今太平ノ天下ニ義

勇ニ乏シキモ時窮節乃見ル、一義士又他義士ヲ生シ伝テ今日ニ至ル<sup>〔カ〕</sup>乎義勇

之ヲ望マル恰モ旭日ニ香フ山桜ノ如シ、一片ノ日本魂ヲモ見ルニ至ル、古来太平ノ天下ニ義士ニ乏キモ

「此勇アリ初テ六尺ノ狐ヲ托スベク、百里ノ命ヲヨスベシ」<sup>〔上欄〕</sup>

美ナル哉此義勇

之ヲ望マル恰モ旭日ニ香フ山桜ノ如ク、一片之日本魂トハ此義勇ヲ云フモノなり<sup>〔補〕</sup>「ニ非シテ何ソ」

〔鉛筆〕「我史上ホマレ有ヘシ」

此勇アリ忠臣起リ、孝子出テ、貞婦顯レ、信友見ユ」

〔獨外〕  
「利己ノ勇」

利己ノ勇ハ利ノ為ニ動カサレ慾ノ為ニ鼓舞セラレ、色情好色又ハ食慾ヲ逞スルナリ、〔補〕「飲食ナリ」富貴ナリ功名ナリ

己ニ一度ヒ之ヲ求メ之ヲ得ント企テタレハ、非常ニ忍ヒ非常ニ堪ヘ、艱嶮ヲモ意トセス水火ヲモ恐レズ、又己レノ身

ヲモのニカケ、進ムモ得ルニアリ退クモ得ルニアリ、得サレハ飽カス得サレハ足ラス、足ルモ尚求メ、工風百方偽詐百

端、陽ニハ仁義ヲ説キ君子ノ仮面ヲ蒙リ、主義ハ便宜、手段ハ籠絡、陰ニハ利益ヲ以テ人ヲ食ワシメ、人ヲ盲ニシ人

ヲ奴〔隸〕ニシ人ノ血ヲ流シ、甚シキニ至テハ一国一洲ノ利害治乱廢興存亡ニ関スルニ至ル、此勇一「タ」ヒ発セハ或

ハ嬋娟タル美人ヲシテ細谷川ノ丸木橋ヲ渡ラシメ、或ハ穀ツブシノ惰夫ヲシテ暗夜刀ヲ振人ノ家ヲ襲シメ、或ハ利ヲ

貪ルノ商估ヲシテ〔鉛筆〕「暑ヲオカシ雪ヲ踏ミ」〔カ〕アフリカノ沙漠ヲ渉ラシメ、〔上編鉛筆〕「利ヲ射ラントテ北氷洋ニ赴クノ類」、或ハ

〔鉛筆〕「セント□□」英雄ヲシテアルペンノ嶮岨ヲ越シメタルノ例枚挙スルニ暇マアラス、嗚呼此勇タル人情ノ

向フ所ニシテ恰モ百川ノ海ニ下ルカ如ク、誰カ克ク之ヲ挽回シ得ヘキゾ、是レ不學シテ得不習シテ熟ス、一婦人一小

人ヨリ大人丈夫ニ至ル迄、苟モ情慾ヲ存セハ恐クハ此勇ヲ脫離スルモノナカルベシ、彼ノ有名ナルアレキサンドル、

ハ〔シ〕ニヴル、シーサル、ジンジスカン、ナホレオン、豊太閤、〔上編鉛筆〕「熊坂長範」ノ如キ富貴利達ノ夢中□□ニ

出タル□ノ如人□□勿レ、此勇ヲ以テ此世ヲ正セシモノナリ

△我輩基督之教ヲ奉スルモノハ切ニ真理ニ遡リ、真理ノアル所ヲ探リ、真理ヲ我心ノ食物トナシ、一生涯ノ友トナ

シ、其道ニアラサレハ決シテ世ニ

○諂諛セス、世ノ風潮ニ動揺セラレス、真正ノ勇氣トハ

飄々乎トシテ水ノ上ニ浮テオルモノノ類ニアラス、上ヘヲ立派ニ飾ル白壁ノ如キルイニアラス、真理ノアル所ニ基

キ断乎ト進ムモノヲ云ナリ

○我心石ニアラス転スヘカラス、然而転々反覆シテ石ノ如ク□、席ノ如ク卷カレス

〔以下朱〕

外物ノ左右スル所トナラス、自ラ撰ヒ、自ラ任シ、自ラ甘シ、自〔ラ〕往キ、自〔ラ〕進ムモノナリ

○血氣ノ勇

○任侠ノ勇

〔公〕正過  
〔墨〕※蹂躪スル

〔死灰〕 名利ノ勇

北川 スウィフト アウオン セヴルン 小海 大洋ニ達ス

〔墨〕 ウィキリフ ロッタウオルス

〔墨〕 ※克己而為仁

〔鉛筆〕 克己而為礼、真ノ勇士也

○外物ヨリ動カサレ勇

○克己ノ勇

〔ママ〕 克己友仁

〔墨〕 ナメクジニ塩ヲカケル様ノ勇士

○義者ノ勇 朋友ノ為

君ノ為

田横義ヲ重、己ノ命ヲ鴻毛ヨリ輕〔ズ〕ル者

一 我赤穂ノ義士ノ勇

伯夷叔齊

文天祥

謝枋得

〔墨〕「我日本ヲ仲間入ヲ為シタシ」

〔ボール

〕ウイクリフ

〔墨〕「ジョンホスノ火アブリニ発シ」

〔鉛筆〕「ジョンホス」「死灰尚生ク」

〔シーサル

〕ヒグノーノ堪忍トナリ 一代ノ他ノ世ニ至リ

全世界ヲ渡、一国〔ヨ〕リ一国ニ至リ

議場ノ発シ或ハ社会ニ発シ 或ハ病院或ハ戦場ニ顯 一家ニ発シ

和蘭ノ独一軍トナリ数年

米國植民スル原因トナリ、又同國独一ノ基トナリ、奴隸放免ノ基礎トナリ、或ハ自由教育ノ大學設立精神トナル

〔年月日等不詳〕

69 三日間之大現象

〔本文朱〕

三日間之大現象<sup>〔象〕</sup>中

侃々ト神聖

キリストノ神性ヲ示シ賜イシ事

神性ヲ具ヘ賜ハ平安ヲ保チ賜ヒ、人性ヲ具シタル門弟、祭司ノ長ピラト、ヘロ

○人間ノ人性ヲ顯シタル事

<sup>〔デ〕</sup>ト等ノ近眼、狼狽、惡意、病症<sup>〔カ〕</sup>

パスオウル<sup>〔過越〕</sup>ノ週間ニシテ、此日ハ大ナル日ノ初、乃其日ノ日ノ入ヨリ初ム<sup>〔カ〕</sup>

其夕景ニエルサレムニアリ、或人ノ二階ニテ晚餐ヲ守ラルヨリ初、キリストノ蘇生ニ終ル

此三日間ニ出来タル事柄ハ中々此□時ノ間ニ言尽難ケレハ、只其要ヲ取り鄙見ヲ陳ヘ兄弟ノ勘考ニ供セントス

晚餐 テーブル

門弟<sup>〔カ〕</sup>吾前ヲ争フ

キリスト門徒ノ足ヲ洗フ

互ニ改メヲ為ヘキラ教ヘラル<sup>〔カ〕</sup>

門弟ノ内一人カ主ヲ売ヲ前言ス

キリストノ命ハ旦タニセマレ<sup>〔ル〕</sup>ニ

從容トシテ晚餐ヲ食ヒ 己レノ此世ヲ去ラル、事ヲ知り、永ク其師ヲ記念スル為ニ晚餐ヲ設ケラレ、門徒ノ心ヲ

慰メ、〔以下墨〕聖靈ノ約ヲ為シ、門弟トキリストトノ密着ナル關係ハ葡萄ノ枝ト幹ノ如キヲ示シ、世ニ迫害カ起

ヲ預メ告ケ、天父ノ前ニ於テ彼等ノ為ニ祈ラレ、而してペテロ鶏ノ鳴サル前ニ主ヲ三〔度〕不知ト云ヲ予告セラレ  
ゲッセメネーノ園ニ趣カル、此ハ平素キリストノ好テ休息セラレシ場所

キリストハ悲歎ヲ以満サレ——ミトシテ哀マレ、弟子〔ヲ〕シテ少シク離レ天父ニ此杯ヲ取レト祈ラル、幾分カ人情  
人性ヲ示シ賜シ所

〔此辺ハ神性ト人性ト混シタル所ト見ユ、去〔レド〕神性ノ動キ強クシテ又御意ノ儘ニ為シ賜ヘト祈レリ

吾ヲ守レト仰ヘレシニ、三人ノ弟子等ハ哀ミニ堪スシテ半睡シテ居レリシ、何ヲ以キリストニ答ヘシ〔カ〕ヲ知ラ  
サリシ

〔ママ〕祭司誰長カ兵丁等ヲ率ヘテキリストヲ執ヘン〔ト〕シテ来ル

キリスト其木戸ニ罷、誰ヲ尋ルヤ問ハル

〔ナサレノキリストト云タレハ、其レハ我ナリト答エラル、

兵丁等ハキリストノ威嚴ニ恐レテ退〔キ〕地ニ伏ス

ユダハキスデ其師ヲ売ル

ペテロ刀ヲ拔テ近祭司ノ長ノ僕ノ耳ヲキル

キリストハ静ニ伏テ其耳ヲ拾ヒ、其僕ノ耳元ノ所ニ附ケ之ヲ癒ス、ペテロヲ誡曰ク、劔ヲ取ルモノハ劔ヲ以死ス  
ヘシト

我父ニ求メ〔バ〕父ハ天使ノ十二軍ヲ下サ、ル知ラスヤ

キリスト先ケーフアス〔カヤバ〕ノ「役宅ニ」前ニ引出サル

其ノ外ニハ学者ヤ民ノ年寄等モ来合シ居レリ

ヨワンネ、ペテロ二人キリストニ連従フ、ペテロ身ヲ火ニヨリアタ、ム 祭司ノ長ノ下婢火ニアタリシ人ニ、祭司ノ僕ノ耳ヲ切レシ人示三回ペテロニ問フ ○我左ニアラスト答フ、主顧テペテロヲ見賜フ、其ノ眼中ハ如何ナルモノヲ

含蓄セシヤ、ペテロハ直ニ主ノ語ヲ思ヒ起シテ門ヲ出テ、痛ク、悲ム、

ケ―ハスノ前々ニ偽ノ証ヲ持チ来ルニ、キリスト下シテ死ニ当ルヘキモノナシ

神ノ宮ヲコボチ三日目ニ之ヲ立ツ

此ノ後人ノ子ハ神ノ權威ノ右ニ坐来ヘシト云ヒケレハ、爾ハ神ノ子ナルヤト問

キリストヨク証タルヲ以テ足レトシ

之ヲキリストノ目ヲカクシ、キリストヲ打着ス

夜ノ曉ニ及ハサル前ニロトマノ手ニ渡〔ス〕

彼等

其人ハシーザニ税ヲ納ムル勿レト教ユ、爾ノ猶太人ノ王ヤ問ハル

爾自之ヲ言フ、又他人我ニ対テ具ニ談セシヤ

吾真理ヲ証スル為ニ来

○真理ハ、何ゾヤ

多ノ証ヲ持チ来ル〔キリストハ一言ノ答モナサス〕

ピラト此人ニ罪科アルハ見出サス〔ト〕言レケレハ、人々ハカリラヤヨ〔リ〕初メテ猶太〔國〕全ノ人ヲアヤマラス

〔朱〕  
「Keep」ガリヤト聞キシヨリピラトハ此ノ困難ヲ己ノ身ニ負〔フ〕ヲ好マス、又ヘロデノ歛心ヲ得ンカ為ニ之ヲヘロデ王  
〔カ〕ニ呈送ス、喜テ之ニ逢フ、奇蹟ヲ見ヲ好ム、種々問アル、キリストハ一切答弁セス、白キ衣ヲ着ケペラトニ返送ス  
〔ト〕

此兩人平素不和ナリシモ、此際相和スルニ至レリ

兩人

主義ナキニヨリ人物ナリ

罪人ヲ救スノ例アリ

〔バ〕  
バラス キリスト十字架ニ付ケ〔ヨ〕ト叫フ

ペラト己ノ手ヲ洗テ己レ無辜ノ人ヲ殺スノ罪ニ預ラサルヲ証ス

猶太人血依己ノ手ニ滌スヘシト呼フ

猶太人ノ呼テ人理ヲ失スルヲ忘レ、遂キリストヲ彼等ノ手ニ渡〔シ〕十字架付シム  
〔悉〕

○ローカ〔ルカ〕 二十三ノ十四 ヨワネノ十九ノ五

○ヨワネノ十八ノ三十八 十九ノ六

罪ナキヲ証シ

〔タ〕  
ゴルゴサ〔ヘブライ〔語〕 彼ハ罪人ト共ニ数ヘラルトイサヤノ預言ニ於十字架ニ付ラル

カルワレー〔カルバリ〕〔ラテン〔語〕

ステ札ハ、ナサレノエス、猶太ノ王

十字架上ノ現像ハ

父ニ向彼等其為ス所ヲ「不」知、彼等ヲ許シ賜ト祈ラル

學者年寄キリストヲアサケリテ曰ク、彼ハ人ヲ救ヒ己ヲ救ハスト

キリスト其ノ母ヲヨワンネニ托ス

○エロイ エロイ ラマ サバクタニ

我靈「ヲ」爾ニ托ス「ト」云レ、イキ絶タリ、

正午ニ至天俄カニクモリ

之ニ立リシ百夫ノ長、キリストノ死ニ様ノ奇ナルヲ見、真ニ此人ハ神ノ子ナリ義人ナリト云ヘリ

兼テ從ヒ居リタルアリマタヤノヨーセフハ新キ墓ニ葬ル

ニコデモ 香物等ヲ備テ葬式ニ来ル

〔朱〕  
「ヨワンネ 十八ノ二十八ヨリ四十」

第七日目ニサンヒドリム、ヘロデニ乞、番兵ヲ置キ墓ヲ封ス

第一日ノ早朝雪白ノ衣ヲ着タル天使石ヲ転ス

地震ス 其上ニ坐ス、番兵恐テ死人ノ如クナル

マクタラヤノマリヤ又他ノマリヤ香物ヲ携ヘ来ル

キリストヲ求ム 天使 何ソ生キタル者ヲ死人ノ内ニ求ムルヤ

彼茲ニアラス先前ノ語ヲ起念セシム

（第一日モ四回程其門徒ニ顯ハル

一 人性ハ神性ノ少シク注入シタルペテロ

一 人性中最下等ナル

祭司ノ長 ピラト ヘロデ ユダラノ所業

祭司長ノ所為ハ充分ニキリストニ勝タルカ如シ

真理ハ遂ニ世ニ勝ツナリト 猖獗ナルピラトヲ充分ニ己ノ方ニ抱キコム

番兵ヲ置キ墓ヲ封ス 大勝利

○人間ノ工風ノ出来「ル」丈ケハナシタリ

人性ノミニヨルトキハ我輩モピラト、ヘロデ、猶太人「ノ」別無ク、死ニテモ真理ニ逆カラフ生涯ヲ送ル人トナラン  
或ハ惡事ナキモ名利ヲ求ムルノ人タルヲ免レサルベシ 神ノ性ヲ受ベシ

世ニ勝 門戸ニ至、我ハ手ヲ開テ抱キ

我カ祖先ノ時代ニハ此招キヲ得ノ機ナキモノ、今ハ救ヒノ日恵ノ時ナリ、此ノ時期ヲ失フ勿レ、ナンソ兄弟ハ幸ナル  
モノナリ

〔年月日等不詳〕

70 病人ト医者

〔以下墨〕

病人 医者

〔仏 眠クナリ

〕論語ヲキク〔カ〕矢張論語〔読ミ〕ノ論語不知

〔私モ一病人 医者ニ治セラレリ〕〔真理ノ存スル所之ヲ讀〕ク読ム内ニ味ヲ生シ

此医者ハ心ノ医、魂ノ医者

此魂ノ医者ハ何ノ為ニ世ニ出サレマシタカ

世ノ人々ノ心ニ罪ト云大難病アリ、此ノ為人々心カ不健全トナリ、精神ハ乏シク、漸々乎々□病ニ趣キ実ニ見ル  
ニ忍ビサル所ヨリ、此世ニ降ラレ、之ヲ治シ之ヲ癒サントスル也

○心ノ病ヲ持テル例

○心ノ癒サレシ者ハ誰ゾ〔鉛筆〕「心ノ清キハ幸ナリ、彼ハ神ヲ見ヘケレハナリ」

○如斯病氣ノ癒ユル事ナラハ此ノ息子ヲ頼ミタイ、私ノ娘ヲ頼ミタイト云ワルハ乃之ナルベシ

〔朱〕「陽ハ美ナルモ其志操カ卑賤ナルトキハ随テ卑賤ノ結果アルベシ」

「勇氣ナクテハ此教ニ入ラレ〔ヌ〕ト云人アルヘシ、予曰此教ヲ奉スレハ勇氣ヲ生スヘシ、活潑精神ヲ得ベシ

〔特〕」此迄使ヲ有タハ惡魔ニ打勝ヲ得ヘシ、古来ノ英雄皆此ノ奴隷トナレリ

Peter  
Paul  
Augustine

Luther  
Zwingle  
Whitfield  
Bentham

(Hagin. [カ])  
(Greenfield.  
Gladstone.)

if you take Christianity  
from the society you are  
taking away very life of  
it.

I—

If you take away Christi-  
anity from the society you  
are killing the best doctor  
among you.

(Will you do it.  
Will you do it.

I was not healed by all  
religions we have had.

I have never seen any  
person healed by them.

人病之心

神日本は神国之事ナラハ何ニても関か〔補〕「無己」西洋之医□愛中ハなん  
決して帰らす其後□却而□□此医者ニかる□ました、然る〔に〕三ヶ月もたゝぬ内少しく初に〔カ〕其より草  
鞋腰弁当ニて所々ニ出かけ、辻ニても立て来る人々に此医者の手キワヲはなしました、府下ニ一時ニ蘭方医ニ行  
ける様ニなりました、〔補〕「快楽」申□類か御座ります○却説今日私の御話申タは、大病人ト上手の医者トハ他にあ  
らす乃〔補〕「病人」心之大病人、医者〔カ〕心之医者

〔朱〕此手ヲ脱スル勇ニ非ッテ何ソ  
○坊主ハ不品行

衣ヲ衣テ島原、祇園等ニ行、衣ヲ汚シ、夕景ニ至レハ衣ヲ脱テ楊弓場ニ入り込ム

○教導職トスルニ足ラス、乃チ心ニ病アル人アリ 盲目カ盲目ノ手引スルトハ□事也

〔墨書の下に鉛筆書あるが判読不能〕\*

〔以下鉛筆〕

〔補〕「無己」西洋之医□愛中ハなん

〔カ〕三ヶ月もたゝぬ内少しく初に 其より草

己の息子

○癒<sup>〔カ〕</sup>も□□と云人とならん

其<sup>〔カ〕</sup>より呈<sup>〔カ〕</sup>す

○自身ニ来る□癒<sup>〔カ〕</sup>□□

○下等中等上会社ノ紳士方ニも此病氣ニてあり

肉体か寔健全無病と申とも此病者<sup>〔カ〕</sup>あり、□事<sup>〔カ〕</sup>と思わは今日此名医なる耶蘇基督を聴衆諸君ニ御勸申す

○職人の為ニ人外ノ取扱ヲ受テ氣ノ毒ニ思ヒ

、牢獄改革<sup>〔學點以下同〕</sup> ジョン ハオルド (ベレー)

、黒奴売買を禁止 ウィルハフォース

、黒奴自由 「民権主義ノ」 リンコルン

、安息日学校 オネメーケル 富巨万

グラットストーン 自由主義

〔年月日等不詳〕

71 「キリスト教ノ感化力」

「本文鉛筆」

「罪之有様」

孔子之論——結果ハ如何<sup>〔カ〕</sup>

「釈伽之働<sup>〔カ〕</sup>——結果ハ如何

「ソクレテス——如何

外よりハメル所の教之如クあり

○偽ル勿、盗ム勿レ、因果輪廻之説ニ而人ヲ化スルノ策、了簡分別ヲ出来

○何か心ノ奥に未タ食改<sup>〔悔〕</sup>まらぬあるに似たり

一国ニ限る、一国之教を近国ニ限る

自「ら」範圍がある

範圍外ニ成らねば、山ニ入坐禪をくミ惡を避るノミテハ世を益スル教テハナイ

○基督ノ教ニは至り<sup>〔カ〕</sup>「ては」外よりハメル所の教之類ニあらず

基督教ノ一聖人賢人之立し所の教の外、別ニ天啓ト云者かありました、又神「と」聖靈と云者共に働きて人間ノ精<sup>〔カ〕</sup>

神を一変させます○新ニ生れされハ神の國を見る能はず、日本ニ維新か「あり」ました通、人間ノ一身上ニ維新は<sup>〔カ〕</sup>

起りてコサル

此教之羅馬ニ入しに羅馬之國教があり、之ニ爲其教を迫害して不止、遂ニ十回程も基督信徒をせめました、然ニ之を止むる能はず、之をタ、ケハ益堅、二百年タ、ヌ内之をキレハ益フエ、之の血を流セハ其血ハ後來信徒の肥料トナリ益信徒の人員ハ増加シ、其教仏郎西ニ入り独乙ニ入り、ブリトン島ニ入り、野蕃人民を改良して遂ニ今日文化の民となして、英國ニてピユリタン信徒か迫害を受けしより不羈卓語之精神ヲ起、義なるピユー〔リ〕タン人数十尺の怒浪をコヘ米國ヘ来り、遂ニ自由なる共和政治國を設立し、此教アフリカニ達ス〔ヤ〕直ニ改革改良に初〔リ〕ます、印度ニ達シて印度人に達して波羅門宗の迷霧を退キ

アレキサントル・ダフ耶蘇教大學を設け、欧州ノ學術ハ此教を布キ大ニ〔ママ〕

○有名ナルジョンソン〔ジャドソン〕ノ面絢ニ伝道し而面絢開化ニ向ひ〔極句〕

サントウチ〔サンドイッチ〕六州年間の内野蕃を一変して開化之島となし支那ニ達スル也、支那人中大ニ孔子〔ノ〕教之足ラサルヲ發見シ、日本ニ至るルヤ未タ日淺ト雖、我輩此道を奉する信する者至るアラサルハナシ〔カ〕

○シーレ氏曰、基督教ハ社会ノ命也、社会より之を取除ケハ其命を取除也、又曰基督教ハ区々トシテ一國ニ限る教ニアラス、又□屈ノ学者ノミニ限ル教ニアラス、世界ノ教ナリ、此教人心ノ戸ヲタ、キ頑固ナル錠ヲ開キ人ノ心を化し得る者也〔補〕

昔時より此教發し一己ノ心を癒ル〔カ〕又随而社会の爲ニ計りし者萃〔て〕数ふに暇あらす

一己人之改良カ社会ノ改良トナル

○人物

④下等ノ人民に一見識を与、人間ノ本分を知らしむ

上等ト云うも罪に深き人ハ矢張品位ノ卑キ者也

基督教ハ此等を救ワン為也

「<sup>〔ベン〕</sup>イツマテ愚夫愚婦として——て置クや、阿弥陀ヲ本堂ヲトリ取<sup>〔ママ〕</sup> 不見識」

○聴衆へ向而談す

十字架を取己<sup>〔カ〕</sup>ニ随へ 悔改○改行○悪靈ト悲ノ世界を掃除し、神聖ト歓楽ノ世トナス

基督<sup>〔カ〕</sup> 救ヒ又罰

〔年月日等不詳〕

## 72 愛神愛人

〔本文ほとんど朱〕

### 愛神愛人

愛神スル事ヨリ第一ニ神ハ如何タルヲ窮知ラ〔ザル〕ベカラス○易繫辭下伝四章ニ窮神知化徳ノ盛ナル也トアリシ通ニ、吾人人類苟〔モ〕造ヲ天父、宇宙ノ主宰ニ受ケ衣食足今日如斯運動シ生活シ得ルハ造物者ノ恵ト云フ者ナレハ、吾人之ヲ知り又知ノミナラス之ヲ愛シ之ヲ信シ、之カ命ヲ奉戴シ敬テ之ニ使フル事カ人間第一ノ義務ニシテ、是カ乃人類中至徳要道ト云ヘキ者テアル、古來何レ〔ノ〕国ニテモ道德ノ教ナキ国ハアルマシ、去レトモ道德ノ行レサル所謂ハ兎角此第一点カ不分明ニシテ、支那人ノ鬼神トカ上帝トカ天トカ云レタ事モ幾分カ人間ヨリ遡リ宇宙ノ主宰ヲ知ラン事ヲ求メタ計デ、支那ノ古聖人ノ教ニモ分明ニ此上帝乃此主宰ト云者分ヲナシタ故ニ、人間中神明ニ対シ考ヘ神明ニ対シ事ヲ為スト〔ノ〕意カ徐ニナクナリ、良心ハ益鈍クナリ道心ハ益衰ヘ、孔子ノ如キ人物カ出マシタレトモ矢張堯舜ノ道ヨリ違ワス、孔子以後ノ人物モ矢張孔子ノ轍ヲフミ、明ノ王陽明ノ如キモ全ク孔子ノ範圍内ニアリテ終リタ様ニ見ヘマスレバ、先ツアノ様ノ者デ支那ニ結果セシ所ヲ尋ヌレハ、支那人ハ學者ト云ハ多クハ人ヲ治ル者ニシテ學問ハ乃治國平天下ノ者ト思ヒ、兎角己ノ徳ヲ脩メ身ヲ脩ムル点ニハ怠タリ賄賂ノ盛ニ行ウル等ノ事ヲ見レハ、アレ程聖人ノ學問ノ流行スル所デ聖人ノ道ノ行ワレヌ事ヲ見レハ、支那ノ道德ト云者ハ矢張役人官ニ就ノ道具ノ類、又礼儀ニ流レ外部ノ形様ヲ飾リテ、皇天上帝ニ対シ己ノ心ヲ清クシ正直ニスルト〔ノ〕教カ乏シキ故カ、世界中支那人

ホド諺ヲ云フ人民ハナキト評モアリマスレハ、悲乎支那ノ古聖人ノ道德ト云者ハ本家ナル支那ニテ好結果ナク、又出店ナル日本ニシテ今ハ地ニ落チ、古聖人ノ道德トカ云レ人ハチンブ<sup>(陳腐)</sup>タトカ云テ笑フ世ノ中ニナリ、古聖人ノ道ヲ学タ人々モ今ハ世ニ少シノ勢力モナク、社会ヲ改良スル等ノ望モ見エス、兀然トシテ僅々ノ門戸ニ教ユル位道ヲ教ヘス、唯文字ヲ教ユル位ニナリ行タル、我社会ニトリ幸ト云ヘキカ又不幸ト云ヘキカ、予ハ幸ヲ論セス、支那ノ古聖人ノ道ハ如斯基勢力ノナキ者ナリト断言セサルヲ不得

支那ナリ日本ナリ特別ノ好結果ナキ教ナレハ、何レ「ノ」国ヘ持チ行トモ同轍ニ出テ社会改良ノ結果ハ期シ難キ也、然ラハ今ニ至リ古聖人ノ道ハ地ニ落タレハ之ニ代ヘキ者ナクシテ可ナルヤ、当時流行ノ学問ヲ以テスヘキ也否、学問ハ人智ヲ開達スヘキ者ニシテ今ノ世ニ当「三」実ニ欠ヘカサル者也、乍去学問ハ人智ノ養分、人間ノ天ヨリノ付与サレタル道德心ノ養分トハナリ難シ、故ニ之ヲ養フニ道德ナカルベカ「ラ」ス、然ルニ支那古聖人ノ道德ハ已ニ支那ニモ日本ニモ勢力ヲ得サレハ、今世ニ当リ之ヲ持チ出ストモ時運ニ後レタ事ナレハ、今ノ文明ト克テ追々文明ヲ清淨ニナシ得ル基督教ニ就キ之ヲ求ムルノ外他ニ策ナカル「ベ」シ、小生ハ基督教ハ文明国ニ行ル、ニヨリ必ラス文明ノ助トナルト「ノ」論点ヨリ出テス、幾分カ自身ニ之ヲ□探シテ少シク得ル所アリ、少シク発明スル所アリ、故ニ基督教ハ今日我道德ノ衰ヘタルニ布カサルヲ不得ノ大切ナル、人間ニ欠ヘカサル教ト思込シ教ニシテ、之ナケレハ一己人ノ改良アル上ハ一国ニ及、一国ノ隆興ヲ期スヘシト思ヒ、教ニ入ルヤ神ノ感化力心中ニ動<sup>(動点)</sup>キ心カ一新スルニ及フ

愛神 △「宇宙ノ主宰ヲ拝スル事ヲ知リ

偶像ノ代リニ

愛人

己ノ名利ヲ拝スル代リニ

△「主宰ノ尊敬スル事ヲ知リ

「天下ニ恐れ、者ナキ人ハ恐クハ

第一 △(主宰ノ前ニ謙遜スル事)

〔己ノ心ヲトキ又惡ヲ為シテ恐レサルヘシ〕

(人ニ比シテ傲慢ニ流ル、事害アリ)

〔主ノ愛ヲ知<sup>〔カ〕</sup>随テ此主宰ヲ愛シ、主宰ノ意ヲ奉戴シ人間ノ価ノ重キ事ヲ知、人間トシテ人間ノ道ヲ尽サスハナラヌト〕〔云〕精神力起ル

第二 △(愛人トハ唯人ヲ愛シ、饑タトキニ食セ、乏キ者ニ施スカ愛人ニテ、万事人ノ為ニナル事ヲ為スカ愛人ナレハ、人ヲ愛スル者ハ人ノ為ニナル事ヲ求ル筈ナレハ、先己ノ身ヲ全〔セ〕サルヘカ〔ラ〕ス、己ノ徳ヲ立テサルベカラス

〔以下墨〕

○大学ノ初メニ明德ヲ天下ニ明ニスルヨリ治国平天下ヲ説キ出シ、又自天子以至於庶人苟是皆以脩身為本トアリ

中庸ニハ君子ハ中庸ス〔補〕「愛國」、又君子ノ道ハ造端乎夫婦、又忠恕違道不遠、施諸已而不顧亦勿施於人

○論語ニハ夫子ノ道ハ忠恕〔補〕「愛人ヲトキ」又己ノ欲セサル所ハ人ニ施ス勿レト

○〔補〕「中庸十五章」子曰鬼神之為徳其盛矣乎、得罪於天無所祈〔也〕、詩曰神ノ格思不可度思矧可射思、易繫辭下伝ノ四章ノ内ニ窮<sup>〔朱〕</sup>神知<sup>〔朱〕</sup>化徳之盛也、天地主宰ヲ知リタルニ似タリ

乍去孔子ノ教エラレタル所ヲ見ルニ〔朱〕「思知人不可以不知天」

道徳トハ〔補〕「二三ノ道徳ニ」相違ハナケ〔レ〕トモ何分治者ノ脩ル道ニシテ、被治者ノ為ニ説カレタル道徳トハ見ヘ難ク、又天トカ鬼神トカ云レタ事ハ何カ曖昧然ト〔シ〕テ、我輩後世ノ人ニ孔子如何程此理ヲ了解セシヤ了察

スル事ハ叶ワヌ也

〔且孔子ノ教ヲ察シ視、何カ嚴格ノ役人、上下ヲキセタ様ニ見へ、幾分カ礼儀スラ知ルノ類也  
ソクレテースノ如キハ頗ル道德モ説カレ、又宇宙ニ知恵ノアル者カアルト〔云〕事ヲ発見シマシタ〕

〔以下朱〕

〔苟義ニ適ワス道ニ適フアレハ一人非之不為意、一家非之不、〔ママ〕〔補〕  
〔カ〕〕立独行窮天地不一万世而宜不須足

○道德ハ無形ニテ之ヲ斬ルヲ不能斬、防之不能防、火之不能火ト、是基督教徳義ノ断然全世界ニ横行〔シ〕テ不止所以也  
主基督 曰

新ニ生レヨト、心ノ更新スル也

窄〔キ〕門ニ入レト 十字架ヲ負ヘト

終迄堪忍ヘト

一當時米國ノボストン府ニ有名ナルゴーフト称〔スル〕演説家カアリマスルカ、此人カ酒カスキテ酒ヲ飲ムル〔三〕ア  
ラス、酒ニノマレ酒ノ為ニ人身ヲ立タナクナリ人ニ義理ヲカキ、一日コルク氏ノ演説ヲ聞大ニ悔改スル所アリ〔酒  
屋ノ前ヲ通り〕今ハ所々ニユキ演説ヲナシ、多ク人ノ益ヲ計リ、其沢ヲ蒙ル者決而少々ニアラス〔クラーク先生ノ  
談シ〕

二窄門ニフランソフユクノー〔ユグノー〕、英國ノピ〔ユ〕ーリタン人

三終迄堪忍ヘ、乃道ヲ学ヒ道ヲ行終迄不止也

〔教行空白〕

○利口ノ親

一 子ノ番ヲ付ケル親。

二 子ノ番ナシニ安心スル親。

〔之ニ抵抗シ之ヲ磨スレハ弥光ヲ発ツ、是世人ノ之ヲ廃止スル能ワスシテ

〔斬之不能斬○火之不能燃○防之不能防、是基督教ノ断然世界ニ横行シテ不止以所也

一人非之不足意、百千人非之不足意、屈指ノ学者非之不足意、一国拳非之不足意、至万世非不足、苟心ニ得ル所ルアリ、之ニ人心ノ改マリ正キ人間トナルノ道ナラハ乃人間ノ道也、須臾不可離ノ道此道ヲ守リ得ヨ、天ヲ仰キ地ニフシ  
豈恥ル所アラシ、特立独行百折不撓此道ヲ以生涯ヲ終ヘントス、我輩信徒ノ望ム所也

キリストノ門徒ニ教テ曰、<sup>〔墨点〕</sup>窄門ニ入、悔改メヨ、小兒ノ如ク謙遜セヨ

〔補〕「<sup>〔墨点〕</sup>廣ク学ヒ宇宙ノ理ヲ窮メ智識ニ富ミ」

十字〔架〕ヲ取レ、終迄堪忍フ等

己ニ克ク己ノ情慾ヲ制シ、飲食ヲ節シ、男女ノ間デ交リヲ清クシ、淫乱ヲ慎ミ、人ヲ嫉妬心ヲ圧ヘ、其道ニアラサル名利ニ汲々セス、己ノ惡名ヲ逃ケヨキ手本ヲ衆人ノ前ニ出スガ一己人ノ本務ヲ尽スニアリ、一己人ノ本務立チ己ノ天ヨリ付与セラレ〔シ〕<sup>〔墨点〕</sup>權ヲモ全シ得ヘシ、是乃民權ノ基

キリストノ教ニハ人ヲ愛スル己ヲ愛スル如シ、如何ナル人テモ己ヲ愛セヌ人ハナカルベシ、己ヲ愛スル心ヲ推シ広メ人ニ及サハ決テ人カ惡クナイ

人ヲ愛スルトハ主義ノナキ少年ガ□少キ娘ヲ愛スルノ愛ト異ナリ、彼モ我ト同天帝ノ造ヲ受タル人間ナレハ、天父ニ之ヲ愛シ賜ハ我輩モ之ヲ愛シ、其人ヲ人トシ、其人ノ行ノ改マリ、身ヲ立、一己人ノ務ノ出来〔ヌ〕様ニ過マツトキ

○丁寧ニ之ヲ諫メ○迷フトキ之ヲ道ニ進マシメ

人間ノ本位ニ服セシムル事最モ人ヲ愛スルノ極ト云ヘシ  
其レヨリシテ人命ヲ重〔シ〕、人ノ名譽ヲ尊ミ、人ニ敬礼ヲ加ヘ、人ヲタマサス人ヲ譴ラス、人ヲ殺サス、可成人ノ身分ノ立事ヲ計ルガ乃人ヲ愛スルナリ、故ニ欧米諸国ニテ病院、幼院、養老院并大学校ノ続々出来ルハ人ヲ大切ニシ人ヲ愛スルヨリ出ツ

〔墨〕  
「○我人ヲ使フ為ニ来ラス、人ニ使ヘン為ニ来レリト

○人ヲ立、人ノ權ヲ全セシムル也」

○鰥寡孤独廢疾ノ者有養也、其亦庶乎其可也

○政府ニ告ク  
〔匹夫モ志ヲ奪ヘカラス

○学者ニ告ク

○僧侶神官ニ告ク

○聴衆ニ告ク  
敵敗シテ其ヘ分ヲ取ト思フ勿レ、我輩ノ目的此真理ノ世ニ布クニ〔アル〕ノミ、僧侶ヲ相手取テ争フ不□□ノ事ハ決テ望マセス

一身モ不安全

財産ハ不安全

〔以下天地逆書〕

〔窄門ニ入レ〕 愛神愛人

〔十字架ヲトレ〕

ゴーフ

△得罪於天無所祈

悔改メ祈レ

〔婦人ヲ見テ罪ヲ犯ス

〔墨〕  
「○心ノ改良○心ノ原」

悔改 心ノ改良ナキハ人ニ誂服<sup>〔カ〕</sup>ヲ衣セテ出タニ似タリ

△〔札幌ノ農学校

〕修身学

〔年月日等不詳〕

## 宗教関係演説稿



73 安息日学校開業式ノ演説

〔袋上書〕

「明治十三年十月十九日岡山陶器所ニ於テ\*

安息日学校開業式ノ演説」

〔本文〕

今日陶器所ノ安息日学校之開業式ニ当リ、令公其外諸官吏之前ニアリ、又陶器所ノ御支配人并ニ職人衆之前ニテ、イサ、カロヲ開演説スル榮ヲ得シハ何ノ幸カ、之ニ譬ヘキナク実ニ小生ノ面目ト云フヘキナリ

扱今日小生ノ御話ハ御臨會ノ紳士ニ向ヒ談スルニアラス、陶器所ノ主人職人ニ向小生之所見ヲノベントスルナリ

我国ニテ職人ト申セハ何カ下賤ノ様ニ思ワレ、是迄人が何カ下賤ノ事ヲ為セハ職人ノ様タト申サレ、決テ上等ノ位ニ上ゲス甚賤メラレタルハ何ノ故ゾ、他ナシ職人タル者成程己ノ職己ノ芸ニハ達シ居ルモ、何ニモ他ノ事ハ知ラスアマ

リ學問モナク、唯己ノ力ニ〔テ〕金ヲモオケ亦ヤタラニ之ヲ散シ、中ニハ自分ノ妻子モ充分養ヒ得ヌ者カ沢山アルニ

ヨリ、自然不行儀ノ所ト不身持ノ所ヨリシテ人ヨリ賤ヲ受ケ、又自分ニモ職人タト申シテ、世ノ人々ヨリ少シク賤ク

思フ事ノアル様ナ事ハ、兎角世間ニ見ヘマスル

但シ不品行不身持ノ源由ハ何ト申セハ、ヨキ家訓ノ學問ノナキヨリ自然見識モ卑シク遠キ慮ナキニ至リ、唯々眼前ノ

利ニ趨リ又眼〔前〕ノ慾ヲホシヒマ、ニシ、手ヨリ口ト申シテ、一月ノ働モ一夜ニ散スル事ニ至ル事モアルベキハ、

職人中一般ノ風俗トモ思ワル、是ハ日本〔ノミ〕ナラス開明ノ欧米諸国ニモ此憂アリテ、職人中遠キ慮ナク己ノ子供十年以下ヨリ製造所ニヤルノ憂アリシニヨリ、米国ナドニハ十年以下ハ其所ニ入ルヲ許サス、又十四年以下ノ者ハ他人前ノ働キノ時ノ半分ヨリ多ク働ク事ヲ許サス、又学校ヨリ毎周就学ノ証ヲ教員ヨリモラヒ、必ラス之ヲ製造場ニ持来ル事ニ定メラレタリ

英国ニ〔テ〕モ然リ、職人ノ中兎角不学ノ者モアリ、少年ヲ早くヨリ製造所ニヤルニヨリ、英政府ニテ律ヲ設一周ニ十五時ノ入学スル事ニ定メタリ、之ニヨリ之ヲ見レハ、職人中何ノ国モ学ノナキヨリ、職人中全ニ不幸ニ陥リ酒色ニ沈湎シ一身ヲ修ムル事ノ出来ヌ人アルヲ、其国ノ政府モ段々ト如斯基律令ヲ出セルナリ

#### 職人中学問ナキノ害

一無学ノ人物ノ道理ニウトシ

一無学ノ人常ニ人ニ役セラル、制圧セラル

一無学ノ人才智ヲ開達スル能ワス

一無学ノ人常ニ遠キ慮ナシ

〔朱〕  
「フオーセツト氏」〔補〕「英国カギハ米国ノカギニマケ、鋏ハ英国ヨリユキ、カギガ又英国ニ来リテヤスクウレル」

一不学ノ職人ハ又月給ハ少ナシ

一不学ノ人富マントスルノ欲スクナシ

一C不学ノ人多分ハ国ニ利益ヲナシ得ス

ニ罪人多シ、容易ニ読書スル人ハ百分ノ四ヨリ多カ〔ラ〕ス

- 一 A 不学ノ人國ノ良民トナリ得ス
- 一 不学ノ人職人トナルモ給金ハ常ニ些少ナリ
- 一 B 不学ノ人ニ日々新ニ進歩スル事ナシ、幸ニ同シ事ヲ為ス日本ノ百姓ヲ見ヨ

# 職人中学問ノ益

一 學問ハ人ニ道理ヲ教ヘ人才ヲ發達シ人間ニ位ヲ付ケ、見識ヲ高クナシ進歩ノ望ヲ起サシメ、己ノ欲スル事益大〔キ〕クナリ職業モ高尚トナリ、随テ給金ヲ多ク受ケ克ク妻子ヲ養ヒ得、長ク貧乏ノ為ニ苦シメラレス、自分ヲ益スルノミナラス遂ニ國產ヲ増シ國ヲ富マスニ至ル

茲ニ至レハ職業モ実ニ大切ノ事ニテ、決テ之ヲ輕蔑職人視スヘキ者ニアラス、自ラ働ラキ己一身ヲ益〔シ〕随テ又人ヲ益〔シ〕國ヲ益スルニ至レハ、職人ハ矢張高キ所ニオル御役人様ニ比較シテモ決シテ恥ヘキ者ニアラス

## ○學問ノ緊要

學問進、随テ其職モ進、其給〔金〕モ進マハ、人金ヲ散スルノ憂ナキ能ワス

職人安息ノ休ナキモ矢張不学ヨリ然ラシ〔ム〕ル所、安息日ニ休マスレハ酒色ニ沈湎シ、取リタル金ハツカヒ身体ハ勞カレ心ヲクサリシ上ハ決テヨキ細工出来サルヘシ、職人中安息日ナキハ一ツハ此ノ故ナリ

今官吏ニ安息〔日〕アリ学校ニアリ、職人中ニ其ナキハ職人中ニ自由ノナキナリ、同シ人ニシテ此自由ナキハ何ソ

〔朱註〕然シ誤テ人マネヲナシ職人ニ安息ヲ与レハ又不品行ノ憂ナキ能ワス、然ラハ安息日ヲ休マスルハ甚アブナキ事ナ

リ

## ○宗教ノ要用ナル事

如何ナル知恵アルトモ、智恵カ増セハ我カマ、カ出デ、職人人ノ命ヲモ受ケス又金モウケモ成ナラヌ事アレハ、職人ニ宗教ナカルベカラズ

### 学問アリ

### 宗教アリ

然ル後ニ立派ナ職人トナリ得ベシ、職人カ日々働キ如何シテ宗教ヲ学ヒ得ルヤ、茲ニ至リ一周間ニ一日ヲ此道ヲ学ブニ費セハ、己ノ職業ヲ妨ケス己ノ心ノ学問ヲナシ、身ヲ修ムル事ヲ知り、不品行ヲ止メタラハ一身一家ノ幸又之ヲ用ユル人ノ幸ナリ

### 一安息日ノ人間ニ大切ナル事

○安息日ハ人ノ為ニ設ケラレタルナリ

〔貼紙〕

一安息日ハ人ノ為ニ設ケラレタレハ、人若シ之ヲ守ラサレハ必肉体ニ「モ」心ニモ損害ヲ受ケン、故ニ

一安息日ヲ守ラサルヲ得サル者ナリ、是肉体ヲ休メ且心ノ学問ヲ要スルナリ

仏国ニ安息日ヲ休メ十日目ニ休ミタリ

永キ間七日目ニ休ニ大ナル益アリ

馬車ニテ西方ニ移ル人ノ談シ

安息日ニ馬ヲ休ムルト休メサルトノ違ヒ

一当今古聖人ノ道地ニ落チ社会ニ勢力ナシ、故ニ今人心ヲ克ク改良シ得ル耶蘇教ナカルベカラス  
一耶蘇教ハ人間ニ神ノ道ヲ教ユルト申セトモ、之レ人間ノ欠ヘカラサルノ道ニテ、之ヲ守ル人自ラ謙リ神ノ意ヲ

奉スル事ヲ勤ム

一 神ノ意ハ何ゾ、正義ト愛人 愛人ヲ得而シテ後愛國ヲ得ベシ

人間ノ心ニ正キ事、清キ事等カ起ラサレハ、製造物モ随テ鄙賤ナリ」

〔貼紙下・朱〕

「一 安息日ナケレハ人ノ精力衰ヘン、故ニ安息日ニ閑休ヲ致シメ且心ノ學問ヲセサルベカラス、心ノ學問ハ古聖人ノ

教ニテ人其本分ヲ知り得ヌ

社会ニカ乃耶蘇教ナカルベカラス、耶蘇教ハ人間ニ神ノ道ヲ教ユ、神ノ道人ヲ謙遜ニナラシム、人神ヲ知、〔補〕道ヲ

學ヒ得」然ル後人ノ志操モ高尚ニナル、真ノ愛神愛人愛國ノ心モ生スベシ」

今日陶器上ノ画ニ付

日本ノ画ノ拙ナル事

画ノ淫乱ナル事

画ノ矢張詩歌ノ如ク人ノ心ヲ勉マシ清クスルニ功アル者ナルニ、人ノ心ヲ乱ス様ナル女郎ノ画又源氏ノ画、役者ノ画等

○画工ニラフィエル〔ラファエル〕アリ キリストノ画、人ノ信仰ヲ進ム

○建築家ニミキルアンジロ〔ミケランジェロ〕神家ヲ立ツ

○陶器師ニパリセー〔パリシー〕

〔朱弧〕

三百年以前仏ニ生ス

陶器上ノ白キ藥ヲ発見スルニ十六年ノ苦勞、家ヲタキ木ニ用ユ、親類朋友之ヲ笑ヒ家族ノ餓死スルニ庶幾カシ

〔朱〕  
仏王「ヘンリー「アンリ」第三世」ノ眷顧ヲ蒙リバトルミヨ一<sup>〇</sup>月ノ一<sup>〇</sup>万人人殺ノ害ヲノカレタリ、又其後節ヲ立、

己ノ信仰ヲ屈セス遂ニ囚死セリ、一己職人ニアラス実人物ナリ

〔朱〕  
「千五百九十年ノ死去〔第三世ヘンリー——信仰ヲ改ムルト死トヲ示、改宗ヲス、ム、七十六余ノ老陶師答曰、

仏郎〔西〕政府人民国王モ我ガ頭ヲ土偶像ニマゲシム能ワスト」

〔朱〕  
○イートン安息日学校、少年ニ望アル事

○英国宰相グラットストーン安息日学校ノ少年ヲ教ユ、国ニ人〔ナ〕カルベカ〔ラ〕スノ論、早く国ニ教ヲ守ル良民ヲ作り出サハ、自ラ社会党虚無党ノ憂ハナカルベシ」

安息日学校并宗教ノ行レタル国ニ乱少ナシ

淫乱密通少シ、女郎芸妓ノ類少シ、人々妾ヲ置カズ、暴民権亦少カルベシ

之ニヨリ国モ安ク国モ富ミ真ノ文明ノ基礎ヲ立ツルナリ「追々得ルナリ」〔補〕

〔朱〕  
「ミル、スเปนソルノ説ト信者ノ働ノ実地トハ相違セリ、フィラテルフィヤノウオネメーケル貧ナリ、安息日学校ニ

ユキ初テ信者トナリ其ヨリ道ノ為ニ働キ志起ル、極悪キ地方、夕餐〔カ〕二人ノ行ケヌ所ニ安息日〔学校〕ヲ開ク、靴ヤノ

二階、テント、テントノ糸ヲキル少年ヲ引入其生徒トス、今ハ其所ハ立派ナル三階作り〔ノ〕家立テタリ、此ヨリ他

ニ及ヒ市中ノ品行改マレリヨシ云々」

安息日ヲ守ラヌ国ノ有様ハ如何、議論ハ無益、實際ニ着目スベシ

コンクロージョン

職人中ニ此学校ノ設アリ、日々学校ノ設アリ

之ヨリ日本人民ノ進歩ノ基礎ヲ立ルナリ

岡山ニ教会ノ立タルハ一人一家改良ノ基礎ヲ立タルナリ、此ヨリ隣県ニ及ボシ、又日本国中ニ及ボシ、朝鮮支那ニ及ボシ、実ニ人間ノ本分ヲ尽シ、実ノ自由ヲ心ニ喜ヲ得、肉体ノ度、志操ノ度モ進テ誠ノ文明モ不遠期スベキ事ナリ

祈禱ヲ以テ此開業式ヲ開キ、神ノ導ヲ求ム

〔朱〕

「文明ヲス、ムル者ハ上ニオル人ノミニテハ上ノ人文ノ文明ニテ、下ノ人ニ及ハス、下ニオル人が憤発シテ進マスバ決シテ自由ヲ得ラレズ、富モ得ラレス、人權ヲモ得ラ〔レ〕ズ、矢張上ノ人ヨリ压制セラル、ヨリ外仕方〔ナン〕、国ノ良民トナリ国ヲ進メ国ヲ益セハ、是上ヨリモ之ヲ圧スルノ理アラシ、又圧セントスルモ叶ワス、茲ニ至リ上下一致モ期スヘク、太平モ期スベシ」

千八百八十年七月二十六日

欧米諸国十四ヶ国ヨリ代人來、英京ロンドンニ於テ安息日学校ノ百年会ヲ催サレタリ

◎英國ニ於テ百年前ロバルト・レイクス安息日学校ヲ初ム、其時ハ僅少ナリシモ今ハ大ブリタン并屬地トモ  
十。万。ノ。生徒。 四。百。五。

◎米國ニ六百六十二万三千百二十四人

◎スウィーデン〔スウェーデン〕

〔千八百五十一年乃二十九年〕前ニピーパレン・ゴイストロンドンニ來リテ、初メテスウィーデンニ歸リ安息日学校ヲ開ク、今ハ十五万人ノ生徒

○仏郎西 四。万。五。千。人。

○独 乙 二十万人。

欧米諸国ノ耶蘇教ヲ奉スル国ニアル

安息日学校ノ教員ノ数一百五十万人。

安息日学校ノ生徒ノ数一千二百万人。

〔明治十三年十月十九日・於岡山陶器所〕

# 74 靈ノ學問ナカルベカラス

〔彌外〕  
 「十三年十月今治ニテ」\*〔朱〕「基督教」ノ演説 靈ノ學問ナカルベカラス

孔子曰、人トシ「テ」教ナケレハ禽獸ニ近シト、是ニヨリ之ヲ見レハ、人トシ「テ」教無キ能ワス、人間ハ靈智肉ノ三ニヨリ成立ツ者ナレハ、肉ニ食ナキ能ワス、智ニ学ナキ能ワス、靈ニ教ナキ能ワサルハ人間ノ通理也

○肉ニ食 不消化物毒物ヲ食スベカラス 不健康ノ憂アリ

○智ニ学 ヨキ學問、有用ノ學問、智識發達ノ学〔問〕ヲ要ス

學術アリ智識ヲ發セサレハ人間進歩ナク、百年前ノ機械ヲ用ヒ一人ニテ一人前ノ仕事ヲ為スハ如何ノ者ゾ 此レ國ノ進マス振ハサル所謂、欧米ト智恵比べナラハ必ラス數百歩ヲ讓ル、國ノ富マサル宜ナル哉

日本ニ學術アリ機械アリ、然トモ百年ト今日ハ如何ノ差違アルヤ、欧米諸國ニテ去年ノ者ハ今日ハスタリ、何モ彼モ機械ニナシ人力ヲ省キ、木綿布、ラシヤ、縫物 ○染物 ○靴製造 ○印刷等尽機械ヲ用ユルニ至ル

昔日ハ一人ニテ一人前ノ仕事ヲ為ス世ノ中ニテ、実ニ安樂至極○百數ヤ 〔大官人〕大都ヤ暇アレヤ桜カサシテ今日モ暮シツ

ト、或人詠之通、人間カ氣樂ノ時ニアリ、随テ亦教モ緩ニアリ、天照ス御神ヲ拜スルナリ、又ハ十萬億度ノ阿ミ陀ヲ信スルナリ○カジナリ○祈禱アリ○マジナイアリ○布施ナリ、施餓鬼ナリ、皆勝手ノ事ヲ仕來テスミオリシカ、今ハ事物

一新シ、新聞ナリ、雜誌ナリ、汽船ナリ、汽車ナリ、郵便ナリ、電信ナリ、化学ナリ、理学ナリ、地理学ナリ、此迄

ノ天照御神モ唯一ケノ世界ノ帳丁トナリ、〔須彌山〕シミセンモ一切不融通ノ話ト消エ行キ、孔子ノ教ヘモ已ニ聖道スラ廢セラ

レ実ニ道德地ヲ払テ落テ、廉恥ノ風跡ヲ絶チ、ヤ、モスレハ人権トカ、自由トカ、真理ヲ我儘ニスルノ世ニ当リ、何ノ教モ之ヲ挽回スル勢力ナキト、世上ノ人々尽知スル所ナリ

〔上欄〕  
「虎列罹病ノ譬」 今ノ風殆虎列罹病ノ人間ニ初メリシカ如シ、今ノ有様ナラハトテモ葛根湯ヤ洗薬位ニテハ此暴烈

ナル社会ノ虎列罹ヲ治スル能ワス、今古聖賢ノ言葉位デハ少シモ人ノ心ニ入ラス、皆今ノ学問ハ唯少シノ糊口位ニ留マリ、大ニ人ヲ改良シ此ノ大病ヲ癒ス能ワサル事ハ諸君ニモ克ク知ルナラン、然ラハ暴烈ノ適薬ナケレハ此社会ノ大病ハトテモ癒シ難ケレハ、縦令人民ハ石炭酸ヤ硫酸鉄ヲ用ユルヲ嫌シモ、我大政府ハ特別ノ果斷ヲ以之ヲ令シ遂ニ虎列ヲ治シタレハ、人民大ニ幸ヲ蒙リシ次第ナレハ、矢張耶蘇教モ社会ノ大病ヲ治スルノ激薬ナレハ、人ヲ用ユレハ治セラレ、用ヒサレハ治セラレス ○人此薬ヲ用スルヤ否世人克ク知り賜ヘ○良薬ハ口ニ苦シト、甘キヨキ塩梅ノ薬ナラハ、何モ人靈ノ大病ニ利益ハアルマシ 治セラント欲セ〔バ〕宜之ヲ飲ムベシ

〔上欄〕  
「キリストハ良医 福音ハ良薬」 キリスト諸君ノ良医ナリ、福音ノ良薬アリ、諸君何ソ之ニ来ラサルヤ——、キリスト不量ノ愛ヲ以十字架ニカ、リ、我若シ揚ラレナハ万人ヲ引クベシト、之其償ニヨリ之ヲ信スル者ヲ救ワントスル也  
〔上欄〕  
「愛ノ神何ソ人間ニ災害ヲ下スヤ」 ヨワンネ曰、神ハ愛ナリト

此神人間ヲ作り且之ヲ愛ス

人ノ身体ノ機械ノ妙ニヨリ其造者ヲ知ルベシ、神ノ愛ハ何事ニモ顕ワル、無神論者曰、神ニテ若愛アラハ何ソ人  
世ニ災害ヲ下スヤ、大風、コレラ、風ノ弁解、コレラノ弁解

〔上欄〕  
「○神ノ恵百事ニ顯ワル」

、不具〔補〕ハ人ノ罪ヨリ不品行ヨリ不幸多シヲ与ヘ、人間ヲ遜讓恭敬ノ心ヲ生セシム、皆我等ノ為ナリ、之レ

受ニアラスシテ何ソ

ソクレティスノ人間ヨリ神ノ推知セシ事、節々眼鼻耳等ヲヨキ所ニ配置セシ事、仏教ニテ阿弥陀力之ヲ作りシ事ヲ説キシヤ

〔上欄〕「肉体ノ命ノ親」 ○人若餓死セントスル、何人カ之ニ食ヲ与ヘ其命ヲ存セハ、人之ヲサシテ命ノ親ト申ナラン

〔上欄〕「靈ノ救主」 然ルニ上帝之ヲ作り之ニ食ヲ与ヘ、又万物ノ長タル為ノ靈ヲ与ヘ、加之ニ靈ノ糧ヲ与ヘ、又靈ヲ罪惡ヨリ脱シ之ヲ救ハン〔ト〕スル、其愛ハ此世ニ比スル者アルヤ

○キリスト此世ニ来リ我ニ来レト招ク、諸君来ルヤ否、我ヲ信〔見〕〔補〕スル者ハ父ヲ信〔見〕〔補〕スル也ト、キリストハ神

ノ肖像〔ニ〕シテ人此〔ヲ〕信セハ救ワルベシ 諸君其招キニ応シ来ル、之ヲ信スルヤ否

〔上欄〕「基督我意ノ頂上ニアリ我等ヲ招ク」

キリスト我意山上ニアリ我等ヲ招ク、此上甚高シ、人此麓ニ来レトモ之ニ登ルハ容易ノ事ニアラス、麓ニテ帰ル者ア

リ、麓ヨリ他ノ路ヲ求メ道ニ迷フ者アリ、又麓ニテ仰天氣絶スル者アリ、唯命ニ随ヒ此山ヲ踏ミ行ケハ必ラ〔ズ〕勞スル、遂ニハ絶頂ニ達シ得ルナリ、キリスト我等ノ為重荷ヲ負ヘリ

○物ノ理ヲ了知シテ後遂ニ神ノ愛ヲ知り、又其神ヲ信スルニ至ル

○信ハ吾意ヲ交ヘス唯キリストノ命ニ随フニアリ 路可ノ七ノ二、百夫ノ長ノ話シ 大将ノ命ヲ奉セシ兵丁ノ上出来

ナル事、ジントベルナルドノ嶮、案内者ニ随フ事ノ大切

○信アラハ同信ノ者ト共ニスベシ

人一人ナレハ甚弱シ、又一人ナレハ我儘ノ出易キ者ナリ、故ニ信アル以上ハ同信ノ者ト共ニ連合シ、協力シ、共ニ

進歩ヲ計ルヘシ

〔上欄〕「路上ノ抵抗物」 然シ信仰ノ道ニ抵抗物アリ、一々之ヲ打チ敗リ打勝ヘシ

〔上欄〕「魯軍」 ○魯軍、仏ノ三軍ヨリ三方ヲ襲ハレ〔シ〕トキ、魯軍ノ一致シ一方ツ、之ヲ敗リシ事、一致協力ト又兵丁

ノ克〔ク〕命ヲ奉セルニヨル

○信アラハ耐忍力ヲ生スル

〔上欄〕「パリセー」 ○仏ノパリセー一陶工人スラ信ニヨリ己ノ人トナリヲ練上ケ甚耐忍力ヲ呈セシ事、十六年一事ニ工風

ヲ費セシ事

耐忍ハ克ク世ニ勝ツヘシ キリスト 我ハ世ニ勝テリ、ポール 我等ノ事ニ勝テ余リアリ

○信アラハ人此信ヲ世ニ伝ベシ ○人ヲ勸ムルニ注意スル事 教会ニテ人物ヲ作り立サルベカラス

○安息〔日〕学校ノ説

○神理ヲ基トスル教育

○両親モ己ノ子ヲ此道ノ為ニ捧クベシ

、或ル婦人二人子ヲ外国伝道ニ捧ク

、イートン氏ノ安息日学校ヲ建設セル事

、フィデルフィヤニ於テ巨商ワネメーケル氏、悪キ場ニ安息日学校ヲ設ケシ事、靴屋ノ二階、天幕 其之ヲ斬

シ少年、今ハ繁昌ノ場トナリタル事、并ニ新約克ノファイフポイントノ改良

、英国宰相グラットストンノ安息日学校ヲ教ユルノ主意ハ、国ニ良民ヲ作り出スノ訳ナリ

如斯英國ノ宰相ノ身トシテ、少年ノ内ニ入り學校テ教ユル事ハ、英國文明ノ度ヲ表スルニ足「ル」ナリ

「上欄」  
○米國ノ黒奴

○亞弗利加ノ黒奴ノ売買ヲ禁ス

牢屋ノ改革

魯國ノ奴僕自由

耶蘇世ニ降り自由願「ル」、耶蘇教ナキ國ハ自由ナシ」

如斯「基督」教モ盛ニナリ、國ノ人々モ之ヲ修ムルニ至ラハ、一家ニ安全平和ノ策立、社会共立ノ風起リ、政府モ随テ改良シ、随テ東庄ノ政ヲ止メ、上下各其所ヲ得、各其宜得、真ノ自由ヲ来シ、真ノ文化ニ進ミ、昨夜モ申セシ黄金世界ヲ此世ニ期スベキ也

〔明治十三年十月二十一日・於今治教会〕

## 75 〔靈魂ノ病〕

昔時東京ニ一ノ不幸ナル人アリ、幼時ヨリ種々様々実ニ名状スベカラサル程ノ持病ニ苦ミ、全治セラレン事ヲ求メ、府下ノ名高キ医者共ニハ尽ク診察ヲ受ケ、針、モミ療治ハ勿論、草津、湯香保、熱海ノ温泉ニモ越サレ、加治祈禱モ度々試ミ、又信神ニ至テハ乃神仏混合、伊勢ニモ善光寺ニモ参リ、府下デハ水天宮、金比羅、天満宮、愛宕山、観音、祖師大師地蔵、ヒゲノ平内、ビンツル等ニ願カケシ、如斯百方手ヲ尽シテ見タレトモ何ノ効能モナク、独鬱々トシテ多クノ月日ヲ送リシ内ニ、突然何ノ〇〇トカ申蘭法医カ横丁ニ引越シテ参リシニヨリ、近傍ノ人々ノ勸メニヨリ之ニカ、ラント思ヒマシタガ、彼ノ蘭法医カ平常豚ノ肉ヲ喰スルト云事ヲ聞キツケ大ニ驚キ甚嫌ラヒ、神様ノ前ニ汚カレルト申、其医者ヲ見ルモイヤタト云ワレ、人々ノ勸メヲ拒絶シテ居リマシタカ、彼豚喰医者ノ評判ハ段々ニヨロシクナリ如何ナル病氣テモ治スルト云事ニナリ行マシタ、デソソナラ一寸懸テ見マイカトテ申、遂ニコワ、医者ノ玄関ニ進ミ、戰慄シツ、診察ヲ受ケ又藥ヲモモロウテ来リマシタカ、直ニハ門戸ニ踏込<sup>フ</sup>マス切り火ヲ打カケ塩ヲフリカケ己ノ総身ヲ清メテ、而ル後ニ家ニ入ル事ヲナシタル始末ハ実ニ抱腹ノ至リナレトモ、此ノ頑固物カ段々ト藥服スル内ニゲンカ見ヘ効力顯ワレ、数月ヲ経ヌ内ニ健康ノ身トナリ、早クモ此ノ医者様ニカ、ツタナラハ是迄ノ信神、願懸、湯治、針アソマ等ニ莫大ノ金ヲ費ヤサヌモノヲトカ云レ、大ニ神仏ニ不足ヲ云レ、蘭法医テナケレハ病氣ハナオラヌト思ヒ込ミ、己ノ近所ニ親類ノ人々ハ勿論、草鞋ガケテ遠方ニ出カケニ至ルトモ、人々ニ逢ヒサヘスレハ、蘭法医ノ効能ヲ申立デラレタ〔ノ〕デ、其ヨリ府下ニ蘭法医ノ名カ揚カリ、トコテモ蘭法医ニナケレハナラヌト云事ニナリ、

其時ヨリ西洋医カ益盛ニナリ、遂ニ今日ノ結果ヲ見ルニ至リマシタ

却説、私モ諸病ノ間屋タリシ彼東京人ノ類イテアリマシテ、身体ノ病ハサテオキ私ノ靈魂ニ罪ト云大ナル病氣カアツテ、何事ヲ不論、事ニ臨ミサヘスレハ此病氣カ発シタリ、去レトモ其時ニハ病氣タルヲモ不知、随分人ヨリハ正シキ者ナリト誤テ自評ヲ下シ居リマシタカ、唯今回顧スレハ乃チ豪漫飾非偽善、嫉妬憎惡、放蕩淫乱実ニ慚愧ニ堪ヘサル程ノ大患也

如斯キ病氣ニ染マリタレハ必ラス之ガ治療ヲ求ムヘキニ、不幸ニシテ己ノ病カ氣カ付カス、又良医モナク、随テ良藥モナキ時代ニ生長シタレハ、靈魂ノ病ハ日々ニ重モク説法トカ講釈トカ云テモ少シモ効ヲ不発、説法ヲ聞ケハ直ニ眠ヲ催シ、又論孟ノ講釈ヲ聞ハ彼ノ聞トモ聞エスノ輩ニシテ、依然タル論語読ノ論語不知テ永キ月日ヲ消費シマシタケレトモ、フト耶蘇教ノ書物ニ見当リ、是コソ平生憎ム所ノキリシタン宗門ナルヘケレ、再三復読沈思熟考必ラス其ノ非ヲ看破シテ呉ヘシト鑒意之ヲ読破セシニ、兼テノ想像トハ大イニ違ヒ、宇宙ノ造物主宰ヲ説キ来リ、又人類ニ罪ト云病アルヲ論、且之ヲ癒スヘキ大能力ヲ具有セル耶蘇基督アルヲ説キ来リ、大ニ私ノ心中ニ疑問ヲ起サシメ、必ラス此ハ穿鑿スヘキ事ナルヘシト思ワシメタリ

其ヨリ段々ト此宇宙ノ主宰ヲ探索シタキ了簡カ生シ、又五大洲ヲ跋涉シタシキ志願カ発シ、米國迄飛出シテ彼國ノ耶蘇教信法〔ママ〕ニ接シ自ラ耶蘇教ノ学校ニ入り学ヒ、米國ハ勿論歐洲ノ國ニモ経歴シテ、耶蘇教ノ行ル、國ト行レサル國トヲ比較シ、又英米諸國ニ耶蘇信徒ニシテ頗社会ヲ益シ國家ヲ利スルノ輩陸續輩出スルヲ目撃シ、又歴史上ニ昭々乎トシ明ナルヲ見、実ニ耶蘇教ハ社会ヲ救フヘキ真理天道ナルヲ發明シ、帰朝ノ後教友ト力ヲ協セ此道ヲ弘布セン事ヲ計リマシタハ外テハナイ、此教カ能ク人間ノ心ニ適當シ又人間ノ靈魂ヲ医シ、我輩ヲシテ人間ノ本位ニ復セシムル天啓

教ナルヲ確信シ、又自身ニ蒙リタル利益ノ甚多キヲ感シ、之ヲ弘ク社会ニ分与セント欲シ、不肖ヲ不顧不学ヲモ不問、断乎トシテ諸彦ノ前ニ出テ喋々スルハ、諸彦中若シ予ト同様ニ靈魂ノ病氣アル御方アラハ、直ニ耶蘇教ニ就キ心ノ療治セラ〔レ〕ン事ヲ企図スル事甚懇切ナリ

〔年月日等不詳〕

76 栗津教会ト小崎氏教会ノ合併式ノトキ教會員ヘノ勸メ

明治十五年九月七日

栗津〔高明〕教会ト小崎〔弘道〕氏教会ノ合併式<sup>\*</sup>ノトキ、教〔會〕員ヘノ勸メ

合併式ニ臨ムノ面目ヲトキ又之ヲ祝シ、依テ一二ノ件々ヲ述テ諸兄弟ニス、ム

一都テ別ナルモノヲ一ツニナストキハ随分不都合ナキ能ワス、去ナカラ此両教会ノ合併ノ如キハ、互ニ相容レ互ニ相求ムル所ヨリ出来タル事ナレハ、必何ノ不都合ハナキ事ヲ信シ又希フナリ、然シ齊ニ長成セハ齊言ヲ好ミ、楚ニ長成セハ楚言ヲ好ムノ類ハナキニシモアラス、万一此教会ニシテ右等ノ事アラハ此会ヲ活テ成長スルノ進路ヲ遮断スヘシ、此会ヲシテ活テ長成セシムルニハ、唯ニ規則ノ其ノ当ヲ得タルニヨルニアラス、又互ノ固キ申合ニテ之ヲ維持スルニアラス、偏ニキリストノ靈此会ノ上ニソ、キ、此会ニ充滿シ、此会ノ中ニ働カン事ヲ希望ス

二他会ニ対スルノ心得

前上予ノ言ヒシ通り、齊ニ長成セハ齊言ヲ好ミ、楚ニ長成セハ楚言ヲ好ム事ハ人情止ヘカラス逃ベカラサルノ事ナレハ、何人ニ関セス己ノ属スル教会ヲヨシトスルハ情又逃ベカラサルト云ヘキナリ、万一此教会ニシテ我教会ハ自由ナリ自治ナリ他ノ干涉ヲ受ケスナドト云テ他ノ会ノ政治如何ヲ喋々スル事ヲ為サハ、必ラス此会ト他会トノ間ニ不都合ヲ生シ齟齬ヲ起シ、遂ニ兄弟橋ニセメグノ憂〔生〕シ讐敵視只ナラス、公然ト新聞紙或ハ雜紙上ニモ登録シ、空ク会外ノ人ノ笑ト輕蔑ヲ受クルノ憂ヲ生セサルモ保証シ難ケレハ、願クハ此会ニ於テハ克ク信徒ノ各ノ教会ヲ愛

スルノ情如何ヲ察シ、決テ他会ノ政治如何ヲ駁撃セス、是ハヨシ彼ハ惡シ、是ハ古シ彼ハ新シ、是ハ慥彼ハアブナ  
ヒ、是ハ真彼ハ誤ナリト云様ナル事ハ捨テ論セス、又人々自由ノ身ナレハ、自ラ自由ノ意見アルベケレバ大体ニ於  
テ異ナラス、キリストヲ信シテ救ヲ得ルノ要点ニ相違ナケレハ是レ我輩ノ兄弟ナリ、些少ノ事ヲ以テ大切ナル兄弟  
ヲステ其ノツマツキ石トナル勿レ、キリストニ於ケルノ兄弟ヲ他人視スル勿レ、我輩誤テ論点ノ相違スルヨリ兄弟  
ヲ捨テナハ、我輩又何ノ面目アツテ他日キリストニ対スヘキ

〔朱録・以下同〕

昔時独乙ノルーサルナル者ハズウィングル氏ト其説ヲ異ニスルヨリ、氏ハ手ヲ出シ握ラントセシモルーサルハ之ヲ  
払テ握ラス、今日迄其ノ心ノ狭小ナルノ例ヲ示セリ、其後兩人天国ニ於テ出逢シトキハ、ルーサルニ於テ自ラ己レ  
ノ非ヲ知り其ノ過ヲ謝シ、互ニ手ヲ握リ其ノ交ヲ全セシナラント信ス、故ニ我輩ニシテ教会ノ形ノ相違スル所ヨリ  
互ニ相交通セサルノ弊ヲ生セハ、我輩ハ神ノ広キ御意ニ反スルノミナラス徒ニ世人ノ笑ヲ取ヘシ、大ニ伝道ノ妨害  
ヲ蒙ルベシ

英国ノハイチヨルチト号シテ稍ローマン・カトレキニ類似セル教会アリ、此会ノ如キハ他ノプロテスタント会ヲサ  
シテダ落<sup>ドイツセントル</sup>会ト云フナレトモ、他日彼会ノ信者進ミ目ヲ開ラキ、他会ニモ救ヲ受ヘキノ信者アルヲ知ラハ、右ノ  
ディセントルナドト云語ハ廢捨セシムベシ

予ハ宗派ヲ論スルヲ好マス、去ナカラ宗派ノ起ルモ自由ノアル人間ニ於テ止ヲ得サル事ナリ、自由ノ尤モ行ル、英  
国米国ナドニハ宗派ノ区別モ亦多シ、依テ自由ノ結果ト云テモ可ナルベシ、然ラハ一派ニ屬シ一派ヲ駁スル等ハ余  
計ノ干涉ナリ○如斯教派アルハ美事ト云テ可ナリ、各其ノ長スル所ヲ以テキリストノ御国ニ尽ス是分業ノ類ナリ、予  
ハ教派アルヲ厭ワス、グリーキナリ、ローマン・カトレキナリ、プロテスタントナリ、互ニ見捨テル事ナク異端視

スルナク、切ニキリストニアル所ノ愛ト信仰トヲ以テ互ニ御國ヲ来ラサ〔ン〕為ニ相交リ働カン事ヲ希望シテ□□  
ヲ止マサルナリ

数派ノアル所ヨリヤ、モスレハ他ノ教会ノ失策ヲ悲マス、却テ喋々之ヲ世間ニ伝流スル等ノ憂ナキニモアラス、  
特別ニ我日本ノ信者中ニハ人ノ非ヲ喜テ言フノ弊ナキ能ワス○此レ各会ノ働キハ乃主基督ノ働ナル事ヲ知ラサル  
ヨリ生スルノ弊ト云ベシ、輕ク世間ノ伝聞ヲ信シテ兄弟ヲソシル勿レ

### 三会中各信徒ノ務

会中最モ行レ難キ所ハ、特ニ牧師ヲ養フ為又ハ教会ヲ維持スル為ニ出金スルニアラス、乃信徒中常ニ活ケル信仰ヲ  
以テ、己ノ心ヲ最高点ニ進ムルノ難事ナリ

〔朱點〕

〔朱點〕

ツリート先生曰ヘルアリ、日本人ハ、速ニ信シテ深ク信セス、早ク成テ大ク長セス、我日本人ノ信仰ヲ願レハ此事証ナ

キ能ワス○願クハ常〔ニ〕聖書ニヨリ祈ニヨリ我等ノ信仰ヲ固クシ、信仰ヲ進ムル為ニ知識ヲ敗壞スルナク、知識  
ヲ得為ニ信ヲ失フナク、常〔ニ〕信仰ノ結果ナル好キ働キヲナシ、己レノ品行ヲ端正ニシ、喋々他人ヲシテ口ヲ容  
レシムルナク、常ニ神ト交リ常ニ祈リ常ニ醒メ、広ク門戸ヲ開キ人ヲシテ大小トナク来ラシメ、真ノ筭ヲ以テ國ノ  
極ヨリ極ニ至ル迄掃除シ、社会外ニ放逐セラル、ナク、社会ヲ分有シテ真理ノ区内ニ入り来ラシメ、遂ニキリスト  
ヲ御國ニ、社会ニ及ホス事ヲ望ムナリ  
予他ニ言フヲ欲セス、テサロニカ前書ノ五章、十二ヨリ先キヲヨミ、此会ノ兄弟ノ参考ニ供ス

〔明治十五年九月七日・於東京第一基督教会〕

## 77 基督教皇張論

〔包紙上書〕

「ヤスノ上帝<sup>〔ツ〕</sup>

無神論者 利己主義 神ヲ知ラス。

今ハ好機ナリ

○人々ニ慥ナ信任ヲオケル人物ヲ望ム

○国会ノ前 ○正兵

○卒兵

漸々ノ伝道ニアラス

駿速ノ伝道ニテ成ルベシ

伝道者ハ宜ク時機ヲ察セサ<sup>〔カ〕</sup>「ル」ペカラス

彼ヲ知り我ヲ知ル

〔朱〕  
「基督教皇張論」

百戦 百勝

〔時機ヲ見我ヲ知ルトハ

〔本文〕

主基督蘇生セラレ後ガリラヤノ山ニ於テ門弟共ニ命セラ〔レ〕シヨリ、門徒等ハ慎テ其ノ命ヲ奉シ、実ニ身命ヲモ抛チ、主ノ福音ヲ伝ラレタレバコソ、我輩モ御同様ニ今日此福音ノ恵ミニ預ルノ面目ヲ得タリ、此道ヲ伝ヘサレハ人イカテ之ヲ聞クヲ得ントポールモ云レシ通り、我輩此ノ恵ミニ預カルモノ昔時ヨリ今日ニ至迄主ノ命ヲ奉シ、身命ヲ抛チ、苦辛ヲモ顧ミス伝道セシ所ノ熱心信徒ノ轍ヲフミ、畢生ノ力ヲ竭シ此道ヲ伝ヘズシテ豈止ヘケンヤ

我カ主基督ニ於ケル兄弟ヨ、予モ今回此大親睦会ニ臨メル諸兄弟ノ末席ニ列シ、少シク鄙見ヲ述ルヲ得ルハ、予ニ於テ何ノ面目カ之ニ如カン

予ノ今日述ヘントスル所ハ基督教皇張論ニアリテ、予之ヲ述テ、兄弟ニ予ト同意シテ如斯アリ賜ヘト云ノ意ニアラス、イサ、カ之ヲ述ヘ以テ諸兄弟ト共ニ計リ、共ニ力ヲ協セ、直ニ今日我国ニ於テ最モ大切ナル事件乃基督教皇張ニ着手セント欲スル也

○兄弟ヨ、我国維新以来ノ況情ヲ觀察セラレヨ、非常ノ変革実ニ一足飛ノ変革、歐洲ニモ未タ曾テ比類ナキ所ノ大改革ナラスヤ、昨年我国ニ来遊セラレシ米國ノジョーセフ・クック氏モ、本邦ニ帰航ノ後日本ノ況情ヲ陳述シテ、其ノ開進ノ速カナル恰モ一夜ニ突出セシ富士山ノ如キモノニアラスヤト云レタル如ク、我邦維新以来ノ改革進歩ハ実ニ驚駭ニ堪ヘサルナリ、夫レ物質上ノ進歩トイヒ。政体上ノ進歩トイヒ。學術上ノ進歩ト云ヒ。又志操上ノ進歩ト云ヒ、進ムベクシテ再ヒ退クベカラサル程ノ況情ニ至リシハ、豈偶然ニシテ成リシモノト云ヘケンヤ

○嗚呼在天ノ父忝ナクモ我国ヲ眷顧シ賜ヒ、此ノ活動ナル我邦家大改革ノ際ニ当リ、我カ同胞一箇人ニトリ又全社会

ニトリ、其ノ終局ノ目的ヲ達スルニ最モ必要ナル基督教ヲ、外国教友ノ手ヲカリ我邦ニ伝播セシメシハ我邦家ニトリ何等ノ事件ツ、仮令史家ノ一言以テ我史上ニ記載セサルモ、此事件コソ決シテ少々ノ事件ニアラス、一国ノ人民ニシテ之ヲ採用シ、之ヲ信セハ必ラス昌へ、之ヲ拒絶セハ必ラス衰ヘント彼ノ著名ナル独乙ノクリストリーブ氏モ云レタル如ク、之ヲ受クルト否サルト、又之ヲ伝フルト伝ヘサルトハ我カ同胞ノ福祉ヲ蒙ト不幸ニ陥イルトノ二事ニ関スル事ナレハ、吾輩幸ニ神ノ招ヲ受ケ、キリストノ血ニヨリ償レタルノ身トシテ豈ニ之ヲ匆卒ニ看過スベケンヤ

○兄弟ヨ、然ラハ我等何ニヲ為スヘキカ、他ナシ伝道ノ一事ニ従事スルニアルノミ、今日日本ノ況情ヲ見ラレヨ、歐米文化ノ皮相ヲ取り幾分カ模ギシ得タルモ、文化ノ力尚未タ人民ノ心ノ根底ニ達セサルヲ知ラル、ナラン、皮相ノ開化ハ益進ミ、却テ心中ノ開化ハ益退クニ似タリ、今日我國ニ於テ徳義如何ヲ糾問セハ、恰モ茫々タル亜弗利加ノ砂漠中一ノ休フヘキ地ナク、渴ヲ止ムルノ水源ナキガ如シ。砂漠ニモ薔薇ノ花咲クヘシトイサヤモ預言セラレタル如ク、我輩神ノ助ケヲ蒙ラハ、此ノ徳義上ノ砂漠中ニ福音ノ花ヲ咲カシムルハ決シテ難事ニアラサルヘシト信スレハ、我輩断然此ノ道ヲ我同胞ニ伝ヘ、之ヲ全国ニ皇張セスシテ止ムヘケン

○皇張スルトハ何ソ、我輩基督教信徒老幼男女ヲ論セス、学不学、才不才ヲ問ワス、各応分ノ力ヲ尽シ、否ナ各全力ヲ竭シ、四方八方ニ出カケ普ク之ヲ天下ニ伝播スルニアリ

然ラハ之ヲ皇張スル如何、手段ナクシテ可ナルヤ、否必ラス法方ナカルベカラス、戦ヲ為スニ必ラス軍律ナカルベカラサル如ク我基督教皇張ニモ手段ナカルベカラス、去ナカラ軍律ハ戦ヲシテ便ナラシムルモノナレハ、軍律ハ決シテ戦フノ精神ニアラス、故ニ伝道ノ法方ノ如キモ只伝道ノ便宜ノ為ナレハ、決シテ伝道ノ精神ト混同スベカラス

○去ラハ伝道ノ精神トハ何ソ、其ノ門徒ニ地ノ極マデモ行キ此道ヲ伝ヘヨト命セラレシ救主基督ノ心ヲ以テ我カ心ト

為シ、徹頭徹尾キリストノ信徒トナリ、身モ靈モ皆尽ク主ニ捧ケ、少シモ私慾私心ヲ挾マス、只主ノ命ニノミ是隨ヒ、飽マデモ此道ヲ全天下ニ伝フルノ精神ヲ云フ、此ノ精神アリ人初メテ主ノ為ニ働キ得ベシ、此ノ精神アリ人初メテ他人ヲモ動カシ得ベシ、此ノ精神アリ人克ク主ノ名ノ為ニ此道ヲ伝フヲ得ベシ

我輩ニシテ真ニ此ノ精神ヲ得、克身モ靈モ抛<sup>(カ)</sup>チテ主ニ捧ケ、只主ノ命ニノミ是隨フノ心ヲ持ツ事<sup>(補)</sup>道ヲ伝フル事」コソ実ニ伝道ノ大綱領ナレ

○此精神ノ真ニ心ニ発暢シ活潑ニ働カサレハ、吾人ノ為ス事ハ総テ半熟ナマヌルノ仕事ニ属シ決シテ主ノ為ニ功ヲ奏セサルベシ○吾人ヤ、モスルト水ヲ清メント欲シ、川ノ末流ニ着手シテ其ノ水源ニ溯リ其ノ源ヲ清メサルノ所業ヲナス事アレハ、我輩御同様ニ神ノ招ヲ蒙リ、キリストノ宝血ニヨリ自ラヲ称シ主ノ僕ト呼ニ至リシモノ、今回ノ大親睦会ニ際シ熱心神ニ祈リ靈ノ賜ヲ受ケ、新ニ生レ新ニ捧ケ、神ノ聖主ニ叶<sup>(旨)</sup>ヒ、神ノ喜ヒテ用ヒ賜フ所ノ伝道ノ器ト成ラン事ヲ願望シ、且此願望ヲ遂ケサル上ハ決シテ止マサラントス

兄弟ヨ我輩真ニキリストノ心ヲ以テ心ト為スニ至リ、キリストニ於テ一身一体トナレハ、我輩ノ間ニハ最早少シモ軌轢ナドハアルベカラサル事ト信スレド、吾人ハ矢張弱キ不完全ノ人間タル事ハ生涯免レサルノ恐れアレハ、我輩共ニ伝道ニ着手スルニ当リ、神ノ助ヲ蒙リ已往ヲ改メ將來ヲ慎ミ、伝道ノ妨害トナルモノハ尽ク之ヲ除キ、伝道ノ助ケトナル者ハ尽ク之ヲ採用シ、一日モ早く主ノ御国ヲ此邦ニ来ラセン事コソ今日御互ヒノ大急務ナレ、弟ハ是ヨリ諸兄ノ許可ヲ請ヒ、已往ヲ改メ將來ヲ慎ムノ点ニ於テ少シク弟ノ鄙見ヲ陳シ、御互ニ銘々ノ心ニ向ヒ問ワントス

第一 我輩基督教皇張ノ目的ハ何ニノ点ニアリシヤ、己レノ名譽心ヲ抱キシ事ナキヤ、私意ヲ挾ミシ事ナキヤ、キリストヲ頭ワサスシテ己ヲ頭ワススノ意アリシヤ、又神ニヨラスシテ己レノ才幹、己レノ才識、又己レノ學問ニ頼ル

ノ念慮ヲ抱キシヤ

二 兄弟ノ進歩ヲソネミ、他教会ノ隆盛ニ趣クヲ好マス、又兄弟ノ失策ヲ悲マスシテ却テ之ヲ冷笑スルノ心アリシヤ

三 兄弟ノ名譽ニ関シ惡シキ風評ナドアルトキ、之ヲ覆ヒカクサズシテ却テ広ク之ヲ他人ニ傳播セシ事アリシヤ

四 他会ニ属シ又他会ニ入ラントスル所ノ人迄モ窃ニ手ヲ回ハシ、己レノ教会ニ取り入レシ事アリシヤ

五 陽ニハ熱心信徒ト見セ、陰ニハ神ヨリ遠カリ、聖書モ誦マス又屢神ニ祈ル事ヲ怠リシ事アリシヤ

六 兄弟ノ目ノ梁〔ウツバリ〕ヲ取ルヲ好ミ、己レノ目ノ塵ハ如何セシヤ

七 兄弟ヲ怒リテ屢〔夕方ニ至リ〕太陽ヲ入ラシメシ事アリシヤ

八 伝道師ト伝道師トノ間ニ互ニ讒謗セシ事アリシヤ

九 我輩ハ真ニ我カ三千万ヨ同胞ヲ愛シ常ニ神ニ祈リ居ルヤ

〔上欄〕  
「些細ノ事ヨリ大ナル了解違ヲ生ス、双方ヨリ疑心ヲ以相接セス、互ニ信用シ誤ルモ信スルニ若カス」

兄弟ヨ兎角伝道師ナル者ハ、主キリスト教会ノ為ニ伝道セスシテ己レノ教会ノ為ニ伝道スル念慮ノ生シ安キモノナレハ、以上ノ数件ハ教会中ノ信者ニアラスシテ、却テ教会ヲ導ク所ノ牧師伝道師ノ中ニアルベシト信ス○兄弟ヨ此等ノ事ハキリストノ心ヲ以テ心ト為スモノノ挾〔逆〕クベカラサル所ナリ

○此ノ外。弟ノ平常憂フル所ハ外国宣教師中ノ間柄ノ事ナリシガ、先般大坂ニ於テ開カレタルプロテスタント宣教師中大親睦会※ニ於テ彼等ノ間ニ少シモ宗派上ノ競争ヲ顯ワサス、軋轢ヲ生セス、互ニ心緒ヲ打チ開キ向來ノ法方等ヲ考ヘ、又切ニ我カ日本ヲ思フノ念慮ノ勃々トシテ湧出ツルカ如キヲ見テ大ニ喜ヒ、弟モ慥ニ彼宣教師中ニ一致ノ行

レタルヲ見

○兄弟ヨ、我輩聖靈ノ火ヲ受ケ我カ心中ニ残レル雜物汚物ヲ焼キ尽シ、是迄ノ不平和解シソコナヒノ類ハ尽ク之ヲ消滅シ去リ、更ニ神聖ナル神ノ靈ニ充滿、仮令宗派ノ分チアルモ敢テ軋轢ヲ為スナク、互ニ手ヲ分チ相助ケ相譲リ連絡ヲ通シ応エンヲ為シ、此道ヲ皇張スルヲ計ラハ豈ニ愉快中ノ最モ愉快ナルモノナラズヤ

京師ヲ発スルニ当リ、我カ親睦会ニ於テ我内国ノ牧師伝道師ニモ此一致ヲ見ン事ヲ願ヒ、又外国宣教師方ト我日本ノ兄弟トノ間ニ真ノ親睦、真ノ一致ノ行レン事ヲ願ヒ居リシカ、此地ニ来リ見レハ何レヨリ来レル兄弟モ皆此願ヒヲ抱キ奥尔ヲ見テ大ニ驚キ、且此地ニ於テモ兄弟カ此事ヲ願ヒ奥尔ヲ聞、我輩ノ願ノ予メ計ラスシテ如斯一途ニ帰スルヲ喜ヒ、且此地ニ於テ内外信者ノ間柄モ兼テ親密ニ趣キタルヲ聞キ、又横浜ト此地ニハ特別ニ聖靈ノ降臨\*アリテ、恵ミニ感スルモノ、数十ヲ以数フルニ際セシハ、天父カ今回我等ノ上ニペンテコステノ日ヲ再ヒ顯出セシムルニ非ラスヤ

茲ニ於テ基督教ノ皇張ノ法方ヲ論セサルベカラス○弟ノ鄙見ヲ以テ論スレハ其法方ニツナリ、一ハ直接伝道、二ハ間接伝道

〔上欄〕  
「第一」直接伝道ナリ

直接伝道トハ兄弟ノ聖靈ニ充チ恵ミニ富ミ祈リニ富ミ、聖書ニ明カニ教義ニ曉通シタルモノ身命ヲ抛チ此福音ノ活種ヲ広ク伝播スルニアリテ、此任ニ当ルモノ実ニ容々易々ノ事ニアラス、今日社会ノ輕蔑ヲ受ケ耶蘇坊〔主〕ナドト称セラル、モ此任ヨリ実ニ貴重ナルモノニシテ、弟ハ太政大臣ノ位ニアランヨリモ寧ロ伝道師ノ任ニ当ラン事ヲ欲ス、太政大臣ノ如キハ一国ノ衆庶ノ上ニアリト雖、唯衆庶ノ身体ヲ治ムルノミ、然ルニ伝道師ニ至リテハ如何ニ

身ハ貧ニ位ハ賤シト雖、此全地球ヨリモ遙ニ貴キ一己人ノ靈魂ノ福祉ニ関スル所ノ働キヲ為スモノナルオヤ

◎此道ヲ伝ヘサレハ人之ヲ聞ヲエス、聞ヲ得サレハ、人之ヲ信スルヲ得ス、信セサレハ人救ワル、事ヲ得ズ、兄弟ヨ

〔朱点・以下同〕。

然レトモ尚難事トス

今日ハ人力車、馬車、汽車、汽船ノ便幾分カ備ハリタレハ我全国ニ伝道スルハ難事ニアラス、

仰キ希クハ在天ノ父、我東洋ニモ亦ボールノ如キ、ルーサノ如キ、ジョン・ノーツクスノ如キ、ホイットフヒールト

〔ホイットフヒールト〕ノ如キ、ウエスレーノ如キ、フィネー、ムーデーノ如キ人物ヲ起ラシメ、此ノ伝道ニ従事セシ

メ、我日本ノ首府ナル東京ヲ初メ他ノ大小都会山村僻地津々浦々迄モ、残ル所ナク洩ル、所〔ナク〕此ノ救ノ道ヲ

伝播セシメン、我同胞三千万ヨノ生靈ヲシテ、此ノ命ノパン、命ノ水ニ就飢渴ヲ止メシメン事ヲ

且<sup>〔巨〕</sup>コ細ノ法方等ノ如キ各教会ニ於テ已ニ之ヲ施行シタルナレハ、弟ハ茲ニ其ノ法方ヲ論スルヲ好マサレトモ、何レ

ノ地方ニ於テモ教会協力シテ人ヲ撰ヒ、其人ヲ<sup>〔各ノ力ニ応シテ出金シ、今ノ不完全ヲモ願ミス、力ノ及</sup>

フ丈、手ノ届ク丈ケ、伝道ニ着手スルハ基督信徒各ノ今日欠ヘカラサル大急務ナリト信ス、教ユルハ学フカ半ト申

シテ、伝道セサル教会ノ信仰モ亦振ハサルベシ

<sup>〔上欄〕</sup>  
「第二」

間接伝道

間接伝道ヲ二分シテ、一ヲキリスト教主義ノ新聞雑誌著書、他ハキリスト教主義ノ学校ナリ

●新聞雑誌著書等ノ如キハ尚我キリスト教社会ニ於テ甚不完全ナレハ、我輩速ニ此事ニ着手セン事ヲ希図スルナリ

○兄弟ニモ知ラル、通リ今日ノ新聞ハ幾分カ社会ヲ益セストハ云ハサレトモ、彼ノ淫々ナル雜報ニ至リテハ親子ノ

間ナドニ於テ決シテ読ミ得サルホドノ事モアリ、別シテ或ル画入新聞ノ如キハ甚タ風俗ヲ乱タスモノト云フサル

ヲ不得モノモアリ、我輩先基督教主義ノ新聞雜誌ヲ發兌シテ此ノ弊風ヲ矯サレハ又他ニ望フヘキモノナシ。○且現今著書ノ類ヲ見ラレヨ、多クハ政事上ノ書ニシテ現時政事ノ志操ヲ起スハ大切ナリト云ト雖、此等ノ書類ハ人間ノ德義ヲス、メ、人ノ志操ヲ高尚ナラシメ、人ヲシテ克ク人間ノ終局ニ達セシムルノ目的ニアラサレハ、此等ノ書ノ如キ唯一分ノ益ヲ為スモ「ノ」ニシテ、此德義ヲ重スヘキ社会ニ取リテハ最モ必用トモ見做スヘカラス、又近来ノ著書中往々基督教ニ反對スルモノモ少シトセサレハ、彼等若シ著書ヲ以テ我輩ニイドマバ我輩モ亦宜シク著書ヲ以テ之ニ答フベシ、且新聞ノ如キハ未タ基督教伝道師ノ入りコマサル山村避地ノ人々迄ニモ克ク基督教ノ動波ヲ及ホシ得ルモノナレハ、此伝道ニ急ナルノ際ニ当リ我輩一日モ之ヲユルカセニスベカラサルナリ、且世間ニ道ヲ慕フモノアルモ役目カラ又仲間親類ニ対シ、陽ニ我輩ト全ク隔絶シ断然ト教会ニ来ルヲ好マサルニコデモ流ノ人物モ少シトセサレハ、我輩此等ノ人ニ伝道スルニ著書ニアラサレハ能ク我輩ノ目的ヲ達スル能ワス、是レロヲ以耳ニ達スル能ワサルヨリ文ヲ以テ其ノ耳目ニ接シ、遂ニ心ノ根底ニ迄此ノ活種ヲ播カントスルニハ、新聞雜誌著書ニアラサレハ克ク為シ能ハサルナリ○諸兄弟モ新聞雜誌等ノ必用ナル事ハ兼テ知ラル、事ナラン、去レ「ド」モ今日迄之ニ着手セサリシハ各全力ヲ以テ伝道ニツ、キ余力ノ之ニ及ハザリシナラン、今一派ノ教会ヲ以テ之ニ当ラントスレハ実ニ難事ナルヘキモ、日本全国ノプロテスタント教会ノ有志連中連合シテ之ニ着手セハ事甚容易ナルベシ

今全国ニ五千ノ信徒アリトセハ各一円ツ、出シテモ五千円トナルベシ、又二円ツ、募ラントシ之ニ二ヲ乗スレハ一万円タルベシ、此五千円ヲ一ケ年中ニ募レハ各信徒ノ一ケ月ノ出シ前ハ僅ニ八錢三厘、一万円ヲ一ケ年中ニ募ラントセハ各一ケ月ノ出シ前ハ尚僅ニ十六錢六厘ナリ○如何ニ貧窮ノ人ナリトモ僅ニ十六錢六厘ヲ出シ能ハサル

モノアラン○其ノ上諸教会ノ中ヨリ然ルヘキ人物ヲ択拔シ新聞雜誌ニ任ラシメハ、我輩伝道ノ一大部分ニ着鞭セシト云ヘキナリ、此場ニ集レル牧師、伝道師、長老諸君、幸ニ此ノ動議ヲ賛成シ賜ヒ、各ノ教会員ニ計リ今回ヨリ直ニ募集ノ法方着手セハ事必ラス成ルベシ○兄弟ヨ之ヲ為スノ法ハ他ナシ、乃チ断然之ヲ為スニアリ\*

## ②基督教主義ノ学校

基督教主義ノ学校ハ幼稚園ヨリ大学ニ至ル迄実ニ必用ノモノト信スレトモ、当時我輩ノ力尚微々タリ、尽ク之ニ着手シ得サルベシ、今日ノ急務ハ基督教ノ皇張ニアレハ、学校ニ於テ多クノ俊才等ヲ集メ之ニ此道ヲ伝フル事コソ実ニ急務ナレ、維新以来ノ大改革ヲ見賜ヘ、壮年書生ノ手ニナリシモノナラスヤ、今日尚克〔ク〕日本ヲ動シ得ルモノハ此壮年書生ナリ、此勢力アル活潑ナル壮年書生ニ此道ヲ伝フルハ、恰モ肝心ナル所ニ木杵ヲカセ重キ物ヲ動カサシモノカ如シ、或ル人ハ学問ハアブナイ、少年学問ヲ為スト遂ニ豪慢ニ流レ信徒ヲ失フニ至ルベシ○成程学問ノミニ走ラセ信仰ノ道其ノ腦中ニ働カサレハ学問ハアブナイ○学問ヲ除キ信仰サストハ、乃チ学問ヲ好ミ理屈ヲ重スル人物ヲ此信仰ノ外ニ逐ヒ出サントスルノ策ト同種ニテ、策ノ最モ拙ナルモノナリ

〔上編〕  
「学問ニノミタノミ、又ホコルカラアブナイ、学問ヲ主ノ為ニ用ユ、豈アブナイ事アランヤ」

昔時ヨリ基督教ニ従事セシハ当時無学者ナルカ（十二門徒ハ格外ノ事）、オリシン〔オリゲネス〕、オーグステイン、ジェロミ〔ヒエロニムス〕、クリススム〔クリソストム〕、ウツキリフ〔ウィックリフ〕、ジョン・ホス〔フス〕、ルーサ、セランクトン〔メランヒトン〕、カルウン〔カルヴァン〕、スウィグル〔ツヴィングリ〕、ウエスレー、ホワイトフィールド、チールマル、トーマス・アーノルド、フィネーノ如キ皆当時ノ学者ナリ、然ラハ此日本ヲ動カサントスルモ此ノ如キ学者カ入用ナリ、現今幸ニ東京ニ於テモ又他所ニモ基督教主義ノ学校アリテ逐々此ノ事ニ着手シ、特ニ神学

校ノ設アルハ実ニ喜悅ニ堪ヘサルナリ

願クハ今一層学校ニ於テ力ヲ竭シ、其ノ學課ヲ高尚ナラシメ、生徒ノ益振フテ勉勵シ、振テ勤學シ得ル様ニナラシメ、又教会ヨリハ成丈ケ少年ヲススメテ就學セシメ、父母ハ己レノ子ヲオシマス神ニ捧ケ伝道ニ従事セシメ〔六〕伝道者ノ続々輩出スルハ疑ナシ、予ハ之ヲ以テ満足セス、基督主義ノ大学ヲ設立シ広ク奥<sup>〔スイ〕</sup>邃ノ學術専門科ヲ授ケ、広ク基督教ノ感化力ヲ及ボシ、真ニ真理ノ為、邦家ノ為ニハ生命ヲモ抛テ尽力スル所ノ人物ヲ養成セハ、水ノ上流ヲスマスノ策ト云ヘキ也

〔七權〕  
「メソデスト兄弟ニ大学ノ挙アルヲ喜フ」

今ヤ我基督教ヲ襲フモノハ現今自ラ學者ト称スルモノナラスヤ、ミル、スペンソル〔スペンサー〕ノ糟粕ヲナムルモノナラスヤ○彼無神論ヲ吐露シテ我ヲ襲ハ、我輩宜ク有神論ヲ以テ之ニ答ベシ、彼學術ヲ以テ来ラハ吾學術ヲ以テ之ニ答ベシ、故ニ吾人決シテ平常ノ用意修練ニ怠ルベカラス、奈須ノ与市ハ源家ノ弓取リナラスヤ、平常弓矢ニ熟練セシニアラスヤ、平家ヨリ扇ノ的ヲカケテ之ヲ射ヨト云レタルトキ、源軍ニ一ノ弓取ノ之ヲ射落スベキモノナケレハ、実ニ源軍ノ恥辱ト云ヘク軍ノ蹙氣タダクベシ、乍去一ノ与市ナルモノアリ、一発以テ之ヲ射落シタルハ源軍ノ大面目ナラスヤ○与市ナルモノハ當時辞スルモ死シ辞セサルモ死スルモノナリキ、故ニ彼ハ死ヲ決シテ海中ニ騎リ込ミ、矢ヲ放タントスルニ波アラクシ船動揺シテ的ヲ射ル能ワス○彼ノ目ヲネムリ黙祈シテ待つ事漸時、風波ノ少シク穏カナリ〔シ〕カハ直ニ矢ヲ放テ古今未曾有ノ面目ヲ握取セリ○我輩ハ世人ノ面目ヲ要スルモノニアラス、特ニ主ノ僕ノ職務ヲ尽サン事ヲ望ムナリ

兄弟ヨ、以上論セシ所ハ人ニ先立チ伝道スル事ヲ論シタルモノナレハ、予ノ伝道論ハ之ヲ以尽キタリトセス、只伝

道ニ必用ナル手段ヲ論シタルナリ、此ノ三ツノ手段ハ恰モ三軍ノ如シ、直接伝道ハ中軍、新聞雜誌著書ト学校トハ左右翼ナリ、是ハ平時ノ戦ノ用意ナリ、乍去危急ノ場ニ至レハ必ラス他ノ力ヲカラサルベカラス

〔上欄〕  
「(○)以上ノモノハ伝道ノ手段、手段ノ木桿ノ如シ、木桿アルモ支點ナ〔ケ〕レハナラス○支點ハ靈ノソ、キ」〔カ〕

昔ニ、ロシヤノセバストボールノ戦ニ於テハ婦人モ子供モ出カケ、土足トナリ砲台ヲ築キ〔シ〕事アリト

今日ハ我邦ノ伝道ニ於テ非常ノ時ト見做サ、ルヲ得ズ、故ニ学不学、才不才、貧富貴賤、老幼男女ヲ論セス……

……皆尽クキリストノ兵丁トナリ此ノ戦ヲ為サハ、大敵ヲ降伏セシムルハ決テ難事ニアラサルベシ

兄弟ヨ、此ノ道ナクンハ我同胞三千万ヨハ罪ニ死スベシ、此ノ命ノバンヲクヒ命ノ水ヲノマサレハ彼等ハ飢餓ニ死スベシ〔カ〕

神ヲ知ラス神ヲ聞カサル三千万ヨリノ的アリ、神ノ為之ヲ射落サネハナラヌ時ナリ〔ママ〕

◎今ヤ非常ニ我輩ノ伝道ニ勉勵スルノトキナリ○明治十六年五月ノ此ノ一周間ハ非常ノ時ナリ○大坂ニ宣教師ノ集リ会アリ、又此三月以来横浜、東京、安中ノ諸教会ニハ特別ニ聖靈ノ降臨アリ、罪ヲ悔ヒ主ニ随フモノ百ヲ以テ数フルニ至ルノ際ニ当リ、此大〔親〕睦会ヲ開クニ至リタルハ決シテ偶然ニアラス○在天ノ父ノ特別ニ我輩ニ賜モノアルベシト確信ス

東京ヲ動カスハ大切、又東京ニ大学ヲ立ツモ必用

◎此時ヲ以テ我国伝道ノ維新トスベシ

国会開設前ニ五千ノ信徒一年ニ二人ツ、導カハ、開設ノ年ニハ三千二百八十万五千人ハ信徒トナル。今東京ニアル二千ノ信徒年二人ツ、導カハ、六年ヲ出テ〔ズ〕シテ東京ノ人民ハ皆信徒トナルベシ○此事難事カ〔ママ〕神ノ力聖

靈ノ助ヲ受ケハ事成ルベシ

東京ヲ動カ〔ス〕ハ大切、東京ノ兄弟我輩ヲ先導シ賜ヘ、我輩地方ヨリ離レ〔シ〕モノ共今回此ノ精神ヲ振ヒ興シ、地方ニ互ニ主ノ御国ヲ来ラス為ニ働カハ、地方ヲ動カスモ亦容易ナルベシ

人ニ於テ難シ

神ニ於テ難事ニアラス

ジョン・ノックスノ祈、スコットランドヲ吾ニ与ヘヨト○我輩今回此大親睦会ニ臨ミ、実ニ伝道ノ必用ナルヲ感シ、我カ日本ヲキリストノ為ニ我輩ニ与ヘヨ、我カ同胞ヲ天国ノ民トセヨ

〔明治十六年五月・於東京〕

78 「ハーデー氏ノ生涯ト人物」

多クノ旅人カ米國ノ波士頓<sup>(ボストン)</sup>ニ近寄ルニ、或ハ海上ヨリ来ルカ又ハ陸地ヨリ来ルニセ<sup>(ヨ)</sup>、大廈高楼ノ上ニ著シク聳エ出テタル黄金色ノ丸屋根ヲ見ルトキハ、如何ナル遠路ノ旅疲モ一時ニ忘ル、程ニ慰メヲ得ルト申サレマスガ、予モ每度波士頓ヲ出テ再ヒ其ノ市ニ帰ルトキニ、必ラス多ノ旅人ト同シキ感情ヲ覚エマシタ、抑此ノ黄金色ノ丸屋根ハ何カト問イマスレハ、即チマスチューセツ州ノ議事堂デアリマス、予ハ昔時初メテ該ノ府ニ達シ此ノ議事堂ノ前ニ参ツタトキ、其ノ前面ノ左手ノ方ニ一ノ銅像ヲ見テ何人ノ像カト思ヒ近寄リ見レハ、其ノ下ニ Yet live ト文字ノ彫リアルヲ認メ、如何ナル意カト其ノ近傍ニイ<sup>(付)</sup>ツム一貴人ニ問イタレハ、政事家ニシテ教育家ナルホレース・マント云人ノ紀念像ナリト答ヘマシタ

予今之ヲ考ヘ見マスルニ、Yet live ト云フ言葉ハ彼カ今天國ニアリ尚生クト云フノ意ヨリモ、寧ロ人間社会ニ彼レノ残サレタル事業カ尚存シ生クト云フノ意ナリト思ヒマス。夫レ生クト云フ事ハ死スル事ニ反シ、人間ニトリテハ靈魂ノ天國ニ進ムナリ、又其ノ事業カ地上ニ存スルナリ、随分好マシキ事デアツテ、殊ニ人間ノ美シキ生涯ハ恰モ今日九重ニ香イヌル奈良ノ都ノ八重桜ノ如ク、死シテ無キ後ノ世迄モ尚馨シク香ヒマス

予ハ本日予ノ亡友、予ノ恩人、予ノ米國ノ父ト称スアルフュース・ハーデー君ノ為ニ記念ノ説教ヲ致シ<sup>\*</sup>「マ」スレハ、兄弟ニハ今午前一時間余リヲ予ト共ニ送り賜ハン事ヲ願イマス

最前一寸御話申マシタ波士頓ニアル議事堂ヲ距ル事僅一町以内ノ所ニ、予ノ恩人ハーデー君ハ住マイ居リマシタ、

故ニ予ハ彼ノ議事堂ヲ見又ハ思フ毎ニハーデー君ノ家ヲ思出シ、又ハーデー君ヲ逐念スル毎ニ彼ノ兀然トシテ天上ニ聳ヘ立ツ議事堂ヲ思ヒ出シ、又議事堂ノ前ニ立テラレタルホレス・マンノ記念像ノ下ニ彫ミアル *Yet Live* ト云フ言葉ヲ思出シ、予ノ恩人ハーデー君カ予ノ心ニ *Yet Live* 尚存スルノ感情ヲ惹起シマス。扱予ノ如ク君ノ恩顧ヲ受ケタルモノハ申迄モナケレド、米國ノ学者社会、宗教社会、殊ニ世界ニ出張サレタル宣教師社会ニ於テモ、君ノ容貌、言語、事業等ハ、生キテ尚存シ長ク消滅スベカラサル紀念碑トナルヘシト信シマス

却説此ノハーデー君ハ千八百十六年マスチューセツ州ノ東南部ナル一邑チャタムニ生レマシタ、而シテ君ノ父ハ航海ヲ以テ業トスル所ヨリ人々ハ彼ヲ呼テ甲比丹ハーデイト称ヘマシタ、君ハ村落ニアリナカラモ農ヲ以テ業トスルヲ好マス、又父ノ業ヲ<sup>〔継〕</sup>続キテ航海家トナルノ意モナク、幼キヨリ深ク学ニ志シ村落ノ小学ニ於テ著シク頭角ヲ顯ハシ、十四年ノ比ニ及ヒテ遂ニ意ヲ決シアンドワ、フィレプス・アカデミーニ趣キ、古代ノ文学并ニ数学等ヲ修メ、以テ大学ニ入ルノ用意ヲ為シタレトモ、不幸ニシテ多病又資金モ乏キヲ告クルノ故ヲ以テ、卒業ノ時期ニ至ラス空シク其ノ校ヲ退キマシタ。若シ君ヲシテ素志ノ如ク學術海ノ港ニ達スルヲ得セシメシマシタナラ、君ハ如何ナル鴻儒トナラレシヤ、又如何ナル芳名ヲ学海ニ轟カセシヤヲ知ルベカラサルモ、賢キ天父ノ摂理ハ君ヲシテ直ニ学海ニ航セシメス、却テ君ヲシテ学海ニ航スル人ヲ導カシメタル様ニ見エマスル

君カ学資ノ乏シキヨリアンドワヲ去ルノ事柄ハ、予ノ君ヨリ自ラ聞キシ所ヨリ証スルニ足マスル、ソハ予一日君ト共ニ波士頓府ノ<sup>〔ワシントン〕</sup>華盛頓街上ヲ歩ミ、其ノ街ノ漸ヤ<sup>+</sup>広キ所ニ来タリシトキ、君ハ足ヲ止メ予ニ語テ曰、余少年ノ折アンドワ、フィレプス・アカデミーヲ去リ茲ニ来ツタトキ、余ノ囊裏残ス所ハ僅ニ五十錢ナリキ、故ヲ以テ余ハ此ノ街頭ニイヅミ手ヲポケットノ内ニ入レ、今夕ハ何レノ家ニ往キ宿スベキヤ、前途何事ヲ為シテ已レノ立身ヲ計ルヘキヤ種々

心ノ裏ニ思案シオリシニ、一ノ貴人余ノ思案スル有様ヲ見懸ケシニヤ余ニ問テ云ハル、ニ、少年ヨ爾ハ何ヲ思案シオルカ、余ハ語ルニ実ヲ以テセシカハ其ノ貴人ハ余ヲ雇イテ其ノ見世ニ連レ行レ、簿記ヲ預カ「ラ」シメタリ、余ハ其ノ時ヨリ商法ヲ見習初メタリ、又余カ今日ノ身代ハ五十銭ヨリ初メタリ云々

君ハ其ノ後多病ノ故ヲ「以」再ヒ故郷ニ還リ、傍ラ農事ニ従事セシガ、一日畑ニ往キ鋤ヲ以テ耕シオリシニ、不図思ヒ付キ如斯碌々日ヲ送ラハ前途何ニノ見込モアルマシキヲ感シ、遙ニ鋤ヲ抛テ云ハレマシタニ、余ハ再ヒ鋤ヲ取ルマジト、君ノ決断此ノ一事ニ於テ思見ルベシ

君ハ其ヨリ直ニ波士頓ニ出懸ケ商法ヲ試ミマシタカ、久シカラサル内ニ又病ニ罹<sup>〔ママ〕</sup>リ加養ノ為漸ク郷里ニ帰リオリシトキ、波士頓ノ一貴女其ノ友達ニ誘ハレ君ノ家ニ往キ、君ノ起居ヲ問ハレマシタガ、君ニハ其ノ時ヨリ其ノ貴女ト偕老ノ念ヲ起シ、其ノ後遂ニ彼ノ貴女ト結婚致サレマシタ。予カ如斯詳シク君ノ結婚ノ事迄物語申スハ他デハナイ、君ノ生涯ヲ語リマスルニ妻君ノ事ヲ挾ミ入ル、ハ甚タ必要ノ事ト認メマス

君カ此ノ貴女婦ト偕老ノ契ヲ結ヒシ事ハ君ノ生涯ニトリ一大事ニアリマシテ、君ノ事業ヲ成ラシメシモ全ク此ノ神ヲ敬マイ基督ヲ信スル温和ニシテ賢明ナル婦人ノ助ナリト存シマス、予ハ久シク君ノ家ニ止マルノ幸ヲ得テ自ラ琴瑟調和モ只ナラサル此ノ好夫婦ノ挙動ヲ目撃シ、君ノ妻君ニ対スル懇切ナルト又妻君カ君ニ竭スノ周密ニシテ抜ケ目ナキ事ニハ驚キ入りマシテ、此ノ夫婦ハ真ニ佳適ノ配偶ニシテ世人ノ手本トナルヘキモノト称ヘマスルモ決テ過言ニアルマジト存シマス

君ハ此貴婦ト共ニ殆五十年ノ星霜ヲ送り、四男ヲモウケマシタ、内三人ハ商法ニ従事シ、一人ハ當時ダートマウス大學ノ教授職ヲ勤メ居リマシテ、文學社會ニハ随分知ラレタ人デアリマスル

君ハ如斯キ賢明ナル婦人ト最モ喜シキ生涯ヲ送り、又世人ヨリ非常ノ尊敬ト無比ノ信用ヲ受ケ、尋常人ノ充スヘカラル地位ヲ充タシ、又尋常人ノ成シ遂クベカラサル事業ヲ成遂ケ、君ノ友人ヨリハ君ハ賢シコキ判断力ニ富メルモノト仰カレ、又社会ヨリハ慈善ノ働キニ富メルト慕ハレタレハ、君ノ生涯ハ満足ノ生涯ト云テ可ナルヘキカ、君ハ已ニ人間ノ一生涯ノ義務ヲ終エタルモノト申スヘクシテ、暮年ニ及ヒ宜シク休養スヘキニ、君ニハ更ニ休養ヲ以テ己レノ楽ミトセラレス、齡已ニ七十ノ上ニ超ヘタルモ毎日己レノ事務局ニ出テ、事〔務〕ヲ取ラレ、少シモ老イタルノ景色ヲ頭ハサス、鏗鏘尚為スアルニ足ルヲ示サレマシタ○然ルニ君ハ本年五月不時ノ怪我ニ逢遭シ、同八月七日乃チ安息日ヲ一期トシ、其ノ午前第十時、君ノ属スル教会オール〔ド〕サウス・チヨルチノ集会ノ為ニ鳴ラシタル鐘ノ音ノ未タ終ラサル内、天上ノ大集会ニ趣キマシタ。君ノ誣〔訃〕ヲ聞クヤ兼テ德望ノ高カリシ人ナレハ、君ヲ知ルモノモ知ラサルモノスラモ為ニ惜マサルモノハナカリシト、殊ニ予ノ如キハ君ノ恩顧ヲ蒙ムル事泰山ヨリモ高ク北海ヨリモ深ケレハ、予当夏〔北〕海〔道〕ニアリ、君カ永眠ノ報ヲ得ルヤ予ハ逐悼措ク能ハス只管感涙ニムセブノミ、数週ノ間何事モ手ニ付カス傍然トシテ日ヲ送りマシタ。予帰京ノ後直ニ君ノ為紀念ノ説教ヲ為スヘキ筈ナルニ、慕々ノ情自ラ支フル能ハス、止ムヲ得ス今日迄延引ニ及ヒマシタ

嗚呼君ノ去ル天意ノ存スル所ナルカ、去ラハ予ハ又何ヲカ云ハン、君ハ此ノ世界ヲ去テ天堂ニ進ミ賜ヒシ事ナレハ、我輩最早婦女子ノ泣ヲ学フベカラス、今ヨリ振テ君ノ志ヲ継キ、之ヲシテ空シク地ニ落チサラシメハ、君モ亦満足セラル、事ト存シマス

○扱君ノ人トナリヲ論シマスレハ、君ハコモンセンスト判断力ニ富ミタルモノニシテ、其ノ言語挙動一々宜シキニ適ハサルナク、又実地ノ点ニ出テサルハナシ、其ノ性謙遜ナルモ快濶ニ、簡易ナルモ卑浅ナラス、閑雅ナルモ自ラ威

敵アリ、溫柔ナルモ決シテ慢スベカラス、真ニ君子ノ風ヲ備ヘリト申ベン

或人君ノ顔ヲ評シテグラッドストニヤン・フェースト云ヒ、又或人ハ君ノ写真ヲ見テ君ハ詩人ノ相アリト申シマシタ、君ハ常ニ口ヲ結ヒオリシモ自ラ微笑ヲ含ミ、名状シ難キ程ノ柔和ナル顔色ヲ呈シタレハ、老イタル人モ若キモノモ君ニ逢ハ、直ニ近ツキ一言ヲ交ヘン事ヲ望ミマシタ

君ハ如此天賦ノ美質アリ、加之天父ヲ敬ヒ基督ヲ信スル所ノ宗教上ノ美德ヲ以テシタレバ、君ノ生涯ハ己レノ為ニ送リシモノニアラス、全ク人ノ為神ノ為ニ送ラレタルモノ、如シ

（且君ノ畢生ノ目的ハ天意ヲ奉戴スルニアリテ、君カ世人ヨリ信任ヲ受ケシモ、事業上功ヲ奏セシモ、廣ク慈善ノ働キヲ為セシモ、皆尽ク此ノ一点ニ基イ「テ」セシ事ト思ハレマス、茲ニ君ノ美德ヲ分析シ陳ベマスレハ左ノ如シ

第壹 君カ世人ヨリ信用ヲ受ケシモノナリ、扱此ノ事ヲ論シマスレハ中々枚挙ニ暇アラサルモ、其ノ二三ノモノヲ挙ケ御談申セハ自ラ大体モ推シ知ル事カ出来マシヨウ

凡三十三年前ノ事デアリマスルカ、波士頓ニ一人ノ富人アリ、一〇〇万弗ヨノ身ダイヲ持チ居リマシタガ、病ニカカリ將ニ死ナントスルニ当リ、ハーデー君ノ信任スルニ足ルヲ承知致サレマシテ、一歳余リノ男兒ト己ノ身ダイヲ尽ク君ニ囑托致サレマシタ。君ニハ何ノ拒ム色モナク喜ンテ此ノ小兒ヲ家ニ引キ取り、己ノ子ノ如ク育テ揚ケ、其ノ身ダイヲモ預カリテ此ノ小兒ノ丁年ニ達スル迄ニハ六七〇万弗ノ巨額ヲ至ラシメマシタ。曾テ鐵道会社ノ長トナリマシテハ其ノ会社ノ資本ヲ増殖シ、アーモスト大学并ニアントワ・アカデミーノ委員トナリマシテハ其校ノ資金ヲ増加シ、其ノ任ニ適スルノ教員ヲ招聘シテ学校ノ置位ヲ進メ、又アメリカン・ボールドノ商議委員ノ議長トナリマシテハ盛ニ外国伝道ノ事業ヲ皇張セシメ、殊ニ此十七八年以来日本伝道ノ為ニハ最モ尽力セラレ、今日我カ同志

社アルモ矢張君ノ尽力ニヨルト申スモ誣言デゴザリマセヌ、予ハ過日一ノ寡婦ニシテ予ノ親シキ朋友ヨリ一書ヲモライマシタニ、其ノ書中ニ、余ハ我カ身ダイヲ所分スルニハーデー君ノ差シ図ヲ仰キオリシガ、君ハ早已ニ永眠ニ就カレタレハ余ハ今ヨリ何人ニ向テ計ランカ甚困却セリト

○右陳述致タ分ハ二三ノ引証ニアリマスルカ、君ノ如キハ真ニ六尺ノ孤ヲ托スヘク百里ノ命ヲ寄スヘキモノ〔ト〕申スベキカ

第貳 君ハ成功ノ人ト云ベシ

君ハ事ヲ取レハ必ラス成功ニ至ラシメ、又為サル所アリ為レハ必ラ〔ズ〕成ルヲ以テ自ラ任セシモノト思ハレマス、君ノ事業ヲシテ成ラシメシハ、矢張ソコニ成ラシムルノ資格ヲ具備セシ事ニヨルト存シマス其ノ資格ヲ挙ケマスレハ

〔上欄〕

第一 好テ聖書ヲ讀ミ祈禱ヲ常ニセシ事

第二 コンモンセンスト判断力ニ富ミ、見キリカヨク時機ヲ誤ラサル事

第三 不怠智識ヲ養成セシ事、友ヲ長者ニ求メシ事

第四 勉強シテ其ノ職業ニ怠ラサル事

第五 注意力ノ盛ナリシ事

第六 人情ニ曉通シ人ヲ見分タル事

第七 活眼ヲ以テ古今ノ歴史ヲ看破シ実施上ノ助ケトナサシメシ事

第八 當時ノ事情ヲ明カニシテ将来ヲ推測セシ事

第九 無益ニ金錢ト時間ヲ費サ、ル事

第十 非常ノ働キヲ為サン為ニ非常ニ休息シ、又美術ヲ愛シテ己レノ鍊ヲ養ヒシ事

第十一 事々ニ少シモ油断ノナキ事

右様ノ資格ヲ備ヘシ人ナレハ、物ニ触レ事ニ当リ、出沒無<sup>レ</sup>窮君ノ智力ヲ頭ハセシ事ナレハ、物語スヘキ事柄モ甚タ多クアリマスル故、中々容易ニ語リ尽シ難クゴザリマス

○君ノ判断力ニ富ミ見切りノヨキ事ハ、千八百七十三年ノ比、波士頓ニ非常ノ大火アリシトキ、エン焼ニカ、リシ人々ハトホウニ暮レ、何ニヨリ初メ何ニヲ為スヘキスベモナクアワテオリシニ君ハ決シテ驚カス、或人カ君ニ問テ申スニ、アナタハ何ヲ為サレマスかと、君ハ答テ月曜ノ朝早先ツ第一ニ煉化石<sup>〔瓦〕</sup>ヲアツロウベシト申サレマシタ、是レハ君カ他人ニ先タチ屋宇ヲ新築シ、他人ニ先立チ人々ニ貸シツケマシタ事ナレハ、又人々ニ先<sup>〔タ〕</sup>チ大ナル利益ヲ得タ事デゴザ<sup>〔イ〕</sup>マス

○君カ智識ヲ養成セシ事ニ就テハ予モ自ラ目撃セシ事ナルガ、英米ニ於テ新シキ声価高キ書籍カ出版サヘスレハ、君自ラ求ムルカ又妻君カ之ヲ求ムルカ、又ハ書籍館ヨリ借カリ来ルカ、君ニハ目ヲ通サ、ル事ハアリマセナンタ。又坐敷ノ書籍棚ニアル書籍ヲ見テモ、君カ多忙ノ時間ヲ偷ミ広ク文学ニ互リシ事ハ明カニアリマスル

君ハ聖書ニ曉通シ又好ンテアボクリファア読ミ、鉛筆ヲ以テコ、カシコニ徴シヲ付ケ置カレ、又毎度語タラ<sup>〔レ〕</sup>マシタ言葉ノ内ニモ面白キ聖書ノ語カアリマスル “If thou seest a man of understanding rise early to seek him, and let thy foot wear the step of his doors.” <sup>〔バ〕</sup>爾若シ賢明ナル人ヲ見付ケシナラハ彼ニ逢ハ<sup>〔ン〕</sup>為ニ朝早く起キ、爾ハ足ヲシテ彼ノ家ノ戸前ノアガリ石ヲ踏ミ、<sup>〔ウ〕</sup>サシメヨ、此ノ語ヲ聞ケ<sup>〔バ〕</sup>君カ常ニ汲々乎トシテ

智識ヲ求メシ事ヲ知ルニ足り、又君カ嘗テ交ハル所ノ人々ヲ尋タレハ、君ハ朋友ヲ長者ノ中ニ求メシ事ヲ見ルニ足リマス。君ハ又毎度歐羅巴諸国、イジプト、パレスティンノ諸国ニ趣キ、旧跡ヲ遊覽シテ己ノ見聞ヲ広メ実地ノ學問ヲ致サレマシタ ●君カ好テ美術ヲ愛セシ事ハ左ノ奇談ヲ以テ相察ガ出来マスル

君一日伊太利亜ニアリ、基督ノ御譬ヘノ内ニアル十人ノ娘ヲ表スル二人ノ大理石ノ人形ノ売物ヲ見テ甚之ヲ好ミシマシタ、然ルニ其ノ価ハ三千弗デアリマスルニヨリ、余マリ高価ノモノ故之ヲ求ムルハ或ハゼイタクニアラヌカト思案セラル、内、不計思付キ余カ若シ少年ノトキヨリ喫烟セシナラハ今ノ年齢ニ至ル迄何ン本ノ巻烟草、何弗ノ金ヲ費セシヤ、又演戲場ニ往キシナレハナン弗ヲ費セシヤト自ラ問ヒ、直ニ鉛筆ヲ把テ之ヲ算用シ見シニ三千弗ノ上ニ出テマシタナレハ、手ヲ搏テヨシト云ハレ、ソコデ人形ヲ求メラレマシタ

以上ノ事柄ハ君ノ見聞ヲ広メ智識ヲ修メ、大事業ヲ為ス為メニ大ニ鋭ヲ養フ手段トナリマシタ事ト存シマス

### 第三 君ハ慈善家ト称セラレマシタ

君ハ慈善家ノ名ヲ以テ世ニ称セラレマスガ、慈善家ト云ヨリモ寧ロ good & faithful Christian ト呼フ方カ至当カト思ヒマス、君カ慈善ノ働キヲ以テ畢生ノ目的トセシハ、決シテ慈善家ノ名ヲ得ルヲ求メタルニアラス、全ク神ノ愛、基督ノ愛ニヨリテ鼓舞奨励セラレ、遂ニ身ヲ忘、己レノ為ニ計ラス、其ノ働キニヨリテ神ノ栄光ヲ世ニ顯ハサン事ノミ求メシナリト思ハレマス、君ノ為セシ慈善ノ働キモ随分世間ニ知ラレテアルガ、世人ノアマリ知ラサル隱徳ト称スル分ハ何ニホトアルカ分カ「ラ」ヌト存シマス、譬ヘハ貧窮ナル後家ヲ助ケ、老イテ勞働シ得サル癡疾者ヲ憐ミ、孤兒ヲ救ヒ、貧シキ書生ヲ助ケテ學ニ就カシメ等ノ事柄ハ実ニ枚擧スルニ暇アラス、只著シキ二三ノ事ヲ擧ケレハ

第一ニ、君ハ大学ノ朋友トナリ大学ノ為ニハ己レノ工風モ、労モ、時間ヲモ費ヤセシノミナラス己ノ財産迄モ投シテ助ケマシタ、茲ニ一例ヲ挙クレハ米國ノ西方ニ都會ノ起ルニ随ヒ続々大学ヲ起スノ企カアリマスルニ、大学ノ為メニ資金ヲ募集スル校長ナドハ必ラス東方ニ來テ金ヲ募ルノ風習カアリマスルガ、其ノ校長ナドカ波士頓ニ參レハ必ラス先ツハーデー君ヲ目カケテ尋ネマスト云フ事ヲ聞キマシタ、又君カアーモスト、アンドワ、フィリプス・アカデミーノ為ニ尽力セシ事ナドハ、全ク慈善心ヨリ起リシ事ナルベシ

第二ニ、君ハ二十五年間ア、メリ、カン・ボールドノ、商議委員ノ議長ノ任ヲ負ヒ、頗ルボールドノ為ニ尽力シ盛ニ伝道ノ業ヲ皇張シ、懇切ニ伝道師ヲ待遇シ、伝道師ノ子女ノ教育ヲ助ケ、労働ニ堪ヘサル宣教師ノ困窮ヲ救ヒシ事等ハ、予ノ自ラ目撃シ又屢予ノ耳朶ニ聞キ得テ忘レサル事實デアリマスル

又殊ニ予自身ノ如ク君ヨリ特殊ノ恩遇ヲ蒙リマシ〔タ〕事ハ、我ノ骨髓ニ徹シ生涯寸時間モ忘ルベカ〔ラ〕サル事デアリマス

扱其ノ大略ヲ御談申スニ、予ハ我カ日本ノ維新ノ前、压制ヲ窮メタル徳川政府ノ下ニ生息シ、又一ノ藩主ノ支配ヲ受テ其ノ禄ヲ食ミオリマシタガ、十七八年ノ比ヨリ<sup>\*</sup>窃カニ基督教ニ関スル支那ノ書類ヲ得ミ大ニ心ヲ養フ所カアリマシテ、区々タル一主君ニ力ヲ尽スヨリモ寧ロ日本全天下ノ為ニ力ヲ尽スヘント思イ出シ、又日本ノ為ニ力ヲ尽サントナレハ日本古來ノ殘物ヲ抛チテ西洋ノ政度文物ヲ採用スルニ如カスト考ヘ初メマシタガ、右压制政府ノ下ニ生息シ、愚鈍ナル主君ノ飯ニ糊ロシ、暗黒千万ナル日本社会ニ牽制セラル、ナラハ、倒底予ノ志ヲ達シ我カ邦家ノ為ニ万一ヲ竭スハ決テ期シ難キ事ト思ヒ、二十四年前乃我カ元治元年甲子年、我カ国禁ヲ犯カシテ函館ヨリ脱走シ、水夫ノ労働モ甘ンジ、ボーイノ苦役モ厭ハス、一年間ヨノ星霜ヲ費ヤシテ米國ノ波士頓港ニ達スル事ヲ得マシタ、然

ルニ見ス知ラスノ異国故事々物々目新ラシク見習セヌ物計目ニ触レマシタ、又日々船場ニ出逢フ人々モ心ノ分カラヌ外国人ナレハ何ニトナク心細ク、予ノ前途ハ如何ニ成リ行クヘキヤ夜々眠リ得サリシ事モア「リマ」シタ、然ルニ神ノ摂理ノ冥助ニヤアリケン、予ノ支那ヨリ乘リ込ミタル船ハ即チ此ノハーデー君ノ手船ニアリマシテ、此ノ船カ港ニ着セシ数日ノ後君ハ一寸船迄見ヘマシタ、又数週ヲ経シ後其ノ船長ノ骨折ニヨリ予ハハーデー君ニ面会スルヲ得、又君ノ助ケニヨツテアンドワノ学校ニ送ラレ学ニ就クノ幸ヲ得マシタ、又其ノ後八年ノ間予カ留学スルノ学資ハ君ト君ノ妻君ノ賜ヲ所ニ関ハリマスレハ、此ノ同志社学校ノ出来マシタモ、又不肖不学ナカラモ予カ此ノ校ノ為イサ、カ微力ヲ尽スノ面目ヲ得マスルモ、全クハーデー君夫婦ノ好意ニ基クモノニシテ、天父カ我カ日本ニ贈リ賜ヒシ恵ミノ賜モノト仰キ謝セネハナリマセヌ

以上陳ヘマシタ所ハ、君ノ生涯ニツキ予ノ自ラ見聞セシ所ノ大略ヲ挙マシタノミナレハ、只君ノ生涯ノ一小部分ヲ陳ヘタルモノト云ハネハナリマセヌ、予慎テ君ノ生涯ヲ看察スルニ、君ハ基督ノ真「ト」ヲ以テ己ノ精神ヲ養成シ、己レノ品格ヲ組立テ、以テ社会ニ尽シ同胞ニ竭ス所ノ資本トナサレマシタト信シマス、又君ハ全身全力ヲ以テ神ノ御国ニ捧ゲシモノト存シマス

嗚呼君ハ其ノ生涯ヲ克ク費ヤシ甚タ有益ニ送リシモノナルカ、左レハ他人ノ信任ヲ受ケシ人物、又成功ノ人、慈善家ト称セラル、モ、君ニ於テ亦恥カシカラヌ事トモ存シマス

君去矣、此レ神ノ摂理ノ存スル所ナレハ吾人最早哀泣スベカラス、去レド此ノ好男子、此ノ善良ナル基督信徒ノ生涯ヲ空シク不問ニ置クハ、深ク其ノ恩愛ヲ蒙リシ予ニ於テ甚忍ヒ難キ事ナレハ、本日主ノ聖日ヲ借り同志社教会并ニ全校ノ生徒諸君ニ向ヒ、ハーデー君記念ノ為、君ノ生涯ノ大略ヲ陳ヘマシタ

兄姉、幸ニ此ノ人物ノ生涯ヲ兄姉ノ心ニ紀念シ賜ハリ、此ノ人物ノ如ク主ノ御国ノ為ニ全身全力ヲ捧ケ賜フナラハ、  
彼死スモ尚生キタリト云フ事が出来マシテ、予ニ於テ甚満足ノ事ト存ジマス

明治廿年十一月二十日

〔明治二十年十一月二十日・於同志社〕

## 79 夏期学校に対する感情

余は今朝極めて簡単に夏期学校<sup>\*</sup>に対する一片の感情を諸君に述べんと欲するなり、余の心中は実に喜と望の二者をもて満てり、何か故に喜ぶ乎、兄弟姉妹老若男女を論せず東より西より南より北より此一堂に相会し、経験に富める内外諸先生諸牧師の口よりして聖書に付き伝道に付き聴聞さるゝは何等の幸福ぞや、是れ蓋し日本未曾有の一大事実ならず〔や〕、又た多くの人茲に集り相俱に神の言葉を研究し神の聖霊を祈るは何等の愉快ぞや、知らず今日の会合如何なる関係を将来日本伝道上に波及せんか、余は予言者にあらされども必ず神の深意此会に存するあるを感<sup>（さ）</sup>せざるを得ざるなり、是れ余が大に喜ぶ所以なり、何が故に望む乎、非常に希望を抱く乎、試に思へ此夏期学校に集れるもの何人なる乎、重に九州ノ英学校、東京ノ明治学院、青山英和学校、大阪三一学校、其他新潟仙台地方ノ生徒諸君教員諸君なりとす、而して此人々は殆んど有為の青年なりとす、西洋大家の言に曰く其国の盛衰を卜せんと欲せば其国の青年を見よと、余曾て伝道会社の実況を聞くに従来日本の信徒ハ書生少く青年少しと、然るに今や多くの基督教青年を得たり、明治学院、青山英学校等は多く是れ基督を信するの青年なり、加之ならず基督教の生命ある道なるを知らざりし商業学校にも、基督を全く知らざりし高等中学にも、唯物論の盛なりし帝国大学にも既に基督教青年同盟会あるを見るに到り、而して今日此青年諸君が此処に集り神の言葉を研究さるゝは、嗚呼何等の一大事実哉

夫れ日本明治維新の功業は実に青年書生の手にありしなり、将来日本第二の維新日本心靈上の維新は又た吾人青年の手にあるものなり、曩きには長州等僅々の青年之を遂げり、吾人青年は全国力を協て第二維新を全ふせざるべから

ず、日本元氣を振起するに力を尽さざるべからず、苟も基督の元氣を拝し基督の招に入りたるもの豈安閑として坐視すべきの時ならんや、各自の職業に従ひ神に犠牲となりて働かざるべけんや、斯の如くに諸方より集り来り神の言葉の研究するのみならず愈々将来は聯絡を通じ氣脈をなし基督の為に勉めんとす、夫れ一木の松之を燃すも勢微なり二本三本相合して燃さんか非常なる勢あるなり、斯く東西より集合せる青年諸君の上に聖靈の火下り諸君が精神を鞏固ならしめ、而して合し、而して散し、而して来り、而して去らば日本全國を基督に導く決して難きにあらず、実に日本の将来は希望に満てるかな、是れ余が大に望む所以なり、此事に付き彼国米青年会中に最も經驗あるウキシャード氏が今日日本の為に尽力せられ、又た夏期学校に周旋してくれらるゝは吾人に取て非常の幸福吾人豈一言の謝辞なかるべけんや、翻て考ふれば今日ハ実に七月四日米國史上最も記憶すべきの日にして、独立自由を宣告したるも此日なり、今日米國は非常に悦ばしき日にしてニューヨーク府ボストン府等にては祝砲を放ち烟花を飛ばし種々の祝意を表することなり、ウキシャード氏並に米國宣教師諸君ハ米州十三州独立の挙を想ふて定て喜悅の至りならん、然れども今日日本にある兄弟姉妹が何千万人中より挺んでゝ神に仕へ神の手にありて独立するを見ば其喜悅や果して如何、啻に自ら独立するのみならず三千八百万余の同胞兄弟姉妹を神に導かんことを宣告するを見ば、ウキシャード氏の労苦も聊か満足さるゝものあらん、宣教師諸君の喜悅は啻に本國の独立を祝するの比にあらざらん、余今ま此夏期学校に対する感情則ち喜と望に付て陳ること斯の如し

80 安息日ト文明国ノ關係ノ論

安息日ト文明国ノ關係ノ論

予ノ論題ノミヲ見テ予ノ論ヲ聞カサル者ハ恐クハ問ワン、安息日ハ外国人ノ休日即チソントフトカ、ドンダフトカ、ソンドートカ云テ洋人ノ仕事ヲ休ミ飲酒ナトシテ保養スルノ日ナラスヤ、今日各人事業ニ勉強シテコソ文明ヲ助クベキニ、此休日此保養日カ文明ニ關係アルトハ如何ニモ訝カシキ事ナリト

成程御尤千万、長崎ヤ神戸ヤ横浜等ニアリテ見受クル所ノ外国人中不品行ノ商法家ヤ又無頼ノ水夫ノ輩ハ、此休日ヲ以己ノ商法職業ヲ停止シ只ニ保養遊山ノ日トナス事ハ予モマ、見受ケタレハ、御疑問ノ通り彼等ノ様ニ安息日ヲ消費セハ別ニ文明進歩ノ利益ニモナラサル事ハ鏡ニカケテ見ルヘケ〔レ〕トモ、彼ノ開港場中ノ洋人ハ尽〔ク〕右様ニ安息日ヲ送ルヤト糺セハ決シテシカラス、矢張上品ノ洋人ハ此ノ日ヲ最も大切ナル日トナシ、肉体ヲ休メ種々様ノ工風ヲ止メ置キ、切ニ心ノ修行ノ為ニ消費セリ、且彼等ノ本国ナル英国ヤスコットランドヤ米国ナドニハ、此日ヲ嚴重ニ守リテ百般ノ事業ヲ停止シ、心術ノ修行ヲ為シ、一周間過去ノ六日ノ労働ヲ休メ将来六日ノ鍊ヲ養フ為ニ供セリ、是他ナシ、勞スレハ疲ル、疲ルレハ又休マサルヲ不得サルノ人間性質ニ基ケル規則ト見做サ、ルヲ不得、且七日ニ一日ノ休息ハ恐クハ人間ノ發明ニ非シテ、慥ニ人間ヲ作り人間ノ身体靈魂ノ有様ヲ克ク了知シタル造物者ノ、人間ニ附与シタル規律ト見做テ決シテ間違ハアルマシト信ス

予請フ之ヨリ安息日ノ目的ヲ論究シ、而シテ其文明国ニ關係アルノ論ヲ諸君ノ御聞ニ呈セン

## A 安息日ノ目的

〔朱点、以下同〕

○人間社会ノ改良進歩ヲ期シ、人間ヲシテ其本分ヲ尽シ其本位ニ戻ラシムルニアリ、如斯申シテ少シク適例ヲ挙ゲ

テ御談申サネバ、其文明国ニ關係アルノ旨意モ御分無カルベケレハ、左ニ適例ヲ挙ケテ一々論究セシ

今我輩想像シテ自身テ米国ノ波士頓<sup>〔ボストン〕</sup>ニ行キ、此処彼処ト見物セハ其ノ有様ハ如何ソ

「馬車」 見ヨ、先ツ此田舎者が波士頓ノ華盛頓街上ニ立チカタ、トスル声アルヲキ、頭ヲ回シテ之ヲ見レハ彼

ノ方ヨリ四匹ノ馬ニ引レタル一ノ汽車ノ如キ長キ馬車ノ来ルヲ見ル、其ヲ見レハ二十人カ二十五人カ知ラヌトモ、車

ニ満充シ車ニアフル、程ノ人ノ来タルヲ見、又其後ヨリカタ、ト声アリテ又右同様ノ馬車来ルヲ見、又其中ヲ見レ

ハ人充満シ錐ヲ立ツノスキモ無カリシ

「荷馬車」 其後ヨリ何カ馬車二頭ニ荷物ヲ積ミ長キ革ノ鞭ヲ振り立テ、ホージート云ツ、馬ニ鞭ヲ当テ急シク走リ

行クヲ見、其後ニモ其後ニモ荷物車ノ続々トトシテ不絶来ルヲ見、又街上ノ兩側ニハ富貴人ノ如キ者モ職人ノ如キ者、

男子モ小供モ何カ物急カワシク歩行スルヲ見、又兩側ノ見世ヲ見レハ多クハ三界四界五界六界作りノ家シテ、其内ニ

色々ノ見世アリ、其ニ人々ノ出入ノ甚シキ、人ヲシテ驚カシムルノミ

「汽車」 電信線駒ノ巢ノ如ク、又カ、ト電報ノ急カシキ事ハ言ニ堪ヘサルナリ

鉄道ノステーションニ至リ、或ハ出行ノ汽車アリ、入り来ル汽車アリ、其ニ随テ出入ノ客ノ急シク且多キハ人ヲ驚

カシムル

「船ツキ場」 又船附場ニ至リ見レハ、中ニ大坂ノ安治川ドコ<sup>〔ロ〕</sup>カ片バシヨリ沢山ノ船ヲ比ヘ立タリ、津出ノ船ア

リ入津ノ船アリ、荷揚ノ船アリ荷積ノ船アリ、其辺ニハジュージュート蒸氣機械ニシテ荷物ノ揚印ヲ為シ、又荷物馬

車ノ出ルアリ入ルアリ其混雜人ヲシテ驚カシ〔ム〕ルノミナラス、実〔ニ〕我輩日本人ノ命ヲチ、ムル様ニ思ワル

〔上欄〕  
「製造場」

又所々方々ニ突然トツキ出タル高キ烟筒ノアルヲ見ルニ、多クハ製造場ニシテ内ニ製紙場アリ製糖場、製革場アリ製靴場アリ木綿羅沙ノ製造所アリ、何処モカ、ト蒸氣力又ハ水力ヲ用ヒサルハナシ、其内ニアル人ノ

内ニ支配人アリ帳面アリ見回人アリ又働ク人アリ、且其働クヘキ時間ニ定マリアレハ決シテ規則ニ触ル、能ワス

此等ノ事ハ殊ニ外景ノ事ナレトモ、腦力神經ヲ要スル所ノ働キハ又非常ノ事ニシテ、政事家ハ如何シテ人民ヲ支配ス

ヘキヤ、法律家ハ如何シテ正直ノ法律ヲ行ワシムルヤ、愛國者ハ如何シテ人民ノ利益ヲ起スヘキヤ、新聞雜誌記者ハ

天下ノ新聞奇事ヲ集メ、又ハ學術上ニ政事上ニ民權自由ニ經濟上ニ論及シ、社会ノ進歩ヲ計リ又ハ他ノ新聞記者ヲ駁

撃シ又駁撃ニ答論スル等ニ汲々乎トシ、大學教員ノ如キハ只生徒ヲ教誨スルノミナラス傍ラ論說ヲ吐キ社会ヲ教導セ

ント計リ、小学教員ノ如キ慈々汲々少シモ不怠、少年生徒ヲ預リテ己ノ子供ノ如ク之ヲ愛シ之ヲ教ヘ、唯々力ノ及ワ

ス教ノ届カサルヲ憂ヘ、醫師ノ如キハ夜寝ル目ヲモ眠ラス病家ヲ奔走シ、大病人ヲ預リタルトキハ食事ヲモ忘ル、ニ

至レリ

〔下欄〕

「宗教家ノ働キ ○書生ノ勉強—— 商法家」其他機械家ノ機械新發明ニ苦心シ、農學者ノ樹木培養ニ焦心スル等百

般ノ工芸技術挙テ數フルニイトマアラス、之ヲ一概シテ論スレハ彼米國ノ人ノ言ノ如ク時ハ金ナリ、彼ノ氣樂ナ支那

人ノ如ク春宵一刻価千金ト申シテ貴重ナ時ヲ遊テ消費スル類ニ非ス、働テ費シ、考テ費シ、錢モウケニ又人ノ利益、

社会ノ利益ノ為ニ費ヤスノ時ナレハ、片時モ油断セス又進ムヘクシテ更ニ退クベカラサルノ勢ヲナシタレハ、之ヲ他

ノ事ヲカリ譬ヘハ恰モ物ヲ酸素中ニモヤスガ如シ、酸素ノ度ノ多キニ随テ其モユルモ又早シ、如斯速ニ、如斯急ニ、

如斯熱心シ、腕力ヲ費ヤシ腦漿ヲ費シ神經ヲ費ヤセハ、人間ノ生命ヲ短縮セシメ、氣力ヲ衰凋セシメ、或ハ頭痛、或

ハ神經病、或ハ肺病等ニ罹リ天寿ヲ終ヘスシテ死スルアリ、或ハ虚弱ニ流レ随テ腕力モ減シ腦力モ衰ヘ人種モ退却スルノ憂ナキ能ワス

〔上欄〕「馬ヲ一周ニ休セ〔ズ〕シテ用イタレハ、其死スルニ殊ニ速ナリ　ブラックストーン」

故ニ彼有名ナル英国ノ最漸進党ナルブラックストーン氏モ其コメンタリーニ、基督教ヲ奉スル国ニ於テ安息日ヲ守ラス商方又ハ職業ヲ為ス者アラハ其者ノ結果必ラス道德衰頽ニ至リ、且七日ノ内一日ヲ以テ肉体ノ休息且拝礼ノ為ニ費スマテハ社会ノ利益ハ甚多カルベシト

〔上欄〕

「ブラウドホン」〔ブルードン〕且仏国ノ最モ急進党ナルブラウドホンモ曰ヘ〔ル〕アリ、若シ一周ヨリ一日ヲ減シ六日トナセハ、人ノ労働休息ニ比スレハ稍少ナク、又一周ニ一日ヲ増シ八日トナセハ、人ノ労働ハ休息ニ比スレハ稍過超セリ

〔上欄〕

「ウォルトル　レールネド」

〔又或ル米国憂国者ノ論説ニヨレハ、米国ノ新英吉利ニ百般ノ事業ヲ休ミ之ヲ休息ノ為ニ守リ来リシハ、周間ノ労働ヲ休メ思慮ヲ止メ、其人民ノ勢力氣力ヲ保養永續セシムルノ大原由ナリト

〔上欄〕

「学校ノ休息」又文明国ノ学校ニテハ土曜日半日カ又ハ全日ヲ休ミ、続テ又日曜日ニ全ク休業セシム、又英国米国ニハ政府ヨリモ安息日ノ律ヲ設テ之ヲ保護シ、農工商等ノ労働ヲ妨クニ至ル

是等ノ点ヨリ考レハ、七日ニ一日ヲ休日トナスハ労働者ニ欠ヘカラス、又労働ハ文明進歩ニ欠ヘカラス、故ニ文明進歩ヲ要セントナラハ第一安息日ノ設無カルベカラス。

去ラバトテ此日ヲ休暇トナシ、或ハ遊山ニ或ハ見物ニ芝居ニ飲酒ニ或ハ登樓ニ費スベキカ、休息トテ遊山ニ見物ニ芝居ニ飲酒ニ登樓ニ限ル者カ、此等ノ者ハ何等ノ利益ヲ社会ニ与ルソ、予断シテ曰ク、此等ノ者ハ社会ヲ清潔ニナシ能

ワス、却テ社会ヲ腐敗ニ沈没セシムル者ナリ、此ノ如ク社会ヲ腐敗ニ趣カシ「ム」ルハ決シテ安息日ノ目的ニアラサレハ、如何セハ安息日ノ目的ニ適ヒ又如何ンセハ安息日ノ利益ヲ得ヘキヤ、予是ヨリ此点ニ論及セサルベカラス

抑安息日ノ初マリハ人間社会ノ初マリニアリテ、七日ニ一日ヲ除キ休暇ヲナスハ決シテ人間ノ工風ニアラス、造物者ヨリ人間ニ附与セラレシ欠ベカラサルノ規律ナラン。造物者ノ初メ人間ヲ造リシトキ最早人間ノ進歩ハ労働ニヨリ、又労働セハ休息ナカルベカラス、又休息セハ惡念ヲ生スルノ憂ナキ能ワス、故ニ此惡念ヲ絶タン為七日ニ一日ハ取り分ケ、造物者ノ律ヲ学「バ」シメ、人間トシテ造物者ニ對シテ本務、又人間ニ對シタルノ義務、父母ノ務、子ノ務、兄弟ノ務等ヲ人間ニ講究セシメテ、如斯人間ノ本位ヲ失ワサラシメン為ナルベシト確信ス、故ニ欧米國ニテ上品ノ人ニハ、此日ヲ清潔ニ守リ、耶蘇聖經ヲ讀ミ、説教ヲ聞キ、子弟ヲ安息日学校ニ遣シ、聖書ヲ講習セシメ、己ノ徳ヲ研磨シ慈善ヲ為シ、人ヲ裨益スルヲ要求ス、如斯守リテこそ眞ノ造物者ノ規律ニ適フ事ナレハ、社会ヲ益スル事ハ決シテ疑ナク、安息日ニ眞正ノ工風ヲ為、志操ヲ練リ、充分ニ鋭<sup>〔鋭〕</sup>ヲ養ヒテ、週間ニハ充分ニ働キテ仕事ヲ為ス故事業ノ進ムモ著シク、又清潔ノ志操高尚ノ目的ニヨツテ働クニヨリ事業ノ成ルモ必セリ

是安息日ノ欧米諸國ニ大利益ヲ与ヘ、人種ヲ改良シ社会ヲ清潔ニシ政府ノ所為ヲ公平ニシ、人民ノ志操ヲ高尚ニシ公平ノ国会ヲ設立セシメ、眞正ノ民権ヲ弘張セシメ、新聞雜誌ニ自由ノ論説ヲ吐露「セ」シメ、朝ニハ压制ノ酷吏ナク、下ニ不平ノ暴民ナク、上下各宜ヲ得、男女ノ交際ヲ清淨ニシ、夫婦ハ一男一女ニ限りテ数人ノ妾ヲ蓄フルノ惡風ナク、親ハ慈ニ、子ハ孝ニ、朋友ニハ信切、窮民ニハ慈愛、産業ハ保護ヲ得、商法ハ隆興シ、物産ハ繁殖シ、國富民太平ヲ樂ムニ至レリ

〔補〕 彼ノ古聖人ノ道ニ富ミタル支那人ハ、道德ヲ講究スル事世界ニ冠タリト云ヘキモ、世界中支那人ホト虚欺ヲ云人民

ハアルマシトシーレ氏云ヘルアリ、之レ支那人ノ安息日ヲ守ラ「ズ」シテ醸セル所ノ惡風俗ナリ」

欧州ニモ此安息日ヲ乱ル国々ニハ事々ニ不融通「ア」リ、物ニ不平均アリ、上ニ多少ク<sup>〔ママ〕</sup>圧制鉄規アリ、下ニハ不平ヲ

鳴シ暴動ヲ為ス、社会党虛無党ノ如キ者続々輩出スルアリ、売淫女ノ如キ、飲酒ノ如キ、又ハ暴論家ノ続々政事ニ論談シ大ニ国安ヲ害スル如キ、或ハ淫ワイノ新聞雜誌ヲ上梓シテ風俗ヲ破ルアル如キ、皆尽ク社会ノ進歩ヲ絶断スル道具アリ

〔補〕「シーレー氏又曰ヘルナリ、安息日ヲ守ルノ心機スルトキハ公明盛大ノ規律ヲ奉スルノ心モ機スヘシ、又曰開化ノ人

民モ真正ノ教ヲ廢スレハ野蠻ニ歸リ、野蠻ノ人民モ真正ノ教ヲ加ヘサレハ決「テ」開化ニ趣カサルベシ」

之ニヨリ之ヲ見レハ、安息日ノ緊要ナル少シク見ルニ足レリ、予故ニ安息日ノ効能ト安息日ヲ守ルノ好結果ヲ挙げ、安息日ノ文明ニ大關係アルヲ述ヘ諸彦ノ御聽ニ呈ス、西方亜細亞ノ大聖人耶蘇救主ノ曰ク、安息日ハ、人ノ為ニ設ケラレタル也、宜ナル哉万古不易ノ金言

〔年月日等不詳〕

## 81 道德論

〔本文鉛筆〕

### 道德論

道德ト申セハ、何カバットシテ、一寸之ヲ談シ申シテ、中々之ヲ尽〔ス〕能ワス、去レトモ支那古聖人、堯舜、禹湯、文武、周公

大学ニ云フハ明德ヲ明ニスル〔ニ〕ヨリ脩身ト治国平天下ヲ主トシ、中庸其中ヲ執ヲ主トシ、論語ニハ夫子ノ道ハ忠恕ノミト、又己ノ所不欲、勿施于人、孟子ニ浩然ノ氣ト云事ヲ被説、唐ノ韓退之ノ如キハ厚道ニ仁義道德ヲ説出シ、宗儒幾分又古聖人ノ道ヲ回復シ、明ノ王陽明ノ如キハ先代ノ儒者流ヲ看敗シタル積ニテ知行合一ヲ被説マシタ、乍去支那ニ行ル、道德ハ如何、其結果ハ如何ヲ尋ルニ、或米国人ノ談ニハ（支那程譚ヲ云国ハナシト）

遠キ支那ハサテオキ、今日日本邦ノ儒者ハ社会ノ文明ヲス、ムルニ如何ナル関係ノアル者カ、何カ舶来ノ學術等ニ庄セラレロモ聞カス、且今日自ラ上等社会之人物ト称スル人々モ多少儒学ヲ学ンタ人ナルニ、今日ノ風俗衰頹ヲ見テ更ニ意トセサル如ク、或ハ意トスルモ之ヲ救フ法ヲ回ラサス、矢張順説ニ下適回カ如シ、盜賊ハ日ニ増シ男女之間ハ交乱レ、廉恥之風殆地ヲ払、実ニ実ニ我学者輩ニハ道德ヲ輕蔑、十露盤勸考之世トナリ行、流涕長太息ニ堪サルノ秋也  
今ヤ幸ニ欧米諸国ニ説ル、基督教モ近来我国ニ舶来シ、漸々我邦同胞之兄弟ノ心ヲ改良大ニ教化ヲ助〔ケ〕風俗ヲ一洗スル兆近来ニ著シク顯レ、近来ハ已〔ニ〕此道ヲ奉スル、此道ヲ人間ノ行ヘキ道ト認可スル者其数已ニ三四千人ニ

及ヒシ、予ニ於テ唯頭数ノフユルヲ喜フニアラス、人々此道ヲ修〔ナラ〕フ様ニナリタ〔ル〕事ヲ喜也

○何カ支那人ノ道德ハ人間ニ立派之上下ヲキセタ様ナ道德ニテ、上部ニ立派ニアレト、社会ニ入〔カ〕「リ」社会「ヲ」改良  
改進セシムルノ勢力ハ少シク見ヘス、去トモ独基督教ニ至リテハ

○此教ヲ心ニ入ルヤ否心ヲ更新スル事カ初メ、其ヨリ行カ改マリ道ヲ立ツル事ヲ出来出ス処ナクシテ、御□人も少年  
も、上等社会も下等社会も此教ヲ奉スルヤ否大ニ改良之色ヲ呈シ、社会ヲ一新スル事カ初リマス

「墨」文明之形出来ル

其精神ヲ要ス

宗教ハ其精神」

〔年月日等不詳〕

82 〔宗教運動史〕

千八百八十年前、小亜細亞之猶太ト云小国ニキリストト称スル人カ生〔レ〕、僅々三年余ノ間福音ト云テ、神ノ道乃人間ノ須臾モ離ヘカラサル道ヲ説カレ、其ノ国人ノ容レサル所トナリ、逐々十字架ニ刑ラレテ殺サレリタリ

○其門徒五百人モアリタル〔ニ〕撰択ノ者ハ僅十二人ノミ、其内一人ツマツキ其職ヲ失ヒタリ、此僅ノ十二門徒師ノ教ト命ヲ奉シテ懇ニ同胞ノ兄弟ニ道ヲ説キ、何等ノ苦辛艱難モ不厭、風ニ擲〔レ〕雨ニ浴シ紛身三十年ヲ出サル内、其時代ニ開カレタル国々ニ行、□火ニ焦カル、モ身ハ寸々斬ラル、〔モ〕不厭、遂ニ印度、クリシヤ、イタリヤ地方迄モ此道ヲ拡メ

羅馬政府 十回ノ迫害モアリ

ペリネー〔ブリニウス〕如何シテ基督信徒カ如斯相愛スルヤ〔カ〕

○三百年ヲ出サル内

多分ノ人物モ出シ羅馬東帝ノコンスタンティンハ之ヲ国教トナスニ至レリ

○五六百年ノ比ニ、現

仏朗西、英国島、<sup>〔ロシア〕</sup>羅斯亞、スウェーデン、欧州

各国ニ伝播シ

○八百年ノ比ニハ

宗教ノ僧侶ハ腐敗シタレトモ、仏郎西ノシャルマン等ノ尽力ニヨリ、大学校ニ於テ宗教ヲ教ヘ、亦大ニ僧侶ノ中ニ権力ヲ得セシメタリ

○千年千二百年之比ニ

十字架軍ト欧州大争動アリ

○千四百年ノ比

僧侶ハ益腐敗ス、真実ノ道ヨリ離

英国ニウィキリフ「ウイクリフ」

○千五百年ノ比

欧州ニローサー「ルター」之人物

ジョンホス 宗教ノ大革改

ジェローム「ヒエロニムス」 宗教ノ純粹ノ有ス所出ス

スウィンクル「ツヴィングリ」

カルウイン

此比ニハ米<sup>西ノ陸地</sup>国<sup>〔見〕</sup>ノ發明 火藥ノ發明 前ニグッテンボルクノ治藥<sup>〔ママ〕</sup>ノ發明

羅馬教ヨリ宣教師ヲ出ス

サウイヨウ「シャヴィエル」 日本ニ來千五百<sup>〔四十九〕</sup>八十年ノ比

スパニヤノ一船道<sup>〔頭〕</sup>ノリマーク

世ノ <sup>〔ママ〕</sup>選動 束持テ嫌ノ心人民□發達ス

○千六百

仏郎西ニローマ教トプロテスタントノ間ニ非常ノ軋轢ヲ生シ 八十万モ外国ニ逃出ス

英国ニピ <sup>〔ユ〕</sup>ーリタンノ迫害

ピュー <sup>〔リ〕</sup>タン（一種マシメノ宗教）非常ノ精神 其ノ動カサル山ノ如シ

○自由ニ神ヲ拝ス、己ノ良心ノマヽニス

千七百年ノ末

諸方ニ伝道師派出ス

千八百年ニ入ル

印度ノ炎熱

アフリカノ砂漠

南洋群島

マタカルカル <sup>〔ス〕</sup>

サントウチ島

支那 日本

社会ヲ改良 信任

（一身ヲ慎ム <sup>〔傲慢〕</sup> 豪漫ナラス 勉強 愛国 愛人 自由公平 身体ヲ支配スル

人間ヲ治ルノ神人間ノ心ニ適スル教ヲ与ヘケリ、之ヲ世界ニ伝播スル以謂也

〔年月日等不詳〕



説教・演説稿断片



83 十字架ノ意

岡山ニテ

十字架ノ意

十字架ノ外別ニ誇ル所ナシ

世ハ十字架ニツケラル

世ハ吾ニ向力ナシ

吾ハ世ヨリ力ヲカラス

キリスト神ノ規律ヲ十字架ニテ全ス

十字架ニアリ

十字架ヨリ流ル、血と共〔ニ〕愛モ流レ出ツ、

十字架何アリ

キリスト昇天何ニアル 其愛ハ長ク吾ノ国ニ流レ、共ニ命ヲ与ヘリ

キリストノ十字架克ク世人ノ罪ヲ願ス

キリストノ十字架克ク人間靈魂ノ尊ヲ願ハス

キリストノ十字架克ク人間ノ本分義務ヲ教ユ

キリストノ十字架克ク之ヲ信〔ジ〕、悔ヒ改ムル者ヲ救フ

キリストノ十字架克我等ヲシテ他人ノ靈ヲ重セシム

キリストノ十字架我等〔ヲ〕シテ此世ノ榮ヲ忘、キリストノ榮ニ順ワシム

〔太陽ノ光　ロウソク〕

〔愛人愛國ノ精神〕

〔ハオルト〔ハワード〕ノ話　リンコルンノ話〕

○ジョン・ホスノ話　○スパニアノ画工ノ話

コンクルーシヨン　十字軍

靈ノ十字軍　世ノ罪ニ勝ツ事

84 〔キリストノ十字架〕

〔全文朱〕

〔言アリ　〔空論ニシテ空中城郭ヲ築クノ類ニアラス〕

〔其実アリ　〔写真ノ陰ト光アルカ如ク〕

〔皆実物アリ外形ノミニアラス

蘇生ヲ言 蘇生アリ

聖靈ノ下ヲ約アリ 靈下リ

世ノハテ「マデ」モ世ニ伝ヨト云 其言今日ニ行ハル

其望天国ハ猶芥子種ノ如シ

天国「ハ」真珠ヲ買商人ノ如シ

○十字架ニ全此世の事を失ふニアリ

十字架ヲ先トス 此世の事ハ第二第三

宝ヲ捨吾ニ順ヘ

位ヲ捨吾ニ順ヘ

○世ニ勝ツ者同□ノ奴僕

キリスト其前ノ志ノ為恥ヲ忍テ

十字架苦ヲ受ケタリ

○是等<sup>〔カ〕</sup>の事ニ勝得テ

学者ノ美称等ヲ捨

腓立比<sup>〔トリビ〕</sup>ノ書三章

羅馬八章

キリストノ十字架、ポールノ心ヲ恐怖セシム

キリストノ十字架、力ハ恰太陽昇ルカ如シ

キリストノ十字架、愛ヨリ出ル所余アリ

キリストノ愛ハ弥邇レハ弥多シ

キリストノ十字架ノ榮ポールヲモ世ノ望ヲ全絶シム

キリストノ十字架ハ唯之ヲ見テ、之ヲ□□□□ポール

ニ自□之ヲ負ヒ、之ヲ味ヒ

85 「キリストノ目的」

○キリストハ「目的」ハ「真理ノ国ヲ立」真理ノ王「其王タルニアリ」

○一真理ノ王ナルキリストハ世人ト異ナル目的ヲ持賜ヘリ、全ク猶太人ノ目的ニ相違セリ

○二真理ノ王ナルキリストハ世人ノ如臨機応変目的ヲ變ヘ賜ワス

○三真理ノ王ナルキリストハ死テ後克其目的ヲ達スルヲ知り賜ヘリ、死灰モエ上ル

「真理ノ王ナルキリストノ目的」ハ「真理ノ国ヲ立ルニアレハ、其為ス所全ク世ノ英雄豪傑ト異ナリ、世人ノ非ニ  
ア「ラ」サル人望ヲ求アリテ、臨機応変少シモ変換セス

真理ノ王ナルキリストノ目的ハ真理ノ国ヲ立ツルニアリテ、死テ後之ヲ達スル事「人物」ヲ知り賜フ 我喜

86 神ノ栄ニ誇ル

〔全文朱〕

神ノ栄ニ誇ル

アンビシヨ

神「ノ」榮ヲ願「ス」ヲ求

「己」レノ望ミヲ達セサルモ神ノ意ナラント云

○ソクレチースノ死 人ヲ使役ス

アレキサントル、ナポレオン 万人ヲ死セシム

己ノ榮ニ誇ル 我カ取ル

アンビシヨ

己ノ榮ヲ願「ス」ヲ求

己レノ意ヲ達セサレハ失望千万

○キリストノ死 信徒ヲ人ノ為使役

キリストモ人ノ使役者トナレリ

人ノ為ニ計ル、人ヲ重ンス

人ヲ愛ス○人ニ与ヘル

〔本文朱〕

世人ノ目スル所ノ外ヘ出ツ、故ニ世人ノ嫌ヲ所トナル

世人ノ目スルハ富貴利達ナリ

○少シク此迄ヨリ脱、ヨリ遙カ遁カル能ワサルナリ

○ 当世ノ人ヲ悲ムナレトモ其位ニ登レハ同様タルベシ

一人々ー一人ノ改良

世ノ改ー世ノ改良  
〔前門ニ狼ヲ禦、後門ニ虎ヲス、ムノ近〕

羅馬

八ノ三十七（勝ち得テアマリアリト）

ダンテ、ミルトン、ウォルタヤ□、シエク〔ス〕ピヤ、コーラン、センデヘスタ、論孟、□□、ミル、スペンソル

苦キ水ニ木ヲ入レテ甘水トナレリ

二コリント 五ノ十七

身ー一新〔改選之出来シタ人ノミ克〔ク〕世ヲ改選ス、改選シ軍務

米國今日作為ノ力ハ山々村々説教者力也

〔墨〕○人間ノ新ニ生ル、ヤ神人間ニ望ム所アル也、人若新生ナケレハ神ノ国ヲ見能ワス、神ノ御旨如何ヲ知ル能ワス、

神ノ御国ヲ見テ之ヲ御世ニ来ラスヲ計ルコソ——信徒の至務ナレ」

爾等世ノ塩タルヘシ

世ノ光タルヘシ

〔公道〕

〔正義〕

〔我等難メンル者ニアラス〕

Is the Christian conversion useless to man, Is the converted man useless to the world. By law Paul died, by Christ he became alive. If you are convinced that the converted men are useful to the world, why don't you wish to be useful man to the world.

88 真〔A〕

〔以下朱〕

〔良事スモルナ〔ノポリカーブ〕、キリストヲソシレト云ヒシニ、八十六年吾キリストニ使ヘシニ、キリシト決テ吾

〔ニ〕何ノ悪事ヲセサシキニ、吾〔レ〕吾王、吾教主〔ヲ〕ソシルヘケンヤ、獣ヲ以オドス、火ヲ以テオドス」

〔以下墨〕

真

真ヲ持テ立ニ世ノ英雄ノ類ニアラス

○興テ又亡フルノ類ニアラス

ナポレオン有テ兵士戰フ

無ケレハ忘ル

◎……ヲミル——世ノ学者ノ如キニアラス

○世ト共ニ浮沈スルニ非ス、高ク人間ノ上ニアリテ人間ヲ救フニアリ

※予カキリストト世人トヲ比較スルハ、予キリストヲ克ク知リテ比較スルニアラス、唯小球ヲ手ノ上ニ置テ此無限宇

宙ニ比スルニ類ス

小キ貝カラテ大洋ノ水ヲカイホサントスルニ似タリ

税取罪人ノ友

一方ハ誠ハ何カ

足ヲ容ルノ地ヲ持タズ 一方十字架ニカケヨ

予ノ義ノ古ノ切ノ如キ紙スキハ古キ切ヲ白キ紙トナス

九〇、プレートー〔プラトン〕

想応義人<sup>〔カ〕</sup>

義人タル者ハ不義ヲ為ササルニ世人ニハ誤テ不義ト認ヘシ、且己ノ義ヲ為スニ世人之

ニ罪科ヲ負ワシムルモ、死ニ至ル迄モ己ノ義タルヲ証スヘシ、若シ此ノ如キ義人百折

不屈世ニ出テシナラハ彼鞭打タレ苦痛ヲ受ケ、搏セサレ、目ヲツブサレ、且磔ノ名状

スヘカラ〔ザ〕ル難儀ヲ受ケ、遂ニ磔上ニ釘セラルベシ

世人ノキリストヲ拝スル事ハ益盛ニナリ、彼ノ語ハ無限〔ニ〕人ヲシテ感涙ヲ流サシム、彼ノ苦ヲ受ケシ事ハ男子ノ心ヲ溶解セシム

◎人間ノ榮光ハキリストニ比シテ尽亡ヘリ

三二三

○画工

ラフィエル デューラ ルーベンス 画キ□ルカ

リナン——後世驚ヘキ人物アルモ決テキリストニ超越セサルベシ

パウ〔バウル〕、ストラウス キリストノ人ト為リニ付歴史中大ナルミストリー

不信の巨魁

◎歴史上ノ人物

エブラハム モーセス ダウイテ ソロモン エリヤ ユリマヤ〔エレミヤ〕 ペートル

ポール

バーナハス〔バルナバ〕 ヨワンネ

〔アタナシオス〕 クサタストム ルーサ カルウン ホマル ダンテ シェクスフィヤ ミルトン ギーテ

シルラ アレキサンドル シャレマン ナホレオン ワシントン 釈伽 マホメット ソクレテース 孔夫子

〔以下朱〕

キリストハ決テ力ヲ落サス 他ハ□トセシモ

速勝ハキリストノ望ニ非ス

勝利ニ從<sup>〔カ〕</sup> 我ハ世ニ勝テリト云

今爾悲ム 然吾爾ニ再逢ヲゑん

爾喜ヘシ爾ノ喜□モ取得□シ。

吾若揚けら〔れ〕なば万民を吾引クベシ

真理ヲ基礎トシ、目的已神人ノ間ニ立

△事終ヘレリト

神ヨリ出テキリストハ

真理ヲ好ム者ハキリストノ僕ナリ

真理 キリスト國を愛

敬神 愛人

人ヲシテ神ヲ信セ〔シ〕ム、神ヲシテ人ヲ救ハ

シセシム<sup>〔ママ〕</sup>

キリストノ吾國ハ此世よりニ非ス、故ニ此世人ト立ツル國トハ全性質ヲ異セリ<sup>〔カ〕</sup>

一キリストノ國ヲ立テシニ學問モナク權謀ナシ 兵力ナシ、ペテロテ劔ヲ修メヨ

一然ルニキリストノ國、主之國ハ人力ヲ以テ之ヲ防ク能ワス 蘇生

キリストノ國

一人力テ滅シ難シ、矢張人間ヲ□人間爭アリ<sup>〔カ〕</sup> 其國ヲ振興セシム 伏セム

〔以下墨〕

キリストハ真理ノ王ナレバ此ノ世ノ人ヲ以テ比スヘカラス

一真理ノ王ナルキリストハ此世ノ人物ノ如ク機ニ臨ミ變ニ応シテ目的ヲカヘズ フランクリン、太閤

二真理ノ王ナルキリストハ此世ノ人ノ意外ニ出テタリ、學問ナシ朋友ナシ金子ナシ權謀ナシ兵力ナシ、人之ヲ臆測ス

三 真理ノ王ナルキリスト其国ヲ此世ニ立テシニ人力「ヲ」以防ク能ワス

天国ハ芥子「種」ノ如シ

89 真「B」

ピラト 真ヲソコナフ官吏

耶 蘇 真 兀然ト立ツ

14, 52」 猶太人 真ニ敵スル人民

〔補〕  
「8 盜賊ヲ助ケテ真ヲ十字架ニ懸ケヨト叫フ

一 真ハ字中ニ充ツ、六合真ハ万物ヲ造ル

二 此真ノ人間ニ顯ワ「ル」

真ノ国ヲ拡張スル為ニ来ル 密ニ隠ル

富貴ノ土灰ノ如シ君王モ——ノ如シ、真ヲ教テ止マス 十字架上ニ懸レリ

此真十二門徒ノ腦ニ入り、其分子トナリ、保羅ノ腦ニ入り其分子トナリ

真 忠臣 孝子

○華盛頓ノ事

真ハ万古存ス

偽ピラト○猶太人

一時栄エルモ久続セス ○腐敗ス

或ハリホメーション○仏国ノフュクノー○蘭土ノ独立○ピユリタンの米国ニ趣、米国ノ独立、黒奴販売ヲ止ム○

アラバマ問答ノ事件ハ

〔以下鉛筆〕

Reformation

Emigration of Puritans

米国ノ独立

大学校

病院

□銀

幼

〔カ〕病院

宇□改革

仏ノフュグノーの□頭

ス、オランダノ共和政

治ノ基

又黒奴ノ販売ヲ止メ

南北ノ戦シ

黒奴自由ヲ得

愛国人 孝子 □親、続而此試ヲ頭

愛人人忠臣

此世上に克竭スルニ至レリ

英国ノヘンリーマーチン

India Persia

米国ノ——ジュディソン

Burmah [ジャドソン]

Great missionary

暴獄ニ投ふセル、  
頭ヲ切ラル、○舌ヲヌカル  
火ニ投ラル、

ピラトの了解セサル  
真理  
猶太人の捨タル真

〔本文鉛筆〕

△ Watch & pray lest  
we should enter into  
temptation

◎ 一転シニ転シ遂ニ塵界ニ墮落シテ真理ヲ失ニ至ルヘシ

吾生カ目的ヲ立テ目的ヲ得サルハ真□ノ商人ニ劣ル

真理ヲ買ヒ得ル人ナレハ又世上ノ目的ヲモ達スヘシ

英ノ〔ビ〕〔ユ〕ーリタン

仏ノ〔フュグノー〕

非常ノ堪忍

〔朱〕  
「外物ヲ以テ蓋フ⊕」

用タルモノ再ヒ失ハス

半信半疑ハ用ヲ為サス

信以汝ヲ救フ

真理ノ汝ヲ救ヒ得ヲ信セヨ、諱ヲ慕フ

再 アラビヤニ救ハレタル猶太人、イスラエル、イジプト人ノ真理ヲウルノ恐れアリ

〔朱〕  
「〔退隱ニ□救之互キ六合〕」

〔墨〕  
「真ヲカヒウル勿レ」

シルク water to drink イサヤ

一 真理ヲ見ルノ判断力

二 真理ヲカウノ決断

〔米〕  
「卜氏ノ玉」

〔米〕  
「楚ノ武王ノトキ」

一 真理ニヨリ其価ヲ心ニ得

二 真理ニ共ニセハ嚴肅

〔補〕  
「怠ルヘカラス、眠ヘカラス」

三 真理ノ共ニセハ之ヲ愛シ味フ

四 真理ハ又利刀ノ如ク、之ヲ活用セハ万事モ恐ルニ足ラス

真理ノ尚水ノ原ノ如ク混々止マス、之ヲ取ル尽之ヲ欲ス

真理ヲ買フノ人ハ乃真理ニ全ク身ヲ委スル也、真理ニ載得ラレテ帰ラル、而真理ノ壘ニ遊フノ人ト云ヘシ、真理ノ

壘此世ヨリ初マル

実ハ真理ヲ活用ニアラス、乃真理ノ囚人トナル（ホール キリストノ囚人

五 〔米〕  
「良心ノ働キヲ活潑ニス、少事ト雖真理ニ背ケハ人ヲ弱カシム

千万人ト雖吾往カン

△ 己ノ尤モ愛スルモノヲ得

昼夜其為ニ恐レズ、人之ヲ奪ヘハ己ノ身ヲ顧ミス之ヲ  
奪戻スベシ

91 〔真理ノ証〕

真理ハ世ト共浮沈セス変換セス兀然世ヲ貫クト

真理の証ヲ立賜ふキリストハ世ノ名望家ノ所為ヲ不学

真理の証ヲ立賜ふキリストハ死ニ至ル迄其目的ヲ變エス

真理の証を成就セシキリストハ死テ後ニ勝ツヲ知レリ

○ボレカーブ八十六年 キリスト又人間ヲ用ヒ其志ヲ統カシム

〔朱〕  
○トウマト曰ク

伏テ我主我神ト云

○主克知賜ふ

〔鉛筆〕  
卑ニ求ニ就□豪慢ナル衣ニ剥〔カ〕

○真理ハ尚水ノ如ク水克〔ク〕草木ヲ湿スニ譬フ、政事学見エヌ養分ヲ与社会学、経済世、天文地質学ヲ克ク湿シテ腐ヲ防、成長セシム

One soul is of more worth than all the world. Increase matter.

A body that must die & shall die & a soul that shall never die.

To save such a soul is a mightier thing than to save all the bodies in the world.

In the battle of life here upon the earth we are not engaged, he tells us, in an obscure field or unwatched by throngs of spectators: Let us always remember what eyes are upon us. There are glorious eyes which though we see not them, are upon us.

It is reported of a faithful minister of Christ that there was written on the walls of his study. *Deus videt angeli abstant, conscientia testabitur.* God seeth thee, angels are by thee, thy own conscience will be a witness how thou dost behave thyself.

92 真理之囚人

〔本文朱〕

〔真理之囚人〕

〔真理ハ一國ニ限ラス 一郡村一町内ニ限ラス 真理之囚人コソ真ニ自由ノ人ナレ

世ノ貨財<sup>〔カ〕</sup> 名誉ノ為左右サル、

世ヨリ容レラレサルモ真理界之ヲ容

、節 儉

、勉 強

、信 用

、安 心

前途恐ナシ

鉄窓ノ内ニアルトモ心ハ泰然タルベシ

道ヲ信シテ徳アルモ損ナシ

損トスル所ト世ト共腐敗スルモノ

徳トスルモノハ限ナク存スルモノ

○真理<sup>〔ヲ〕</sup>ノ容レヌモノハ罪惡

93 〔信 仰〕

〔本文朱〕

コロソボスノ亜墨利加見ハ陸地アルナラントノ信仰

人間ノ心ノ働ヲ以テ善惡是非ヲ區別シ、事物ノ理ヲ知ル力ヲ指ス

必至ノ真ヲ見 <sup>〔墨〕</sup>「人罪アリ

信仰ハ 救主ヲ要ス」

道理ハ証ヲ要ス

併行線ヲ

信仰入ラス <sup>〔ママ〕</sup>信仰直々ヲ要セス

<sup>〔墨〕</sup>「人自ヲ救ヒ得ヌ

椅子ニヨリ自ラヲ動シ得ヌ」

Induction.

We rise from the worker of God—  
God of the worker.

deduction.

{The declaration of this God of truth  
must be true

Reason

霊ニ充タル祭		神	無心ノ畜	
基		督	パリサイ	
信		信		
心ノ悔改		基督ヲ信セス		
心ノ働キ		表面ノ悔改 (心ノ悔改ナン)		
神ノ榮ノ為ニス		表面ノ働キ		
人ノ為ニス (愛)		己レノ名ノ為ニス		
真ニヨリ自由ノ身トナル		己ノ利ノ為ニス (人ヲ惡ム)		
天国ノ望ヲ抱ク		世ノ中奴僕トナル		
世ニ居リ世ノ中ヲ掃除ス		死後一寸先ハ判ラス		
〔朱弧〕	霊ノ結果	〔朱〕	世ノ中ヲ乱ル	
{	〔朱線〕	〔朱〕	肉ノ行ヒ	
	仁愛, 喜樂, 平	二十二	〔朱〕	〔テヤ〕 十二
	和, 忍耐, 慈悲,	二十二	〔朱線〕	「ガラタノ五ノ九十十一」
	良善, 忠信, 温	五ノ		
	柔, 撙節	五ノ		
○Dr. Anderson 船中ニ神		{	苟合, 汚穢, 好色, 偶像	
ニ望ヲオケリ			ニ事ル事 巫術, 仇恨,	
			争鬭, 嫉忌, 忿怒, 分争,	
			結党, 異端, 娼妓, 兇殺,	
			醉酒, 放蕩	
		○Volney 船中ニ恐ル		
綿羊		野羊		
義ノ衣ヲキル		義ノ衣ヲキサル人		
限ナキ命		限ナキ死亡		
〔朱線〕	結局			

●同シ学校同シ教会ニヨリ道ヲ聞ク

95 「信ト不信(B)」

〔本文朱〕

之ヲ去レト願ヒタリ (人ノ近目ニ驚ク)

〔勝ヨリ尚驚クヘキ事出来ルナラント思ヒ、如斯去ル事ヲ願ヒシナラン

キリストト此世ノ宝 此世ノ富貴利達

〔富貴利達ニ関シ生スル不都合ヨリキリストニ去レト願フ

○田地、牛 結婚シマシタ (此世ノ宝ヨリキリストテ亡フ事ヲ好ム)

書生 勉強時間

官吏 長官才好マヌ (妾ヲ去テヲレヌ (キリスト曰、靈ヲ亡ハ、全世界ヲ得モ何ノ益アラシヤ)

商法 勘定ニ関ス (中風トナリ死ス)

○何ノ国何ノ時代ニモ (サクソン人)

西条ノ基督教ヲ駁スル巨魁口ノカケヌ事

○信セサル人々ニ此ノ不幸ト認ムル事ハ真ノ不幸 慰ナシ

○信スルモノニハ不幸カ却テ幸トナル (森本氏ノ談シ)

○此ノ世ハ大風怒濤

キリストナキモノハ失望千万 キリストニ信アルモノハ失望ナシ

96 〔神ノ愛〕

Matt 22: 27—40

愛ハ律〔法〕ヲ滿スル者○乃律の基、中心ナリ○愛ハ律中ノ最大ナル者ナリ

自愛ニ様

神ノ賦与セル愛ハ 一ブルード愛 衣食住ノ榮華ヲ窮ムル事

二自愛ト称シテ自ヲ愛スル事、養生節制

自己外ノ愛

一親子ノ愛

〔ファーサイト

スクワレルニファーサイトアリ

二夫婦ノ愛 美ヲ愛シテ其人ヲ取ラス

三朋友ノ愛 税取 バクチ打○倭スル者ヲ愛ス

〔カバ〕  
三君ヲ愛スル事 君子ノ交

四国ヲ愛スル事 月給ヲ愛シテ国ヲ忘ル、ニ至ル

此ノ中間ニ入ル愛アリ 自ト自己外ノ愛混ス

○神ヲ愛スルノ愛

如何トナレハ神第一ニ愛シタモフニヨル

肉体ヲ愛シテ需用物ヲ賜フル

雨ヲフラシ日ヲ照ラシ

夫婦ノ愛、親子ノ愛、朋友ノ愛ヲ賜テ我ヲ保護スル事

人物ヲ降テ我輩ヲ導キ賜フ事

救主ヲ降テ我輩ヲ救ヒ賜フ事

我輩ノ為別世界ヲ設賜フ事

其愛計ルヘカラス渺々大洋の如シ

○神ノ愛ト自愛ト混ス

光地球上ノ大氣ニ達スレハ屈曲ス

光ハ曲ナキヲ元トス、地ニ近クレハ弥屈ス

愛ハ猶マクネ「ツ」トノ如シ

Soft  
iron

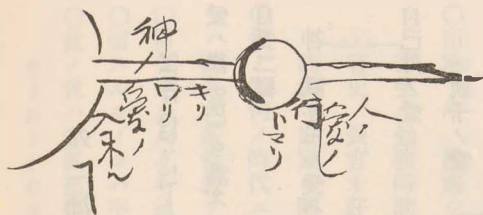
一日モマクネトノ元ヨリ離ルベカラス

此愛来リテ初

親子ノ愛 夫婦ノ愛 他人ヲ愛スル愛 君ヲ愛スル愛 同〔胞〕ヲ愛スル事、乃衆生ヲ愛ス

〔ル〕ノ愛全キヲ得ベシ

此神ノ愛〔ナ〕ク〔バ〕社会中必腐破ニ趣ク事疑ナシ



愛ノ熱心ナル者必ラ「ズ」其志ヲ達「ス」ベシ、此ニ依テ神ノ律ヲ守リ神「ノ」御意ヲモ地上ニ成シ得ベシ

## 97 〔愛〕

約〔翰〕四ノ二十四

神ヲ拝スル 〔神ハ愛、深切、寛大ノ仁

神ニ使フル 神ト他神トノ區別

神ニ克ク使 神ニ使、克己ヲ慎ム

、政府ニ

〔鉛筆〕  
「羅馬十三ノ一」

、両親ニ

〔鉛筆〕  
「エペソノ六ノ一」

人ニ交ル 路可 人ヲ愛スル己ノ如クスベシ

速〔三〕 洗礼ヲ受ル事ヲ駁ス

国ノ為ニナラヌト事云説ヲ駁ス

〔ママ〕

——ハ卑屈ニ流ル、ト〔云〕説ヲ駁ス〔カ〕  
〔偶像国ニ自由国ナシ

自由 米國獨立ヲ見ヨ

真 自由 愛國者 愛人者

〔鉛筆〕  
「ヤコブ一ノ二十五」

○人慾ノ圧ヘ難キ事

○之ニ克ノ道ハ他ナシ人慾ノ上ニ出ツルノ愛

△キリストノ愛克〔ク〕人慾ノ上ヘ出ツ

独乙皇帝ノ病院ヲ見舞フ事

△幡隨院ノ長兵衛

△韓信

、赤穂ノ義士

、楠正成 亡宋ノ臣文天祥

武田、敵ノ為ニ哭タル越後謙信有リ

敵ノ為ニ死シ敵ノ為ニ祈ルハ誰ソ

キリスト ステーウン〔ステパノ〕○ローラントセルノ愛 梁上ノ君子

〔補〕  
「愛國ト云〔モ〕愛人ト云点ヨリ生セスンハ何ソ世ヲ益セン

○桜宗五郎」

〔以下鉛筆〕

道徳ト宗教ハ国ノ基礎ナリ○華盛頓

華盛頓

少年ノ時桜之木 ○駒ヲ乗殺セシ事

人トナリヲ定ム

神ノ愛一キリストヲ賜ハレ〔人ノ足ヲ洗フ〕

人ヲ救之意

○人ノ情慾之上ニ出サレハ神厭（か）ワス

○

○母親之愛

○リンコルンの愛 老母ニ対する

主義ノ立 ○ウォルタヤ

○ルースウ

○ローラント ペレ

○ワオルネ

○梁上ノ君子ト異ヘ〔ル〕ナリ

〔墨〕  
「金ヲ偽テ取り又乱ニ与ヘス

金ニテ出来ル者ニ非ラス、金ノ為ニ左右セ〔ラ〕ル、者ニアラス」

愛

〔本稿は「同志社女学校規則（明治十四年）」の表紙に記載〕

98 愛ノ力

愛ノ力

馬太 六ノ二十六 五ノ三十八、四十三

キリスト 彼ノ罪ヲ赦セ

ステバノ 此罪ヲ彼等ニ負ハシムル勿レ

キリスト 裁判所ニアリシトキ自言訳セス、決シテ人ニ抗セス

キリストヲゲツセメネト云所執<sup>〔補〕</sup>ヘニ来ル、キリスト抗セス

棘冠 十字架

ペテロ劔ヲ以抗 劔ヲ以テ死ス

山上ノ教ヘニ 右ノホウ 左ノホウ 一里 二里  
上衣 下ヲモ与ヘヨ

○勇ヲ以勇ニ抗ス、力ヲ以力ニ抗〔ス〕、何ソ世人ト異ナラン

道理ノ分リタル人ノ怒レハ判断力ヲ失フ  
人ニ抗スレハ怒ル

神ノ道ハ真、乃教ノ道

○ペテロ　爾ハ命ヲ持ツ　予誰ニ往カン

〔神ハ世人ニ　雨ヲフラス　日ヲテラス　〔義者、不義者〕〕

〔神ノ完全ハ　乃愛ナリ〕

母ノ愛　雪中ニ死ス〔後醍醐帝○独乙帝○母ノ泣〕

神ノ愛　己レ〔ノ〕愛ヲシテ我等ヲ救フ為ニ十字架〔ニ〕死セシム

ナボレオンハ

劔ヲ以テ天下ニ勝又失敗セリ

キリストハ　愛ヲ以全世界ニ勝〔吾ハ世ニ勝テリ、十字架ニ死スルニスラ〕

神ノ愛ハ清シ　不潔ナラス

愛ト云ヘハ弱キモノノ様見エ

兵力ハ一時天下ニカツ　愛ハ永ク勝ツ

人ノ愛　汚穢過チ多

神ノ愛　公平無私

男女ノ愛　親子ノ愛　私多シ

〔補〕  
〔愛ハ社会ノ基ナリ　キリストノ愛　夫婦親子朋友ノ間真ノ愛起ル〕

○誰レモ愛スルト云ニモ非ラス

※豚ニ真珠ヲ抛与ル勿レ

〔人カ勧メテ聞カヌ事モ、怒リテ聞カヌ事モ、苦メテ聞カヌ事モ、愛カ克聞聴カハシム〕

溶解炉 神ノ愛ハ火ノ如シ

聖靈ノ働ハファイゴヲ以テ空氣ヲ入ルニ似タリ

金石ノ如キ心モ解ケサランヤ

去ナカラ人ハ自由之ノ恵ニ抗スルヲ得

◎馬太ノ二十二章ノ一ヨリ

〔子ノ為ニ婚姻ノフルマイ 肥蓄

田

貿易

僕ヲハツカ〔シ〕ム

其町ヲヤク

一人ノ礼服ヲ着

サルモノアリ

召サル、モノハ多シト雖

撰ハル、モノハ少シ

愛ヲ得ルハ今日 救ヲ得ルハ今日

明日ニ延ハス勿レ

爾ハ今日パラタイスニ到ルベシ〔十字架ノ一人ノ賊

今日此ノ家救ハル、事ヲ得タリ〔サーキヤ〔ザアカイ〕路可ノ十九ノ九

ヘブライ 三ノ七―十二

今日其声ヲ聞カハ……………

99 「キリストノ愛 (A)」

キリストノ愛 之ヲ受クルモノハキリストノ友

キリストノ愛ヲ學ヒ之ヲ施シ人之ヲ受クレハ、此レ愛彼ニ通、彼ノ愛此ニ通、真ノ朋友タルベク互ニ命ヲ以テ相愛シ相助クベシ

茲ニ至リ初メテ真ノ朋友ト云ベシ、我輩先又キリストニ密着シ然ル后互ニ密着スルヲ得ヘシ

愛アリ 礼讓起 信用生ス

愛アリ 真ノ忠言モ出来ル

ローサ ズウングリノ交ハ此世ニ於テ不滅

〔上欄〕  
「二段」

〔朱點〕	
朋友ノ密着ハ兄弟ニ□□ルモノアリ	
ネーサン〔ヨナタン〕	
ダビデ	

管仲 〔商売 多取ル

鮑叔牙〔事ヲ謀困窮 時ノ利不利〕

〔三戰三走 老母アル故ナリ〕\*

シラキウ〔ス〕王 デイオニーシヨス、キリストノ前 四百〇五年

〔百〕 三十六十七年

デーモン、パイシヨス

不信者社会ニ此交情アリ、信者ニナキハ何ソ

□ニ

人ノワル口、世ノ風潮、愛、思ヒヤリ 〔翻手為雲覆手雨 紛々輕薄何庸數君不見管鮑貧交 此道今日捨如土〕\*\*

己レヲ人ノ身ニ所シ、人ノ喜ヲ以己レノ喜トシ、人ノ悲ミヲ以己レノ悲ミトス

〔天國ニ於テ面目ナキ事カナキ様益注意スベシ〕

〔補〕 且永ク天國ノ交ヲ「キリストニヨリ」今日ヨリ初メタキモノナリ

〔上欄米〕 〔朋友〕 〔共誰ソ我ト共ニスルキリスト者人〕

教会天國写真

〔真リノ交〕

此故ニモシ折アラハ衆の人ニ善ヲ為スヘシ、信仰ノ徒ニハ別シテ之ヲ為スベシ

100 〔キリストノ愛(B)〕

キリストノ愛

忍テ棘ノ冠モ十字架モ辞セス

ペテロ劔ヲ以テ抗スレハ劔ヲ以テ死ス

勇ヲ以テ抗シ力ヲ以テ抗スレハ何ソ世人ト異ナラン

神ノ愛 キリストニヨリ顯ハル

○心シテ見ヨ 神ハ善者不善者ニ雨ヲフラシ日ヲ照ラス

神ノ愛ハ完全

母ノ愛 雪中ニ死ス

〔後醍醐帝 独乙帝

楠公

負傷兵卒

母ノ泣

道楽ノムスコ

ナポレオン

劔ヲ以テ天下ニ勝ツトモ失敗セリ

キリストハ愛テ全世界ニ勝ツ 〔キリスト十字架上ニ

〔兵力ハ一時ニカツ〕  
愛ハ漸ヲ以テカツ  
滴水石ヲウカツ

シーレ氏曰、基督教ニ於テハ神ヨリ下ツテ人間ヲ求ム、他ノ宗教ニ於テ〔ハ〕人間ヨリ遡テ神ヲ求ム

基督人間ニ顯レテ僅三年間——此道ヲトカル

十字架ニ磔セララル

社会改良

spirit

望

祈罪ヲ天ニ得祈所アリ

堪忍\*

101  
〔神ノ国ト其義ヲ求メヨ〕

神ノ国ト其義ヲ求メ〔ヨ〕

心ヲ尽〔シ〕精神ヲ尽シカラ尽〔シ〕意ヲ尽シ爾ノ主タル神ヲ愛スヘシ  
己ノ如ク爾ノ隣ヲ愛スヘシ

○愛神

克〔ク〕主宰ヲ拜〔幸ニ偶像、邪神、名利ヲ拜スルヲ免カル〕

主宰ニ対克〔ヘリクダ〕遜ル〔支那學者往々豪慢ニ流ルノ弊害アリ〕

主宰ヲ愛スルヲ得初テ聖命ヲ奉戴スヘシ、主ヲ愛シ初〔テ〕同胞ノ兄弟ヲ愛シ得ベシ

愛人 愛人主宰我輩ヲ一樣ニ作ラ〔レ〕タ〔ル〕事ヲ知り、初テ真正ノ民權ヲ得タルヲ知ル

キリスト曰、我人ヲ使フ為ニ来ルニアラス、人ニ使ヘン為也ト

〔補〕 人非千万人非、一國非之

基督教初リテ病院ノ挙アリ、幼院ノ挙アリ、養老院ノ挙アリ、是皆支那ノ聖人學者ノ望ミタレトモ克得サ〔リ〕シ所、  
鰥寡孤独靡疾ノ者有養也、其疾中其間也、〔カ〕此教行初メテ道德も世ニ行ル、ニ至レリ

○更ニ生レ

○ゴーフ、クラーク〔カ〕ノ談

○窄門ニ入レ

○ピ〔ユ〕ーリタン

○終リ迄堪忍ヘト 信徒ノ精神火ニ入〔リ〕水ニ入ル

●己ノ心ニ克ツ尤難シ 信徒之ヲ勤ム

○政府ニ告ク

○學者ニ告ク

○僧侶ニ告ク

○聴衆ニ告ク

○我輩を恐ル勿レ

〔一身モ不安全 財産不安全 ヨキ人ヲ惡スヘシ

〔補〕子ノ番人ヲオク人

義人ナシ親ハ智恵有リ〕\*

102 〔罪ノ病〕

孔子 乗槎海ニ浮ハン 浮舟\*\*

鳳凰〔鳥〕不至、河不出図、我止ヌル哉ト云ヘシモ尚世ニ多ク人ニ心ノ病氣アルニヨル 釈伽之因果ノ説ヲ吐カレシモ人々

ニ〔補〕ヲシテ 此罪ノ病ヲ避ケン事ヲ勸メシナランカ ソクレテースガアテンノ街上ニ至ル事、道德ヲ説シモ、毒殺サ

レシモ、矢張當時クリシヤ人ニ此罪ノ病アリシニヨル○耶蘇基督ノ十字架ニ懸ケラ〔レ〕シモ、矢張當時猶太人ニ、

陽ニ契約ノ真神 エホバ〔ニ〕使ヘ、陰ニ全ク之ニ背反スル者アリ

人ノ心ノ進歩ヲ計ル者至テ少

〔天下ノ先生方カ人ヲ教フルヲ見ルニ、自身カザルノ内ニ入り其ナシサルヲ自アゲン  
トスルニ似タリ 基督天啓ノ教ナリ、天上ヨリ我輩ヲ引ナリ

官吏唯大ナル月給ヲ貪リ、月ニ歌ヒ花ニ吟シスルヲ得テ得意トシ、意氣陽々我ハ人民ノ上ニ立ツ所ノ官吏ナリト云ハ  
更富国平天下安民ノ為ニ計ラサレハ、嗚呼何時々ニ治国安民ヲ期スヘケン

月給ヲ取り飲酒登楼ニ散シ去リ悟シト

学校教員人物ヲ「愛國者孝子ヲ」陶治シ働クカ人オヲ仕立ツル事ニ不注意ニシテ、唯機械貢<sup>〔ママ〕</sup>ノノミノ教育ノミヲ為ス

ナラハ如何シテ社会改良ヲ期スヘケンヤ

〔鉛筆〕  
○釈伽モ孔子〔モ〕此病アリシナラン

共ニアラレ〔ナ〕ハ必ラス此真理ヲ愛シ真理ヲ奉スヘシ

釈伽ハ大聖人、孔子モ大聖人、今日焉<sup>〔カ〕</sup>此所ニアラシメハ我輩

〔以下裏面のメモ〕

〔カ〕  
芝居

新聞

歴史上

之ヲ救ワン者ハ阿弥陀如来、之ヲ審判スル者

〔焰魔大王  
エン魔大王〕

○〔世様々中ニ分権論カ初マリマス

當時民権皇張ノ世ノ中ダ様々

ナント少シ不都合デハアリマスマイカ

〔此石ニツマツク者ハ多カルベシ

真理ノ友トナルベシ

「ヨキ樹ハ良実ニヨリ知ラル

、ストーン

キリストノ如キハ、世ヲ創造シ世ヲ救治シ、又世ヲ審判スル事皆一人ノ耳<sup>〔カ〕</sup>ニアリ

○病メル者ヲ招ク

④

〔大〕

〔無神ノ学校ハ札幌ノ農学校

〔船渠〕

「クラーク氏ノ脩身学

○安息日

学校

○文部寮ノ長

、ゴルフ

ペテロ

ボール、ヨワンネ

〔鉛筆〕

「オーゴステイン」

、印度ニ耶ソノ大学アレキサンドル<sup>レ</sup>ドフ

〔sic〕

—such such a problem the Christian morality○  
Above each man it sets the infinite life  
○brings its vast conception of the universe.

Drunkard.

Dr. Porter.

conversion

Gladstone

Eaton Wanamaker

John Ruskin

Modern Greatness.

(150)

Wh[ere] is the effect of Infidels?

103 〔罪之市〕

〔本文朱〕

罪之市

門ニ向ヒ之ヲ止ム

親戚朋友アリ之ヲ止ム

門外ヲ望ムニ寥々沙漠ノミ

人アリ彼ノ門ニ進メト云

乃受洗門アリ

此所ニ而罪ノ袋ヲ印シ

十字架ヲ負ヲ得

十字架ノ店

種々十字架

金銀、、、石

木科ノモノアリ

○屈強ノモノ重キヲ負フ

○老婦輕キヲ負フ

○中ノ空ナル十字架ヲ負フモノアリ

半途ニテ

十字架ニカカリテ

タオル、モノアリ  
人手ヲ以之ヲ助ク

天門ニ至ル

乃キリストノ門ト称ス

白衣ノ人アリ、銘々ノ十字ノメ目ヲ見ル

金銀ノ人入ルヲ得タリ

大ナル十字架

○木ノ十字架

○レプタニツヲ入ル婦ノルイ

先ツ入ルヲ得タリ

富メル人

窮乏ノ人

○多ク与ヘラレタルモノ多ク求メラル

安息日ヲ守ル国ハ貧アラス

安息日ヲ守ル国腦力ノ劣ラス

安息日ヲ守ル国ハ腕力<sup>〔カ〕</sup>モ劣ラス

●安息日公会ニ集ルハ天国ノタイプ

〔共〕〔三〕神ヲ讚美ス

人物計リ此内ニ非サルベシ

高尚ナル人、賤キ人物ニ共ニナリテ而ル后天国ナリ 神ハ我等<sup>〔ママ〕</sup>レト共ニアル〔ヲ〕喜フナリ

心配アルモ安息日ニ少シク減スベシ

人ニ怨アルモ安息日ニ少シク減スベシ

己ノ非ヲ看ルモ安息日ヲ尤多トス

罪ヲ思ヒ出スモ安息日ヲ尤多トス

心安キヲ得モ安息日

友ヲ思フモ安息日ヲ尤多トス

神ノ御恵ヲ感スルモ尤多トス

〔補〕※愛ノ起ルモ安息日ナラン

人ニ恵ム心 病院ノ起リ 学校ノ起リ——起ノ原因ハ多ハ此安息日ニアラン

我ニ天安息日ヲ与ヘント

人間間ニ何ガ天国ニ類スルト云ハ、安息日尤多トス

〔補〕「キリストニ来ルハ常ノ安息日ナレハ」

心ヲ安メテ働カサルニ非ス、心ヲ働カシテ人間ノ尤神ニ類セル分ヲ養成スルナリ

〔補〕「終リ」〔ニ〕当、神ニ近キ又離レル原因ヲ説ク、安息日公会ニ出ヌ事

如斯神カ弱キ人間ヲ導キ賜テ段々神ニ類セル分ヲ養セ、遂ニハ天国ニ至ラシメン事ナル〔ニ〕、誤テ此日ヲ唯肉ヲ休セル為トシ、肉慾ヲ充ス日トシ、生徒ニセ、官員ニセ、町人〔ニ〕セ、此日ヲ其事ニ用ユル、国ノ進歩ハ他年我輩ノ入ラント「スル」天国トハ遂ニ隔絶スルナラン

神ハ何時モ幸ヒナレハ決「テ」此日ヲ幸ヒトナラサルベシ、故ニ安息日ハ人ノ為ニ立タルナリ、此ハ人間ノ為ニ喜ヒ祝セルベシ

第一ニ人ヲシテ、神ノ人間ノ為ニ此世ヲ作り、人間ヲ終リニ作り賜ヒシ事ヲ知ラシメン為ニ、神ノ働終リテ人間ヲ祝シ賜ヒシニ似タリ、且人間ヲ万物ノ上ニ置キ、人間ニ神ト共〔ニ〕喜フ所ノ名誉ヲ得セシメタリキ

肉体ノ為——  
〔補〕「ペルシャノカラワンヨリ安息日

□シタル宣教師次キノ日□送付タリ

知識ノ為——  
〔補〕「学校ノ生徒

神ノ撰ヒタマイシ使徒伝道者ノ資格

使徒ノ職ハ人ヨリ受ケシニアラス

乃キリスト神ニヨリテ立ラレタル使徒

□ノヲノオイ立

◎純于天理而無人慾ノ雜

堯舜 萬鑑

文王孔子九千〇

禹湯武王七八千〇

伯夷伊尹八四五千〇

一宗派ヲ論スレハキリストニ反スルモノ

キリストノ撰ヒシトキ直ニ人ニ計ラス〔アラビア〕亜刺未亜ニ趣ク

ペテロニ逢フ事十五日間

○此福音ハ神ノ前ニ偽ル所ナシ

昔時ヨリ忠臣義士〔高山彦九郎〕<sup>〔朱〕</sup>

〔苦辛ヲ堪ヘ主人ノ為ニ身ヲ出スモノアリ〕

〔吾人ノ命ヲ奉シテ死ニ至ル迄常ニカヘサルモノアリ〕

譌多キ人ヲ主トシテスラ此烈士アリ、此義士アリ

●錦ノ旗アリ、綸旨アリ、勢力アリ

名聲、功名、報酬ヲ望ム、又（イキハリヅク）

●三代百年、○大川ヲ渡ル阿部豊後守ノ事

主人ノ命 <sup>〔僕〕</sup>

〔宰相小遣ナリ何レニシテ其職ヲ尽ハヨシ、乃純金、

◎悪ノ潮流滔々トシテ流、浸々ト満

各患ヲ受ケタルモノ自ラ神ヨリ撰レシヲ知ルナラン

〔朱〕  
「コリント後ノ三ヨリ十」

神ノ僕○◎為スヘキ事ヲ為ス

良僕ノ資格ヲ養ヒ 資格ヲ守リ之ヲ尽ス

〔働クト云ヒ忠勤ヲ為ス様ニ見、我カ心ノ資格ヲ恐ル勿レ〕<sup>〔志〕</sup>

〔以下朱〕

○神ノ事ニ付テハキリストニヨリ誇ル所アリ

使徒トナリ万国ニ道ヲ伝フルノ役目ヲ蒙ル所ヨリキリストヲ誇ルト云フ

△世ノ豪傑ノ誇ルハ我カ云フ所我カ為セシ所ヲ誇ル

○信者ハ神ノ意ニ任ス

己ノ業半途ニシテ止ムモ爾ノ御意ノマ、ナリト云得ヘシ

〔墨〕  
「○コリント後六ノ十」

△豪傑ノ業半途ニシテ止ハ、其遺憾幾何ソ、恐ク失望千萬

○豪<sup>〔傑〕</sup>下ハ人ヲ使役ス

アレキサントル シーザ万人ヲ死セシム

ナポレオン 己ノ為ニ計、人ヲ計ル、人ニ与フルハ人ヨリ取ル

○上信者ハ人ノ為ニ使役サ、ル

キリストモ人ヲ使フ為ナラス人ニ使ハル、也

人ヲ重シ人ノ為ニ計ル○人ニ与ヘル

△豪傑 人ノ為ニ能ハサル所ヲ断乎ト為ス

〔墨〕  
「魯帝ビートル己ニ克能ハズ」

(カンノット) ナポレオン 人ニ克ツ

〔墨〕  
「忍モ己ノ為」

○信者ハ人ノ為ヲ好マサル所ヲ甘シテ為

人見ヌトキ人ノ知ラヌトキ

自ラ己克

〔墨〕  
「Lo, I have overcome  
the world.」

〔墨〕  
「忍フハ人ノ為」

106 「信者ノ義務」

羅馬第一章第十四節

〔歌〕 58 61 68

我グリシヤ人并ニ異邦人ニ負ヘル所アリ

此書ハポールコリントニアリ、言タル者ハ其時ハ多分ヤソ降生後五十八年ニアリ、恰モ是ハ彼ノ羅馬ニ趣ク三年前ニアリテ、彼ハ已ニクリシヤ人ノ内ニアリ働キヲリ、鍔意ローマニモ至ラントシ此文ヲ送リタルナリ

此節ニヨリ考レハ、ポールノ意中異邦人中ニ伝道セン事ヲ望居シニ、未タ其機ヲ得サレハ恰モ負債アリ其金ヲ返サ〔ザ〕ル様ニ思ヒ、アク迄モ之ヲ返サント望シニ似タリ、是レ此世ノ負債者ノ類ニアラサレトモ、信者ノ世ニ対シ尽スヘキ義務ヲ尽ササレハ、是レ世ノ負債者ト云トモ可ナリ

○世ノ負債者ハ常ニ返金スル事ヲ求ム、返金セサレハ心ニ安カ〔ラ〕ス、常〔ニ〕叩頭シテ人ニ求ム

〔返金ストモ敢テ慢ラス、却テ恩人ト敬シ愛スルカ至当ナリ〕

〔総括〕

「Build up ourselves in Christ in love, faith & humanity.

= making money to pay up debts.」

〔鉛筆〕  
「親不孝、不義、飲酒、登樓。淫亂、党派ヲ組、爭動ヲ醸ス事。戦争」

金ヲ返セハ己ノ義務モ立チ、先キ人ニ於テ大ニ喜ヒ益ヲ得ルナリ

△〔須田ノハナシ、忠二郎ノカケウチ〕

〔補〕  
「人ノ不品行ヲ知り、見、聞ハ乃貸主ヨリ催促ヲ受ルナリ」

○右ノ返シ、信者ノ負債ハ十円百円千万円ニ当ル可カラサルノ大負債ナレハ、之ヲ負サ、レハ信徒ノ義務ヲ尽サ、ル

ト申シ、神ニ対シ人ニ対シテ其心ニ平ヲ得サルヘシ

予之ヲ返サ、レハ人必喜ワス、人必ス亡ビシ、故ニ義務ノ大ナル察セシンバアルベカラス

○信者ノ負債ハ返ス内ニ又時トシテ兄弟中ニ負債ヲ益スノ憂アリ、敬テ之ヲ養ハスンハ勞シテ功無キニ至ル

○此負債ハ神ノ救ノ力ヲ人ニ知ラシムルニアリテ、ポールト同ク我儕決シテ辱ル所ニアラス、却テ殊ノ外ノ面目ナリ

〔鉛筆〕  
「生涯負債ハ済マズ」

〔鉛筆〕  
「ポールノ如キハ一國ノ人ニ非ス、乃天下ノ人ナリ」

何時カ此負債ヲ返シテ天国ニ遊〔ビ〕主ヨリ負債返却証ヲ得ン事ヲ

乃ハ〔チ〕其証書ハ不朽ノ冠、義ノ冠

一コリント九〔ノ〕二十五 二ノティモテノ四ノ八

107 〔キリスト教ト文明〕

○国ヲ文明ニス、ムルニ必ラス人ノ志操ヲ高尚ニセ〔ザ〕ルベカラス

○偶像ニ迷ハサレハ無神信トナル

○偶像ヲ拝スル国ノ有様

○無神信ノ有様

真ノ勇氣ナシ

△トーマス・ペイン

道理ノ世 〔一婦人其書ヲ焼キト云イ〔シ〕カハ、爾ナル智人ト云ヘリ

△ウォルネー 嵐ノ逢

△ウォルタヤ 病氣ノ節

△ルースー<sup>〔ツ〕</sup>——ソクレティスハ人傑ノ如ク死シ、キリストハ神ノ如ク死セリ

△ナポレオン——〔死スル前ニハキリストノ神ナルヲ証セリ

〔理學ハ人ノ靈ヲ救ヒ得スト云ヘリ

キリスト教ハ克ク人ノ心ヲ改良スル力ヲ有ス

○馬〔太〕五章ノ二十七 人ノ心ノ罪ヲセム

○ 五章 三十八

人ニ敵セスシテ克ク人ヲ許シ容ル事

又十字架上ニテ己ヲ殺ス者ヲ許シ賜ヘト云ヘリ

○ 独乙ノ野蛮

立憲政体

○ 英国ノ野蛮

〃 共和政治

○ 南洋群島

人ノ自由ノ基礎、人道ノ教ニアリテ焉ソ克ク自由ノ理ヲ知ランヤ

○ 偶像ノ奴隸

○ 我儘ノ奴隸

108 馬太伝

馬太伝

第一章

一ヨリ十七迄

イエス  
耶蘇ノ系図

十八ヨリ二十五迄

イエス  
耶蘇ノ降誕

## 第二章

博士数人東方ヨリ来リ、嬰兒イエスヲ拝ス、イエスノ双親イエスヲ携テイシプトニ逃走ス

○其後イエスヲ連テカリラヤニ帰ル

## 第三章

ヨハネ施洗ノ事、且人民ニ悔改ヲ勸ム、ヨハネ、イエスニ施洗ス

## 第四章

イエス四十日間曠野ニアリ惡鬼ノ試ミヲ受ク

ペテロ、アンデレ、ヤコボス、ヨハネ等ヲ招キ門徒トス

## 第五章

## 第六章 山上ノ宣教

## 第七章

## 第八章

○願者ヲ清ム

○カヘルナオムニ於テ百夫長ノ僕癡瘋〔中風〕ヲ患フル者ヲ癒ヤス

○ペテロノ母ノ病ヲ癒ス

○患鬼者、負病者尽ク之ヲ癒ス

○如何シテイエスニ従フベキ事ヲ示セリ

○海上ノ颶風ヲ止ム

○惡鬼ニ取り付カレタル兩人ヲ癒ス

## 第九章

○癲瘋者一人ヲ癒ス

○馬太ト名クル税吏ヲ招キ門徒ト為ス、イエス税吏罪人ト共ニ食ス

〔下欄〕  
「惡鬼」○天使○奇跡、預言、救ノ道ハ即耶蘇、十字架ニカ、〔ル〕ニヨル」

○イエス己ガ門徒ノ断食セザル所謂ヲ説ク

○一婦人ノ血漏ヲ病メル者ヲ癒ス

○ヤイロノ娘ヲ死ヨリ活セリ

○二瞽者ニ明ヲ与ヘリ

○啞ニシテ鬼ニ付カレタル者ヲ癒セリ

○衆人ヲ見テ之ヲ憫メリ

## 第十章

一 ○耶蘇十二門徒ヲ撰ヒ且 五 ○伝道ニ出ツベキ心得ヲ教諭ス 十六○門徒ノ困難ニ逢フ事ヲ予メ告ケ且彼等

ノ心ヲ慰ムル事 四十 ○深切ニ基督ノ門徒ニ接スル者ハ其賞酬ヲ受ヘキヲ約ス

## 第十一章

一 ○約翰己レノ門徒ヲ遣シ基督ニ就キ疑問セシム

七 ○基督約翰ノ先知ニ卓越セルヲ保証ス

十八 ○耶蘇自ラ己レト約翰ニ付キ人民ノ如何想像スルヲ云フ

二十 ○基督 コラージン ベッセイタ カペルナオム人ノ悔改ナキヲ責ム

二十五 ○耶蘇天父ノ善意ヲ謝ス

二十八 ○受荷負重ノ者己レニ付ケハ安息ヲ与ベント勸ム

## 第十二章

一 ○耶蘇ファリサイ人(ファリサイト云テ旧教ヲ奉信スル宗派アリ)ノ安息日ヲ守ルノ主意ノ知ラザルヲ責ム

九 ○耶蘇安息日ニ一手ノ枯タル者ヲ治ス

廿二 ○惡鬼ニ取付カレ暫ニシテ瘡ナル者ヲ癒ス

三十一 ○聖靈ヲケガス者ハ其罪救ベカラザル事ヲ説ク

三十六 ○妄言ヲ出セル者ハ審判日ニ必ラス刑罰ヲ免レサル事ヲ説ク

三十八 ○不信ニシテ唯異跡ヲ求ムル者ヲ責ム

四十九 ○耶蘇己レニ従フ門徒ハ即チ己レノ兄弟、姉妹、母ナル者ナリト云フ

## 第十三章

一 ○種ヲ播ク者ト種ト「ノ」譬ヲ為ス

十八 ○其譬ノ奥義ヲ解明ス

二十四 ○稗ノ譬

三十一 ○芥種ノ譬

三十三 ○酵ノ譬

四十四 ○田ニ蔵サレタル宝ノ譬

四十五 ○真珠ノ譬

四十七 ○海ニ施ス曳キ網ノ譬

五十三 ○耶蘇家郷ニアリシニ家郷ノ人之ヲ信セズ

第十四章

一 ○<sup>〔ヘロデ〕</sup>希律王耶蘇ノ声名ヲ聞キ約翰復生セリト思ヘリ

三 ○約翰ノ殺サレタル所謂ヲ論ス

十三 ○耶蘇去テ曠野ニ行ク

十五 ○耶蘇曠野ニ於テ五餅ト二魚トヲ以テ五千人ヲ喰ヘリ<sup>〔養〕</sup>

二十二 ○耶蘇カリ<sup>〔ラ〕</sup>ヤ海ヲ履<sup>〔アユミ〕</sup>テ門徒ノ舟ニ就ク

三十四 ○耶蘇ゲネサレトノ地ニ到リシニ患者耶蘇ノ衣ヲ捫<sup>〔ナデ〕</sup>テ癒ルヲ得タリ

第十五章

○耶蘇バリサイ人の遺伝ヲ守リ却テ神ノ命ニ背クヲ責ム

十一 ○ロヨリ入ル物ハ決シテ人間ヲ汚ササルヲ説ク

二十一 ○カナン<sup>〔ナデ〕</sup>の婦人の娘ヲ癒ス

三十二 ○七餅ト僅カノ魚トヲ以テ婦人小児ノ外四千人程ヲ養ヘリ

## 第十六章

一 ○バリサイ人天ヨリノ異跡ヲ求ム

六 ○耶蘇門徒ニ勸メバリサイ、サドカイの餅ヲ慎マシム

十三 ○人民基督ハ約翰、<sup>〔エリヤ〕</sup>以利亜、<sup>〔エレミヤ〕</sup>耶利米、又ハ<sup>〔預言〕</sup>知者一ノ人ナリト思ヘリ

## 109 〔マタイ伝要目〕

1・1—17 系図 18—25 ナザレニ於テ天使ヨ―ゼフニ顯ワル、事

2・1—12 ベツラハム〔ベツレヘム〕ニ東方博士之来リ耶蘇ヲ拝ル事

13—23 アイグプト〔エジプト〕ニ逃ル、事、ヘロドノ残酷ナル事、アイグプトヨリナサレニ歸ル事

3・1—12 ヨワンネノ洗礼ヲ施ス事、曠野

13—17 耶蘇ノ洗礼ヲ受ル事、ヨルタン

4・1—11 耶蘇ノ靈ヨリ試ヲ受ル事 12 ヨワンネ幽囚ノ後、エス、カリラヤニ往ク事

13—16 エス、ナサレヲ去、カベルナオムニ往キ、住所ヲ其所ニ定メ、且公然ト安息日ニ説教セリ

- 18 — 22 ペテロ、アンテレ、ヨワソネ、ヤコボスヲ召テ受ル事
- 23 — 25 エス弟子ヲ連レ、カリラヤヲ巡回セリ
- 5 . 1 — 7 . 29 山上の宣道
- 8 . 2 — 4 エス癩病者ヲ癒ス
- 8 . 5 — 13 百夫ノ長ノ僕ノ病ヒヲ癒ス事 カペルナオム
- 8 . 14 — 17 エス、ペテロノ妻ノ母ノ病ヲ癒シ且多ク病人ヲ癒ス事
- 8 . 18 — 27 エス、弟子ト共ニ湖水ヲ渡リ颶風ヲシヅメシ事
- 8 . 28 — 34 ガタラニ於二人の鬼ニツカレタル者ヲ癒ス事、豚ノハナシ
- 9 . 2 — 8 エス、カペルナオムニ帰シニ人々彼ニ就<sup>〔ケ〕</sup>レリ、エス癡癡ヲ病メル者ヲ癒セリ
- 9 — 9 エス、マタイヤヲ招ク事<sup>〔マタ〕</sup>
- 〔鉛筆〕  
「9 . 10 — 13 レウイ〔レビ〕の家ニ而税吏罪人ト共馳走ニ預レシ事」
- 9 . 14 — 17 ヨワソネノ弟子、エスニ就キ断食ノ事を尋問セシ事
- 18 — 26 ヤイロノ娘ヲ生キカヘセシ事、及び血漏ヲヤメル女ヲ癒セシ事
- 9 . 27 — 34 二人〔ノ〕替者ライヤシ且人ヲ啗啞ニシタル鬼ヲ逐出セシ事
- 9 . 35 エス、村邑ヲ巡回セシ事
- 10 . 5 且門徒ヲ伝道ノ為遣セシ事
- 10 . 14 ノ初メニ至ル

- 11 : 20—30 Jesus upbraids the inhabitants of Chorazin, Bethsaida, and Capernaum for their unbelief.
- 12 : 1—8 Disciples pluck ears of corn on the Sabbath, on the way—Galilee.
- 12 : 9—14 Healing of a withered hand on the sabbath—Galilee.
- 12 : 15—21 Jesus withdraws to the sea of Galilee and is followed by great multitudes from the surrounding country. He healed many.
- 12 : 22—37 He heals a demoniac and the scribes and Pharisees charge him with in league with Satan.
- 12 : 38—45 Our Lord's remarks upon their request of a sign.
- 12 : 46—50 His remark respecting his mother and brethren.
- 13 : 1—23 A great multitude collect around him. And he addresses them out of a vessel on the lake. Parable of a sower.
- 13 : 24—53 Several parables.
- 14 : 1—12 Herod hearing of Jesus, supposes him to be John the Baptist whom he had just beheaded.
- 14 : 13—21 He feeds 5000 on the other side of the Sea of Galilee.
- 14 : 22—36 The disciples return across the Sea of Galilee and at night Jesus comes to them walking upon the water.
- 15 : 1—2 Pharisees and Scribes from Jerusalem object to the disciples disregarding the tradition of the elders with respect of washing hands.
- 15 : 21—28 Jesus goes to the borders of Tyre and Sidon.
- 15 : 29—38 He returns to the other side of Galilee there he feeds 4000.
- 15 : 39 ) He sends away the people and crosses the Lake to Dalmanutha. The Pharisees and Sadducees
- 16 : 1—4 ) **require a sign.**
- 16 : 4—12 Jesus again crossed the Lake. The disciple cautioned against the leaven of the Pharisees.
- 16 : 13—20 Jesus goes into the regions of Caesarea Philippi, Peter and other disciples he foretells his own death and resurrection and trials of his followers. Region of Caesarea Philippi.

- 17 : 1—13 Our Lord's transfiguration and subsequent discourses.  
 17 : 14—21 Healing the demoniac whom his disciples could not heal.  
 17 : 24—27 The tribute money provided.  
 19 : 3—12 Precepts respecting divorce.  
 21 : 20—22 )  
 22 : 23—33 )  
 23 : 1—39 )

110 (聖書引用箇所控)

[本文卷]

羅馬一ノ { 十三  
 十四 クリシヤ人ニモ異邦人ニモ負ヘ〔ル〕所アリ  
 十五

二ノ十一 神ニハ人ニヨリカワル事ナシ

ハノ三十六ヨリ

何者克キリストノ愛ヲ吾人ヨリ離サシムルゾ

一コリント四ノ十一ヨリ十三ニ、人ノ為己苦ヲ甘シス

{ 二コリント十一ノ二十五  
 ポールノ苦辛

一コリントノ八ノ十三、兄弟ヲツマ「ヅ」カスナ「カ」レ、生涯肉食セ「ズ」云々  
一コリントノ九ノ十六、福音ヲ説カサレ「バ」吾ニ禍アリ

十ノ三十二、己ノ益ノ為ニセス人ノ益ノ為ニ為ス

※十三章

人ニシテ永生ノ見込ナケレハ、コリント十五ノ三十二、食シ飲ミ吾人ヲシ  
テ明日死ナシメヨ

二コリント七ノ(一)、人ヲ害セサ「リ」シ事

十三章

(九)真ノ外何モナサス

ポールノ謙遜 エペソニハ聖信中最少ナル者 一ノテモタ一ノ十六、<sup>(五)</sup>罪人ノ長

三ノ(九)

エペソニ書中ニ富タル詞アリ

フィリヒヤン「ビリビ」卷ノ二十一—二十四

此世ヲ去ハ吾ノ益此肉ニ止マルハ爾ノ為ト

羅馬ノ十二ノ十五、十六

悲シム者ト共ニ悲、樂ム者ト共「ニ」樂ム

「人ニ思ヒヤリ」

キリスト信徒ヲ囚エンセシ人  
キリストノ囚レ人

猶太ヨリ羅馬ニ至ル道

二テトス三ノ七、キリストノ<sup>(ママ)</sup>ニヨ  
リ義トセラレ永生ノ約トサレルヲ得  
ルノ望ヲ云

永生

⑤ コリント九ノ二十五、不朽ノ冠  
ニテモタ四ノ六、吾ハ善戦ヲ戦タリ<sup>(テ)</sup><sup>(七)</sup><sup>(カ)</sup>

〔人ニヤサシ〕

二コリントニ二ノ二、三、七ノ八

彼等ヲ悲マシメテ恐レリ

二コリ〔シ〕ト一ノ二ノ四ヨリ克彼等ナヲ思ノ深キヲ見ヨ

〔パリサイノパリサイ人  
ベニヤミンノ族〕

二ノ十三、吾ノ心ニ安キハナシ

七ノ五

〔吾輩ノ肉ハ安キ事ナシ〕

内外ニ苦難アリ

# 111 〔エソウ・ヨセフノ生涯〕\*

〔朱〕  
二百四十七年ノ齡ヲ得テ死ス

○猶太ヲ祝スルシヤイロー〔シロ〕ノ来ヲ預言ス  
〔朱点、以下同〕

○十有七年ノ間存命ス

○ゴーション〔ゴセン〕ノ地ヲ賜ル

○七十人家族共々之ク

〔ヤコブ〕  
雅各ヲ招ク

約瑟埃及ヨリ

ベニヤメン

大饑飢

イサク逝去ス

約瑟賞ラル

ベツラハム〔ベツレヘム〕ノ近辺ニテラケル死ス

ベテ。ル。神ノ約アリ

シーケムノ邑シヤレム 子供ノ不品行

〔朱〕  
「イサウ四百人ヲ連レ来ル」

〔朱〕  
「ヤボック河辺而神ト角力ス——神之ヲ呼以色列ト称ス」

〔朱〕  
「数百頭ノ家畜ライサウニ送ル」

ヤボック河辺ニ而天軍ヲ見ル

キリヤド〔ギレアデ〕山上 神レーバンニ夢ニ顯レ之ヲイマシム

レーバン〔ラベン〕之ヲ逐フ

繁殖

畜類

神故土ニ

歸レト命ス

〔米〕  
「I

God in dream

梯ノ峰」

Bethel

He flies home.

〔朱〕  
「三百里」

メソポタミヤ

二女ヲ娶ル

十一子

Ruskin

He who offers God a 2d place offers him  
no place

〔山崎為徳略歴ト告別説教稿〕

〔本文朱〕

明治四年八月 行年十三<sup>〔四〕</sup>年

熊本〔洋学校〕入校

同 七<sup>〔八〕</sup>年八月

卒業

同 七<sup>〔八〕</sup>年十一月

東京ニ趣

同 十年九月

同志社ニ来

十二年六月

卒業

十二年ノ九月

〔教員トナル〕

十四年十一月九日

〔死去 二十四年〕

Rev. J. H. Neesima  
kiyoto.

〔裏面・鉛筆〕

Life  
aim to it  
but  
{very aim is  
{to do what we  
{can for Christ  
{for Christianity  
{for the Holy Knowledge  
disappointed  
utterly defeated  
yet trusted in  
Providence  
& contented  
克己——敢為ノ精神  
Providence } (a) do for Christ  
Lesson to us } (b) to live with Christ

〔明治十四年十一月十日・於京都第二公会〕\*



# 教会合併問題関係稿



113 〔一致・組合兩教会合併問題に関する稿（一）〕

〔端裏朱〕

「廿一年十月三日」

一寡人政府主義「中央集権」ノ教会ト、共和政府主義「地方分権」ノ教会ヲ如何シテ聯合シ得ルヤ

一双方ノ主義ヲ程克ク折半シテ合併シ得ルヤ否、何「レ」ヘノカノ傾向ナカ「ル」ベカラス

一今ノ憲法ハ何レノ主義ニ迄寄りオルヤ、中央集権ニ迄寄り其方ニ傾向アリト云ハサルヘカラス

□シヲシテ然ラハ、中央集権ハ我カ邦将来ノ教会ヲ利スヘキ主義ナルヤ

中央集権乃貴族的主義ニ傾向アル我日本ニ取り、我カ教会ニモ此ノ主義ヲトントロデューススルハ如何

此十九世紀ハ自由共和自治平民主義ノ益發達シ来ルノ時世ナラスヤ

吾人此時世風潮ノ趣ク所ナル自由自治共和平民主義ヲ捨テ、此ノ時期ト共ニ將サニ其跡ヲ隠サントスル中央集権

貴族的主義、乃チ寡人政府主義ヲ取揚ケンストスルハ策ノ上ナルモノナルヤ

一抑聯合相談ノ初マリシ原因ハ何ソヤ

一一致会ノ兄弟カ吾人ノ受ケ居ル自由ヲ該会ニ納レテ、該会ノ改革ヲ計ラントスル工風ナラスヤ

〔〇〇氏一滴ノ涙ヲ「以」該会ヲ救ハント云ヒタルニ非スヤ

一一致会ニ我カ自由ヲ納ル、注文ナルモ、憲法大体ノ外形ハ依然一致会ノ仕組ナラスヤ、彼ノ分子多シテ我ノ分子ノ  
甚僅少ナルハ何ソヤ

一致会袋ノ口ノ収縮ハ出来ル丈ケハ広クモ狭クモナシ得ヘシ、然レ「下」モ吾人ハ到底袋中ニ入ルモノタルヲ免レス

一如斯聯合ハ聯合ニアラスシテ彼我ヲ吞併セリト云ヘキナリ、否我レハ彼ノ家ニ嫁シ、彼ノ家格ニ随フノ形ナリ

〔ユナイテッド・トゲザルニ非ラス、寧ロ彼ニユナイト・インツート云サ、ルベカラス

一故ニ此聯合体ハ寧ロモデーファイド・プレシバテリアニスムト云フテ可ナラン

一憲法ナキ教会ト憲法ノ厳格ナル教会ト合スレハ、憲法ナキ教会ノ損スル所幾干ソヤ

彼ハ有ヲ以テ来ル、我ハ無ヲ以テ合ス

◎アメリカン・ボールドハ当時純然タルコングリゲーショナル也

〔プレシベテリアンニ傾向スルト見做ル

〕アメリカン・ボールドハ恐クハ将来手ヲ引キ他ノ国ニ其鋒ヲ転センカ

一ニューヨーク北方ニ其ノ適例アリ

一中央集権ノ教会ハ将来我人民ノ自由自治ノ氣象ヲ発達セシムルニ佳適ナルモノカ、任地主義ニ陥イルノ憂ハナキモノカ、僅々ノ手ニ政権ヲ帰セシメハ教〔会〕員全体ノ教会ニ置ク所ノインテレストハ如何、現ニ我カ教会ノ自治ノ元氣ニ富ムハ如何ナル原因ソヤ、各教会ヲ我カ物トナシ其ノ重荷ヲ分担スルニアラスヤ、各特殊ノインテレストヲオクニアラスヤ

一デイスプリン・アッピールヲ除キテハ如何、キリシチャン・グレースニ富メルモノハ互ニ相争フベカラス、又訴訟ノ門ヲ置クベカラス

一合併ハ大切ノ事ナリ、輕々ニ委員并ニ牧師ノ手位ニ任せ、教会ヨリ充分ニ意見ヲ述べサルハ、甚シク我自由主義ニ背クモノト云ハサルベカラス

一利害得失ハ充分研究セサルベカラス

一又己レニ満足セサレハ決シテ合併スベカラス

一米国辺ニハ一個人ノ結婚サヘ三年五年ノ星霜ヲ消シ、而シテ相約シ、又数年ヲ待テ結婚スルニアラスヤ

一今度ノ結婚ハ數万人ノ結婚ナリ、又一人ノ命ノ五六〔十〕年ナルノ類ニアラス、數百年數千年迄<sup>〔モ〕</sup>ヲ其命ヲ持ツヘキ

モノナラスヤ、如斯貴重ノ結婚ヲ僅々ノ宣教師牧師ノ手ニ放任シ、己レ自ラニ研究セス、唯々諾々然トシテ此兩会

ヲ結婚セシムルヤ、考ヘサルノ甚シキモノト云ベシ

或ル人ハ教会カラ段々ト六ヶ敷キ説力起ルカラ速ニ合併セシムルニ如カスト、不心切<sup>〔親〕</sup>ノ甚シキモノナラスヤ、如斯

キ人テハ吾人ノ權利ヲ如何ニ輕々ノモノニ見做スヤ

一不滿ノ廉アラハ結婚前ニ飽マテモ論究スベシ、結婚スヘキ程ノ満足ヲ得サルナラハ見合セニスベシ

一我ヨリ合併ヲ求メシニアラス、彼我カ自由ヲトリ彼ノ欠点ヲ補ハントスルノ策ナラスヤ、彼ニ益アリ我レニ損多シ、

我カ自由ヲ減殺シテ彼ヲ補ハントスルハ仁人ノ所為カハ知レサレトモ、彼ノ注文通り尚多分ノ自由ヲ容レテハ如何、自由ヲ以テ来レト云テ遂ニ憲法ト称スルカゴノ中ニ入ル、ノ類ナキヲ保証シ難シ

一合併成ラスハ上毛教会ト榎坂ノ教会ニテ独立ノ旗ヲ立ベシ、一二会ナラハ甚弱キモ六七会モ聯合共同セハ何ソ独立シ得サルノ憂アラシヤ、宜シク委員ヲ派シ組合派ノ諸教〔会〕員ト一致共同スルノ計ヲ為スベシ

一延期ノ説ヲ陳スベシ

114 一一致・組合両教会合併問題に関する稿(二)

〔編集者〕

「廿」年十月三日

東京ニ於テ

〔一〕

一合併の議案あらば之は會議に附せずして相談〔会〕を開らく事

一此相談会には延期の相談をなす事

一歸て之を教会に相談すること

一右決議之上同盟して延期を委員へ申出す事

一右の理由を別に印刷して各教会へ廻はす事、(連署の上)

此迄は十月廿日頃迄之事

一相談会には参考のため憲法に不同意の個条を朱点ヲ打ちきめをく事  
之には自の教会へ相談の事

以上の手順及び「ラ」インタユニラン出来ぬ事を檄文に入るゝ事

互ひに檄文のメテリヤルを考へをくこと

延期は五月の初旬迄の事を請求すべし

伝道会□□後

〔一〕

先以てアメリカン・ボードへ掛合ひをく事、もし聞かぬならばニウ・イングラ<sup>〔ド〕</sup>ンのチャーチへ迄掛け合ふ事

〔三〕

付、憲法配布も遅かりし事、期限は余り此大問題に取りては短かき事、憲法につきては未取調<sup>〔カ〕</sup>べられざる事

教会の将来に付非常に危色ある大問題を緊急に判断せしむる事は得策に非ること、歴史習慣<sup>〔カ〕</sup>か研の上に知られ居らざる事

憲法制定の前に、即ち両教会打合の前に、組合一致各内の相談をなさざるは正当之順序に非ること

115 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（三）〕

〔端裏朱〕

「十一月四日」

十一月三日、四日

関東二八

代人ヲ出スハ事〔自家攬著〕下疳着ノ事ト申遣ス

○出スナラハ多分、出サヌナラハ一人モ出スナト、五月総会ノ決議ヲイカナレハ委員私ニ変更〔シ〕テ、決議ノ前ノ相談会ト為セシヤハ糺セト申遣ス

七日

古莊〔三郎〕氏ヲ延期理由ノ説明員ト為シテハ如何ト申遣

代議人ト相談ニモ関カ〔ハ〕ラシメス

# 116 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（四）〕

〔宋〕  
「十一月六日〔日〕」

第一ニ会議ノ性質ヲ明カニス

五月総会ニヨレハ臨時会ヲ開ラキ議決スル云々トアリ

然ルニ委員カ上毛地方遊説ノ際、決議ノ前ノ相談会ナリ〔ト〕云ヘリ

決議会カ何ニヨリテ半途ニ、又総会ノ許可モナクシテ決議前ノ相談会トナリシヤ○委員ノ専断ヲ糺スベシ  
去レハ代人ハ決議ノ権ヲ有タサルモノタルベシ

相談会ニテスラ充分教会ノ意見カ定マラサルニヨリ、延期スルニ如カスノ動議ヲ起スベシ  
延期モ亦六ヶ月トカ何ヶ月トカ年期ヲ定メス教会ノ満足スル迄充分ノ準備ヲ為サシメ、然ル后総会ヲ開ラキ組合会  
丈ケノ相談ヲ為スニ如カス

○此会ノ集リニテ委員ノ職ヲ解キ、更ニ聯合ノ事ヲ組合会事務員ノ手ニ托シテ「ハ」如何  
○両教会々議ノ終ヲ告クル迄ハ両会ノ混同会ヲ開クベカラス、混同セシメ一致ニ熱心セシメ○ノボセアカラシメ、而  
シテ彼ノ奥ノ手ヲ為スニ相違ナケレハ、双方局ヲ結ヒタル上、双方混同ノ集ヲ為スベシ

117 「一致・組合両教会合併問題に関する稿（五）」

〔朱〕  
「十一月十四日記之」

〔追筆〕  
「二今度之会議ノ性質ヲ明ラカニスル事」

一延期説

二可否権ハ教会ヨリ与ヘラレス

聯合ト憲法ニ付更ニ意見ハ吐ケズ

三委員ヲ解ク

〔聯合ノ事ハ組合事務委員ニ屬托ス　○断行〕

四組合教会總會ノ局ヲ結ハサル前ハ、何ニ事ニ拘ハラス一致会ノ連中トハ混同集会ヲ為サス、又相談会ヲモ為サ、ルベシ、且今回ニ九デ冷淡ニカマヘ居、集会ノ局モ結フヤ否直ニ解散スベシ

一将来議會ノ期日ハ教会ヨリ決定スルノ權ヲモライ来ラサレハ、何レ婦会ノ上相談ニテノ通知スル

## 118 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（六）〕

〔端裏米〕  
「廿一年十一月廿八日」

委員ハ合併スルト見倣シテ憲法ヲ作リ

合併スルカ宜イカ、<sup>〔ママ〕</sup>宜イカラサルカ

委員カ自ラ撰択セリト云トモ苦シカラス、初メカラ専越<sup>〔僞〕</sup>ノ仕事ヲ成セリ

一致ハ逐条審議ノ第二次会ト思ヘリト見ユ

之ニ応スルノ策ハ委員カ如何ナル権理ヲ以テ各会ノ委員カ……ヲ撰挙ス<sup>〔委員〕</sup>

撰挙人カ合併ノ權ハ教会ヨリハ依頼セラレテ居ラサル

委員ヨリ撰挙セリ、撰挙權ノ無キ人カ委員ヲ撰挙ス

今ノ委員ハ越権者ノ撰ミニ応シテ空中樓廊ヲ築ケリ  
一致会ノ懸合アルトキハ教会ノ答ヘハ

委員ヲ撰ミタル事ハ教会ヨリ委托ヲ受ケサルモノ、手ヨリ出来ル、教会ハ義務ナシ  
損害要償ヲ申出ストキハ□兵約束セシ委員ニ相談アレト

「ギユリーク氏書簡」\*

組織○

由来之反訳

○——右ノ憲法ヲ注解ヲ下ス

◎二月迄ニ制ス

〔朱〕  
「廿一年十一月廿八日之報告」

119 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（七）〕

聯合ニ付両主義不両立

誰レカ斃レ誰レカ立サルベカラス

然ラハ吾人ハ誰レノ主義ヲ取ル

○寡人政府主義 ○中央集権力

○衆治主義 ○地方分権力

○寡人政府主義〔朱点・以下同〕ハ古来ノ遺伝物

○衆治主義ハ近世ノ新發明

今日世界ノ傾向ヲ察スルニ衆治主義之傾向アリ 然シ今ノ日本ノ教会、我カ組合会ノ内ニモ何ニカ少シク規律ヲ求ムルノ傾向アリ、何ニカ寡人政府主義ヲ容ル、ノ傾向ヲ発見セリ、今此両主義ヲ合スルノ傾向ヲ見ルニ幾分カノ自由ハ存スルモ、之ヲ蓋ヒ之ヲ含ムモノハ寡人政府主義ナリ

今聯合ノ仕立ハ自由主義働キテ益アルベシ

然シ中央集権ハ規則、細則、附則等ヲ出来スノ傾向アル分子ヲ含ムモノナリ、此主義ハ向來規則ヲ以檢束スルニ至ノ傾向アルモノナリ

今兩教会ニシテモ會員充分兩主義ノ教育ヲ受ケオラス、外国教師ノ誘導ニヨリ何レヘモ傾キ易キ憂アリ

且牧師ニモ日未淺ケレハ、兩主義ノ内容ヲ愛スル精神ハ深カラサルヘシ

何レデモ今日伝道ノ都合ヨケレハヨイト云フナランカ、又時日ヲ経ハ双方頑固ニ流ル、左レハ兩会ノ一致ハ到底期ス

ベカラスト思フナラン、然ル「ニ」今日兩教会ノ一致ハ、恰モ日本ノ条約改良ニ當リ草案ハ外人ノ手ニナル、其レ

ト同シク我カ兩会草案ハ外人ノ手ニテナル、第一ノ草案ハ一致会ノ教師ノ手ニナル、今何ニカ改正ヲ加ヘラルヨシナレトモ、其ノ大体ハ一致会ノ形ヲ取ルモノナ組合会ハ獨立ノ聯合ニアラス、恰モ一致会ニヨメ入ニ行カ如シ、ヨ

メ入モヨシ双方納得ナレハヨシ、予ハ此聯合ハ何ニカ少年男女カ親ノ手ニヨリ早婚スルカ如シ  
予ハ兩教会インテレジェントノ婚姻ヲ望ム

予ツラ、千百年ノ為ニ計ラハ、我カ輩カ今我カ教会ヲ他年規則ニ陥ラシムルノ傾向ヲ持ツモノナシトスレハ、後世  
ノ活眼ヲ具セル教会史家ハ我カ輩ヲサシテ何ニトカ云ハン

予ハ望ム。我カ輩ノ自由主義ハ我カ国一般ノ自由ヲ存シ、自治ノ精神ヲ養フ<sup>（泉）</sup>トナルヘキ事ヲ

然ルニ今差少<sup>（些）</sup>ノ情実ノ便利ノ為ニ他日漸々ト此ノ自由ヲ絶タレ、教会ノ主權ハ教会ニアラ「ズ」シテ遂ニ牧師集合<sup>（体）</sup>

ニ帰スルニ至ラハ、新発明ノ自治主義ヲ去、從來ノ寡人政府主義ニ戻ルト云ハサルベカラス

今日ノ動議トナリタル一致論ハ甚面白クアルモ、我カ邦家千百年ノ後ノ世迄自由ノ泉トナルヘキ民治衆治主義ヲ失フ  
ノ憂アレハ、我カ必ラスムシロ旗ヲ立テ我カ自由ノ為ニ戦ハサルヲ得ス

兄弟ヨ、吾人ノ喜フ所ノ自由ハ、古来英米ノ信徒カ熱血ヲソ、キ買イ得タル自由ナリ、此ノ自由主義ハ輸入物ナリ、  
吾人若シ其ノ真価ヲ知ラスシテ之ヲ安売スルニ至ラハ、吾人ハ今日差少眼前ノ情実ノ為ニ我千百年ノ自由ヲ売ルモノ  
ナリ

予ハ恐ル、今ノ一致ハ早婚ナリ、インテレジェント・ユニヨント云ベカラス

今日一致会ニ行ハル、事ヲ伝聞セリ

〔大儀見（元一郎）長崎行キヲ中会ヨリ命セラル、之ヲ辞セシカハ月給ヲ与ヘスト云エリ

Can you bear such an oppression?

又ヘボン氏ハ本国ニ書ヲ送り、組合会カ我カ一致会ニ入会ストス

一ノ旅人ブレシベテリヤン人

into  
no  
unite  
together

米國ブレシベテリヤンノ人ニ取甚喜フベキ事件ナリ

○誰カモ大賛成

昔時新克<sup>(ニューヨーク)</sup>クノ北方

組合会アリ一致ニ合併ス、伝道上ノ便宜ヨリス

今ハ純乎タルブレシベテリヤン会トナル

自治ハ漸々ト去ル

聯合ハ可ナリ、ヨメ入ハ甚不同意ナリ、我カ自由ヲ失フハ決テ政治上ノ日本ニ対シテ得策ナラス  
一致ノ目的

競争ヲ避ク、聯合ハ大運動ヲ為スベシ

一致ノ語一時人ヲ瞞着スルニ最美ナル語ナリ

決シテ千百年ノ後世我カ自由ヲ滅殺スルハ得策ナラス

予ハ早婚ヲ避ケ、インテレジェントノ一致、真ノ一致ヲ望ム

(第一) 一致ヲ為セス心ノ一致、(第二) 外形上ノ一致ハ充分ノ注意ヲ要セン事ヲ望ム

○今一致セズトモ我カ短ヲ取、彼レカ長ヲ取レ

○彼レモ彼ノ短ヲトリ我カ長ヲ取レ

不知不知一致聯合スルニ至ラン

アーチフィシユル・ユニヨンハ他日瓦解ノ憂アルベシ

We have got to be cautious.

Congregationalism ノ主義ヲ明ニ為シ各教会ノ會員ニ知ラシム

一致会ノ組織ヲ学ハシム

# Proposal

両会ヲ比較ス 會員ニ負担セシムベシ

〔以下鉛筆〕

イズムナシニ来リタ〔ル〕ハ甚幸、所謂真ノ福音会ト称スルモ可ナリ、然ルニ今不幸ニシテ一致論ノ起リシハ乃新タ  
ニイスムヲ作ルノ時機来ルト云ベシ、一方ハイズムヲ尊ブ教会ナリ、我カ方イスムニ関セサル、規則ヲカマワサル教  
会ナリ

故ニ我カ会ハ随分イズムノ一点ニ至リテハ甚無頓着ナリ、無頓着ニシテイスムニ厳格ナル教会ト一致スレハ、自然家  
格ナキノ家ノ娘カ家格ノアル家ニ入嫁スルノ体ナリ

然シ此入嫁スル事カ自然中央集権〔ノ〕弊ヲ生スベシ

自然牧師長老ノ手ニ教会ノ権ヲ帰セシムベシ、予ハ此ノ主義ニ向反對論ヲ取ルモノナリ

主義カ其ノ方ニ傾向スルモノト云ハサルベカラス、自然々々衆治民治自治主義ヲ失フニ至ルノ憂アラシ

去ラハ此時ニ当リ非常ノ注意ヲ要セサルベカラス、オンイン〔テ〕レジェントリーニ結婚スベカラス、今ノ日本ノ有

様ニ為シオクツモリナラハ可ナルヘキモ、日本ノ有様ヲ進メントナラハ民治主義ヲ滅殺スルノ傾向アル分子ハ容易ニ

我カ教会ニ入ルベカラス、是レ予ノ注意ヲ牧師教君ニ求ムル所ナリ

一致論ヲ求ムルモノハ矢張我カ自由分子ヲ求ムルナリ

然シ今ノ一致ノコンディションナレハ、将来自由ヲ滅殺スル傾向アルモノ〔ト〕云ハサルベカラス、然レハ我輩モ真ノ自由ヲ失フニ至ルカ、彼レモ亦其ノ目的ヲ達シ得サルニ至ルカ、是非常ノ思考ヲ要セサルベカラス

## 120 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（八）〕

両主義不両立

誰カ斃レ誰カ立サルベカラス

然ラハ吾人何レノ主義ヲ取ル

○寡人政府主義

平民主義

寡人ハ古来ノ遺伝物

平民主義ハ近世ノ新発見

今両〔主〕義ヲ合スルノ傾向ヲ見、幾分カノ自由ハ存スルモ、之ヲ蓋ヒ之ヲ含ミ、之ヲツムモノハ寡人政府主義ナリ、今縱令簡易ノ規則ヲ以テ合スルモ、主義自ラ規則細則附則ヲ生スヘキモノナリ

平人々々ハ檢束法ヲ要セサルモノナリ○今日日本ノ明治社会ノ運動ヲ見ヨ、政府ハ僅々ノ人ノ手ニアリ、何レカ勝ち何レカ負けモ一般ノ人民ハ之ヲ知ラス

今ノ勢ヲ以テ論スレハ、何レノ主義モ未タ充分人民ノ腦裏ヲ開發セス、只外人ノ糟粕ヲ嘗メ、外人ノ云ナリニ順ヒ、他ニ誘導セラレ、他ニ雷同セラレ、ドチラニモ成ルモノナリ

論者或ハ曰ハン、他年ノ、何レモ頑固トナリ宗教カタマリトナリタル上ハ到底一致ハ期シ難シト

論旨ノ淺近ナル實ニ憐ムベシ、是恰モ今ノ条約改正ヲ望ンテ自ラ草案ヲスラ作り得ス、外人ニ托シシカモ寡人政府主義ノ人ニヨリ草案ヲ作ラシムルニアラスヤ、日本人カ政府ノ何ニタル又主義ノ何ニタルヲ知テ為スニアラス、何ニモ知ラ「ザ」ル内、幼稚ノ内ニ外人ノ手ニヨリ一致スルアリ、恰モ日本流ノ結婚ト同シク、何ニノ意見モナキ息子、息女等其兩人等愛ニオボレテ早ク結婚ヲ計ルナリ

男子女子銘々其人タルヲ知り、配偶ヲ撰テ結婚スルノ類ナリ○条約改正草案ノ外人ノ手ニナリ、遂ニ今日ノ中止トナリタルハ国家ニ甚幸ノ事ナリ、伏テ他年我カ国人ノ自ラ草案ヲ書キテインテレジェントリーニ改正ヲ為シ得ルノ日迄延期スベシ○外人ハ我カ国権ニ関セサルモノナリ、宣教師モ亦我カ子孫ノ為百千年ノ後世迄ノ為ニ焦慮セサルナリ、我カ国権ハ我レ銘々ノ頭ノ上ニ関スヘキ事ナリ、僅々寡人ノ国権ニアラス、外国人ハ今ノ日本人ノ度ニ応シ草案ヲ作リ「シ」如ク、宣教師モ今ノ日本ノ教会ノ便宜ヲ計、コンフレクトヲ防ク為ニ之ヲ望ムナリ、日本人ハ大運動ヲ為サント云テ一致ヲ望ムモ

是レモ亦同シク今ヲ見テ後ヲ見サルモノナリ、流行言葉ノ一致ニマンチャクセラレ雷同セラレ、先キヲ洞視セス後ヲモ願ミス、我カ得タル千万金ニモカヘラレヌ自由自由〔治〕、自箇ノ自由ヲ大安売スルモノナリ、元来此ノ自由古来信徒カ熱

血ヲソ、キ買イタルモノヲ、日本人ハ外人ヨリ輸入セラレテ之ヲ安クカイ、今又日本人中寡人政府主義ヲ好ムモノノ動議ヨリ起リ、外人ノ盲目姑息主義ナル誘導ニヨリ兩教会ノ幼稚ヲ為サントスル嗚呼愚ノ至リナラスヤ、イカテ本トウノ一致ヲ得ヘキ、一致ノ後不都合ヲ生スヘキハ期シテ待ツヘシ、血ヲ以テ自由ヲカワサルモノハ自由ノ価ヲ知ラス汗ヲ流シテ錢ヲモウケサルモノハ錢ノ価ヲ知ラス、幸ニ自由ヲ外人ヨリ得テ今容易ニ之ヲウラントスル、後世ノ活眼家日本教会歴史ヲカクトキハ、吾人ノ輕拳來世ヲ誤ル事ヲ駁シ、涙ノ水ヲ以テ墨ニスリ史上ニ大書スベシ、故ニ予ハ断然一致論延期ヲ主張ス

〔以下墨〕

樹木ハ幼稚ニシテツキ法ヲ行フベシ、心アル教会ハ幼稚ニシテ相結フベカラス

一致会ノ牧師ノ決議トカ聞ク

〔朱〕

「アントワ説」ヲトルモノハ牧師トナサス

二大儀見ノ長崎行ヲ命セラル、母ノ故ヲ以テ之ヲ辞セシカハ月給ヲ出サズ

121 〔一致・組合兩教会合併問題に関する稿（九）〕

急進アナガチ急進ナラス、漸進アナガチ漸進ナラス、英人ノ固ヲ取テ急進スルノ氣風ヲ見ヘシ

聞ク所ニヨレハ Dr. へボン氏ハ一致会ノ老成人ニシテ、此聯合ノ説ノ行ハル、ヤ早クモ之ヲ賛成シタル人ナリ、然ルニ  
 本国ニ通知シタ文中ニハ組合会カ我カ一致ニ適合併スルノ企アリ云々ト記セリ、宜ヘナリ氏ノ聯合ヲ賛成セラレタル  
 又、組合会教師中ニモ此説ナキ能ハス、如何トナレハ先日京師へ来遊ノ米国人アリ、此人ハ該国府ニアルプレシベテリ  
 ヤン会ノ人ナリ、予ニ語テ曰、近頃組合会ニハ我カ一致会ニ（<sup>カ</sup>）聯合スル相談アリト聞ケリ、此レハ甚タ結構ナル事  
 ナラスヤ、何故ニ早ク之ヲ決行セサルヤ、又ペレシ（<sup>ツ</sup>）タリヤン会ニ於テ組織セ（<sup>ラ</sup>）レタル伝道社中ノ一老成人近  
 頃日本ニ来タリ、一致会ノ教師ニハ勿論我カアメリカン・ボールド中一致賛成論者ノ中ニ向ヒ、懇々聯合ノ説ヲトキ行  
 カレシヲ知ル、如何トナレハ此ノ聯合ノコンディションハイカニモ長老会ノ組織ニ似タレハ、本国人ヲ賛成セシムルニ  
 尤力アルマンチャク説ハ乃組合会カ我カ一致会（<sup>ニ</sup>）（<sup>ニ</sup>）（<sup>ニ</sup>）合併スルナリ、長老会中何ノ人カ之ヲ賛成セサルモノアル、  
 新約克ノ北部ニ昔時コングリゲーションナル会アリシモ便宜ノ為トテ長老会ト一致セリ、縦令自治主義ノ精神ハ今尚幾  
 分カラ存スルモ、今ハ已ニ純然タル長老会ナリ○今一致会中ノ老成人カ盛ニ身ハ聯合ヲ賛成スルモ、已ニ如斯基実例  
 モアリ、他年必ラス純乎タル長老会ヲ見ルヘシト、千百年ヲ計テ今日ノ聯合ヲ賛成セラル、ナラン、彼等ハ我カ教会  
 ヲ永存スルニハ甚タ遠大ノ目的ヲ具有スル先生方ト云ハサルベカラス、彼等ハバンテジ・グラントニ立モノナリ  
 此ニ反シ此組合会ノ宣教師等中ノ説ニハ長老会ノ立方ヲ丸テ取ルモサマタゲナシ、而シテ聯合ノコンディションヲ先  
 方ニ送ルニ長老会ノ組織ヲ十中八九ハ採用セリ、又他ノ宣教師モ多分ハ此ノ説ニ迷ハサレテ（コンフレクトヲ避ル位  
 イナル差少ノコンディション）直ニ之ヲ賛成シ此ノ自治主義ヲ安売セントシ、又我内国牧師伝道師中ニモ、<sup>（朱点・以下同）</sup>ヘタナ競  
 争ヲ避クヘシ、又聯合セハ大運動カ出来ルナドト云フ一、時人ヲ眩惑サスル程ノ近眼説ニ雷同セラレ、又ハ一致会ノ某  
 ヨリ爾ノ自由ヲ我カ教会ニ入レテ呉ヨナドト云御頼ミノ情ニウツタエラレ、直ニ安ウケアヒニウケアヒテ我カ自由自

治ノ精神ヲ該会ニツキコムベシ、左スレ〔六〕如何ニ外面ノ規則アリ中会アリ大会アルモ自然我カ掌握内ニ入ルベシト、嗚呼何ソ近眼ノ甚シキモノゾ、此ノ輩ハ輕々卒々情ニ自由自在ニ左右セラレ、情ニヨリテ動カサレ、道理ノ存スル所ヲ進ムルモノニアラス、我カ子孫千百年ノ自由ノ為ニ計ルモノニアラス、我カ此ノ先生輩ノ御説ニハ決シテ敬服スル能ハサルナリ

又自由ヲ愛シ、又自由ノ為ニ働ク〔ト〕云テ、知ラス知ラス干涉ノ区域ニ進スルナリ、飛テ火ニ入ル夏ノ虫、自由ヲ好テ自ラ自由ヲ焼キ殺スハ此ノ先生輩ナルヤ、自治自由ヲ好ムノ一ノ小信徒——ハ現況ヲ見テ我カ党牧師ノ遠大ノ着眼ナキヲ長太息シテ止マサルナリ

○ソモ、一致會員中聯合ヲ主張スル諸氏ニハ我カ自由ヲ入レテホシイト云ハレ、此聯合ヲ計ラルナラハ、飽マテモ自治自由ノ分子ヲ入ル、ヲ計ラルヘキ筈ナルニ、聯合ノコンディションカ十中七八ハ一致会ノ組織スルニハ却テ賛成ナルヘキモ事下□(自家)トシヤ着ト云ハサルベカラス

○自治自由主義ハ甚政治ニ、ニ、恐ルヘキモノ〔ノ〕様ニ見エルモ、集權ノ傾向ナケレハ、一箇々々其ノ教会ダケテ治メテ守ルモノナレハ、以謂武器モナキ随テ武断モナキ一箇ノ平民ノ如キモノナリ

一致ヨリ来リ助ヨト云イ

究屈ニ過クルカ〔ラ〕自由ヲ入レヨト

二日本已上<sup>〔ママ〕</sup> 人ノ領分ヲオカスハイカヌ

競争ハイカヌ、合併セハ金モ人モ都合ヨイ

三一致ノ方ノ活潑ニ出来ル 寡人政府 果断ヲ出来

共和ハ活動ノ元氣ヲカク

〔一致ノ政事ノ仕方カ長足ノ進歩ヲ為ス事カ出来ル

間 此主義ヲ捨テ、何ニヲ苦ンテ合併スルヤ

○上告 〔我 答、馬太十八伝<sup>〔ママ〕</sup>〕

神カ人間ニハ審判ノ權ヲ与ヘヌ 人ハ兄弟ノ罪ノ有無ヲ定ムル能ハス

〔憲法ニ懲罰アリト云ベシ

### 123 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（十一）〕

士族連中ハ圧制諸侯ノ下ニ生成シ、足輕ハ徒士ノ下ニ制セラレ、徒士ハ徒士頭ニ制<sup>〔ママ〕</sup>、番頭ハ大目付、大目付ハ番頭、

番頭ハ家老、家老ハ其主君ノ下ニ服從シタル習慣<sup>カシ</sup>ノ中ニ生息シタル人間ニ真ノ自由ノ志操ヲ期スベカラス、百姓又ハ町人ハ此庄制ノ下ニアル士族糊口ノ土地ヲ受ケ其ノ藩主ニ納税シ、町人ハ毎度々々庄制之手段ニテ御用金ヲ仰<sup>ツケ</sup>カレラレ、少々金ヲ出テ帶刀御免ノ特典ヲ以テマンチャクセラ<sup>レ</sup>タル之ヲ喜フノ風習アリ、身ノ上ニ自由ナキ、志操<sup>□</sup>自由ナキ人間ヨリ俄然明治ノ<sup>時</sup>代ト變化シ来ルモ、人民中十<sup>ニ</sup>八九ハ維新前ノ殘物ナルベシ、陽ニ自由ヲ好ムモ自由ノ人民ニアラス、矢張上ニ干渉スヘキ頭ヲ戴キタル傾向ナキ能ハス、マシテ教会ノ如キハ此種類ノ人十二八九ヲ占メタリト云ハサルベカラス

試ニ我カ党ノ教会ヲ見ラレヨ、真ニ自治主義<sup>「コングリゲー」</sup>シヨナル主義ヲ知テ之ヲ履行スル人物ハ幾人ソアル、之ヲ誘導

スヘキ牧師連中ニモ教会ノ自治ハ我カ掌握内ニアリ、協議ヲ以テ事ヲ決スルニモセヨ、ツマリ我カ輩ノ意見ハ行ハルヘケレハ、向來教会ノ或ル事務<sup>「朱点」</sup>ハブレシ、バテリ、ニ附シ決行セシムルモ、別ニ差異ナシト

兄弟ヨ、我カ自由主義ノ教会ニテスラ牧師連中ニハ已ニ此ノ傾向アリ、之ニ加フルニ中会ノ如キモノヲ設ケ之ニ権柄ヲ取ラシムレハ、今ノ時代ハトモアレ百年ノ後ニハ必ラス干渉主義ニ漸々進入シ、遂ニ規則檢束サルベキ教会トナルハ疑ヲ入レサルナリ

○銘々ヲシテ自治会ノ會員タルニ価スル丈ケノモノタラシメヨ

之ヲ教育スルニハ之ニオブゼクトレッスンヲ与ヘテ自ラ自由ノ政治ヲ取ラシメヨ、已ニ始メタルヲ止メテ之古來ノ寡人政府主義ニモドル勿レ

イスラエル人民ハモーセ、ジョシュア<sup>「カ」</sup>等ヲ其ノ先導者トナシタル時分、ダビテ、ソロモン以降諸王ノ下ニ支配ヲ受クルト誰レカ苦ナ<sup>□</sup>ル、人爵ヲ以先導シタル、人爵ヲ以支配シタルノ苦ナキ能ハス

十一月廿五日開業式ヲ執行ス

124 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（十二）〕

十月二十四日発兌ノ――新聞上ニ掲ケタル一致組合両教会合併ノ議ニ付テ所思ヲ述ト題シタル伊セ時雄兄ノ高論雄文

〔上欄〕

ヲ一読シ、<sup>〔基督教〕</sup>「學問智識之富メル長者先輩ノ我カ組合ノ」高論ナレハ一モ二モ御尤千万ト申上度クモ、心中少々感服セ

サル所アレトモ、吾人ノ如キ教会中信薄ク識少ナク、実ニ物ノ数ニカ、ラサル青年輩ノ身ニシテ、我組合会中錚々タ

ル人物トモ云ハル、先輩ニ向ヒ、其ノ論ヲ上下セント試ムルハ大胆不敵ノ馬鹿者ナリトノ世評ヲ招クカハ知ラサレト

モ、吾人ノ如キハ幸ニモ共和平等主義ヲ執テ賢愚一樣ノ政治ノ下ニ薰陶セラ〔レ〕タルモノナレハ、先輩ニ向ヒ論鋒

〔體〕

ヲ試ムルモ敢テ檀越ノ事ニアラサルベシト存シ、鄙見ヲ陳シテ將サニ聯合セント用意セラル、諸教会兄弟ノ一覽ヲ勞

〔頌〕

ワサントス

抑一致組合両会聯合談判ノ起リハ、伊セ兄ノ文面上ニモ掲ケ〔ラレ〕タル通十八年ノ春ノ比、東京ニアル一致組合ノ

錚々タル人々ヨリ両会ノ合併ヲ主唱シ其ノ考案ヲ発セラレタリト、是レカ即チ両教会合併ノ相談ノ初マリニシテ、其

ノ後果敢々々數ク着々ノ相談モ付カサリシカ、昨年五月――教徒同盟会ヲ開クニ際シ死灰再ヒ燃ユルカ如ク、諸教会

〔基督〕

ヨリ代人トシテ差出サレタル牧師伝道者中ノ錚々タルモノ共カ頗ル聯合ヲ主唱シテヨリ、遂ニ兩教会ノ問題トナリ、双方ヨリ十人ヨノ委員ヲ撰ミ此ノ事ニ当ラシメ、彼等ノ勉強尽力ニヨリ今ノ憲法ハ編成サレタリキ

生等慎テ此ノ憲法ヲ開ラキ、如何ナル仕組ヲ以テ兩会聯合ノ出来得ヘキ事カト逐条熟読シ三再復読シ終リシニ、種々ノ信仰ハサテオキ尤モ重要ナル条項ト認ムヘキハ部会聯合總會等ナリ、又尤吾人ニ於テ耳新ラシク覺ヘシ所ハデスプリン并ニアピール等ノ事ナリ、吾人カ若シ右様ノ憲法ヲ戴キテ一致会ト合併スルニ至ト仮定シタル上、吾人ノ尤注意スヘキ所ハ、伊セ氏ノ第一第二第三等ヲ逐テ論セラ〔レシ〕所ノ合併ノ理由ヨリモ、寧ロ我カ平素甘奉スル所ノ共和平等主義ノ運命ハ如何成行クヘキヤヲ着目セサルベカラス、其ノ論者ハ何ニカ兩会合併ヲ促カシテ吾人ノ勢力威力ヲ幾倍シ、速ニ全国伝道ノ業ヲ成就セシメント図ラル、カ如クナレトモ、吾人基督信徒ハ伝道ヲ速ニ成就セシムルノミヲ以地上ニアル教会ノ最上終極ノ目的トスヘキカ、又ハ伝道上ニ取リ少々進歩ハ遲鈍ナルモ、吾人ノ大ニ賛成シ甚満足シタル共和平等主義ヲ固取シテ我カ教会ノ基礎ヲ益強固ナラシメ、着々漸々歩ヲ進メテ全国ニ布キ及ホスモ亦自然ノ仕方ニシテ、其ノ結果ハ即チ自然ノ成長トモ称スヘキモノヲ来シ得ヘキハ必定ナリト信スレハ、斯ク自然ノ結果こそ却テ好マシ〔キ〕モノナラ〔ス〕ヤノ感ナキ能ハス

然ルニ論者ノ主意ノ如キハ、双方主義ノ自ラ相違シタルモノヲ無理ニモ一種ノ新工風ノ憲法下ニ来ラシメ、兩教会ノ人物モ資財ヲモトリマトメ、又随分相違シタル長老政治ト共和政治ノ兩主義ヲ無残ニモ混一混〔合〕シ、水ト油トヲ混合シタル如キモノヲ醸シ来リ、此ヲ以テ外世界ニ向ヒ非常ノ勢力威光ヲ示シ、我カ日本全国ヲ一挙〔ニ〕シテ抜き、直チニ基督ノ旗下ニ伏セシメントスルニ似テ、實ニ我カ教会ニモ英雄ニ乏シカラス、又英雄ノ経綸ハ如スコソアルベケレト随分感服ハ致シマスレト茲ニ思考ヲ要シ、吾人ハ牧師ノ地位ニ立タス、牧師ノ感情ヲ以テ注文ヲ為サス、平素

共和平等主義ヲ欣受甘奉シオル組合教会員ノ地位ニ立チ、将来ヲ慮カリ、此ノ共和平等主義ヲ以新憲法ノ部会聯会總會ノ下ニ降伏セシメハ、我カ自由教会ノ運命ハ如何成行ヘキヤヲ沈思黙考セサルヲ得ス

# 125 〔一致・組合兩教会合併問題に関する稿（十三）〕

〔本文鉛筆〕

憲法政治ハ吾人ノ夢ニタモ觀想セサル所ナリ、又未タ右様ノ合併ハ何レノ教会ヨリ〔モ〕注文シ切望セサル所ナリ此レハ英雄ノ腦裏ニ醸成シ来リ一言ノ下ニ我幼稚ナル教会ヲ同意賛成セシメ、民〔ニ〕ハ之ヲ知ラシムベカ〔ラ〕サルノ独断手段ニテ、我東洋伝道上ニ英雄ノ技倆ヲ試ミラレントスルカ如キノ感ナキ能ハス、我カ組合会ノ牧師先輩ヨ、我兄弟姉妹ヨ、今回ノ聯合ハ吾人ノ平素欣受拝奉シ吾人ノ望ヲ尤モ満足セシメ吾人ノインテレストヲツナギ、吾人ヲシ〔テ〕我カ教会ヲ吾カ物ノ如クニ愛慕セシムル此自治自由共和平等主義ヲ無殘ニモ犠牲トナシ、我カ将来ノ教会ヲシテ寡人政治ノ軍ニ屈伏セシムルハ策ノ上ナルモノカ、吾人慎テ我カ組合会会合ノ兄ニ質ス〔質〕

兄ノ御注文ノ如、其勢力威光ヲ張、此聯合教会ノ協力ヲ以我カ全国ノ一遇ヨ〔リ〕一地ヘ至ル迄尽ク吾人ノ宗派ヲ拡メントスルハ、主ノ終ノ命ノ如ク地ノ極ミ迄伝道セヨト〔ノ〕御精神ニ基モ〔ノ〕ナルヤ、又右ノ計画ハ少シアンベシヨシニ富ミ賜ヒ、将来独断主義ヲ利用シテ我カ今回ニ一新セリトテ新奇ナル兩教会ヲカリテ驅セシムル英雄風ノ手段ニ

ハアリハセヌカトノ疑ヲ作り、今ノ憲法ヲ戴ク迄ニハ中々吾人カ自熟慮熟考セサレハ容易ニ賛成ハ出来難キ事共ト信シ、又幸ヒ我カ国ニ監督教会、メソヂイスト、又バプテストノ如キ兄弟モ熱心ニ伝道ニ従事セラル、ナラハ、我カ聯合会カ此日本ヲ一吞ニ吞併セント計ルハ大ニ他ノ兄弟ノ所望ヲモ絶断スヘキ事ナレハ、是ヨリハ一致会ニ対スルナリ又他ノ教会ニ対スルナリ真正ナル一致ノ精神ヲ發表シ、他ノ諸会ニモ伝道スヘキ余地ヲ与ヘ、我カ伝道先キニ彼等カ来ルナラハ克ク之ヲ容レ、彼等ノ働ノ挙カリ得ル様ニ周旋スルコソ諸会ニ対シ真ノ一致協力ノ仕方ト云ヘキカ

羅馬ハ一日ニ建設サレタルモノニアラス、我カ基督教モ中々一日否一世期位<sup>ニテハ</sup>全世界ニ広マリ伝播シ得ヘキモノニアラス、必ラスソコニ蹉<sup>カ</sup>マ<sup>ル</sup>ハナチュラル・コールスナリ<sup>ト</sup>存ス、此ノ一点ニハ英雄風ノ独断家ニハ少シク反省スル所アレ、若シ弥右ノ手段ヲトリ有力ノ兩教会ヲ合併セントナラハ、彼ノ宗教中分離ノ少ナキ羅馬カトレキ教カ又キリーキ教ニ仲間入シテ<sup>マ</sup>  ノ企ヲ為スカ、若シクハペートル大帝ノ大目的ニナラヒ、日本ハサテオキ全亜細亜ヲ吞併スルノ策ヲ立テサル

如斯論シ来レハ論者笑テ云ハン、右様ノ企ハ到底望ムヘク期<sup>ス</sup>ヘキモ行フベカラサル事ナリト、吾人ハ又曰ク、行フベカラサルトハ即ナチュラル・コールスニ反スル以謂ナリ、又曰ク彼ノ一致会ノ寡人政治ヲ我カ組合会ノ共和主義ト混合セント企テラル、是レ実ニナチュラル・コールスヲ知ラス考ヘサルモノ<sup>ノ</sup>企ル所ナリト断言セサルヲ得ス、宜ナリ已ニ関東ノ七教会ノ如キハ早く延期論ヲ主唱セシ事ナリ、如斯聯合、如斯我カ教会ヲシテ僅々ナル英雄ノ手裏ニ陥ラシム勿レ、吾人道ヲ信スルノ日尚淺シト雖、此ノ自由共和ノ分子ハ吾人ノ骨髓<sup>骨</sup>腦<sup>腦</sup>ニ浸潤シ、殆ト吾人ノヒサグヘカラサル安売スベカ<sup>ラ</sup>サル所<sup>ノ</sup>所有物ノ如クニ成リ来リタレハ、吾人モ日一日ニ之ヲ愛シ之ヲ味ヒ益成長発達セントスルノ時運ニ向ヒ来リシニ、不図モ吾人ノ尤モ仰慕信愛スル我日<sup>本</sup>組合会中ノ錚々タル牧師伝道師諸士

ニハ、イカナレハコソ短カニモ伝道上ノ大運動ヲ思立レ、寡人政治独裁主義ノ功ヲ自由共和政治ニマサル、モノト  
思ヒケン、規律ニ富ミ果斷ニ富マル、一致会ト結合ヲ計リ、資財ト人物トヲ流通シテ速ニ我日本ヲ一撃ノ下ニ教化セ  
ント企テラル、窃ニ察スルニ此手段タル注文タル兩教会カ聯合協同ノ必要ヲ感シタルニ非ラス、吾人教会員ハ元來  
ハ今ノ憲法ヲ戴キ合併スルカ〔如キハ〕夢ニタモ考ヘサル所ナリ、初ニ聯合ト云ワル、カラ、我カ主義ヲ屈セスシテ  
共ニ伝道ニ従事ノ出来〔ル〕事トモナルト思ヒシナレハ大ニ賛成ヲ表セシニ、今ノ憲法ノ下ニ支配ヲ蒙リテ聯合セン  
トハ少シ吾人注文外ノ事ト思ヒ、又如斯大事件ヲ三月中ニ決行スヘキニアラサル事ト思ヒテ、不本意ナカラモ先ツ  
十一月ノ大会ヲ延期セシメ、寛々熟考ノ時日ヲ与ヘラレ〔ヨ〕ト委員ニモ請求シタル訳ナリ

〔マ〕

今ノ聯合ハ教会ノ必要ヲ痛ク感シテ起リタル注文ニヲラレテ、牧師伝道者ノ速ニ伝道セントノ策略ヨリ出シ事ハ打チ  
ケスベカ〔ラ〕サル事実ナリ、此ノ御注文ノ為ニ吾人ノ平素固執ル所ノ共和平等主義ヲ迄モ差上ケテモ此ノ御注文ニ  
応セネハナラヌモノカハ、吾人ノ大ニ暴省スヘキ一大事件ナリ、吾人ノ自由教会モ尚幼稚ナリ、主義ハ未タ生セサル  
ナリ、然リ而シテ此ノ主義ヲシテ早ク寡人政治ノ下ニ低頭服從セ〔シ〕メハ、其ノ芽ヲツマミ其ノ發育ヲ止ムル、ハ  
勢ノ然ラシムル所、吾人兄弟ハ自由組織ヲ愛スルモノト信ス

我党ノ君子ヨ、卿等ハ今日伝道上ノ便宜ヨリ例ノ錚々ノ先導者ノ誘導ニ籠絡セラレ、永ク此ノ自由ヲ売却スルノ覺悟  
ヲ為タル上ニ此ノ聯合ヲ賛成シ賜フヤ、將タ将来ノ結果如何ヲ考ヘスシテ只先輩方ノ御勸メニ唯々諾々承応シ、彼等  
ハ吾人ノ仰慕敬愛スル先覺者ナレハ、何ンデモ宜シ御頼ミ申スト被申テ此大事ノ局ヲ結ハシメントセラル、ヤ、此ノ  
事件コソ吾人一箇一身上ニ直接ノ大關係ヲ生シ、我カ組合会ノ安危如何ニ関シ吾カ共和主義ヲ末久ク永続保存シ得ヤ  
否ノ問題ニ関スル事件ナレハ、敢テ一言ヲ吐キ我カ同感ノ諸兄ニ質ス

〔以下追筆〕

自由ノ依テ来ル所ヲ論スレハ一旦一夕ニアラス、英ノ〔ビ〕ユーリタン教徒カ英政府ノ压制ノ下ニ苦ミ、ビルグレム祖先カ米國海岸ニ雪風膚ニサスノ困難中ニ養成培養シ来リ *New England* ノソイルニ發達シテ北米大陸ヲ横行シ、太平〔洋〕海岸ヨリ波及シテ日本ニ伝来セシハ、イサ、カ自由共和ハ天賦ニシテ吾人ノ愛慕スヘキヲ□ヒ、之ヲ吾人ノ精心ヲ鼓舞セント欲スル吾人ニトリ、基督ノ福音ニ添ヘテ欣受甘奉シ偏ニ上帝ノ好意ニ謝スル所

牧師ニハ別ニ不都合ハアルマジ

部会聯合總會ノ如キ自己ノ外ニ教會ヲ支配スルモノカ出来タル上ハ、治具ノ出来タル事ニテ却テ之ヲ賛成スルハ知レサルナリ

牧師カ申合セテ教會員ニ薰陶ヲ与ヘサルニ似タリ、然ラサレハ迂遠ニテ其手順ヲ尽ササルナリ

〔以下墨補〕

ナニヲ為サル、カ分カラ〔ス〕、来月〔ママ〕ノ春大坂〔カ〕而議決セシニヨレハ、此十一月ノ會議ハ聯合決議ヨリ定メラル、而シテ此十月中委員中ヨリ関東ノ諸教會ニ大坂ニ趣キ決議会ニ出席セヨ

聯合ノ相談会ト申来リシニ延期説出シヨリ、組合事務員ヨリ臨時相談会ト申シテ出口トハ何ソ、変更ノ常ナラサル之ニ応シ難シ

## 126 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（十四）〕

〔本文鉛筆〕

論者ハ組合会ノ宣教師ハ一二ヲ除クノ外ハ尽ク此聯合ヲ賛成スト云ハル、トモ、熱心此聯合ヲ賛成セラル、モノハ多分一二ニ止マリ、余ハ我カ教会ヨリ合併ノ注文ヲ為ス所ヨリシテ、苟モ将来一致組合両会ノ間ニ平和サヘ行ワルレハ、<sup>〔補〕</sup>我カ教会カ銕意之ヲ決行スルナラハ、我カ輩ハ之ヲ止ムルヲ好マスト、吾人ハセクトノ教師ニアラス、寧ろ福音ノ伝道者ナリト云レテ」別ニ反対ヲ試ミサルニ止マルト云トモ可ナルベシ、吾人今ヨシト云ニアリテ、一步進ンテ論者ニ問ハン、論者ハ喋々宣教師ノ賛成同意ヲ表セシヲ以テ此ノ論鋒ヲ強メラル、モ、論者ハ又巨万ノ金ヲ送り多数ノ此宣教師ヲ遣ハシ、我カ日本ニ此共和主義ノ教会ヲ創立スルニ尽力サレタルアメリカン・ボールドノ内意如何ハ承知致サレタルヤ、該ボールドハ一二ノ聯合ニ熱心ナル宣教師ノ之ヲ賛成誘導セラル、如クニ之ヲ賛成セシヤ、吾人ノ察スル所ニヨレハボールドハ今ノ憲法ヲ以テ我カ組合会ノ一致会ト聯合スルハ余リ快シトセザルベシ、又該局ニ年費ヲ寄送スル米國北部ノコングリゲーション教会ハ、必ラス此聯合ヲ見テ甚快クハ賛成セサルベシ、寄送セサルニ至ルモ亦計リ難カラシ、若シ該局ヨリ不得止日本ノ伝道ヲ引揚クルト仮想セハ、論者ノ御注文通りニ資金モ人物モ流通スル云々ノ論点ハ恐クハ其ノ功ヲ奏セサルベシ、論者ハ該局ヨリ今ノ憲法ヲ以テ組合会カ一致会ト合シタル上モ、依然旧ニヨリ日本伝道ノ為ニ資金モ人物モ送ルベシトノ確定シタル約束ヲ申受ケテ如斯ク論セラル、ヤ、將タ必ラス該局ハ其扶助ヲ差止メサルヘシトノ予想ヲ以テ論セラル、ヤ、吾人ノ論者ニ向ヒ確答ヲ要スル所ナリ

是等ノ所ハ聯合ニ関シ一綱領トハ見做スモノニアラサレ「下」モ、吾人カ此等ノ事ニモ着目セス只盲滅法界ニ聯合ヲ賛成ストハ考ヘサルノ甚シキモノナリ、論者ハ必ラス云ハン、プレシベテリヤン伝道局モプレシベテリヤン教会モ今回ノ聯合ハ大ニ賛成スベシト、宜ナリ彼等ノ之ヲ賛成セル、今ノ憲法取モ直サスプレシベテリヤン教会ノ体裁ヲ模採シタルモノナレハナリ、吾人ハ憲法中ノ部会聯合總會ノ如キ教会ノ外ニ立テラレタル政府ノ如キモノヲ戴カサルナリ、吾人ハ兄弟ノ爭論ヲ裁カン為ニ訴詔門ヲ設ケ置カサルモノナリ

如何トナレハ該局ハ當時殆トコングリゲーシヨン派ノ機關トナリタルニシテ、之ヲ維持扶助スルモノハコングリゲーシヨン教会ナリ、又該教会ハ米國共和ノ基原ト称セラル、モノニシテ、熱心固取スル所ハ寡人政治ニ非ラスシテ共和主義ナリ

苟モ此ノ主義ヲ以テ金城鉄壁トモ為サル、教会カ、吾人ノ組合会カ其ノ同主義ヲ捨テ、寡人政治ノ傾向ヲ持チタル憲法政治ノ下ニ一致会ト聯合セントスルヲ見レハ、彼必ラス我カ教会ハ日本國ニ我カ主義ヲ伝播スルヲ主トセス、只福音ノ教道ヲ伝ント欲スレハ何ニヲ為スモ日本教会ノ勝手タルモ、吾人ハ是ヨリ日本ニ於テ他教会ト其主義ヲ爭ハス、日本ノ伝道ハ他人ノ手ニ任ネ、日本ヲ引弘ヒテ其ノ資金モ人物モ未タ福音ノ恩沢ヲ蒙ラサル支那ノ内地、亞弗利「加」ノ内部ニ向ヒ其ノ鋒ヲ転スヘシト過日サンフランシスコ発兌——新聞ニ見ヘ、又スプリングフィールド・リボボリカン新聞ニモ同「記」事ヲ記載シタレハ、此ノ論旨カ早晩米國北部ノ輿論トナリ、教会ヨリハアメリカン局ニ年費モ

〔続きの料紙欠〕

今ノ憲法ノ大綱領ヲ見ラレヨ、皆悉ク一致会ノ組織ヨリ成立セシト云ハサルヲ得ス、論者ハ一致会ヨリハセツシヨン又中会ニ主權ノ存スル所ヲ變更シテ、主權ハ教会ニ属スルモノ「ト」為セリト、然ルモ教会ヨリ種々ノ政柄ヲ部会ニ

托スル以上ハ、主權ハ教会ニ属〔ス〕ト明言スルモ、其ノ実主權ハ矢張中会ニ存スト云ト〔モ〕誣言ナラサルベシ、此レハ只名義ノミノ犠牲ナリ、名義ノミナレハ格別ノ犠牲トモ称スベカラス、吾人ハ此レニ易フルニ我カ自由ヲ屈ケテ憲法ノ下ニ服従スルヲ以テセハ、是ノ犠牲トスル所殊ニ甚シカラスヤ、取りモ直サス共和平等主義ヲシテ寡人政治ノ軍門ニ降伏セシムルナリ、今時ハ我カ会中ニモ論者ノ如キ精神家アリ、我カ精神ヲ以テ彼等ヲ化スヘシトノ覚悟ハアレトモ、論者ハ千万年ノ後ニモ我カ組合会ハ憲法ノ下否鉄檻中ニ入テ、飛揚疾走スヘキ自由ヲ存スヘシト迄保証シ賜フヤ、論者モ吾人モ早晚死去スヘシ、憲法ハ永遠存在スヘシ、生命ヲ保ツベシ、我カ自由ノ憲法ニ檢束セラルハ決シテ遠キニアラサルベシ

127 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（十五）〕

〔本文朱〕

一 今ノ憲法ノ儘ヲ以、両会聯合ヲ為サントナレハ小生ハ不同意

一 両会聯合ニ関シ尤吾人ノ注意ヲ要スヘキ所ハ、両会ノ主義如何ヲ分析スルニアリ

一 一会ノ体裁ヲ論スレハ貴族の即中央集權政治（米國ノ大家デクトルノ説ニヨル）ト称スヘク、又我カ組〔合〕会ノ体裁組織ヲ論スレハ共和的即地方分權主義ト云ハサルベカラス

扱此中央集權主義ハ治者ニトリテ甚便利ナルモノニシテ、教会ノ運動ハ自然僅々寡人ノ手ニ落チサルヲ不得モノナレ  
〔ド〕モ、会衆ニ取リテハ勢ヒ任地主義ニ陥イルノ傾向ナキ能ハス、其レニ反シテ地方分權政治ハ吾人ノ教会ノ如ク  
一個ノ教会カ乃チ純然タル一政府ニシテ、教会政治ハ他ノ姉妹教会ト多少ノ關係ハ有スルモノナレトモ不羈獨立ノ一  
政府ナリ、而シテ其内部ノ政裁ハ所謂ユル自由自治共和平等主義ヲ取ルモノニシテ、其ノ政治ハ会衆ノ手ニ帰シタル  
モノナレハ、僅々牧師執事等ノ克ク自在自由ニ之ヲ左右スヘキモノニアラサレハ、治者ノ点ヨリ監察スレハ嚴格ナル  
規律モナクシテ実〔ニ〕治メ難キ甚困難ナル教会ト思ハルヘキモ、<sup>〔ママ〕</sup> 教衆ニトリテ尤衆人ノ望ミニ応スルモノニシテ、  
人情ニ適シタル自然法ノ採用シタル政治トハ云サルベカラス

故ニ兩教会ノ体裁ヲ分析セハ、一ハ貴治的中央集權政〔治〕ニ<sup>〔族〕</sup>（或ハ日本ノ兄弟ハ<sup>〔補〕</sup>「教会ハ」代議政体ニシテ共和ノ  
米國ノ政体ニ則トルモノト云ハンナレ〔ド〕モ）他ハ平民的乃地方分權政治ト明言セサルヲ得ズ

然レハ兩会ノ主義ハ全ク隔離区分シタルハ明々白々ナレハ、此レヨリ問ダイハ如何セハ此兩主義ヲ調和合併シ得ベキ  
ヤ、之ヲ合併セント計ラル、モノハ乃チ今ノ憲法是レナリ、小生憊々今ノ憲法ヲ再三熟読スルニ、此ノ憲法ハ乃學術  
智識ニ富ミ經濟ニ富ミタ〔ル〕内外教師ノ御手ニ依テ成リタルモノナレハ、容易ニ吾人ノ喙ヲ容ルヘキモノニアラサ  
ルモノトハ存スレトモ、此ノ憲法ヲ以テ合併セント計ルハ、恰モ水ト油ヲ混合セント計〔ル〕ノ手段ナリト云フヨリ  
外他ニ評スヘキ途ヲ見サルナリ

去トモ心無キ物質ナレハ水ハ油ト之ヲ調和スルノ難キハ三尺ノ童子モ克々知リタル理合ナレトモ、兩主義ノ隔異セシ  
ヲ取ラル、此心アル人間ヲシテ早晚一憲法ノ下ニ合併スヘキハ<sup>〔補〕</sup>「セシメントスルハ」或ハ企圖シ得ヘキモノカハ知ラ  
サレトモ、一憲法ノ下ニ兩主義ノ兩立スル間ハ鹿ノ何人ノ手ニ落ツルモ知ラス、到底軋轢矛盾ヲ免レサルハ小生ノ尤

憂フル所ナリ、元ヨリ理論<sup>〔補〕</sup>「屈」上ヨリ論スレハ決シテ有ルベキ筈ニアラサレトモ、双方ヨリ他ヲ取込マント計ルヘキハ小生ノ今日ヨリ尤モ杞憂<sup>〔スル〕</sup>所ニシテ、又人情ヨリ論スルトキハ吾人ハアナガチ聖人君子ニモアラネハ、必ラス甲ヲ「脱ギ」他主義ノ軍門ニ服スルハ各ノ甘セサル所ナリト仮想スレハ、到底不愉快ナル軋轢矛盾ヲ生スヘキハ鏡ニカケテ見ルヘキ事ナリト云ハサルヲ得ス

譬ヘハ一伝道会社ヲ設ケンニ其会社中冥々裏此ノ軋轢ヲ生シ、其ノ伝道先ニ於テ暗々裏ニ其ノ競争ヲ来ラシムルトキハ其困難ハ如何ソヤ、吾人中合同協力ヲ以テ大運動ヲ為サン、為サントノ計画ハ尤好マシク見ユレトモ、此合併中早ク已ニ競争ヲ醸シ来レハ、却テ其ノ進歩ヲ妨クルノ憂ハ生セサルヤ、大運動<sup>〔マ〕</sup>ヲ計テ、□此合併ノ目的ハ軋轢競争ヲ搏滅セ「シ」メンカ為ナレ「ド」モ、其ノ目的ヲ達シ得スシテ却テ両会両立ノ際ヨリモ甚タ悪ク、恐ルヘキ内部一家内ノ軋轢競争、夫婦喧嘩ノ如キモノヲ起シ来ルモ計ラレス

両会ノ人物資本等モ流通運用シテ大運動ヲ試ミントノ大運動大計画モ、遂ニハ四分五裂ノ惡結果ヲ呈出シ、未タ我カ宗教上敵人「ノ」版図カ未タ吾人ノ手ニ入ラサル内ニ、早ク已ニ鹿ヲ中原ニ争フノ弊ヲ生シテ大運動ノ計画ヲ誤リテ、其ノ大進歩ヲ緩漫ナラシムルノ憂ヲ生セサルナキヤ

評者或ハ曰ハン、論者ハ偏派的ノ固定者ニシテ時事ヲ洞察セス、今ノ時勢ヲ看破セス、光明ノ表面ニ着目スルヲ知ラス、小心翼翼々黒暗ノ裏面ニミニ注目シタレハ、大事ノミヲ取リテ吾人ノ企ツルカ如キ大運動ノ経綸ヲ知ラサルモノナリト、論者答テ曰ク、或ハ然ラン、去レトモ評者ノ御言ハ表面上ニハ尤モニ見ユレトモ、評者ノ大計画ハ只々大計画ニ止マリテ、大計画ノ目的ヲ達セシムルノ方法手段ニハ其思慮ヲ廻ラサレサルカ如シ、評者ノ如ク大運動ヲ企テナカラ伝道会社中ニ早ク軋轢ヲ生「シ」、伝道先ニモ随テ鹿ヲ争フノ憂ヲ生セハ、多年ノ大計画モ忽チ画餅ト化シ、必死

ノ大運動モ俄カニ昼寝ノ一夢ノ如キモノトハナラサルヤ

128 〔一致・組合兩教会合併問題に関する稿（十六）〕

〔教會員ノ為ニ冤ヲ訴フルノ意ヲ含ムヘキハ必要ナリ

一——ハ教会當テニテ違スヘキ事

一其ノ要ヲトリ新聞ニ掲グル事

一委員ヨリ速ニ返事ナクハ催促スルニ如カス

一採用ナラストテ返却スルニ至ラハ、再ヒ関東教会相談之上。委員ノ不条理ヲ鳴ラシ其ノ採用ヲ促カシ、且尚聞アゲサルトキハ委員ノ役目ヲ尽サズト見ナシ、関東ノ諸教会ハ一致相談ノ事ヲ今ノ委員ニ托セス、且此ノ上ハ最早関東諸教会ノ委員トハ見ナササル旨ヲ公言シテ可ナルベシ

一関西諸教会カ委員ヲ賛成シ延期ニモ及ハサルトキハ、又関東諸教会ヨリ関西諸教会ノ充分準備ノ整ハス、又一切牧師ノ意見任セニシテ各員ハ其ノ本分ヲ尽サ〔ザ〕ルヲ責セ、又牧師ニモ教会ノ政柄ヲ己レノ手ノミニ取ラス、総テ教會員ヲ丁寧ニ薰陶スヘキ旨ヲ陳シ、紙上ニ登録スルモ苦シカラス

一関東諸教會員牧師等ノ輿論ヲ取纏め、関東諸教会ノ意見トシテ一片ノ小冊子ヲ作り関西ニ送ルモ可ナラン

一初メニハ何事ヲオキテモ先ツ延期ノ論ヲ主張スベシ

一組合会ノ組織ト其主義トヲ明カ〔ニ〕スベシ

一一致ノ利害得失如何ヲ闡論スベシ

一一致ノ出来タル上如何ニ伝道会社ヲ組織シ、又伝道先キノ教会ハ何レノ教会ノ内政ヲトラシムルヤ、若シ地方々々ノ教会ノ撰ミニ任スルトセハ、撰ハシムル迄ニハ何レノ内政ヲトルカノ蕪陶ナカルベカラス、去レハ一致シタル上モ両会ノ争ハ止ムベカラス、却テ双方ノ不和ヲ生セシムル一手段ナラン事ハ疑ヲ容レサルナリ

去レトモ我カ組合会ガ初メヨリ甲ヲ脱シ平和ヲ求メ、彼是云ハサレハ一致ハ全フシ得ベシ

○一致会ノ連中ハ決シテ我カ組合会ニ甲ヲ脱カザルハ、予今日ヨリ断言スベシ

一苟モ彼ト我ト混シテ一部会ヲ作りタル上ニ、其ノ一分ハ上告ヲ主張セス、他ノ一分ハ上告ヲ主張スルカ如キ一致ハ奇怪千万ノ一致ト云ヘキナリ

一関西ノ諸教会過半ハ今ノ組織デスラ已ニ貴族の教会ノ形ヲナシタレハ、他日憲法ヲ以テ之ヲ助ケタランニハ、将来主<sup>〔守〕</sup>旧の貴族の寡人政府的ノ教会ヲ作り出サン事ハ龜〔ト〕ヲ待ツニ及ハス

129 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（十七）〕

①

上毛諸教会ニ延期ノ為ノ委員ヲ撰ミ、延期ヲ決行セシムル為ニハ専任ノ権ヲ与フル事

〔各会ニ二、三名牧師ハ此ノ相談ニ加ハル

②

委員ヨリ出タル来〔十二〕月二十三日大坂集會<sup>\*</sup>ノ布達ハ、関東延期説ノ諸教会ヨリ之ヲ委員ノ許ニ返却シ、先日出シタル延期請求書ノ返答ヲ促カス事

③

延期ニ応セサルトキハ委員ノ所置<sup>。</sup>不<sup>。</sup>理<sup>。</sup>ト認め、関東諸教会ヨリ委員ノ許ヘ書ヲ送り、各会ヨリ、委員ヲ此上ハ委員ト認メスト断言ニ及フ事

④ 注意

此上ハ委員カ関東ノ諸会ニ行キ延期説ヲ止メテ、来十一月迄ニ一応出ロト勸ムベシ<sup>デ</sup>

其ノトキハ未タ教会ノ用意ノ出来ス、随テ全会ノ意見ヲ作り得ス、随テ意見ヲ代表シテ代人ヲ差出シ得ズト云テ、

決テ其ノ勸メニ応セザル事

五

六  
○関東諸会カ大会ノ先キニ動カサル輿論ヲ作り「連印ヲ要ス」金城鉄壁ト為ス事

○大会（組合会丈ケノ）必ラス一致会トハ別々ニシ、乃チ場所ト時日ヲ異ニスル事

大会ノ代議士ハ專擅ノ權ヲ持ツベカラス

大会決議ノ事ハ一ト先各会ニ復命シ、而シテ各会ノ可否スル所ヲ四月ノ末迄ニ通信委員ニ送り、通信委員ハ各会ノ可否スル所ヲ集メテ聯合委員ノ許ニ差出ス事

〔大会ハ遅クトモ来年ノ三月中旬神戸ニ開ラク事〕

○ノ個条ニ付 上毛ニ手紙ヲヤリ、東京デハ委員ヨリ大坂大会ノ布達ヲ委員ノ許ニ返却シ、先日関東諸教会連署ノ上出シタル延期請求書ノ返答ヲ促ス事ニ決シタレハ、上毛諸教会ニ之ニ御同意アラハ延期請求書ノ返答ヲ促カス事ハ東京ノ二教会ニ御托し有之候、但シ御委托ノ趣ハ直ニ御申通シ被下度候  
東京之ニ教会カ、東京上毛組合会ノ総代トシテ布達ヲ返却シ、延期請求書ノ返答ヲ促ス

130 〔一致・組合両教会合併問題に関する稿（十八）〕

不敏〔唯次郎〕氏へ

先日杉山〔重義〕氏前橋婦人矯風会ニ趣クトキ精々申含メ、集会ノ後ニ直ニ不敏兄ト共ニ高崎ニ来リ遊説ノ事ヲ引受  
ラレシニ、何故高崎ニ遊説ナサレサリシヤ、少シク用意ヲ怠リシヲ糺スベシ

聯合委員ノ大奮発

各手分シテ伊セ氏ハ番町ニ、小崎ハ榎坂牧師古荘〔三郎〕ニ、湯浅〔治郎〕ハ上毛ニ行キ降伏セシムルノ相談ノヨシナ  
レハ、上毛ニハ充分ノ御用意アレト

不敏ト杉山ハ此土曜日ノ夕ニモ高崎ニ参ラレ、錚々タルモノノ憲法懇談会ヲ開キ、充分延期ノ理由ヲ説キス、ムル様  
致シタシ

日曜日ニハ多分湯浅も高崎ニ見ユベケレハ、午前ノ集リニ兩人ニテ憲法ノ講究ヲナシ、組合ノ自由ト齟齬セル廉々ヲ  
トキ、如斯重要ナル事件ヲ僅三四ヶ月ノ時日ヲ与ヘ両会ヲ聯合セシムルハ不条理ナルヲトキ、先延期ニ同意セシムベ  
シ

午後ノ集ニモ組合同ノ組織性質等ヲ明カニ示スハ大切ナリト存候、可相成ハ午前ノ集ニ全会ノ同意ヲ得テ調印セシム  
ベシ

△注意

杉山氏ハ原市ヲ発スル前ニハ一応会中ノ重モナルモノヲ集メ延期ノ理由ヲ明カ〔ニ〕シ、又一致会ト組合会ノ合一ニナリ得サルノ理由ヲ知ラシムル必要アリ

杉山氏ハ途中安中ニ立ヨリ、杉田〔潮〕氏ニ湯浅〔ガ〕上毛ニ来ルノ事ヲ知ラシメ、予メ用意シ、土曜ノ夕位ニハ重モナルモノヲ集メ彼ノ志ヲ固ムル事ヲ計ルコソ必要ナリ

不破、杉山両氏ハ日曜ハ高崎ニテ送り、出来ヘクハ説教会ヲナシ、高崎〔ノ〕人々ヲ馳走スルモ妙ナルベシ

131 〔日本基督教会憲法並細則附録（明治二十一年五月）〕

〔1〕 本資料は二段組とし、上段には『日本基督教会憲法並細則附録』の原文を、下段にはそれに施された新島の訂正・補筆（すべて朱筆）を掲げた。但し原文のルビは省略した。

2 上段原文中の「へ」は、新島が訂正を加えた箇所を示し、あわせて「」内に通し番号をつけ、下段の訂正文言と照合できるようにした。

3 上段原文に加えられた新島の補筆は、その箇所に「」を入れて表わし、「」内には訂正の場合と同じ通し番号をあてた。

4 上段と下段の関係は次のようなものである。

(a) 〈権限〉<sup>〔1〕</sup>（上段）

〔1〕 へ ↓ 義務（下段）

原文中の「権限」を新島が「義務」と訂正したことを表わす。

(b) のみ〔8〕日本基督教会（上段）

〔8〕〔補〕↓ナレハ……要ス（下段）

原文の「のみ」と「日本基督教会」の間に、新島が「ナレハ……要ス」の補筆を加えたことを表わす。

(c) 〈請求すべし〉<sup>〔41〕</sup>（上段）

〔41〕 へ ↓ 抹消（下段）

原文中の「請求すべし」を新島が抹消したことを表わす。

第一章 教会

第二章 教理

第三章 礼拝

第四章 政治

第五章 諸教会

第六章 部会

第一条 議員

第二条 <sup>[1]</sup>〈権限〉

第三条 試補者の允可

第四条 監督の按手礼

第五条 監督の退職

第六条 牧師の就職

第七条 牧師の解職

第八条 教会の建設

第九条 教会の加入

[2]

第七章 聯会

第一条 議員

第二条 <sup>[3]</sup>〈権限〉

[1] 〓 ↓義務

[2] [補] ↓第十 義務

[3] 〓 ↓義務

第八章 総会

第一条 議員

第二条 <sup>[4]</sup>〈権限〉

第九章 戒規

第十章 上告

第十一章 憲法の改正

細則

第一章 部会概則

第二章 教会建設の手続

第三章 聯会概則

第四章 総会概則

第五章 審問

第一条 諸教会審問

第二条 部会審問

第一節 審問の順序

第二節 審問概則

第三条 上告審判會議審問

第一節 審問の順序

第二節 審問概則

[4] 〈 〉 へ へ ↓ 義務

第四條 再審問

第六章 細則の改正

附 録

第一章 諸教會内治の組織

甲号

乙号

第二章 按手礼式

第三章 牧師撰挙の手続

第四章 牧師の就職式

第五 〔章〕 牧師解職の手続

第六章 附録の改正

目次畢

憲 法

第一章 教會

一神は万国民の中より大衆を集め、之によりて今より後の世々、その恩恵と智慧の勝れて豊かなることを顯はし給はんとす、是れ即ち活る神の教會、キリストの身、聖靈の殿、万の

物を以て万の物に満たしむる者の満る所なり、此の数へ難き大衆は国々世々の聖徒等より成立つものなれば、之を名けて聖なる公同教会といふ、又此の教会に属するものを定かに識るものは、只だ人の心を知り給ふ神のみなれば、目に見えざる教会とも称するなり

二目に見ゆる公同教会は父と子と聖霊、即ち永遠に頌むべき独一の神を礼拝し、之に事ふることを言ひ著す、全世界の民より成立つものなり

三一個の教会は目に見ゆる公同教会に属する人々の、神を拝し、潔き生活を為し、キリストの国を拡めんがために、或政体の下に結合したるものなり

## 第二章 教理

旧新両約聖書に記されたる神の言は、信仰および行狀に係る無二の誤りなき法則なり、是故に教会は、往時より屢々、聖書に示されたる要理を陳述したることあり

此の如く古への世より伝はりたるものゝ中には使徒信条およびニカヤ信条あり、日本基督教会は此の二個の信条と福音同盟会の條款とを以て信仰簡条となす

我は天地の創造者、全能の父なる神を信ず

我は其の独子我等の主イエスキリストを信ず、即ち聖靈により胎れ、処女マリヤより生れ、ポンテオピラトの下に苦みを受け、十字架に付られ、死して、葬られたり、又陰府に降り、第三日に死者の中より復活り、天に昇りて、全能の父なる神の右に坐し、彼所より来たりて生けるものと死ぬる者とを審判き給はん

我は聖靈を信ず、聖なる公同教会、聖徒の交通、罪の赦、肉体の復活、永遠の生命を信ず アーメン

ヘニカヤ信条

我は全能の父なる独一の神、天と地及び見ゆるも見へざるも有らゆる物を造り給へるものを信ず

我は独りの主イエスキリスト、神の生みたまへる独子を信ず、即ち凡ての世界より先きに父より生れ、神より出し神、光より出し光、真の神より出し真の神、父と一体にして、造られたるに非ず生れたるものなり、万物は之に由りて造られたり、我等人類の爲め我等の救ひのために天より降り、聖靈に由り、処女マリヤに托して、肉体を取り、人と爲りて、我等の爲めにポンテオピラトの下に十字架に付けられ、苦みを受け、葬られ、第

我は生命の主、生命をあたへたまふ者なる聖靈を信ず、即ち父と子より出て、父と子と共に礼拝せられ、崇められ、曾て預言者に由て人に語りたまへるものなり、我は一の聖なる公同使徒の教会を信ず、我は罪の赦のために一のバプテスマを認む、我は死者の復活及び来らんとする世の生命を待ち望むなり、アーメン〔5〕

我等は左の條款を遵奉し且之を維持す

義務なり

四始祖の墮落に由り、  
人性は尽く敗壞せり

し、且万物を統御したまふ

[5]  $\wedge \vee \downarrow$  [抹消] 「宜シク削去スベシ」

七其心を改め、聖潔にするは聖霊の働なり

ハ靈魂は不死、肉体は復活るべく、我等の主イエスキリストは世を審判きて、義者に永福を与へ、惡者に永刑を与へたまふ九宣教の職は神の制度にして、バプテスマと主の晩餐の礼典は、我等の守るべきもの、又永く保存すべきものなり

稍近き世に至り、我等に伝はりたる信仰箇条の中にはウエス  
ミニステル問答、ハイデルベルグ問答、ブレマス告文あり、此  
等も日本基督教会の貴重する所、皆曾て高尚なる目的を成就し  
たるものなり、今日においても信徒を教へ導きその徳を建しむ  
るにおいて大に価値あるものなり（追加を見よ）

[6]

### 第三章 礼拝

一主の日には、教会の人皆共に集りて、全能の神我等の父を拝すべし

二礼拝の式は祈禱、讃美、聖言の朗読、説教及び聖礼典の執行等なり

三新約の聖礼典はバプテスマと主の晩餐となり、此等は「監督」の執行すべきものとす、幼き時バプテスマを受けたる人は、試験を経、キリストを信ずるの信を言ひ著はしたる後に

[6]

〔補〕 ↓ 以上信仰ノ個条ハ日本聯合教会大略協  
同シテ遵奉スヘキモノナルモ決シテ一個教会  
ノ信仰個条ト認ムベカラス

[7]

へ  
↓  
按手礼ヲ受ケタルモノ

非れば、主の筈に列なるべからず

#### 第四章 政治

使徒教会の職員は使徒（路加六の十三）監督即ち長老（前提三の一より七、同五の十七、提多一の五より九、行伝二十の十七より二十八）及び執事なり（行伝六の一より六、前提三の八より十三）

左れど新約聖書は教会を治る駄載に付ては特に命令指定する所なし、只大体の事実を示し、その原則を推知せしむるのみ〔8〕日本〔9〕教会は〔諸教会〕〔10〕、部会、聯会、総会〔11〕に由て政治を行ふは、此等の原則に適へるものなりと思惟す

#### 第五章 諸教会

次の数章に於て諸教会は、或る事項を行ふの〔権〕〔12〕を部会、聯会、総会に委托せり〔13〕へ此に委托せざる権は教会各自の保有するものとす、教会は各自の適宜と認むる所に循つて、其内治の組織を立てることを得（各教会に推薦せられたる内治の駄載は載せて附録第一章にあり）

左れど〔何れの場合に於ても〕〔14〕、部会、聯会に代員を出すの預備を為すべし、又年報を部会に差出すべし

#### 第六章 部会

〔8〕〔補〕↓ナレハ一個ノ教会独立自治ノ体面ヲ存

シ而シテクリストノ王国ヲ拡メンガ為協同シ得ヘキ事項ニ於テ數個教会ノ連合一致シテ其ノ事項ヲ共ニセン事ヲ要ス

〔9〕へへ↓聯合

〔10〕へへ↓〔抹消〕

〔11〕へへ↓ト称スヘキ諸教会派出ノ代議委員ノ勸告ヲ以テ

〔12〕へへ↓義務

〔13〕へへ↓而シテ此三会ナルモノハ教会ノ公判所又ハ教会ノ上ニ権柄ヲ有スヘキモノニアラス全ク諸教会協同ノ事項ヲ履行セン為ノ代理委員ノ議會タルヘキモノナリ

〔14〕へへ↓日本聯合教会ニ連合セン為ニ各教会ハ宜シク

第一條 議員

一部會は其部内にある各教會の代員〔<sup>15</sup>〕名及び凡の〔<sup>16</sup>〕監督より成立つ

二部會は他の教會に属する〔<sup>17</sup>〕監督をして入會せしむることを得、然れども入會せんと欲する監督は先づ〔<sup>18</sup>〕日本〔<sup>19</sup>〕基督教會の憲法に同意するを要す、又成るべくは転會書を差出すべし

三牧師に非ざる〔<sup>20</sup>〕監督は試補者の許可、按手礼、戒規に限り投票するの權あり

四日本基督教會と協力する諸伝道會社に属する外国宣教師は其職柄により部會の員外議員となることを得、又發論動議の權を有し、且正議員の如く、凡ての委員に撰挙せらるゝことを得

第二條 〔<sup>21</sup>〕權限

部會に委托せられたる〔<sup>22</sup>〕左の如し

試補者を許可する事〔<sup>23</sup>〕監督の按手就職退職及び戒規を司る事、教會を新設し並に〔<sup>23</sup>〕加入せしむる事、其部内にある教會に幫助を与ふる事、總會に代員を出す事、教會の上告を判決する事、〔但聯合会上告審判委員に其事を托せられたる時は此限

〔15〕 へ へ ↓ 二

〔16〕 へ ↓ 按手〔礼〕ヲ受タルモノ

〔17〕 〔20〕 へ ↓ 按手礼ヲ受タルモノ

〔18〕 〔補〕 ↓ 其ノ部會内ノ或ル教會ノ會員トナリ又

〔19〕 へ ↓ 聯合

〔21〕 へ ↓ 義務

〔22〕 へ ↓ 義務ハ

〔23〕 へ ↓ 教會ノ請求ニ応シテ牧師及伝道師の按

手式ヲ助クベシ、就職退職及び戒規ニ関ハリ  
教會ニ勧告スヘク、教會を新設スルヲ助ケ並  
に日本聯合教會ニ

に非ず(部会概則は細則第一章にあり)<sup>(24)</sup>

### 第三条 試補者の允可

一 宣教の職は不学不適任の人に委任すべからず、是の故に部会  
は適宜の試験を経ずして、福音を宜べ伝ふる事を允可すべ  
からず

二 部会は志願者の品行および其の教会との關係に付き、十分な  
る証明を得たる上にて、本人の奉教上の履歴と、その福音を  
宣んと欲するに至れる次第を細かに質問すべし、而して旧新  
両約聖書と日本<sup>(25)</sup>へ基督<sup>(25)</sup>教会の<sup>(26)</sup>信仰箇条<sup>(26)</sup>に付き試験すべ  
し、又説教を為しむることあるべし

三 志願者其試験に及第したる時は、旧新両約聖書は神の聖言に  
して、信仰と行状に係る無二の誤りなき法則なりと信じ、日  
本<sup>(27)</sup>へ基督<sup>(27)</sup>教会の憲法を誠実に受容れ、試補者たるの務を忠  
実に為さんと欲するの志ある旨を公然部会の前に明言すべし  
四 祈禱を以て之を允可し、議長並に書記の署名せる允可状を附  
与すべし

五 部会は試補者其の任に堪へずと認むる時は、允可を取消すこ  
とを得

[24]     $\wedge \searrow \downarrow$  [抹消]

[25]     $\wedge \searrow \downarrow$  聯合

[26]     $\wedge \searrow \downarrow$  憲法上

[27]     $\wedge \searrow \downarrow$  聯合

[28]

「一監督の職を」願ふ者は新たに教に入し者たるべからず、先づ之を試むべし、輕しく人に按手するなかれと、是れ使徒の教訓なり、故に「監督」志願者は通常は試補者となりてより一年を経て後に試験を受くべし、又部会のはと認むる神学校の卒業生たるか、又は之に匹敵する資格あるを要す

「二監督」は謹むべき所なく、言と行と愛と信と潔きとに於て信徒の模範となるべきものなれば、本人の奉教上の履歴及び其の「監督の職」を願ふに至れる理由に付きて詳密なる質問を為すべし

「三」又聖書は監督たる者の能く教訓を為すに足り、正しき教を以て人を勧め、駁論者を折くの力を有し、眞の言を正しく頌ち教へて、耻る所なき工人たるべきを要するなり、故に監督志願者は旧新両約聖書、諸科の神学、教会歴史並に日本「基督」教会の歴史、教会政治、殊に此の教会の憲法に表はるゝ所の教「会」政治、並に其の他、部会の宜しきと認むる學術に付き、十分なる試験を受くべし、又聖書の或本文に付てその意義を精密に弁明すべし、之を英文又は其の他の歐文を以て書すも可なり、此の外に説教を為さしむることあるべ

[28]

「補」↓一按手礼式 試補者タラント欲スルモノハ其ノ所属ノ教会ニヨリ宜シク部会ニ請求シ其ノ試験ヲ助シムヘシ

[29]

「二」↓二按手礼式ヲ

[30]

「三」↓三受按者

[31]

「四」↓四

[32]

「五」↓五

[33]

「六」↓六

[34]

「七」↓七

し、その説教の題詞及び弁明すべき本文は議長之を附与す部  
会は試験を数回に分つことを得、他部会の書記より已に試験  
を受たりと保証する科目は全く省くことを得べし

〔35〕(四) 志願者その試験に及第したる時は旧新両約聖書は神の聖  
言にして信仰と行状に係る無二の誤りなき法則なりと信じ、

日本〔36〕(基督) 教会の憲法を誠実に受容れ、監督たるの務を忠  
実に為さんと欲するの志ある旨を公然〔37〕(部会) の前に明言す  
べし

〔38〕(五) 出席せる諸監督志願者の頭に手を按ぎ、議長又はその定  
めたる監督按手の祈禱を捧ぐべし(部会に推薦せられたる按  
手礼式は附録第二章にあり)

#### 〔40〕 第五条 監督の退職

縦令譴責する所なき監督といへども、己に於て神の召を蒙らざ  
ることを覺り、而して部会も之と同感なる時は之に退職を許  
し、其名を名簿より除くべし、夫れ監督の退職の容易ならざる  
事なり、故に部会議員三分の二の投票に由ざれば之を行ふこと  
を得ず〔39〕

#### 〔41〕 第六 条 牧師の就職

一 〔41〕(監督たるもの) 牧師に撰挙せられてその招聘に応ぜし時は

〔35〕 ( ) ( ) ↓ 五

〔36〕 ( ) ( ) ↓ 聯合

〔37〕 ( ) ( ) ↓ 教会

〔38〕 ( ) ( ) ↓ 六

〔39〕 ( ) ( ) ↓ [抹消] [但し「イキ」と上欄にあり。]

〔40〕 ( ) ( ) ↓ 五

〔41〕 ( ) ( ) ↓ 牧師試補者ノ

教会の委員は撰挙せられたる牧師とともにその教会の列なる所の部会に就職式を〔請求すべし、部会之を善しとする時は教会と協議の上〕<sup>〔42〕</sup>其の式を執行ふへの手続を為すべし<sup>〔43〕</sup>

〔牧師撰挙並に就職式の手続は附録第三、四章にあり〕<sup>〔44〕</sup>

二其の撰挙を受けたる人もし試験者たらば、先づ試験を経て按手礼を受くべし

三他の部会に属する〔監督〕<sup>〔45〕</sup>又は試験者は就職式を請求するときに転会書を差出すべし

# 第〔七〕<sup>〔46〕</sup>条 牧師の解職

牧師其の職を辞せんとするか若くは教会之を解んと為るときは、教会は其列なる所の部会に牧師とともに委員を差出して、其事を提出〔すべし、而して部会之を可とせば其の職を解くべし〕<sup>〔47〕</sup>〔牧師解職の手続は附録第五章にあり〕<sup>〔47〕</sup>

# 第〔八〕<sup>〔48〕</sup>条 教会の建設

一数名の信徒相合して教会を設けんと欲する時は〔之を部会に〕<sup>〔49〕</sup>〔請求すべし、其請求書には請求者悉く記名すべし、其中にて既に受洗して教会〔員〕たるものと未だ受洗せざる者とを区別すべし、部会は此の請求を〔許〕<sup>〔50〕</sup>可〔するの可否を議して、之を可決するときは之を実施すべし〕<sup>〔51〕</sup>〔教会建設の手

〔42〕 へ へ ↓招待シ

〔43〕 へ へ ↓事ヲ助ケシムベシ

〔44〕 へ へ ↓〔抹消〕

〔45〕 へ へ ↓受按者

〔46〕 へ へ ↓六

〔47〕 へ へ ↓シ其ノ勧告ヲ要スベシ

〔48〕 へ へ ↓七

〔49〕 へ へ ↓先ツ教会ノ組織、役員ノ撰定、信仰ノ

個条等ヲ略記シテ将ニ属セントスル其ノ地方

ノ部会ニ

〔50〕 へ へ ↓〔抹消〕

〔51〕 へ へ ↓トスルトキハ之ヲ建設スル事ヲ助クベシ

統は細則第二章第一条にあり

二二個又は二個以上の既に設けられたる教会が相合して一個の教会を建設せんと欲する時は、各教会委員をへ立て之を部会に請求すべし<sup>〔52〕</sup>、部会はへ其請求を許すの可否を定め、之を<sup>〔53〕</sup>可とするときは之を<sup>〔54〕</sup>一個の教会となすべし

三合併せんと欲する教会互に異なる部会に屬する時は先づ合併したる上は何れの部会に屬すべきやを協議すべし、へ而してその所屬を異にせんと欲する教会は転會書を從來の部会に求むべし、部会之を可とせば転會書を出すべし

此転會書は其教会の屬せんと欲する部会に差出すべし、而して部会は合併の得失を熟議したる後之を決すべし、之を可とする時は其転會書を受容れて合併せしむべし（手続は細則第二章第二条にあり<sup>〔55〕</sup>）

#### 第九条 教会の加入

一他の教派に關係なき教会が日本へ基督<sup>〔56〕</sup>教会に加入せんと欲する時は之を部会に請求すべし、部会は其の請求を許すの可否を定め、之を可とする時はその教会を加入せしむべし

二他の教派に關係ある教会が加入を請求する場合に於ても其順序前と同様たるべし、只之を加入せしむる前に成るべくは其

〔52〕 へへ↓出シテ宜シク部会ニ照会スヘシ

〔53〕 へへ↓其ノ合併ヲ

〔54〕 〔補〕↓助ケテ

〔55〕 へへ↓而シテ此合併教会ヨリ兩部会ノ委員ニ

照会シ一部会ヨリ他ノ部会ニ転スル事ヲ議セシムヘシ兩部会ノ委員協議ノ上之ヲ可トスルトキハ之ヲ実行シ得ベシ

〔56〕 へへ↓聯合

の属する所の教派に照会すべし

三加入を望む教会に牧師あらば本章第一条二項に本きて部会に入るべきものとす

## 第七章 聯会

### 第一条 議員

一聯会は三個以上の部会を包含する一区域にある各教会の代員一名と凡ての監督より成立つ

二「牧師たる監督或は専ら伝道に従事する監督或は日本基督教會に關係ある神学校又は其他の学校の教員たる監督の外は投票の權利なし」<sup>[57]</sup>

三日本基督教會と協力する諸伝道會社に属する外国宣教師は其職柄により員外議員たることを得、又發論動議の權を有し、且正議員の如く凡ての委員に撰舉せらるゝことを得

### 第二条 「權限」<sup>[58]</sup>

聯會に委託せられたる「權」<sup>[59]</sup>左の如し

一聯會は内国〔60〕伝道局を設立することを得

二聯會は基督教主義の諸科の学校及び神学校を設立し、又は之と關係を「起す」<sup>[61]</sup>ことを得

三聯會は部會を設置し其区域を定め、其の記録を檢閲し、又總

〔57〕へ↓代議人ノ在職期限ハ三ヶ年トス、而シテ諸教會ヨリ出セル代議人中不員タルモノノ三分ノ一丈毎年改撰スルモノトス

〔58〕へ↓義務

〔59〕へ↓義務ハ

〔60〕〔補〕↓及ヒ外国

〔61〕へ↓持ッ

会の上告審判委員に委任せる場合の外は部会の上告を判決することを得

四聯会は上告審判委員を撰定することを得、但此委員の事務は次に述べる所に限る

教会の決議に対して不服なる信徒は其一名たると数名たるとを問はず、其教会所屬の部会に上告することを得べし、然れども或る場合に於ては此の如き事件は他の議員に於て審問するを善しとすることあり、へ此問題は先づ第一に部会に於て決すべきものとす、部会の投票者三分の一が可とする時は之を上告審判委員に委任すべし<sup>[62]</sup>、然る上は上告審判委員は其願末を審問して判決すべし、其判決は書面に認めて聯会<sup>[63]</sup>に差出し、且記録に登録すべし、然れども其の判決へに対しては上告することを得ず<sup>[64]</sup>

此の委員は投票を以て撰挙し、へ監督<sup>[65]</sup>五名代員五名を以て組織すべし、但其中半数以上一部会の人たるを得ず（聯会概則は細則第三章にあり）

## 第八章 総会

### 第一条 議員

総会は各部〔会〕に於て撰挙したる同数の代員及びへ監督<sup>[66]</sup>を以

[62] へ ↓カ、ル場合ニ於テ其ノ信徒ノ所望ニ任

セ聯会ノ上告審判委員ニ委任スル事アルベシ

[63] [補] ↓并ニ教会ニ

[64] へ ↓ハ勸告ノ性質ヲ有スルモノトス

[65] へ ↓牧師

[66] へ ↓受按者

て組織す、各部会は三教會毎に代員一名並に〔<sup>67</sup>監督〕一名を挙て惣代となすべし、欠席者なからんが為に補員を撰挙すべし、正員は總會の開會前又は開會中に代員を辞して其席を補員に譲ることを得、然れども一たび辞したる後は再び着席することを得ず

第二条 〈<sup>68</sup>権限〉

總會に委託せられたる權左の如し

一總會は日本〔<sup>69</sup>基督〕教會の事業に關して報告を受授し、且適當と認むる処置を勧告し〔<sup>70</sup>聯合、部會、諸教會を通して真と義とを維持し〕聯合を設立し、其の上告を判決することを得、〔<sup>71</sup>又外國伝道局を設立することを得〕

二總會は上告審判〔<sup>72</sup>〕委員を撰挙することを得、但此の委員の事務は次に述る所に限る

部會議員其の判決に服せざる時は所屬聯合に上告することを得、然れども或る場合に於ては此の如き事件は他の議會に於て判決するを善とす、此の問題は先づ第一に聯合に於て決すべきものとす、而して投票者三分の一之を可とする時は之を總會上告審判委員に委任〔<sup>73</sup>すべし〕、然る上は此委員は其顛末を審問し〔<sup>74</sup>へて〕判決〔<sup>75</sup>すべし〕、其判決は書面に認めて總會〔<sup>76</sup>へに〕差出し、且總會の記録に登録すべし、〔<sup>76</sup>然れども其の判決に對

〔<sup>67</sup>〕 〈 〉 ↓ 受按者

〔<sup>68</sup>〕 〈 〉 ↓ 義務

〔<sup>69</sup>〕 〈 〉 ↓ 聯合

〔<sup>70</sup>〕 〈 〉 ↓ 〔抹消〕

〔<sup>71</sup>〕 〈 〉 ↓ 〔抹消〕

〔<sup>72</sup>〕 〔補〕 ↓ 常置

〔<sup>73</sup>〕 〈 〉 ↓ シ

〔<sup>74</sup>〕 〈 〉 ↓ 〔抹消〕

〔<sup>75</sup>〕 〈 〉 ↓ ニ及ヒタル所ヲ以テ勧告ヲ与フベシ

〔<sup>76</sup>〕 〈 〉 ↓ ト上告ノ起シ所ノ教會又ハ部會ニ

しては上告することを得ず<sup>[77]</sup>

此委員は投票を以て撰挙し、代員七名監督七名を以て組織す、但其半数以上一聯合の人たるを得ず（総会概則は細則第四章にあり）

## 第九章 戒規

一 戒規の目的 戒規の目的はキリストの尊榮と教会の清潔とを保ち犯者の利益を図るにあり、密かに懇切なる相談をなし、忠告を与ふる事に由て此等の目的を成就すべき場合少からず、此れ実にキリスト自ら命たまふ所なり（馬太十八の十五より十七）故に密かに忠告したる後に非ざれば決して戒規の手段を始むべからず、但其事情此の如き方法を以てするも、戒規の目的を達し難きこと明白なる時は此の限に非ず

二 所管 凡そ監督は一教会の会員たると否らざるとを問はず、所属部会の戒規を受くべし、監督たらざる者は皆その所属教会の戒規を受くべきものとす（審問の手続は細則第五章にあり）

三 犯罪 監督への犯罪は聖書中明かに禁ぜられたる事、或は日本基督教会の憲法に背きたる事なり、通常教会員の犯罪は聖書中明かに禁ぜられたる事、或は其所属教会の規則に背ける

[77]

（へ）↓又教義上ニ関シ教会或ハ部会ヨリ起リ

タル上告モ亦此ノ上告審判委員ニ委任スベシ

事なり<sup>〔78〕</sup>

四判決 部会若くは教会の判決は神と人との關係を變化する者に非ず、<sup>〔79〕</sup>「只某は罪を犯したれば」<sup>〔79〕</sup>当に悔改むべきものなりとの確信を嚴肅に宣言するものなり<sup>〔80〕</sup>「只左に掲る判決のみを正當なりとす」、即ち譴責、教会職員<sup>〔80〕</sup>の停止若くは免職、教会員の停止又は放逐なり

〔81〕判決は宣らるゝ時に直ちに実施せられたるものとす  
五回復 回復は戒規の目的成就したるとき行はるべきものなり、監督は只之に戒規を加へたる部会に由てのみ回復せらるゝ事を得べき者とす、一旦職を免ぜられたる人は悔改実行の成績著明にして時日を経過するに非れば旧職に復すべからず、然ども甲教会に於て戒規を加へられたる人は該教会と照会したる上乙教会に容らるゝを得べし

# 第十章 上告

〔82〕

一 一個の教会より起りたる上告は第七章第二条四項に掲げたる場合の外は部会之を判決し、部会より起りたる上告は第八章第二条二項に掲げられたる場合の外は聯会之を判決し、聯会より起りたる上告は總會之を判決す

〔78〕

「へ」↓或ハ部会一議員ノ犯罪ハ其ヲシテ其ノ職ニアリ、其ノ務ヲ尽シ又部会ノ會員タルヲ

得サラシムベク、且監督ニアレ又通常教會員

ニアレ一個教会ノ會員トシテ犯罪ト認ムルモ

ノハ聖書中明カニ禁セラレ「タル」事ナリ、

又或ル犯罪ノ如キハ其ノ所屬教会ノ規律ニ背

ムキタル事、又異端ノ説ヲ吐クカ如キハ教会

ノ安寧進歩ヲ妨クルモノトス

〔79〕

「へ」↓部会ノ判決ハ犯罪者ノ部會員トシテ其

ノ役目ニ關係ヲ有スルモノタルベシ、教会ノ

判決ハ聖書中明カニ禁セラレタル罪科ヲ犯シ

タレハ

〔80〕

「へ」↓但シ判決ハ

〔81〕

「補」↓上告審判ノ判決ハ矢張勸告ノ性質ヲ有スルモノト雖更ニ上告スルヲ得ス

〔82〕

「補」↓一個ノ教会ヨリ起リタル上告ハ上告者ノ望ニ任セ部会又聯会ノ委員ニ訴フルヲ得、

二上告審判會議は上告によりて提起せられたる所の判決〔83〕

又は其の他の処置を確定、破毀、変更停止することを得、且其判決とともに説明及び助言を為すことを得、但如何なる場合に於ても被上告審判會議の權利を犯さざるやう注意すべし（上告審判會議の手続は細則第五章第三条にあり）

三戒規の場合に於ては〔84〕只被告のみ上告することを得、（且其上告は只判決に対してのみ為すことを得）<sup>〔85〕</sup>

## 第十一章 憲法の改正

憲法を改正せんと欲する時は先づ一部会より總會に其改正案を提出すべし、而して總會之を可とせば各教会に回送して其の意見を問ふべし、〔86〕然れども教会の投票は少くも六ヶ月を経る迄は取るべからず、教会全数の三分の二が公然之を可とすることを總會の書記に通知したる時は書記其の旨を凡ての教会に通知すべし、然る時は其改正案は憲法の一部分をなりたる者とす

〔細則以下省略、新島の書込みなし〕

教義又ハ信仰上ニ関スル上告ハ總會ノ委員ニ

訴フルモノトス、部会ヨリ起リタル上告ハ教

義上ニ関スルモノニアラサレハ第八章第二項

ニ掲ケラレタルモノニ随ヒ聯会之ヲ判決スベ

シ、教義上ニ関スル上告ハ總會ノ委員之ヲ判

決スベシ

〔83〕

〔補〕↓此判決ハ勸告ノ性質ヲ有スルモノトス

〔84〕

〔補〕↓被告者カ諸教会ノ前ニ一個人又ハ役目

ニ関スル名誉ヲ害セラレタリト認ムルトキハ

〔85〕

へ↓〔抹消〕

〔86〕

〔補〕↓總會之ヲ可トセサルモ三部会一致ノ上

之ヲ提出スルニ至ラハ各教会ニ回送シテ其ノ

意見ヲ問ヒ得ベシ

第二公会録事



132 第二公会録事\*

西京第二公会記録

明治九年十二月三日、新烏丸頭町新島襄ノ家ニ於テ、襄ヲ以仮牧師トシ第二公会ヲ設立ス  
新ニバプテスマヲ受ケ入会スル者拾五人

〔森〕  
金盛通倫

河辺鉤太郎

徳富猪一郎

○長岡徳蔵

○同 うた

辻橋源助

●中川あさ

●奥村帛吉

○大沢頼道

○同 スヒ

山本 咲

上京第廿五区丸太町下ル富小路  
同  
上京第卅一区下丸屋町四百一番地

同

上京第廿二区新烏丸頭町

同 峰

新烏御代<sup>〔ミヨ〕</sup>

平井一太郎

上京廿二区河原町

○木村淳邑

神戸公会ヨリ入会セル者兩人

須田明忠

田中伝次

熊本ニ於テジェーンズ教師ヨリ受洗シテヨリ此ノ会ニ入ル者四人

坂井禎甫

井手茂久<sup>〔義〕</sup>

上原方立

龜山昇

九年一月二日、デビス教師ヨリ受洗シテ此会ニ入ル者一人

新烏丸頭町

新烏八重

会衆合セテ廿二人内

男十五人  
女七人

○同年十二月十四日ノ夜祈禱集会ノ節、金盛通倫ヲ選挙シ長老トシ、須田明忠ヲ執事トス

○十年一月十日、レプタ函ヲ作り会衆ヨリ信施ヲ差出ス事ヲ初ム

○十年三月四日、〔朱紋〕大沢善助、新島是水、信仰ノ上受洗シテ入会ス

○十年五月十三日、東京メソヂイスト会ニ属セル〔朱点・以下同〕一信徒平野文具、牧師ソップル氏ヨリノ薦書ヲ以テ此会ニ入ル

○同四月、支那山東ノ餓民ヲ扶ル為、我会衆金三円二拾五錢ヲ募リ、之ヲ神戸在留ノ米人ニ托シ支那ニ贈レリ

同五月、熊本ノ窮友ヲ助ケル為金ヲ募リシニ、其高金五円三拾七錢二厘五毛ニ及ヘリ

○同年九月十六日、和田正幾。伊勢時雄。山崎為徳。ノ三氏、東京メソヂイスト会ノ牧師コクランド〔カックラン〕氏ヨリノ薦書ヲ以テ此会ニ入ル

○同十月六日、此ノ会友辻橋源助、常ト供老ノ約ヲ結ヒ、我会ニ於テ婚姻式ヲ行ヘリ、諸公会ノ兄弟来臨ス

○同十月十一日、〔朱点・以下同〕大沢頼道夫婦并、長岡庄三郎

右之三人我等ノ忠告ヲモ容レス乱ニ飲酒セルニヨリ、協議ノ上此会ヨリ除名ス

○同十月十七日、当地三公会ヨリ議員二名ツ、撰挙シ、伝道会社ノ概則ヲ編成シ、之ヲ大坂神戸三田等ノ諸公会ニ回達シ、翌十一年一月ヲ以テ大坂ニ集リ該社ヲ設立スル事ニ決セリ

○同十二月二日

丹波国福知山上紺屋町中島勘右衛門長男、中島力造

青森県士族

窪田義衛

府下

上野英三郎

伊勢時雄氏ノ妹

伊勢 宮

右ノ四名、受洗ノ上入会ス

十年一月ヨリ十二月ニ至迄、入会并除名スル者左ノ通

受洗ノ上入会スル者

六人

書翰ニヨリ入会スル者

四人

除名セル者

〔マヤ〕  
四人

同一月ヨリ十二月ニ至ル迄ノ集金高并仕払高

〔四行空白〕

●同十一年二月十日、横浜ノ一信姉、藤マサ（此信姉ハ鈴木良光ニ嫁ス）左ノ薦書ヲ以テ我会ニ入ル

此者横浜ニアル主耶穌基督教会ニ属スル善正ノ信徒ナリ、今将ニ西京ニ移転セントス故ニ西京ニアル貴会ニ薦挙  
シ其ノ交通及眷顧ヲ請フ

横浜基督教会長老

十一年一月廿二日

熊野雄七

在西京耶穌基督教会

長老御中

〔欄外〕  
「十一年」

○同三月一日、会中ノ兄弟伊勢時雄、上原方立、徳富猪一郎、田中伝次、河辺鋤太郎、亀山昇、辻橋源助、総計七人  
便宜ノ為、上長者町デビス氏ノ宅ヘ分派スル事ニ決セリ  
同四月十四日、新ニバプテスマヲ受ケ入会スル者左ノ通

、松尾敬吾  
、今村慎始  
、大久保真二郎

、木全 祝<sup>ハシメ</sup>〔大西祝〕

、小崎継憲

、小泉芳輔

○同四月廿四日、神戸公会ヨリ薦書ヲ受ケ入会スル者左ノ通

、高松 舜

、同 仙

○同五月二日、素熊本校ニアリ、ジェー<sup>〔元〕</sup>「ン」ス教師ヨリ受洗シタル信徒、金子富吉、再ヒ会衆ノ試験ヲ受ケ此会ニ入ル

※<sup>〔朱〕</sup>○同九月七日、新島襄新島丸ヨリ寺町通松蔭町ニ転宅セシニヨリ公。会モ亦同氏ノ新宅ニ移レリ

十一年一月ヨリ以来十月ニ至迄

○他会ニ移ル者一人

○入会ノ者総テ十人 受洗ノ者六人  
他 四人

○レプタ集金 十四円九十六銭三厘五毛

仕払 十一円〇九銭二厘

残金 三円八十七銭七厘五毛

○伝道会社ノ為ニ募リタル金高 十。六。円。四。十。一。錢。九。厘。

〔以下異筆〕

同十一月十九日、夜祈禱會ニ於テ衆員決議ノ上信兄弟姉妹各一月五錢以上ヲ集メ、其総高ノ三分一ヲ伝道会社ニ寄施シ、其三分二ヲ以テ本公會ノ資蓄トス

但此施行ハ明治十二年一月ヨリ初ムル事

同夜、大久保真治郎ヲ執事トス

明治十一年十二月十三日、大久保真治郎旅行スルヲ以テ、今村慎始ニ托シ執事ヲ辞ス

○明治十一年十月第一安息日、京都三公會兄弟姉妹皆第一公會ニ集リ共ニ晚餐ノ聖礼ヲ守ル、後二ヶ月毎ニ三公會皆集リ共ニ晚餐ノ大礼ヲ守ルヲ以テ例トナス

○明治十二年二月二日 〔朱丸〕 ○不破静象デビス氏ヨリ洗礼ヲ受ケ第二教會ニ入ル

○明治十二年、安中基督教會一信徒速水忠雄、同教會ノ薦書ヲ以テ我會ニ入ル

○十二年二月、平野文具ヲ我教會ヨリ除名ス

○十二年一月、デビス氏宅ニアル我教會分派七名再ヒ本教會ト合ス

同四月、新島八重ヲ以テ執事トナス、又長老山崎為徳ヲシテ執事ヲ兼ネシム

同五月二日、金曜日ノ夜、京都三教會親睦會ノ節、第一教會員宮川経輝ヲ撰ヒテ委員トナシ、来ル七月大阪ニ開カル、大親睦〔會〕ニ出テシム

同五月十六日

、窪田義衛

右ノ者我等ノ忠告ヲ容レス不信徒ノ行状ヲ為スニヨリ、協議ノ上全会衆説ヲ以テ此会ヨリ除名ス

※同五月十八日、当時東京ニ在留スル会員坂井禎甫ヨリ便宜ニ依リ東京メステスト、<sup>〔ツ〕</sup>イビスコーパル教会ニ移リ度旨  
申来リシニ付、協議ノ上衆説ニ依リテ之ヲ許ス

○以上ノ通申越シタルニヨリ衆議ノ上転会ヲ許シタレトモ、其ノ后再ヒ書ヲ遣シ先転会ハ見合ス可キ由申来レリ

○同六月一日、会友須田明忠、河辺鍋太郎ヲ薦シ江州神崎郡八ヶ市<sup>〔目〕</sup>基督教教会ニ入ル事ヲ許ス

〔以下新島筆〕

○同六月六日、西京第一公会仮牧師市原盛宏氏ヨリノ薦書ヲ以テ左ノ七信徒入会ス

〔朱丸〕

○長谷川俊蔵、大沢芳太郎、蔵原惟郭、井爪良平、湯浅吉郎、綱島佳吉、杉田 潮

、市原盛宏モ此会ニ加入ス

六月十六日、会友田中伝次、大沢善七、高松彝、三氏志願ニより協議之上第三公会ニ薦シ転会セシム

〔朱〕

「九月七日、八ヶ市牧師須田明忠氏ノ薦書ヲ以テ、外郎壮太郎入会ス」

〔朱丸〕

上原方立

杉田 潮

○十二年十月十七日、会衆決議之上、同廿日書ヲ付シ之ヲ西京第三公会ニ薦ス

〔朱丸〕

○十月十六日付之薦書ヲ以テ第三教会ヨリ○奥亀太郎氏入会ス

御届

拙宅ニ於テ毎金曜日之午后第六時、毎日曜日之午前第九時、同午后第三時ヨリ有志之輩ノミ相集マリ脩身学会読并

講釈仕度候付、明十七日之午后第六時ヨリ集会可仕候間此段御届奉申上候、已上

明治十二年十月十六日

新島 襄○

戸長奥印

### 長官宛

右之御届書ハ先ツ府庁ヘ留置ニ相成候也

○拾月廿三日、新島美代眠ニ就ク、但九月以来肺病ヲ病ミテ加養叶ワサリシ也

○拾月廿四日之夜、例之通祈集会之節会衆投票ヲ以テ市原盛宏兄ヲ撰挙シ仮牧師ト為セリ

但シ從來ノ仮牧師新島襄氏ハ同志社々長ニシテ牧師ヲ兼任スルハ、何分政府ニ対シ色々不都合ノカドモ有之ニヨリ、向後ハ仮牧師ノ任ヲ辞シ偏ニ同志社ノ為ニ尽力シ、益其根柢ヲ固セン為ナリ

同夜投票ヲ以テ執事三人ヲ撰ヒシニ、多票ニヨリ新島氏ヲ執事ニシテ牧師代理タラシメ、山崎為徳氏ヲ會計方、徳富猪一郎氏ヲ書記タラシメタリシニ、徳富氏ハ年令未幼ナルヲ〔以テ〕之ヲ辞セシニヨリ、新島氏書記ヲ兼任スル事ニ決セリ

〔欄外〕  
「転会」

### 同夜

伊勢宮女、山本峰女、高松仙女、右之三女志願ニヨリ第一公会ニ転入スル事ヲ許ス

○六月廿五日

小崎継憲

右者当地ヲ去リ神戸ニ移転ス、未タ何レ〔ノ〕公会ニ〔モ〕属〔シ〕メズ

明治十三年一月四日

当地三公会ノ兄弟尽ク第一公会ニ集リ聖晚餐ヲ守レリ、ゴールドン氏説教、ラーネット并新島氏晚餐ヲ司レリ、此時ゴールドン氏ヨリ受洗シテ第一公会、第二公会ニ加入セシ者ハ左ノ如シ

第一公会  
、伏見 通

第二クク  
、古賀啓吾

、服部他之助

、小崎成章

、西山亀二郎

、森田寿三郎

、新島公義

、和久山四郎

〔欄外〕  
「大久保除名ノ事」

同十三年一月十六日ノ夜、祈禱会ニ於テ徳富氏、大久保真次郎氏ニ托セラレ同氏ヲ此公会ヨリ除名セラレン事ヲ申出シニ付、会衆一同協議ノ上之ヲ除名ス

、藤田愛二

同年一月三十日、大坂浪華教会ヨリノ薦書ヲ以テ此会ニ加入ス

、三輪振二郎

、村上興一

、辻橋 常

右者三月七日受洗之上此公会ニ加入ス

○明治十三年五月二日、第三教会ニ於テ三教会兄弟集リ聖晚餐ヲ守レリ

〔欄外朱〕

「入会」

◎木津谷豊八受洗ノ上此教会ニ加入ス

五月廿五日

同志社五年生徳富猪一郎、河辺鎬太郎、三年生湯浅吉郎ノ三氏ハ京師ヲ去リ東京ニ趣ク

五月廿八日、廿九日

大坂ニ於テ伝道会社ノ集会アリ、当会ヨリハ仮牧師市原盛宏兄ヲ代議人トシテ差出ス

八月十一日

〔欄外朱〕

「死去」

十二年九月八ケ市教会ヨリ薦書ヲ以テ入会セシ外邸宗太郎氏、熱病ニテ本日安眠セシ由彦根ヨリノ計アリ

九月廿四日

〔欄外朱〕

「除名」

徳富氏東京ニ趣キシヨリ彼地教会ヘモ出頭セス、且同氏修行ノ為公教ニ属シオレハ甚不都合モ有之趣ヲ以、断然退会仕度旨申越セシニヨリ、本日協議ノ上其ノ望ニ任セ之ヲ除名ス

同

岡山ニ於テ来十月十三日公教設立ノ由通シ来リ、此会ヨリモ代議人ヲ差出シ立会ノ助ケアラン事ヲ乞ヒシニヨリ、新島襄ヲ撰ミ代議人トナシ該地ニ遣ス事ニ決ス

十四年一月二日

〔欄外朱〕

〔入会〕

〔朱〕

「コルドン パン

コルドン氏授洗ス

○速水トキ○吉村秀造氏二人受洗シテ第二公会ニ属ス

レーネト ワイン」

第三公会ニ於テ聖晚餐ヲ守ル

五月六日

〔欄外朱〕

〔入会〕

〔朱〕

「コルドン氏預ル 新島授洗ス」

○足立甚三郎○高野重吉二人受洗シ第二公会ニ属ス

第壹公会ニ於テ聖晚餐ヲ守

五月

第二公会ニ於晚餐ヲ守、受洗ノ上入会スル者左ノ通

鹿兒島 池袋清風

岩 手 片桐清治

岡山 三宅荒毅

福井 木村経夫

熊本 鎌田 助

群馬 新島トミ 襄ノ母

辻橋源助ノ娘

嬰兒受洗

メ六人入会 嬰兒受洗一人

十四年四月迄ノ

現員 三十九人 内 男三十五人 女四人

入会 五人 男四人 女一人

除名 一人

死去 一人

伝道〔金〕社ニ寄附金 拾一人

其他之集金高 六円三十銭

四月卅日之ヲ調フ

十四年五月一日

〔廟外〕  
〔転会〕

○転会

上野栄二郎

右者東京ニ移住シ京橋南鍛冶町教会へ薦書ヲ以移転ス

○六月十九日第壹教会ニ於テ京都三教会之信徒集会シ聖晚餐ヲ守ル

〔欄外〕  
「入会」

同日受洗シテ第貳教会ニ入ル者左ノ二人

藤橋虎之助

馬場精三郎

〔以下異筆・鎌田助〕

○明治十四年九月三十日夜、当会執事並ニ書記ヲ改撰ス、投票ノ多数ニヨリ其任ニ当ル者 執事湯淺吉郎 池袋清風

○書記鎌田助

同夜衆員議決ノ上毎月会堂入費トシテ一人金五錢以上、伝道会社費トシテ金二錢以上ヲ出金スルニ決ス 但シ十月

第二金曜日ヨリ実行ス

○十月第一日曜日ヨリ安息日学校ヲ一変シ、市原氏ヲ総理トシ更ニ教員数名ヲ撰任シ教授ノ方法ヲ改良ス、又本日ヨ

リ安息日学校ヲ午前九時、説教ヲ午後二時ヨリ開ク事ニ改ム

○十月九日安息日、第二教会ニ於テ三教会信徒相集リ晚餐礼ヲ守ル

○十月十四日金曜日夜、祈禱会後衆議ノ上「来月二日天満教会ニ於テ古木某ヲ牧師トシソノ按手礼ヲ行フニ付テ招待

ヲ受ケタルニヨリ」当会ニテハ新島氏ヘ代人ヲ委托スルニ決シヌ 尤モ同二十四日其旨天満教会ニ報知シタリ

○十月二十一日、当会堂開堂式執行ノ由ヲ東京、安中、彦根、八日市、大阪天満、浪花（以上二会共ニ一封）、神戸、

多聞、兵庫（三会共ニ一封）、岡山、今治、三田、明石ノ諸教会ニ報道ス、其文面左ノ如シ

寸書拜啓仕候、陳者弊会々堂之儀今回当府下上京区第貳拾貳組寺町通丸太町上ル百四拾番地ニ於テ新築落成ニ付、明二十二日ヲ以テ開堂式執行仕候

此段御報知申上候也 敬白

明治十四年十月二十一日

京都第二教会印

〔朱〕

※○十月二十二日、当会新築会堂ノ開堂式ヲ挙行ス、当日集会スル者ハ京都三教会ノ信徒、同志社兩学校ノ生徒等凡

ソ二百有余人ナリキ、市原氏司会ニテ諸氏ノ祈禱演舌祝詞等（第一 演舌並ニ新築入費報告新島襄氏、第二 祈禱  
ゴルドン師、第三 祝辞ラーネド師、第四 祝文高松彝氏、第五 同森田久万人氏、第六 同片桐清治氏、第七  
同木村経夫氏、第八 祝辞宮川経輝氏、第九 祝文新原俊秀氏、祝禱新島氏等）畢リテ後一同ヘ菓子ヲ饗シ十一時  
半頃散会シタリ

○十一月三日、天長節、第三教会員ノ催シニテ京都ノ信徒同志社ノ生徒皆ナ上加茂神社内ニ親睦ノ遊歩ヲナス

○同志社英学校幹事兼教員ニテ当教会員山崎為徳氏ニハ去夏以来肺疾ニ罹リ暮ニ伏スル茲ニ四閱月、療養其効ナク十一月九日午前六時ヲ以テ死去セラレタリ、其翌十日午後第二時ヨリ式ヲ会堂ニ行ヒ、新島氏司会、森田氏祈禱、新島氏山崎氏ノ履歷ヲ陳ヘラレ、市原氏同シク其品格ヲ称賛シ一個ノ俊傑ナルヲ証シ、宮川、上原ノ兩氏ハ悼文ヲ朗讀シ、ラーネド氏ノ祈禱ヲ以テ散会ス

此日会スル者ハ京都三教会信徒同志社兩学校生徒等ナリ、一同黒谷ノ墓地ニ葬送シ、同所ニテゴルドン氏ノ祈禱アリキ

○十一月二十五日（第四金曜日）ヲ権與トシ、毎月第四金曜日コトニ會員ノ講習会ヲ開キ旁ラ親睦ヲハカル

○十二月初旬、會員小泉芳輔ノ行為ニ付テ衆議紛々、或ハ教会ヨリ除名スベシト云ヒ、久シク議決セサリシガ遂ニ十二月十六日（金曜日）衆議ヲ以テ元ノ如ク會員タルヲ許スニ可決シタリ

同夜岡山教会ノ薦書ニヨリ入会ヲ許ス者一名 〔朱丸〕 ○中川堅市

明治十五年記事

○一月三日、明石教会ニ於テ川本政之助、同五日多聞教会ニ於テ杉浦義一氏ヲ牧師トスルニ付其接手礼ヲ行フ、本会ヨリ市原氏委員トシテ之ニ赴ク

○一月五日、七日、八日、十日、摂州神戸ニ於テ日本基督伝道会社臨時議會ヲ開ク、本会ヨリ市原氏議員トシテ臨会セリ、同會議ニ於テ伝道者ノ事、邦語神学校ノ事、〔ママ〕著者出版ノ事等ヲ議決ス

○二月五日、第一教会ニ於テ聖晚餐礼ヲ執行ス、ゴルドン氏説教、グリーン氏司礼  
当日新島氏ヨリ洗礼ヲ受クル者合セテ九人、其中第二教会ニ入ル者左ノ如シ

〔朱丸・以下同〕  
新原俊秀

鹿児島県

〔安部〕  
岡本磯雄

福岡県

〔岸本〕  
瀧 能武太

岡山県

山中 百

福岡県

原 忠美

岡山県

沢山雄之助

山口県

山田安路

熊本県

二月十日、大阪浪花教会ヨリ薦書ヲ受テ当会ニ入ル者左ノ如シ

〔辻密太郎

長谷川末治

綱島 亘

米津檣三郎

○三月十日、衆議ニ依リ小泉芳輔ヲ当会ヨリ除名ス

除名書續写シハ別紙ニ在リ

○三月十七日、大阪第四島ノ内教会ヲ設立ス、当会ヨリ綱島佳吉氏委員トシテ出會

○三月十六日、俄ニ會議ヲ開キ辻密太郎、松尾敬吾、龜山昇、長谷川末治、奥龜太郎、小崎成章ノ六人ノ希望ニ任セ  
第一教会ニ入ルヲ許ス、即チ例ニ依リテ薦書ヲ送ル

○四月九日、京都三教会ノ信徒第二教会ニ集合聖晚餐ヲ守ル、市原氏説教、グリーン氏司礼、当日ラルネード氏ヨリ  
受洗者十五人、其中当会ニ入ル者左ノ通

加藤勘次郎 後藤 清熊 村上克太郎

重見 周吉 宮下滝五郎

○四月十四日、綱島佳吉ノ第三教会ニ転スルヲ許ス

五月中旬、伝道会社年会ヲ神戸ニ開ク、市原盛宏氏ヲ当会ノ議員トシテ出張セシム

同月二十六日、京都新京極、劇場ニ於テ米国ノ学士ヂョセフ、クック氏ヲ聘シ演説ヲ聴ク、同氏日本富強之基礎ヲ  
題トシテ今日基督教ノ国家ニ欠クベカラザルヲ演ベラル、聴客凡ソ千五百有余、蓋シ基督教拡張ノ上ニ裨益ヲ与フ  
ル少カラサリシハ予輩ノ信シテ疑ハザル処ナリ

六月四日、三教会信徒第三会堂ニ集リ聖餐ヲ守ル、グリーン氏説教、新島氏司礼、当日グリーン氏ヨリ受洗者二十  
人、其内当会ニ入ル者左ノ通

松尾熊五郎 保阪七之介 村上直次郎

池内 徳孝 日高栄今朝 荒木 熊造

田中 才吉 岡島 敏吉 赤木 良平

東 正義 白石 邑治 藤卷 源吾

斉藤 鶴松 芳松勝太郎 阪部 朝雪

加村 春斉 速水 梅

加村春斉氏ハ滋賀県下江州滋賀郡大野村ノ人ナリ、本年七十三歳ノ老人ナリ夙ニ頼山陽ノ門ニ入り学ヲ修ム、後医ヲ業トス、今ヲ距ル八年前偶々耶蘇教ノ事ヲ聞キ深ク之ヲ聞カン事ヲ欲セシモ永く其道ナカリシカ、六七年前神戸ニ赴キシ節、天主教ノ僧徒ニ会ヒ十字架ノ話を聞き深く感ずる処アリ、同地にて新旧兩約書其他教書若干ヲ求め爾来ハ切リに之ヲ講究シ大ニ其理ニ服シ悟る所あり、三四年來京都ニ來リ屢々宣教師デビス氏並ニ新島氏ノ宅等ニ來リて道ノ蘊奧ヲ尋ネ、且ツ自ラ聖書ヲ讀ンテ心ニ感スル処ヲ述べ、或ハ思想ヲ詩文ニ寫して其信仰ヲ顯シ、三四年來著サレタルモノ聖教撮要論二冊、聖教讚美詩三卷あり、本年六月京都に來リ例ノ如ク新島氏ニ至リシニ幸にもその日第三教会に於て洗礼ノ式アルヲ聞き自分洗礼ヲ受度事年來ノ志望ナリ、再び出京ノ出来マジキモ計リ難キ老身ナレハ是非本日受洗シタシト申出られければ止ムヲ得ず新島氏より教会々員ニ談シ其情実ヲ推シ、特例モテ委員五名ヲ撰ヒ其朝新島氏宅ニテ尋問会ヲ開ケケルニ加村氏ノ信仰更ニ疑フベキ処ナシ、且ツ氏ハ基督ノ十字架ノ尤モ大切ナルヲ感スル由ヲ述ベラレキ、其望ニ任セ即日洗礼ヲ行フ、聖書ニ依リテ感化ヲ被ムル希有ノ例ト云フベシ

七八兩月並ニ九月中旬迄同志社夏期休業ニ付、日曜日午前祈禱会ヲ開クノミニテ説教安息日学校ヲ休ム

九月廿二日金曜日夜、夏中京都ヨリ出張シタル諸方伝道報告会ヲ開ク、同夜衆決ニ質シ森田久万人氏第三教会ヨリ転會スルヲ許ス

九月廿五日、当教会員市原盛宏氏ト江場兼女、同森田久万人氏ト重松基女ノ結婚式ヲ会堂ニテ執行ス

# 明治十五年度第二教会記録

九月廿九日、役員撰挙投票ノ多数ニ依リ鎌田助ヲ書記重任ニ、湯浅吉郎(会計掛重任)并ニ片桐清治ノ兩人ヲ執事トス

同夜、山岡邦三郎氏東京新栄教会ノ薦書ヲ以テ当会ニ入ル

十月一日ノ安息日ヲ以テ更ニ安息日学校ヲ開ク、市原氏元ノ如ク校長タリ

生徒ヲ十一組トシ各組教師一名ヲ置ク、且ツ聊カ改正スル所アリ

十月九日、衆議市原氏ニ乞ヒ更ニ牧師ノ重任ヲ依頼ス

十月十三日、藤田愛二氏第三教会ニ転スルヲ許ス、マタ辻孝太郎氏大阪教会ノ薦書ニヨリ入会ス

十一月十七日、森田モト神戸教会ノ薦書ニヨリ入会ス

十一月廿五日、デビス氏米国ヨリ帰京セラル、翌廿六日京都三教会信徒並ニ同志社兩校ノ生徒(凡ソ三百名)第弐会

堂ニ集会シ同氏ノ安着ヲ祝ス、下村、森田、綱島、新島諸氏演説、終リニデビス氏モ暫時演舌セラレタリ

十二月十日安息日、京都三教会ノ信徒当会堂ニ於テ晚餐礼ヲ守ル グリーン氏説教、ゴルドン氏司礼、ラルネード氏

ヨリ受洗スル者男女合十四人及嬰兒一人、当会ヘ入ル者左ノ如シ

不破 彦磨 兼頭 和策

中川 虎一郎 海老名 一郎

田中 兎毛 梶川 権一郎

高田 耕安 医学 校生徒

明治十六年第二教会記事

第一月第一安息日（七日）ヨリ十四日ニ至ル京都三教会ノ信徒当会堂ニ集リ、万国共同ノ勸勉並ニ祈禱会ヲ催ス

一月十日夜、今年四月末東京ニ於テ日本全国基督信徒大親睦会ヲ催スニ付、京都三教会中ヨリ一名ノ代人ヲ出京セシムルニ決ス、投票多数ヲ得タル新島先生ニ決ス

一月十九日夜、教会入会者尋問ノ法ヲ一変シ、新ニ五名ノ委員ヲ撰ビ之ニ任ス、但シ一回ノミ衆員ノ集会ニ於テ尋問会ヲ開クコト、ナレリ、当夜投票多数ニ依リ其撰ニ当ル者市原、竹原、森田、大西、鎌田、ノ五氏トス、任期当夏休業ニ至ルヲ限リトス

一月廿八日、同志社英学校一年生木村正吉氏病死ス、当会堂ニ於葬式ヲ行ヒ新島先生説教。大谷ノ墓所ニ葬ル

二月二日、市原氏病氣ヲ以テ暫時仮牧師ノ任ヲ辞スル旨ヲ申越サル、集議森田氏ヲ推シテ其代理ヲ託ス

本会安息日学校ノ生徒ハ多ク同志社生徒ニシテ、且是迄一堂内ニ集会シテ教授シケレハ衆声喧々不都合不少ヲ以テ、二月十一日ノ安息日ヨリ相改メテ、生徒ハ同志社ノ各教場ニ於テ教授シ、他ニ新島氏ノ宅ニ一会ヲ設クル事トナリヌ  
二月十八日、安息日金森氏教説晚餐ノ式アリ、ラルネード、伊勢岡氏司礼ス

デビス氏ヨリ受洗、教会ニ入ル者左ノ如シ、本日ヨリ各教会別々ニスル事トナル

〔中村栄介（助）〕 千葉 琢 山口健起 新田義言

〔浅香洋吉〕

教会ノ信徒相親和シ信仰ニ富ミ伝道ノ精神ヲ奨励スルノ目的ヲ以テ教会々員ヲ数組ニ分配シ、各組ニ於テ其團結ヲ堅フシ、及ボシテ全教会ニ広ムベシトノ旨ヲ以テ市原氏ヨリ其原案ヲ提出セラル、議論区々纏マラザル事数週間ニ

渉リシガ、二月廿四日夜同志社公堂ニ総會員ノ會議ヲ開キ、論弁ノ末遂ニ市原氏ノ原案ヲ用ユル事トナリ、同安息日再ビ会堂ニ於テ方法ヲ議決ス左ノ如シ

〔三行空白〕

委員七名ヲ撰挙ス竹原、大西、鎌田、森田、片桐、村井、湯浅其任ニ当ル、三月第一日曜日ヨリ実行スル事トナリヌ横浜一致教会ノ薦書ニヨリ○村井知至君、大阪島ノ内教会ノ薦書ニヨリ○矢口信太郎君共ニ第二教会ニ入ル  
右共ニ二月

三月廿三日夜、公会之趣意ヲ印刷スル、之ヲ決議シ更ニ編成委員ヲ撰任ス、森田、鎌田、大西、竹原、新島襄五氏之  
ニ当ル

三月廿五日、今度来ル四月末当地ニ於テ伝道会社会議ヲ開クニ付、三教会ヨリ二名宛ノ委員ヲ撰ヒ其事務ヲ專任セシム、当会ヨリ森田、中村栄助、両氏ヲ投票撰挙ス

四月十三日、上州安中教会ヨリ今回新築ノ会堂落成、五月四日ヲ以テ開堂式ヲ執行スルニヨリ、東京大親睦ノ途是非トモ立寄ヲ乞フトノ書面到来ス

同日、来ル二十日大阪教会ニ於テ宮川経輝氏按手礼ヲ執行ス、当会ヨリ新島襄、市原盛宏両氏ヲ議員トシテ派遣スル  
ニ決ス

同日、伝道会社会議ノ為メ森田氏ヲ指名シ議員ニ撰挙ス

但シ常議員ハ市原氏ナリ

同日、森田寿三郎氏ノ乞ニヨリ同氏カ大阪島之内教会ニ転スル事ヲ許ス

○同日、市原氏病氣回復ニ付、森田氏ノ仮牧師代理ノ任ヲ解ク

○同日、某氏ノ發議ニヨリ此マデ教会相談等ノ為メ同志社学校九時半ノ門限ヲ過リタル事甚タ不都合ニ付、以後ハ教会ノ事ハ是非九時限リトシテ其後ニ及ブベカラズトノ議ニ賛成スル者多ク、議決セリ

○四月廿五日ヨリ伝道会社集会ヲ本会々堂ニ開ク、同日九時半ヨリ祈禱會、又各地伝道報告出納報告アリ、午后二時ヨリ會議ヲ開ク議長松山高吉氏ナリ議員凡ソ十六人、伝道区ヲ廃スルコト内外集金ノ割合高皆原案ニ決ス、委員三名を京阪神間ニ投票ス、新島、松山、宮川氏当撰

○午后七時ヨリ奨励親睦會ヲ催ス、古木、喜多、フルベッキ、ソーパル、金森、デビス、諸氏ノ演説あり、集客凡ソ二百余名、終リニ一同ヘ菓子ヲ頒タレタリ

○同廿七日、一同集会松山氏ノ説教アリ聖晚餐式ヲ守ル、古木、デビス兩氏礼ヲ司ル、午前十一時半散會、此日新島氏ヨリ受洗、本会ニ加ハル、者二名左ノ如シ

福岡県○安藤乙松      岡山県○阪齊要吉

○同廿七日、基督教演説會ヲ道場劇場ニ開ク、聴衆千四五百人甚タ盛會ナリシ

○五月四日、川本恂蔵大阪天満教会ノ薦書ニヨリ入會ス、又阪井楨甫ハ昨年自ラ除名依頼ノ趣アリ、且ツ近頃愈々不信ノ形跡アルヲ以テ除名ニ決ス

○五月十八日、高野重吉氏東京第一教会ニ転スルヲ許ス

〔欄外末〕

「○」五月八日ヨリ五日ノ間東京ニ於テ日本基督教信徒第三回大親睦會ヲ開ク、新島氏京都ヨリ委員トシテ此會ニ臨ム

（詳報ハ載セテ七一雜報大親睦會記事欄内ニアリ、茲ニ略ス）

○五月廿六日土曜夜、会堂ニ於テ会員ノ親睦懇談会ヲナス、以来毎月一回開ク事ヲ約シテ散ス

○五月卅日、午後七時半ヨリ当教会々堂ニ於テ東京親睦会ニ臨マレタル上原、金森、新島三氏、親睦会並ニ東京ノ実況ヲ報道セラル、集ル者凡ソ三百余、満場ナカリシ

〔ママカ〕

○六月一日金曜日、祈禱会、諸氏ノ祈禱凡十四五人、祈禱ノ間殆ント断絶ナシ九時ニ至ルヲ覺ヘス、其熱心ナル未タ曾テ見サル所ナリ、新島氏ノ發議ニテ学校ニアリテ未ダ道ヲ信セサル人々ノ為メニ祈禱会ヲ開ク事ニ決シ、翌夜更ニ祈禱会ヲ催ス

○六月三日、伊勢氏説教ス

○東京ヨリ阪井禎甫氏更ニ悔改シテ東京第一教会ニ属シタキ旨申来ル、当会ニテハ已ニ除名シタル旨ヲ以テ答フ

○六月十六日、本日ヲ初メトシ毎月一回会堂ニ於テ基督教演説会ヲ開ク、新原、三宅、竹原、原田、市原五氏ノ演説アリ聴〔衆〕二百人計

○六月十八日ヨリ四日間、午后七時半ヨリ三十分祈禱、八時ヨリ説教会アリ、初日ハゴルドン、新島兩氏悔改ト云フ事、第二日ハラルネード、上原兩氏信仰ト云フ事、第三日ハワーレン、沢山兩氏聖靈ノ事、第四日ハデビス、松山兩氏祈禱ノ事ヲ説教セラル、聴衆ハ三教会信徒、同志社兩学校生徒、其他合セテ二百五十人乃至三百人余ナリシ

○六月廿三日夜、当夏中伝道ノ事ニ付祈禱会ヲ開キマタ相談アリ

○六月廿四日、新島先生特ニ此度卒業スル人々ノ為メニ説教セラル、終リテデビス氏司礼ニテ晚餐礼ヲ守ル、此日新島氏ヨリ受洗、教会ニ属スル者六名

福島耕造 岡山県 広津友吉 福岡県柳川

堀 正義 愛媛県今治 津田元親 東京ニ於テ小兒洗礼ヲ經、此度認罪入会

○七月初旬ヨリ同志社休業中日曜日説教ヲ休ミ金曜祈禱会ヲ開クノミ

○九月十四日、衆議ニヨリ五島清太郎氏カ天満教会ノ薦書ニヨリ入会スル事ヲ許ス

○九月廿一日、教會員組会組織改正スル事ニ付委員六名ヲ投票ス（牧師ヲ加ヘテ七名也）当撰ノ者左ノ如シ、森田

原田 大西 竹原 村井 湯浅

○九月廿三日、午後二時本会々堂ニテ伝道報告会ヲ開ク、報道ノ各地ハ岩手 安中 福井 長浜 彦根 八幡<sup>ハチマツ</sup>

八幡山城<sup>ヤハタマツ</sup> 亀岡 岸和田 松山 倉敷 笠岡 福岡 大津 合セテ十三ヶ所也

○九月二十九日夜、會員ノ總會議ヲ開キ教会規則ヲ議決ス 又之ヲ印刷スル事ニ決ス

○會員新組分配成リ、九月三十日日曜ヨリ実行ス

明治十六年度第貳教会記録

○十月五日、新規則ニ從ヒ明治十五年度報告会ヲ開ク、市原氏司会、歌ヲ唱シ祈禱畢リ、書記原田助前年度記事略ヲ讀ミ、岡本氏安息日学校報告、執事湯浅氏出納報告、市原氏当一年度ニ於テ會員ニ望ムトコロヲ演ベラル、報告終リテ祈禱会ヲ開ク、デビス氏米国ニテ此數日間伝道会社ノ會議アル事ヲ述ベラル、祈禱スル者四名、役員ノ投票ヲナス、原田助書記ニ湯浅氏會計ニ共ニ多數ニ依リ重任ス、又入会希望者問答委員五名ヲ投票ス、森田、市原、原田、大西、竹原当撰、原田助差支ヘアリテ辞ス、次点片桐氏ヲ以テ之ヲ補フ、此夜集ル者凡ソ八十人余

〔以下異筆・新原俊秀〕

○十月廿六日夜、祈禱会ノ後三事ヲ議決ス、第一、書記原田助神戸女学校ノ聘ニ応セシヲ以テ一時其欠ヲ補ハン為書記一名ヲ撰挙ス、投票ニヨリ新原俊秀之ニ任ス、第二、兼テ入会希望者十二名ニ対シ委員ノ尋問モ終リタレバ此後總會員ノ前ニ於テ問答会ヲ開ク事ニ決シ、其内平井文之助、井上善吉両名ニハ衆議ニヨリ尋問会ニ出ル事ヲ辞ス、其余十名ハ左ノ如シ、松本亦太郎、武市庫太、岡本彦三郎、安田保太郎、上田周太郎、石原直太郎、望月興二郎、加賀山益二、田中左馬二郎、松浦政泰、佐藤忠順、第三、旧約全書翻譯事務ニ関シ全国ヨリ常置委員十二名ヲ撰挙スベキ由東京ヨリノ照会アリシヲ以テ其撰挙法ヲ議シ、先ツ會員ヨリ三名ノ選舉委員ヲ選ヒ此事ニ付万事ヲ依托ス、即指名選舉ヲ以テ新島襄、市原盛宏、森田久万人ニ委任ス

○十一月二日夜、入会希望者十一名(姓名前条ニアリ)ノ為ニ公会全員ノ尋問会ヲ開キ総員ヲ公教ニ受入ル、事ニ決ス、終テ新ニ改正上版セシ公会規則二百部ヲ納メ即夜各一部宛會員ニ分ツ

○十一月四日、新島先生説教、終リテグリーン氏ヨリ洗〔礼〕ヲ受ル者十一名(姓名前ニ出)同氏司礼ニテ晚餐礼ヲ守ル

○十一月十一日、午後二時ヨリ路暢氏記念会ノ説教アリ下村氏之ヲ務ム

○十一月廿四日、午後二時ヨリ第二公会堂ニ於テ基督教説教会ヲ開ク、演者ハ岡本磯雄、三宅荒毅、上原方立、森田久万人ノ四氏ナリ、聴衆三百計

○十二月二日、中島郷治、東京下谷一致教会より転会

○十二月七日、奥野武之助、東京下谷一致教会より転会

#### 明治十七年録事

○一月三日、本日大和郡山ノ教会ヲ設置せられ成瀬仁蔵氏の按手礼執行せらるニ付、第二教会より竹原義久氏臨会あ

り

○一月七日、今夕より例によりて三教会相合シ、一週間の万国共同祈禱会をはしむ

○一月十二日、夜万国共同祈禱会本タヲ以テ終ル、其後受洗志願者六名ノ問答会ヲ開キ一同入会ヲ許スニ決セリ、其人名ハ○平井文之助、井上善吉、土井通憲、志垣要造、山路一三、村田栄次郎ナリ

○一月十三日、午後二時ヨリコルドン教師ノ説教後ラルネッド教師六名（前項ニ記載ス）及ヒ谷口八兵衛氏ニ洗〔礼〕ヲ授ケ、新島先生晚餐礼ヲ司レリ

○一月十四日夜、伝教師渡来後廿五年ニ相当するを以て其記念ノ為感謝祈禱会ヲ開ク（三教会員共に）、畢テ一同熟議の上特別の聖霊を祈求せん為尙此週間毎夜祈禱会ヲ開ク事ニ決ス

○一月廿五日夜、祈禱会後教会組合組替委員を投票撰挙せしに大西、竹原、森田、市原、湯浅、山岡、新原の七氏多数ナリ

○一月廿七日、説教后委員集会して新たに組分をなす

○三月二日、京都五条人婦志<sup>〔士〕</sup> 同まつ兩人の洗礼あり、次に晚餐式を守る

○三月七日、会員福島耕三氏下谷教会へ転会の薦書ヲ送る

○三月十六日、二三週前より往々聖霊に感して其信仰を新にするものあり、今日に至り漸く盛なり

○三月廿三日、前一週間本邦未曾有のリバイバル校中に起りて生命に入るもの甚だ多し、僅々拾数名の人を余すのみ、故ニ本日をして感謝会を校内チャペルニ行ふ

○同廿七日夜、明日を以て休暇中に伝道する人の派出するにより第二教会に於て祈禱会を開く、各地へ派出の人員左

の如し、但し当教会に属せざる人も之を掲ぐ

江州地方へ 奥 亀太郎 堀 貞一 馬場

大和郡山へ 松尾熊五郎

大阪へ 上原 方立 三好 文太 竹原 義久 新原 俊秀

神戸西ノ宮へ 湯浅 吉郎 加藤 山路 一三 亀山 昇

岸和田へ 山岡邦三郎 津田次郎治

丹波へ 岡本 磯雄 千葉 環

是より先海老名、原、辻籌夫の三氏、校中の選挙に当り大阪神戸地方に派出す

四月八日、松尾音五郎氏<sup>(三)</sup>明石教会より転会す

四月九日夜、第二教会に於て休業中伝道の報告会ヲ開く、報告の順序左の如し

神戸今治地方 原 忠美

江州 馬場種太郎

郡山 松尾熊五郎

丹波 千葉 環

八幡 新田 義言

大阪 新原 俊秀

神戸西ノ宮 湯浅 吉郎

岸和田

山岡邦三郎

大阪神戸

辻 籌夫

○四月廿一日、会員米津檜三郎を浪花教会に、大沢芳太郎、馬場精三郎、原田助の三名を神戸教会に薦挙す

○同廿七日、リバイバル後受洗志願者三拾余名の内、衆議によりて貳拾七名の入会を認許し、本日<sup>(せ)</sup>を以て教会員一同の尋問を畢れり、其人名は名簿に詳なれハ略す

○同廿八日、会員芳松勝太郎第三教会へ転ス

○同廿九日、東京第一基督教会へ会員宮下滝五郎転会の薦書を送る

○五月四日、本日ラルネッド教師より洗礼を受入会せしもの総計貳拾七人、姓名ハ姓名簿に詳記す、又森田久万人氏の息女受洗あり

○五月九日夜、第一教会の木山敬太郎氏都合により当会に入度旨の薦書により衆議により之を受く、又在東京の小崎継憲、三宅荒毅、安藤乙松の三氏の望により同地第一基督公会に薦挙する事に決す、又此度新会員貳拾有五名及び志願者六名を教会の組合中ニ組込たり

○五月十一日、在東京の会員小崎継憲、三宅荒毅、安藤乙松ノ三氏を東京第一基督教会に薦挙す

○同十六日夜、兵庫教会への寄附を募る、集金貳円拾銭なり

○同廿三日夜、祈禱会後大阪島の内教会に於て上原方立氏の按手礼式を来月十日執行するに付、委員来会を乞ふの書翰を朗読して相談を開く、然れとも市原氏不在ニて確定せされ共、先づ同氏ニ依頼する事に決す

○同廿八日、去月廿一日神戸教会へ薦挙したる馬場、大沢両氏ニ付ハ未だ該教会に於て承引<sup>(せ)</sup>されず、薦書返却に及

ひたれハ、本日更に原田助氏一名を該教会に薦挙す

○六月十日、大阪島の内教会ニ於て上原方立氏の按手礼執行あり、引繼て伝道会社の集会あるに付、仮牧師市原君を撰て之に臨ましむ

○同廿日夜、祈禱会後今月二十八日ヲ以テ丹波船枝村ニ新教会設置するに付、牧師及委員の派出を乞ふの書面を送られたるにより、相談を遂げ市原、竹内、新原の三氏を派遣することに決せり

○廿六日夜、祈禱会を開く、神戸松山氏、安中海老名氏の演説あり、蓋シ今夜の会ハ夏期伝道者の為にせるなり

○廿八日、本日丹波船枝村教会<sup>\*</sup>設置式執行ニ付、第二教会より委員として新原俊秀を差す

133 公会記\* (明治九年十一月〜明治十一年十月)

第二公会ノ信者

バプテスマヲ受ケル者

西山 昇 奥 亀太郎

西岡善二郎 小谷駒太郎

吉村謙造 寺田正安

堀 謹<sup>金</sup>太郎 清水柳五

同 な み

〔添付〕  
To All whom it may concern  
Greeting, —

The Bearer, Mr. Wada, is a valued Christian friend of mine. He is at present returning to his place as a student of Theology in Kiyoto ; having been absent for some time on account of ill health.

While seeking rest and health with his friends in Tokio, he has attended our services so far as he was able.

I have pleasure in commending Mr. Wada to the confidence & fellowship of any Christians he may meet with during his journey overland to kiyoto. And I trust he may have health & strength given him, for the Gospel ministry to which he has dedicated his life.

George Cochran

Tokio. Mar. 10, 1878.\*

〔添付〕  
「薦書」

書

〔明忠〕  
須田忠明

右者罪を悔改し主基督を信する証を願すニよりバプテスマを受けたるなり、今回便宜之為め地を転するニ就而ハ御地諸兄之愛顧を請ふ

摂州第一神戸公会\*\*

長老

千八百七十六年

第十一月

今村謙吉 印

木村 強 印

〔添付〕  
「薦書」

書

田中伝次郎

右者罪を悔改し主基督を信する証を願するニより、当基督公会ニ於てバプテスマを受たるなり、今回便宜之為め地を転するニ就而ハ御地諸兄之愛顧を請ふ

摂州第一神戸公会

長老

千八百七十六年

第十一月

木村 強 印

今村謙吉 印

明治九年十一月廿六日、第一公会設立ヲ今出川

明治九年十二月三日、第二公会設立ヲ新烏丸頭町

第二公会ノ人数如左

バプテスマヲ受ク者十四五人

外七人

〔欄外〕  
「木村 淳邑」

、金盛<sup>〔森〕</sup> 通倫<sup>ヲチトモ</sup>

×奥村 虎吉

、須田 明忠

○河辺鋤太郎

×大沢 頼道<sup>トモ</sup>

○上原 方立

○徳富猪一郎

×同<sup>トモ</sup> ヌヒ

○田中 伝次

×長岡 徳蔵<sup>トモ</sup>

、山本 咲

、坂井 楨甫

×同<sup>トモ</sup> うた

、同 峯

○亀山 昇

○辻橋 源助

〔補〕  
、新島 是水<sup>ミヅ</sup>

、井手 茂久<sup>〔義〕</sup>

×中川 アサ<sup>トモ</sup>

、新島 ミヨ

、新島 八重

、平井 太郎

The order of exercise

Singing N[o] 20

Prayer

Singing No. 18

Remarks

Singing No. 36

Reading creed  
Baptism prayer  
Reading covenant  
Singing No. 22  
Communion  
Singing No. 11  
Benediction.

十二月十四日夜、金盛通倫ヲ長老、須田明忠ヲ選挙シ執事トセリ

一月十日、初メテレプタ函ヲ作り、信者ヨリ信施ヲ差出ス事ヲ初ム

一月二十日、大坂高麗橋四丁目心齋橋角アタムス氏病院ニ而公会建立、<sup>(保羅)</sup>沢山ポールヲ選ヒ牧師トセリ、十二名入会人アリ

明治十年三月四日

×新島是水、大沢善助兩人、信仰之上バプティスマを受ケ公会ニ入れり

五月十三日、我等聖晚餐ヲ守ル、其時東京メソヂイスト教師ソップル氏の公会ニ属セル兄弟、平野文ソップル氏の薦書ヲ以テ此公会ニ入ル

<sup>(密付)</sup>「Tokio, Japan, Febr'y 19, '77.

This is to certify that Hirano Fumi is an acceptable member of the Tokio Station, Japan M. E. Mission. He is hereby dismissed, at his own request, to unite with a Congregation of the Christian Church, at Kioto, Japan.

Julius Soper,  
Missionary in charge.

〔 4 日 〕 日、支那饑饉ニ逢タル人民ヲ助ケン為ニ、我等レプタヲ集メ之ヲ神戸ニ送ル、此公會ヨリ出タル金高ハ三円  
二十二錢一厘五毛

五月二十日、熊本兵災ニ逢タル人民ヲ扶助セン為、我等再ヒレプタヲ集ム、我等ヨリ出ス所五円三十七錢二厘五毛

六月十八日、宣教師之大集会初マル

同月二十二日、大集会終ル

June 21st

朝 Missionaries meeting

1. The Relation of the churches with each other. Sava
2. The organization of a general missionary Society.

3. Admission of members { Sawayama  
Neesima into the churches. How to proceed both in the organization of new  
Kanamori  
churches and in the admission of members afterwards so that proper candidate only (if possible) shall  
be received.

村上

午後

Administration of the Lord's supper

Sermon

Mr. Greene

Administration of the Bread

沢山

〃 Wine

新島

Mission meeting from 18th  
to 22nd

〔七欄〕  
「明治十年六月十五日、休業

二十一日、大集会

二十二日ヨリ生徒諸方ニ漸出セリ、伝道ノ為」

熊本県第三大区六小区本山村

金森通義弟通倫

岡山県第二大区七番町  
四十番地中川横太郎

十九年

福岡県筑後国第四大区一小区

山門郡新外町三百三十三番地

上州安中

海老名喜三郎

二十歳九ヶ月

熊本県第三大区九小区新屋敷五百五十番地

摂州ミノオ

下村孝太郎

十五歳

同県下第三大区七小区元平村百二十九番地

広島県

森田久万人

十八年十ヶ月

備後国尾ノ路区師〔ママカ〕

松井圭三

同県下第十二大区六小区鏡町百九十番地

岡田宜嫡子

岡田松生

十八年四ヶ月

石川県越中国第五大区十一小区砺波郡

苗嶋村三番邸

河辺正平孫長男

若州小浜西津三味線

河辺銚太郎

堀之士族 中川藤吉

十七年四ヶ月

敦賀晴明町医 橋本鎌吉

熊本県第十一大区三小区阿蘇宮地

士族

井手義敬弟

摂州有馬

井手茂久

津

市原

吉田

兵庫県第十七区摂津国有馬郡

三田屋敷町三十七番地

竹内玄林伴

婦 県

雄四郎

十七年七ヶ月

兵庫県下摂津国有馬郡第十大区

須磨田村

大沢周次郎長男

芳太郎

十七年

熊本県第一大区四小区宮内町二十七番地

小崎弘道

二十一年二ヶ月

彦根連着町<sup>〔連〕</sup>

樋口三郎方行

四大区二小区

猿楽町十七番地

和田正幾

十八年

〔上欄〕  
「九月」

明治十年九月十六日、和田、山崎、伊勢三氏、東京メソヂスト牧師 Cochran 氏ヨリ之薦書ヲ以テ我等ノ公会ニ入ル事ヲ望ミシニ依リ、兄弟ニ彼等入会ノコトヲ議セシニ更ニ異議無キニ依リ、右三氏ノ入会ヲ許セリ

〔上欄〕  
「辻橋源助婚姻ノ事」

十年十月六日、我等公会之兄弟辻橋源助、川辻常ト我之宅ニ於而六日午後三時婚姻式ヲ行ふ、諸公会之兄弟招ニ応シ  
来臨せり

〔上欄〕  
「大沢除名之事」

〔ママ〕  
十月五日、大沢頼道・ヌヒ此夫婦ハ去夏中より来集せさらすのみならず飲酒仕候間、我等屢忠告仕候得共一切不聞容  
候付、去十一日我等協議之上我教会より除名致す

十月十一日、神戸仲宮町三十九番長岡庄三郎飲酒仕候而、更ニ我等之忠告をも不容候ニ付、不得止事十月十一日協議  
之上公会ヨリ除名ス

〔上欄〕  
「月曜日」

十月十五日、同志社生徒中島力造、窪田義衛、伊勢宮、我カインコワヤリー・ミーティングに来ル

十月廿日、神戸公会分派し、<sup>〔ママ〕</sup>多門通ニ公会ヲ設立シ、<sup>\*</sup>横山円造を以仮牧師と為ス、兄弟之數ハ凡十七名、同山田良斉

十月十七日、我兄弟集会之上如何遺宣教師局を設立せん哉を議シ、<sup>〔ママ〕</sup>京師ニ於而ハ第一、〔三〕、三公会より議員二名

ツ、提出シ、協議之上規則等模造すへき事ニ決シ相別レたり

右之決議之事件ハ大坂、神戸、三田之諸公会エ回達し、十一月十七日ニハ大坂ニ於テ集会いたし度申通候

右ニ付大坂兄弟より之返詞ヲ待ツ

十一月廿四日、兵庫戸塚町公会ニ而、本月廿四日村上俊吉兄を撰出牧師となし、我等兄弟四方より集會、午前ハ公会  
及ヒ牧師之試験をなし、午後に到り牧師選舉之儀式を取行ひたり、<sup>※\*</sup>公会之兄弟之數ハ二拾四名なり

十二月二日、中島力造、窪田義衛、上野英三郎、伊勢宮、新ニバ、テスマを受け我公会ニ入ル

豊岡県下第十七大区一ノ小区

丹波国天田郡福知山上紺屋町

二十五番地住平民

中島勘右衛門長男

中島力造

十七年十ヶ月

十一年二月十日、本日横浜之一信徒、左之薦書ヲ以テ我公会ニ加入ヲ求む

薦書

此ノ良人ハ鈴木良光ト云

加藤マサ

此者横浜ニアル主耶蘇基督教会ニ属スル善正ノ信徒ナリ、今將ニ西京ニ移転セントス、故ニ西京ニアル貴会ニ薦挙シ、其交通及眷顧ヲ請フ

在横浜耶蘇基督教会

長老

明治十一年一月廿二日

熊野雄七

在西京耶蘇基督教会

長老御中

〔同文の添付の薦書原本は省略〕

三月一日、金曜日之集会ニ於而我等公会之兄弟伊勢時雄、上原方立、徳富猪一郎、田中伝次、河辺鈎太郎、龜山昇、辻橋源助総七人、デビス氏宅へ伝道之為ニ働く為ニ分派する事ニ決セリ

四月十七日、松尾敬吾、今村慎治、大久保真二郎、木全祝ハシメ、小崎継憲、小泉芳輔、右之六名洗礼を受ケ我公会ニ加入セリ

四月廿四日、高松彝并高松仙、神戸公会之薦書を持ち入会ヲ求ムルニ、我会中ニ加入ヲ許セリ

〔上欄〕  
「聖晚餐ヲ守レリ」

五月二日、金子〔富吉〕元ト熊本ニ於テジェーンズ氏ヨリバプテスマヲ受タリト雖、彼心ノ冷カナルニヨリ是迄何レノ公会ニ加ハザリシガ、今又悔改ノ心ヲ生シ其証ヲ頭ハスニヨリ、此度我輩ノ公会ニ加入スル事ヲ許セリ

〔上欄〕  
「設立以来六月迄会中信徒ノ全数」

明治九年十二月三日、公会設立ノトキ入会スル者ノ数ハ左ノ通

書翰ニヨリ

入会スル者

七人

男六人  
女一人

バプテスマニヨリ

々

十五人

男九人  
女六人

同十年

バプテスマニヨリ入会スル者

六人

男

書翰ニヨリ

入会スル者

四人

除名セル者

四人

同十一年

バプテスマ

六人

書翰

四人 内女子二人

会中ノ者三十八名

十一年一月以来五月ノ末迄出金ノ高 十九円四十銭

伝道会社へ撥金モ此内ニアリ

十一年九月七日、新築ノ家ニ入り、八日ニ初テ新築ノ家ニ於テ説教す

明治十一年一月以来十月ノ末迄、レプタ集金合セテ十四円九十六銭三厘五毛

仕払 十一円〇九銭二厘

残三円八十七銭二厘

同一月ヨリ十月ニ至迄、伝道会社ノ為募リタル金高ハ十六円四十一銭九厘

〔上欄〕

2. 37, 50.

30.

市原ニ出ス  
田中ニ  
宮川

出金ノ總高

14, 96, 35

16, 41, 9

31, 38, 25

└

〔以下添付〕\*

受洗之者

湯浅 治郎 千木良昌菴 深川 克己

荻原 洲平 久保田儀平 上原 春朔

黒川 昌寿 浅田 信芳 山県 昌隆

佐藤 鎌蔵 同 源太 山田 光就

田口 鉦三郎 尾崎 唾磨 森本 成徳

佐藤 ちよ 浅田 よね 千木良その

千木良はる 深川 とう 岡村 せん

黒川 ミな 浅田 たけ 小林 ミね

千木良たか 松本じゆん 湯浅 もと

尾崎 なを 森本 むめ

洗ヲ領セントスル者 ○受洗ヲ願出シ者ノ印

○江場広太郎 ○清水 嘉行 ○黒川 うら

○同 かね ○同 や乃 ○同 つね

○平林 岩吉 ○佐藤 ちつ 小山 定吉<sup>〔豊〕</sup>

○橋本 銚吉 津田 老母 倉林 判次

植栗林四郎

〔上欄〕  
「是ヨリ以下安息日毎ニノミ出席ノモノ」

飯島 いし

田村 さだ

石川光澄ノ母

森本 祖母

湯浅 もよ

134 同志社教会仮牧師辞表

同志社教会仮牧師辞表

昨秋來貴會之御依頼ニ応シ小生義仮牧師ノ職ヲ奉シ參候處、同志社本校之如キ勢前途之盛大ヲ図ラサルヲ得サルノ時機ニ立至リ、為ニ幾多之時間ヲ費シ又幾多之工風ヲ回ラサ、ルヲ得サル次第、且殊ニ小生多年腦病之為ニ苦メラレ、兎角牧師之職分ヲ尽ス能ハサル事ヲ憂居候處、近來心臟病ヲ加ヘ來リ些少之心勞スラ毎度心臟ニ不活潑不規則ノ働ヲ生候故、ベレー師ニ相計候ハ、小生ノ病ヲ治スルハ投藥ノミニテハ其伎ヲ奏セサルヘク、是非トモ小生ノ心勞ヲ減スルニアリト、且可成丈ケハ説教演説等ヲ避ケ牧師ノ任ヲモ可辞トノ忠告有之候付、種々思考ノ后不得止事断然仮牧師ノ任ヲ辞スル事ニ決心致候間、仰キ願クハ諸愛兄姉ニモ小生ノ衷情ヲ諒察セラレ、仮牧師辭職ノ義ハ御承認アラン事ヲ、謹言

廿年三月十六日

新島 襄

同志社教会

御中



## 『脩身學』



135 ホプキンス『脩身学』

〔表紙〕

「脩身学」

〔表紙裏〕

「西京同志社 新島襄」

〔本文・宮川経輝訳・「」で示す補筆（特に朱補、上欄補、朱訂と傍記する）及び圈点（すべて朱）は新島〕

ホプキンス

脩身学

宮川経輝訳ス

脩身学、一名道義学ハ、人類ニ義務ト其ノ理法ヲ教ユルノ学ナリ

律

脩身学ヲ二種ニ類別シ、理論道義、實際道義トス、理論道義ハ愛ノ理法ヲ解明シ、實際道義ハ愛ヲ法理トシテ解明スルナリ

律

理論道義学ハ其趣旨頗ル深遠高妙ニ涉ルヲ以テ、是ハ他日ノ考究ニ譲リ、専ラ實際道義ヲ講明セント欲ス

A 第一類自己ニ対スルノ義務

自己ニ対スルノ義務ヲ尽サンニハ (1)我權利ヲ保持スベキ事 (2)我需要ヲ充タス事 (3)我能力ヲ全スル事 此三法則ヲ遵守セザルベカラス

## 我權利ヲ保持スベキ事

自己ニ対スル義務ヲ尽スニ当リ、必ス保持スベキノ權利ハ、乃チ生命ノ權ナリ、生命ノ權ハ我輩終極ノ点マデ保持スベキモノニテ、自由、財産、声名ノ權ノ如キハ之ヲ視奪セラル、モ、依然愛ノ理法ヲ尽スヲ得ルナリ

〔上欄補〕

〔⊗〕神人間ヲ此世ニ生セシメ、一人ノ一身上ニ多ク人ヲ從属眷顧セシメ、且人毎ニ自己ヲ防禦スルノ天性ヲ賦与シ賜ヒ、一己人ノ生命ヲシテ他人ノ生命ノ如ク貴重ノモノタラシメハ、其ノ生命ヲ保存スル事ハ、一己人又ハ社会ニトリ実ニ必用ノ事件ナリ、依テ暴ニ之ヲ侵スモノアレハ、其レノ生命ヲ取ル愛ノ法ニ叶フノミナラス、實ニ己ムヲ得サルノ義務ト云サルヲ不得

## 我需要ヲ充タス事

愛ノ理法ヲ尽スニ最緊要ナルハ、我需要ヲ充タスニアリ  
需要トハ、身軀心意ヲ養成スルニ必需ノ物ヲ云フ

何人ニテモ此需要ヲ供スルニハ、勤勞セザルヲ得ス、廢疾ニヨリ勤勞スル能ハザルモノヲ除クノ外、皆之ニ從事セサルヲ得ス、或他人ノ勤勞ヲ要スルトキハ、之ニ適応ノ賃銀ヲ払フベキナリ、是聖經ノ殊トニ教示スル所ナリ

## 我能力ヲ全フスル事

我生命ノ權ヲ保持シ、我需要ヲ充セシ上ハ、我能力ヲ全フスル事ニ從事スベキナリ

〔上欄補〕

〔○〕愛ノ理法ニ依ルトキハ、我儕能力ヲ全フスルニハ、他人ニ善ヲ尽スノ道ニ從事セザルヲ得ス

第壹 直接ニ他人ニ善ヲ尽スヤ、我肉体及ビ心意ノ力ヲ尽サ、ルヲ得ス

第二 之ニヨリテ他人ニ間接ノ感化力、勢力ヲ及ボス事

### 第三 之ニヨリテ他人ニ満足ノ念ヲ起サシムル事

○第一章 ○直接他人ニ対シ善ヲ尽スニ当リ、身軀及ヒ心意ノ完全ヲ論ス

此完全ヲ得ルノ法ハ教練ニアリ、肉慾、情願、情愛、智力ノ如キハ、完全ノ身軀、完全ノ心意ヲ養成スルニ欠クベカラザルノ要具タリ、愛ノ理法ニヨレハ、先ツ完全ノ身体ヲ養成セザルヲ得ス、蓋シ其ノ中、強力、美麗、行儀ノ意温行ノ三者ヲ含有スルヲ以テナリ、而テ此三者ハ、各愛ノ行ヒヲナスニ非常ノ補助ヲナスモノナリ

〔身軀ヲ完全ナラシムルニハ、肉慾ニ依ラサルベカラス、之ニ就イテ最注意スベキハ、（第一）之ヲ終極ノ目的トナサ、ルニアリ、第二之カタメ其最上ノ目的ヲ妨害セラレ、其身ヲ賤ムルニ至ル是ナリ、第三不用ノ肉慾ヲ造成スル是

ナリ

〔補〕亜片、アルコールノ類ヲ日々飲料トシ、其レノ奴〔補〕トナルノルイ

身体ニ於テ最上ノ強力美麗温行等ヲ得ルニ健康ヲ保全スル事ハ、行儀身軀ノ助ナカルベカラス

〔上欄補〕

〔肉慾ノ直接ノ關係ト称スヘキモノハ、肉体ヲ成長強壯ナラシメ且人種ヲ繁殖セシムル為ナリ、且縱令肉体ノ要スル所ト雖、敵ニ肉慾ヲシテ制限ノ法ニ順カワシメサルベカラズ、依テ肉慾ヲ仕用スルニ身体ヲ強壯ナラシメ、智力ヲマシ、道德ノ力ヲ盛ナラシムルノ助トナル迄ヲ以テ適度トスベシ〕

〔健康ヲ保全スル事 徳義ノ靈魂ニ於ケル如ク、健全ノ身軀ニ欠クベカラサルハ論ヲ待タスシテ明也矣、身軀ノ健全ヲ保続センニハ肉慾、空氣、躰操、睡眠、衣服等ニ注意セサルベカラス、若シ不幸ニシテ健全ヲ誤ル事アラバ我義務ヲ欠ク而已ナラス、他人ノ厄介トナルニ至ルベシ、豈慎マサルベケンヤ

〔上欄〕

「人若シ其ノ健康ヲ失ヒ種々ノ病疾ニ罹カラハ、社会ノ廢物ト称セサルヲ得ス、且愛ノ法ヨリ之ヲ論求セハ、乃其ノ

法ヲ侵セシ罪ト称セサルヲ得ス

健康ノ法ヲ侵シテ死スルモノモマ、誤テ、解スヘカラサル天命ト云フ、恰モ不潔ノ地方ニチフス病ノ多ク流行スルニ斉シ、自ラ求ムルノ災ナリ、解シ難キノ天命ニアラス」

「<sup>〔補〕</sup> 軀育、健康ノミヲ以テ形体ト力ノ完全ヲ得ス、蓋之ヲ得ントナレハ軀育ナカルベカラス」真正ナル教育ノ趣旨タルヤ、身軀、靈魂両ナカラ養成スルニアリ、即其一ヲ欠クトキハ完全ノ点ニ進ム能ハザル也」<sup>〔補〕</sup>「依テ軀育ハ教育中大切ノモノト云ワサルベカラス、乍去之ヲ過度ニ用ユレハ形体ノ美ヲ失フベシ、且危嶮ノ所為ハ慎テ之ヲ避ベシ」

強力美麗温和ハ<sup>〔補〕</sup>「軀育ト健康ノ好結果ナリ、但強力ハ意志ヨリ発シ他人ニ義務ヲ尽シ得ルモ、美麗温和ハ意志ヨリ生スルモノニアラス、勉メズシテ自ラ顯ハルモノナレハ恰モ」馥郁タル芳香、青々タル綠葉ノ如ク、我儕ノ欽慕愛賞スルモノナリ、我儕當ニ強壯ヲ求ムル而已ナラス、容貌ノ美、衣服ノ麗ヲ求ムル決シテ空漠ノ業ニアラス、温和ノ質ヲ養成スルモ亦然リ、是一金ヲ費サスシテ得ラルベキモノナレバ、宜シク勉メテ求ムベキナリ

### 心意ヲ養成スル事

「肉慾ノ身軀ニ於ケル如ク、情願<sup>〔補〕</sup>ハ「自然ニ発スルモノニシテ、徳義ニ関スルモノニアラサレトモ、之ヲ節制セサルベカラス」、心意ニ欠クベカラサルモノナリ、而テ深く注意セサルトキハ、之ヨリ発起スルノ危害頗ル大ナリ、第害ノ危害ハ人誤テ之ヲ目シテ終極ノ目的トナス是也

「肉慾ニハ天然ノ制限アリ、<sup>〔補〕</sup>「制限アルハ乃チ人充分ニ肉慾ヲ充セハ、真ニ身体ト心意迄モ損害シ、随テ黄泉ノ客トナリ人々ノ忘ル、所トナル」、情願<sup>〔補〕</sup>ニハ之ナシ、故ニ其危害ヤ更ニ大ナリ、人々情願ヲ誤認シテ終局ノ目的トナシ之ニ拝跪スルニ至ル、是ヲ偶像宗ト称ス

〔右欄補〕

①情願ハ甚広シ、情慾ノ為人死ヲ恐テ逃レ、愛金者ハ食物ヲモ滅シテ金ヲタメ、天文学者ハ荃々タル顔色トナルモ厭ワス夜中天体ヲ伺ヒ、英雄ハ諸洲ヲ蹂躪シ政事宗ノ人望ヲ取ラン事ヲ図ルカ如シ

〔家〕

〔上欄補〕

△情願ナルモノハ元來神ニ敵スルモノニアラス、其レハ企テニヨリ生スル惡念ノル〔イ〕ニアラス、去レトモ之ヲ

第一ノ目的トセハ、遂ニ神ニ抗敵スル所ノ賊トナルベシ

〔補〕

〔情愛ニ二種アリ、自然的、道義的是ナリ、自然ノ情愛ハ「自ラ発スルモノニシテ〔風景ヲ愛シ、美ナル花又ハ可憐ナル子供ヲ愛スルカ如シ〕」之ヲ規制スルヲ要セス、寧ロ教養スルヲ要ス、〔道義ノ情愛ハ、心意ノ働キ乃チ撰択ヨリ発スルモノヲ云フ〔情愛モ撰テ而テ後発スルモノヲ云ナリ〕〕

智力ヲ全フスルニハ教養ヲ勉ムルヲ最緊要トス、是大中小其他専門学校アル所以也、苟モ之カ教養ニ怠リ、事ニ臨ンデ失。敗ヲ取ルトキハ其責ニ任スベキモノハ果シテ誰ナルヤ「乃チ自己怠慢ノ罪ナリ」○肉慾ナリ情願ナリ情愛ナリ智力ナリ、之ヲ教養スルハ恰モ工師ノ器械ヲ利スルガ如シ、是元ヨリ欠クベカラザル業ナリト雖、其本源溯リテ自己ヲ教養スルハ、至緊至要ノ業務ナルベケレ、然リ而テ之ヲ教養スルヤ基督教ノ力ヲ除イテ他ニ求ムベキナシ、教会、聖經、牧師、聖靈ノ感動スル所トナリ働クトキハ、人類ヲ脩養スルニ最上無疵ノ制度ニシテ、基督并ニ神ニ均シキノ高點ニ達セシムルニ至ルベシ

〔上欄補〕

〔智力ヲ養成スルハ一己人ヲ立ツル為ノミナラス、愛ノ法ヨリ論スレハ、機関師ノ如キハ其ノ機関ヲ制スルニ当リ、敗烈ノ憂ヒヲ防キ人命ヲ保全スルヲ義務トス、之レ智力ノ働キヲ要スル所、之レニ怠ラハ智力ノ足ラサル所ヨリ生スルモノナレハ、智力養成ニ怠リシモノナリ○医師、代読人、説教家等ニテ、其智力ノ養成ニ怠タリ人ヲ救ヒ助ケ得サレハ乃チ怠慢ノ罪ト云ワサルベカラス

〔上欄補〕

「人常ニ神ノ声人心中ニ談セリト、又聖書ニ曰ク、光ハ世ニ来ル所ノ各ヲ照ラスト、是レ乃チ神ノ靈直ニ人間ノ靈ニ来テ働クヲ云フ○道心ノ神ノ靈ニ応スルハ、恰モ花ノ日ノ光線ト温氣ヲ受クルニ適シ、日ノ動クニ順ヒ自然日ノ方ニ向フカ如シ、人若シ己ノ心ヲトゾ、又神ニ請求スル所ナク、随テ神ノ補助ト、感化力ヲ受ケサレハ、肉慾ナリ情願ナリ情愛ナリ智力ナリ、決シテ宜キニ叶ヒ之ヲ仕用シ得サルベシ」

## ○第二章 間接ノ感化力ニ関シテノ完全ヲ論ス

他人ニ善ヲ尽スニ当リ、第二種ノ働キハ間接ノ感化力乃チ善良ノ模範ヲ示スニアリ、若シ下等ノ情慾ヲ認メテ最上ノ目的トナストキハ、則情願情愛等ノ高等質ヲ誤ル甚タ大ナリ、人ハ社会的動物ナレバ、同情相感シ同氣相求ムルノ性アリ、楠氏ノ風ヲ望ンデ諸国勤王ノ士勃起シ、隣国ノ災厄ヲ聞イテ博愛ノ士輩出スル等、皆感化力ノ然ラシムル所ナリ、此感化力ニ最モ感染シ易キハ兒童ノ通習ナリ、孟母三遷ノ教其例証ナリ、一ノ善行ハ数万言ノ教訓ニ優ルト、真ナル哉言ヤ、假令ワレ諸ノ人ノ言及ビ天使ノ言ヲ語ルトモ、若シ愛ナクバ鳴ル銅ヤ響ク鏡鉢ノ如シ、豈慎マザルベケシヤ

〔上欄補〕

「※人若シ誤テ此下等ノ情慾ヲ最上ノ目的トセハ、直ニ其ノ人ノ人ト如何ヲ定メ、其ノ勢力モ其ノ成長スルモ、其ノ下等ノ品格ヨリ脱スル能ワス、実平均ヲ失シタル樹木ノ如クナルベシ、上昇ノ汁止メラレ遂ニ見ルベカラサル<sup>〔ママ〕</sup>□体ヲ為スニ至ル

○人若シ勉メテ真ノ高尚最上ノ目的ニ達スルヲ得、初メテ其ノ品格タル平均ヲ得タル物ノ如クナルベシ

間接ノ感化力ハ少年ノ時ニ於テ最盛ニ功ヲ奏スルモノ也、少年ノ如キハ実言語ヲ以テ訓導スルヲ要スルモ、其ノ周囲ニ目撃スル所ノ者ヨリ受ル感化力ハ殊ニ大ナルモノナリ

○大人君子ノ起ルモ、多分ハ大人君子ノ感化力ノ間接ニ及ホセシ所ナルベシ

●故ニ好キ模範ハ遙ニ好キ教訓ニ優ルト、好キ手本ヲ捨テ徒ニ人ヲ訓導セントスモ無益ノ事ナルベシ

○世ノ教師、伝道師ノ教ユル所アリテ為ス事ナキノ害ハ殊ニ甚シ、蓋シ彼等唯言フノミニシテ行フ事ニ敏ナラサル也」

第三章 満足ノ念ニ関シテ完全ヲ論ス「乃他人ニ満足ノ念ヲ生セシムル事」<sup>〔朱補〕</sup>

自己ノ性質ヲ教養スルニヨリ他人ニ益スル第三法ハ、則チ人ヲシテ満足ノ念ヲ發起セシムル是ナリ、万物皆悉ク艷美宏壯ニシテ、我儕ノ享有スベキ欲樂ノ清淨純粹ナルモノ、淵源タリ、然リ而シテ最我儕ニ満足ノ念ヲ与フルモノハ、品性<sup>格</sup>ヨリ発スル道義上ノ感念ナリ、其淵源神性ニ存シ又人質ニ求ムベキナリ、若シ人基督ニ倣ヒ其品性ノ美ヲ脩養セバ、凡ソ世上ノ文学美術皆悉ク至高至美ノ欲樂妙美ヲ呈スルニ至ラン、且又有形物ノ艷美ヲ増スハ愛ノ業務ニシテ、造化ノ美ヲ妨害スルハ覆載<sup>ノ</sup>間、容ルベカラサルノ罪惡ナリ<sup>〔楠補〕</sup>徳性ノ進歩シタル社会ニ於テ、人々ノ品格ハ殊ニ清淨ニアリ、人々ノ依テ得ル所ノ欲樂モ殊ニ大ナルベシ」

第四章 神ノ榮光ニ関スル完全ヲ論ス

人ニ善ヲ尽スヤ、必ス先ツ吾人ノ能力ヲ完全ノ点ニ進メザルベカラス、吾人ノ神ニ仕ヘ、神ノ榮ヲ顯スモ亦然リ

「神<sup>〔上欄補〕</sup>ハ其ノ完全ナル事ヲ顯ワシ、其ノ智ト云、カト云ヒ、尽ク完全ナルヲ以テ榮ヲ受クル事ナレハ、神ハ其ノ徳性ト

其ノ支配ノ法方ニ於テ完全ナルニヨリ、其ノ像ニナラヒ造ラレタル人類ヨリ愛敬従順セラル、ニヨリ、益其ノ榮ヲ顯セリ」

我儕我品性ヲ脩養シ、仰イデ天ニ恥ヂス、俯シテ地ニ恥ヂザルノ士君子トナリ、以テ神ヲ敬崇セバ則チ神慮ニ適合ス

ルナラン、然ラハ則チ我品性ヲ脩養スルハ神ヲ敬スルノ基、否之ヲ指シテ直チニ神ヲ敬スト云フモ謬言ニアラザルナリ

## 第五章 自己ヲ愛スル事ノ完全ヲ論ス

※聖經ニ曰ク、爾ノ隣ヲ愛スル己レノ如クセヨ、神ヲ愛シ隣ヲ愛スルハ自己ヲ愛スルノ最良法ナリ、エドワルド曰ク、

神聖ノ徳義オカルタ乃神聖ナル心意マインドノ徳ハ、殊トニ己ヲ愛スルノ愛ニ存スルナリ

〔上欄補〕

「※以上論シタル所ハ、乃チ他人ニ向ヒ神ニ對シテ愛ヲ尽サンカ為、己ノ完全ヲ要スル所也、又己ノ完全ヲ要スル所ヨリ己ヲ愛セサルベカラス、己ヲ愛スルハ我儕ノ逃ルベカラサル義務トモ云ベシ」

## 第六〔章〕 慣習

人ノ此世ニ生出スルヤ慣習ヲ造成スルノ傾向アリト雖、慣習ヲ備エテ出ルニ非ルナリ、夫レ慣習ニ二種ノ別アリテ、数々能力ノ作用ヲ試ミテ成ルモノヲ自動慣習ト云ヒ、〔シバシバ〕数情念ヲ感動スルヨリ成ルモノヲ受動慣習ト云フ、〔一〕元來慣習ハ意志ノ管スル所ニシテ、自ラ造成スルモノナレバ、其慣習ノ如何、并ニ之ヨリ起ル所ノ事件ハ、各人其責ニ任セザルベカラス、且又慣習ナルモノヲ養成スル目的ハ、容易ニ業務ヲナシ、之カタメニ費ヤス精神ヲ保持シ、他ノ新事業ニ從事スルニアレバ、慣習ニ束縛セラレサルヤウ注意スベキナリ、〔三〕善良ノ慣習ヲ造成スルハ当然ナレトモ、醜惡ノ僻習モ亦随テ醸成スルモノナレバ、深ク注意セザルトキハ不可測ノ危害ニ陥リ、生涯之ニ仕役セラル、ニ至ルベシ、〔四〕故ニ慣習ヲ造成スルヤ、必ス業務ノ位置ヲ変スル毎ニ愉快ヲ覺ユル如クスベシ、仮令ハ日常珍膳佳味ニ飽ク者ハ、其他行スルニ当リテハ大ニ困却スル事アルベシ

〔上欄補〕

「ペーレー氏曰ク、平常慣習ヲ定メオキテ其ヲ変スルトキハ、一層進ミタル好キ慣習ニ移リ行ク事ヲ勤ムルハ、賢キ

法ト云ベシ」

然リ而シテ常ニ牛酪蒸餅〔朱補〕「貧人ノ常食」ヲ食スル者ハ、何ノ地ニ至ルモ佳味珍膳ノ饗筵ニ与ツカルヲ得ルナリ、是其

食ノ味如何ニヨルニアラス、其慣習ノ然ラシムル所ナリ、賭博ヲ事トスルモノモ耕作ニ従事スルモノモ、同ジク日子

ヲ費ヤスナリ、而モ甲ハ其業ヲ妨ゲラル、ニ遇エバ頗ル苦難ノ色ヲ〔アラワ〕形セトモ、勤勞者ニ取リテハ其事業ヲ妨ゲラル

ル〔ニ〕当リ、却テ休憩ノ基トナルナリ

「故ニ安息日ノ二人ニ及ホス結果モ順テ異ナリ、一人ハ之ヲ得テ休憩ノ日トシ樂ミ、他ノ一人ハ之ヲ得テ苦難ニ堪ヘ

難キ困厄ノ日トシ、甚之ヲ嫌厭ス」

受、動ノ慣習ハ数情念ヲ刺激スルヨリ發起スルモノニテ、数同一ノ事ニ遭遇スル毎ニ感動ノ念漸薄キヲ覺ユルナリ、

「〔補〕自動慣習ハ屢操回セハ益其ノ力ヲ得ルモ、此慣習ノ如キハ、屢之ヲ試ムレハ弥感動ヲシテ弱カラシム」、ボトロル

曰ク、人能ク德義ノ説ヲ思考シ、巧ミニ之ヲ人ニ伝エ、或ハ之カ図画ヲ造ルモ決テ德義ノ慣習ヲ養成スルニ至ラス、

却テ毫モ感動セザルニ至ルベシト、此言ヤ真ニ当世人身ノ組織ニ於テハ然ルモノ、如シ、而シテ我儕知識感情ノ地位

ニ進ムトキハ、則飯令数千回同事ノ感動ヲ受クルモ、豈ニ感念ヲ發起セサルノ理アラシヤ、恐ラクハ第宅歩ノ感動ノ

如ク、尚其新タナルヲ覺ユルニ至ルベシ

# B 我同胞ニ対スルノ義務

我同胞ニ対スル義務ヲ別ツテ二種トナス

○人類ヲ人類トシテ尽スノ義務

○特殊ノ関係ヨリ起ルノ義務

〔上欄補〕  
「自己ヲ愛スル事ト、他人ヲ愛スル事ノ關係」

我儕同胞人類ヲ愛セント欲セハ、則チ自己ノ能力ヲ完全ノ点ニ進メザルベカラス、他人ノ我ニ於ケルモ亦然リ、我儕ハ社会的動物ナレハ、我利益歡樂ハ同胞景狀進歩如何ニ関スルヲ以テ、彼ノ幸福ヲ増加スルハ乃我幸福ヲ増進スルト云フベキナリ、我同胞ニ於ケルヤ己ヲ愛スル如ク隣ヲ愛スベシトノ聖詞ニ則リ、我自ラ己ノ為ニ為サント欲スル事ハ他人ノ為ニ尽サ、ルベカラス、我儕自己ノ能力ヲ發達シ、我需要ヲ充タシ、我權利ヲ保持セント欲スルヲ以テ

(一)他人ノ權利ヲ貴重シ、止ムヲ得サルニ当リテ彼等ヲ扶助シテ、其權利ヲ得セシメ、(二)其需要ヲ充タシ、(三)其能力ヲ完全ノ点ニ進メシメサルベカラス、然リ而シテ神ノ制定スル所ノ關係組織ニ從テハ、一般ノ人ヨリモ特殊ノ人ヲ保護扶助セサルベカラス、親ノ兒子ニ於ケル、夫ノ婦ニ於ケル等皆其類ナリ

人類ヲ人類トシテ尽ス義務

### 第一權。利。

※權利アレハ則チ義務アルハ理勢ノ然ラシムル所ナリ、夫レ權利ヲ保護スルヤ消極ノ誠命乃チ勿為ノ語ヲ以テスルナリ、〔補〕「權利ハ他人ニ屬スルモノナルニ、之ヲ奪取ラントセハ暴行圧制ヲ加ヘサルベカラス、依テ勿為ヲ以之ヲ戒ム」、愛ハ決シテ他人ノ權利ヲ妨害セザルナリ、愛ハ必ス人ノ權利ヲ貴重シ之ヲ保護スルナリ、大凡人タル者ハ自由ニ動キ、自由ニ食シ、自由ニ能力ヲ發達スベキモノナレバ、則チ之ヲ發達スルニハ天賦ノ權利ヲ有シ、而シテ此權利ノ高尚ナルト否トハ其人ノ目的如何ニアルナリ

〔上欄補〕  
「此等ノ事ヲ為スニ自ラ其ノ目的アリ、目的アレハ其レニ適應ノ權利アリ」

※權利ニ二種アリ、物品所有ノ權、人類ノ權是ナリ

○物品所有ノ權トハ、自己ノ目的ヲ達スル必需ノ物ヲ使用スルノ權ニテ、我之ヲ占有スルトキハ他人ハ之ヲ褫奪スベカラス、即チ之ヲ褫奪セントスルモノアルトキハ之ヲ護衛スルヲ云フ

○人類ノ權トハ他人ヲシテ其目的ヲ達セシムルノ權ニシテ、親ハ兒子ヲシテ其命ニ從ハシムルノ權アリ、兒ハ其權利ヲ貴重スルノ義務アリ、親ハ其權利ヲ賦与セラレタル目的ニ背馳セザルヤウ、兒子ノ為ニ之ヲ使用スルノ義務ヲ有スルナリ

權利ノ由テ起ル所ハ其目的ニ関スルヲ以テ、其制限タルヤ又目的ニ関シテ存スルナリ

〔上欄補〕  
「人縱令己レノ權利ヲ使用シ得ルモ、天ヨリ賜リタル目的ノ外自由ニ之ヲ使用スヘカラス、且人己ノ權利ヲ使用スルニ当リ、他人ハ之ヲ干涉シ得サルモ、己ノ所有品ヲ無益ニ浪費スルノ權ヲ持タサルベシ」

何人ニテモ他ノ干涉ヲ受ケスシテ、独リ其目的ヲ達スルノ位置ニアリトセハ、天地ノ間之ニ干涉スルノ權ヲ有スルモノナシ

〔上欄補〕  
「此ノ理ヨリ之ヲ論スレハ、神ヲ支配スルノ權ハ到底得ベカラス、且神モ造物者ニシテ力アル所ノ点ヨリ人類ヲ支配スルニアラス、乃人間ノ目的ヲ達セシメン為ニ必要ナル点ヨリ人間ヲ支配シ賜フ事ナルベシ、且人間ノ政府ナリ父母ナリ人民又子女ノ目的ヲ達セシムルニ必要ナル事アレハ、止ム事ヲ得ス之ヲ支配スヘシ、此ノ高尚ナル目的ニ出テスシテ、只々他人ヲ使用シテ己レノ目的ヲ達スルヲ計ル者ハ、人類ヲ物品ノ如ク使用スト云ヘシ、一己人之ヲ行ハ人ヲ奴隸使スルモノト云ヘク、政府若シ之ヲ行ワハ暴圧政府ト称スベシ」

又權利ニ天權人文ノ權アリ

天權トハ物品ノ權、人類ノ權ヲ總括スルモノニテ、人其目的ヲ達センタメ空氣、光、水、及其生産物〔人作ニ関セサ

ルモノ、并己ノ作リタル產物等」ヲ享有保持スルヲ得、又父母ハ兒子ノ恭順ヲ求メ、兒子ハ父母ノ覆育恩愛ヲ仰クノ權ヲ云フ

人文ノ權トハ社会ノ通義ヨリ起ルモノニテ、撰挙權、被撰權ノ如キ是ナリ、<sup>〔補〕</sup>人間中誰一人モ生ナガラ支配人、審判官、府県令タ「ル」モノナシ、是尽ク人爲ニ拘ルモノナリ」

權利ニ讓与スベキモノト、讓与スベカラサルモノアリ

讓与スベキノ權利ハ法律ノ許ス所ニテ、他人ニ讓与スルモ可ナルモノヲ云フ、財産ヲ讓与シ兒子覆育ノ權ヲ他人ニ托スル等ノ如キ是ナリ

不可讓与ノ權トハ、其終局ノ目的ヲ達スルニ必需ノモノニシテ、他人モ亦之ヲ褫奪スベカラサルモノナリ、生命ノ權利ノ如キ是ナリ

大凡權利ハ目的ニ基ヒスルモノナレハ、人タル者ハ皆悉ク同一ノ目的ヲ有スルヲ以テ、其權利ニ差等アルベカラス、固ヨリ人ノ天性位置ヲ論スルトキハ千差万別アリト雖トモ、自己ノ目的ヲ達セン為賦与セラレタル天父ノ恩惠、方便ヲ享有使役スルノ權ニ至リテハ、同一ナラサルベカラサルナリ、人アリ疑問ヲ發シテ曰ク、兒子ノ生出スルヤ皆悉ク同等ノ權利ヲ有ス、而モ其質微弱ニシテ独リ生存スル能ハサルヲ以テ、多年ノ間人ノ干涉ヲ受ケサルベカラス、若一種ノ蛮族アリ同一ノ景状ニアリトセバ、兒子同様ニ処スベキヤ、是実ニ緊要ノ問題ニシテ深ク我儕ノ思考ヲ要ス、今世ニ痴愚廢疾ノ者アリ、自ラ生存スル能ハサルヲ以テ他人ノ干涉ヲ要スレトモ、一種族ニシテ斯ル景勢ニアリトスルハ蓋シ皇天ノ化育ニ欠クル所アリト論ニシテ、天下ニ如此種族アル事ナシ

○愛ノ理法ニヨルトキハ初歩ニ可及的權利ヲ与エ、其如何ヲ試ミ、果シテ自衛ス能ハスト認ムルトキハ法律ノ許ス所

ニ從ヒ、後見人ヲ置キ扶助スベキナリ○<sup>〔補〕</sup>「之ヲ為スハ他人ヲ物品ノ如ク使用シ、又自己ノ為ノミニ使用スル、彼ノ人ヲ奴隸使スル輩ノ精神トハ大ニ異ナルベシ」

人々其目的ヲ達セシメ、天ヨリ賦与セラレタル權利ハ、則チ公義ヲ要求スルノ權ナリ、公義トハ各人ニ權利ヲ得セシムルノ理ニシテ、人已ニ其權利ニ欠クル所ナク占有ストセバ、是公義ヲ得タルノ人タリ、神ノ公義ハ人ニ權利ヲ得セシムル而已ナラズ、心意ノ善惡ニ從ヒテ審判ス

「人ノ罰スル所ハ、已ニ顯ワレ」タル行為ニ關ス、神ノ罰スル所ハ心意ノ起端如何ニ關ス、人ハ先ハ行為ヲ見、而シテ后心意ノ起端ニ及ホス、且或ハ其ノ起端如何ヲ想像シ之ヲ罰スル事アルモ、其ノ起端ノ惡ヲ責メ「ズ」シテ、

其ノ社会ニ害ヲ及ホサン事ヲ恐テ之ヲ罰スル也、故ニ真ノ罪惡ヲ審斷シテ罰シ得ルモノハ、唯神ノ手ニアルノミ、人ニ於テハ其ノ權利ヲ保護センカ為、之ヲ妨クルモノヲ罰スルハ、全ク社会ノ權利ヲ維持保全ナラシメン為ナリ、決テ真ノ罪惡ヲ惡テ之ヲ罰シ「テ」足レリトスルノ類ニアラス

○權利アレハ則保護ヲ要求スルノ權ナカラサルベカラス、<sup>〔補〕</sup>「若シ保護ノ權ナキトキハ」物品所有ノ權ハ無効ニ属スルナリ、「故ニ保護ヲ要スルノ權ハ法律中ニ編入セラレタリ、人アリ若シ他人ノ權利ヲ褫奪セントノ恐アルトキハ、其ノ人ハ必ラス社会安寧ノ為必ラス適応ノ所分ヲ受ケ、其ノ行為ヲ妨ケラレサルベカラス」

第二<sup>〔上欄補〕</sup>人権、生命、自由

「存立」各人其天性ニ存スル目的ヲ達センニハ、必ス先ツ生命ヲ保持セサルベカラス、然リ而シテ之ヲ保持スルヤ、保護及自由ヲ要求スルノ權アリ

生命ノ權ハ諸般ノ權利ノ発出スル所ナリ、是則十誡ノ之ヲ保護シ、独立ノ檄文ニ不可譲与ト認ムル所以ナリ、然リト

雖トモ犯罪若シクハ操節、国事ノタメ之ヲ失ヒ或ハ棄擲スル事アリ

生命ノ權ヲ失フハ、左ノ条目ニ依ル

○第一条 人ヲ殺サント企ツル者、自己ノ生命ヲ保護センタメ止ムヲ得サルトキハ、他人ノ生命ヲ取ルノ權アルハ各  
国ノ法律、各人ノ許ス所ナリ

○第二条 夜中人ノ家屋ヲ破毀スルカ、若シクハ竊盜ヲ企ツル者

第三条 施法ノ官吏ニ抵抗スル者、<sup>〔補〕</sup>人民反叛ヲ図ルトキ、警視官ヨリ解散ヲ命シタルニ其ノ命ヲ受ケサルトキハ、  
官吏ヨリ之ニ砲撃スルノ權アルベシ」

○第四条 謀殺ヲナス者

「<sup>〔上欄補〕</sup>謀殺ヲナスモノハ死刑ニ処スルハ昔時ヨリ之ヲ公許シ、又聖經ニモ之ヲ命スル所ナリ、此刑ヲ行フハ決テ暴惡ノ点

ヨリ生スルニアラス、乃チ人命ヲ貴重スルヨリ発シタルナリ、法律中ニ人ノ血ヲ流カセシモノハ人ニヨリ其ノ血モ  
流サルベシ、ソハ神其人ヲ己ノ像ニカタドリ作り賜ヘハ也、依テ死刑ヲ行フノ意ハ死ヲ輕スルニアラス、乃チ人命ヲ  
重スル以謂ナリ○人命ヲ取ルノ權ハ、直接ナリ間接ナリ神ヨリ出テタルモノトス、乃直接ニハ神ノ示スル所ニカ、  
ワリ、間接ニハ人間政府ノ目的ヲ達スル為止ムヲ得サル所ヨリス○政府ハ乃チ神ノ命スル所トシ、又政府ニシテ社  
会安寧ヲ計ルニ必要ノモノトセハ人命ヲ奪ワサルベカラス、是乃チ社会ノ要スル所也」

p.181.

○自由ノ權トハ、則他人ノ自由ヲ妨害セサルトキハ、則何事ニテモ自ラ為サント欲スル事ヲナシ得ルノ權ヲ云フ、是  
又不可譲与ノ權ナリ、而モ其幾分ヲ損スルモ人類最上ノ目的ヲ達スルニ便ナリトスルトキハ、之ヲ損スルハ各人ノ自  
由タリ <sup>〔下欄米〕</sup>「自由ノ權」

〔補〕人權ノ内ニ自由ノ權ヲ含有セシムベシ、此權ハ撰択ノ自由ヲ云フニアラス、乃チ撰択ヨリ生シタル事ヲ自由ニ履行シ得ルノ權ヲ云フ」

○所有之權

○所有ノ權ハ稟性ノ情願ニ存スルナリ、是則時ノ古今ヲ問ハス、海ノ東西ヲ論セス、一般ニ確認スル所ニシテ、文化ノ社会ニ於テハ一主重ノ原素タリ

○各人其勤勞ヨリ生スル物品ヲ專管專用スルノ權ナシトセハ、器具衣服ヲ製シ、家屋ヲ建設シ、耕作ヲナスモノナカルベシ、於是ヤ一人ノ勤勞スルナク、進歩モ從ツテ消滅スベシ

○之ヲ史乘ニ徵スルニ、社会ノ進歩幸福ハ各人法理ノ許ス所ニ從ヒ、財産ヲ所有スル自由ノ伸暢ト、之ヲ專管專有スルニ保護ノ鞏固ナルトニ由ルヤ昭々タリ、即チ国内至ル所勤勞ノ自由アリ、專管專有ノ保護普キトキハ、其国ノ政軀如何ニ論ナク其富豪ヲ招クヤ又瞭然ナリ

〔上欄補〕

「各国政府ノ法律タル、多クハ此所有ノ權ニ係ワルモノトス、法律保護ニヨリ財産ヲ得、又之ヲ運搬シ得レハ、又法律ニヨリ此ノ權ヲ妨害スルモノヲ罰スベシ」

○物品取有ハ念ハ愛心ヨリ發起スルナリ、蓋シ人ニ益センタメ給与セント欲セバ、必ス先ヅ取有セザルベカラサルナリ、私慾心ヨリ物品ヲ取有セント欲スル念ハ、怠惰濫用ニ勝ルト雖トモ決シテ勸奨スベキモノニアラス、「ケント」

〔補〕

氏曰ク「近來財産共有説ヲ主張スルモノノ考フル所ニヨレハ」今日社会ニ不正不義アル所以、政軀ノ善良ナラザル、制度ノ穩当ナラサル、職トシテ各人物品ヲ專管專用スルニ基ヒセザルナシト、然リト雖トモ此説ニシテ一般ニ行ハレナバ、人間社会ノ形状如何ナル苦域ニ陥ルヤ預知スベカラス、夫物品所有ノ念タル、人類ヲ勸奨勉勵セシムルノ

要具ニシテ、土地ヲ開墾シ政府ヲ建設スルモ、皆之取有ノ自由ヲ得ンタメニシテ、我輩ノ安樂ヲ享クルモ、製造貿易ノ隆盛ニ赴クモ、博愛ノ情ヲ發スルモ、所有ノ情念与リテ大ニ力アル所ナリ

○物件ヲ直接ニ得ルノ道

○第一条 自己ノ用ヲ達センタメ、天ヨリ衆人ニ賦与セラレタル物件ノ幾分ヲ取有スルニヨル、空氣、日光ノ如キハ天賦ノ物件ト雖トモ、専有スル能ハサルヲ以テ我所有トナスヲ得ス、然リト雖水陸ノ天生物、并ニ自己ノ生計ノタメ必要ト認ムルタケノ土地ハ、取有ニヨリテ我所有トナスヲ得ルナリ

第二条 所有ハ勤勞ニヨリテ得ラル、ナリ <sup>〔補〕</sup>「○勤勞者ハ己レノ為セシ勤勞ノ価ニ向ヒ有スル權アリ」

物件ヲ間接ニ得ル道

○第壹条 交換 <sup>〔補〕</sup>「譬ヘハ金ヲ出シテ物品ヲ求ムルノ類ナリ」

第二条 賜与

第三条 遺言 <sup>〔補〕</sup>「遺言ニヨリ財産ヲ与フルノ權ハ文明國ニ行ワル、所ナリ、此ノ事タル自然ニ發シ、又社会ニ於テ

大ニ益スル所アリ」

第四条 遺物 <sup>〔補〕</sup>「人死シ、遺言ナクシテ財産ヲノコストキハ、法律ニ順ヒ其ノ人ノ親族中ニ分配スルヲ得ベシ」

第五条 増息○吾ノ所有タル者ヨリ更ニ一物ヲ生シ、遂ニ長息肥大ニ至ル時、是人力ニヨルト天然ニ出ルトニ拘ル事ナシ、譬エハ我國樹ノ果ヲ結ヒ吾家畜ノ兒子ヲ産スルカ如シ、又川海吾ノ疆内ニ流注シ一沙堆ヲ生スルカ如シ

※第六条 所有○爭訟ヲ防クタメ、物件取有ノ法如何ニ論ナク、法律上ニ制限ヲ定メ、其制限外ニ於テ人ノ所有ヲ妨

グル事ナカラシム <sup>〔補〕</sup>「財産所有ノ權タル、何人モ何レ〔ノ〕政府モ、之ヲ同価ヲ以テ購求スルノ外、暴ニ之ヲ奪

取ルノ権ナカルベシ、且其所有主タルモノハ、他人ノ権ヲ妨ルニアラサレハ、己レノ意ニ順ヒ之ヲ仕用シ得ベシ」  
 所有財産ニ二様ノ別アリ、土地并ニ之ニ附属スル家屋、樹木、森林ノ如キ、容易ニ動カシ能ハザル物ヲ不動産ト称シ、其他ヲ身属品即チ動産ト称ス

何品ニ依ラス財主ノ許可ヲ経ザルカ、若シクハ欺詐ノ術ヲ以テ之ヲ取有スルトキハ、則所有ノ権ヲ妨害スルモノナリ

○暴行脅迫ヲ以テ財物ヲ強取スルヲ強盗ト云フ

○夜中人家ニ立チ入り財物ヲ竊取〔朱訂〕「奪掠」スルヲ「破屋」賊ト云フ

○財主ニ告ケス、又ハ許可ヲ得スシテ財物ヲ竊取スルヲ竊盗ト云フ

○陰密若シクハ誣告ノ手段ニヨリ財主ヲ欺キ、〔朱補〕「同価ヲ与ヘ〔ズ〕シテ他人ノ」財物ヲ取ルヲ詐欺取財ト云フ

○賈札ヲ以テ財物ヲ買取スルヲ騙取ト云フ〔上欄補〕

「人身上ノ権」

強盗ハ人類所有ノ両権ヲ妨害スルヲ以テ、其罪最重シトス、賊ハ保護所有ノ権ヲ犯スヲ以テ、其罪之ニ亞クモノトス

○所有ノ権タルヤ貴重ニシテ、敢テ犯スベカラサルモノタリト雖、社会ノ公益若シクハ人命ニ比較スルトキハ、則其支派ニ属スルモノタルヲ以テ、各政府ニ於テ之ヲ認可スルトセバ、社会ハ乃公法ニ従ヒ应当ノ弁償ヲナシ、公衆ノ便利并ニ安全ノため私有物ヲ没収〔朱訂〕「売得」スルノ権アリ、且一個人ト雖トモ自己ノ生命ヲ保持センため、食物トシテ財物ヲ取ルノ権アリ

○財物ヲ取有スル事ニ付テ心得、ベキハ、何品ニヨラス之ヲ取ルノ際、財主ノ見聞ニ触ル、ヲ好マサルモノハ、一切之ヲ取ラサルヲヨントス

財物ヲ交換スルヤ、双方共其交換品ヲ熟知セサルベカラス、交易ニ於テハ財物ノ実価ヲ論セス、双方ノ便利并ニ嗜好ヲ思考スルニアリ

○財物ハ賜与交換売買ニヨリテ永世正シク譲与スベキモノトス、且ツ賭博ニヨリテモ亦然リ

○正當ノ交易タルヤ双方大ニ益スル所アリ、且勤勞練熟ノ美質ヲ勸奨スレトモ、賭博(補)ニ(サイ)ノルイハ之ニ反シ、一方ハ益ヲ得ルモ他ノ一方ハ大ニ損スル所アリ、且怠惰惡業ヲ奨励スルヲ以テ、決シテ為スベカラザルモノタリ

○人アリ之カ説ヲナシテ曰ク、財物ヲ分配スルニ偶然ニ出ルモノハ皆稱シテ賭博トナスカ、否然ラス、其發意結果ニヨリテ定ムルモノトス

(補)圖ヲ以画ヲ与ル事ナドハ如何、一画ナドヲ人ニ価ヲ自ラ取ラス、之ヲ取ルハ何ゾ、人ノ為ニ為スノ意ナレハ、如斯キ事ヲ為ハ己ノ為ニシ、又己ノ利益ノ為ニスルニ非ラ(ザ)レハ之ヲ賭博ト比スベカラス、若シ之ニヨリ賭博ニオチイルノ憂アラハ之ヲ避クベシ

百九十  
○投機商ハ価銀ノ高低ヲ見込テ、預メ売買ヲ定ムルモノナリ、故ニ定価ノ物品ニ付テハ行ハレザルナリ

(上欄補)○投機トハ、本来ノ価如何ヲ試ミルヲ云フ、賭博ト違ヒ、ナキモノヨリ或ル物ヲ得ルノ類ニアラス、双方合点ノ上物品ノ売買ヨリ為ス事ナレバ、賭博ト同一視スベカラス

第壹条 (補)「双方共価銀ノ高低スル理由ヲ知ルトキハ、則チ各人ノヲ稱シテ当然ノ商法ト云」

〔補〕  
「第三 壺方ノミ」価銀ヲ高低スルノ勢力ヲ有シ、且ツ其高低ヲ生セシメンタメ商業ヲ営ムトキハ、各人之ヲ称シテ誑騙ト云フ

○第三条 若シ買客而已、非常ノ事變ヨリ必ス物、価ノ騰貴ヲ来スト知ルトキハ、之ヲ以テ自己ノ利ヲ占有スベキヤ、此問題ニ付テハ諸家ノ説一ナラス、今之ニ答エンニハ左ノ条件ヲ熟考スベシ

一 社会ハ常ニ競争及ヒ協力ノ二主義ニヨリテ成立スルモノナリ、(甲)ノ益スル所ハ人ノ無学ニ乗シ自己ノ利ヲ射ルニアレバ、此法行ハル、トキハ人々大ニ磨智ノ業ヲ務ムベシ、斯ル社会ニ在リテハ投機商モ認可セサルヲ得ス、然リ而シテ、※(乙)ハ一層高尚ニシテ其結果モ亦大ニ佳ナルヲ覺ユ、此法ニヨルトキハ各人ヲシテ詳カニ事実ヲ知ラシメ、且之ニ忠告スベキナリ

〔上欄朱〕  
「譬ヘハ」人アリ、他人ノ耕地ニ於テ鉞穴ヲ発見シタルトキハ、之ヲ処スルノ法如何、(甲)ノ主義ニヨルトキハ、則チ地主ニ事ノ由ヲ告ゲス、其地ヲ買得スベキモ、(乙)ノ主義ニヨルトキハ、必ス地主ト其利益ヲ共ニスベキナリ

○価銀ノ不定ノ如ク社会ノ風俗ヲ頹敗セシムルモノナシ、蓋シ賭博ノ風ヲ醸シ、勤勞ノ美質ヲ害スルヲ以テナリ  
財物ハ売買交換ニヨリ、永世譲与スル而已ナラス、損料ヲ収メンカタメ一時貸与スル事アリ

〔上欄朱〕  
「損料ヲト(ラ)ス、カス」  
〔補〕  
「金ナリ、或ハ土地家屋ノルイ、或ハ馬ヲカス等ノルイ也」

財物ハ損料ヲ要セス、借主ノ便利ノタメ貸給スル事アリ、斯ル場合ニアリテハ、貸主ハ妄リニ之ヲ取上ベカラサルノ義務アリ、借主ハ可及丈鄭重ニ取扱ヒ、速カニ之レヲ返納スルノ義務アリ

○名譽ニ関スル権

○名譽ヲ好ムノ念ハ財物所有ノ情ト一般ニシテ、資稟ノ性ニ存スルナリ、故ニ之ヲ保護回復セザルベカラス

〔朱〕  
〔Note〕

人ノ名誉ヲ毀損スルノ最モ多キハ誹謗ナリ

誹謗トハ事ノ信偽〔真〕ニ論ナク、故ナクシテ他人ノ名誉ヲ毀損スルヲ云フ

誹謗ニ惡心ヨリ發スルモノアリ、慾心若シクハ不注意ヨリ起ルモノアリ、現今誹謗ヲ來スノ原因ハ競争ナルベシ、古人ノ盛名ノ下ニハ久シク居リ難シト云ハレシハ、此故ナルベシ

○吾人徳性ノ良否ハ、誹謗ヲ謹ムト否トニヨリ知ラル、ナリ、聖徒雅各言アリ曰ク、若有無愆於言語者是為全人能自範其全体

今他人ノ名誉ニ関シ談話ヲナスニ二種ノ別アリ

甲 茲ニ人アリ、芳名ヲ博シ得タリ、我儕彼レカ如何ニシテ此名誉ヲ博シ得タルヤ、又之ヲ毀損スルノ所為ヲナシタルヲ知ラス、如此場合ニ於テ其名誉ヲ毀損スルハ、無辜ヲ賊スルト云

乙 人アリ同シク名誉ヲ得タリ、我彼力之ヲ得ンタメ何ヲナシタルヤ、其後之ヲ毀損スルノ業事ヲナシタルヲ知ル、然ルトキ吾人ハ官衙ノ命ニヨルカ、無辜ヲ保護スルカ、若シクハ犯罪者ノ懲治ノタメニハ之ヲ告發スベキノ義務アリ、而モ愛ノ理ニヨリテナスベキナリ、嘲笑ニヨリ他人ノ名誉ヲ毀損スル事アリ、故ニ充分ノ注意ヲ要スルナリ

### 眞実ニ関スル權利

○天ノ人ヲ生スルヤ、各人相互ノ報告ニ依頼スル性ヲ賦与ス、故ニ各人ノ報告スル所概眞実ナルニアラザレバ、一個人ナレ社会ナレ其目的ヲ達スル能ハス、即チ吾人ノ正當ノ目的、眞実ノ報告ニヨリ立ツトキハ、眞実ノ報告ヲ請求スルノ權利アリ、旅人ノ道路ヲ尋ネ、兒子ノ食餌ノ良否ヲ尋ヌルカ如キ是ナリ

○人アリ無用ノ間ヲナスカ、其正当ノ目的ヲ達スルニ必要ナラザル間ヲ発スルトキハ、則チ眞実ノ報告ヲ請求スルノ權ナシ、而モ偽リヲ告クルハ法理ノ許ス所ニアラス

○約束ノ目的タルヤ眞実ヲ踐マシムルニアレハ、名譽保護回復ノ權ト一般執行スベキモノナリ

他人ノ需要ヲ供給スル義務ヲ論ス

○正義ト博愛ノ別

○一正義ハ人ノ權利ニ関シ、博愛ハ正道ニ関ス

一富家アリ、天災ニ罹リ貧困堪エ難キ寡婦ヲ督責シテ家税ヲ収ム、是權ノ許ス所ナレトモ、正道ノ許サ、ル所ナリ  
一權利ハ之ニ註解ヲ加エ、其制限ヲ定メ得ルヲ以テ、之ヨリ生スル義務ハ人法ヲ以テ嚴重ニ行ハシムルヲ得ルト雖トモ、正道ハ註解并ニ制限ヲ立ツル能ハザルヲ以テ、之ヨリ生スル博愛ノ義務ハ法律ヲ以テ強迫スル能ハス

一各人權利ニ訴ユルトキハ、則チ請求スルノ理アリ、故ニ其請求ニ応ゼザルトキハ譴責スルモ妨ケナシト雖トモ、他人ノ救助ヲ仰クトキハ、タトエ其請求ニ応ゼザルモ決シテ譴責スルノ理ナシ

一權利ノ請求スル所ニ從ヒ其義務ヲ尽スモ、礼謝スルモノナシト雖トモ、他人ノ需要ヲ充タシ正道ヲ尽スニ當リテハ、必ス礼謝ノ念ヲ喚起スルナリ

他人ノ需要ヲ供給スル法

○人アリ、凡テ權利ヲ具有スルトキハ、則チ自己ノ需要ヲ充タスハ必然ナリ、而モ老弱ナルカ疾病ノ故ヲ以テ、其需要ヲ充タス能ハサルトキハ、博愛乃人間ノ情態トシテ之ヲ扶助スベキナリ

若人凡テノ權利ヲ有シ、且自己ノ需要ヲ供スルノ力アリトセバ、愛ノ理ニヨルトキハ其需要ヲ供給スルヲ求メザル

而已ナラス、断然救助ヲ拒ムナリ

蓋シ怠惰ノ惡風ヲ奨励スルヲ以テナリ

○若人勤勞セザルトキハ則チ食スベカラストハ、是聖經ノ命スル所ナリ

○若人不幸ニシテ自己ノ需要ヲ充タス能ハサルトキハ、愛ノ理ニヨレハ之ヲ救助スルハ当然ナリ

政府ノ力ニテ幾分カ救助シ得ルト雖トモ、是天ノ時雨ヲ降スト均シク普通ナルヲ以テ、人心ヲ感激シ貧人ヲシテ改良ノ念ヲ起サシムルニ足ラス、只之ヲ救治スルノ法ハ、仁者ノ正当ナル救助ニヨルベシ

〔上欄補〕  
○法律ニヨリ扶助ヲ為スハ、唯々扶助ノ目的ヲ達シ得ト雖、人心ヲシテ改良ニ趣カシムル能ワス

○人ノ此世ニ処スルヤ来世ノ用意ナレハ、之ヲ扶助スル事アラハ、宜ク人ヲ改良セシムルニアルベシ、然シ此事ハ多ク反对ニ出テ、扶助ヲ受クルモノ、内、横着ナル人ノ往々輩出スルアレハ、法ヲ以テ之ヲ行フ可カラス、一己人ノ好意深情ヨリ発スル所ヨリ之ヲ施セバ、却テ人ノ心ヲ感動セシメ好結果ヲ期スベシ

他人ノ能力ヲ練達シ且之ヲ訓示スルヲ論ス

吾人ノ幸福ヲ増加センタメ同胞ノ需要ヲ供給スル元ヨリ緊要ナリト雖トモ、其能力ノ發達ヲ正當ノ點ニ誘導スルハ更ニ緊要ナリト覺ユ

智力ヲ發達スルニハ、其目的ノ如何ヲ問ハス練熟ヲ得レハ則チ可ナリト雖トモ、道義上ノ能力ヲ發達スルヤ正當ノ目のニ方針ヲ定メ、正當ノ行為ヲナサルトキハ、僻習ヲ生セザル而已ナラス却步ヲ招クナリ、我儕苟モ同胞ノ發達ヲ助ケント欲セハ宜シク、其品性ヲ改良セシムル事ニ注目スベシ

〔上欄補〕  
「我輩ノ目的ハ只々人ノ外部ノ進歩ヲ計ルノミナラス、内部ノ進歩ヲモ計ルベシ、且内部ノ進歩モ知識ニ止マラス、

宜ク徳義上ノ品格ヲ進ムルヲ計ルベシ」

今吾人ノ品性ヲ改進スルニナクテ叶フマシキモノ一アリ、是其天性ノ美質ニアラス、練達ノ美風ニアラス、人之ヲ得ルトキハ則チ其性質ヲ改造シ、内憂外患并ヒ至ルノ時ト雖トモ、之ヲ使用シテ進歩ノ好機トナスヲ得ルナリ、是他ニアラス天賦ノ能力ヲ以テ自己ノ目的ヲ選定シ、神ノ主宰スル宇宙ニ於テ人類タルノ位置ヲ占ムルニアリ、是則チ人ノ実価ヲ定ムルモノナリ、即チ人ニシテ此目的ヲ誤ルトキハ、則チ其身ヲ畜生界ニ陥ルト云フモ誣言ニアラザルナリ茲ニ人アランニ、若シ不幸ニシテ其需要ヲ充タス能ハストセバ、毫モ其人ノ勉強ヲ要セス、之ヲ供給スベキモ、智識并ニ徳義上ノ發達ニ至リテハ、当人ニ自奮勉強ノ志ナキトキハ、如何ニ扶助セント欲スルモ能ハザルナリ、物質ハ直接ニ之ヲ管轄シ得ルト雖トモ、心意ニ至リテハ乃感化力ニヨリ勸奨スルヲ得ルナリ、無学蒙昧ナル人ハ自己ノ狹隘ナル学識ニ安シ、進取ノ氣象并ニ自奮ノ精神ニ乏シキヲ以テ、他ヨリ勸奨スルニアラサレハ決シテ進歩スル能ハザルナリ、無学蒙昧ノ人ニシテ即チ然リトセバ、不善ナル人ヲ改造スルハ更ニ難キヲ覺ユルナリ、蓋シ聖經ノ所謂肉ヲ以テ靈ニ抗敵スルヲ以テナリ、我儕ノ性ニ存スル情慾願等ノ如キハ、其物ヲ論スルトキハ可モナク不可モナシト雖トモ、人一タビ之ニ拘泥スルニ至リテハ則チ善惡ノ名ヲ下サハルベカラス、之ニ拘泥スル人ヲ稱シテ罪奴ト云フ

○今同胞ヲ扶助スルニ三等級アルヲ見ル

一〇一ハ肉体上ノ苦厄ニシテ、之ヲ救助スルハ其最容易ナルモノナリ

二〇二ハ無学乃怠惰自棄故意ヨリ發スルモノニテ、之ヲ救治スルハ頗ル難ト雖トモ、<sup>〔上欄ママ〕</sup>「三〇」靈魂上ノ束縛乃不善ヨリ

起ルモノニ比スレハ其難容決シテ同日ノ論ニアラザルナリ、蓋シ靈魂上ノ束縛タルヤ無形ニシテ、往々富豪学識才能等世人ノ均シク欽慕スルノ具ヲ有スルヲ以テ、之ヲ救治セント欲セバ則其人ノ心意ニ立チ入り、直接若シクハ間

接ニ諫言ヲ用ヒザルベカラザルヲ以テ、容易ニ成功ヲ奏スル能ハス、是基督ノ降世尽力セラレタル大主眼ニシテ、信徒ノ宜シク務ムヘキ所ナリ

以上論スル所ニヨルトキハ、則受クルヨリ与フルハ一層其祝福タルヲ知ル、蓋シ与フル者ハ授与物ノ主タルヲ以テ、其位置ノ一等高貴ナル意ヲ含有ス、且一層高尚ナル喜悅ヲ生スルノ能力ヲ使用スルヲ以テナリ

### ○働キノ疆界

前上ノ開陳スル如ク、働キノ疆界ヲ三種ニ區別セザルベカラズ

一肉質上ノ需要ヲ救助スルニハ、財産ノ力ヲ藉ラザルベカラス、故ニ此疆界ニ働クハ財産ヲ有スルモノ、任ナリ

一智識并ニ靈魂上ノ發達ヲ救助スルニハ、教員牧師等特別ニ之ヲ業務トナスモノアリ、故ニ此任ヲ負擔シ得ルノ人ハ、何人ニ限ラス之ニ從事スル事ヲ得ルナリ

### 人間特殊ノ關係ヨリ生スル義務ヲ論ス

#### 人身上ノ權

天ノ人ヲ生スルヤ、之ニ賦与スルニ親子夫妻等特殊ノ關係ヲ以テシ、其基本人身上ノ權ト稱スルモノヨリ發出シ、互ニ權利義務ヲ有スルナリ

親ノ兒子ニ於ケル權利ノ如キ其基本タルヤ、兒子父母ノ養育ニヨラザレバ其生ヲ遂クル能ハス、且神ノ属托シ玉フ所ニシテ、他ニ此務ヲ尽シ得ルモノナキヲ以テナリ

今茲ニ特殊ノ關係ヨリ生スル義務ヲ考究スルニ際シ、殊ニ明弁スベキハ正道ト權利ノ別ナリ

正道トハ人類ノナスベキ事務ニ関スルモノニテ、權利ハ即チ他人ヲシテ為スベキ事務ヲ尽スヤウ要求スルヲ云フ、故

ニ權利ヲ賦与セラレタル目的ニ從テ施行スルモノハ正道ヲ守ルノ人ニシテ、之ヲ他ノ目的ノタメニ誤用スルモノヲ暴客ト云フ

## 家族ノ起源

今宇宙ノ中父母ヲシテ其学識体力情愛ヲ尽シテ、荏弱無智ナル兒子ヲ我モノトシテ養育セシムル神ノ善良ナル組織ニ勝ルモノアルヤ、決シテ非ラザルナリ、然ラバ則チ我儕此特殊ノ義務ヲ尽ストキハ、必ス最上ノ幸福ヲ得ベキナリ、家族ハ神ノ定メ玉フ所ニシテ、其主眼ハ乃チ家族ハ社会邦国ノ教校タレトモ、深ク其本ヲ推ストキハ則チ天国ノ大家族ニ至リ、其親和幸福ヲ享有シ得ベキ品性ヲ教養スル預備門タリ、社会ノ進歩邦国ノ景状ノ如キハ、皆悉ク家族ノ風習如何ニ関スルモノニテ、基督ノ深ク之カタメ尊慮ヲ回ラシ玉ヒシモ、其緊要ナルヲ証スルニ足ル、仮令数千ノ学舎ヲ設ケ人民ヲ教育スルモ、善良ナル家族アリテ恭順忍耐ノ美習ヲ陶冶セザルトキハ、自由完全ノ政治ヲ立テ一般ノ幸福ヲ増サント欲スルモ得ベカラザルナリ

## 管理・責任・罰

管理權并ニ其權限ハ、前上ニ開陳セシ如ク其目的ニ関スルナリ、父母其兒子ヲシテ目的ヲ遂ケシムルニハ、之ヲ管理スルノ權ヲ有スベキハ必然ノ理ナリ、故ニ止ムヲ得サルトキハ腕力ヲ以テ制御スル事アリ、是真正ノ管理法ニシテ、一個ノ人類他ノ人類ノ意ニ管理セラル、モノニシテ、甲ハ命ヲ下シ乙ハ恭順ノ行為ヲナスナリ

○人或ハ兒子ヲ制御スルニ、道理ヲ説キ示シ之ヲ管理スルト云フモノアリ、是決シテ管理法ニアラス、管理トハ兒子ヲシテ全ク父母ノ意令ニ順ハシムルヲ云フナリ、元ヨリ道理ヲ示シテ之ヲ管理スルハ養育上欠クヘカラサル事ニテ、之ヲ務ムルトキハ必ス好結果ヲ見ルニ至ルベシ

〔上欄補〕

「子供カ父母ノ意ヲ奉戴スルノ意ニアラスシテ、只道理ノ存スル所ヨリ事ヲ為ス事アレハ、之レ此ノ行為ハ父母ノ意ヲ奉戴スルト云ベカラス、唯々道理ノアル所ヲ為セシノミ」

正。当。ノ。管。理。法。ノ。基。ク。所。ハ。信。用。ニ。ア。リ、他人此言ヲ発スルヲ以テ之ヲ信ストハ、其信用ヲ言ヒ表ハスモノニテ、他人之ヲ命スルヲ以テ從フトハ其信用ヲ実行スルヲ云フ、如此管理ヲ受クルノ人ハ、兒子ナリ臣民ナリヨシ其命ヲ出ル所以ヲ知ラサルモ、之ヲ出スノ人ハ、賢明善良ナルヲ信スルヲ以テナリ、如此正。当。ノ。信。用。ハ。管。理。ノ。大。主。眼。タルヲ以テ、親子ノ間柄ニ於テ充分ノ檢察ヲ加ヘサルベカラス、兒子ノ幼稚ノ間ハ全ク父母ノ管理ヲ受ケザルベカラス、然リ而シテ漸ク成熟ノ期ニ達スルニ從ヒ、次第々々ニ此管理ヲ脱シ、全キ獨立ヲ得、神政ノ下ニ其至貴至明ナル管理ヲ受ケ得ルモノトナルヤウ教導スベキナリ

斯ル管理ノ下ニハ恐怖奴隸心ノ発起スルナク、愛ト信ト主義ニ基ク最良ノ恭順アルヲ見ルナリ、兒子ハ可及的勉強シテ速カニ獨立ノ地位ニ上昇セザルベカラス、然リ而シテ其地位ニ達スルマデハ即チ父母ノ命ニ從ヒ、且其教訓ヲ守ラサルベカラス、父母ニシテ果シテ真ノ父母タラシメバ、兒子ハ必ス完全無疵ニシテ其目的ヲ達シ得ベシ、父母若シ不善ノ行ヲナスカ、虚弱ニシテ兒子ヲ正。当。ニ。教。導。ス。ル。能。ハ。ザ。ル。ト。キ。ハ、民法ノ干涉スル所トナリ、兒子ハ他ノ保護教導ヲ求メザルベカラズ、若シ人アリ、他人ノ意ニ從フヲ以テ義務ノ基本ト見做ストキハ、則チ其人ニ對シテ

〔上欄補訂〕

尽スベキノ責任発起スルナリ

「之ニヨリ之ヲ見レハ管理ノ義務ハ父子ノ關係ヨリ生スルニアラス、子ヲシテ其ノ目的ヲ達スル能ワサラシメハ、義務モ亦随テ止ムベシ」

〔上欄末〕

「父母ノ不義兒子ヲ教養スル能ワス」

○責任ニ二種アリ、人ニ対スルアリ、人ノ為ニスルアリ

○人ヲ管理スルニハ権能オウソリテナカラザルベカラズ、然リ而シテ此権能ナルモノハ純乎タル道義学ノ相関セザルモノニテ、只権能ノ要求スル所、道義ノ区域ニ立チ入ラサルヤウ之カ檢察ヲナスノ小関係アル而已、故ニ権能ヲ以テ管理ヲスルヤ、道義ニ違ハス充分之ニ従フヲ務ムベキナリ

○正当ノ権能トハ権理ヨリ發出スルモノヲ云フ、親ニシテ其兒子ヲ管理スル権理アリトセン乎、責任モ亦隨テ生ゼザルベカラズ、蓋シ責任ナキ処ニハ管理アル事ナシ、神ハ人ニ対シテ責任ナシ、而シテ人ハ神ニ対シテ責任アリ、是神人ヲ管理スルノ権理ヲ領シ玉フニヨル

○人ノ為ニスル責任トハ、乃他人ノ幸福ヲ保護増進スルノ謂ニシテ、父親ハ家族ノ幸福ヲ保護増進スベキ責任ヲ負担スルモノニテ、此任ヲ尽スハ即チ神エノ義務ナリ、故ニ父親ハ家族ノ諸権理ヲ保護スルノ權利ヲ有スル而已ナラス、之ヲ保護スルノ義務アルナリ

○人アリ其尽スベキノ責任ヲ怠タルトキハ、是権理ヲ破毀スルモノニテ、必ス其応報ナカラサルベカラス、父其子ニ正當ノ勸ヲ命センニ、兎之ニ背クトキハ、則チ神ノ定メ玉フ組織ニ違ヒ、親ノ権理ヲ蔑如スルヲ以テ、親必ス其権理ヲ回復センタメ相當ノ罰ヲナサ、ルベカラス、道義的動物ノ義務ヲ犯シタルヨリ、其衷情ニ発起スル果報并ニ之ヨリ生スル激動ハ罰ニアラス

○罰トハ乃故意ニ妨害ヲ加エ、権理ヲ犯シタルヲ以テ、人ノカ応報ナスヲ云フ

○罰ノ前ニ権理ヲ有スル立法者アリテ、施行スル所ノ法律ナカラザルベカラス、又法律ヲ犯スモノアルトキハ、之ニ加フベキ刑法ナカラザルベカラス、此二者具備シタルトキハ、則罰ハ法律ニ明文アル刑法ニ従ヒ、法律ノ権能ヲ維

持センタメ加刑スルヲ云フ

〔上欄補〕

「政府ニ於テ刑ヲ行フ理由ハ、罪惡ヲ犯シタル点ヨリスルニアラス、只ニ権理ヲ犯シタル点ニアルノミ」

○罰ニ関シテ思考スベキ事二アリ

243 ○一※管理ノ何タルヲ問ハス、罰責スル所以ハ権理ヲ犯シタルヲ以テナリ

○一刑罰ヲ加フルヤ犯罪者ヲシテ啻ニ苦難ヲ畏レシムルタメニ非ス、立法者ノ咎メヲ表スベキ苦難ヲ畏レ、其苦難ヲ受クルノ当然ナルヲ感セシムルニアリ

吾人人類ノ苦難ニ三種アリ

一 本体ノ法ヲ犯ストキハ道心ノ咎メヲ招キ、悲歎ノ念ヲ發スルナリ

一 他人直接ニ我行為ヲ咎メサルモ、其ノ挙動ヲ見テ恐懼ノ念ヲ生スルナリ

一 直接ニ罰責ヲ受クルナリ

### 社会○政府

政府ハ社会ノ目的ヲ達センタメ建設スルモノニテ、家族ニ均シク天ノ命スル所ナリ

天ノ命スル所トハ、我目的ヲ達センタメ神ノ命シ玉フ関係ニヨリ、必ス設ケザルベカラスト云フ義ナリ、食物ノ生命ニ於ケル、父母ノ兒子ニ於ケル如ク、理勢止ムヲ得ス設クルモノナリ

社会ト政府ノ區別ハ左ノ例証ニヨリテ明ラカナリ、社会ヲ成立スルノ各個人ニシテ完全ニ自治ヲナスヲ得ルトセバ、政府ナルモノヲ要セザルナリ、元ヨリ投票年齢、遺産分配、其他社会一般ニ関スル法制ニ付テハ政府ノ扱ヒヲ要スベケレドモ、是ト雖トモ社会ノ經驗智力ニヨリテ執行スルヲ得ルナリ、故ニ完全ナル家族ノ管理并ニ各人ノ自治行ハル

ルトキハ、政府ナシト雖トモ社会ハ其目的ヲ達シ得ルナリ

政府ノ正当ナル目的ハ乃被治者ノ善ヲ増進スルニアレバ、一令ヲ発スルモ、一事ヲ企ツルモ、各人ヲシテ其目的ヲ達セシムルタメニ注目シ、施政ノ方針ヲ定ムベキナリ

政府ハ各人ノ独リ自ラ為シ能ハザルコトニ対シテ、如何ノ所置ヲナスベキヤ

此問題ニ答フルニ際シ、我儕ノ思考ヲ要スル二ヶノ条件アリ

一各人政府ノ組織ヲナシ、ソノ施政上ニ幾分カ参与スルナリ

一政府ハ一個人ヲ離レ、其上ニ位スル代人ニシテ、其為シ能ハザルコトヲ挙行スルナリ

○甲ノ主義ニ從ヒ被治者ニモ幾分カ参政ノ權ヲ得セシメナバ、各人ノ權理ヲ鞏固ナラシムル而已ナラス、大ニ政治上ノ思想ヲ練達發育セシムルナリ

○乙 政府ハ一個人ノ独リ自ラ為シ能ハザルノ事ヲナストノ名義ニヨリ、東邦諸國ノ擅制政府ノ如ク、ソノ臣民ノタメニ百般ノ事務ニ干涉セハ、乃人民ハ自助ノ精神ヲ失ヒ、一個人ノ發達上幾多ノ妨害ヲ生スルナリ、故ニ政府ノ尽スベキ要務ハ何ナルヤヲ思考セサルベカラス

第壹条 政府第一ノ要務ハ各人民ニ凡テノ權理ヲ得セシムベキナリ

政府ハ各人ニ權理ヲ得セシムル而已ナラス、之ニ妨害ヲ加フルモノアルトキハ、則必ス之回復ヲナサルベカラス、譬エハ茲ニ人アランニ、若シ妨害ヲ受ケタランニハ必ス之カ回復ヲ要求スベシ、乃自力ニ及バザルトキハ、社会ハ一般ノ安全ノタメ相当ノ罰ヲ犯罪者ニ加フベキナリ、故ニ政府ハソノ管下ニアル人民ノ權理ヲ迅速且充分ニ保護スベシ、然リ而シテ、此事タル衆人法律上ニ於テハ同等ナラサレハ為シ能ハサルベシ

第二条 政府ハ一個人若シクハ会社ノ為便捷ヲ計ルベシ、譬エハ板権專売権ノ條例ヲ定メ、一個人ノ資力ニテナシ

難キ事業ノタメ会社ノ設立ヲ計ルカ如キ是ナリ、此般ノ事ハ立法院ノ司トル所ニシテ弊害ヲ生シ易シ、故ニ充分

ノ注意ヲ要スルナリ  
〔上欄補〕  
〔朱補〕  
「総テ公衆ノ便益ヲ計ルヘシ、一会社、一己人ノ為ノミニ利ヲ与ベカラス」

「立権」 政府ハ其維持保存ニ必要ナル百般ノ方法ヲ使用スルノ権アリ、擅制政府ニ常備兵ヲ要シ、有限政治ニ貴族ヲ要スル是ナリ

前上説ク所ノ主義ニ從ヒ、自由政体ニ於テハソノ治安ノ為、常備兵ノ代リニ学校ヲ設ケ之ヲ維持シ、且投票ノ権、就官ノ権、條例ヲ定メ之ヲ規制スルノ権理ヲ有スルナリ

徳義ト智識ハ自由政体ニ於テハ一日モ欠クベカラサルモノナレバ、該政府ノ下ニアルモノハ、タトエ教育スベキ兒子ヲ有セザルモ、必ス学校ノ為租税ヲ出サ、ルベカラス

徳義宗教ノ事ニ於テハ、政府ニ於テ之ニ干涉スベキヤノ問題ニ付テハ、種々ノ異説アリタレトモ、政府ニテハ其目的ヲ達スルニ必要ト認ムルタケ、其区域ニ立入り干涉スルヲヨシトスルナリ

世ノ文化開クルニ從ヒ、家族集合シテ一社会ヲナス、是ニ於テヤ其代理タル政府ヲ設ケザルベカラス、然リ而シテ、一家ノ主タル者ハ必ス家族ノ代理トナリ、公事ニ参与スベキナリ

### 参政之権

〔上欄補〕  
〔Note〕 政府ハ社会ノ代理ニシテ、議員若シクハ官吏トナリ政治ニ参与スルモノハ、委員若シクハ監護人ノ心得ニテ事務ヲ勉励シ、兒子、廢疾、白痴、罪人、狂癲、不在者ノ為其勞ニ任セサルベカラス、然リ而シテ、此六者并ニ女子ハ参政ノ権ヲ有スル能ハサルヲ以テ、該権理ハ決シテ天権ニアラス、蓋シ天権ハ衆人ノ均シク有スル所タルヲ以テナ

リ、社会ハ被選人并ニ撰舉人ノ年齢學識等ニ付キ限制ヲ定ムルノ權アリ

撰舉人若シクハ被選人ハ、自己若シクハ参政權ヲ有スル能ハザル者、且後世子孫ノ為、學識智見ヲ用ヒ社会ノ公益ヲ計ルベケレバ、決シテ其權理ヲ輕忽ニスベカラス、必ス其義務トシテ公衆ノ利益ノ為監護人委員タルノ任ヲ尽スベキナリ、何ノ事項ニ拘ラス其事ニ関シ責任ヲ有スルモノ之ヲ討議スルノ權アリ、軍陣ニ赴クモノ、警察ノ務ニ任スベキモノ、陪審官タルモノ、租税ヲ納ムルモノ、此般ノ事ヲ討議スベク、女子兒童ニシテ「<sup>〔補〕</sup>先上ノ事柄ニ」喙ヲ容レ、男子ニシテ女子ノ蓄エタル財産ニ徵税ス等ハ「<sup>〔補〕</sup>不当ノ所分ト云ヘキ」ナリ

何ノ主義ニ基キ社会ハ参政ノ權理ヲ規制セントスル乎、固ヨリ社会ハ可及的参政權ノ区域ヲ擴張スベシ、然リト雖トモ不<sub>レ</sub>勝<sub>レ</sub>任者カ現在政府ニ敵意ヲ挾ムモノハ之ヲ除カサルヲ得サルナリ

「<sup>〔上補〕</sup>國政ニ参与スル為投票權ヲ得ルモノ、一樣ニシテ適當ノ年齢ヲ要スベシ、乍去貧富黑白ノ分ヲ為スベカラス」

○参政ノ權ト代議ノ權トハ殊別ナルカ如シ、乃撰舉權ヲ有セザルモノト雖トモ均シク代議セラル、ヲ得ルナリ、父ノ兒子ニ於ケル、夫ノ婦ニ於ケルガ如キ是ナリ、立法院ニ於テ議員ハ之ヲ撰舉シタル者而已ナラス、其妻子ヲ始メ、又撰舉權ヲ失フタル罪人ノ為ニモ利益ヲ計ルナリ

○政府ハ吾人々民ヲ保護スルノ任アルヲ以テ、吾人ハ政府ニ對シテ尽スベキノ義務アリ、乃政府ノ經費ヲ償フタメ其資産ニ応シ相当ノ税ヲ出サ、ルベカラス、然リ而シテ、政府ハ納税者ノ認可ヲ得ザレハ決シテ徵税スベカラザルナリ、是マダナカルタ、ビル・ヲフ・ライツノ「<sup>〔補〕</sup>米國殖民地ノ革命ニ於テ」堅ク主張スル所ナリ

今茲ニ婚嫁セサル婦人并ニ他國人ノ在留スルモノアランニ、二者共ニ其財産ニ応シ納税セザルヲ得ス、然リ而シテ、之ニ代議ノ權理ヲ与エサルハ決シテ理ノ当サニ然ルベキモノニアラス、世ノ文化漸ク上進スルニ從ヒ立法院

ヲ二局ニ別チ、一ハ国ノ内外〔補〕「人種」男女ノ別ヲ問ハス、大凡税ヲ納ムル者ヲ代議スルノ所トナスニ「人ヲ当撰スルニ」至ルベキ也〔補訂〕

婦人ニ参政権ヲ得セシムベキノ問題ニ至リテハ諸家ノ説一ナラズ、或〔ハ〕曰ク得セシムベシ、或ハ曰ク得セシムベカラス、我儕ノ思考スル所ニヨレバ、社会ハ元来家族ノ相集合シテ成立スルモノニテ、家族ハ又男女婚嫁シテ成立スルモノナレバ、一家ノ主タル男子ニシテ参政権ヲ有ストセバ、其団体タル妻ハ参政権ヲ有セサルモ充分ノ保護ヲ受ケ、其目的ヲ達スルヲ得ルナリ、且社会ニ吾人ノ働ベキ疆域二ツアリ、一ハ社会ニシテ政治上ノ事ナリ、公衆共同ノ利益ナリ、是正シク男子ノ働クベキ所ナリ、一ハ家族ニシテ其家主タル男子ハ家内一同ノ需要ヲ供給シ、之ヲ保護スルトキハ、其主婦タル女子ハ宛然女皇ノ如ク家事ヲ整頓シ、兒子ノ教育ヲ勉メ、家事ノ平康安楽ヲ計ルベキナリ、古来国事多端ニシテ戦争禍乱并至ルノ秋ニ際シ、婦人ニシテ之ニ参与スルトキハ大ナル妨害ヲ免レサリキ、而モ今日文化變々乎トシテ上進シ、学事教育等婦人ノ働クベキ疆域頗ル拡張シタリト雖トモ、女子ノ公事ニ参与スルハ決シテ好マシカラス、且男子ト相混スルトキハ禍害ヲ来ス多キヲ以テ、女子ハ寧ろ家内ノ事務ヲ進捗スル事ヲ勉ムルコソ却テ国家ノ益ナルベケレ、是吾人ノ大ニ我国ノ婦人ニ望ム所ナリ

#### 政体、官吏并ニ人民ノ義務ヲ論ス

政体ニ二種アリ、曰ク統一政治、曰ク共和政治

統一政治ヲ別ツテ、君主独裁、立憲政治ノ二種トス

君主ノ位ハ世襲ナルヲ以テ、政体ノ堅固、国ノ治安ニ益アリトス

◎共和政治ニ人民共治ナルモノアリ、代議政治ナルモノアリ、人民共治ハ国ノ疆域〔ママ〕編少ナラサルヨリハ決シテ行ハレ

ザルナリ

〔上欄補〕  
「代議政体ハ、代議士ヲ撰挙シ人々ニ代リ政ヲ与カラシム」

政府ノ権ヲ立法、<sup>〔マ〕</sup>行法、司法ノ三局ニ分割シ、各其権ヲ超過セサルハ国民ノ自由治安ニ欠クベカラサルナリ

立法院ヲ別テ二院トナシ、其組織ヲ異ニシ、事務ニ任セシムルトキ、自由ヲ保持シ治安ヲ鞏固ニスルニ益アリトス  
立法院ノ議員ハ、年限ヲ定メ新陳交代セシムベシ

法律ヲ制定シ刑法ヲ設ケタル上ハ、之ヲ司審スルタメ司法院ヲ置カサルベカラス、而シテ審判ヲ確實迅速ニシ、且  
入費ノ嵩マサルヤウ施行スルハ、人民ノタメニ欠クベカラサルノ要点ナリ

法律ヲ施行シ、司法ノ宣告文実施セラル、ヤ否ヤヲ監視シ、外国交際ノ枢機ニ当リ、他国ニ対シ国民ノ主権ヲ表ス  
ルハ行政ノ本務ナリ

### 国民ノ義務

○一国民タル者ハ、其本心ノ許ス所ハ必ス法律ヲ遵守スベシ

何ノ政躰ヲ問ハス、惡法ヲ施行スルニ際シ、人若シ之ヲ以テ天理人彝ニ逆フトナシ、之ニ従フヲ以テ本心ニ背ク  
トスルトキハ、之ニ従ハサルハ乃其義務ナリ、固ヨリ如何ナル酷刑ニ処セラル、モ必ス本心ニ従フベシ

一国民タル者ハ必ス欣抃以テ、政府并ニ社会ニ対スル義務ヲ尽スベシ

一投票ヲナストキハ、必ス国家ノ為最上ノ人物ヲ以テ候補トナスベキヤウ、百方周旋スベシ

オフ オフィス

〔補〕  
「キャンデーデーツ

一国民タルモノハ他人ノ権理ヲ保護シ、法律秩序ヲ保持スルニハ、必ス政府ヲ補助スベシ

○神ニ対スルノ義務

○神ニ対スル義務トハ、乃直接ニ神ニ事フルヲ云フ

臣民タルモノ他人ノ権理ヲ妨害シ、国ノ法律ヲ破毀スルトキハ、是即チ其君主ヲ蔑視スルニ当レトモ、面アタリ君主ニ対シ誹謗罵詈不敬ヲナストハ頗ル異ナル所アリ、之ト均シク、吾人人類ニシテ、同胞ヲ害スルト神ヲ冒瀆スルノ所業ヲナストハ、殊別セザルベカラサルナリ

○脩身、學ト宗教ノ異ナル所以ハ、只宗教ハ直接神ニ事フルノ謂ニシテ、神ニ事フル者ハ必ス其同胞エノ義務ヲ尽シ、脩身ノ規法ヲ守ラザルベカラサルナリ、故ニ宗教ニ脩身ノ道ナカラサルベカラス、脩身學ニハ宗教ナキトキハ決シテ行ハレサルナリ

○吾人人類ノ第一、尽スベキノ義務ハ、自己ヲ神ニ捧クル是ナリ

是ソ正シク人類ノ享有スル最大ノ自由ニシテ、全ク神ノ指揮ニ従ヒ、神ノ保護ニ依頼スルトキハ、充分德義上ニ進歩シ、神子ト称スルニ足ル人トナルニ至ルベシ

○今神ニ奉事スルノ義務ヲ三別スルトキハ

第一、敬虔ノ心ヲ養成スル事

第二、祈禱

第三、安息日ヲ守ル事

○敬虔ノ心ヲ養成スル事

○一敬虔ノ心ハ脩業ニヨリテ得ラル、ナリ

○一「敬虔ノ心ハネーチュア」万有ヲ正当ニ用ニル事ニヨリテ得ラル、ナリ

夫レ天顯神ノ榮光穹蒼示其ノ所作セリ、俯シテ大地ヲ看ヨ、草木茂生シ百花妍ヲ争ヒ、衆鳥音ヲ弄シテ音楽ヲ奏シ、孰レモ皆神ノ榮光ヲ顯ハスナリ、吾人之ヲ見テ神ノ能力智恵ヲ悟ルナリ

一「敬虔ノ心ハ」国民一個人、殊ニ自己ニ関シタル神ノ冥助ヲ觀察スルニヨリ「養成シ得ルナリ」

一敬虔ノ心ヲ養成スルノ基本ハ聖經ニアリ

冒瀆ノ所為トハ敬虔ノ心ニ反シ、吾人ノ言行ニヨリ神ニ対シ不敬ヲナスヲ云フ

万物皆悉ク神ノ主宰シ玉フ所ナレバ、之ヲ濫用スルカ若シクハ之ヲ惡事ニ用ニルハ、乃冒瀆ノ業ナリ、穀物ヲ釀シテ酒トナシ、之ヲ貪慾ニ供スル等皆神ヲ冒瀆スルト云フ

## 祈 禱

神ニ対シテ第二ノ大ナル義務ハ祈禱ナリ

○祈禱トハ文義上ヨリ論スルトキハ請願ノ意ナレトモ、普通ノ用法ニヨレバ凡テ礼拝ニ関スル贊美、哀求、謝罪、礼謝等ノ意ヲ含有スルナリ

○請願ニハ充分之ヲ得ント欲スルノ願意ナカラサルベカラス、譬エハ茲ニ人アラシニ、如何程天堂ニ登ラント欲スルモ、若シ当世ノ嗜慾ヲ恋フノ念一層強キトキハ、如何ナル文句ヲ用ヒ其意ヲ陳スルモ、決シテ真ノ請願ニアラサルナリ

○聖書ノ教示スル所ニヨレハ、吾人ニ祈禱ヲ教ユル而已ナラス頗ル勸奨スルナリ、且「祈」禱ハ基督信徒ニ欠クベカラサルノ要務ナリ

聖經ニ曰ク、求メヨ然ラハ与エラレン

請フ試ミニ思エ、吾人ノ幼少ナルヤ常ニ我欲スル所アレバ、乃父母ニ請求シ之ヲ得ルハ必然ノ理ナリ、且此点ニ就イテハ衆人皆悉ク同一ノ性ヲ有スルモノ、如ク、危急存亡ノ秋ニ臨ンテハ必ス天ヲ仰イデ其冥助ヲ求ムルナリ

○健康、雨露、安全ナル旅行ノ如キハ求メサルモ之ヲ享有スルヲ得ベシ、然リ而シテ、至高ノ祝福ノ如キハ直接神ニ奉事スルニヨリ得ラル、モノナレバ、必ス之ヲ請求シ、且之カタメニ充分ノ力ヲ尽サ、ルベカラサルナリ

神ノ法ハ万古不易ナルモノナルヲ以テ、仮令祈禱スルモ恐ラクハ無効ニ属スルナラント云フモノアリ、是豈ニ必然ノ理ナランヤ、アルガイル侯言アリ曰ク、人ノ眼目ニ触ル、現象中、一モ万古不變ノ勢力ニヨリテ管理セラル、モノナク、唯管理シ得ル所ノモノハ不變ノ勢力ヲ變調シタルモノニシテ、人意ヲ以テ之ヲ使用シ得ルナリト、誠ナルカナ此言ヤ、吾人砲声ヲ発シテ雨ヲ降スヲ得ハ、神意ヲ以テ天法ヲ管理スル能ハサルノ理ナキ也

○又人アリ曰ク、神ハ知ラサル所ナキ智恵ヲ有シ玉エハ、吾人ノ祈禱セサル前ニ百事皆悉ク知リ玉エハ、祈禱スルモ恐ラクハ無効ニ属セント、是神ノ能力ヲ制限シ、父タリ管理者タルヲ得サラシメントスルニ外ナラス、若シ神ニシテ心情ヲ有シ、人ニ交通ヲ許シ玉フトセバ、必ス吾人ノ請求ニ応ジ玉フナラン、祈禱ヲ無効視スルモノハ、是神ノ父タリ管理者タリ且心情ヲ有シ玉フ事ヲ拒絶スト謂フベキナリ

安息日

(上欄補)

○「世上」安息日ニ二種アリ、曰ク宗教上ノ安息日、曰クシイウイル「シヴィル」安息日

○宗教上ノ安息日トハ、神ヲ礼拝シ且人ヲシテ心靈ヲ脩養シ、救ヲ得セシメン為、神ノ設ケ玉フ日ナリ

○シイウイル安息日トハ、公衆一般ニ其業務ヲ休マシメ、運動其他ノ働キヲナスモノヲ制限シ、宗教上ノ安息日ノ目

的ニ妨害ヲ与エサルヤウ謹慎ヲ要求スルナリ

○宗教上安息日ノ神ヨリ出タル事ハ左ノ証ニヨリ明カナリ

一安息日ノ行ハレサル国ノ人ヲ觀察スルニ、皆悉ク罪惡ニ沈淪スルノ人タルヲ免レサレバ、聖安息日ヲ設クル思想ハ決シテ發起セサルベシ

一人タル者ハ至テ慾情深キモノナレバ、富豪ナルモノハ決シテ安息日ヲ設クルヲ好マス、却テ之ヲ拒絶スベシ、蓋シ安息日ヲ設クルトキハ其眷族奴隸ヲ休息セシメサルヲ得サレバナリ

一安息日ハ時間ノ自然分割法ニ叶ハサルヲ以テ、若シ時ヲ周日ニ分ツノ考エ初メヨリナカリシトセバ、人之ヲ立ル事能ハサリシナラン

一人ハ安息日ノ起源ヲ天地ノ創造、基督ノ復生等、至大至高ノ思想ニ結合スル能ハザルベシ

以上陳述スル所ニヨレハ、安息日ハ決シテ人ノ設ケタルモノニアラス、全ク神旨ニヨルヤ瞭然タリ、今其緊要ナル事ヲ論及セン

○一安息日ノ一個人ニ取リテ欠クベカラサル所以ハ、第一人ハ宗教ノ教導勸奨ヲ受ケザルベカラス、然リ而シテ吾人ノ此世ニアルヤ教世上ノ嗜慾ニ惑サレ、神ヲ忘レ心霊ノ發育ヲ怠タルノ恐アリ、故ニ一周間中必ス一日ヲ殊別シ、教導勸奨ヲ受クルノ日トナスベキナリ

一人ハ社会的動物ニシテ、独居シテ其目的ヲ達スル能ハス、必ス共同礼拝ヲナシ、且共同ノ教授ヲ受クルベシ、然リ而シテ之ヲナスヤ安息日ハ欠クベカラサルモノナリ、安息日ト講壇、安息日学校、諸集会ハ分離スベカラサルモノナリ、若シ安息日ヲ廃止スルトキハ、恐ラクハ教会ノ衰頽ヲ招クニ至ルベシ、故ニ此安息日ハ宗教ノ伝播ノ

タメニモ欠クベカラザルナリ

一安息日ハ一個人ノ為ニ緊要ナル而已ナラス、家族ノ為ニモ甚タ緊要ナルモノニシテ、イデンノ園ニ於テ神ノ立テ玉ヒシモノハ、乃安息日ト家族ノ制ナリキ、然リ而シテ、安息日ヲ守ラサル所ニハ家族ノ關係正シカラス、家族ノ關係正シカラサル所ニハ安息日ナシ

○吾人自由政体ヲ維持セント欲セバ、則チ安息日ヲ守ラザルベカラザルナリ

徳義ト智識ハ自由政体ニ欠クベカラサルナリ、然リ而シテ、此二者ハ聖書ト安息日ニヨラサレバ、決シテ得「ラ」レザルナリ

安息日ハ吾人ノ健康ヲ保全スルニ必要ナル而已ナラズ、人類ニ使役セラル、動物ニ於ケルモ亦然リ

若シ人ナリ動物ナリ六日間勞動シ七日目ニ休息スルトキハ、一層善ク且多ク仕事ヲナシ、健全ニシテ長命ヲ得ルヤ、曰ク然リ、人アリ一百二十頭ノ馬ヲ有シ每週七日間働カシメシニ、忽チ衰弱シ死亡スル者甚タ多ク、頗ル不經濟ナルヲ以テ、終ニ六日間ノ働キニナシタリ、爾後死亡スルモノ甚タ少ク、且健康ニシテ善ク働キ、且長命ヲ保ツニ至リシトゾ、其他ノ例証逐一記載スルニ違アラス（神學士デヨスチン・エドワルト氏ノ、サツバス・マニアルト号スル書ニ就キ見ルベシ）

安息日ヲ守ルノ法ハ、ソノ原因并ニ目的ニ由リテ定ムベキ也

○元來安息日ノ起原ハ天地ノ創造、基督ノ復生等実ニ慶賀スベキ事件ニ關スルヲ以テ、是ハ祝日トナサ、ルベカラス、百般ノ業ヲ休ミ、汚穢ノ衣服ヲ「ホド」<sup>（ホド）</sup>、佳麗ノ服ヲ着スベキ日ナレバ、安息日トナサ、ルベカラス、且當世ノ業ヲ休ミ神聖ナル來世ノ働ヲ望ムノ日ナレバ、樂ンテ待チ慎テ用意ヲナスノ日ナリ

以上述ブル所ノ趣旨ニ從ヒ之ヲ守ルトキハ、則チ安息日ハ実ニ吾人ノ為最大ノ幸福ヲ与フルノ日ナルベシ  
聖潔ハ安息日ヲ正当ニ守ルニハ欠クベカラサルモノナリ

宗教上ノ安息日ハ、宗教上ノ事ヲナシ之ヲ守ルベシ、故ニ宗教家ニアラサレバ決シテ守ル能ハサルベシ  
安息日ハ罪惡ヲ拒クノ一良関門ナリ、蓋シ吾人ノ神ニ奉事スルヤ、安息日ヲ守ルノ一事ハ諸般ノ義務中頗ル難事ナリ、人此難事ニ耐エ得ルトキハ、必ス其他ノ義務ヲナシ得ルナリ

ヨボルンノ囚獄ニ於テ、一千二百三十二人ノ罪囚中、安息日ヲ守リタルモノハ僅ニ二十六名ニ過キス、又一年間犯罪人二百三名ノ内、同シク安息日ヲ守リタルモノハ僅カニ二名ニ過キサリシト云フ

安息日ヲ守ルモノハ必ス特別ニ神ノ洪恩ヲ蒙リ、之ヲ守ラサルモノハ数其業務ヲ妨ケラレ、其目的ヲ果〔シ〕メス能ハザルヲ見ル、是実験上疑フベカラザルモノアルナリ、宗教上安息日ハ一個人ノ信仰、家族ノ幸福、自由政躰ニ欠クベカラザルナリ、故ニ吾人信徒タルモノハ殊トニ之ヲ貴重スベキナリ



新島襄全集 2 ■ 宗教編 ■ 注解

# 説教稿一

5 第一百年期とは第一世紀。

6 二万々、ついで三万々とは、二億、三億であらう。

\*\*\*京都第二公会は明治九年十二月三日、上京第二十二区新島丸頭町四十番地新島仮寓に新島を仮牧師とし、教会員二十三名で設立された。宣教師書簡によれば Shin Karasuma Church と称され、当時の一般呼称としては西京第二公会ともいわれた。十一年九月七日、同第二十二区松蔭町百四十番地に新島宅が新築されるとともに集会もそこでおこなわれるようになった。

7 「安息日之説」という表題は大きく朱で書かれている。

10 第一公会は明治九年十一月二十六日に寺町通今出川下ル西入の D・W・ラーネッド (Dwight Whitney Learned) 宅に教会員十七名で設立された。宣教師書簡によれば Imadegawa Church と称され、一般呼称としては西京第一公会ともいわれた。

20 当時、新島の手沢の旧約聖書は明らかでないが、「茲ニ大道アリ、乃清潔ノ道」は「在<sup>レ</sup>彼<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>一大道<sup>一</sup>、一路<sup>ヲ</sup>將<sup>ニ</sup>稱<sup>ス</sup>為<sup>ニ</sup>聖潔之道<sup>一</sup>」からとっている。

22 この説教は冒頭にあるように、ただ「明治十三年九月」とあるが、『原田助遺集』(七ページ)によると、九月十二日(日)の条に「午前九時半ヨリ第二公会ニ行ク新島先生ノ説教アリ」と見え、原田はその大意をしるして、「弁舌爽快自ラ其頭脳ヨリ出テ来ルヲ見ル」としるしている。

\*\*\*浪華(浪花)教会は明治十年一月二十日、大阪の東区高麗橋四丁目心斎橋筋東北角、松村矩明診療所に沢山保羅を牧師として設立され、当時高麗橋四丁目三十四番地竹谷保太郎の控家を会堂としていた。新島は前日、新町高島座におけるキリスト教大演説会に臨んで演説し、翌二十二日(日)、病身の沢山を助けて教会で説教をおこなった。

27 新島は八重夫人同伴で、岡山教会設立、金森通倫按手礼式出席のため明治十三年十月十一日に京都をたち、同年十二月まで、岡山のほか、伊勢時雄の牧する今治教会、さらに下関、福岡、熊本、阿蘇地方を巡回、問安した。

この福岡での説教は不破唯次郎の伝道を援助するものであったと思われる。なお福岡に教会が設立されるのは明治十八年六月になってからである。

※「十二年十一月」と注記があるのは、このとき、新島は京都の三公会を代表して安中教会（明治十一年三月三十日設立）の海老名喜三郎（彌正）の按手礼式（十一月七日）に出席のため安中に赴いた。注記の先後は明らかでないが、この説教はそのとき、安中教会で、すでにおこなったものと想定される。

29 第三公会は明治九年十二月十日、ラーネッド宅の教会、新島宅の教会について三番目に設立された。同志社教師で旧約聖書を担当した E・T・ドーン（Edward T. Doane）宅（鴨川の東、東竹屋町）を会堂としたので宣教師書簡によれば Takeyamachi Church と呼ばれ、教員は二十名、当時の呼称としては西京第三公会ともいわれた。平安教会として、これから分れた四条教会（京都教会）の前身に相当する。

32 明治十六年四月、「同志社大学校設立旨趣」を印刷公表した新島は、同年五月八日、金森通倫、上原方立らとともに、この冊子を携えて、東京で開催された第三回全国基督教信徒大親睦会に第二公会代表として出席した。大親睦会の終了後、新島は安中、高崎方面を巡回、伝道した。原市教会が設立されるのは明治十九年十月十九日であって、この説教は、当時この地域で伝道を進める蔵原惟郭を後援するものであった。

42 この説教稿は冒頭に「岡山」とし、この年記は朱で補筆されている。前年十月十三日に岡山教会の設立の式に列席したのに続いて、再び岡山に赴いた際の説教と思われる。

44 史料 4 「初メハ大切、ヨリ終リガ大切」と題する説教に見られる（一九ページ）ように、新島は説教に文天祥の正気歌を引用する。なお、「時究節乃顯」は「時窮節乃見」である。

50 六月十九日、日曜日の説教である。

53 「若膠柱鼓瑟耳」は「柱ニ膠シテ瑟ヲ鼓スルガ若キノミ」と訓み、『史記』の藺相如伝に見え、物事の変通を知らず、固執した考えを批判する有名な句である。

※※廉頗の故事は『十八史略』に見える。新島は中国の故事を引例して説教をおこなっているが、手沢の典籍が何であつたか、いまだ渉獵が進んでいない。

60 宣教師 M・L・ゴードン（Marquis Lafayette Gordon）は同志社で当初、牧会学を担当し、京都の下京区域の市

民伝道にも顕著な働きをなした。

63 「ローマ人への手紙」十三章の十二—十四節。

64 William Wilberforce (1799—1833).

67 明治十七年、北英国聖書会社、横浜印行の『訓点旧約全書』(三冊本)によると、「爾曹已見我所行於埃及人、我如何負爾以鷹之翼、導爾歸我」とある。以下旧約の引用はすべて明治十七年版による。

71 「是夕、神以夢臨亞蘭人拉班、謂之曰、慎毋以善言惡言加諸雅各」とある。

77 bittersweet.

78 「汎交友者、必自卑、惟有友、繼續愈於兄弟焉」。

85 本稿は「銃狢願」を書きかけて途中でやめた用紙を利用したもので、此の行のあと、空白一行おいて、本文とは天地逆に「小生義昨年も銃狢願済」と書かれている。

88 パイサゴランとはピタゴラス派。

\*\*パイシヤス (Pythias)。

89 本稿は史料16「朋友之交義ハ天国ノ写真」と内容に相違するところがあるが、その下書きではないかと思われ、筆致はやや粗雑である。

92 J. Bunyan: *The Pilgrim's Progress*, (1678~84).

96 「マタイによる福音書」十六章の十七節、原文では補筆の形でしるされており、囲みはない。

\*\*実際は十八、十九節で、原文では十の下が空白になっている。

106 この日午後七時より宮川経輝の按手礼式があり、市原盛宏が司式し、祈禱を森田久万人、聖書朗読を杉浦義一、説教を新島襄、按手祈禱を沢山保羅、新牧師への勧めをデイビス、祝詞を松山高吉、教会への勧めを金森通倫がおこなった。

107 全国基督教徒大親睦会は五月八日から十二日にわたっておこなわれた。集まった代表的な人びとは口絵写真に見られる通りである。冒頭に「恐レ抱カス談ス事」としるしていることから、この親睦会にのぞんだ新島の気持が察せられる。なお末尾の部分は加筆訂正が著しい。

\*彦根教会はすでに明治十二年六月四日に設立されており、同志社の学生がしばしば応援伝道に出かけている。

『福音新報』（明治十六年八月十四日、「一卷七号」）によると、八月二日彦根川原町長光寺浜劇場で基督教演説会があり、新島は「文明の基礎」と題して演説をしており、また同紙（十月十六日、「一卷十六号」）によると、新島公義が堀貞一や辻密太郎に代って長浜や彦根の教報を報告していることが知られるが、同紙には、九月九日「三人受洗」という詳細な言及はない。

112 前稿史料20と同じ時の説教稿と推定される。改訂を繰り返している草稿である。なお、史料62「キリスト真理ノ証ヲ為シ真理ノ国ヲ世ニ起セリ」の第一次草稿と思われる。また、何箇所か英文の記載があるが、判読困難なため省略した。

121 119 32 ページ注参照。大親睦会后、安中市、高崎を巡回する。  
安中教会では明治十六年五月四日に新築会堂の開式がおこなわれている。新島の間安説教はそれとの関連においてなされたものである。

122 六月十七日が日曜日にあたり、包紙にしろされているのは誤りであろう。  
包紙の裏面には墨書のメモがしろされているが、本文とは全く無関係の記事であるので省略した。

なお、第1巻『教育編』（同志社記事〔社務第十八号〕二四三、二四四ページ）にあるように、六月二十九日、第八学年期の卒業式がおこなわれ、古田合二郎、小崎繼憲、三宅荒毅、新島公義、太田幸市、末吉保造、津田元親、辻密太郎ら八名の英学校生徒が卒業した。本文中、津田仙に関して補筆しているが、それは津田元親の存在が新島の脳裡をかすめていたからと思われる。

『易経』『繫辭下篇』、『窮神知化徳之盛也』。

「ルカによる福音書」第四章二十六節ならびに「列王紀上」第十七章九節。  
やもめのレプタ。

144 138 133 130 新島は八月初旬から福井・石川兩県の各地をめぐって伝道ならびに大学設立のための賛助を依頼する。実際に巡歴した三国、坂井の例をあげて福井の教友、信者に説教をおこなっている。新島の日記「出遊記」（第5巻『日記・紀行編』に収録）にも「福井の信者のため明治十六年八月二十四日、道理と信仰の關係について演説する」と見える。

pendulum 振り子の原理。

145 『論語』「八佾第三」、「獲<sup>ハツキ</sup>罪<sup>ツミ</sup>於<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>所<sup>ニ</sup>禱<sup>ス</sup>也」。

148 史料26「道理ト信仰ノ関係〔A〕が全文鉛筆書きであるのに対して、本稿はすべて墨書で、内容も整っているから、福井でおこなった説教を浄書したものと思われる。補筆で「福井ニ於テ、聴衆窓外ニ出ツ」とはまさに追懐して後補したものであらう。

150 この鉛筆による補筆部分は「ヨハネによる福音書」第十二章三十二節である。

157 本稿は史料28「此ノ人ヲ見ヨ〔A〕」の体裁と違って、一部分鉛筆で英文を綴った上に、墨書されている。英文は判読が不可能であり、省略した。なお年記を欠いており、「年月日不詳」としたが、史料28に密接に関連しているので、ここに配列した。

162 史料23「悔改」の本文に鉛筆書きで「16 Dec. 9th 1888」とあり（一二三ページ）、本稿とともに、当日二度にわたって説教をおこなったと考えられる。

163 大関、豊臣秀吉の辞世の句といわれる。伝えられている句は「露と落ち露と消えぬる我身哉浪華のことは夢の又夢」である。

165 Pompe van Meerdervoort, Johannes Lydius Catherine (1829—1908). 彼は安政四（一八五七）年長崎海軍伝習所教官として来日した。

174 和紙に朱筆で書かれたこの草稿には、用紙の右肩に甲、乙、丙、丁と墨で順序が付されているが、その中の丙が一枚欠落している。

176 新島は明治十九年五月十四日に京都をたち、仙台に設立しようとする東華学校の用務を兼ね、若松、米沢、福島を巡回伝道し、二十九日仙台につき、一致教会を牧する押川方義の教会（宮城中会の仙台教会）で説教した。

178 Julius Hawley Seelye (1824—95). 新島のアーモスト大学時代の恩師、第1巻『教育編』の解題（六四五ページ）参照。

187 この草稿は小型ノート（縦13cm・横20・5cm）にしろされ、紙片は七枚にわたっている。「Wakamatsu May 26th/86」とあるのは、実は五月二十六日には新島は山形県の米沢に移っており、さきの二十二日から二十四日にわた

って、若松に滞在し、伝道所（教会になるのは明治二十四年一月二十二日）において説教し、洗礼をさすけたときの状況を追記したものとと思われる。

※六月二十日（日）の第二公会におけるこの説教は、この月の二十五日に卒業することになっている人びと（松尾音二郎、松波仁一郎の兩名、第一巻『教育編』『同志社記事（社務第十八号）』二六一ページ参照）にも奨めるものであった。

なおこの草稿は全文、黒インク、ペン書きで、ところどころ青インクペンによる訂正加筆がおこなわれている。

191 明治十九年八月九日より同二十八日まで、新島は八重夫人同伴で兵庫県東垂水村に逗留した。二十二日（日）に明石教会（明治十一年十月十五日設立）で説教をおこなった。

192 長浜講義所は堀貞一が伝道を担当し明治十八年六月十日に長浜教会となった。当時新島は第二回目の欧米旅行中であり、教会成立後はじめて長浜教会で説教をおこなった。

195 上欄に横にならんで朱でしるされている、「十一」以下の数字は讚美歌の番号であるが、その末尾（右端）は「五十六」としるされ、六十六をしめすのかもしれない。

200 この草稿は朱野紙（縦18・5cm・横26・5cm）に墨書されており、表紙を除き八葉にわたっている。五葉の末尾は「御国ノ民ト称スル吾人ノ今日坐視傍觀スヘキ時ナランヤ」（一九八ページ）であり、文章は直接つながらない。

※同志社教会は明治十九年六月四日、第二公会を主軸にして、同志社生徒、教員、家族らによって設立された。この年六月二十五日、礼拝堂（現同志社中学校チャペル）の捧堂式がおこなわれ、学校における教育と宗教（礼拝）が併行して進められるようになり、かつ日本組合基督教教会が成立したことも連動して設立された。したがって、従来の三公会は、すでに設立されていた四条教会（明治十八年一月十四日成立、のち京都教会）と、新たに成立した同志社教会、第三公会を中心として、第一公会をあわせた平安教会（正式には明治二十年六月改称）の三つになった。

「我之義神、歟、我、願、爾、聽、ケ、令、我、昔、遭、困、迫、而、爾、寬、我、今、願、爾、矜、恤、我、二、聽、我、之、祈、」（詩篇第四篇二）

明治十九年十月二十四日、紀州沖でイギリス貨物船が沈没し、日本人乗客が全員溺死した事件。

この草稿には別紙が付されており、朱筆で次のようにしるされている。

△一事ハ必要ナリ

◎マルタハ働ヲ為ス〔為スヘクシテ捨ヘカラス

◎マリヤハキリストノ足下ニテ之ヲ学フ

其ノ味

〔一簞ノ飯〕一瓢ノ飲、人ハ為然〔不堪〕

其憂、賢哉、回也不改其樂〔其樂〕

マリタタルヲ嫌テ唯マリヤヲ□ハ一方ニ傾ク憂アリ

一、マリヤタルヲ学テ、マルタタルヲ学ハサル人モ弊ナキ能ワス

人ハ宜ク完全無欠ノキリストヲ学ヘ〔働クモキリストニ就クヘシ  
沈思スルモキリストニ来ルヘシ

### △主人

〔人ノ負債アリシニ主人之ヲ許ス、然ルニ己レニ負債アリシ人ニ逢イタレハ其ノ人ノエリヲ取ル、其負債ヲ  
ウケガ〔ハ〕ス キリストノ前〔ニ〕パリサイ人姦淫ノ婦ヲ連レ来ル、罪ナキモノ石ヲ以テ打テト命ス

〔打ツモノナシ、我モ亦爾ヲ罪セス、再罪ヲ犯ス勿レ、安然去レト

\*\*\*年月、場所ともに推定。

223 日本最初のキリシタンであるパウロ弥次郎。

\*\*\*『論語』『子罕第九』、『歳寒、然、後知松栢之凋也』。

\*\*\*『史記』『李広伝』の「桃李不<sub>レ</sub>言<sub>下</sub>自成<sub>上</sub>蹊」。

「ハブル人への手紙」。

231228 San Pietro in Vincioli.

\*\*\*史料41「モーセノ一生涯〔A〕」と同種の草稿で、この方が詳しいけれども完結していない。

243241239 George Müller. 孤児院創始の父（第1巻『教育編』史料74参照）。

彼の来日は明治十九年十二月で、同志社英学校を訪れ、礼拝堂で演説したのは明治二十年一月七日であった。

浪花教会の成立は明治十年一月二十日であり、この日教会創立十周年記念会が土佐堀の青年会館でおこなわれ、

午前は祝賀式、午後二時より説教、洗礼、晩餐式をおこなった。集る者およそ千名。なお、この日、午後一時半より宮川経輝を議長として病床にある沢山保羅牧師の解職式がおこなわれた。式は松尾敬吾の司式で、祈禱を吉岡弘毅、説教を新島、洗礼を同じく新島がほどし、晩餐礼をオルチン、長田時行、祝禱をアレキサンデルがおこなった。

252 248

この説教は解題でふれているように、新島の自杖事件（明治十三年四月十三日）における心裏を彷彿させる。峰は山本覚馬の先妻の子供であり、したがって、山本久栄とは異母姉妹であった。伊勢（のち横井）時雄は当時、四国の今治教会（明治十二年九月二十一日設立）で伝道にたずさわっていた。

254 253

三名とも京都看病婦学校、同志社病院のスタッフ。

262

当日午後二時より同志社礼拝堂において葬送告別式がおこなわれた。

254 253

「浪花教会記録」（『沢山保羅研究』5所収）によると、新島は「氏〔沢山〕コソ日本ノミューラルト云フモ敢テ過言ニ非ラザルナリ」と述べていることが知られる。

263

三月二十七日、沢山保羅は大阪バルナバ病院で死去した。享年三十四歳。「送屍式」は二十九日青年会館でおこなわれた。亀山昇が司式し、履歴朗読を前神醇一、追悼説教をD・C・グリーンと新島がおこなった。

## 説教稿Ⅱ

273

『淮南子』「説林訓」、「楊子見<sup>ヲ</sup>塗路<sup>ニ</sup>而<sup>テ</sup>哭<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>、為<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>可<sup>キ</sup>以<sup>テ</sup>南<sup>ニ</sup>可<sup>キ</sup>以<sup>テ</sup>北<sup>ニ</sup>、墨子見<sup>ヲ</sup>練絲<sup>ニ</sup>而<sup>テ</sup>泣<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>、為<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>可<sup>キ</sup>以<sup>テ</sup>黄<sup>ニ</sup>可<sup>キ</sup>以<sup>テ</sup>黒<sup>ニ</sup>」。

279 275

この史料はほとんど朱筆でしるされている。

「同志社英学校沿革 明治十七年一月」（『同志社百年史 資料編Ⅰ』所収）によると、「明治十三年乃第六学期生徒平均数 九十三人、同十四年乃第七学期平均数 百二十一人」とある。以後漸増の傾向にあるから、「殆百名ニ至ラントス」という時期は、明治十三、四年のころと推定される。

本稿は本文中の文言から、京都第二公会で、明治十三、四年のころ、おこなわれたと考えられる。

Alpheus Hardy.

281 280

※アルフィアス・ハーディは一八八七年（明治二十）八月七日に死去。新島は八月十三日、札幌で京都からの計報電報をうけた。

298 283 A・ハーディの死後、明治二十年の秋から冬にかけての説教であらう。

明治十七年三月初旬から校内に信仰復興運動がおきた。この白熱的信仰の復興のうごきは、前年十二月二十八日付で出された「改正徴兵令」によって、「校中非常ノ困難ヲ来タシ、百五十人ノ内四十人計帰省シ、該令ヲ逃ル、ノ策ヲナス」（同志社記事）『同志社百年史 資料編一』所収）という動搖のなかでおこった。

307 303 300 明治十七年三月下旬から四月五日第二回海外旅行出発までの起稿である。

『論語』「子罕第九」、「鳳鳥不至、河不出図、吾已矣夫」。

Thomas Paine: *The Age of Reason* (1794~95).

※John Stuart Mill: *On Liberty* (1859).

310 自由党総理板垣退助は明治十六年八月以降、そのヨーロッパ旅行の見聞に基づき、従来の民権運動の方向を改めて生活社会の改良を唱えはじめた。新島は「〔板垣〕閣下には御帰朝已来耶蘇教の必要なるを主張せらるゝに似たり」（明治十六年十二月三十一日付、板垣退助宛書簡）と書き送っている。

※伊藤博文は憲法取調べのため、明治十五年三月に渡欧し、翌十六年八月に帰国した。彼のヨーロッパで目撃したキリスト教の動向を新島は「何人」から耳にしたか興味深い問題である。『伊藤博文伝』中巻には、明治十六年一月八日付で、ベルリンから松方正義に送った書簡が収められており、そこには「概して大陸諸国立君政治の精神を深知せんとすれば、其勢力、全く上等社会即ち貴族にあり、而して貴族上等社会の君権を主張する者、十中八九皆宗教信仰者なり」、「抑歐洲の所謂文明道德なる者は、悉皆耶蘇教内の事」などと、書きおくっている。伊藤の伝えた相手は松方正義、さらには井上馨などが考えられるが、新島は「何人カニ云レタリ」と実名をあげない深い配慮を示している。

311 北島道龍は浄土真宗本願寺派の僧侶で、明治十四年渡欧、十七年帰国後、自ら仏教界のルターたらん事を期し、明治会堂で数回にわたって講演をおこない、宗教改革の趣旨を発表した。

303 ページ注参照。

332 新島は「第三」の節の改稿を企図したようであるが、この小見出しを抹消し、再び前段からの続きとして書きついでいる。

344 342 「ローマ人への手紙」一一一六。

343 この草稿は他の草稿がノート質の洋紙や和紙の半紙に記されているのと異なり、巻紙（縦16cm・長さ85cm）に書かれている。

347 教部省のち内務省のもとで、大教宣布をつかさどる役職で、明治十七年五月廃止されている。したがって、新島がこれを起稿しているのは同年四月以前と推定できる。

363 この草稿は二つ折りした無野の用紙の表裏に墨・朱・鉛筆などで記されており、錯綜が甚だしく、この部分は判読が困難であるので省略した。

370 366 A. Duff, インドにキリスト教の大学を設けた。

ここにまとめてあげられている典籍の章句は次の通りである。

『大学』「経一章」、「自天子以至庶人、皆是皆以脩身为本」。

『中庸』「第十二章」、「君子之道造端乎夫婦、第十三章」、「忠恕違道不遠、施諸己而不願、亦勿施於人」。

『論語』「里仁第四」、「夫子之道忠恕而已矣」、「顏淵第十二」（衛靈公第十五）、「己所不欲勿施於人」。

なお、「中庸十五章」とあるのは、「第十六章」で、「子曰鬼神之为德其盛矣乎」、「詩曰神之格思、不可度思、矧可射思」、途中に挿入されている「得罪於天無所祈」は『論語』の「八佾第三」に見える一節である。

# 宗教関係演説稿

377 新島は岡山教会の設立ならびに金森通倫の按手礼式（十月十三日）に出席し、説教をおこなった後も岡山に滞在し、この日、ベリー、ケリーらと開業式に出席した。

382 セント・パースロミューの虐殺。

385 383 十月十三日、岡山教会設立。

岡山教会での金森通倫の按手礼式に出席していた伊勢時雄の案内で、新島は四国にわたり、今治教会の問安を十月二十日から二十二日にわたっておこなった。今治教会は明治十二年九月二十一日に設立され、伊勢時雄の牧するところであった。

393 この日東京麻布仲之町にあった粟津高明の日本教会と、東京伝道を志す新桜田町でおこなっていた小崎弘道の教会が合併した。そこに新しく設立された教会が東京第一基督教会（のちの霊南坂教会）である。

397 107ページ注参照。

\*\*Joseph Cock 明治十五年四月来日し、各地でキリスト教演説をおこなう。史料132「第二公会録事」にも、明治十五年五月二十六日、京都新京極の劇場で演説したことが知られる。帰国後のアメリカにおけるクックの日本観が新島に誰によってもたらされたか、明らかでない。

明治十六年四月大阪でおこなわれた第二回宣教師大会（Osaka Conference）。

404 401 400 明治十六年三月、横浜初週祈禱会から各地にリバイバル運動がおこる。

警醒社の創立株主募集広告が『七一雑報』に掲載されるのは明治十六年三月二十三日（八巻二号）である。新島はこの事業を積極的に推進すべきであるとした（杉井六郎「警醒社について」『キリスト教社会問題研究』三十号所収）。

416 408 ハーディの死去は明治二十年八月七日であり、新島は十一月二十日（日）同志社チャペルで記念説教をおこなう。新島が自らキリスト教書に接した年代を「十七八年ノ比」と明示している例で、それは安政六（一八五九）年、万延元（一八六〇）年に相当する。

419 明治二十二年六月二十九日から七月十日にかけて、全国のキリスト教青年信徒が集まって、最初の夏期学校が同志社で開かれた。小崎弘道の「聖書のインスピレーション」、金森通倫の「熊本花岡山の献身」などの演説がおこなわれたことで知られる。

420 七月四日におこなわれた新島の演説草稿は残されていない。筆記はこの『青年道標』のほか、『同志社文学会雑誌』（二十四号、明治二十二年七月三十一日）に同文のものが、片仮名混りの文で収められている。また、露無文治編『学生之大会』（明治二十二年十一月二十五日）には「夏期学校に就ての所感」として、多少文言の異同が認められる

ものが収められており、石塚正治編『新島先生言行録』（明治二十四年九月）にも掲げられている。

427 『孟子』「公孫丑章句上」。

\*\*\*韓愈の原道。

説教・演説稿断片

464

『列子』「力命第六」、「管仲嘗テ歎ジテ曰ク、吾少クシテ窮困ナリシ時、嘗テ鮑叔ト<sup>アホナヒ</sup>買ス、財ヲ分チテ多ク自ラ与フ、鮑叔我ヲ以テ貪レリト為サズ我が貧シキヲ知レバナリ。吾嘗テ鮑叔ノ為メニ事ヲ謀リテ大ニ窮困ス、鮑叔我ヲ以テ愚ナリト為サズ、時ニ利ト不利トアルヲ知レバナリ。吾嘗テ三たび仕へ、三たび君ニ逐ハル、鮑叔我ヲ以テ不肖ト為サズ、我が時ニ遭ハザルヲ知レバナリ。吾レ嘗テ三たび戦ヒ三たび北グ、鮑叔我ヲ以テ怯ナリト為サズ、我ニ老母アルコトヲ知レバナリ」。

\*\*\*杜甫の「貧交行」。

468 466

この史料は鉛筆でしるされている。  
この史料は鉛筆でしるされている。

\*\*\*『論語』「公治長第五」、「子曰、道不<sup>レ</sup>行、乘<sup>レ</sup>桴<sup>ム</sup>浮<sup>ム</sup>于海<sup>ニ</sup>」

495 493

この草稿はヨセフの生涯を図解して示し、一枚の野紙の左端から右に展開する記述になっている。  
史料12「第二公会録事」明治十四年十一月十日の条（五七二ページ）参照。

教会合併問題関係稿

507

シドニー・ギョーリックは十一月二十六日の懇談会の席上、「嘗テ諸君ニ差出シ置キタル意見書ノ続キ」といつて、合同反対論をのべている（『明治二十一年十一月 組合教会臨時總會記事』。「ギョーリック氏書簡」は、その「意見書」に関するものか、合同反対論に関するものか判然としない。

『基督教新聞』（二七四号）の伊勢時雄「一致組合両教会合併の議に付て所思を述べ」。

532 519

明治二十一年十一月二十三日から大阪の江戸堀北通一丁目大阪教会で開催される組合教会臨時總會。なお十一月

二十七日、安部磯雄によつて報告された新島の意見は次の通りである（『明治廿一年十一月 組合教会臨時總會記事』）。

（第一）此度ノ憲法ニテ合併スル甚ダ困難ナル事（甲）此憲法ニヨレバ是迄組合派ニ於テ行ハレタル自治政ノ外ニ権力ヲ有セル者アルガ如シサレバ此迄ノ共和主義ノ外ニ他ノ権力アル者ヲ存スル詭ナリ之ヲ一憲法ノ下ニ置キテ十分ノ調和ヲ計ルハ至極困難ノ事ト云フベシモトヨリ聖人君子カ或ハ極々ノ愚人ナレバ其調和モ出来得ベシト雖現今ノ如キ中等人ノ多キ中ハ必ズ軋轢ヲ生ズルニ至ルベシ故ニ此憲法ヲ以テ合併スルコトハ十分ノ注意ヲナサル可ラズ（乙）此度ノ憲法ニヨレバ孰レカノ主義ヲ削殺セザレバ合併スルコト能ハザルベシ如何トナレバ兩教会ノ兩主義ヲ併立サスレバ遂ニ主義ノ争ヲ生ジテ後チ又分裂スルニ至ルベケレバナリ（丙）日本ノ組合一致兩教会合併スルニ至テハ外国ノ兩伝道会社モ亦合併スルノ必要ヲ見ルナリ如何トナレバ各自自教会ノ拡張ヲ欲スルハ人間免レザルノ通患ナレバ其本ヲ別ニシテ末ヲ合一ニスルハ甚ダ難シ而シテ外国伝道会社ハ容易ニ其会社ノ合併ヲ承知スルコトナカルベシ

（第二）上告裁判ノ事ニ付キテハ自分ハ何所マデモ反対セザルヲ得ズ戒規ノ事ハ彼ノ馬太伝ニアル聖誠ヲ以テ十分ナリト信ズソハ是迄我教会ニテ用キ来リシ勸告トカ忠告トカラ以テ自分ハ満足セル者ナレバナリ

（第三）此度ノ合併ニ就テハ教会中小部分ノ人ヨリモ全体ノ人ニ深ク考ヘヲ引起サシムルノ必要アルヲ感ズルナリ

（第四）是迄ニモ定メテ宣教師達ヨリ「アメリカンボード」ヘハ通知セシコトナラン然レドモ此事件ニ付キ明カニ日本信徒ヨリ該会社ニ向テ通知セラレンコトヲ望ム而シテ其通知ハ宣教師ノ手ヲ経テナスベキ必要アルヲ感ズルナリ

東京第一基督教会と番町教会。

基督教会は聯合に訂正することを新島は忘れてしまったのではないだろうか。

## 第二公会録事

この史料は第二公会の「原簿」に当るものであるので、人名の表記は原本のままとし、右傍に注記した。

安政六（一八五九）年、アメリカ監督教会の C・M・ウィリアムス、J・リギンス、長老教会の J・C・ヘボン、

改革派教会のS・R・ブラウン、G・F・フルベッキらが来日した。

丹波第一基督教教会と称される。

587 586

この史料は新島自筆の簿冊「同志社記事」(第1巻『教育編』史料42)の後半に合綴されている。表題の「公会記」は上欄に墨筆で大きく横書きされており、その下の余白を四段に墨線で区切って、その三段目に冒頭に掲げられている「第二公会ノ信者」として氏名がしるされ、他の段はすべて空白のままである。

588

ジョージ・カックラン自筆の和田正幾薦書で、和田に持参させたものである。一八七八年三月十日付であり、なぜか史料132「第二公会録事」の明治十年九月十六日の条(五六ページ)ならびに本史料(五九四ページ)の記述とは一致しない。なおこの英文薦書は「公会記」としるす前の丁に貼付されている。

\*\*須田明忠ついで田中伝次郎の薦書は、ともに洋方眼紙に墨書されている。いづれも「摂州第一神戸公会」という呼称を使っている。

595

多聞教会の設立、明治十年十月二十日。

\*\*村上俊吉の按手礼式。

599

「北第十一大区」としるされる縦罫紙に墨書。「受洗之者」とは明治十一年三月三十日、安中教会の設立のさい、新島襄が洗礼をさずけた人々で、その数は三十名であった。したがって速水忠雄が欠落している。

「洗ヲ領セントスル者……」とは、ついで同年九月二十五日、グリーンから洗礼をうける安中教会の人々である。なお、安息日ごとにのみ出席する人名をあげて、安中教会の設立した年の信者の動向を窺うことができる。

624

『脩身学』

「ヤコブの手紙」三一、「若<sup>シ</sup>有<sup>キ</sup>下<sup>ニ</sup>無<sup>キ</sup> 衍<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>言語<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup>是<sup>レ</sup>為<sup>ニ</sup>全<sup>ク</sup>人<sup>ノ</sup>能<sup>ハ</sup>自<sup>ラ</sup>範<sup>ス</sup>其<sup>ノ</sup>全<sup>ク</sup>体<sup>ヲ</sup>」。

なお、『新約全書』はすべて、明治十四年大英国聖書会社の横浜印行本によった。



## 解題



この巻に収録されている内容は、教育者でもあり伝道者でもあった新島襄の説教と宗教講演等の草稿の集成であり、その他に新島の晩年明治二十（一八八七）年に提案された一致、組合両教会の合併案に対する新島の意見、また新島の創設した京都第二公会（現在の同志社教会）の初期記録の一部、さらに新島の説教の断片的史料等一三五編におよんでいる。

# 1 新島襄の説教・演説稿

説教稿Ⅰ〔1～48〕は明治十三年から二十年に至る期間のもので、それらはすべて年代順に配列されているが、年代の不明のものは説教稿Ⅱ〔49～72〕として、一括してその次に置かれている。それらは大体においてそこで引用されている旧・新約聖書の本文の順序に従っている。それに続く宗教関係演説稿〔73～82〕はこれも年代順になっており、日付の不明〔79～82〕のものは、その次に置かれている。それに続く部分は説教・演説稿の断片〔83～112〕で、その中には判読し難い部分もあるが貴重な史料と見られる断片も多い。教会合併問題関係の諸稿本ならびに「日本基督教会憲法並細則附録」〔113～131〕は相当の量に達しており、これらも当時の実状や新島の本心を窺うに足る重要な資料で今回初めて発表されるものも含まれている。その次に収録されている京都第二公会録事〔132～134〕は同教会創設当時の記録で新島は仮牧師であった。

その次のホプキンス『修身学』〔135〕は、Mark Hopkins (1802-87), *Lectures on Moral Science*, 1862と見られる書を宮川経輝が訳した草稿で、新島の手によるものではないが、そこには新島の書き込みが散見されるので、その全訳と共にこの巻に収録することにした。同志社の創設の一期期においては正式に聖書を教課の中に入れることが許されなかったことがあり、本書はその時代に聖書の代りに用いられた「修身書」であったと思われる。

また以上の中の「夏期学校に対する感情」〔79〕は、明治二十二年六月二十九日から七月十日にかけて、同志社で開催された第一回夏期学校における七月四日の新島の奨励で、当時来日中で、夏期学校の校長となっていたウィシャードの名を三度も挙げてゐる。当日新島は病氣中であつたが、特に十数分間出席して、この感想を述べたのである。

ウィシャード (Luther D. Wishard) は米国キリスト教青年会同盟から派遣された国際学生青年会同盟幹事 (International College Secretary) であつて、日本各地の学校を歴訪して伝道にも尽力し、同志社教会ではその年の三月二十四日には一〇三名の受洗者を出している (小崎弘道『日本組合基督教会史』、一〇二ページ)。なお、この夏期学校開校当時、同志社 (同志社学院と称した) の生徒数は七四〇名で、そのうち信者は四九八名に達し、この夏期学校には二〇〇余名が参加した (『同志社文学会雑誌』二十四号)。

新島に直接師事した故今泉真幸<sup>本</sup>牧師は同志社と組合教会は新島の双生児であると語っていたが、新島の全生涯はこの両者の健全な育成のために献げ尽されたと言つても過言ではなからう。「自由教育、自治教会、両者並行、国家万歳」というのが新島の畢生の目的であつた。同志社の創業期における苦心の数々はもちろんのこと、初期の組合教会の指導のためにも並々ならぬ努力や心労を惜しまなかつた。明治九年十二月三日、京都第二公会創立の日から、十二年十月二十四日市原盛宏にその任を譲るまで、この教会の仮牧師をしていた〔132, 133〕。明治十九年六月四日、第二公会会員中、同志社に属する者は同志社内に移つて同志社教会を組織し、新島は再びその教会の仮牧師に就任したが、翌年三月二十五日病氣のため辞任、金森通倫がこれに代つた。このようにして説教や伝道講演のため東西に奔走し、その構想を練つたり、演説法に多くの考慮を加えていたようである。これらのことは新島の説教を読む者が誰しも感ずることであるが、新島の説教は常に誠実、至誠をもつて貫かれていた。そのことは次の引用によつてもその一斑を窺うことができる (明治十四年五月十七日、京都四条北座における演説「靈魂ノ病」〔75〕の一部、三九一ページ)。

却説、私モ諸病ノ問屋タリシ彼東京人ノ類イテアリマシテ、身体ノ病ハサテオキ私ノ靈魂ニ罪ト云大ナル病氣カ  
 アツテ、何事ヲ不論、事ニ臨ミサヘスレハ此病氣カ発シタリ、去レトモ其時ニハ病氣タルヲモ不知、随分人ヨリ  
 ハ正シキ者ナリト誤テ自評ヲ下シ居リマシタカ、唯今回顧スレハ乃チ豪漫〔傲慢〕飾非偽善、嫉妬憎惡、放蕩淫乱実ニ慚  
 愧ニ堪ヘサル程ノ大患也

如斯キ病氣ニ染マリタレハ必ラス之ガ治療ヲ求ムヘキニ、不幸ニシテ己ノ病ニ氣カ付カス、又良医モナク、随テ  
 良藥モナキ時代ニ生長シタレハ、靈魂ノ病ハ日々ニ重モク説法トカ講釈トカ云テモ少シモ効ヲ不発、説法ヲ聞ケ  
 ハ直ニ眠ヲ催シ、又論孟ノ講釈ヲ聞ハ彼ノ聞トモ聞エスノ輩ニシテ、依然タル論語読ノ論語不知テ永キ月日ヲ消  
 費シマシタケレトモ、フト耶蘇教ノ書物ニ見当リ、是コソ平生憎ム所ノキリシタン宗門ナルヘケレ、再三復読沈  
 思熟考必ラス其ノ非ヲ看破シテ呉ヘシト鑒意之ヲ読破セシニ、兼テノ想像トハ大イニ違ヒ、宇宙ノ造物主宰ヲ説  
 キ来リ、又人類ニ罪ト云病アルヲ論、且之ヲ癒スヘキ大能力ヲ具有セル耶蘇基督アルヲ説キ来リ、大ニ私ノ心中  
 ニ疑問ヲ起サシメ、必ラス此ハ穿鑿スヘキ事ナルヘシト思ワシメタリ

小崎弘道は新島の説教の中に示された至誠について次のように述べている（池本吉治編『新島先生就眠始末』、明治二十  
 三年、一二二ページ）。

最も私共の感じて居るのは、その誠心なることであります。誠心であつて、何をするにも誠意誠心ですと云  
 ふのが、最も著しい變つて居る処であります。鳥渡話しをするにも、ウカとした話しはない。満腔の熱血を注  
 いで話しをせられた。夫故に其演説をせらるゝにも、説教をせらるゝにも、別に雄弁と云はるゝ程のこともない。

唯だ雄弁と云はるゝ程のことがないのみならず、其云ふ所必ずしも名言のみではありませんけれども、其演説、其説教を聞くや、人々之を聞いて感しないものはない。又之を聞いて涙を流さないものはない。又之を聞いて精神を惹起さないものはない。孰れもソウなると云ふのは何であるかと云ふに、心の中に至誠を以て充たされて居るからであります。

その説教によって、至誠の人新島襄に親しく接し得る者は幸である。

もともと説教は親しく直接にこれを聴聞すべきもので印刷体の説教はどのような名説教であっても、その迫力を半減してしまうものである。新島の説教はほとんどそのままの形で印刷に付せられたものではなく、現存の説教草稿は字義とおりの草稿であつて、そのままこれを後世に残す意図をもつて書き付けられたものではない。この意味において現在の形で新島の説教を読む者は靴を隔てて痒きを搔くの感があるのは当然である。しかし、あれかこれかをもつて聴衆に迫る迫力は百年後の今日においてもその力強い余韻を残している。またこれらの説教は日本キリスト教界の初代における説教の構成や用例を示す一典型として現代的意義を持つている。旧・新約聖書の和訳は明治二十一年の一月に完成しているから、新約はともかく、旧約は多くの場合漢訳聖書や英訳聖書によらねばならず、従つて聖書の固有名詞などはまだ一般に定着しておらず、その点においても統一が見られなかったことは已むを得ないことである。

新島の最初の説教は一八七四（明治七）年五月十日、米国マサチューセッツ州レキシントン市のポーター牧師（Rev. E. G. Porter）の教会でなされたと言われている。それはもちろん英語説教で、その全文は英文編の中に収録される筈であるが、その日本語の要約は『新島研究』第二十一号（一九六〇年四月）に出ている。それは新島の愛誦の聖句、ヨハネ福音書第三章十六節による「神の愛と人の罪」を説いた説教であるが、その相手は米国人であつたから、その

後の日本語による説教とは多少違いのあることは当然である。

また、新島の即席説教とでも言うべきもので、その内容の伝えられないものが多くあったと思われるが、その大部分は個人の記憶中にあるもので、記録されて、発表されたものではない。それらは各地に滞在中、請われるままに感想を述べたもので、ボズウェルがジョンソン博士の片言隻語を書き付けたようなことがあれば、後世に残るものであったと惜しまれるのである。

新島から受洗した故松井文弥牧師の記憶によれば、明治二十一年十月頃、新島が病氣保養のため須磨に滞在中、ある日曜日に夫人と共に明石教会に出席したときのことである。その時丁度大人と子供とを教組に分けて日曜学校が開かれていたが、新島は子供の組に入って彼らと共に教師の話に耳を傾け、夫人は松井牧師の受持っていた婦人の組に加わっていた。日曜学校が終ったので、松井牧師は新島に即席説教をお願いした。

先生はやおら講壇に立ち、厳かな口調を以て諄々と説き起して言われた。真のクリスチャンとは如何なるものであるか、他ではない、全く己を殺した者である。予は幸いに現在クリスチャンになっているが、何分中年からのことであるから、強い我が心中にわだかまっておって、これを殺すには甚だ苦しむ次第である。然るに今ここに来て見ると、無邪気なる子供が、幼い時から斯様に神の聖言を以て教育されている。ああ、これ何たる幸福ぞ、と申され、忽ち先生の両眼からは熱涙ほとばしり、声は震い口籠ってしまった。この説教は十五分か二十分までの、極めて簡単なものであったが、会衆一同の感動は実に非常なものであった。予は前後三回先生の説教を聞いたが、この最後の最も短い説教は、予に大いなるインスピレーションを与え、その印象は少しも消えずして、今に活きた教訓を与えているのである。

右の松井牧師の手記は、年代の記憶に誤りがあるが、直接新島の説教に接した者の実感として伝えられたものである（『新島研究』第六十号、一九八二年二月、二七ページ）。これに類する即席説教は他にも多くあったと思われる、この巻に収録できないことは遺憾であるが、ここにも聞く説教と読む説教の相違が明示されている。

『原田助遺集』（昭和四十六年）には、原田が直接新島から聞いた説教や演説の要旨を数か所に書き留めており、これも興味ある間接史料となっている。これらのうち、新島の手控が残されず、ただその演題が知られるのは左の通りである。いま、その内容の大略を示して左に列挙することにした。

明治十三年四月十六日

新島宅における祈禱会での感話（一致について）

同年九月十二日

第二公会における説教（終りに賢なれ）

明治十四年一月二日

第二公会における説教（キリストの愛は不変）

明治十五年五月三日

第二公会における祈禱会感話（板垣退助の人物）

同年五月十二日

同志社朝礼における講話（フランスと米国の国情）

同年六月十九日

同志社朝礼における講話（キリスト教と国家との関係）

同年九月二十二日

同志社夏期伝道報告会にて（東北地方旅行のことを述べ、諸君は上帝のために働く者となれと勧告す）

同年十一月十二日

第二公会における説教（朋友の道）

同年十二月十四日

同志社講話（公平無私、板垣退助のこと）

明治十六年四月二十五日

伝道会社総会における演説（同志社に法学部医学部を設けること、基金募集のこと）

同年五月三十日

同志社朝礼における講話（勝安房のキリスト教観）

同年六月二十四日

第二公会における説教（宗教、キリスト教の重要性）

同年六月二十九日

卒業式における訓話（一国の運命は在野人の努力如何による）

明治十七年三月十日

神戸女学院における朝礼講話（婦人の品位を進むるにはキリスト教によるべきもの）

同年三月二十七日

同志社における朝礼講話（米国に行くにあたり、日本に私立大学を建設したきこと）

明治十八年十二月十八日

同志社創立十周年記念会、この夜新島の帰国歓迎会が開かれ、同志社生徒総代岸本能武太、教会代表原田助、同志社教会代表ラーネッドの歓迎の辞があった。新島はスイスで瀕死の大病にかかったこと、また米国で見聞したことを述べたが、「会衆皆先生の謙遜と信仰と意気と熱愛に感動せり」と書かれている。

## 2 新島の説教・演説の性格

一般に説教と言ってもそれには種々の形式があり、通常聖書講解の形式の説教が広く行われている。このような講解説教の他に、主題による題目説教、教理を説き示す教理説教、教会暦による暦日説教、その他道徳訓を主とする倫理説教、さらに哲学的説教、心理学的説教、社会問題を中心とする説教、伝記を中心とする説教等広範囲に及んでいる。新島の説教もそれらの種類に関連のあることは当然であるが、明治初期の時代においては、欧米の諸教会に見られる礼拝説教よりは、一般の未信者の人々に対する伝道説教の形式が多かったことはこれも当然である。説教者によっては、聖書講解の説教の場合、題材は旧約に偏したり、新約に傾きすぎるということもあるが、新島の説教はそういうことはなかったようである。「ヤコブの一生」〔15〕はヤコブについての相当詳細な説教で、講解説教と伝記説教とを兼ねたようなものである。その他モーセについての長い説教〔41・42〕、詩篇〔52〕、箴言〔4〕、ダニエル書についての説教〔51〕もある。年代は不明であるが「聖書引用箇所控」〔110〕があり、それはすべて新約の各書から引用されている。

新島がキリスト教の教理や教義を説く神学的説教の類は比較的に少ないが、キリストの神性とその贖罪を強調していることに注意せねばならない。キリストの贖罪（アトーンメント）は人類の間における最大の事件であったと言っている[45]、十字架上の贖いは人間の原罪を贖うことを説いている[64]。これと同時に真理と自由との典型をキリストの生涯に見ようと努めている。新島の神学思想の背景にはピューリタンのニュー・イングランド神学が顕著であったが、それはカルヴァンの神学思想の流れを汲むもので、マルキシズムに対抗するマックス・ウェーバー流の「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」にも一部相通するものがあつた。人間の職業を神の召命（Beruf）と見る考え方は、職業としての学問や政治という考え方にも移行し、神学教育はもちろん、他の人文科学、自然科学においてもキリスト教教育は可能であるとの結論に達していた。この点について、新島は福沢諭吉の見解を評して「学問ト言ヘハ唯社会学アルノミ」（[4]、二〇ページ）と批判している。

「道理ト信仰ノ関係」と題する説教[26 27]は道理と信仰とが両立することを強調し、信仰は道理を排除するものではないことを説いた。安息日の必要を説いた説教や演説[2 80 104]においては、これも安息日を単に伝承に従つて機械的に墨守するのではなく、それは安息日に続く六日の週日の働きを最も効果的にするという見地から立論したものであつた。Plain living and high thinking というべき考え方に従つて、日常の商業活動すら為すべきものであつて、そうしたプロテスタンティズムの倫理思想や合理性はカトリック諸国に優つてプロテスタント諸国を富裕化させ、近世の資本主義を台頭させたと言われているが、その事実判断や価値判断はさておくとしても、それは当時の最も健全なキリスト教社会倫理を代表するものであつた。

新島によれば、言わば自己節制、世俗的禁欲の実行は単なる奴隷道徳ではなく、最も積極的に神と人とに仕える道であつた。またそのことは悔改めによる神への回心によつて可能となるのであつて、罪に汚れた自然人が善に背き罪

に死んでいる自然の状態から自力だけでは恩寵の状態に達することは不可能であるというカルヴァンの説に立脚していた。この罪惡の現世において人間的なものはすべてかなぐり捨て、ひたすら神意の実現に励んだ新島の如きは、ウェバーの言う宗教上の巨匠、「達人」(Virtuose)とも称すべき人物であつたに相違ない。新島が説教の中に強調したことは、(一)、真理のためには断乎として挺身し、(二)、信仰と道理とは相補い合うべきであり、(三)、失敗と成功も同様に相助け合うべきである、ということであつた。

新島のキリスト教信仰を組織的に表現した説教や講演の類は残されていないが、当時の日本組合キリスト教会は、明治十九年四月二十二日、京都第二公会で開かれた日本基督伝道会社第九年会において、教派教会として組織されたのであるが、その時暫定的の教会信条として福音同盟会(Evangelical Alliance)の信条を翻訳したものを採用することにした。新島も「我輩ハエライヤンスト同感、同情、同信ノモノニアレハ」〔43〕二三二ページ〕と云っているから、大体それに同調していたと察せられる。この原文とその翻訳とは左のとおりである。これは一八四六年ロンドンにおける福音同盟会の総会で決定されたものである。

- (1) The divine inspiration, authority, and sufficiency of the Holy Scriptures.
- (2) The right and duty of private judgment in the interpretation of the Holy Scriptures.
- (3) The Unity of the Godhead and the Trinity of the Persons therein.
- (4) The utter depravity of human nature in consequence of the Fall.
- (5) The incarnation of the Son of God, His work of atonement for the sins of mankind, and His mediatorial intercession and reign.

- (6) The justification of the sinner by faith alone.
- (7) The work of the Holy Spirit in the conversion and sanctification of the sinner.
- (8) The immortality of the soul, the resurrection of the body, the judgment of the world by our Lord Jesus Christ, with the eternal blessedness of the righteous and the eternal punishment of the wicked.
- (9) The divine institution of the Christian ministry, and the obligation and perpetuity of the ordinances of Baptism and the Lord's Supper.

(J. Hastings, Encyclopaedia of Religion and Ethics, 1909. Vol. V. p. 601)

組合教会は左の条目を以つて信仰の簡条とす。

故に此組合に加入せんと欲する教会は必ず左の条目を承認するを要す。

第一 聖書は神の黙示にして権威あり且充分なる事

第二 聖書の意義を解するには各自に判定の権利並に義務ある事

第三 神は独一にして三つのペルソナある事

第四 始祖の墮落に因て人皆罪を犯す者となりたる事

第五 神の子肉体を取って人と成り、人類の罪を贖い、其仲保となりて禱告し、且統治し給ふ事

第六 罪人は唯信仰に由て義とせらるる事

第七 罪人を改悔せしめ之を潔するは聖靈の働たる事

第八 靈魂の不滅、身体の復活および我らの主イエス・キリスト世を審判して義人に永福を与へ、惡人に永罪

## を与へ給ふ事

### 第九 キリスト教宣教の職は神の立て給ふ所、またバプテスマと聖晚餐の二例典は永久遵守すべき事

右の信条は保守的な部分もあるが当時としては進歩的、合理的なものであった。福音同盟は一八四六年に組織された全プロテスタント教会の連合であったが、それは教派連盟というよりは各教派の個人の連合団体であつて、後に国際宣教会議 (International Missionary Council) や世界教会会議 (World Council of Church) などに発展的に吸収されるまで、十九世紀の終り頃までは各教派間の協力事業を続けて強力に運営されていた。特にその連合の最初から新年初週祈禱会を重視していたので〔43〕、この慣習は現在にまで及んでいる。

新島は日本に帰国の際、人間教育を目指す liberal education に重点を置くキリスト教主義の学校設立を決意していたことは事実であるが、同時にキリスト教伝道の熱意を抱いていたことも事実である。同志社教育とキリスト教とは一致すべきものという信念は明治十八年十二月十八日、同志社礼拝堂の定礎式でも「抑そ教育ハ宗教ト密接ノ関係アル者ニシテ教育ノ基本ハ宗教ニアリト謂フ可シ」〔同志社創立十周年記念演説〕本全集第1巻『教育編』、一〇五ページ〕と言っている所によつても明らかである。新島はアメリカン・ボード (American Board of Commissioners for Foreign Missions) の宣教師として一八七四 (明治七) 年五月、アンドーヴァー神学校卒業の三か月前に、日本ミッシェンの Corresponding member に任命されたのである。この役目は通信員または準社員と訳されることもあったが、北垣宗治の説のように准宣教師または宣教師補と訳すべきであらう (J・D・デイヴィス著、北垣宗治訳『新島襄の生涯』、一九八一一九九ページ)。すなわち宣教師であることには間違いはなく、新島は宣教師として帰国したのである。新島における学校教育とキリスト教伝道とは車の両輪の如く、何れを特に重視するとか、その一方を目的とし他方を手段とす

るようなことではなかった。

新島は一八七〇（明治三）年九月にアンドーヴァー神学校に入学して以来、日本伝道の決意が徐々に固められたと見るべきであるが、その翌年の十月にマサチューセッツ州のセイラム（Salem）におけるアメリカン・ボードの第六十二回年次大会において、図らずも後年日本で苦楽を共にするようになったデイヴィス（Jerome Dean Davis）に初対面した。このことは不思議な摂理によるもので、それは日本における伝道の決意をさらに固めることになった。当時すでにシカゴの神学校を卒業してワイオミング州の田舎町に伝道していたデイヴィスもこの年会に出席しており、その年（一八七二）の暮に日本伝道のために出発するということで、出席者一同に別れを告げた。これを聞いた新島は一瞬驚いたが、すぐ前方に出てデイヴィスと握手し、自分はアンドーヴァー神学校に在学中であるが、日本で伝道をする志を持っているので、帰国後は協力していただきたいと頼んだ。デイヴィスは新島より五年ほど年長であったが、非常に喜んで日本での再会を約束した。もとよりこの出合いの詳細については推測以上に出ないが、その日同志社の精神的基礎が築かれたと言いうことができる。

デイヴィス一家はその年明治四（一八七二）年十一月二十六日に横浜に到着、新島は三年遅れて、明治七年十一月二十六日（デイヴィスの到着と同じ日）横浜に着し、十年ぶりに帰国した。その乗船コロラド号は十月三十一日にサンフランシスコを出ているから、太平洋横断に約二週間を要したことになっている。帰国の途中、新島は熊本出身の実業家江崎四郎と知り合いになり、早速江崎に「真信の道」や禁酒などを説いているが、これも後年熊本バンドの青年たちとの出合いの先駆となった。

新島の抱いていたキリスト教教育の理念・理想は、彼の説教や講演にこれを窺うことができるが、明治十八年十一月、新島の第二回米国旅行の際米国人に対して書かれた「日本におけるキリスト教高等教育への要請」（An Appeal

for Advanced Christian Education in Japan, 1886) なる文は特に新島が念を入れた文章で、印刷を予想して書かれた第1巻『教育編』所収の四編の序文と同類のまとまった作文である。これはデイヴィスの『新島先生伝』(A Sketch of the Life of Rev. Joseph Neesima LL. D. 1890) の中に転載されているが、それは「抜萃」であって、その全文でないことが惜しまれる。従って村田、松浦訳また山本美越乃訳、北垣宗治訳にもその全文は示されていない。『新島研究』二十五号(一九六一年五月)には森中氏による全訳が出ているが、その英語の全文は A. S. Hardy, *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima*, 1891, pp. 281—292. に出ているから、本全集第10巻に訳出される予定である。この中で新島は日本における急速な社会的変化の状況を述べ、「キリスト教によって日本を救うこと、これがわれわれの目的である」(北垣訳)と言ひ、同志社は神学部だけではなく、医学部を含む各学部を設けて将来の日本の指導者を養成せねばならぬと言ひ、五年後の一八九〇(明治二十三年)(実際は明治二十二年)に憲法が制定されるようになってゐることは丁度よい時期に際会していると強調している。

明治十三年四月十三日、同志社の朝礼において新島が自らを鞭打った話は広く知られているが、これは一部の学生が入学年次の異なる二つの組を一級としたことに反対して数日間無届欠席をしたことにその端を発している。この自責事件から約六年の後、明治二十年一月二十日に新島は大阪浪花教会の創立十周年の記念礼拝の説教「天父基督ヲ十字架ニ添テ世ニ賜ヘリ」〔45〕の中にジャックという少年の物語の例話を述べている。それによれば、米国のある学校でジャックという少年がいたが、何度も教師の言葉に背く行為があったので、その教師は次にそのような行為があれば必ず処罰すると言ひ渡した。しかしその少年はこの教師の言葉を無視してまたも平気で遅刻したので、教師はこの少年の上衣を脱がせ、一本の縄木を渡して、これで教師自身の手を強く打てと命じた。この少年は言われるままに教師の顔色が変わったほど強く教師を打ったので、その晩は安眠ができず、教師を訪ねて許しを乞うた。教師は快くその生

徒の罪を許したというのである。この話について新島は、「学校ノ教員ハ生徒ノ受クヘキ罰ヲ自ラ受ケ、遂ニ生徒ノ心ヲ改ム、而テ生徒ハ最モ教員ヲ愛シ信スルニ至レリ」（二四九ページ）と言っている。この例話と新島自身の自責の鞭との関係は『同志社百年史』に言及されているとおりである。この例話は新島の在米時代に聞いた話であると思われる。またこのことは、無罪のキリストが人類の罪を負うて十字架の苦難を敢てとったという、キリストの贖罪の説明としても考えられていたようである。

### 3 引用される中国の典籍

一八八六年四月、アンドーヴァーで、シアーズから贈られた聖書は、新島の座右の聖書であつたが、その内扉には、「此道や（須臾不可離之道なり）冥途の旅乃導燈可南」として書かれている（口絵参照）。新島がこの句を、在米時代にしたか、あるいは帰国後のことであるか、その判定は困難であるが、キリスト教を「此道」とよんで、しかも中庸の第一章、「道也者不可須臾離也」という言葉であらわしていることは、そのキリスト教信仰を窺ううえで、きわめて大事な点である。事実、新島の説教の中には漢籍の古典からの引用も多く、論語はもちろん、大学、中庸、孟子、孫子、淮南子、詩経、書経、易経、その他史記、十八史略などに及んでいる。史記中の「桃李言ハザレドモ下自ラ蹊ヲ成ス」という句は好んで引用している。ここにそれらについて詳説する余白はないが、南宋の忠臣文天祥の「正気の歌」は新島が特に愛誦していたものとして注目に価する。「初メハ大切、ヨリ終リガ大切」〔4〕という説教には「正気の歌」が数行にわたって引用され、文天祥の誠実は楠公父子や佐倉宗吾の忠誠と比較されている（一五ページ）。

文天祥鼎鑊甘飴ノ如ク、齊太史ノ簡、晋董狐ノ筆、秦張良〔ノ〕椎、漢蘇武ノ節、敵將軍ノ頭トナリ、嵇侍中ノ

血トナリ、張睢陽〔ノ〕齒トナリ、顔常山ノ舌トナル、我朝忠臣楠氏三世、人権家桜惣五郎〔佐倉宗吾〕

右は説教中に引用されている句で、今日これらの人物に就いては広く知られていない。

また、明治十四年四月の「義人之祈」〔11〕の説教の中で、文天祥の名を示して、「時窮節乃顯」〔四四ページ〕という一句について説明を加えている。なお、故高山義三氏令息寛氏の寄贈による新島の書に、これも「正氣の歌」の一句「凜冽として万古に存す」というのがあるが、これらによっても当時、新島が「正氣の歌」を愛誦していたことが察せられる。言わば、文天祥の祖国に対する忠誠をキリストに対する忠誠に移し変えたようなもので、これらの比喩的操作はキリスト教について、いわゆる接木型の土着を試みたもので、在来の道德や宗教の上にキリスト教を接木せんとした趣きも窺われる。

同志社における新島の後継者と見なされていた山崎為徳も、新島からこの「正氣の歌」を聞かされていたと見え、彼自身明治十四年一月三十日、同志社における熊本バンドの結盟記念会の際、「信仰歌」起草してその席で発表した。これは藤田東湖の「正氣の歌」を模したもので、その中には熊本バンドの人物なども取り入れられているが、同志社教学の基本の淵源を示す重要文献として左に掲げることにした（『同志社百年史 通史編Ⅰ』、一四五ページ）。

天地正氣有り、之ヲ名ツケテ信仰ト謂フ、上ハ即チ上帝ヲ信ジ、下ハ即チ惡魔ト戰フ、顯ハレテハ基督ノ行ト為リ、以テ万世ノ法ヲ垂ル、流レテハ十字ノ血ト為リ、以テ人民ノ罪ヲ救フ、書シテハ即チ聖書ト為リ、明々正道ヲ示ス、行ハ即チ歴史ト為リ、赫々其ノ力ヲ顯ハス、乃チ亞伯蘭ト為リ、家ヲ棄テテ異郷ニ向フ、乃チ摩西ノ力ト為リ、救民虎口ヲ出ヅ、忽チ紅海ノ颶ヲ起シ、怒濤敵軍ヲ殲ス、忽チ揮フ大關ノ劍、豪利頭足分ル、或ハ

投ズ獅子ノ窟、猛獸加フル所無シ、或ハ侵ス焰々ノ火、烈火敢テ害セズ、保羅<sup>パウロ</sup>嘗テ之ヲ用ヒ、欧州遂ニ一変ス、路撤<sup>ルータ</sup>又之ヲ用ヒ、西土再ビ震動ス、英王暴虐ノ時、現ハレテハ比理<sup>ビュリタ</sup>且ト為ル、又米民ヲ庄スルノ日、変ジテハ獨立ノ軍ト為ル、欧州ノ文明、実ニ是レ信仰ニ原ヅク、米土ノ開化モ、亦此ノ氣ヲ養フニ在リ、嗟我ガ日本国、暗キニ居ル二千歳、一朝東海驚キ、翻リ来ル西土ノ船、万国始メテ交通、文化日月新タナリ、西教又伝来シ、東西争フテ之ヲ信ズ、或ハ当サニ之ヲ迫害ス、信仰忽チ光ヲ発シ、乃チ熊本ノ事ト為ル、激論日ニ紛々、乃チ花岡ノ挙ト為リ、身ヲ擲ツテ十字ヲ取ル、乃チ善<sup>ジェンズ</sup>須<sup>ス</sup>ノ力、日夜共ニ辛苦ス、乃チ金森ノ厄ト為リ、労働奴隸ノ如シ、乃チ伊勢ノ苦ト為リ、断然一死ヲ決ス、乃チ吉田ノ窮ト為リ、頸ヲ伸ベテ父ノ剣ヲ待ツ、荏苒五周歳、今既ニ迫害無シ、首ヲ回ラシ往古ヲ懷ヒ、古ヲ懷フテ方今ヲ戒ム、男兒生レテ必ズ死ス、死ハ須ラク真理ノ為ニスベシ、富貴ト利達ト、変転浮雲ノ如シ、真理独リ変セズ、長ク天地ト共ニ存ス、真理ハ上帝ノ意、真理ハ上帝ノ力、古人大業ヲ立ツハ、只真理ヲ行フニ在リ、願クバ古人ニ学ブヲ得テ、千歳星ノ如ク耀カン（原漢文）。

右の山崎為徳の「信仰歌」は新島の説教の要諦を示したものととしても、今日復誦するに足るものである。なお、明治十八年六月、米国聖教書類会社からの出版による、英国アール・ダブリウ・チャルチ(R. W. Church)原著、宮川経輝・土居通豫共訳の『欧洲正気論』にも「東湖先生の日東正気の歌にならい、欧洲正気の歌を賦し、以て題詞に代う」といって任天楼主人の「欧洲に正気あり、これを名づけて信仰と曰う……」別の「正気の歌」が掲げられている。

#### 4 教会合併問題

前記のようにこの巻には、新島の説教の他に、新島の晩年に起った一致、組合両教会の合併問題についての新島の

見解を示す文書が多く収録されている。新島の晩年にも同志社の内外に多くの難問題が続出していたが、この合併問題はその中でも最も重要なものであった。一致教会というのは後の日本キリスト教会のことで、当時一致、組合の二教会は日本における最も有力な二大教派と見られていた。この問題については『同志社五十年史』（昭和五年）の「同志社教会」の項において比較的詳細に述べられている。この問題は明治十九年から二十三年四月に至る約四年の長期にわたって論ぜられ、明治二十二年五月二十七日に一致教会側の三委員が東京から神戸の組合教会総会の議場に急行したが、総会散会後であったので、遂に合併中止となって幕をとじたのである。明治十九年四月二十一日、京都第二公会における日本基督教伝道会社第九年会の席でこの合併の問題を發議し、その後も引続き合併の主唱者であった小崎弘道はその最大の原因を左の如く述べている（『七十年の回顧』、八二―八三ページ）。

偕て新島、デビス等諸氏の合同に反対したる行動に甚だ公明正大を欠く点があつたのは私共の大に惜む所である。此案の初に当て右の諸氏は別に反対意見を表しなかつたが、弥議案の成立を見んとする時に当り、一方に憲法や規則の或条項に対して異議を唱ふると共に、他方此は教会の輿論でなくて有力なる教職少数の意見である、と云ふは、私に同志社生徒の間や東京に在る二三教会の青年等を使喚して反対論を唱へさせ、以て議事の進行を妨害せしめた様な形跡のあつた事は誠に悲むべき事である。

また、小崎は『日本基督教史』（『小崎全集』第二卷、一一八ページ）で次のように述べている。

吾人をして忌憚なく真相を發表せしめば、裏面の反対者といふは、組合派の有力者なる新島襄とデビスの兩人

であつた事を疑はない。若し彼等にして正々堂々反対論を唱へたならば、事件は左程困難でなかつたであらうが、彼等がさうしなかつた事は誠に遺憾である。彼等は表面に合同は賛成なり、唯之を実行するには各教会の輿論に依て為すべしと唱へながら、陰に陽に多くの青年信徒を使嗾して、反対論を主張せしめた。東京にては靈南坂教会の青年会員竹越与三郎、人見一太郎、那須義資、<sup>〔弟〕</sup>其他民友社関係の青年が多く反対論を唱へ、京都では同志社の青年学生が頻に反対運動をなした。其中著名なるは花畑健起、広津友信、横田安止等である。

小崎のこの述懐は大正十四年の頃のものであつて、このように相当後年に至るまでこの合併問題のしこりは残つていたようである。小崎も指摘しているが、合併反対論者には宣教師の S・L・ギューリック、O・H・ギューリックの両名も加わっており、この両ギューリックは明治二十一（一八八八）年十月十八日と二十四日付でこの問題についての公開状を組合教会関係の全牧師宣教師宛に熊本から發送している（Questions concerning the proposed Union）。

この合併問題の「真相」は、その時から約百年後に近い今日、ある程度まで明らかにされつつあるが、この巻の諸史料に見られるように、新島は合併そのことに反対したというよりは、当時の状況からして時機尚早と見てとつたようである。明治十九年の年会の懇談会において、新島は「なるだけ一致するということに注目して漸次に実行上に現はせば可なり。今急に政略の異なるものを無理に一致せんとするは不可ならん」と言っている。この期間、新島は健康を害していたが、この問題のために心労を続け、もし合併が成立すれば同志社を去って北海道に引退するとまで言つたと伝えられている。この合併の問題に対するアメリカン・ボードの見解、またこの合併は単なる二教派の合同であつたのか、将来各派合同を目指した日本聯合基督教会の如きものであつたか、それらの問題についても検討を要するが、この事件についての諸事実の認定とその評価については尚将来の教会史家の研究に待たねばならない。

# 〈追記〉

## (一)

本全集第6巻『英文書簡編』〔118 a、118 b〕に収録されている To the Secretaries of the A. B. C. F. M., Andover, April 30th, 1874 は新島襄が宣教師として献身する決意を披瀝しているもので、とくに、118 b は十二箇条にわたるものである。それは新島が日本の伝道にたずさわろうとするに当っての正式の信仰告白とも言うべきものである。詳細は『英文書簡編』によられたいが、いま、その冒頭の部分を掲げて、日本伝道に際しての彼の初発の位相を窺うこととしたい。

My answers to your questions VI in Manual for Missionary Candidates are as follows:

1. In my view the leading Doctrines of the Scriptures are the existense of one true God; — Inspiration of the Scriptures; — The Trinity; — The decrees of God; — The freedom of the Will; — The Total depravity of men; The Atonement; — Regeneration; — Justification by faith; — The resurrection of the dead; — The final Judgement.

なお、この箇条は原体裁を改めて、Arthur Sherburne Hardy: *Life and Letters of Joseph Hardy Neesima*, p. 167 (本全集第10巻) にも収められている。

## (二)

「衣服ヲ売リテ刀ヲ買ウベシ」(31)は『福音新報』(明治十七年八月二十日発行、第二卷三十四号)の「雑話欄」に「衣服を売<sup>う</sup>りて刀<sup>かたな</sup>を買<sup>か</sup>へ」と題して掲載されている。末尾は「未結」とあるが、次の号には続編の掲載はなにゆえか見当らない。

この記事は、新島の説教で活字化された数少ない例の一つであつて、新聞に掲載された当時、彼は第二回の海外旅行の途次であつた。説教の「要点を筆記」したという琴峽漁夫は果して誰か、不明であるが、説教原稿と実際におこなわれた説教とを比較してみることは、説教者の心づもりとその實際を窺い、かつ聴く者の姿勢、あるいは説教の余韻を窺う上にきわめて興味深い問題であるので、左に掲げる。転載に当つては変体仮名を改め、ルビのうち、特殊の訓みのみをのこした。

○左に録する処は過月新島氏が京都第二公会に於て説教せられたる要点を筆記せしもの也

琴峽漁夫

衣服を売<sup>う</sup>りて刀<sup>かたな</sup>を買<sup>か</sup>へ(路加伝第廿二章卅五節卅六節)

耶穌既に敵人に解<sup>あは</sup>されんとする時に臨みて如斯事と其弟子等に命じ給ひしは抑も如何なる聖旨<sup>みことば</sup>なるや憶ふに刀<sup>かたな</sup>を買<sup>か</sup>ふべしと宣しも此世の刃<sup>やどり</sup>劍<sup>けん</sup>にはあらずして聖靈の劍の事なる可し聖靈を劍と云ふは以弗所六章十七、希伯来四章十二、黙示録一章十六の諸書にて明瞭なり然るに弟子等は耶穌の聖意を曉悟<sup>さとる</sup>こと能ずして有あふ所の二の刀を出したり(こは多分ペテロなるべし此時刀を携へしは猶太にては盜賊諸所を徘徊せし故夜行には往々劍を帯びたりし由)耶穌は弟子が三ヶ年間も己に従ひながら尚其教の真意を悟らずして屢如此き事をいふ故足りといひて嘆息し給しなるべし

此事の有し後にゲツセマネの園に至玉ひし時弟子の一人祭司の長の僕の耳を削しとき耶蘇弟子を誡め其劍を室に収めしめ且つ凡て劍をとる者は劍にて亡ぶべしと教へ僕の耳を愈し給へり耶蘇の買へよと命じ給ひし劍は此世の劍の如く二様の事を為し得べし即一は敵を防ぐべく一は其劍によりて目的を果す事を得るなり今此無形の劍即聖靈の刃の事に付て其用方を三に區別し少しく余が感ずる処を述べん

(第一) 此世にて己の目的を満しむる為刃を用ふる者 (第二) 陽に神の為に劍を用ふるを名として陰に己の為に用ふる者 (第三) 己の衣服 (即此世の富貴利達) を売りて神の劍を買用ふる者なり

第一此世にて己の目的を満せしむる為劍を用ひたる者が敗を取りし事は和漢西洋の史乘に瞭然なり一例を挙げれば支那に名高き泰の始皇帝は兵力即ち己の劍を以て六国を亡し世界の七奇觀の一にまで数へられたる万里の長城を築きて匈奴を拒ぎ天下の兵器を鑄銷し學者書生を殺戮し書籍を集めて焼ぎ払ひ宏壮なる宮殿を漢陽に開き子孫より万世までも伝へんと思ひし事も空頼み。始皇の骨乾かざるに漢陽宮灰となると詩人の口ずさみとなるに至れり始皇帝都を建てし時何ぞ数年の後漢の高祖起りて泰と覆す事を知らんやこれ始皇帝が劍によりし故劍にて亡びたるなり其他歐羅巴に於てもアレキサンデル、ゲンギスカン、ピートル大帝よりナポレオンの如き歐羅巴全州を蹂躪したるも或は孤島に残年を送り或は劍鋒に身を殞したり我朝に於ても豊大閣の如き單身撫にして起り三尺の劍を提げて天下に立ち遂に大権を掌握り剩へ朝鮮国へまで攻め入り大城「坂」に大城を築きしも天下は徳川氏の手裏に帰し豊氏の裔は絶滅せり近くは西郷氏の如き劍を頼みし故終に刀に命を失へり以上の例と古今の歴史又諸君の経験にて第一の法の非なるは明なり

第二は陽に神の為に劍を用ふるを名として陰に己の為にする者なり十二使徒何ぞ事を解せざる甚しきやイエスを罪し殺さんと機を窺ふ者は猶太の七十議員を始めとし皆々其頭を集めて疵を索り求め加之屈強なる羅馬政府は兵

力を以て七十議士を助けたり何ぞ二の劍にて己等を守るに足らんや若し聖靈の劍を得ざれば事ある時は何もなし能はざるなりキリストの買へよと命じ給ひし聖靈の劍は向ふ処敵なきなりゲツセマネに耳を切し劍に優り人の骨体までもサン通すなり今試にペテロの事を思ひ見よイエスが裁判を受るゝ其時に庭にて火に暖まり居りしが人々に此人もガリラヤ人にて耶蘇の弟子なりと云れし時我は知らずと断言し其前に主が爾は今夜三度我を知ずと云はんと云はれし時より未だ一晝一夜も経ぬ其内に三度まで主を知ずと云ひしは全くペテロが聖靈の劍を得て居らざりし証拠なり実にペテロの弱かりし事は如何にぞや人は誰にても此様なる者にて独ペテロに限らざるなりよしや口に出してイエスを知らずと云はざるも挙動にて度々斯る事を見る事ある也ペテロは先に劍を持ち居たりしが此劍にては少しも其心を強くする事能はず一人の劍にて一人の敵は防ぎ得るも若し三五人の敵ある時は忽ち敗るゝなり之に反して聖靈の劍は百万人に敵する事も容易く得る也先にも述る如くペテロはイエスと共に死すべしとまで断言したるも聖靈の劍なき故今弱き也ヨハネは信仰篤き人にてイエスの死し給し後長く世に在りて終には默示録まで録したる人なれどもイエスに従ひてサマリヤに伝道せし時(路加伝九章)其教を受けざりし故昔エリヤが為せし如く天より火を呼び降し此邑を焼かんことを乞ひイエスに誡められたり後又信仰篤きヨハネも此時未だ聖靈の劍を得ざりし故如斯ことを云ひたるなるべしこれ己れ怒りて神の劍を濫用せんとする也我々も注意せざれば神の劍を用ひ神の栄光を顕すを名として反て己の智慧や学問を顕さんとする事あり最も謹まざる可らず彼の中世歐羅巴の大事擾なる十字軍の如き聖地を回復するを名として戦しも其実は国権上の爭論たるに外ならざる也(未結)

(高橋 虔)

新島襄全集編集委員

委員長 同志社総長・理事長

上野直蔵

委員 同志社大学名誉教授

高橋 虔

同志社大学文学部教授

オーテス・ケリー

同志社大学文学部教授

北垣宗治

同志社大学工学部教授

島尾永康

同志社大学人文科学研究所教授

杉井六郎

同志社本部庶務部長

園部 望

同志社社史史料編集所主任

河野仁昭

新島襄全集 2 ■ 宗教編

1983年6月30日

初版第一刷印刷

1983年7月20日

初版第一刷発行

定価 7000円

編集者——新島襄全集編集委員会

発行者——今田 達

発行所——同朋舎出版

〒600 京都市下京区中堂寺鍵田町2 電 075-343-0621

振替京都 5-22982

東京支店 〒100 東京都千代田区三崎町3-7-12 清話

会ビル5F 電 03-234-4982

印刷——図書印刷同朋舎

製本——大日本製本紙工

ISBN4-8104-0324-6 C0321 ¥7000E





*THE COMPLETE WORKS  
OF  
JOSEPH HARDY NEESIMA*

2

Religion

DOHOSHA  
1983  
KYOTO·JAPAN

分類	099.01	登録号	83.0701.125
記号	N-9	所蔵場所	図書館一同資
巻次	2		

返 却 期 日 西 示

返 却 期 日	返 却 期 日	返 却 期 日
		禁 帯 出

この國は狭隘也。脱却して初メテ廣キ野あり。四方

へ去ルベキ途ノ見取ハ出テリ云テ田舎ヨリ出

由ノ身トナリト名付テテ客シロント

ノタビラノ事果ハ多ク己ノ息子ト云フモノノ反悔

ミシクハ付テランカ克リテ犯シテ國道ニ逢ヒテ下

部トテ田舎ノ身トナリト蒙ガ聲シテ正サユリ

ヒ王位ニ賤スルノ事ナリテ神國ヲ游ビシ成ノ事果

テクストセシハノ事果ハ多ク己ノ息子ト云フモノノ反悔

高きものや、口をひきつゝ、言ふこと、女をて、空想に、

ソスレテ、而して、中より、常き、出でし、モノ、かし、人、を、困、

ハ、さい、丈、して、共、困、而、して、流、し、ロ、ラス、い、の、如、び、イ、の、如、

イ、し、て、酸、を、昔、く、て、旧、い、常、々、味、に、而、して、不、可、摸、信、

以、て、と、一、身、を、天、父、に、任、せ、天、ノ、具、賜、り、と、家、に、困、而、して、

金、ノ、身、を、す、り、又、ち、色、ノ、心、を、憂、め、又、ち、心、を、寛、大、に、し、て、

一、人、百、に、接、す、一、生、を、了、り、し、人、を、心、に、寛、然、と、し、て、

生、涯、を、了、り、初、メ、テ、寛、然、ノ、言、果、も、曉、り、い、へ、と、至、り、

同志社大学図書館



8307011256